

<不開示情報：有（種類：審議・検討）>
<配付先：金融政策決定会合関係者限り>
<作成局における保管期間満了時期：2039年12月>

2009.12.14

金融市場局

金融調節の運営実績

1. 無担 O/N レートの動向と金融調節

金融調節については、11月19～20日、12月1日の会合で決定された方針（「無担保コールレート（オーバーナイト物）を、0.1%前後で推移するよう促す」）に従って運営した。無担 O/N レートは、誘導目標水準近傍で推移した。

この間、引き続き積極的な資金供給を行ったことから、準備預金の積み増しが順調に進捗し、無担 O/N レートは、0.091%～0.113%の狭いレンジで推移した。

金融調節運営面では、年度末越えの資金供給を開始したほか、国債買現先オペ、CP 現先オペの積極的活用を図る等、引き続き、金融市場の安定にも配慮しつつ、市場におけるレート形成状況等を踏まえた機動的な運営を行った。また、12月10日から固定金利方式の共通担保オペによる資金供給を開始したほか、CP 買入オペ、社債買入オペ、企業金融支援特別オペ、米ドル資金供給オペによる資金供給を引き続き実施した。このうち、CP 買入オペおよび米ドル資金供給オペでは、応札が見られなかった。

2. 当座預金・準備預金の動向

前回会合以降の準備預金残高（除くゆうちょ銀行）は、（11月積み期の所要準備額<除くゆうちょ銀行>： ）で推移した（11月24日：
→11月30日： →12月14日： ）。

この間、当座預金残高は、11～14兆円台で推移した（11月24日：12.7兆円
→11月30日：13.0兆円→12月14日：13.4兆円）。

以 上

(図表1)

金融調節の実績の推移

(億円、%)

	無担 コール レート (O/N) 加重 平均値	日銀当座預金残高(実績値)						補完 貸付 残高	<参考> 日銀当座預金残高見込み		
		準備預金残高(含むゆうちょ銀行)	準備預金残高(除くゆうちょ銀行)	非準備預金		非準備預金 残高	朝方 即日オペ前		9:20 定例調節後	全即日オペ 実施後	
				超過 準備	残り所要額 (1日平均)						
11月16日(月)	0.106	122,700	114,600		21,600	50,000	8,100	48.0	122,000	-	-
11月17日(火)	0.108	117,900	106,300		28,300	49,700	11,600	49.0	118,000	-	-
11月18日(水)	0.107	114,900	103,900		31,800	49,500	11,000	50.0	115,000	-	-
11月19日(木)	0.109	115,000	105,700		34,700	49,300	9,300	49.0	115,000	-	-
11月20日(金)	0.109	117,100	107,200		29,600	48,200	9,900	48.0	118,000	-	-
11月24日(火)	0.109	126,900	115,700		31,400	48,000	11,200	48.0	128,000	-	-
11月25日(水)	0.106	133,600	122,800		31,800	47,700	10,800	42.0	134,000	-	-
11月26日(木)	0.103	131,200	121,200		32,600	47,400	10,000	45.0	131,000	-	-
11月27日(金)	0.107	140,200	122,900		31,100	45,600	17,300	45.0	140,000	-	-
11月30日(月)	0.113	130,100	119,700		33,500	44,600	10,400	48.0	130,000	-	-
12月1日(火)	0.104	120,800	107,300		31,000	44,000	13,500	48.0	120,000	-	-
12月2日(水)	0.101	119,100	105,800		34,100	43,600	13,300	48.0	110,000	120,000	-
12月3日(木)	0.105	117,500	105,500		39,600	43,500	12,000	49.0	118,000	-	-
12月4日(金)	0.102	125,700	111,100		39,900	41,600	14,600	48.0	126,000	-	-
12月7日(月)	0.107	125,100	108,500		41,800	41,700	16,600	98.0	126,000	-	-
12月8日(火)	0.107	125,400	108,500		43,000	41,200	16,900	368.0	125,000	-	-
12月9日(水)	0.105	127,200	113,100		45,500	39,900	14,100	57.0	127,000	-	-
12月10日(木)	0.100	125,300	110,700		45,800	37,600	14,600	48.0	125,000	-	-
12月11日(金)	0.091	123,000	105,600		52,900	31,300	17,400	48.0	123,000	-	-
12月14日(月)	0.092	133,800	117,100		67,600	23,400	16,700	59.0	134,000	-	-

(注1)準備預金残高(除くゆうちょ銀行)は、対外非公表。

(注2)12月14日分は、5時同時処理終了時点。

日銀当座預金の保有状況

対外非公表

(単位:億円)

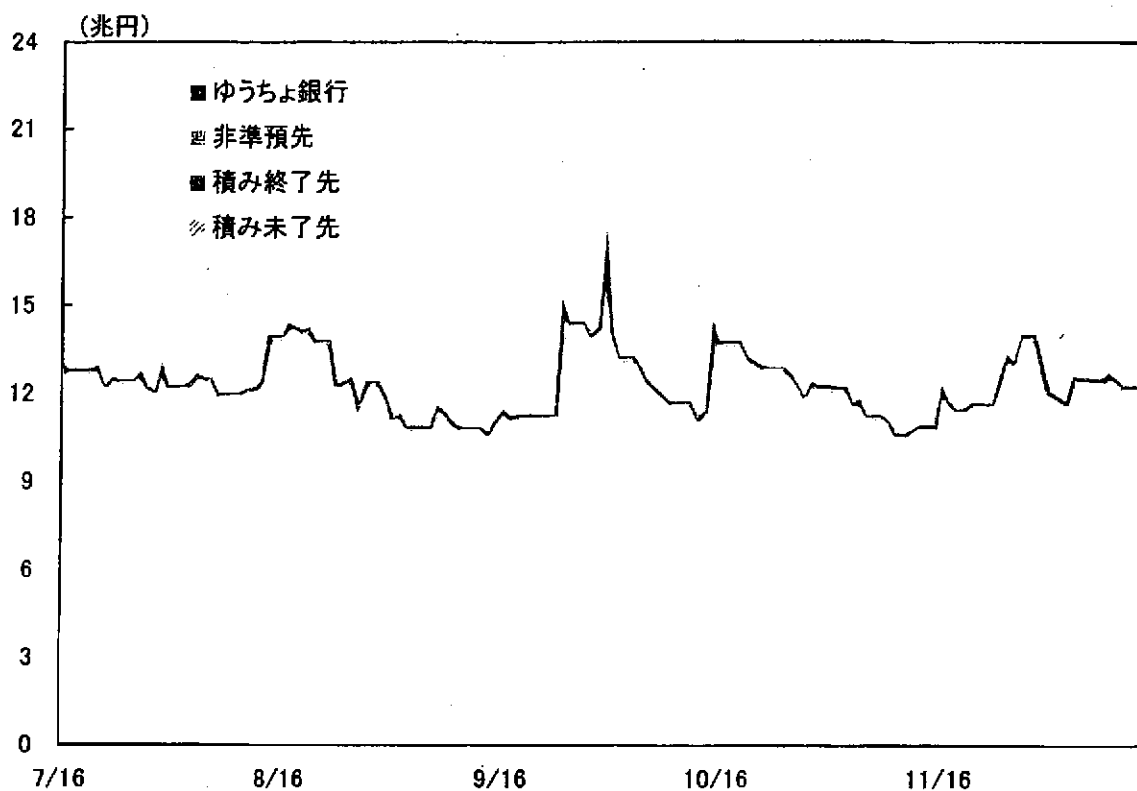
	8月積み期	9月積み期	10月積み期	11月積み期	11月積み期	11月積み期 所要準備額
					12/14日	
準預先	109,129	115,272	111,044	111,509	117,070	<72,205>
除くゆうちょ銀行						< >
都銀	31,506	31,071	31,910	31,841	41,506	<30,891>
地銀	16,958	16,146	15,828	15,957	12,760	<11,785>
地銀Ⅱ	3,622	4,004	3,502	3,384	3,377	<1,501>
外銀	20,654	26,411	22,576	22,061	25,031	<257>
ゆうちょ銀行						< >
非準預先	12,129	12,054	10,591	13,368	16,722	
短資	5,123	6,192	4,506	5,148	2,193	
一部系統	404	225	251	745	2,548	
政府系	520	520	351	403	633	
証券会社等	6,082	5,117	5,483	7,072	11,348	
当預残高	121,257	127,325	121,635	124,877	133,792	

(注1)「証券会社」は、金融商品取引法上の有価証券関連業を行う第一種金融商品取引業者。

(注2)11月積み期の計数は、11/16～12/14日の平均。12/14日は、5時同時処理終了時点。

09/7月積み期以降の当座預金残高

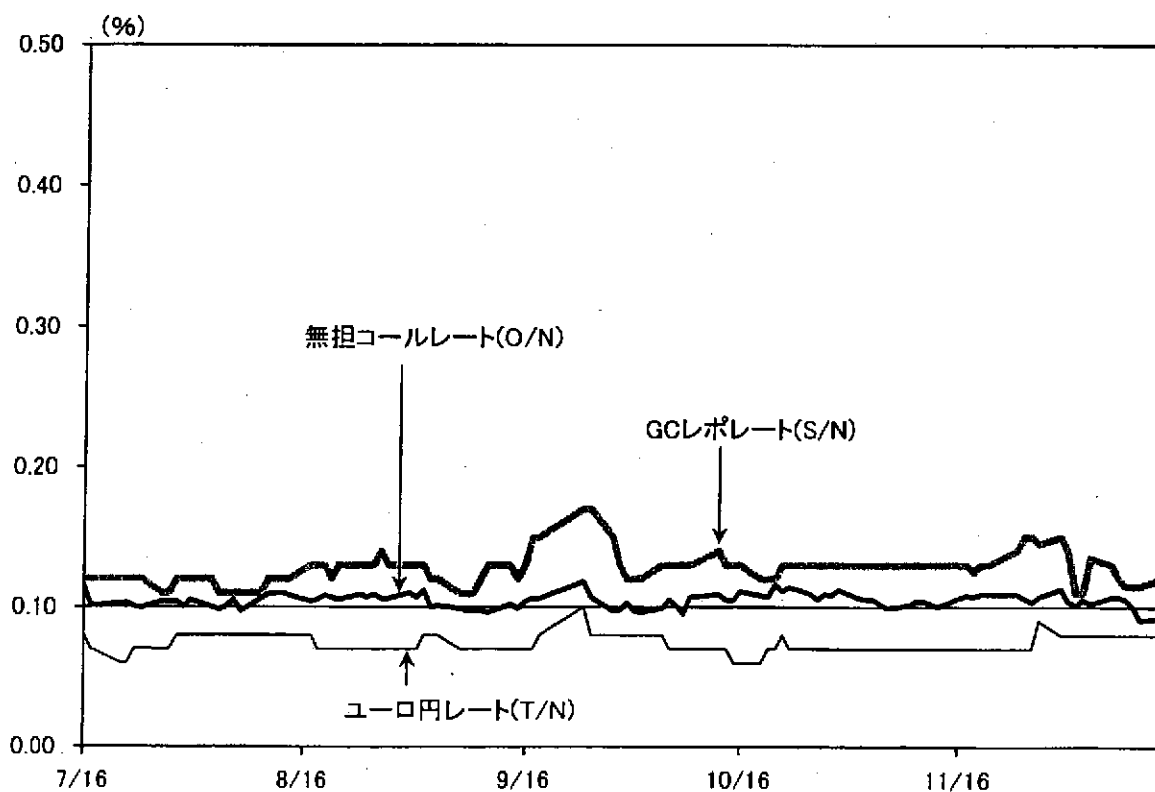
対外非公表



(注)積み終了先、積み未了先及び一日当たり残り所要(前日終了時点)には、ゆうちょ銀行の計数を含まない。

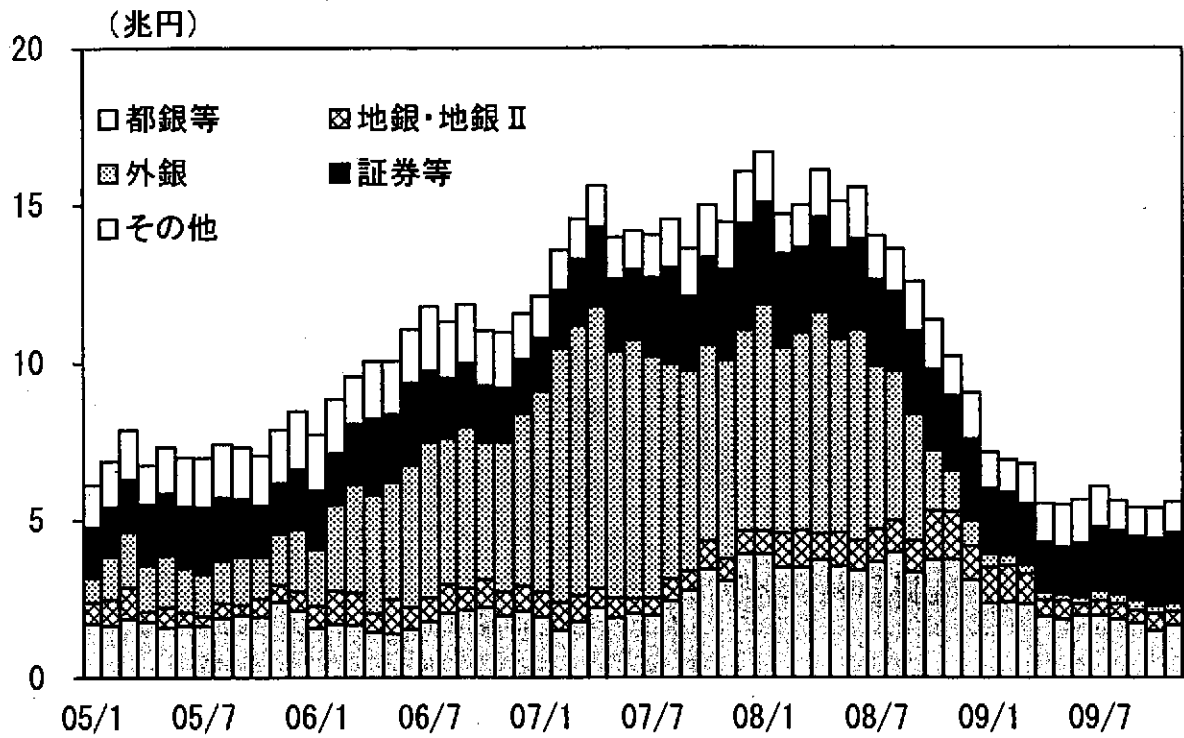
09/7月積み期以降の短期金利

対外非公表

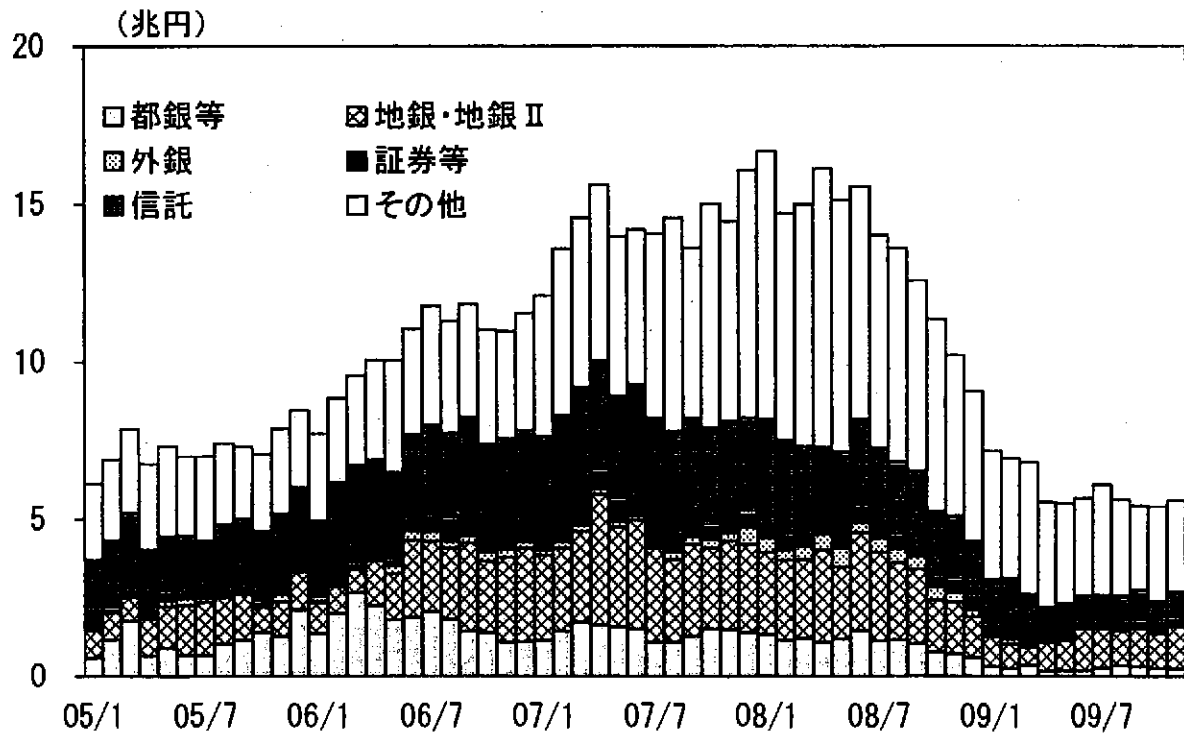


無担コール市場残高

<取り手別>



<出し手別>



(注1) 月中平残。

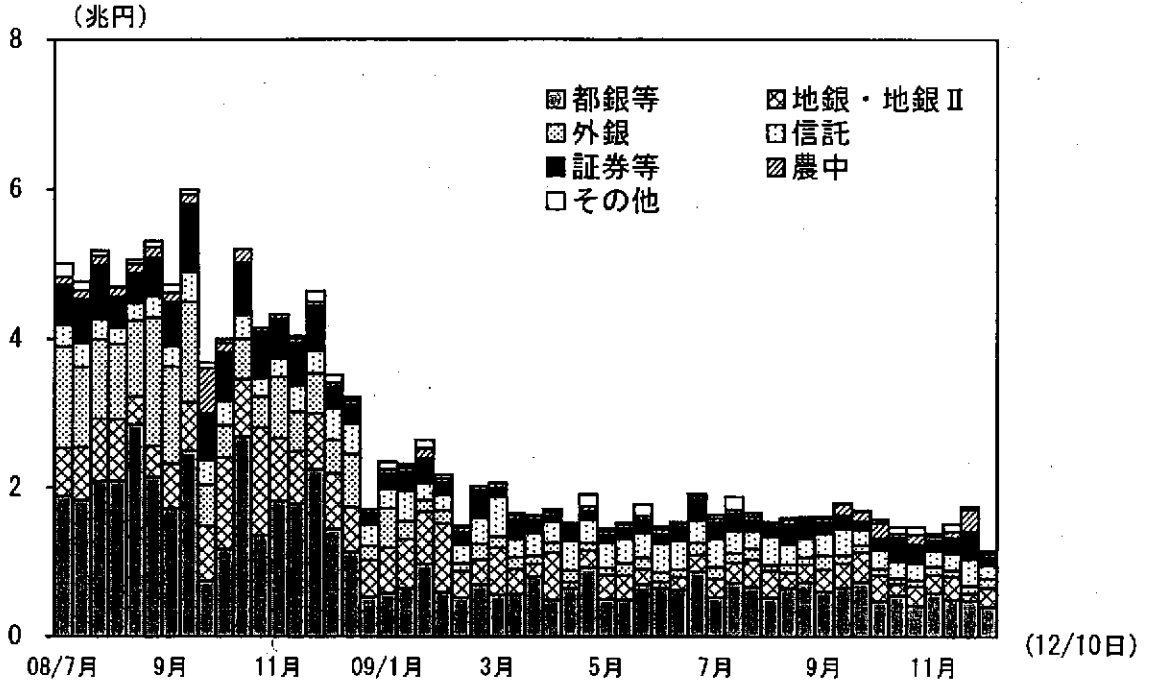
(注2) 無担コール市場残高における「都銀等」は都銀、新生銀行、あおぞら銀行。「証券等」は金融商品取引業者(他の区分に属するものを除く)および証券金融会社。

(図表5)

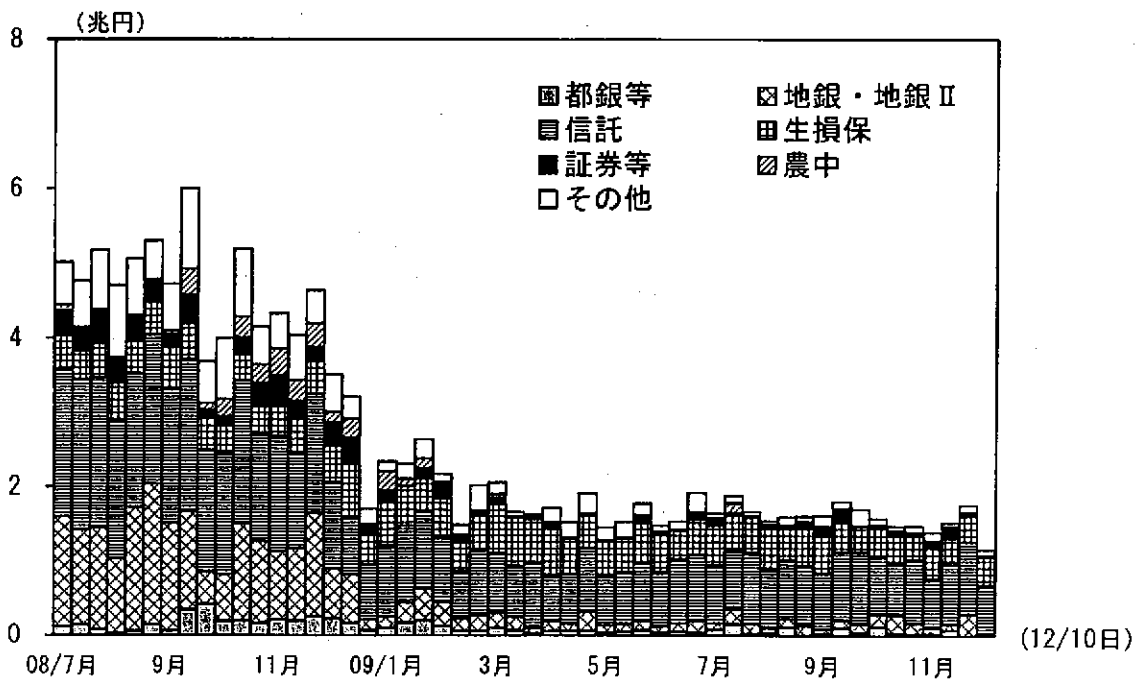
無担コール市場残高 (O/N、T/N、S/N計)

<取り手別>

対外非公表



<出し手別>



(注) 各旬末残高。

(図表6-1)

最近のオペ結果の推移(1)

(資金供給オペ)						(億円、%)				
オペ手段	直近残高	オファー日	スタート	期間	オファー額	平均落札	落札決定	レート		
						レート				
共通担保・金利入札 (全店)	124,259	11/20	T+1	2W	8,000	3.21	0.133	0.13		
		11/20	T+2	3M	8,000	4.44	0.136	0.13		
		11/27	T+2	3M	8,000	3.79	0.137	0.13		
		11/30	T+2	3M	8,000	3.72	0.134	0.13		
		12/2	即日	1D	10,000	0.94	0.101	0.10		
		12/3	T+18	5D	10,000	2.86	0.109	0.10		
		12/4	T+1	2W	8,000	3.48	0.130	0.13		
		12/4	T+2	3M	8,000	4.14	0.111	0.11		
		12/10	T+1	1W	10,000	2.28	0.114	0.11		
		12/11	T+2	4M	10,000	3.02	0.109	0.10		
		共通担保・金利入札 (本店)	161,498	11/19	T+1	2W	12,000	2.01	0.130	0.13
				11/19	T+2	3M	8,000	4.03	0.137	0.13
11/24	T+1			2W	12,000	3.31	0.133	0.13		
11/24	T+2			3M	8,000	3.69	0.135	0.13		
11/25	T+5			1W	10,000	3.45	0.132	0.13		
11/26	T+1			2W	10,000	3.14	0.134	0.13		
11/26	T+4			2W	10,000	3.26	0.132	0.13		
11/27	T+1			1W	4,000	3.33	0.145	0.14		
11/30	T+1			2W	4,000	3.26	0.140	0.14		
11/30	T+2			3M	8,000	3.49	0.130	0.13		
12/1	T+1			2W	10,000	0.33	0.100	0.10		
12/1	T+1			3W	8,000	0.26	0.100	0.10		
12/2	T+1			2W	10,000	1.90	0.103	0.10		
12/2	T+1			3W	8,000	2.35	0.102	0.10		
12/3	T+2			2M	8,000	3.66	0.104	0.10		
12/4	T+1			2W	6,000	4.92	0.128	0.12		
12/7	T+1			1W	8,000	3.41	0.128	0.12		
12/8	T+2			2M	8,000	3.17	0.111	0.11		
12/9	T+1			1W	6,000	3.75	0.111	0.11		
12/10	T+1			1W	8,000	2.69	0.111	0.11		
12/11	T+1			1W	8,000	2.05	0.108	0.10		
12/11	T+1			2W	10,000	2.43	0.110	0.11		
共通担保・固定金利(全店)	8,023			12/10	T+2	3M	8,000	8.19	0.100	0.10
CP等買現先	27,700	11/19	T+2	1M	4,000	1.11	0.100	0.10		
		11/24	T+2	1M	4,000	1.23	0.102	0.10		
		11/26	T+2	2W	4,000	1.62	0.110	0.11		
		12/1	T+2	2W	4,000	1.27	0.107	0.10		
		12/3	T+2	1M	4,000	1.69	0.100	0.10		
		12/8	T+2	1M	4,000	1.91	0.108	0.10		
		12/10	T+2	2W	4,000	1.66	0.108	0.10		
国債買現先	55,274	11/19	T+2	1D	6,000	3.21	0.130	0.13		
		11/19	T+2	1W	6,000	3.00	0.132	0.13		
		11/20	T+2	1D	6,000	2.79	0.130	0.13		
		11/20	T+2	1W	6,000	3.47	0.132	0.13		
		11/24	T+2	1D	8,000	3.44	0.136	0.13		
		11/24	T+2	1W	6,000	3.38	0.130	0.13		
		11/25	T+2	3D	8,000	3.61	0.140	0.14		
		11/25	T+2	1W	6,000	3.96	0.140	0.14		
		11/26	T+2	1D	8,000	3.83	0.150	0.15		
		11/26	T+2	1W	6,000	3.66	0.140	0.14		
		11/27	T+2	1D	8,000	3.23	0.141	0.14		
		11/27	T+2	1W	6,000	3.12	0.141	0.14		
		11/30	T+2	1D	8,000	3.64	0.150	0.15		
		11/30	T+2	1W	6,000	3.16	0.142	0.14		
		12/1	T+2	1D	8,000	3.00	0.140	0.14		
		12/1	T+2	1W	6,000	3.22	0.140	0.14		
		12/2	T+2	3D	25,000	1.48	0.105	0.10		
		12/2	T+2	1W	6,000	2.43	0.103	0.10		
		12/3	T+2	1D	20,000	2.45	0.101	0.10		
		12/3	T+2	1W	6,000	3.73	0.101	0.10		
		12/4	T+2	1D	20,000	3.16	0.114	0.11		
		12/4	T+2	1W	6,000	3.88	0.112	0.11		
		12/7	T+2	1D	30,000	2.46	0.128	0.12		
		12/7	T+2	1W	6,000	3.80	0.122	0.12		
		12/8	T+2	1D	30,000	2.01	0.118	0.11		
		12/8	T+2	1W	6,000	3.71	0.122	0.12		
		12/9	T+2	3D	25,000	2.18	0.111	0.11		
		12/9	T+2	1W	6,000	3.05	0.119	0.11		
		12/10	T+2	1D	25,000	2.46	0.112	0.11		
		12/10	T+2	1W	6,000	4.81	0.122	0.12		
		12/11	T+2	1D	25,000	1.87	0.111	0.11		
		12/11	T+2	1W	6,000	3.86	0.120	0.11		
		12/14	T+2	1D	18,000	3.33	0.111	0.11		
12/14	T+2	1W	6,000	3.59	0.113	0.11				

(注1) オペ直近残高は2009/12/14日現在(実行日ベース)。

(注2) 国債買現先オペによる買入国債・受入担保国債のうち、変動利付債は5,624億円、物価連動債は763億円、30年債は228億円(2009/12/14日現在<実行日ベース>、対外非公表)。

(注3) 共通担保・固定金利の平均落札レート及び落札決定レートは、貸付利率(固定金利)。

(注4) シャドウは即日スタート分。

(図表6-2)

最近のオペ結果の推移(2)

オペ手段	直近残高	オファー日	スタート	期間	オファー額		平均落札 レート	落札決定 レート
					落札額	応札倍率		
国庫短期証券買入	94,321	11/20	T+3	-	4,000	5.04	0.001	0.000
		11/27	T+3	-	4,000	3.51	-0.002	-0.003
		12/4	T+3	-	4,000	4.74	0.003	0.003
		12/11	T+3	-	4,000	4.36	0.008	0.005
CP等買入	0	11/20	T+3	-	3,000	0.00	-	-
		11/27	T+3	-	3,000	0.00	-	-
		12/4	T+3	-	3,000	0.00	-	-
		12/11	T+3	-	3,000	0.00	-	-
社債買入	2,287	12/7	T+4	-	1,500	0.02	0.000	0.000
国債買入	-	11/24	T+3	-	2,500	3.22	0.006	0.004
		11/24	T+3	-	400	2.90	-0.215	-0.180
		12/3	T+3	-	3,100	2.69	0.065	0.019
		12/3	T+3	-	2,500	3.76	0.006	0.005
		12/7	T+3	-	2,500	4.59	0.011	0.008
		12/7	T+3	-	1,000	1.84	0.015	0.010

オペ手段	直近残高	オファー日	スタート日 (米国東部 時間)	期間	落札額		貸出利率 (固定金利)
					落札額	応札倍率	
米ドル資金供給	245	12/1	12/3	42D	0	-	1.150

オペ手段	直近残高	オファー日	スタート日	期間	落札額		当初貸付利率
					落札額	応札倍率	
企業金融支援特別	71,806	11/25	11/30	3M	3,109	-	0.100
		11/30	12/3	3M	5,471	-	0.100
		12/8	12/11	3M	8,227	-	0.100
		12/14	12/17	3M	8,659	-	0.100

(注1) オペ直近残高は2009/12/14日現在(実行日ベース)。

(注2) 国庫短期証券買入・CP等買入・社債買入・国債買入の平均落札レート及び落札決定レートは、利回り較差(変動利付債・物価連動債については、価格較差)。

(注3) 国庫短期証券買入の直近残高は、繰上償還等を控除していない。

(図表7)

資金需給の推移

(単位：兆円)

	資金需給 (国庫短期証券調整済)			金融調節 (国庫短期証券調整済)	当預残高 (末残)	
		銀行券	財政等 (国庫短期証券調整済)			
09/6月	+8.1	▲0.3	+8.5	▲5.8	15.7	
7月	▲9.8	+0.3	▲10.2	+6.3	12.3	
8月	▲5.1	+0.2	▲5.4	+4.8	11.9	
9月	+2.5	+0.3	+2.2	+3.2	17.6	
10月	+1.3	▲0.3	+1.7	▲6.6	12.3	
11月	▲5.0	▲0.0	▲5.0	+5.7	13.0	
12月	(-14日)	▲8.4	▲1.0	▲7.5	+8.8	13.4
	(15日-)	+8.3	▲4.0	+12.3	▲19.9	N.A.

(注1) ここでの資金需給は、各月の表面上の計数に、本行が買入れた国庫短期証券の償還額を加えたもので、実力ベースの資金需給。金融調節は、国庫短期証券の償還分も含めた計数で、短期オペ残高の増減に国債買入額を加えたものに一致する。

(注2) 12月(15日-)の資金需給は、現時点での予想。金融調節は、12/14日までにオファーしたオペのスタート・期落ち分に国債買入(0.9兆円)を加えたもの。

(注3) 四捨五入の関係で、資金需給の内訳と合計は必ずしも一致しない。

日銀バランスシート(11月末)

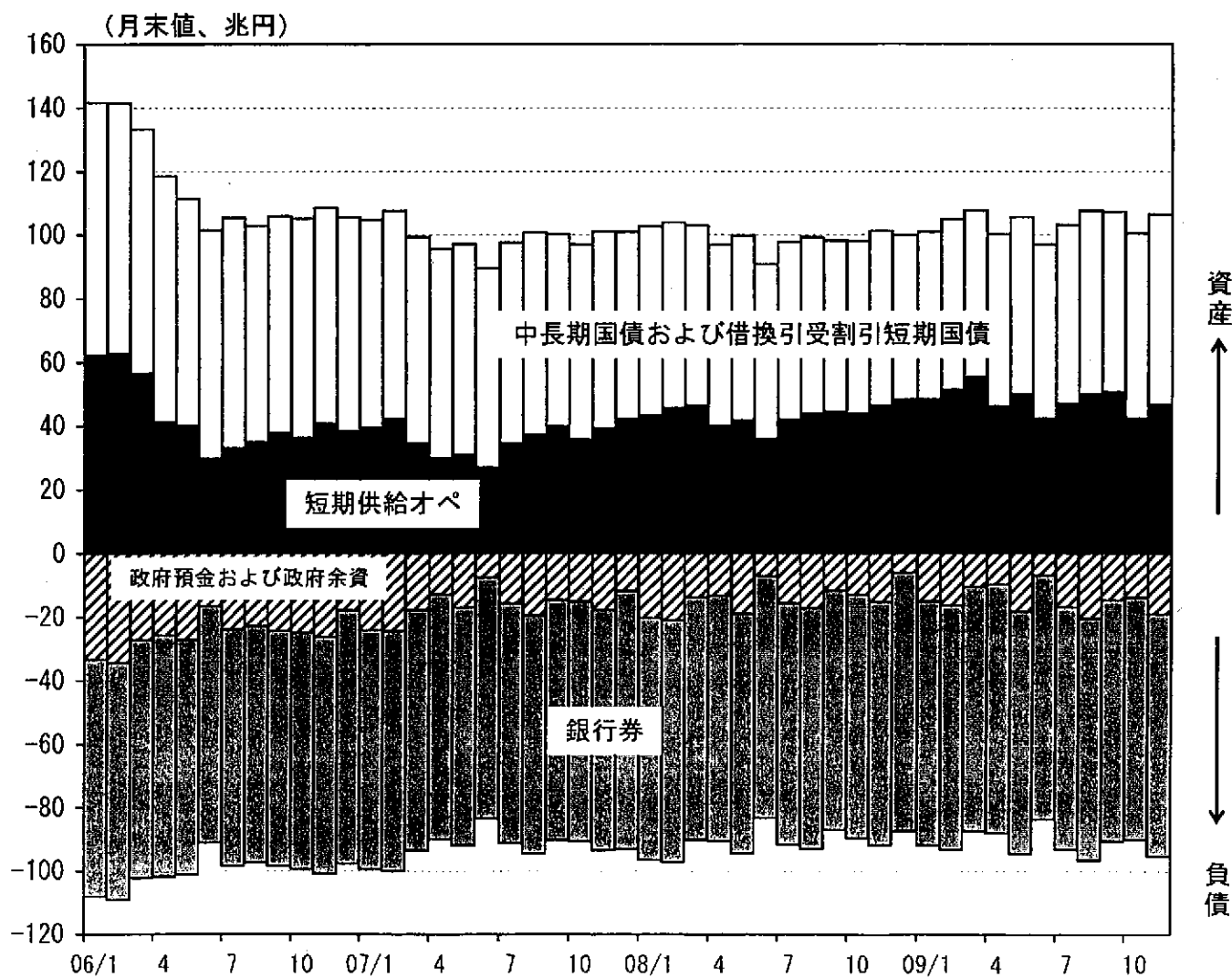
短期供給オペ	46.6	(+0.3)	銀行券	76.3	(▲0.3)
中長期国債	49.6	(+5.8)	当座預金	13.0	(+3.2)
引受国庫短期証券	13.0	(▲0.8)	政府預金および 政府余資	19.1	(+3.8)
信託財産株式	1.3	(+0.0)	短期吸収オペ	0.0	(▲1.6)

(注1) 主要項目のみ抜粋。単位：兆円。()内は前年差。

(注2) 短期供給オペにおける国庫短期証券買入オペ、CP等買入オペおよび社債買入オペは、買入累計額からその償還分(繰上償還を含む)等を控除したもの。

(注3) 引受国庫短期証券は、引受政府短期証券(FB)および借換引受割引短期国債(TB)のうち償還分等を控除したもの。

(参考) 日銀バランスシート主要項目の推移



(図表9)

(*)は対外非公表

本行受入担保残高の推移

末残、単位：表内=兆円、括弧内=億円

担保種類	2009/6月	7月	8月	9月	10月	11月
総計	103.1	105.9	110.4	105.3	100.9	106.1
国債	65.6	70.6	74.1	67.9	64.8	69.5
利付国債等 ^(注1)	47.7	50.4	52.4	48.8	47.0	^(注2) 48.4
変動利付国債(*)	11.7	11.9	11.4	10.3	10.0	10.1
物価連動国債(*)	2.1	2.1	1.9	2.1	1.8	2.0
国庫短期証券	17.8	20.1	21.7	19.0	17.8	21.1
社債等 ^(注3)	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
短期社債等 ^(注4)	3.3	3.3	3.2	3.0	2.7	2.8
その他債券 ^(注5)	5.9	6.0	5.8	5.8	5.7	5.9
手形 ^(注6)	1.3	1.3	1.4	0.9	1.3	1.1
証貸	25.3	23.0	24.1	25.9	24.7	25.0
企業向け等 ^(注7)	4.9	5.1	5.3	5.3	5.6	5.7
政府向け等 ^(注8)	20.4	17.9	18.8	20.6	19.1	19.2
うち民間債務分	11.1	11.4	11.5	10.9	11.3	11.3

ABS	421	424	426	427	428	431
ABCP ^(注9)	2,810	2,780	2,835	2,844	2,793	2,322
(うち特則分)(*)	(17)	(9)	(55)	(47)	(0)	(8)
社債特則分(*)	689	554	525	552	524	537
企業向け証貸特則分(*)	4,789	4,433	5,071	4,791	4,951	4,945
不動産投資法人債	41	46	40	40	46	40
不動産投資法人CP ^(注10)	0	0	0	0	0	0
不動産投資法人向け証貸	0	0	0	0	0	0
政府保証付短期債券	0	0	0	0	0	0
政府(特別会計含む)向け証貸	190,462	165,103	174,825	192,210	175,688	176,693
政府保証付証貸	14,153	14,257	13,479	13,977	15,313	15,441
地方公共団体向け証貸	0	116	177	162	277	352
外貨建外国債券	-	0	39	0	0	0

(参考) 現先オペでの買入残高

末残、単位：表内=兆円、括弧内=億円

オペ種類	2009/6月	7月	8月	9月	10月	11月
国債買現先オペでの国債買入残高	6.3	4.9	4.1	7.0	3.7	3.8
CP等買現先オペでのCP買入残高	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7

ABCP買入残高	4,650	5,621	4,839	4,394	4,928	4,290
(うち特則分)(*)	(3,949)	(4,893)	(4,152)	(3,772)	(4,227)	(3,515)
不動産投資法人CP買入残高	0	0	0	0	0	0
政府保証付短期債券買入残高	900	400	290	0	0	0

(注1) 利付国債、割引国債、承継国債および分離国債。

(注2) 分離国債は、182億円。(*)

(注3) 不動産投資法人債を含む。

(注4) 短期社債、保証付短期外債、資産担保短期債券、短期不動産投資法人債および政府保証付短期債券。

(注5) 外貨建外国債券を含む。

(注6) CPを含む。

(注7) 不動産投資法人向け証貸を含む。

(注8) 政府(特別会計含む)向け証貸、政府保証付証貸および地方公共団体向け証貸。

(注9) 資産担保短期債券を含む(以下同じ)。

(注10) 短期不動産投資法人債を含む(以下同じ)。

対外非公表

共通担保使用状況

単位：兆円

	2009/6月	7月	8月	9月	10月	11月
共通担保使用額合計 ^(注1)	27.3	31.5	34.0	31.2	26.3	30.5
うち共通担保オペ使用額 ^(注1)	24.2	29.7	32.9	30.1	25.3	29.5
当座貸越残高 日中ピーク ^(注2)	5.2	5.3	5.6	5.8	6.2	5.7

(注1) 未残。企業金融支援特別オペを含む。

(注2) 平残（ITC口を除く）。

(*)は対外非公表

担保適格ABC等・信用判定の状況

1. 担保適格ABC、J-REITの状況

	件数	発行枠	受入残高 ^(注1)
担保適格ABC (特則分) (*)	14件	9兆5,500億円	3,523億円
担保適格ABC (本則分) (*)	6件	1兆1,025億円	3,089億円
市中ABC計 ^(注2)	39件	16兆2,533億円	—
担保適格J-REIT	10件 (*)	—	40億円

(注1) 「受入残高」は11月末時点（共通担保受入額とCP等買現先オペでの買入残高の合計）。

(注2) 「市中ABC計」は2009年9月末の計数。

2. 信用判定の状況

	2009/6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月(注)
新規適格化先数 (*)	0	3	0	0	0	1	0
取下げ・抹消先数 (*)	1	3	0	1	1	3	1
信用判定適格先数	369	369	369	368	367	365	364

(注) 12/14日時点。

<不開示情報：有（種類：審議・検討）>

<配付先：金融政策決定会合関係者限り>

<作成局における保管期間満了時期：2039年12月>

2009.12.14

金融市場局

最近の金融・為替市場の動向

1. 概況

前回の政策決定会合以降の市場動向をみると、短期金融市場では、日本銀行による金融緩和の強化策を受け、やや長めの金利を含め、一段と金利が低下して推移している。ただし、一方では、引き続き取引の薄い市場もみられている。すなわち、無担保コールレート（O/N）は、誘導目標水準近傍で推移している。レポレートは、日本銀行による積極的な資金供給などを背景に、一段と低下し、0.1%台前半で推移している。短国レートは、日本銀行による新しい資金供給手段の導入決定やレポレートの低下を受けて、一段と低下し、1年物まで含めて、0.1%台前半で推移している。一方、長めのタームの銀行間取引金利は、短国レート等が低下するなか、低下ペースを幾分速めているが、取引の薄い状況が続いており、金利水準も、短国レートやOISレートに比べ、やや高めとなっている。

国内資本市場をみると、わが国の長期金利（10年新発債流通利回り）は、年初来ボトムとなる1.1%台まで低下した後、株価が反発に転じるなかで、幾分上昇し、1.2%台後半で推移している。株価（日経平均株価）は、ドバイ・ショックにより高まった不透明感が幾分緩和しているほか、急速な為替の円高化に歯止めがかかったことも好感され、急反発し、足もとは、10千円前後で推移している。また、一般債流通利回りの対国債スプレッドは、特定業種を中心に幾分スプレッドが拡大する動きがみられるなど、投資家の選別姿勢は根強くみられている。ただし、総じてみれば、高格付け銘柄については、引き続き投資家の旺盛な需要がみられるなか、安定的に推移している。また、低格付け銘柄についても、緩やかな低下傾向が続いている。

為替市場をみると、円の対ドル相場は、前回会合までの急速な円高化に歯止めがかかり、足もとは89円前後で推移している。

2. 市場別の動向

(1) 短期金融市場

わが国の短期金融市場をみると、日本銀行による金融緩和の強化策を受け、やや長めの金利を含め、一段と金利が低下して推移している（図表1）。ただし、一方では、引き続き取引の薄い市場もみられている。翌日物金利については、無担保コールレート（O/N）が、誘導目標水準（0.1%）の近傍で推移している。GCレポレート（S/N）は、日本銀行による積極的な資金供給などを背景に、一段と低下し、0.1%台前半で推移している。ターム物金利については、短国レートは、日本銀行による新しい資金供給手段の導入決定やGCレポレートの低下を受けて、一段と低下し、1年物まで含めて、0.1%台前半で推移している。一方、銀行間取引金利（ユーロ円レート）は、短国レート等が低下するなか、低下ペースを幾分速めているが、取引の薄い状況が続いており、金利水準も、短国レートやOISレートに比べ、やや高めとなっている。

	前回決定会合 直前（11/30日）	期間中ピーク （終値ベース）	期間中ボトム （終値ベース）	直近終値 （12/14日）
無担コールレート （O/N、加重平均）	0.113%	0.113% （11/30日）	0.091% （12/11日）	0.092%
GCレポレート （出合い、S/N）	0.150%	0.150% （11/30日）	0.110% （12/2-3日）	0.120%
短国レート （3M）	0.155%	0.155% （11/30日）	0.120% （12/2-4日）	0.125%
短国レート （6M）	0.165%	0.165% （11/30日）	0.130% （12/2-14日）	0.130%
短国レート （1Y）	0.170%	0.170% （11/30日）	0.135% （12/2-3日）	0.140%
ユーロ円金先レート （2010/6月限）	0.420%	0.420% （11/30日）	0.315% （12/2日）	0.350%

—— 銀行間取引における年末越えの資金に対するプレミアムについて、TIBOR-OISスプレッド（1か月物スポットレート）をみると、前回会合以降、各種ターム物金利が低下するなかで、スプレッドも幾分低下しており、年末越えに対する警戒感はみられない（図表2）。

—— CP市場については、ドバイとの関連が意識された建設等で発行金利が幾分上昇する動きもみられたが、総じてみれば、各種ターム物金利が低下するなかで、CP発行レートは低位で横ばい推移となるなど、良好な発行環境が維持されている（図表2）。

—— 主要通貨の調達環境に関して、LIBOR-OISスプレッドをみると、い

ずれの通貨についても、パリバ・ショック前と遜色ないか（ドル）、あるいはこれを幾分上回る水準で（ユーロ、ポンド）、概ね横ばい圏内で推移している（図表3）。

ユーロ円金利先物レートをみると、先行き1年程度は、緩やかにTIBORが低下していくことが見込まれている（図表4）。

—— OISレートから、日本銀行の政策運営に対する市場参加者の見方を窺うと、政策金利は当面据え置かれるとの見方が一段と強まっている（図表4）。

（2）債券市場

債券市場をみると、わが国の長期金利（10年新発債流通利回り）は、一旦、年初来ボトムとなる1.1%台まで低下したが、急速な為替の円高化に歯止めがかかり、株価が反発に転じるなか、幾分上昇し、1.2%台後半で推移している（図表5）。

	前回決定会合 直前（11/30日）	期間中ピーク （終値ベース）	期間中ボトム （終値ベース）	直近終値 （12/14日）
2年新発債 利回り	0.225%	0.225% （11/30日）	0.165% （12/1,12/14日）	0.165%
5年新発債 利回り	0.535%	0.535% （11/30日）	0.455% （12/1日）	0.505%
10年新発債 利回り	1.255%	1.300% （12/14日）	1.190% （12/1日）	1.300%
20年新発債 利回り	2.020%	2.070% （12/14日）	1.955% （12/1日）	2.070%

—— イールドカーブは、前回会合以降、長期・超長期ゾーンを中心に幾分スティープ化している（図表6）。

—— 債券利回りの変動要因をみると、利回り上昇要因としての「債券需給」に対する注目が幾分低下する一方、利回り低下要因としての「景気動向」、「短期金利・金融政策」、「株価動向」、「為替動向」への注目度が幾分高まっている（図表6）。

国債の市場流動性は、リーマン・ブラザーズ破綻前の水準までは回復していないものの、基調としては、緩やかな回復傾向が続いている。

—— インプライド・ボラティリティは、概ね横ばい圏内の推移となっている（図表7）。

(3) クレジット・スプレッド等

わが国のクレジット市場をみると、ドバイとの関連が意識された建設や一部格下げがみられた消費者金融などの特定業種を中心に幾分スプレッドが拡大する動きがみられるなど、投資家の選別姿勢は根強くみられている。ただし、総じてみれば、一般債流通利回りの対国債スプレッドは、高格付け銘柄（地方債、銀行社債、電力債など）については、引き続き投資家の旺盛な需要がみられるなか、堅調に推移している（図表8）。また、低格付け銘柄についても、緩やかな低下傾向が続いている。

CDSプレミアムは、特定業種を中心に一時拡大する動きもみられたが、株価が反発するなかで、縮小に転じており、全体としては、幾分低下して推移している（図表9）。

	前回決定会合 直前 (11/30日)	期間中ピーク (終値ベース)	期間中ボトム (終値ベース)	直近終値 (12/11日)
A格社債の対国債 スプレッド (5年)	0.861%	0.867% (12/9日)	0.849% (12/2日)	0.858%
BBB格社債の対国債 スプレッド (同)	2.400%	2.473% (12/9日)	2.382% (12/3日)	2.411%
CDSプレミアム (iTraxx Japan 5年)	156.2bps	156.2bps (11/30日)	134.3bps (12/3日)	143.1bps

クレジット市場については、一頃に比べると警戒感が和らぎつつあるが、消費者金融、空輸などの個別企業の経営再建策の動向への注目度が高まった状況が続いており、先行きに対する不透明感は引き続き残っている。

(4) 株式市場

株式市場をみると、わが国の株価（日経平均株価）は、前回会合以降、ドバイ・ショックにより高まった不透明感が幾分緩和しているほか、急速な為替の円高化に歯止めがかかったことも好感され、急反発し、足もとは、10千円前後で推移している（図表10）。

	前回決定会合 直前 (11/30日)	期間中ピーク (終値ベース)	期間中ボトム (終値ベース)	直近終値
日経平均株価	9,345円	10,167円 (12/7日)	9,345円 (11/30日)	10,105円 (12/14日)
TOPIX	839pts	898pts (12/7日)	839pts (11/30日)	885pts (12/14日)
NYダウ平均	10,344ドル	10,471ドル (12/1日)	10,285ドル (12/8日)	10,471ドル (12/11日)
NASDAQ 総合指数	2,144pts	2,194pts (12/4日)	2,144pts (11/30日)	2,190pts (12/11日)

— わが国株式の主体別売買動向をみると、前回会合までの株価下落局面では、外国人の買い越し基調が弱まるなか、金融機関（年金資金を含む）がリバランス目的の買い越しに転じる姿となっていた。その後、株価が反発する過程では、個人が売り越す一方で、外国人が大きく買い越したかたちとなっている（図表11）。

— 株価のインプライド・ボラティリティは、振れを伴いながらも、横ばい圏内で推移している（図表11）。

(5) 為替市場

為替市場をみると、円の対ドル相場（NY市場16時時点ベース<以下同じ>）は、前回会合までの急速な円高化に歯止めがかかり、足もとは89円前後で推移している（図表12）。

	前回決定会合 直前 (11/30日)	期間中ピーク (終値ベース)	期間中ボトム (終値ベース)	直近終値 (12/11日)
円の対ドル相場	86.44円	86.44円 (11/30日)	90.50円 (12/4日)	89.06円
円の対ユーロ相場	129.79円	129.40円 (12/9日)	134.36円 (12/4日)	130.29円
ユーロの対ドル相場	1.5015ドル	1.5085ドル (12/1日)	1.4629ドル (12/11日)	1.4629ドル

— ユーロの対ドル相場は、前回会合以降も1.50ドル前後と年初来高値圏で推移していたが、ギリシャ等の財政問題が注目されているなかで、幾分反落し、1.46ドル前後で推移している。

— この間、クロス円相場は、ドバイ・ショックにより高まった国際金融面の不透明感が幾分緩和するなか、概ね横ばい圏内で推移している（図表14）。

— IMM先物取引ポジションをみると、ドル/円、ユーロ/ドルともに、ドルのショート・ポジションが幾分縮小している（図表13）。一方、豪

ドル、加ドル、メキシコ・ペソ等の資源国通貨についてみると、米ドルのショート・ポジションは高水準で推移している。

— リスクリバーサル (1M) については、ドル/円はドルプット超幅が大幅に低下している一方、ユーロ/ドルは、ドルコール超が幾分拡大している (図表13)。一方、外為証拠金取引では、豪ドルなど一部通貨に対し、相場に対して逆張りのようなポジションの造成やその巻き戻しといった動きが続いている (図表14)。

— ドル/円オプションのインプライド・ボラティリティ (1M) は、前回会合以降、概ね横ばい圏内で推移している (図表13)。

以 上

<不開示情報：有（種類：審議・検討）>
<配付先：金融政策決定会合関係者限り>
<作成局における保管期間満了時期：2039年12月>

2009.12.14

金融市場局

「最近の金融・為替市場の動向」参考計表

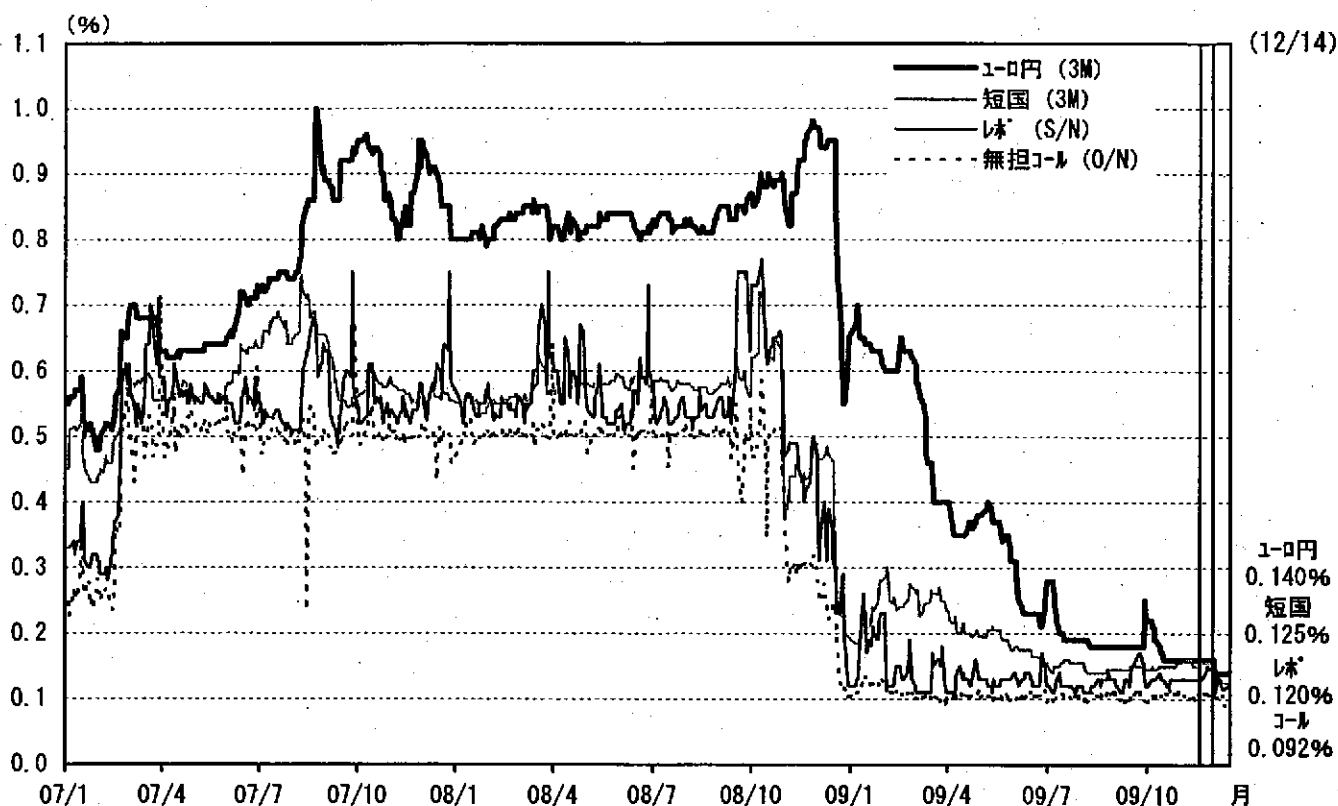
- (図表1) 短期金利の推移
- (図表2) ターム物レートの推移(1)
- (図表3) ターム物レートの推移(2)
- (図表4) フォワードレートの動向
- (図表5) 長期金利の推移
- (図表6) イールド・カーブの動向
市場参加者が注目する債券利回り変動要因
- (図表7) インプライド・ボラティリティの推移
長国先物の値幅・出来高比率の推移
- (図表8) 社債流通利回りの対国債スプレッドの推移
- (図表9) CDSプレミアムの推移
- (図表10) 株式相場の推移
- (図表11) 主体別売買動向等
- (図表12) 主要為替相場の推移
- (図表13) 通貨オプション、先物市場の動向
- (図表14) クロス円取引の動向
- (図表15) エマージング、コモディティ市場の動向

(注) 図表中の縦線は、特に断りのない限り11月会合・臨時会合の前営業日(11/18・11/30日)を表す。

(図表 1)

短期金利の推移

(1) 短期金利の推移



(2) ターム物レート等の推移

	(%)								
	無担コール O/N	レボ S/N	TIBOR 3M	ユーロ円			短国		
				1M	3M	6M	3M	6M	1Y
09/11/18	0.107	0.125	0.524	0.120	0.160	0.240	0.155	0.175	0.185
11/19	0.109	0.130	0.524	0.120	0.160	0.240	0.155	0.175	0.185
11/20	0.109	0.130	0.524	0.120	0.160	0.240	0.155	0.170	0.185
11/24	0.109	0.140	0.524	0.120	0.160	0.240	0.155	0.170	0.185
11/25	0.106	0.150	0.524	0.120	0.160	0.240	0.155	0.170	0.180
11/26	0.103	0.150	0.524	0.120	0.160	0.240	0.155	0.165	0.175
11/27	0.107	0.145	0.521	0.140	0.160	0.240	0.155	0.165	0.170
11/30	0.113	0.150	0.517	0.140	0.160	0.240	0.155	0.165	0.170
12/1	0.104	0.140	0.514	0.140	0.160	0.240	0.125	0.135	0.140
12/2	0.101	0.110	0.494	0.130	0.140	0.230	0.120	0.130	0.135
12/3	0.105	0.110	0.487	0.130	0.140	0.230	0.120	0.130	0.135
12/4	0.102	0.135	0.484	0.130	0.140	0.230	0.120	0.130	0.140
12/7	0.107	0.130	0.481	0.130	0.140	0.230	0.125	0.130	0.140
12/8	0.107	0.120	0.479	0.130	0.140	0.230	0.125	0.130	0.140
12/9	0.105	0.115	0.477	0.130	0.140	0.230	0.125	0.130	0.140
12/10	0.100	0.115	0.474	0.130	0.140	0.230	0.125	0.130	0.140
12/11	0.091	0.115	0.471	0.130	0.140	0.230	0.125	0.130	0.140
12/14	*0.092	0.120	0.468	0.130	0.140	0.230	0.125	0.130	0.140
12/15									
12/16									

* 速報値

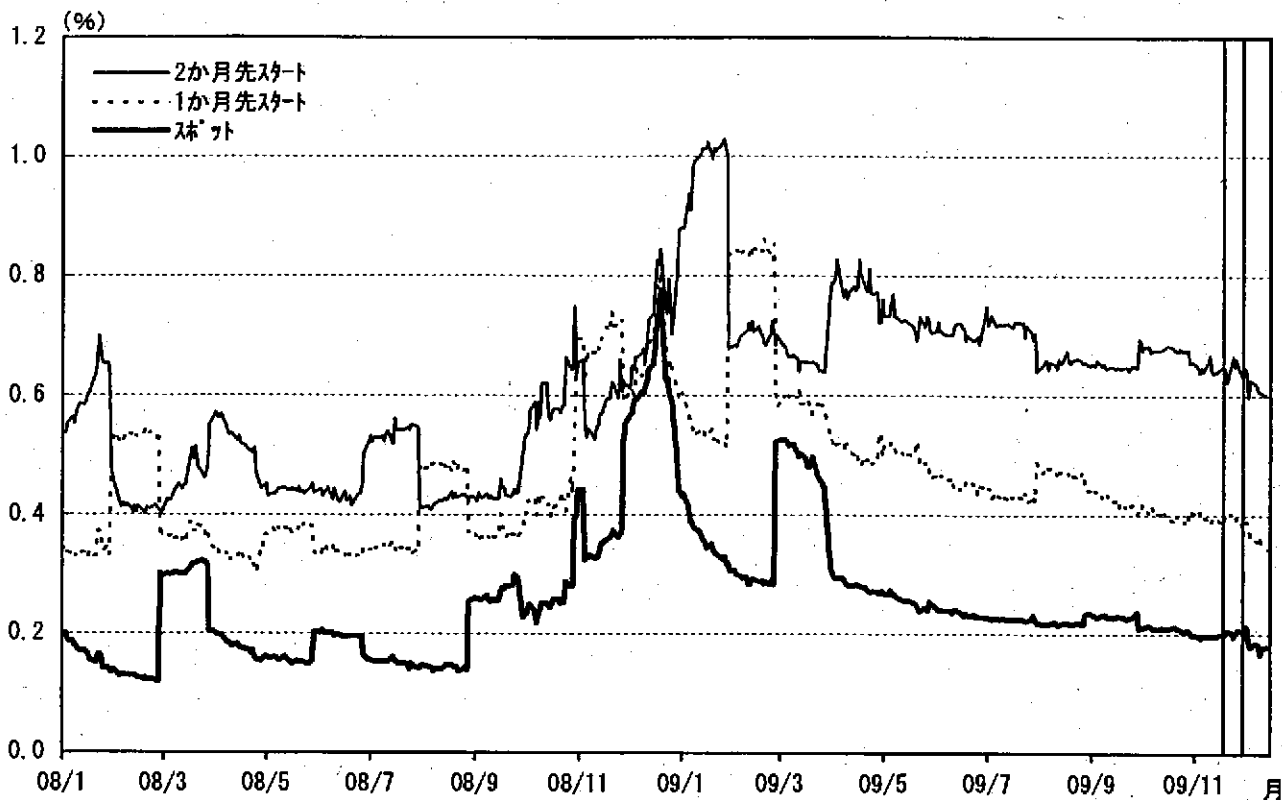
(注) 1. レポレート、ユーロ円レートはヒアリングベース (対外非公表)。

2. 短国レートはT-Bill利回り。ただし、09/2月の統合発行以前はFB/TB利回り。

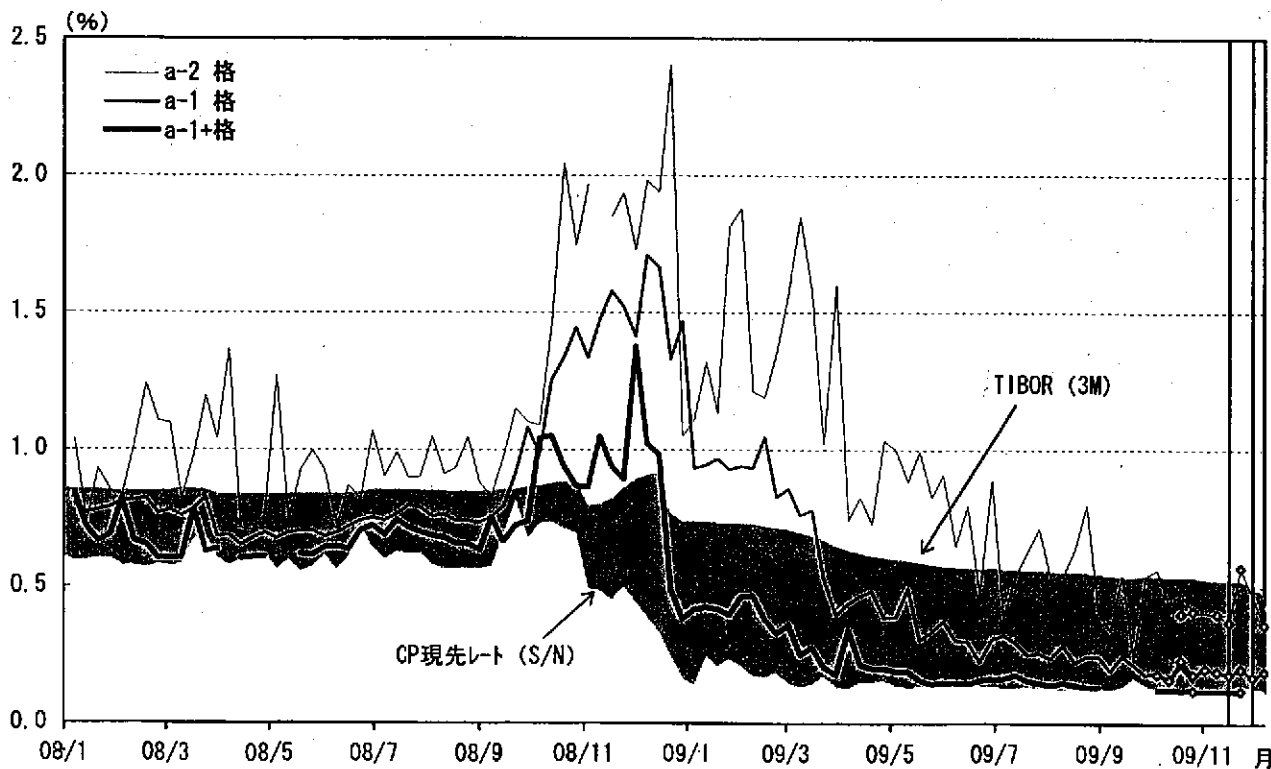
(出所) 全国銀行協会、日本相互証券、日本銀行

ターム物レートの推移 (1)

(1) TIBOR-OISスプレッド (1か月物フォワードレート) の推移



(2) CP発行レート (3か月物) の推移



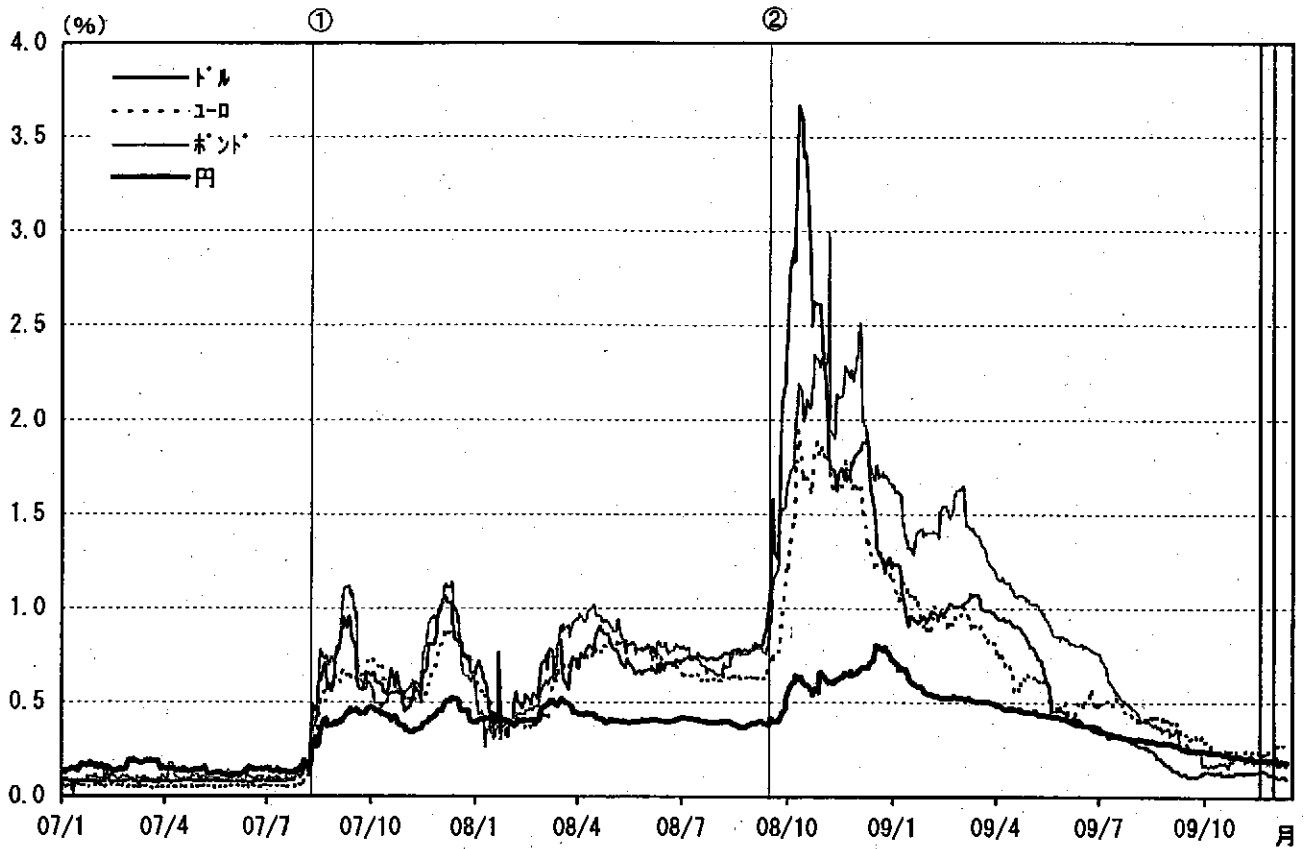
(注) 1. (2)のCP発行レートは、週次平均レート (証券保管振替機構公表計数: ◇印)。ただし、09/10月以前はCP等買現先オペの対象先による引受分 (対外非公表)。発行額による加重平均で、格付けは基本的にR&Iによる。金融機関発行分およびABCPは除く。

2. 直近は、(1)は12/14日、(2)は12/7日週。

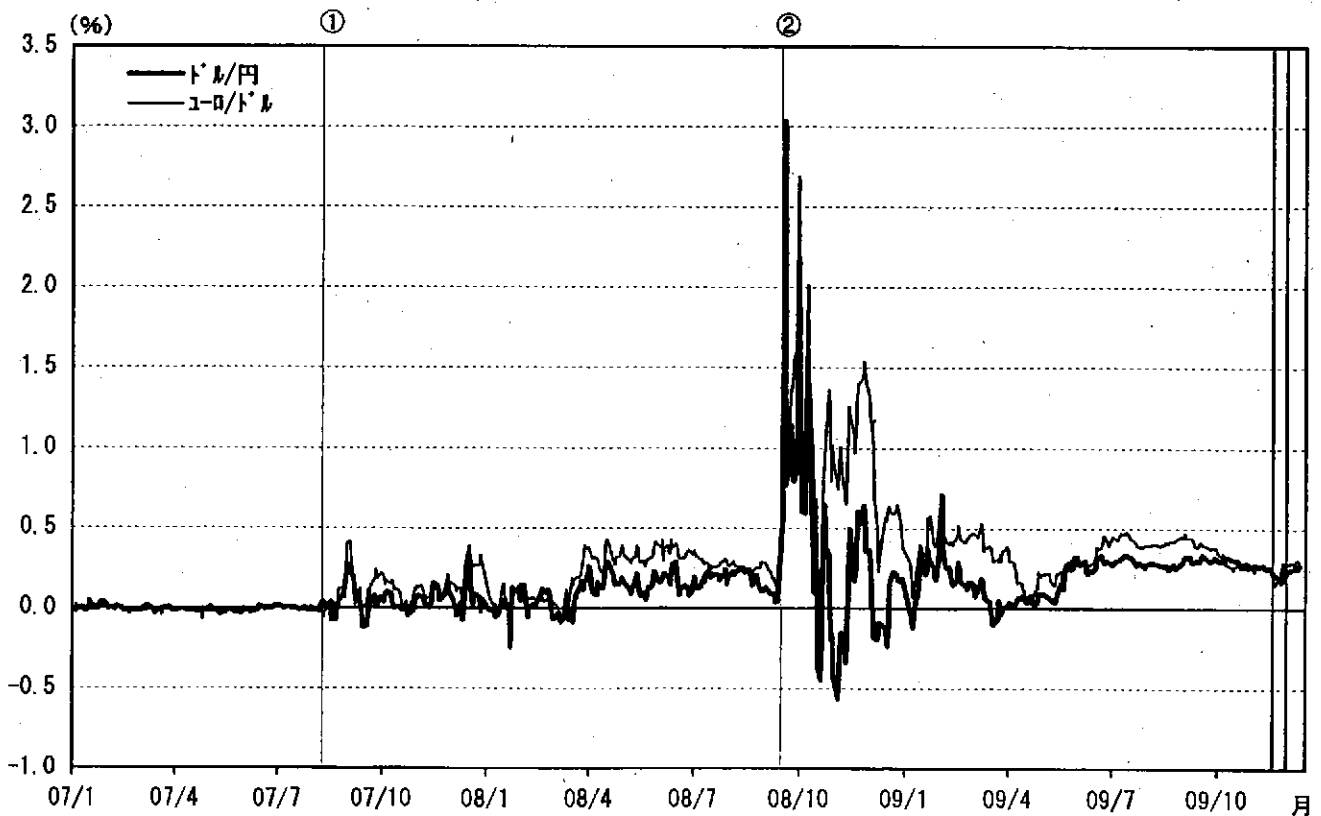
(出所) Bloomberg、証券保管振替機構、全国銀行協会、日本銀行

ターム物レートの推移 (2)

(1) LIBOR-OISスプレッド (3か月物) の推移



(2) ドル転コスト対ドルLIBORスプレッド (3か月物) の推移



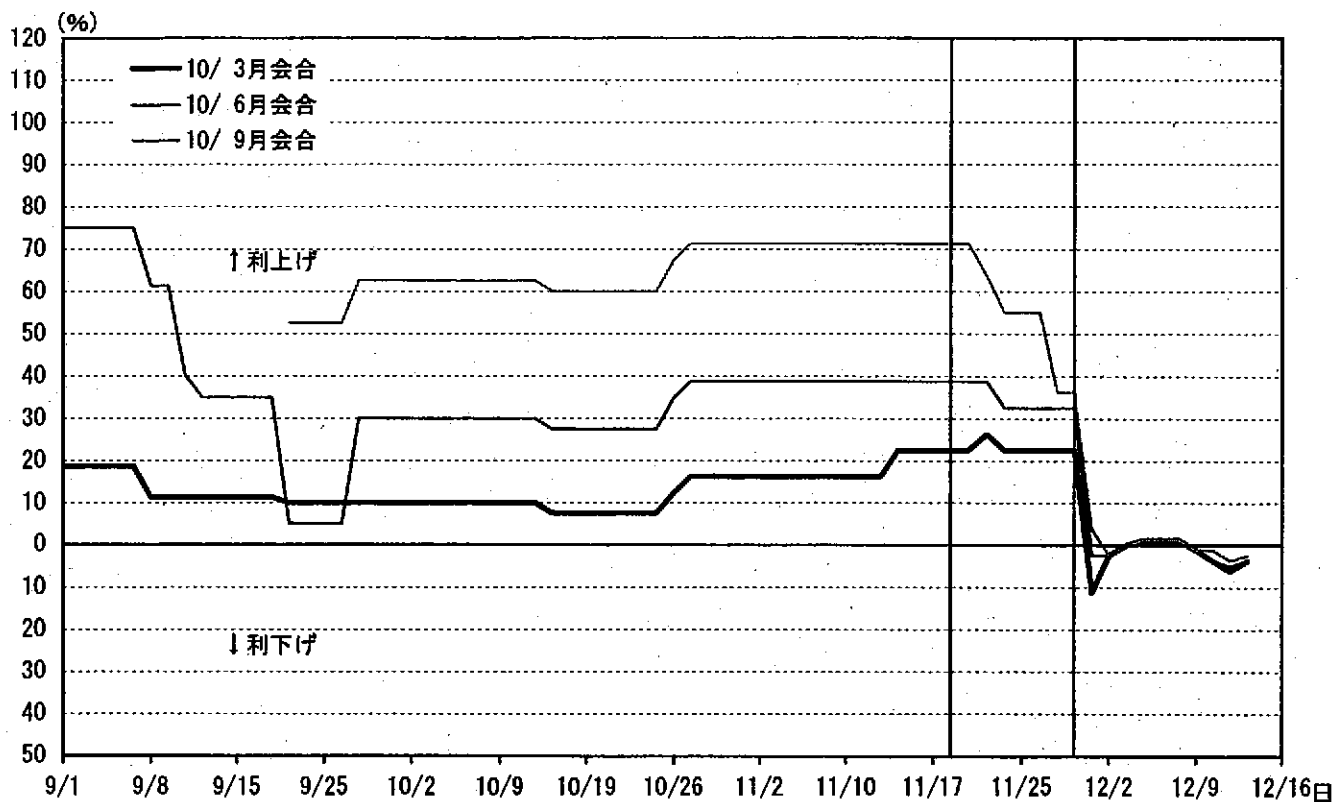
(注) 1. ①はパリバ・ショック (07/8/9日) 時点、②はリーマン破綻 (08/9/15日) 時点。

2. 直近は12/11日。

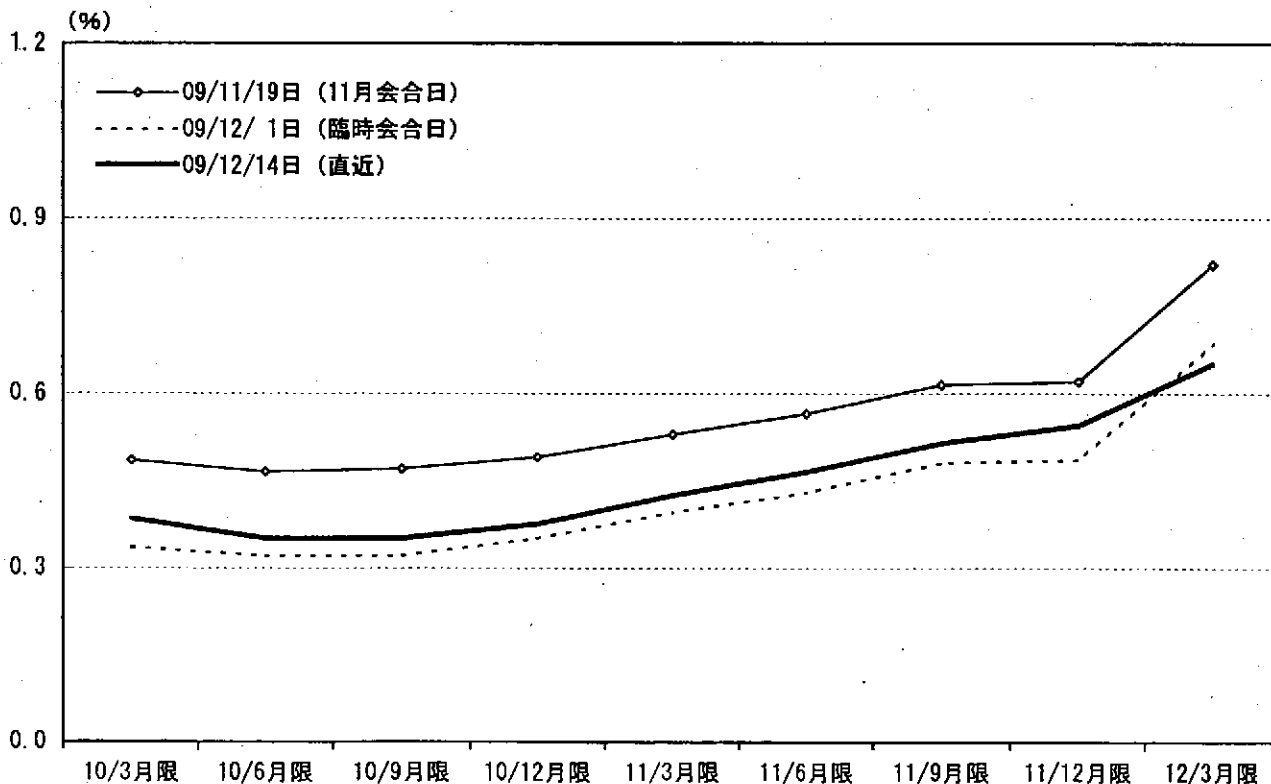
(出所) Bloomberg

フォワードレートの動向

(1) OISレートからみた政策変更(±10bps)の織り込み度合い



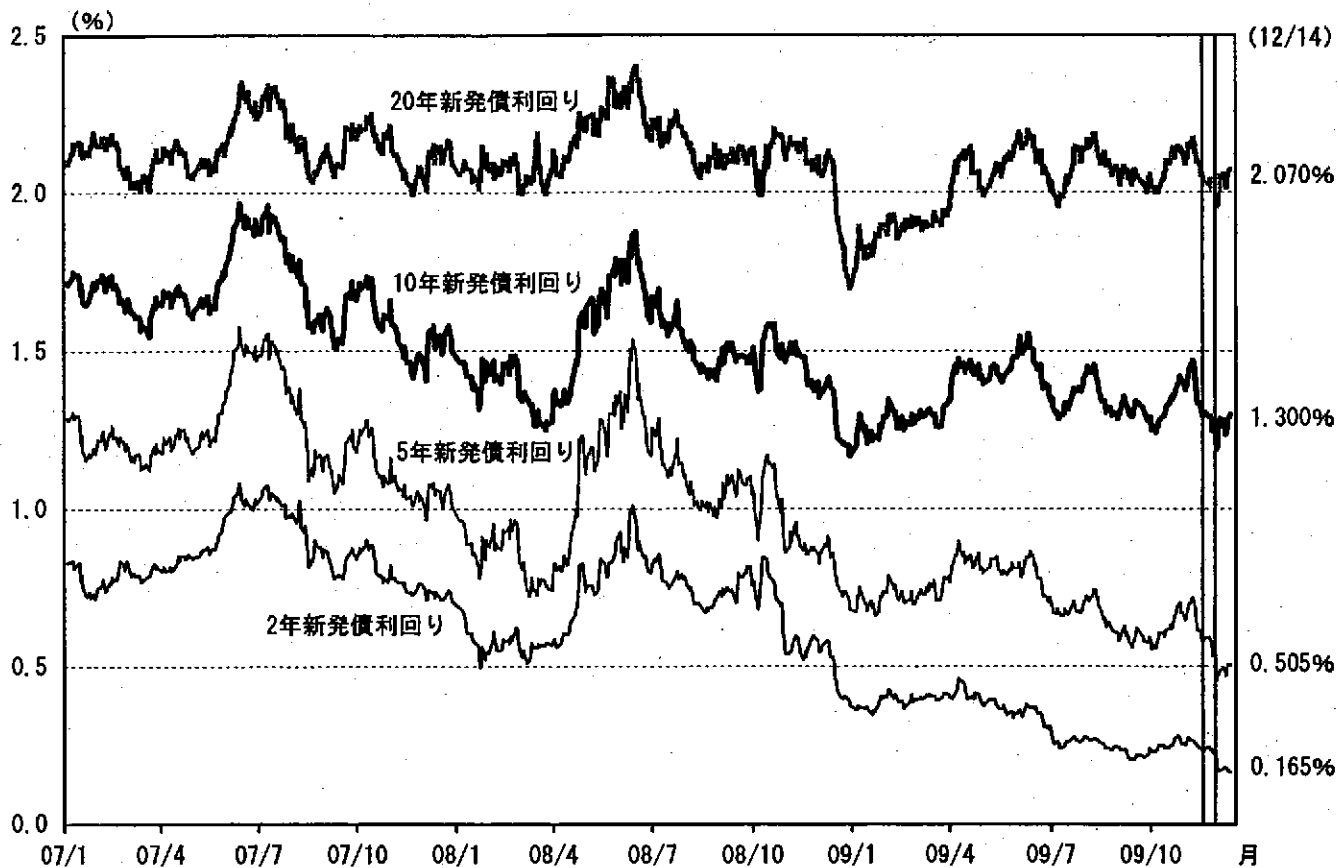
(2) ユーロ円金利先物からみたフォワードレート・カーブ



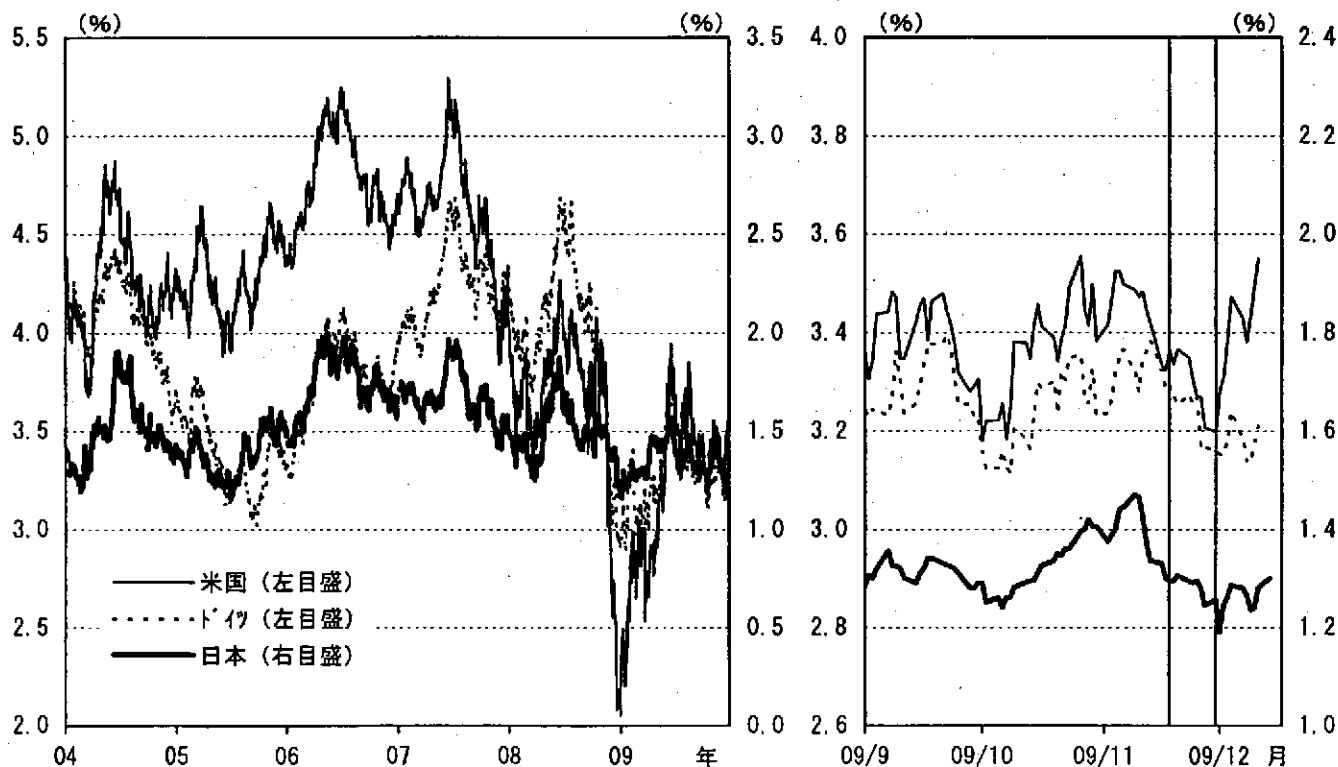
(注) (1)は会合間取引レートの仲値から算出。直近は12/14日。
(出所) トムソン・ロイター、メイタン・トラディション、東京金融取引所

長期金利の推移

(1) 国内年限別の推移



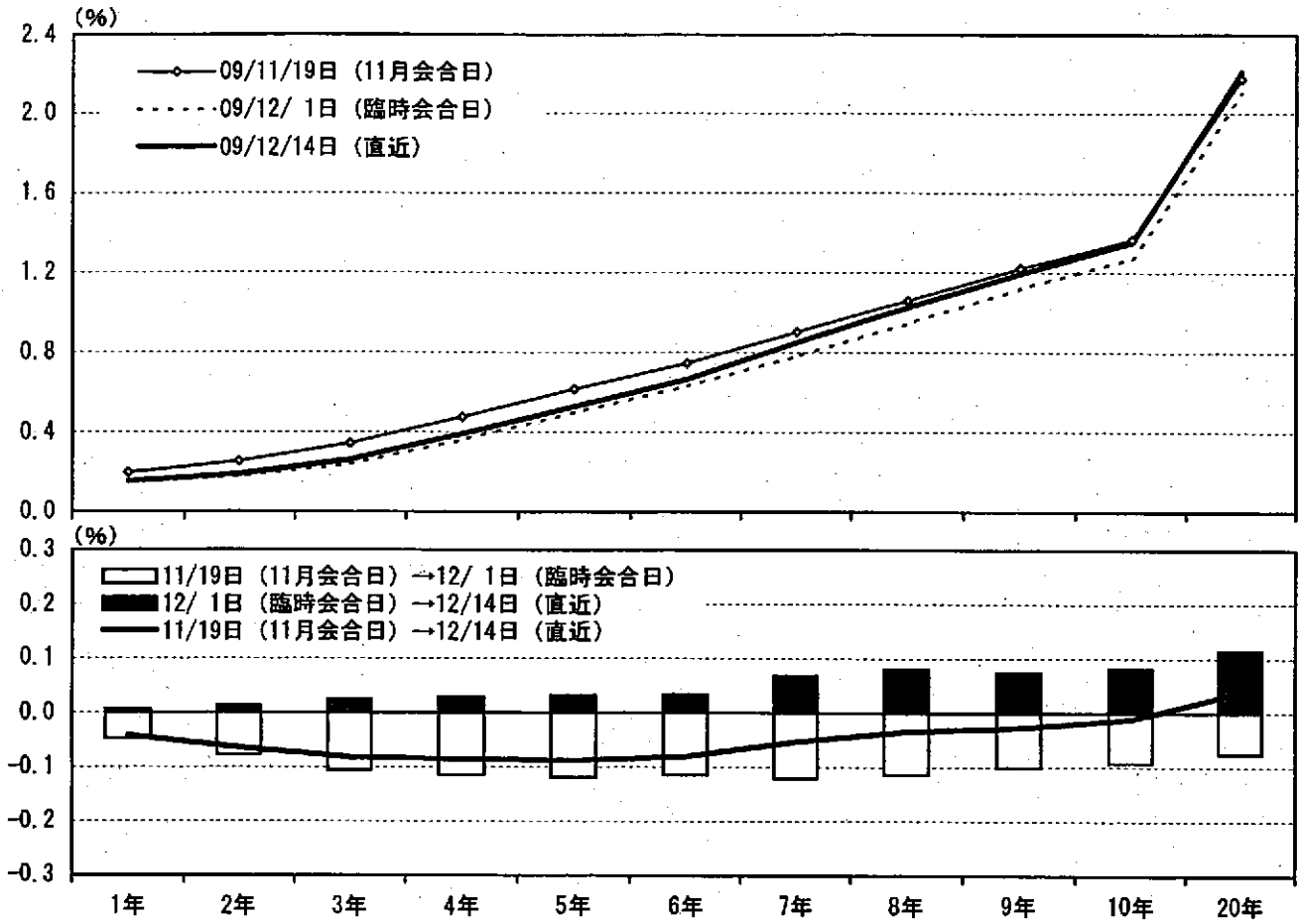
(2) 10年国債利回りの推移



(注) 直近は、日本は12/14日、その他は12/11日。

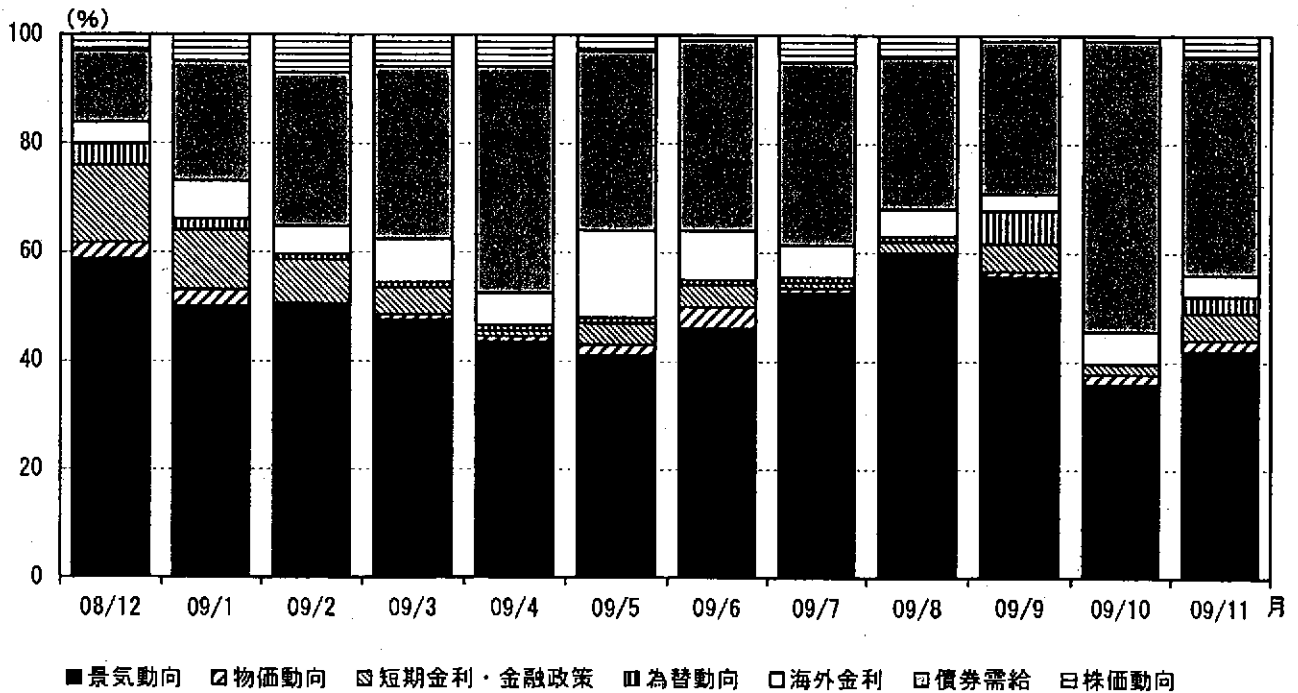
(出所) Bloomberg、日本相互証券

イールド・カーブの動向



(出所) 日本証券業協会、日本銀行

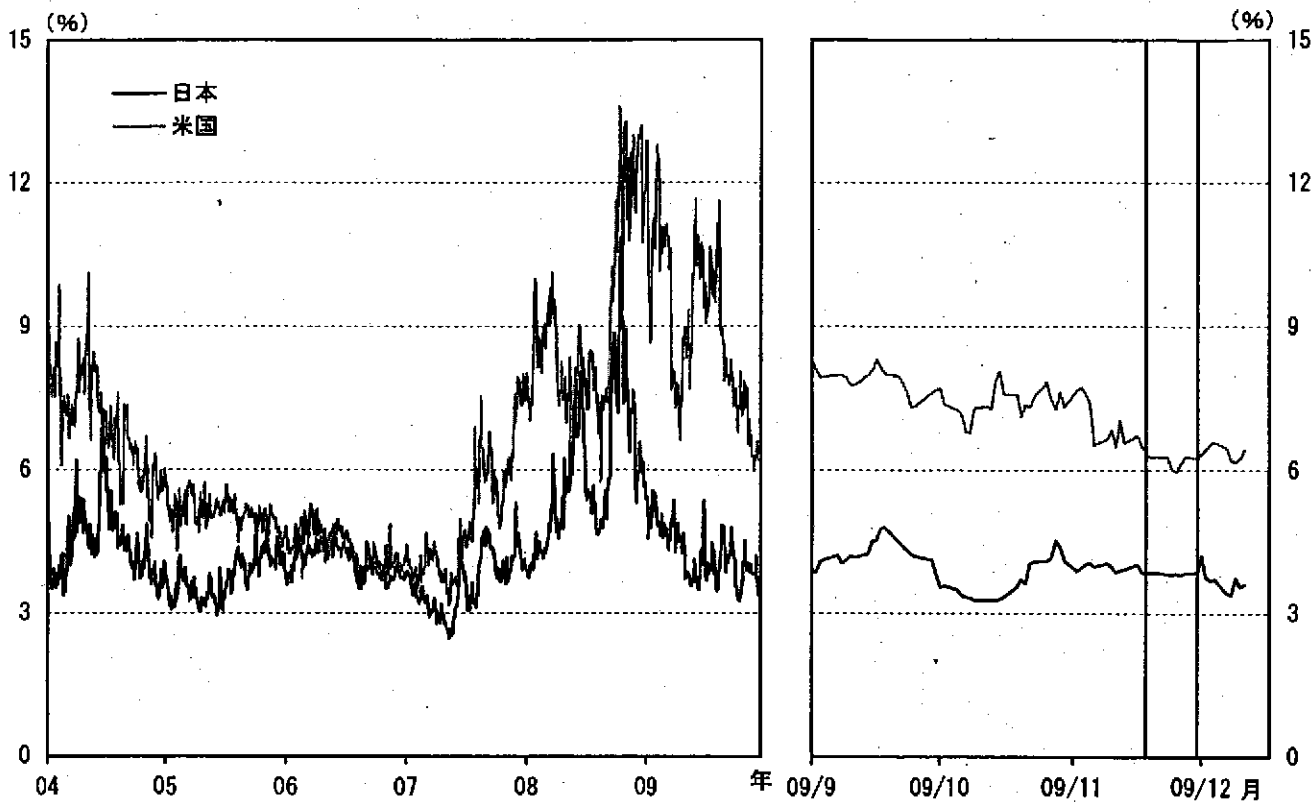
市場参加者が注目する債券利回り変動要因



(注) 調査期間は09/11/24日～09/11/26日。期間中の10年新発債利回りは1.280～1.295%。

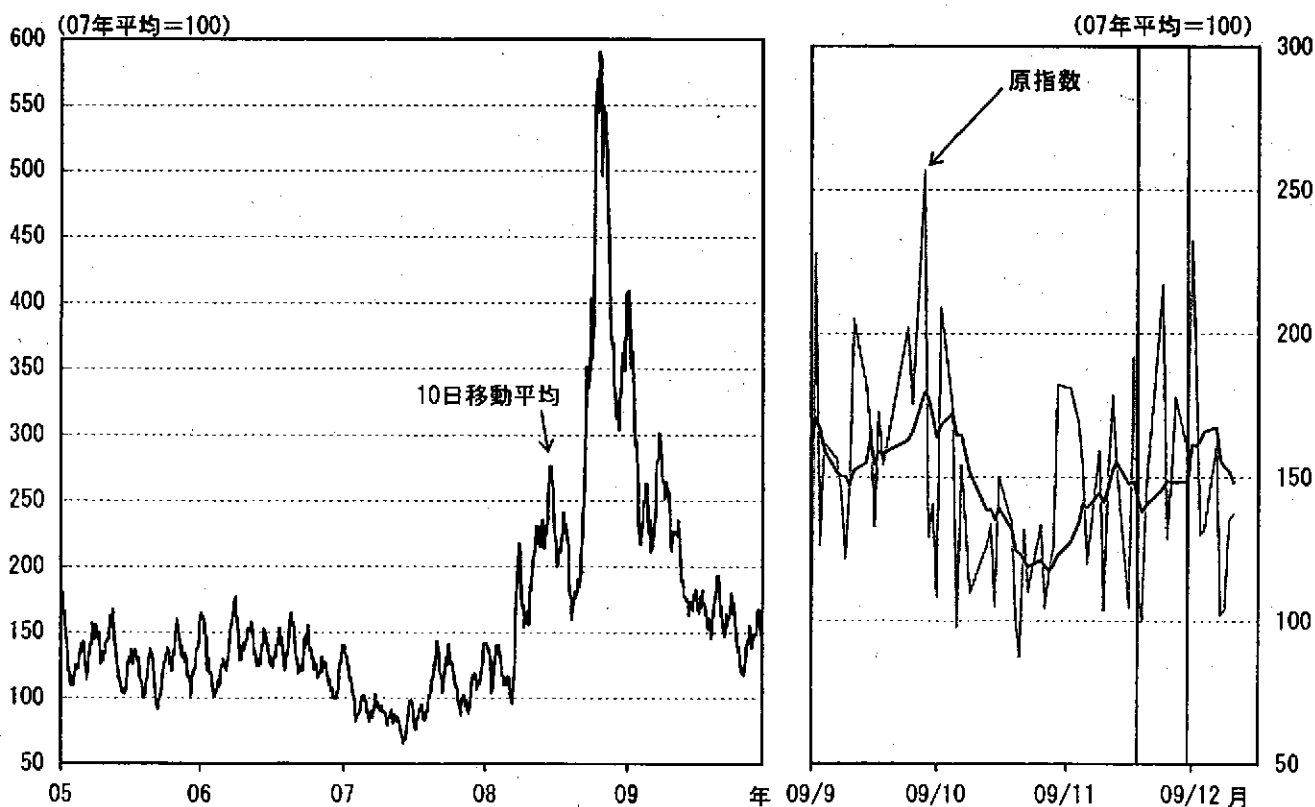
(出所) 「QSS債券月次調査」

インプライド・ボラティリティの推移



(注) 直近は12/11日。
(出所) Bloomberg、三菱UFJ証券

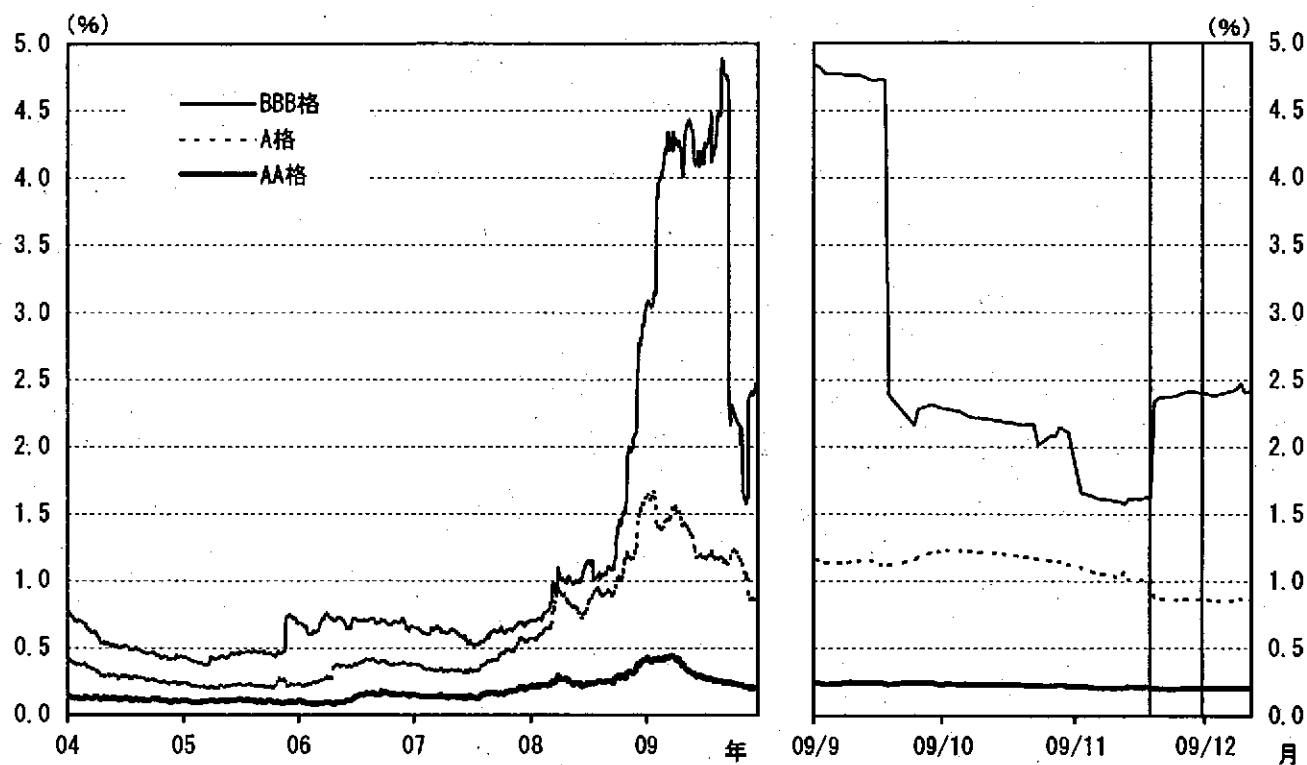
長国先物の値幅・出来高比率の推移



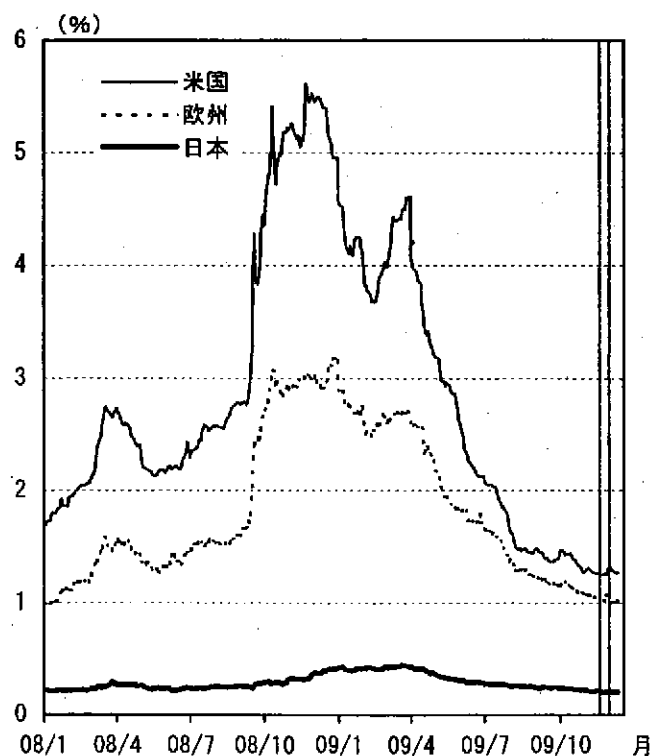
(注) 直近は12/11日。
(出所) QUICK

社債流通利回りの対国債スプレッドの推移

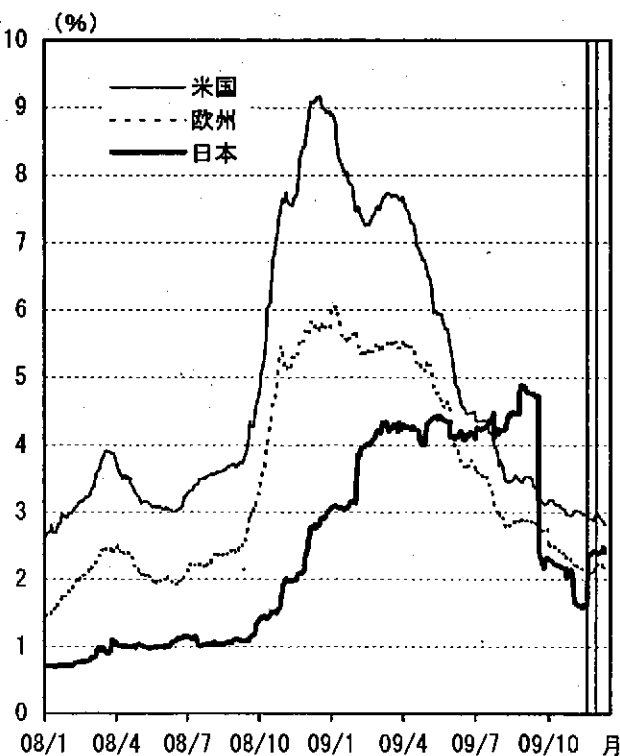
(1) 国内社債の動向



(2) 高格付社債（AA格）の動向



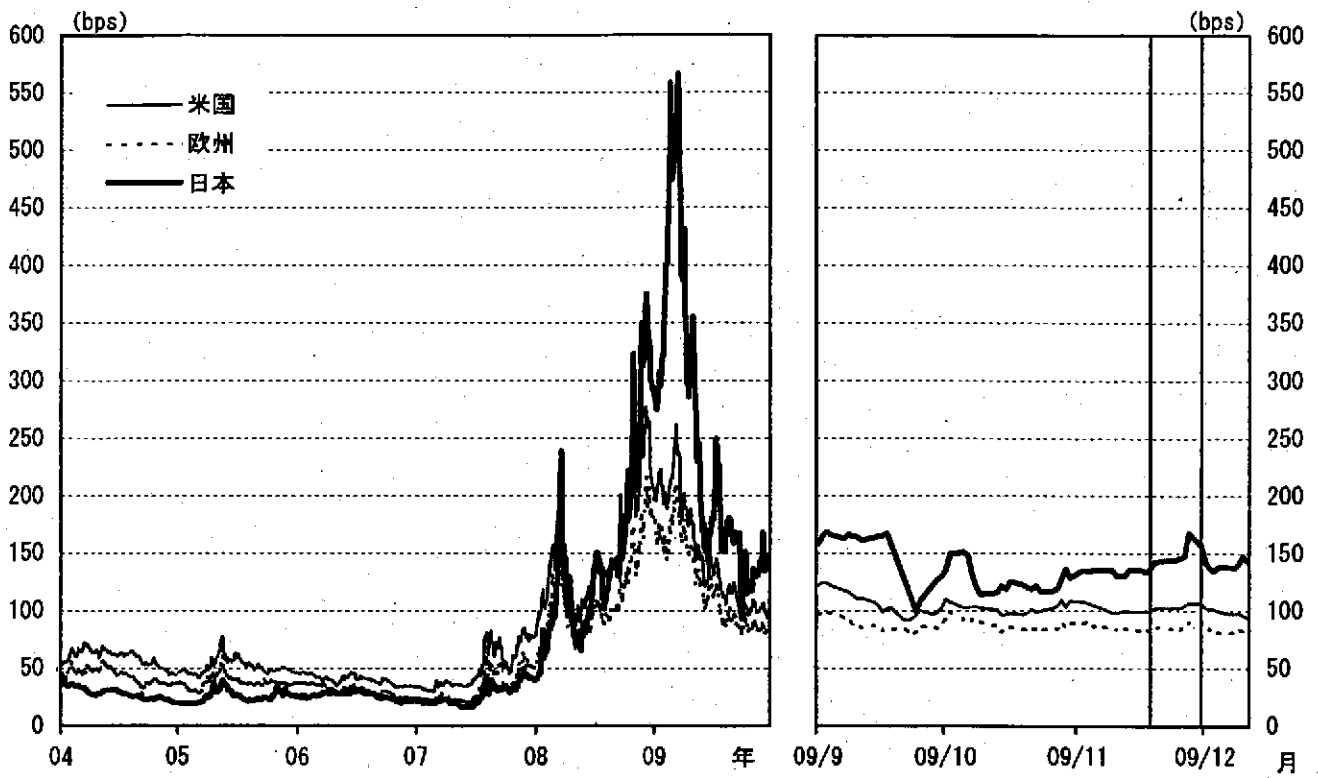
(3) 低格付社債（BBB格）の動向



(注) 1. 日本の社債流通利回りは売買参考統計値、格付けはR&Iによる。集計対象は、残存3年以上7年未満の銘柄。
2. 米欧はメリルリンチ算出、格付けはMoody's、S&P、Fitchによる。集計対象は、残存3年以上5年未満の銘柄。
3. 直近は12/11日。

(出所) Bloomberg、日本証券業協会、日本銀行

CDSプレミアムの推移

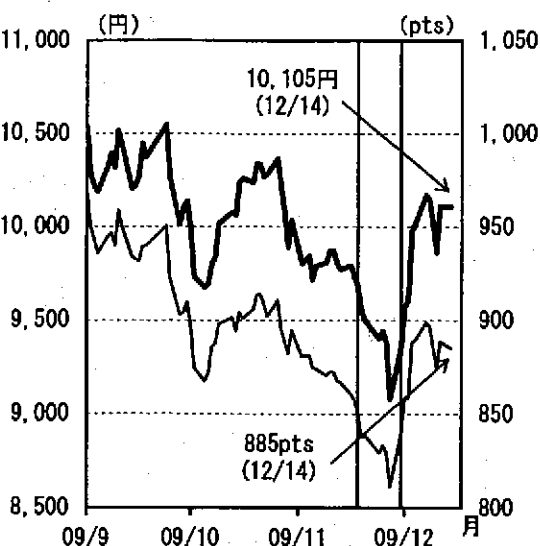
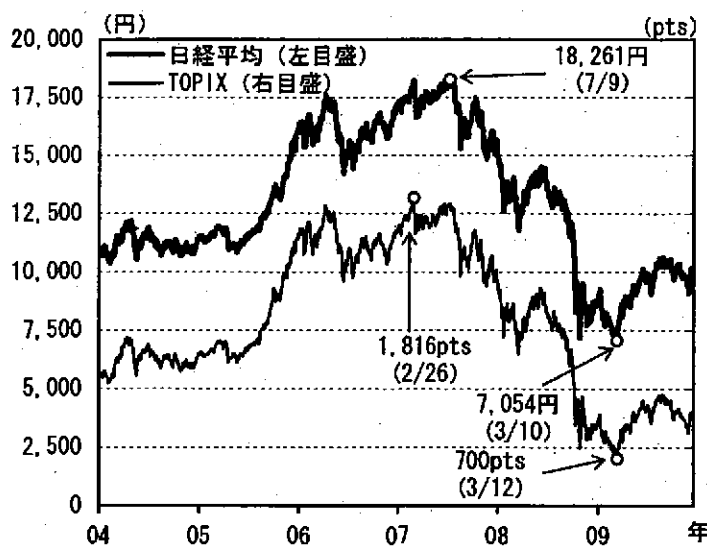


(注) 1. 以下の各インデックス。年限は5年。
日本：iTraxx Japan、米国：CDX.NA.IG、欧州：iTraxx Europe。
2. 対外非公表。直近は12/11日。
(出所) Markit、JPモルガン

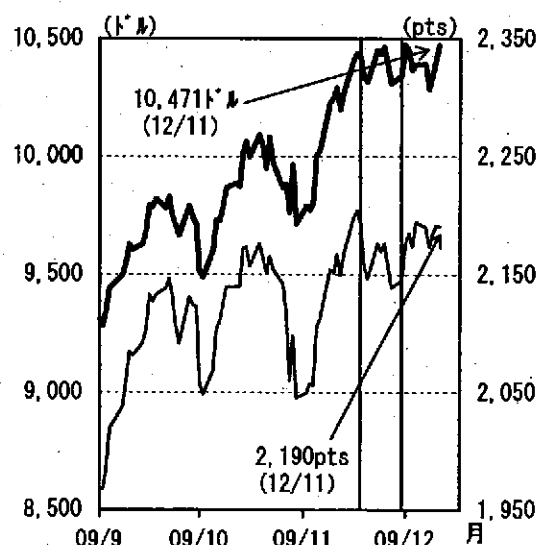
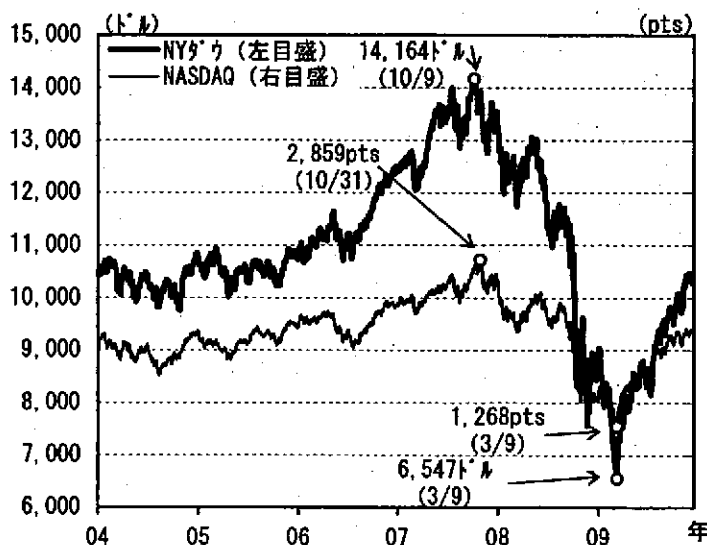
(図表10)

株式相場の推移

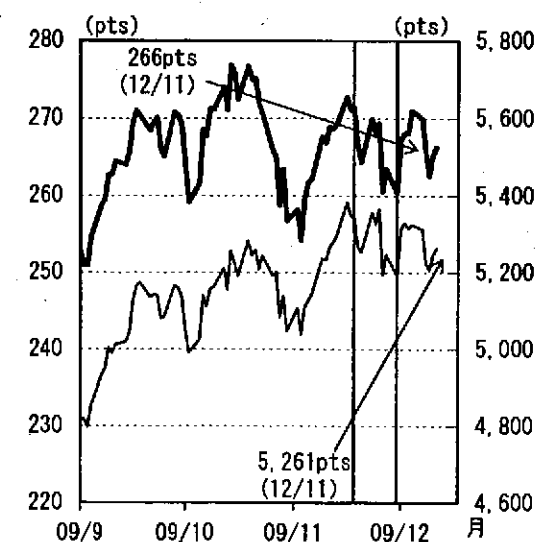
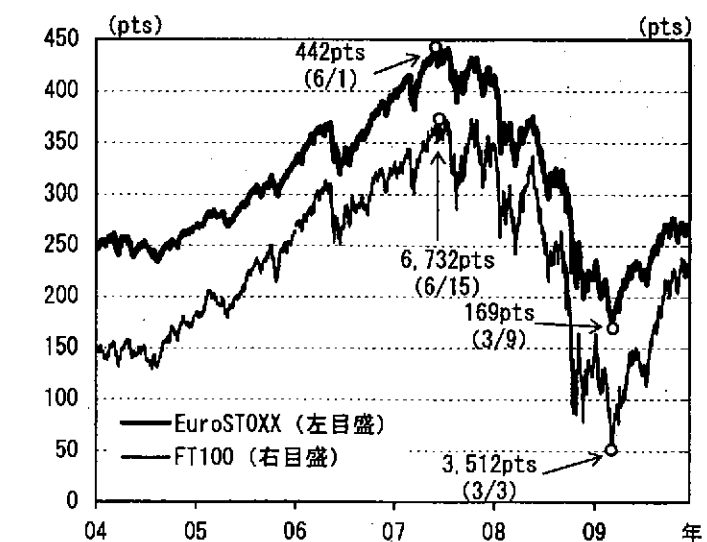
(1) 国内株価の推移



(2) 米国株価の推移



(3) 欧州株価の推移



(注) 直近は、TOPIX、日経平均は12/14日、その他は12/11日。

(出所) Bloomberg、QUICK

(図表11)

主体別売買動向

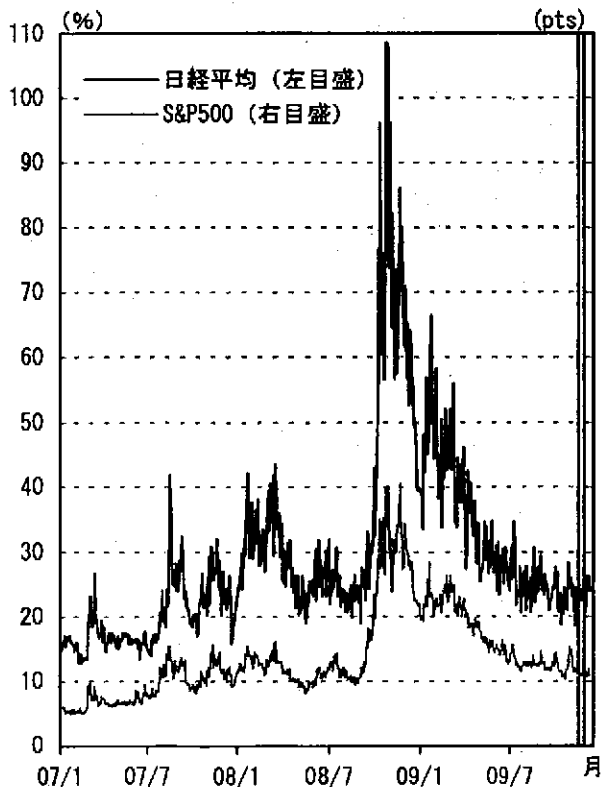
(▲は売り越し、億円)

	個人		事業法人	投信	金融機関			外国人
		うち 信用				うち 信託	うち 生・損保	
06年	▲43,811	18,380	20,190	17,073	▲40,369	▲33,176	▲1,499	55,288
07年	▲32,288	14,152	15,555	▲5,448	▲17,953	▲16,834	678	54,234
08年	9,820	▲897	16,321	3,013	39,434	45,026	▲3,289	▲37,085
09/1 ~ 3月	3,514	117	1,163	1,616	25,800	25,473	▲65	▲25,378
4 ~ 6月	2,884	5,711	▲313	▲1,756	▲6,132	▲2,654	▲1,209	7,886
7 ~ 9月	▲2,730	2,569	▲717	▲1,113	▲10,734	▲7,138	▲2,343	14,671
09/9月	4,940	2,383	280	▲660	▲5,587	▲4,416	▲759	▲1,241
10月	▲977	610	▲286	480	▲3,365	▲2,853	▲170	7,302
11月	398	413	67	1,159	2,194	2,077	167	272
09/11/2 ~ 11/6	823	360	▲8	142	32	6	10	292
11/9 ~ 11/13	▲445	▲100	▲46	499	▲79	120	▲147	829
11/16 ~ 11/20	100	66	99	40	1,102	1,071	42	▲983
11/24 ~ 11/27	▲80	87	22	476	1,138	879	262	134
11/30 ~ 12/4	▲4,952	▲1,856	▲484	72	0	415	▲31	6,081

(注) 三市場(東京・大阪・名古屋)合計。金融機関は、都銀・地銀等、その他金融、信託、生・損保。

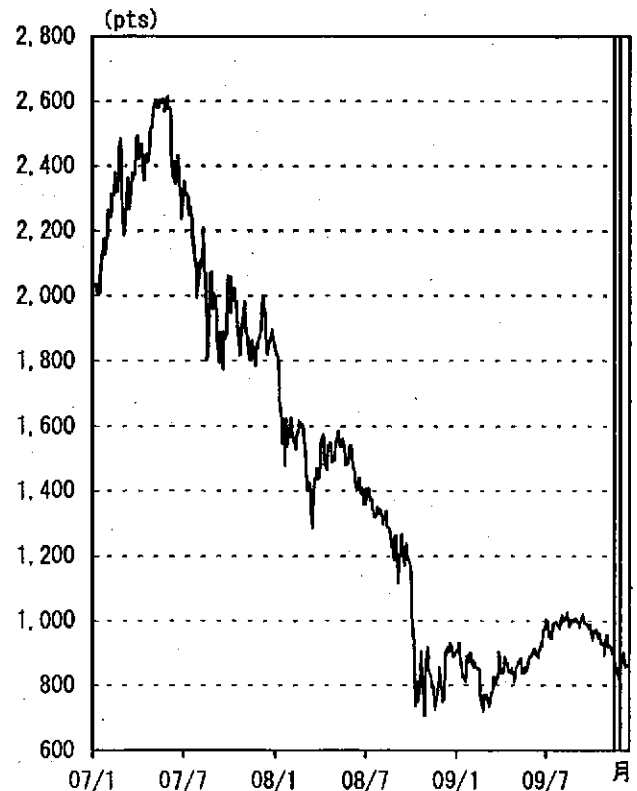
(出所) 東京証券取引所

ボラティリティの推移

(注) 日経平均はインプライド・ボラティリティ。
S&P500はVIX指数。直近は12/11日。

(出所) Bloomberg

東証REIT指数の推移



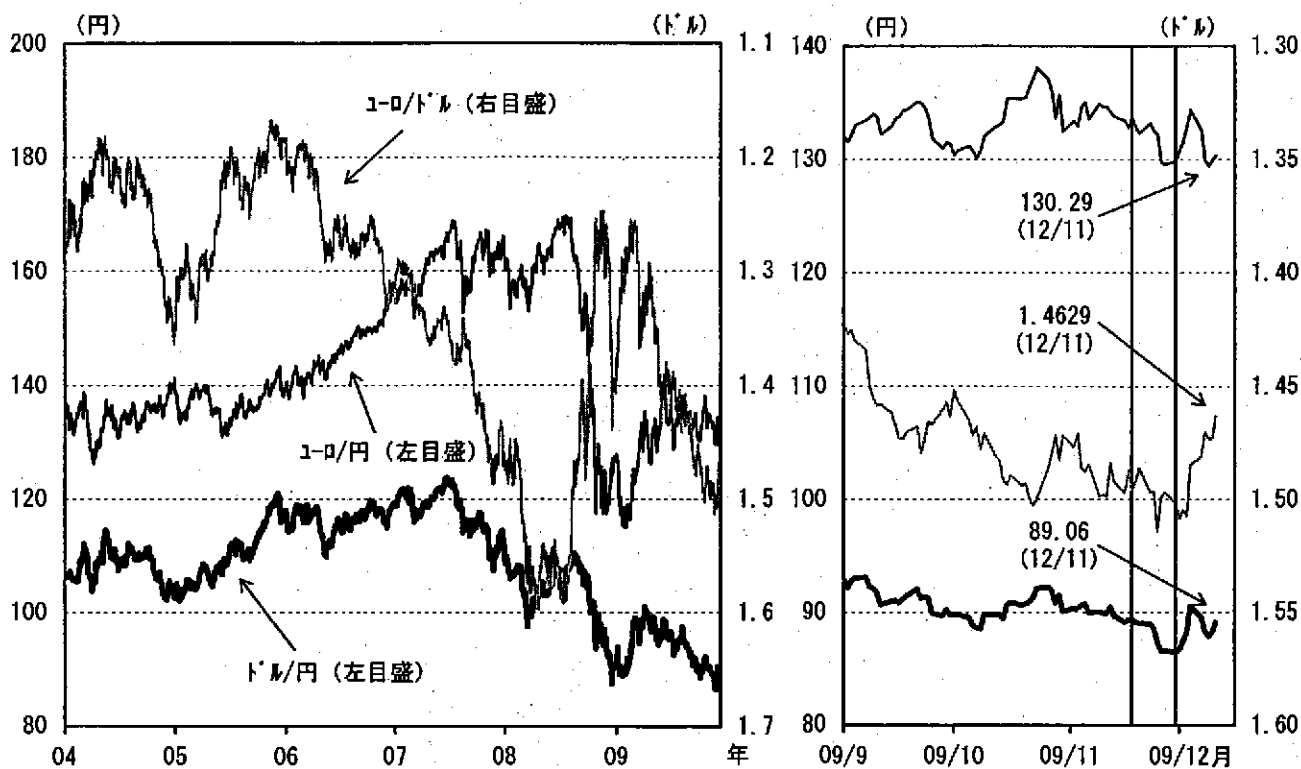
(注) 直近は12/14日。

(出所) Bloomberg

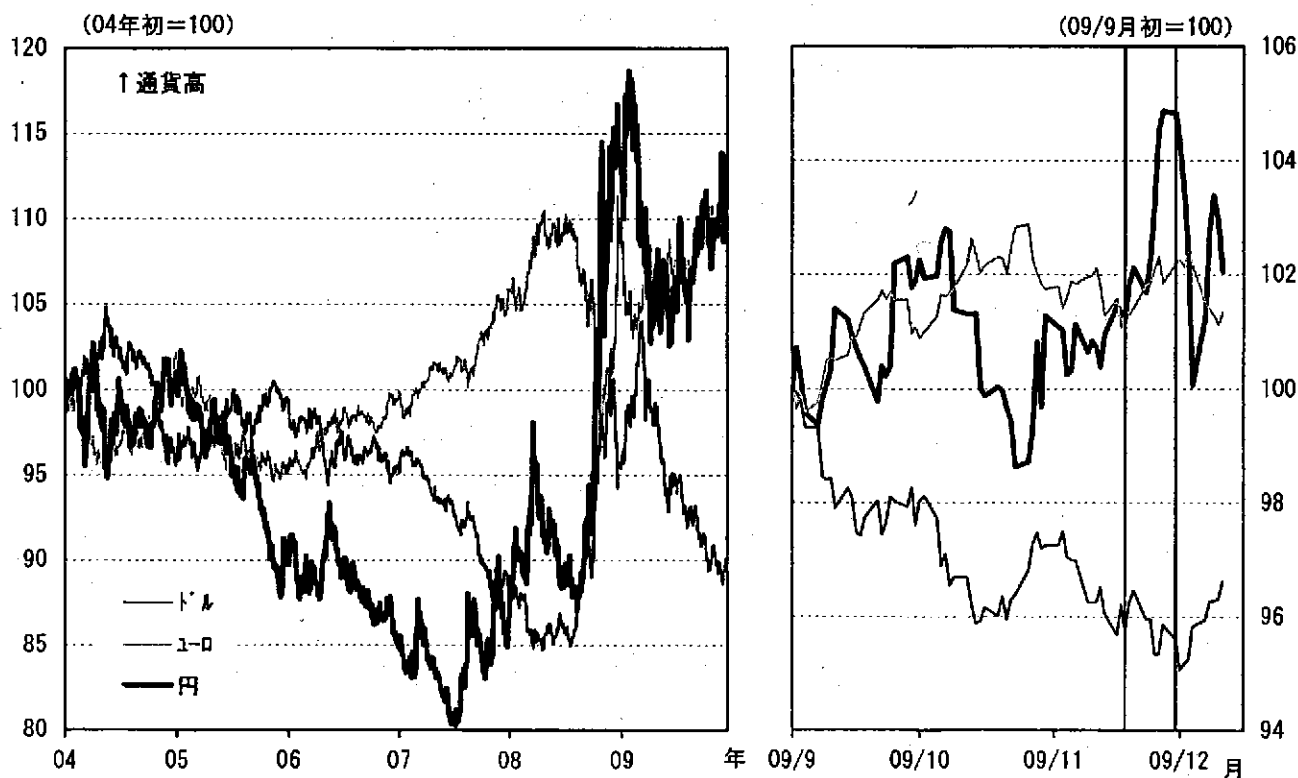
(図表12)

主要為替相場の推移

(1) ドル/円、ユーロ/円、ユーロ/ドル相場の推移



(2) 名目実効為替レートの推移



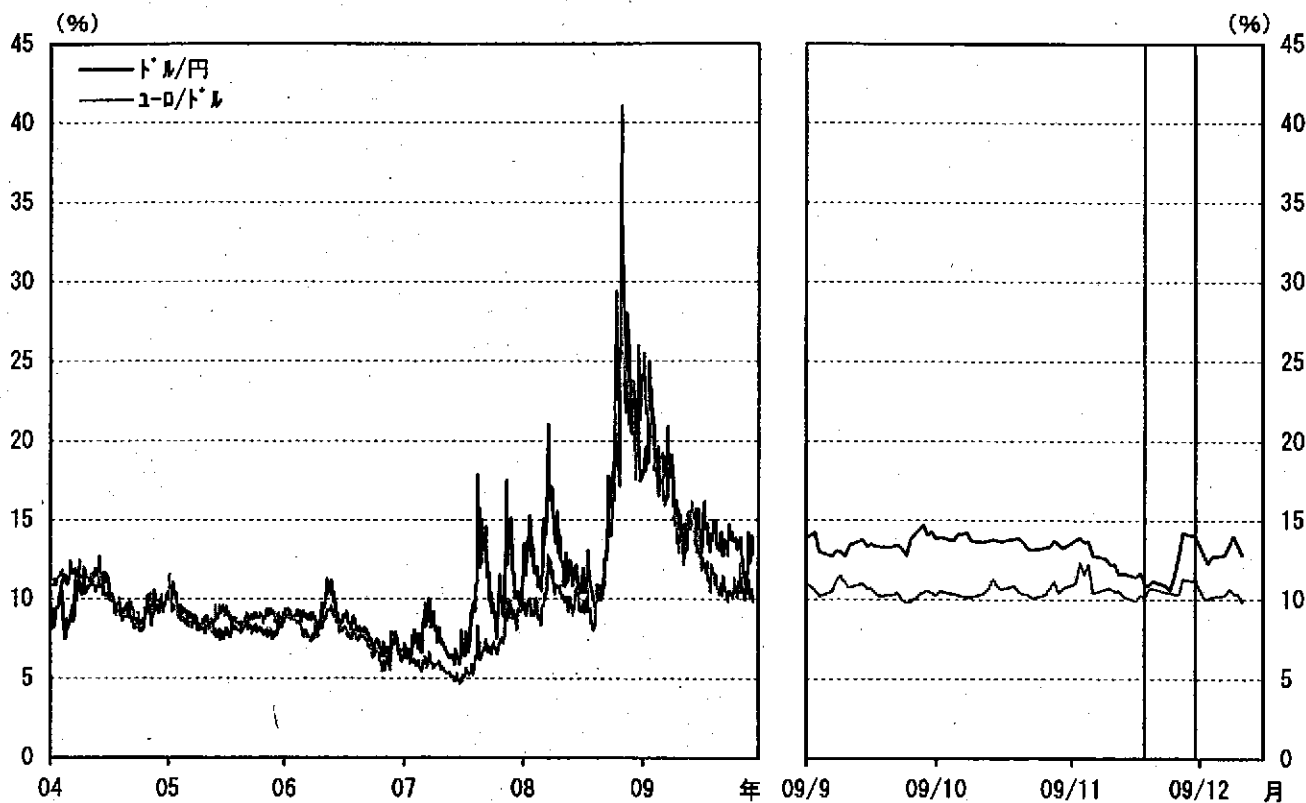
(注) 1. (1)は原則NY市場16時時点。

2. 直近は12/11日。

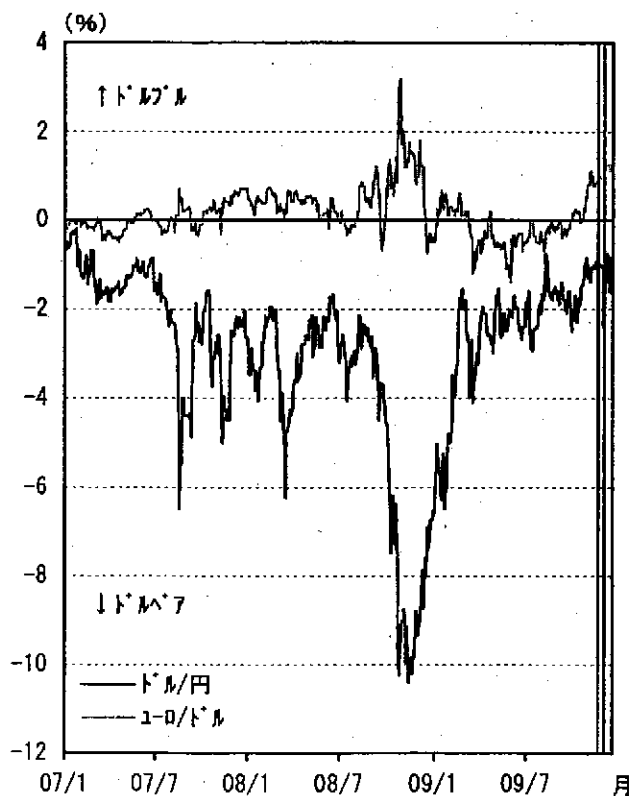
(出所) JPモルガン、トムソン・ロイター、ECB、日本銀行

通貨オプション、先物市場の動向

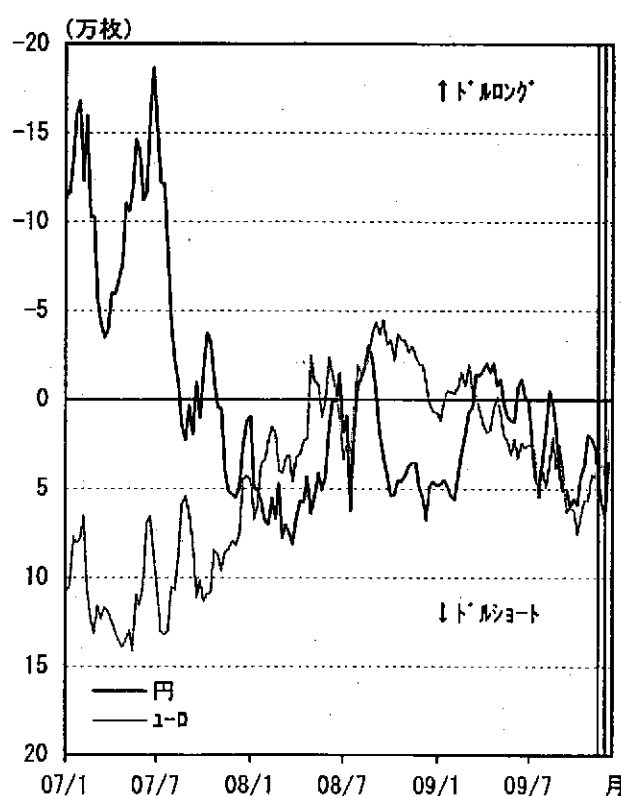
(1) インプライド・ボラティリティ (1か月) の推移



(2) リスクリバーサル (1か月) の推移



(3) IMMネットポジションの推移



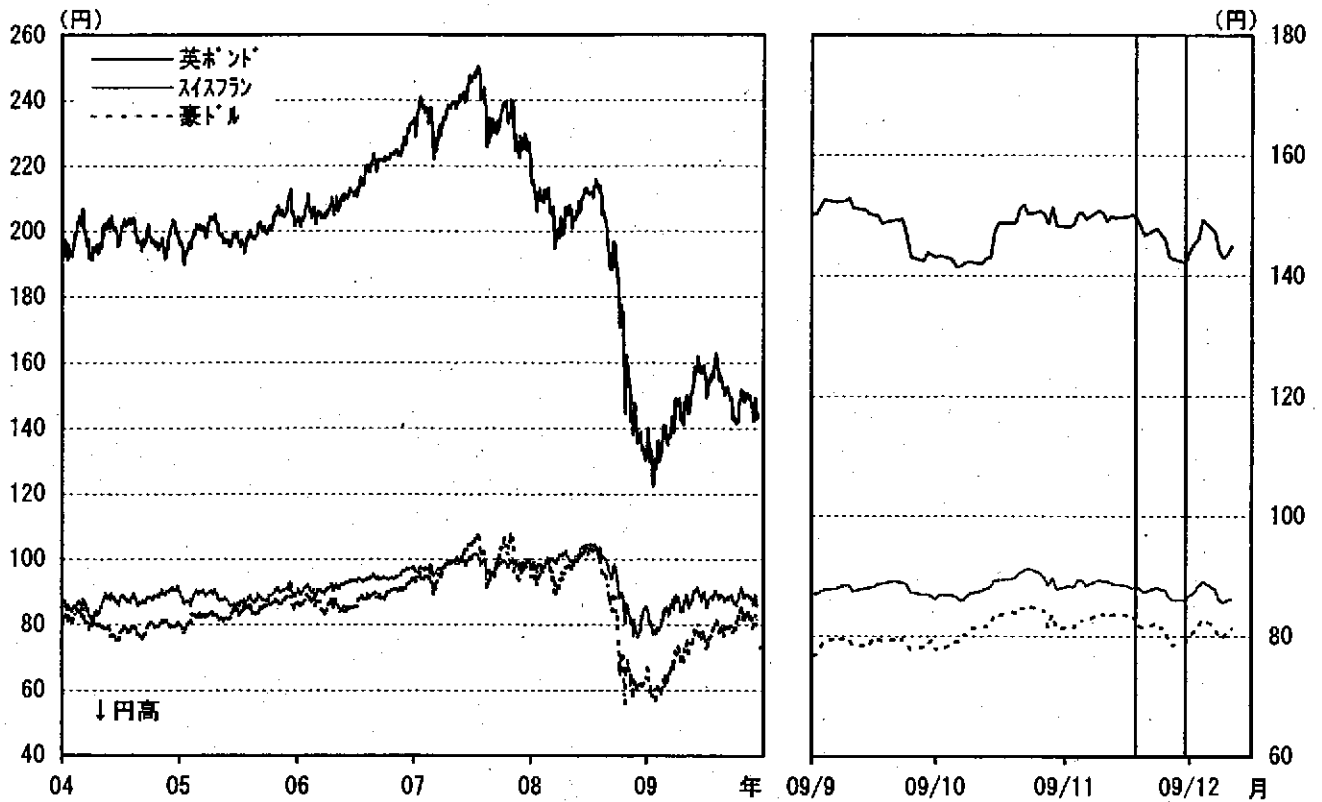
(注) 1. (3)は通貨先物取引における非商業目的および目的別計数非報告分のネット建玉の合計。

2. 直近は、(1) (2)は12/11日、(3)は12/8日。

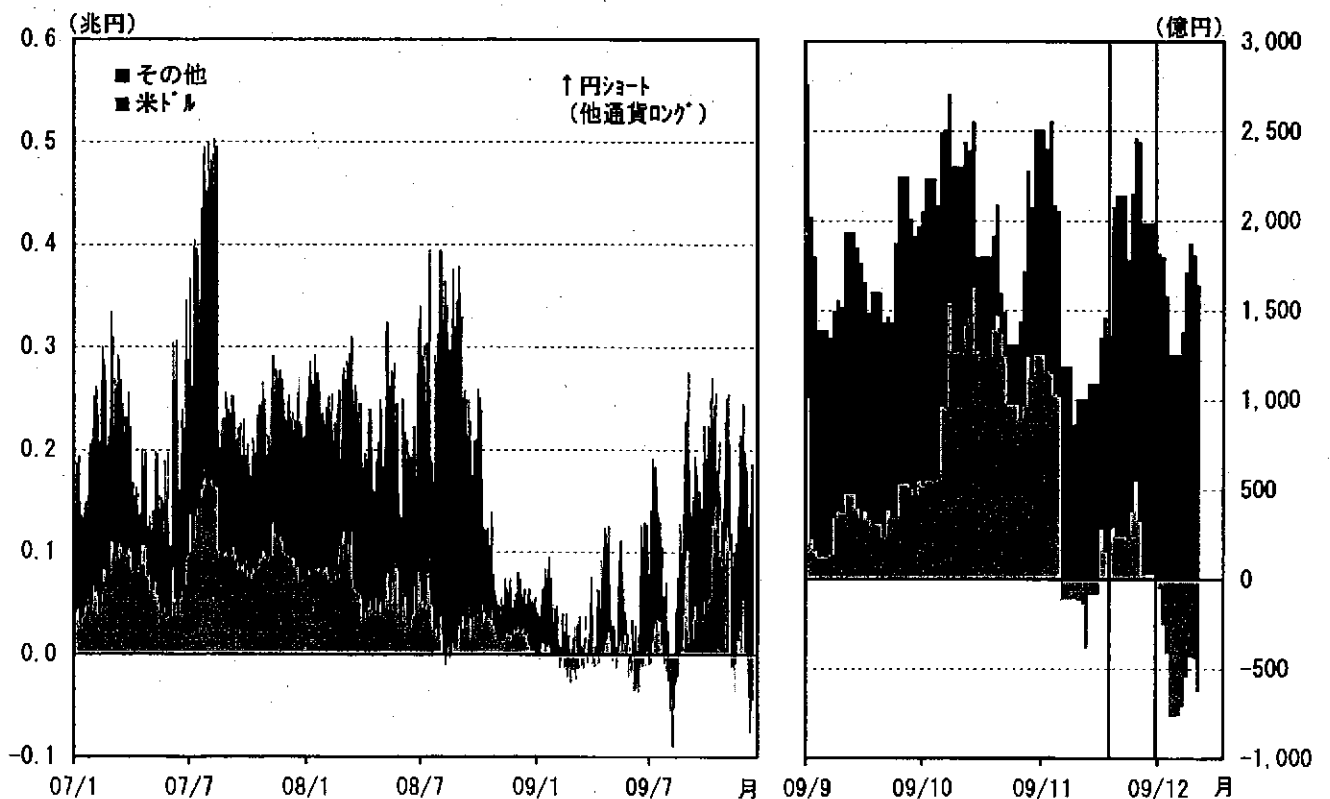
(出所) Bloomberg

クロス円取引の動向

(1) クロス円相場の推移



(2) 外為証拠金取引の動向



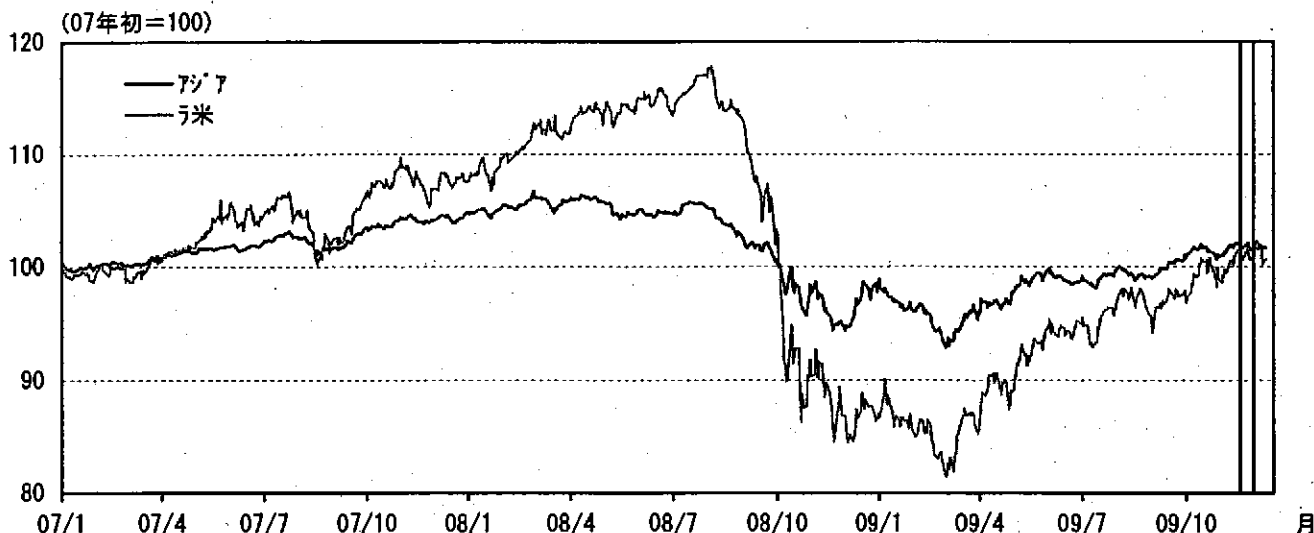
(注) 1. (2)は、円に対する他通貨のネットロングポジション（マーケット・メーカーを除く）。

2. 直近は12/11日。

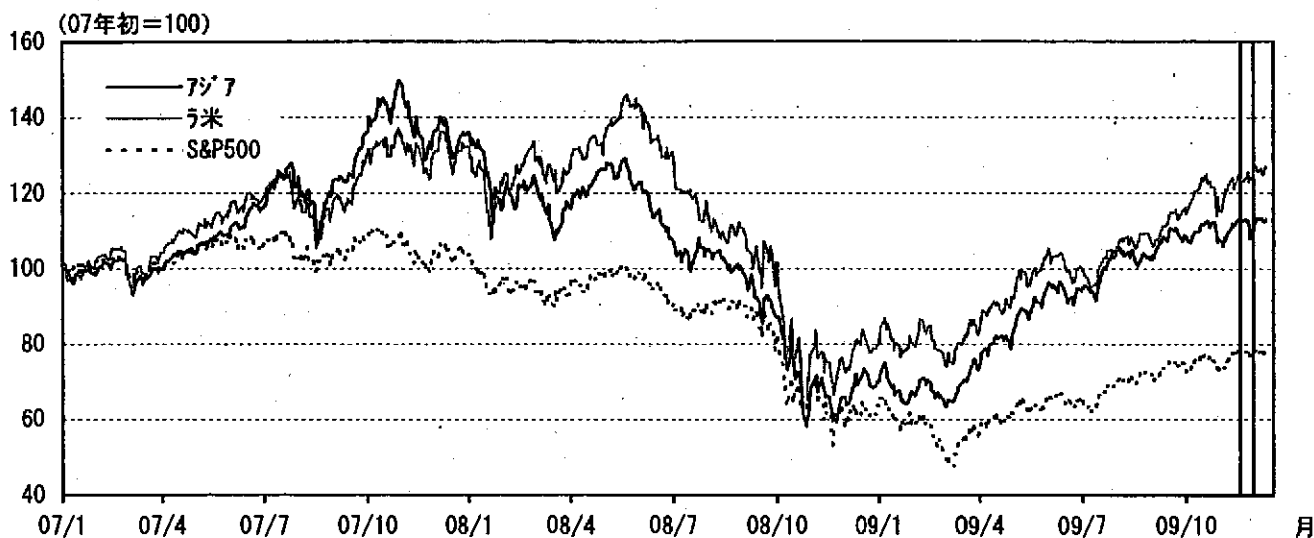
(出所) Bloomberg、東京金融取引所

エマージング、コモディティ市場の動向

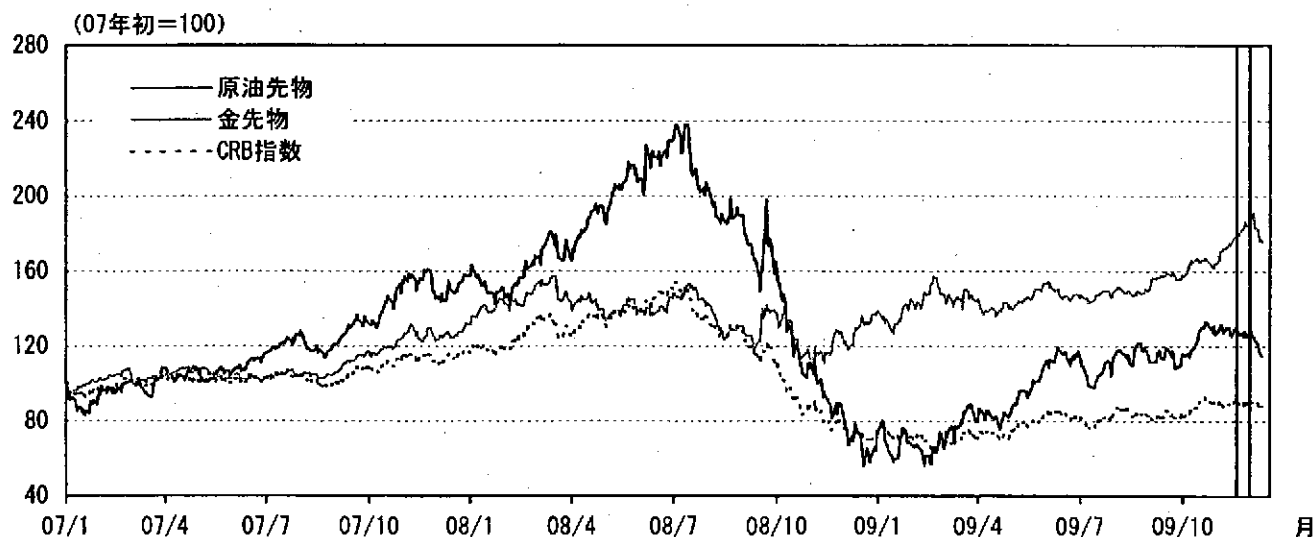
(1) エマージング通貨指数の推移



(2) MSCIエマージング株価指数の推移



(3) コモディティ価格の推移



(注) 1. (1)は対ドル指数。(2)は現地通貨建て。(3)のコモディティ先物はNYMEX期近物。
2. 直近は12/11日。

(出所) Bloomberg

議事録公表時まで対外非公表

<不開示情報：有（種類：審議・検討）>
 <配付先：金融政策決定会合関係者限り>
 <作成局における保管期間満了時期：2039年12月>

2009.12.17

金融市場局

1. 「金融調節の運営実績」参考計表【追加】 <資料-1関連>

- (図表1-1) 金融調節の実績の推移
- (図表1-2) 日銀当座預金の保有状況
- (図表1-3) 09/7月積み期以降の当座預金残高
09/7月積み期以降の短期金利
- (図表1-4) 無担コール市場残高
- (図表1-5) 無担コール市場残高（0/N、T/N、S/N計）
- (図表1-6) 最近のオペ結果の推移
- (図表1-7) 資金需給の推移
- (図表1-8) 本行受入担保残高の推移
- (図表1-9) 共通担保使用状況
担保適格 ABCP 等・信用判定の状況

2. 「最近の金融・為替市場の動向」参考計表【追加】 <資料-2関連>

- (図表2-1) 短期金利の推移
- (図表2-2) ターム物レートの推移（1）
- (図表2-3) ターム物レートの推移（2）
- (図表2-4) ターム物レートの推移（3）
- (図表2-5) フォワードレートの動向
- (図表2-6) 長期金利の推移
- (図表2-7) イールド・カーブの動向
市場参加者が注目する債券利回り変動要因
- (図表2-8) インプライド・ボラティリティの推移
長国先物の値幅・出来高比率の推移
- (図表2-9) 社債流通利回りの対国債スプレッドの推移
- (図表2-10) CDS プレミアムの推移
- (図表2-11) 株式相場の推移
- (図表2-12) 主体別売買動向等
- (図表2-13) 主要為替相場の推移
- (図表2-14) 通貨オプション、先物市場の動向
- (図表2-15) クロス円取引の動向
- (図表2-16) エマージング、コモディティ市場の動向

(注) 図表中の縦線は、特に断りのない限り11月会合・臨時会合の前営業日（11/18・11/30日）を表す。

(図表1-1)

金融調節の実績の推移

(億円、%)

	無担 コール レート (O/N) 加重 平均値	日銀当座預金残高(実績値)						補充 貸付 残高	<参考> 日銀当座預金残高見込み		
		日銀当座預金残高(実績値)	準備預金残高(含むゆうちょ銀行)			非準備預 金残高	朝方 即日オペ前		9:20 定例調節後	全即日オペ 実施後	
			準備預金残高(除くゆうちょ銀行)	超過 準備	残り所要額 (1日平均)						
11月16日(月)	0.106	122,700	114,600		21,800	50,000	8,100	48.0	122,000	-	-
11月17日(火)	0.108	117,900	106,300		28,300	49,700	11,600	49.0	118,000	-	-
11月18日(水)	0.107	114,900	103,900		31,800	49,500	11,000	50.0	115,000	-	-
11月19日(木)	0.108	115,000	105,700		34,700	49,300	9,300	49.0	115,000	-	-
11月20日(金)	0.109	117,100	107,200		29,800	48,200	9,900	48.0	118,000	-	-
11月24日(火)	0.109	126,900	115,700		31,400	48,000	11,200	48.0	128,000	-	-
11月25日(水)	0.106	133,600	122,800		31,800	47,700	10,800	42.0	134,000	-	-
11月26日(木)	0.103	131,200	121,200		32,600	47,400	10,000	45.0	131,000	-	-
11月27日(金)	0.107	140,200	122,900		31,100	45,600	17,300	45.0	140,000	-	-
11月30日(月)	0.113	130,100	119,700		33,500	44,600	10,400	48.0	130,000	-	-
12月1日(火)	0.104	120,800	107,300		31,000	44,000	13,500	48.0	120,000	-	-
12月2日(水)	0.101	119,100	105,800		34,100	43,600	13,300	48.0	110,000	120,000	-
12月3日(木)	0.105	117,500	105,500		38,800	43,500	12,000	49.0	118,000	-	-
12月4日(金)	0.102	125,700	111,100		39,900	41,600	14,600	48.0	126,000	-	-
12月7日(月)	0.107	125,100	108,500		41,800	41,700	16,600	98.0	126,000	-	-
12月8日(火)	0.107	125,400	108,500		43,000	41,200	16,900	368.0	125,000	-	-
12月9日(水)	0.105	127,200	113,100		45,500	39,900	14,100	57.0	127,000	-	-
12月10日(木)	0.100	125,300	110,700		45,800	37,600	14,600	48.0	125,000	-	-
12月11日(金)	0.091	123,000	105,600		52,900	31,300	17,400	48.0	123,000	-	-
12月14日(月)	0.092	133,800	117,400		67,900	23,300	16,400	59.0	134,000	-	-
12月15日(火)	0.098	156,100	129,800		73,600	-	26,300	59.0	156,000	-	-
12月16日(水)	0.113	144,200	123,700		22,100	50,000	20,500	49.0	144,000	-	-

(注1)準備預金残高(除くゆうちょ銀行)は、対外非公表。

(注2)12月16日分は、5時間同時処理終了時点。

日銀当座預金の保有状況

対外非公表

(単位:億円)

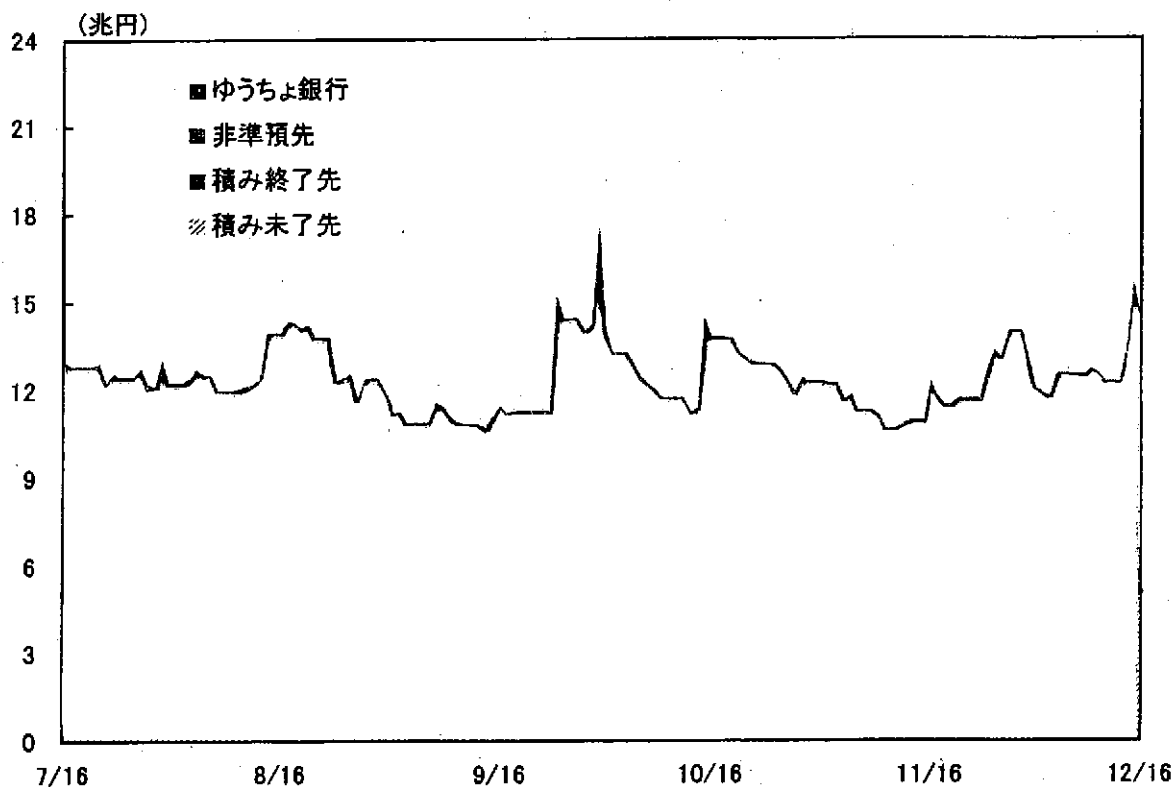
	9月積み期	10月積み期	11月積み期	12月積み期	12/16日	12月積み期 所要準備額
準預先	115,272	111,044	112,132	123,714	123,714	<72,139>
除くゆうちょ銀行						< >
都銀	31,071	31,910	31,599	29,115	29,115	<30,678>
地銀	16,146	15,828	16,083	18,764	18,764	<11,867>
地銀Ⅱ	4,004	3,502	3,418	3,961	3,961	<1,525>
外銀	26,411	22,576	22,010	22,107	22,107	<262>
ゆうちょ銀行						< >
非準預先	12,054	10,591	13,784	20,515	20,515	
短資	6,192	4,506	5,288	1,882	1,882	
一部系統	225	251	980	10,586	10,586	
政府系	520	351	407	519	519	
証券会社等	5,117	5,483	7,109	7,528	7,528	
当預残高	127,325	121,635	125,916	144,229	144,229	

(注1)「証券会社」は、金融商品取引法上の有価証券関連業を行う第一種金融商品取引業者。

(注2)12月積み期は、12/16日の5時同時処理終了時点の計数。

09/7月積み期以降の当座預金残高

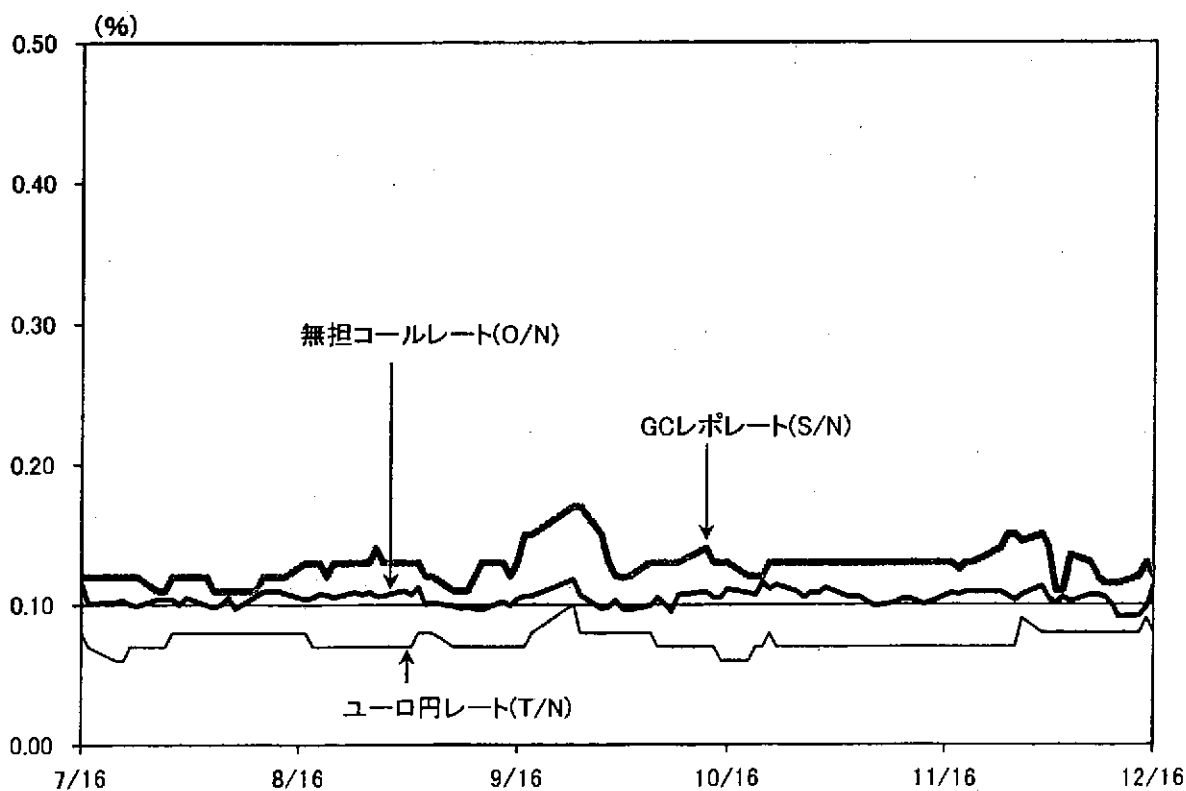
対外非公表



(注) 積み終了先、積み未了先及び一日当たり残り所要(前日終了時点)には、ゆうちょ銀行の計数を含まない。

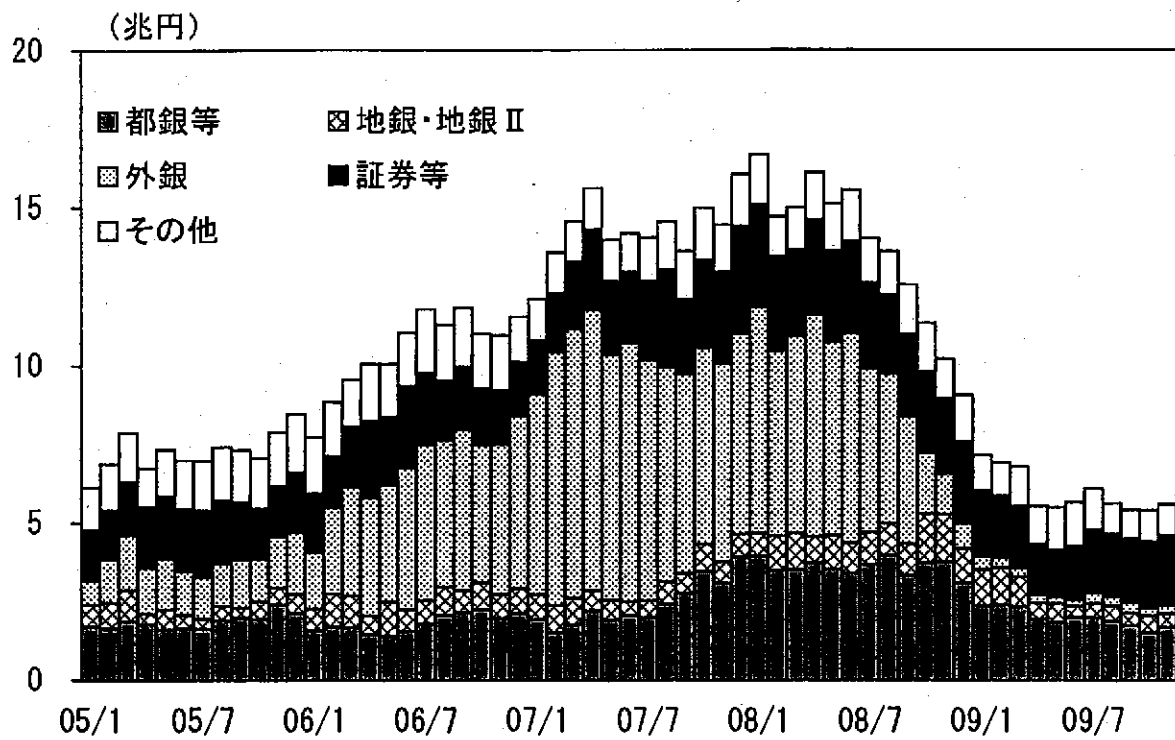
09/7月積み期以降の短期金利

対外非公表

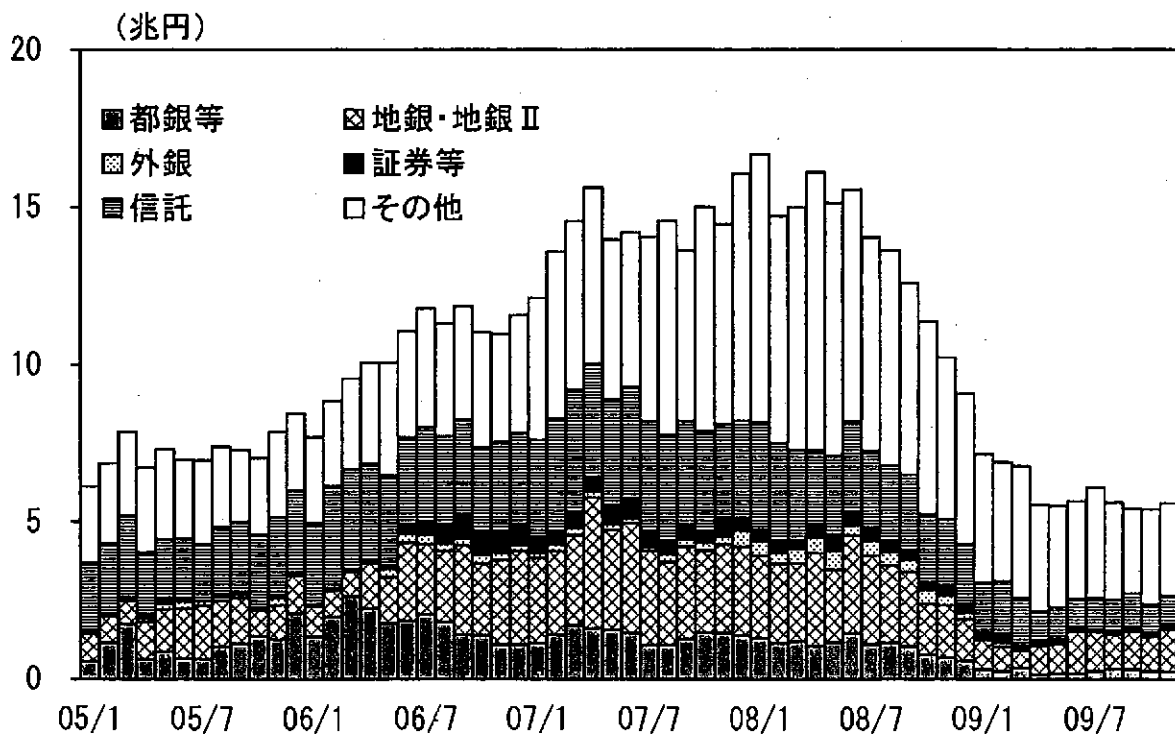


無担コール市場残高

<取り手別>



<出し手別>



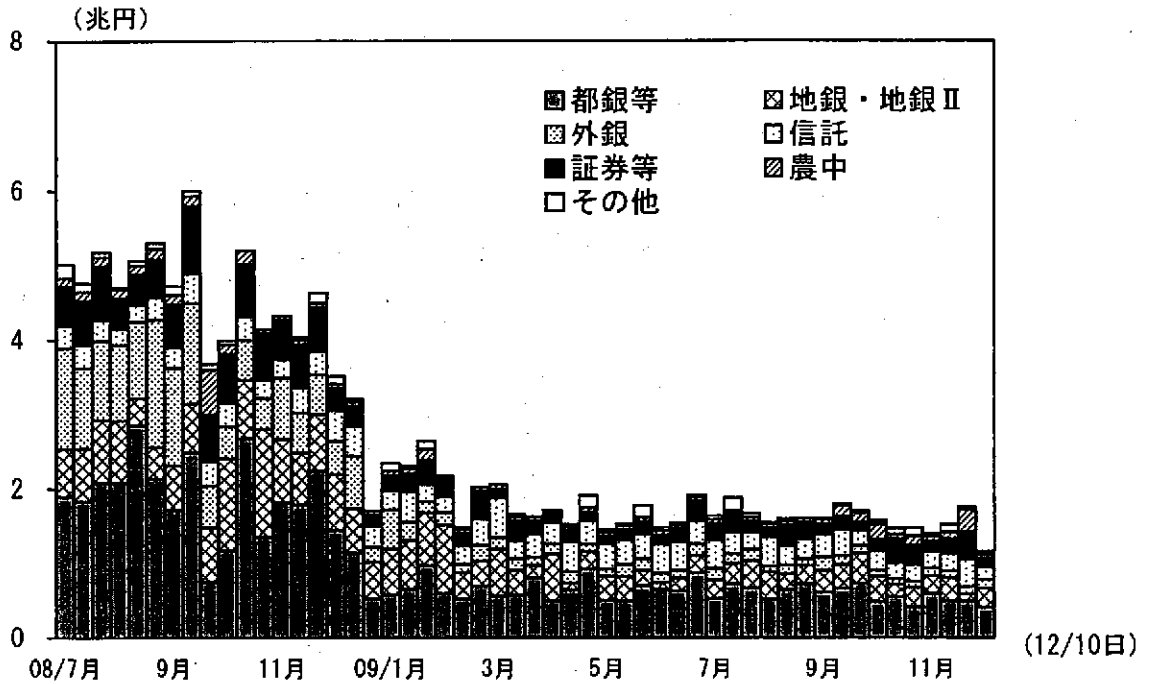
(注1) 月中平残。

(注2) 無担コール市場残高における「都銀等」は都銀、新生銀行、あおぞら銀行。「証券等」は金融商品取引業者(他の区分に属するものを除く)および証券金融会社。

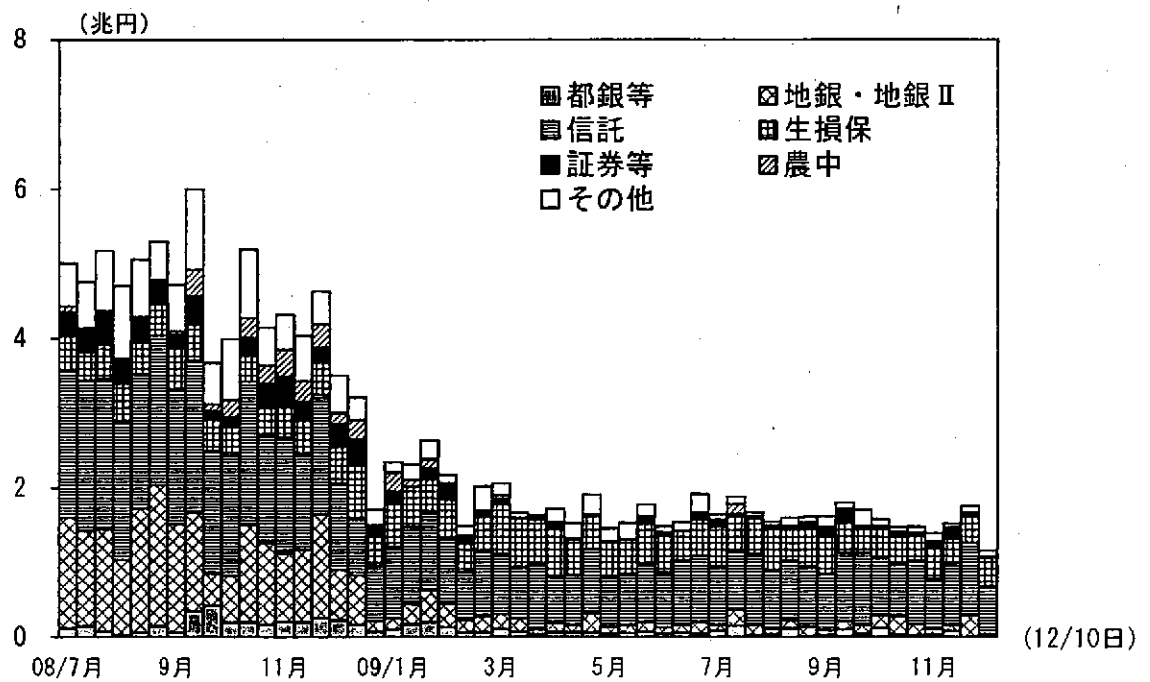
無担コール市場残高 (O/N、T/N、S/N計)

<取り手別>

対外非公表



<出し手別>



(注) 各旬末残高。

最近のオペ結果の推移(1)

(資金供給オペ)						(億円、%)				
オペ手続	直近残高	オファー日	スタート	期間	オファー額	応札倍率	平均落札レート	落札決定レート		
共通担保・金利入札 (全店)	126,258	11/20	T+1	2W	8,000	3.21	0.133	0.13		
		11/20	T+2	3M	8,000	4.44	0.136	0.13		
		11/27	T+2	3M	8,000	3.79	0.137	0.13		
		11/30	T+2	3M	8,000	3.72	0.134	0.13		
		12/2	即日	1D	10,000	0.94	0.101	0.10		
		12/3	T+18	5D	10,000	2.86	0.109	0.10		
		12/4	T+1	2W	8,000	3.48	0.130	0.13		
		12/4	T+2	3M	8,000	4.14	0.111	0.11		
		12/10	T+1	1W	10,000	2.28	0.114	0.11		
		12/11	T+2	4M	10,000	3.02	0.109	0.10		
		12/16	T+1	5D	8,000	2.43	0.119	0.11		
		共通担保・金利入札 (本店)	124,169	11/19	T+1	2W	12,000	2.01	0.130	0.13
				11/19	T+2	3M	8,000	4.03	0.137	0.13
11/24	T+1			2W	12,000	3.31	0.133	0.13		
11/24	T+2			3M	8,000	3.69	0.135	0.13		
11/25	T+5			1W	10,000	3.45	0.132	0.13		
11/26	T+1			2W	10,000	3.14	0.134	0.13		
11/26	T+4			2W	10,000	3.26	0.132	0.13		
11/27	T+1			1W	4,000	3.33	0.145	0.14		
11/30	T+1			2W	4,000	3.26	0.140	0.14		
11/30	T+2			3M	8,000	3.49	0.130	0.13		
12/1	T+1			2W	10,000	0.33	0.100	0.10		
12/1	T+1			3W	8,000	0.26	0.100	0.10		
12/2	T+1			2W	10,000	1.90	0.103	0.10		
12/2	T+1			3W	8,000	2.35	0.102	0.10		
12/3	T+2			2M	8,000	3.66	0.104	0.10		
12/4	T+1			2W	6,000	4.92	0.128	0.12		
12/7	T+1			1W	8,000	3.41	0.128	0.12		
12/8	T+2			2M	8,000	3.17	0.111	0.11		
12/9	T+1			1W	6,000	3.75	0.111	0.11		
12/10	T+1			1W	8,000	2.69	0.111	0.11		
12/11	T+1			1W	8,000	2.05	0.108	0.10		
12/11	T+1			2W	10,000	2.43	0.110	0.11		
12/15	T+1			1W	10,000	4.36	0.120	0.12		
12/15	T+2	2M	8,000	3.60	0.110	0.11				
共通担保・固定金利 (全店)	8,023	12/10	T+2	3M	8,000	8.19	0.100	0.10		
CP等買現先	27,700	12/16	T+2	3M	8,000	8.47	0.100	0.10		
国債買現先	48,233	11/19	T+2	1M	4,000	1.11	0.100	0.10		
		11/24	T+2	1M	4,000	1.23	0.102	0.10		
		11/26	T+2	2W	4,000	1.62	0.110	0.11		
		12/1	T+2	2W	4,000	1.27	0.107	0.10		
		12/3	T+2	1M	4,000	1.69	0.100	0.10		
		12/8	T+2	1M	4,000	1.91	0.108	0.10		
		12/10	T+2	2W	4,000	1.66	0.108	0.10		
		12/15	T+2	2W	4,000	1.37	0.104	0.10		
		11/19	T+2	1D	6,000	3.21	0.130	0.13		
		11/19	T+2	1W	6,000	3.00	0.132	0.13		
		11/20	T+2	1D	6,000	2.79	0.130	0.13		
		11/20	T+2	1W	6,000	3.47	0.132	0.13		
		11/24	T+2	1D	8,000	3.44	0.136	0.13		
		11/24	T+2	1W	6,000	3.38	0.130	0.13		
		11/25	T+2	3D	8,000	3.61	0.140	0.14		
		11/25	T+2	1W	6,000	3.96	0.140	0.14		
		11/26	T+2	1D	8,000	3.83	0.150	0.15		
		11/26	T+2	1W	6,000	3.66	0.140	0.14		
		11/27	T+2	1D	8,000	3.23	0.141	0.14		
		11/27	T+2	1W	6,000	3.12	0.141	0.14		
		11/30	T+2	1D	8,000	3.64	0.150	0.15		
		11/30	T+2	1W	6,000	3.16	0.142	0.14		
		12/1	T+2	1D	8,000	3.00	0.140	0.14		
		12/1	T+2	1W	6,000	3.22	0.140	0.14		
		12/2	T+2	3D	25,000	1.48	0.105	0.10		
		12/2	T+2	1W	6,000	2.43	0.103	0.10		
		12/3	T+2	1D	20,000	2.45	0.101	0.10		
		12/3	T+2	1W	6,000	3.73	0.101	0.10		
		12/4	T+2	1D	20,000	3.16	0.114	0.11		
		12/4	T+2	1W	6,000	3.88	0.112	0.11		
		12/7	T+2	1D	30,000	2.46	0.128	0.12		
		12/7	T+2	1W	6,000	3.80	0.122	0.12		
		12/8	T+2	1D	30,000	2.01	0.118	0.11		
		12/8	T+2	1W	6,000	3.71	0.122	0.12		
		12/9	T+2	3D	25,000	2.18	0.111	0.11		
		12/9	T+2	1W	6,000	3.05	0.119	0.11		
		12/10	T+2	1D	25,000	2.46	0.112	0.11		
		12/10	T+2	1W	6,000	4.81	0.122	0.12		
		12/11	T+2	1D	25,000	1.87	0.111	0.11		
		12/11	T+2	1W	6,000	3.86	0.120	0.11		
12/14	T+2	1D	18,000	3.33	0.111	0.11				
12/14	T+2	1W	6,000	3.59	0.113	0.11				
12/15	T+2	1D	20,000	3.06	0.121	0.12				
12/15	T+2	1W	6,000	3.46	0.119	0.11				
12/16	T+2	3D	25,000	2.07	0.120	0.12				
12/16	T+2	1W	6,000	3.97	0.120	0.12				

(注1) オペ直近残高は2009/12/16日現在(実行日ベース)。

(注2) 国債買現先オペによる買入国債・受入担保国債のうち、変動利付債は5,441億円、物価連動債は1,364億円、30年債は51億円(2009/12/16日現在<実行日ベース>、対外非公表)。

(注3) 共通担保・固定金利の平均落札レート及び落札決定レートは、貸付利率(固定金利)。

(注4) シャドローは即日スタート分。

最近のオペ結果の推移(2)

オペ手段	直近残高	オファー日	スタート	期間	オファー額	平均落札レート		落札決定レート
						応札倍率	レートの差	
国庫短期証券買入	98,321	11/20	T+3	-	4,000	5.04	0.001	0.000
		11/27	T+3	-	4,000	3.51	-0.002	-0.003
		12/4	T+3	-	4,000	4.74	0.003	0.003
		12/11	T+3	-	4,000	4.36	0.008	0.005
CP等買入	0	11/20	T+3	-	3,000	0.00	-	-
		11/27	T+3	-	3,000	0.00	-	-
		12/4	T+3	-	3,000	0.00	-	-
		12/11	T+3	-	3,000	0.00	-	-
社債買入	2,284	12/7	T+4	-	1,500	0.02	0.000	0.000
国債買入	-	11/24	T+3	-	2,500	3.22	0.006	0.004
		11/24	T+3	-	400	2.90	-0.215	-0.180
		12/3	T+3	-	3,100	2.69	0.065	0.019
		12/3	T+3	-	2,500	3.76	0.006	0.005
		12/7	T+3	-	2,500	4.59	0.011	0.008
		12/7	T+3	-	1,000	1.84	0.015	0.010
		12/16	T+3	-	3,100	2.13	0.004	0.003
12/16	T+3	-	2,500	2.76	0.003	0.000		

オペ手段	直近残高	オファー日	スタート日 (米国東部時間)	期間	落札額	貸出利率 (固定金利)	
						応札倍率	レートの差
米ドル資金供給	245	12/1	12/3	42D	0	-	1.150
		12/15	12/17	28D	545	-	1.160

オペ手段	直近残高	オファー日	スタート日	期間	落札額	当初貸付利率	
						応札倍率	レートの差
企業金融支援特別	71,806	11/25	11/30	3M	3,109	-	0.100
		11/30	12/3	3M	5,471	-	0.100
		12/8	12/11	3M	8,227	-	0.100
		12/14	12/17	3M	8,659	-	0.100

- (注1) オペ直近残高は2009/12/16日現在(実行日ベース)。
(注2) 国庫短期証券買入・CP等買入・社債買入・国債買入の平均落札レート及び落札決定レートは、利回り較差(変動利付債・物価連動債については、価格較差)。
(注3) 国庫短期証券買入の直近残高は、繰上償還等を控除していない。

(図表 1-7)

資金需給の推移

(単位：兆円)

	資金需給 (国庫短期証券調整済)			金融調節 (国庫短期証券調整済)	当預残高 (末残)
		銀行券	財政等 (国庫短期証券調整済)		
09/6月	+8.1	▲0.3	+8.5	▲5.8	15.7
7月	▲9.8	+0.3	▲10.2	+6.3	12.3
8月	▲5.1	+0.2	▲5.4	+4.8	11.9
9月	+2.5	+0.3	+2.2	+3.2	17.6
10月	+1.3	▲0.3	+1.7	▲6.6	12.3
11月	▲5.0	▲0.0	▲5.0	+5.7	13.0
12月	(-16日)	▲3.6	▲1.3	+5.0	14.4
	(17日-)	+3.3	▲3.6	+6.9	N.A.

(注1) ここでの資金需給は、各月の表面上の計数に、本行が買入れた国庫短期証券の償還額を加えたもので、実力ベースの資金需給。金融調節は、国庫短期証券の償還分も含めた計数で、短期オペ残高の増減に国債買入額を加えたものに一致する。

(注2) 12月(17日-)の資金需給は、現時点での予想。金融調節は、12/16日までにオフアーしたオペのスタート・期落ち分に国債買入(0.4兆円)を加えたもの。

(注3) 四捨五入の関係で、資金需給の内訳と合計は必ずしも一致しない。

(*)は対外非公表

本行受入担保残高の推移

末残、単位：表内=兆円、括弧内=億円

担保種類	2009/6月	7月	8月	9月	10月	11月
総計	103.1	105.9	110.4	105.3	100.9	106.1
国債	65.6	70.6	74.1	67.9	64.8	69.5
利付国債等 ^(注1)	47.7	50.4	52.4	48.8	47.0	48.4 ^(注2)
変動利付国債(*)	11.7	11.9	11.4	10.3	10.0	10.1
物価連動国債(*)	2.1	2.1	1.9	2.1	1.8	2.0
国庫短期証券	17.8	20.1	21.7	19.0	17.8	21.1
社債等 ^(注3)	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
短期社債等 ^(注4)	3.3	3.3	3.2	3.0	2.7	2.8
その他債券 ^(注5)	5.9	6.0	5.8	5.8	5.7	5.9
手形 ^(注6)	1.3	1.3	1.4	0.9	1.3	1.1
証貸	25.3	23.0	24.1	25.9	24.7	25.0
企業向け等 ^(注7)	4.9	5.1	5.3	5.3	5.6	5.7
政府向け等 ^(注8)	20.4	17.9	18.8	20.6	19.1	19.2
うち民間債務分	11.1	11.4	11.5	10.9	11.3	11.3

ABS	421	424	426	427	428	431
ABCP ^(注9)	2,810	2,780	2,835	2,844	2,793	2,322
(うち特則分) (*)	(17)	(9)	(55)	(47)	(0)	(8)
社債特則分(*)	689	554	525	552	524	537
企業向け証貸特則分(*)	4,789	4,433	5,071	4,791	4,951	4,945
不動産投資法人債	41	46	40	40	46	40
不動産投資法人CP ^(注10)	0	0	0	0	0	0
不動産投資法人向け証貸	0	0	0	0	0	0
政府保証付短期債券	0	0	0	0	0	0
政府(特別会計含む)向け証貸	190,462	165,103	174,825	192,210	175,688	176,693
政府保証付証貸	14,153	14,257	13,479	13,977	15,313	15,441
地方公共団体向け証貸	0	116	177	162	277	352
外貨建外国債券	-	0	39	0	0	0

(参考) 現先オペでの買入残高

末残、単位：表内=兆円、括弧内=億円

オペ種類	2009/6月	7月	8月	9月	10月	11月
国債買現先オペでの国債買入残高	6.3	4.9	4.1	7.0	3.7	3.8
CP等買現先オペでのCP買入残高	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7

ABCP買入残高	4,650	5,621	4,839	4,394	4,928	4,290
(うち特則分) (*)	(3,949)	(4,893)	(4,152)	(3,772)	(4,227)	(3,515)
不動産投資法人CP買入残高	0	0	0	0	0	0
政府保証付短期債券買入残高	900	400	290	0	0	0

(注1) 利付国債、割引国債、承継国債および分離国債。

(注2) 分離国債は、182億円。(*)

(注3) 不動産投資法人債を含む。

(注4) 短期社債、保証付短期外債、資産担保短期債券、短期不動産投資法人債および政府保証付短期債券。

(注5) 外貨建外国債券を含む。

(注6) CPを含む。

(注7) 不動産投資法人向け証貸を含む。

(注8) 政府(特別会計含む)向け証貸、政府保証付証貸および地方公共団体向け証貸。

(注9) 資産担保短期債券を含む(以下同じ)。

(注10) 短期不動産投資法人債を含む(以下同じ)。

対外非公表

共通担保使用状況

単位：兆円

	2009/6月	7月	8月	9月	10月	11月
共通担保使用額合計 (注1)	27.3	31.5	34.0	31.2	26.3	30.5
うち 共通担保オペ使用額 (注1)	24.2	29.7	32.9	30.1	25.3	29.5
当座貸越残高 日中ピーク (注2)	5.2	5.3	5.6	5.8	6.2	5.7

(注1) 末残。企業金融支援特別オペを含む。

(注2) 平残 (ITC口を除く)。

(*)は対外非公表

担保適格ABC等・信用判定の状況

1. 担保適格ABC、J-REITの状況

	件数	発行枠	受入残高(注1)
担保適格ABC (特則分) (*)	14件	9兆5,500億円	3,523億円
担保適格ABC (本則分) (*)	6件	1兆1,025億円	3,089億円
市中ABC計 (注2)	39件	16兆2,533億円	—
担保適格J-REIT	10件 (*)	—	40億円

(注1) 「受入残高」は11月末時点 (共通担保受入額とCP等買現先オペでの買入残高の合計)。

(注2) 「市中ABC計」は2009年9月末の計数。

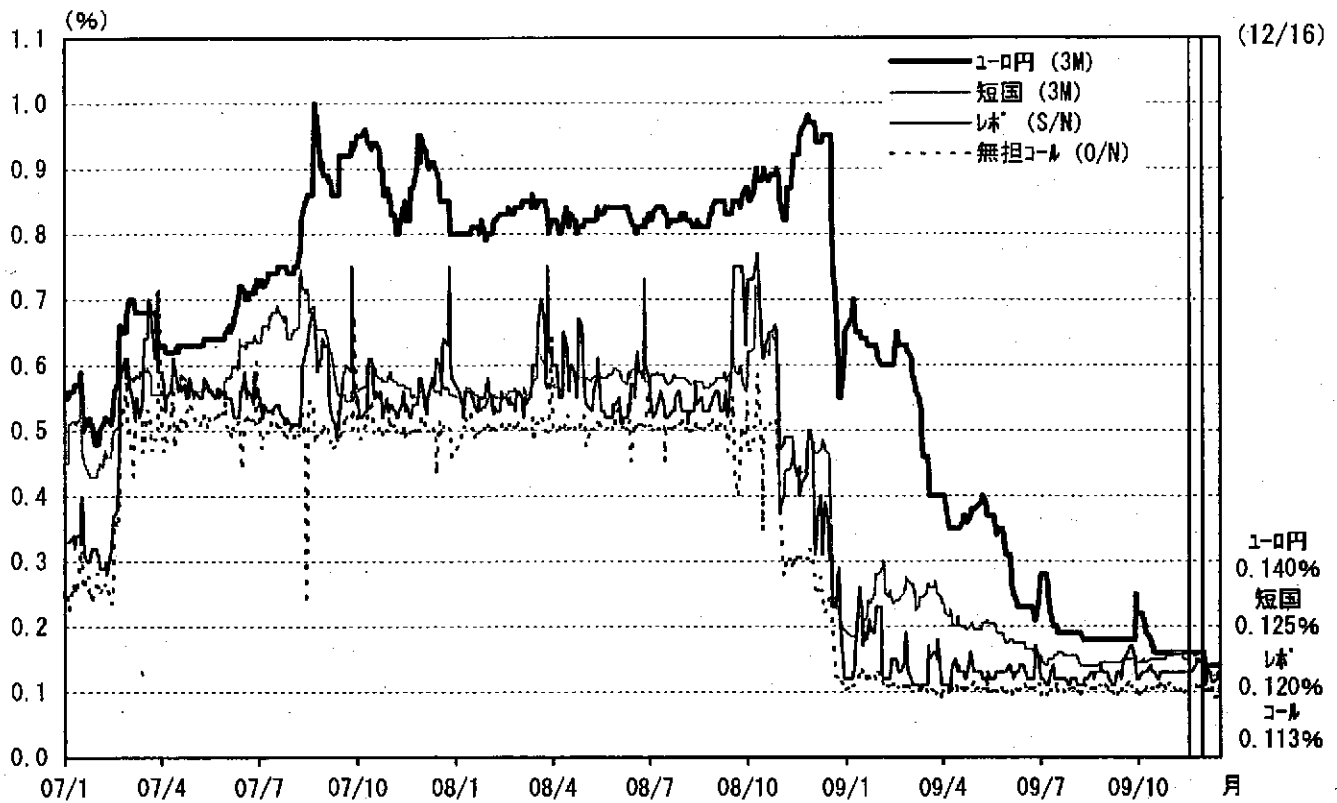
2. 信用判定の状況

	2009/6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月 (注)
新規適格化先数 (*)	0	3	0	0	0	1	0
取下げ・抹消先数 (*)	1	3	0	1	1	3	1
信用判定適格先数	369	369	369	368	367	365	364

(注) 12/14日時点。

短期金利の推移

(1) 短期金利の推移



(2) ターム物レート等の推移

	(%)								
	無担コール	レポ	TIBOR	ユーロ円			短国		
	O/N	S/N	3M	1M	3M	6M	3M	6M	1Y
09/11/18	0.107	0.125	0.524	0.120	0.160	0.240	0.155	0.175	0.185
11/19	0.109	0.130	0.524	0.120	0.160	0.240	0.155	0.175	0.185
11/20	0.109	0.130	0.524	0.120	0.160	0.240	0.155	0.170	0.185
11/24	0.109	0.140	0.524	0.120	0.160	0.240	0.155	0.170	0.185
11/25	0.106	0.150	0.524	0.120	0.160	0.240	0.155	0.170	0.180
11/26	0.103	0.150	0.524	0.120	0.160	0.240	0.155	0.165	0.175
11/27	0.107	0.145	0.521	0.140	0.160	0.240	0.155	0.165	0.170
11/30	0.113	0.150	0.517	0.140	0.160	0.240	0.155	0.165	0.170
12/1	0.104	0.140	0.514	0.140	0.160	0.240	0.125	0.135	0.140
12/2	0.101	0.110	0.494	0.130	0.140	0.230	0.120	0.130	0.135
12/3	0.105	0.110	0.487	0.130	0.140	0.230	0.120	0.130	0.135
12/4	0.102	0.135	0.484	0.130	0.140	0.230	0.120	0.130	0.140
12/7	0.107	0.130	0.481	0.130	0.140	0.230	0.125	0.130	0.140
12/8	0.107	0.120	0.479	0.130	0.140	0.230	0.125	0.130	0.140
12/9	0.105	0.115	0.477	0.130	0.140	0.230	0.125	0.130	0.140
12/10	0.100	0.115	0.474	0.130	0.140	0.230	0.125	0.130	0.140
12/11	0.091	0.115	0.471	0.130	0.140	0.230	0.125	0.130	0.140
12/14	0.092	0.120	0.468	0.130	0.140	0.230	0.125	0.130	0.140
12/15	0.098	0.130	0.465	0.130	0.140	0.230	0.125	0.130	0.140
12/16	0.113	0.120	0.464	0.130	0.140	0.230	0.125	0.130	0.140

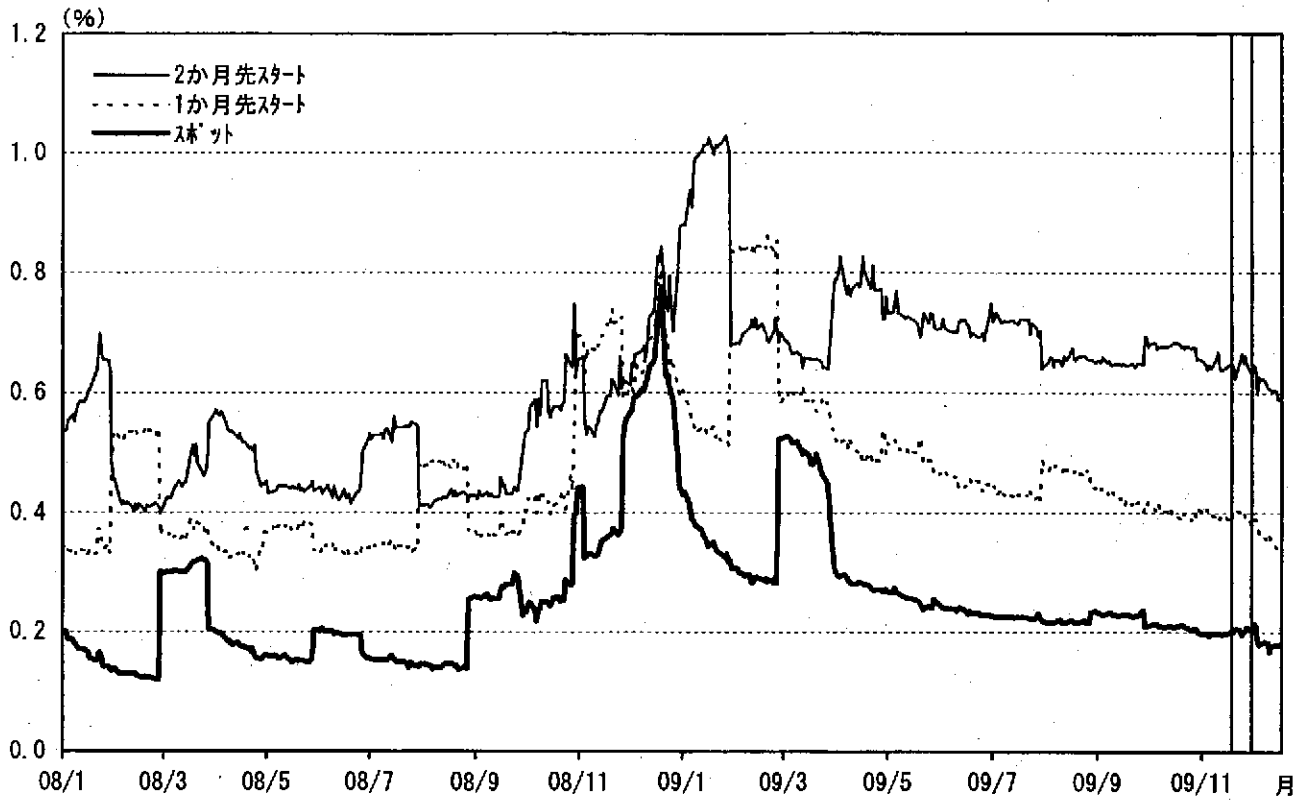
(注) 1. レポレート、ユーロ円レートはヒアリングベース (対外非公表)。

2. 短国レートはT-Bill利回り。ただし、09/2月の統合発行以前はFB/TB利回り。

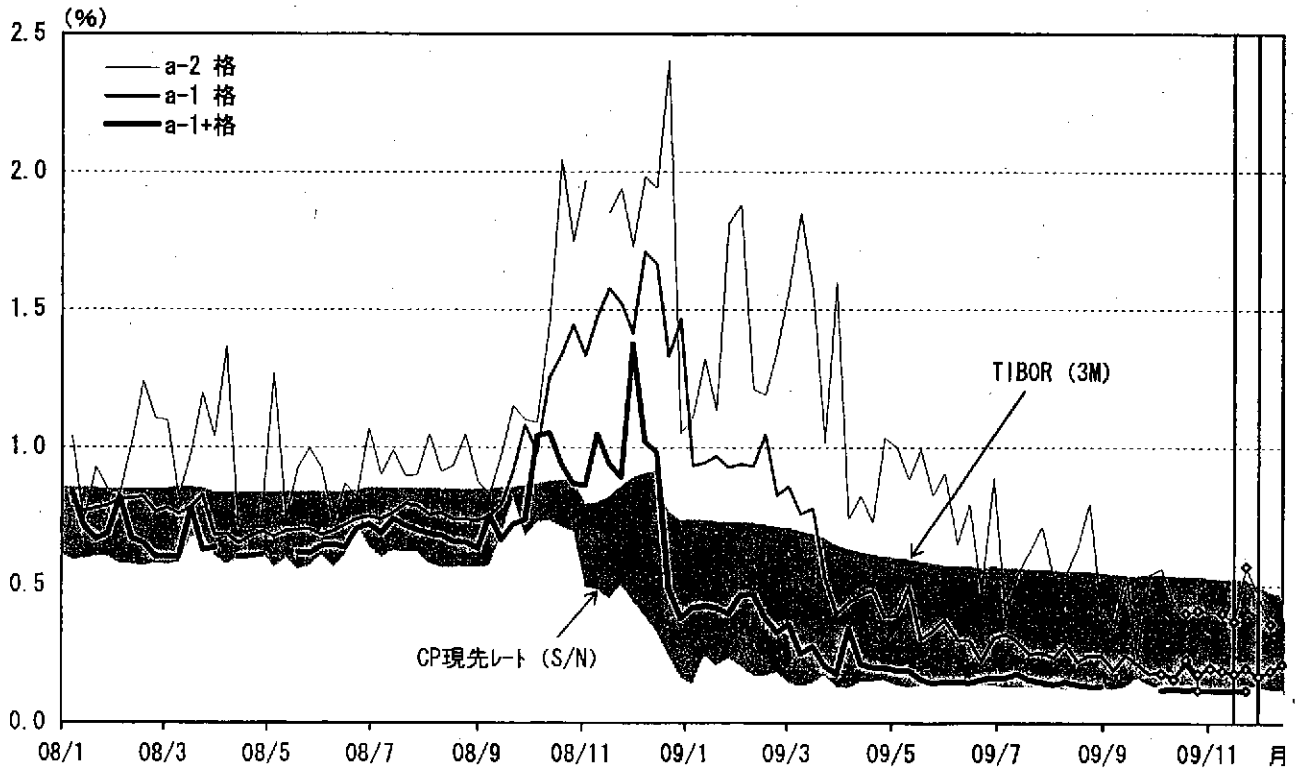
(出所) 全国銀行協会、日本相互証券、日本銀行

ターム物レートの推移 (1)

(1) TIBOR-OISスプレッド (1か月物フォワードレート) の推移



(2) CP発行レート (3か月物) の推移



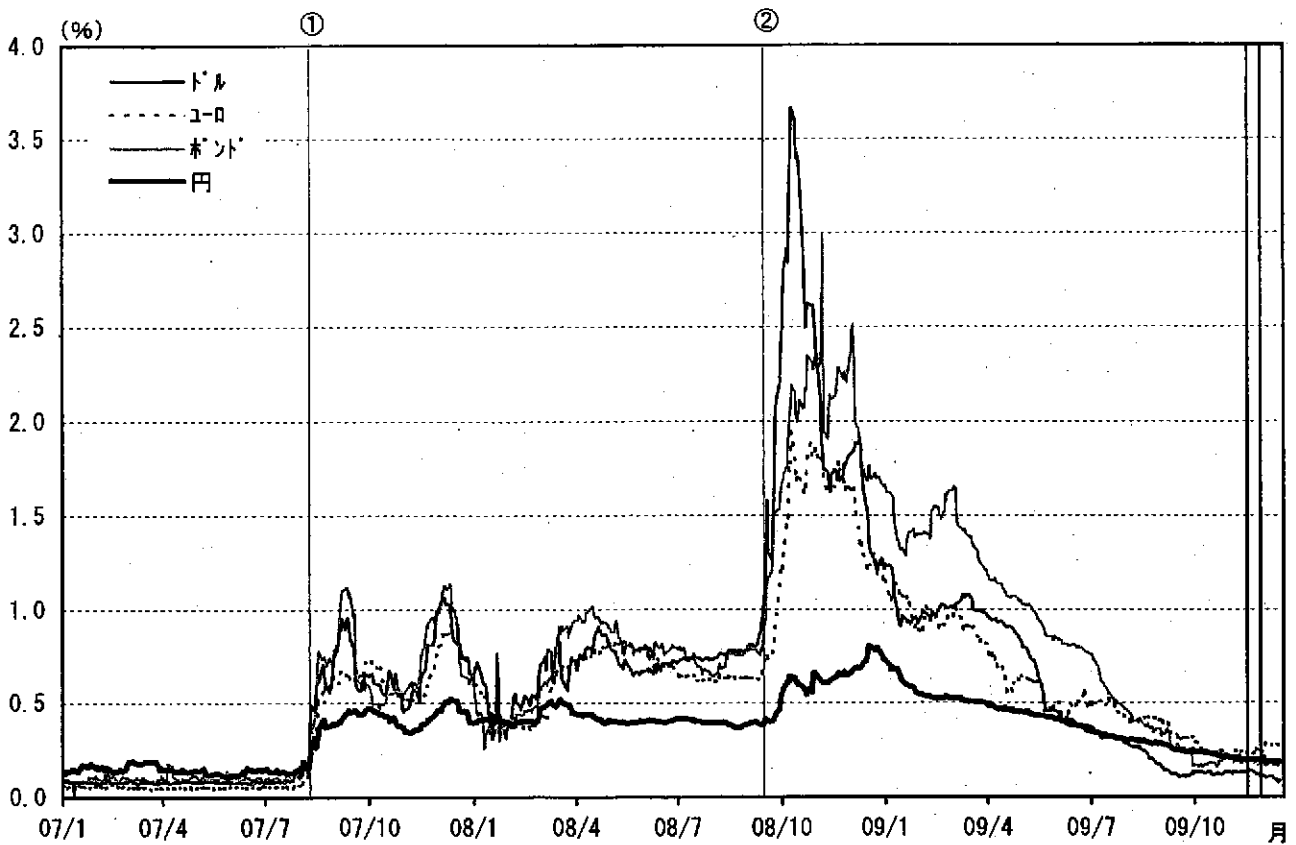
(注) 1. (2)のCP発行レートは、週次平均レート (証券保管振替機構公表計数: ◇印)。ただし、09/10月以前はCP等買現先オペの対象先による引受分 (対外非公表)。発行額による加重平均で、格付けは基本的にR&Iによる。金融機関発行分およびABCPは除く。

2. 直近は、(1)は12/16日、(2)は12/14日週 (15日までの日次計数の平均)。

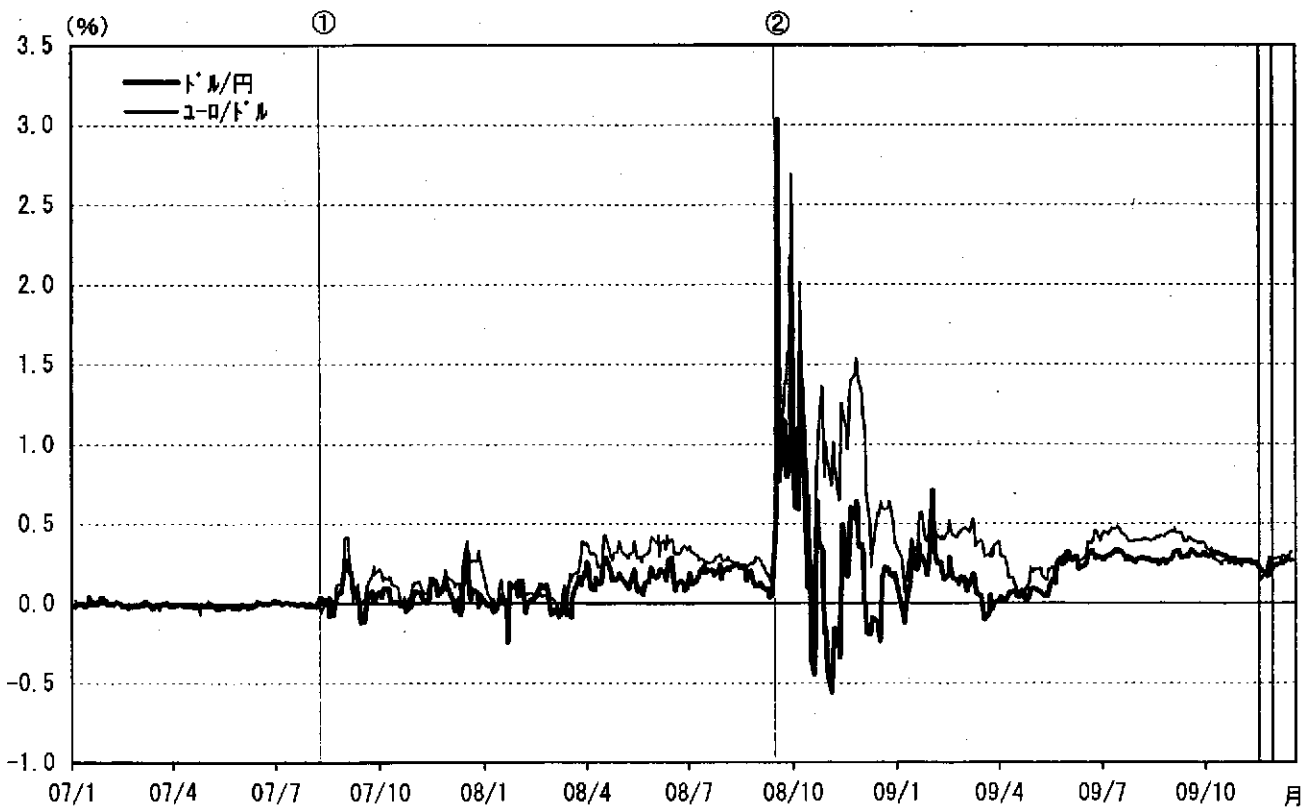
(出所) Bloomberg、証券保管振替機構、全国銀行協会、日本銀行

ターム物レートの推移 (2)

(1) LIBOR-OISスプレッド (3か月物) の推移



(2) ドル転コスト対ドルLIBORスプレッド (3か月物) の推移

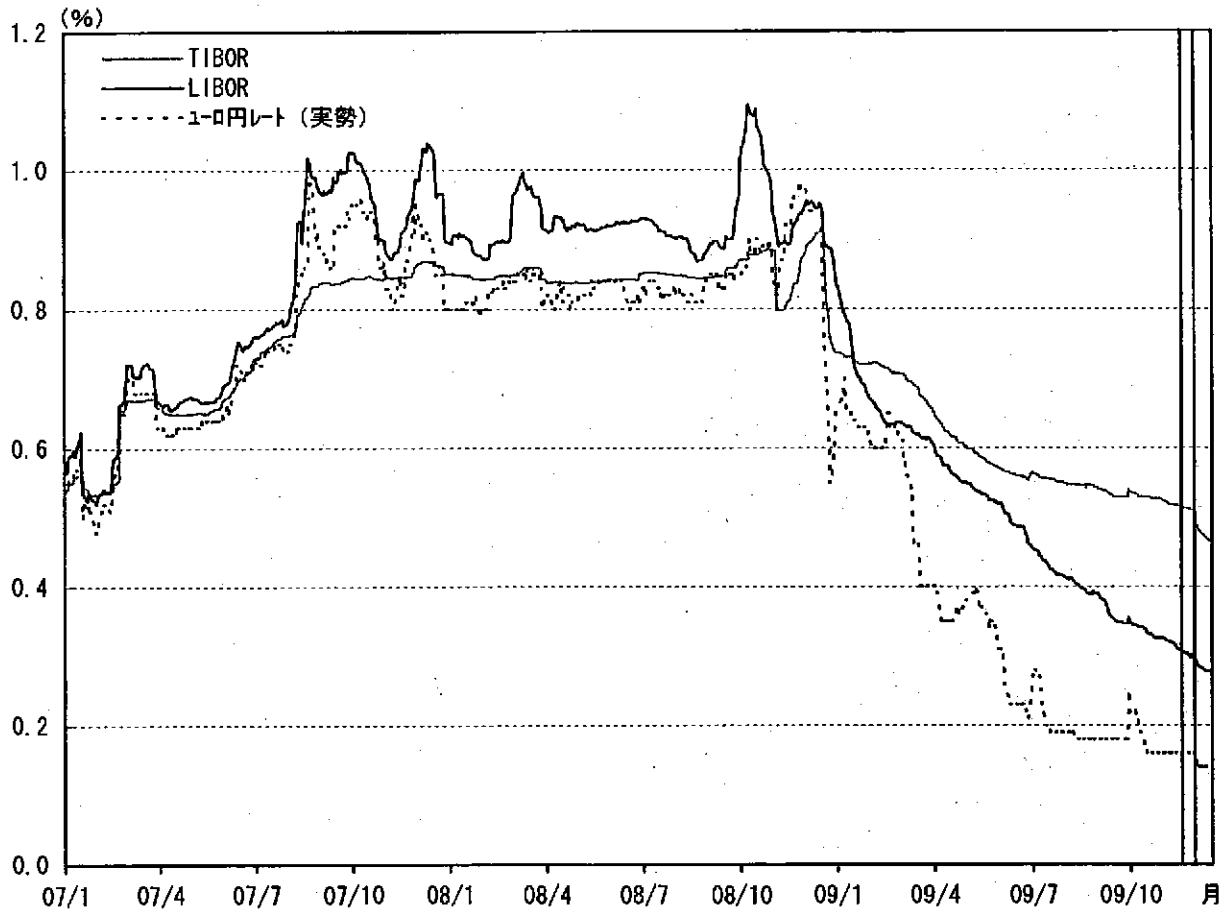


(注) 1. ①はパリバ・ショック (07/8/9日) 時点、②はリーマン破綻 (08/9/15日) 時点。

2. 直近は12/16日。

(出所) Bloomberg

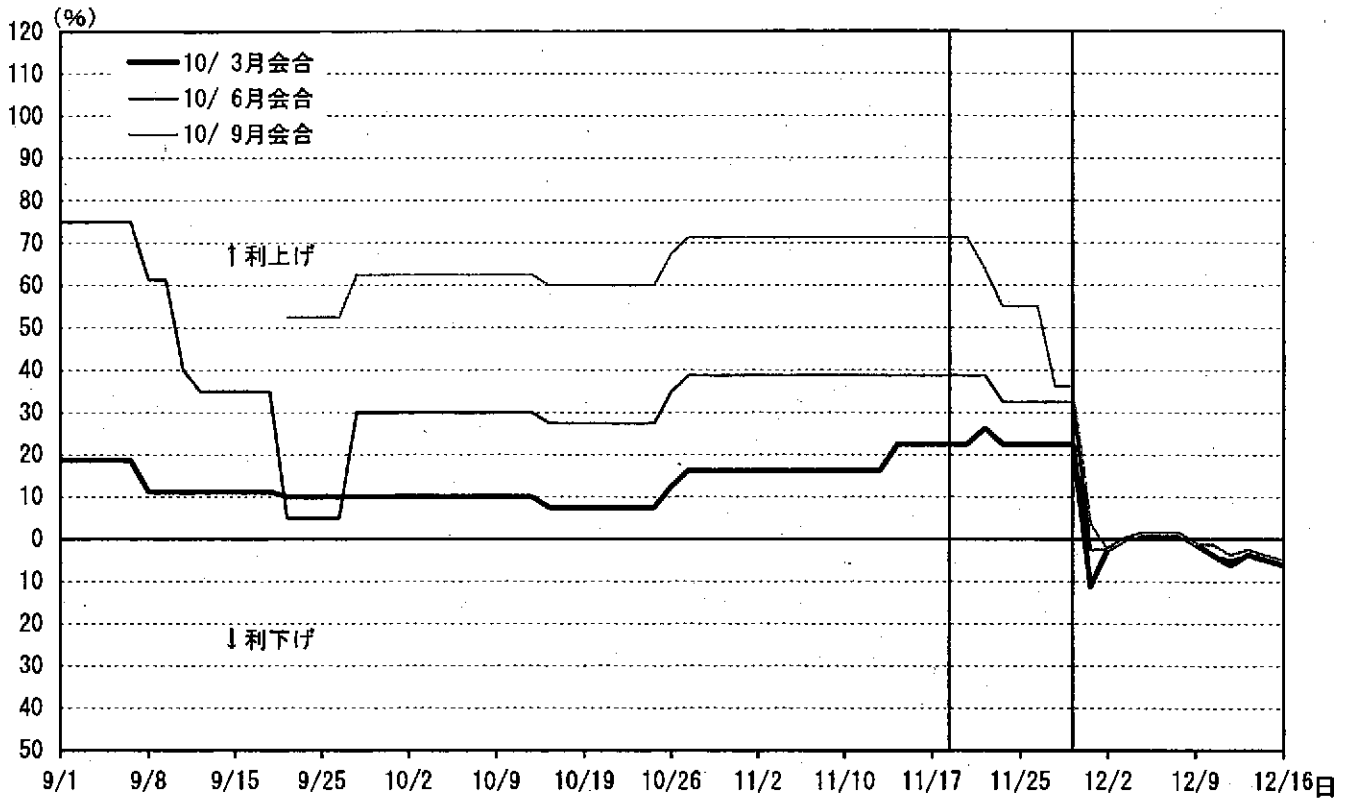
ターム物レートの推移 (3)



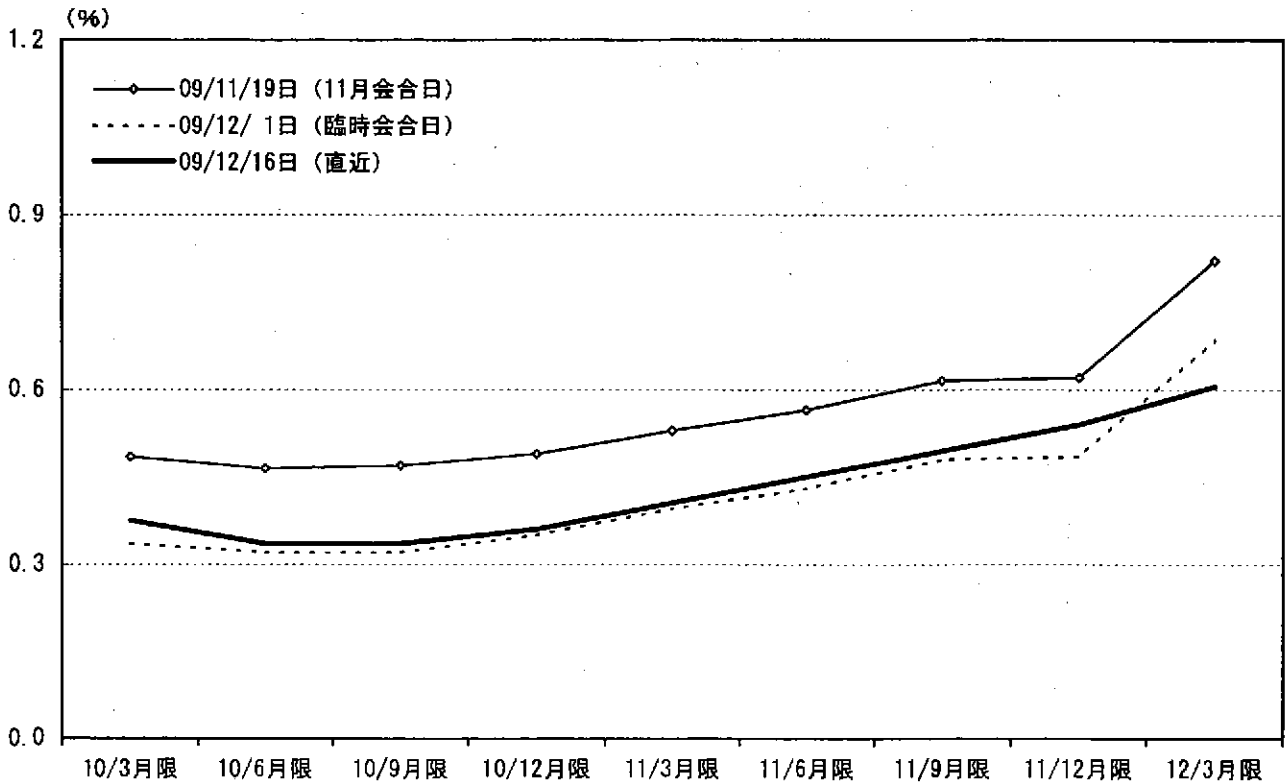
(注) 3か月物。ユーロレート (実勢) は対外非公表。直近は12/16日。
(出所) Bloomberg、日本銀行

フォワードレートの動向

(1) OISレートからみた政策変更(±10bps)の織り込み度合い



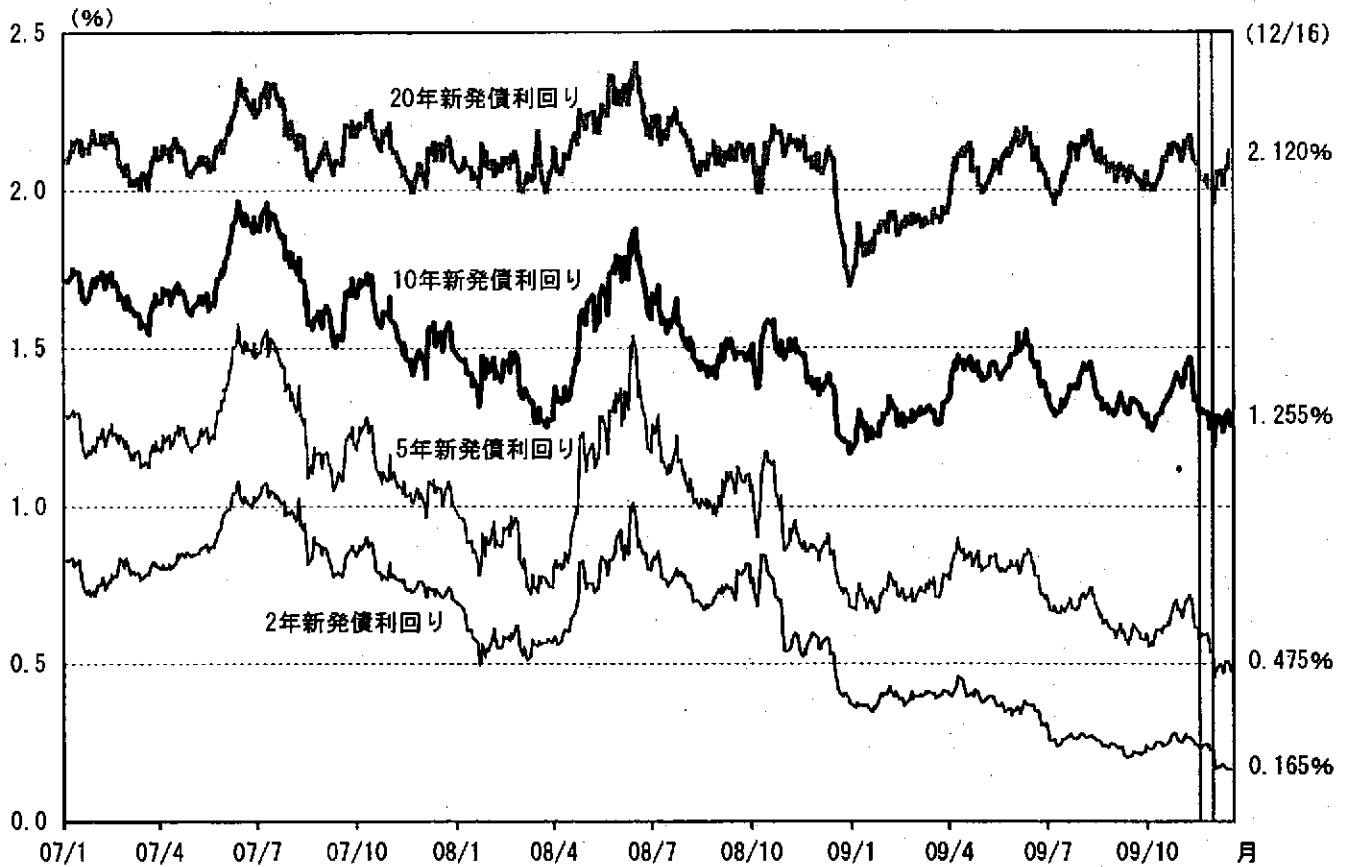
(2) ユーロ円金利先物からみたフォワードレート・カーブ



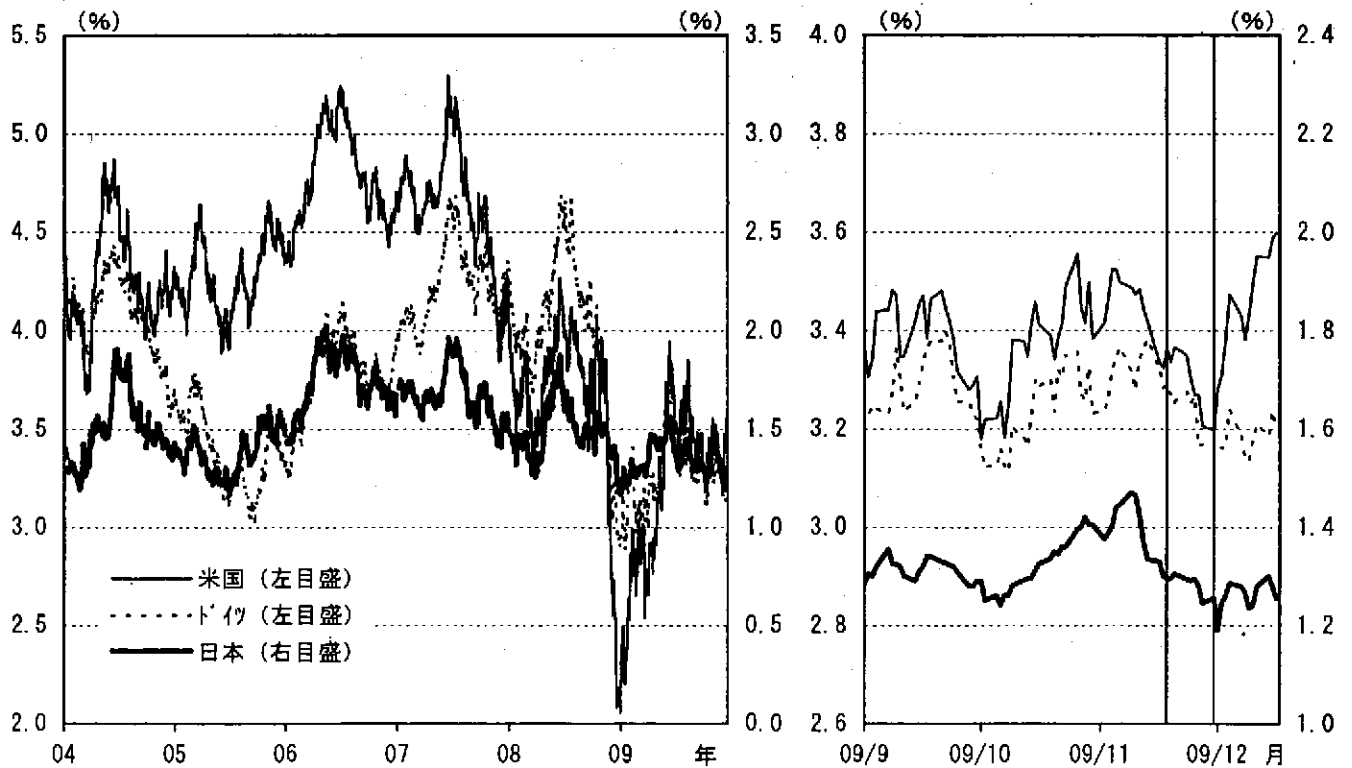
(注) (1)は会合間取引レートの仲値から算出。直近は12/16日。
(出所) トムソン・ロイター、メイタン・トラディション、東京金融取引所

長期金利の推移

(1) 国内年限別の推移



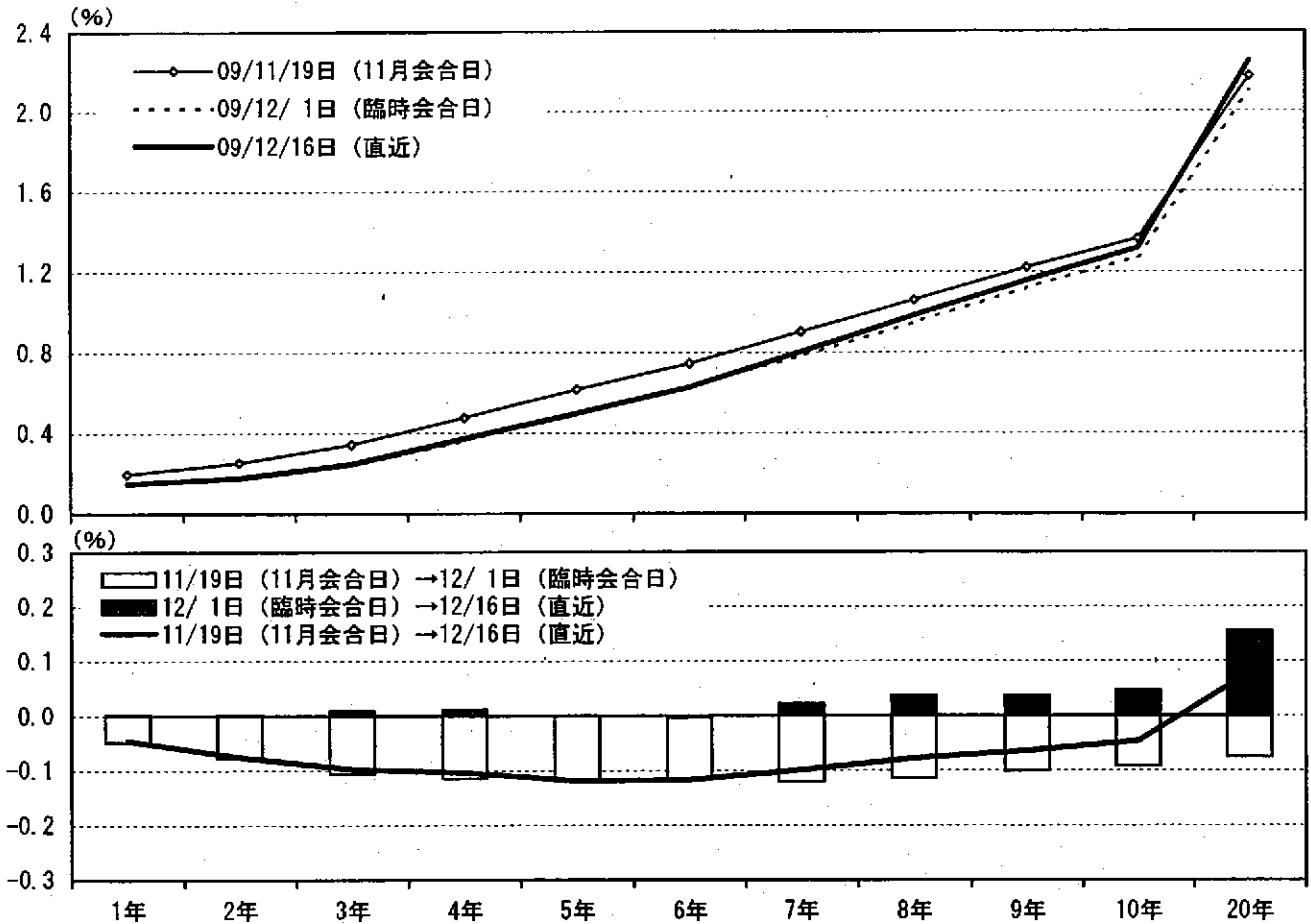
(2) 10年国債利回りの推移



(注) 直近は12/16日。

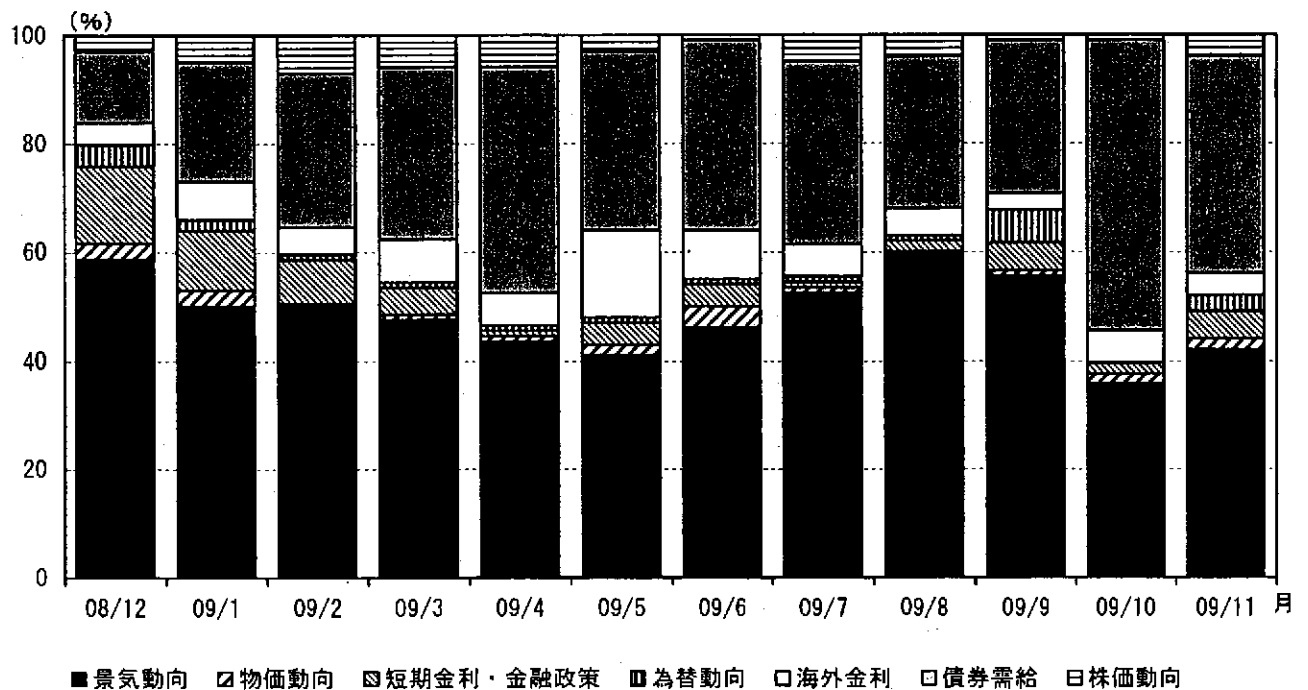
(出所) Bloomberg、日本相互証券

イールド・カーブの動向



(出所) 日本証券業協会、日本銀行

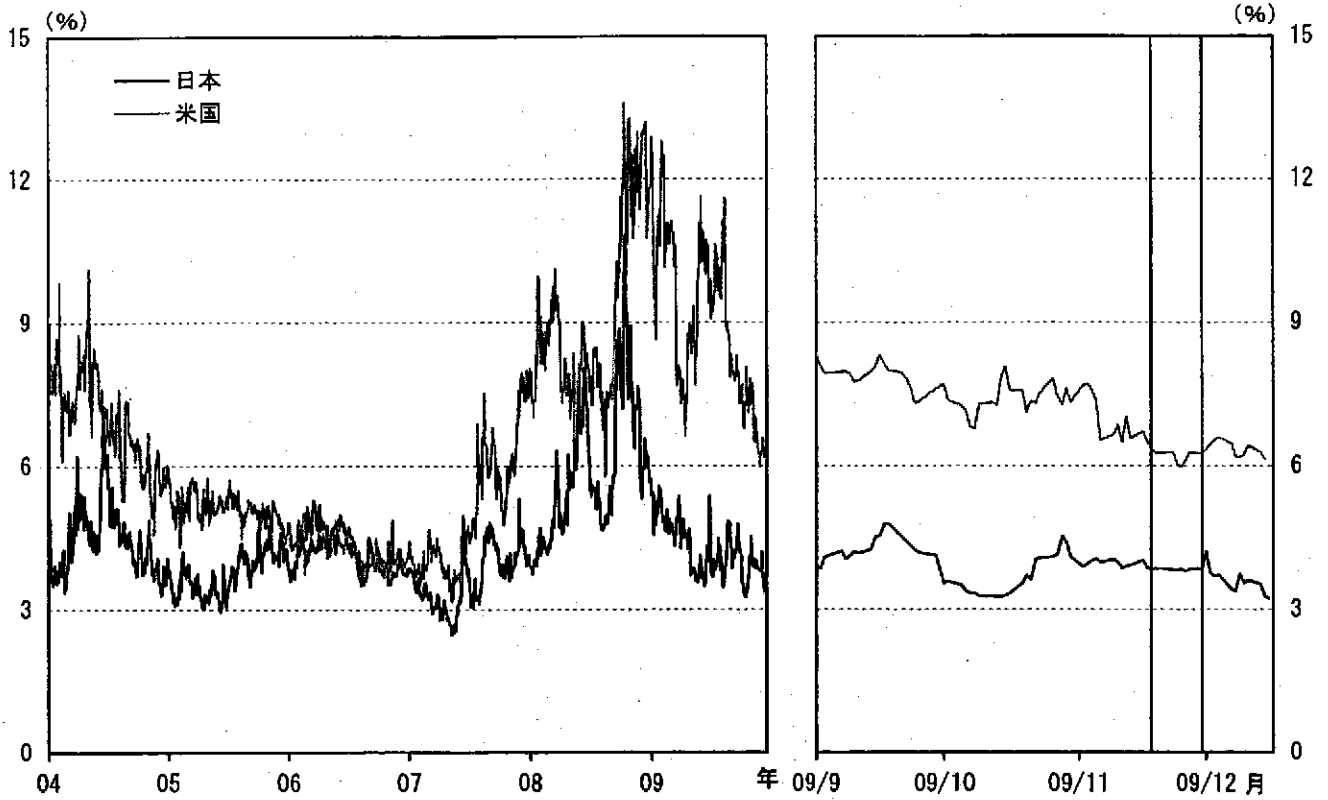
市場参加者が注目する債券利回り変動要因



(注) 調査期間は09/11/24日～09/11/26日。期間中の10年新発債利回りは1.280～1.295%。

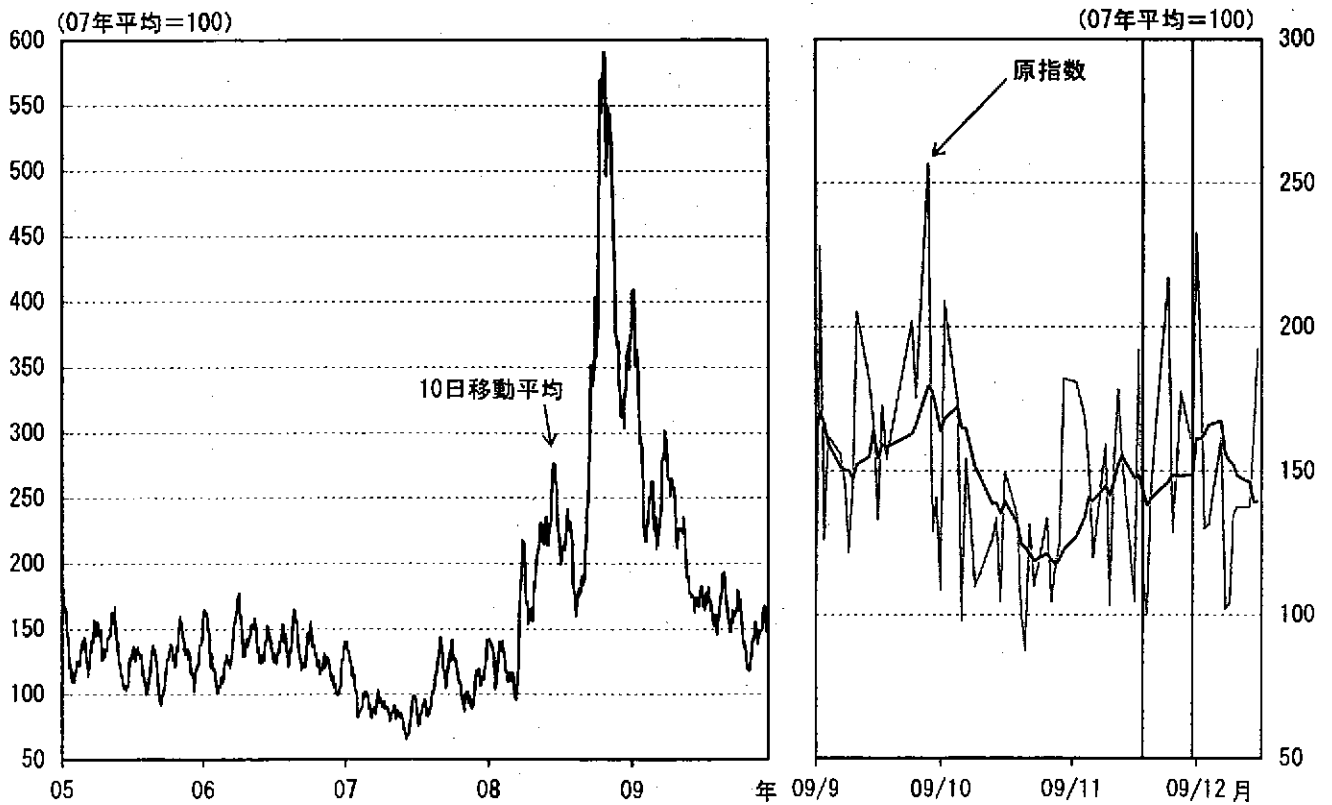
(出所) 「QSS債券月次調査」

インプライド・ボラティリティの推移



(注) 直近は、日本は12/16日、米国は12/15日。
(出所) Bloomberg、三菱UFJ証券

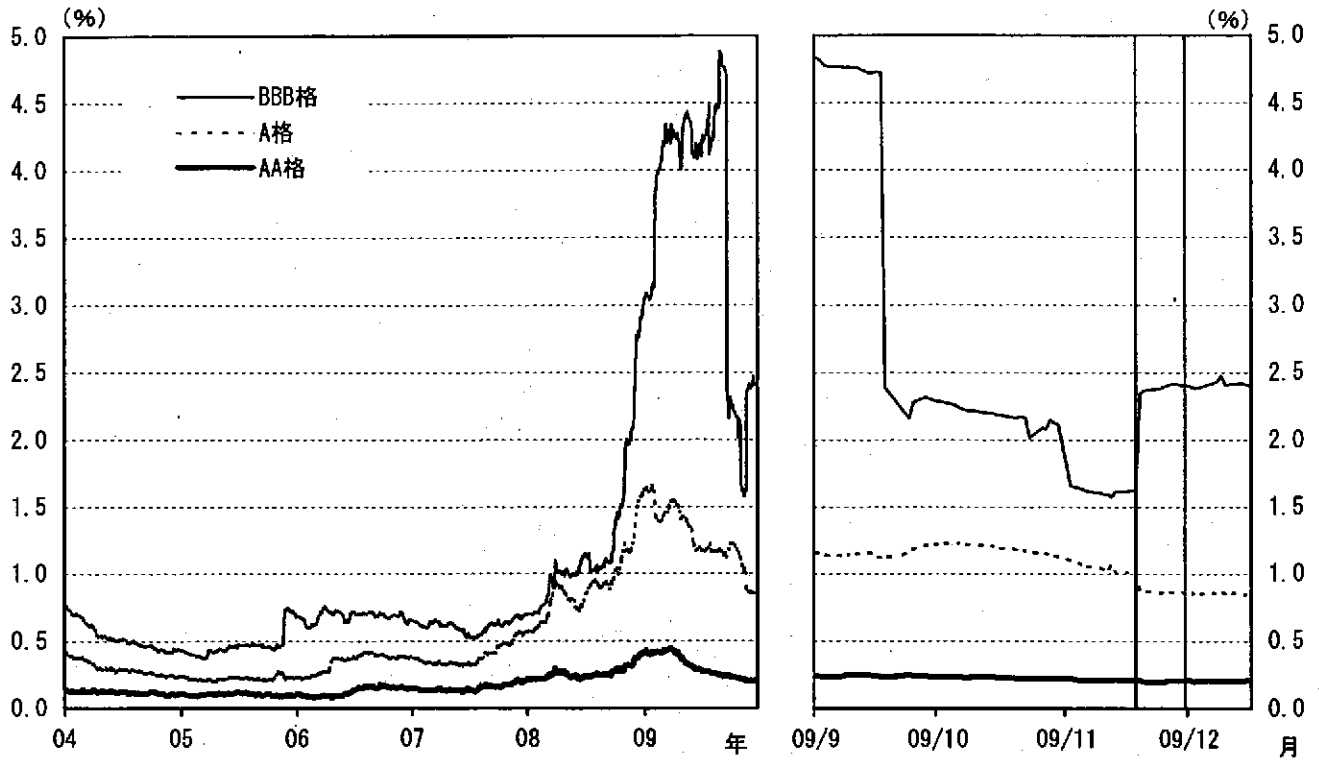
長国先物の値幅・出来高比率の推移



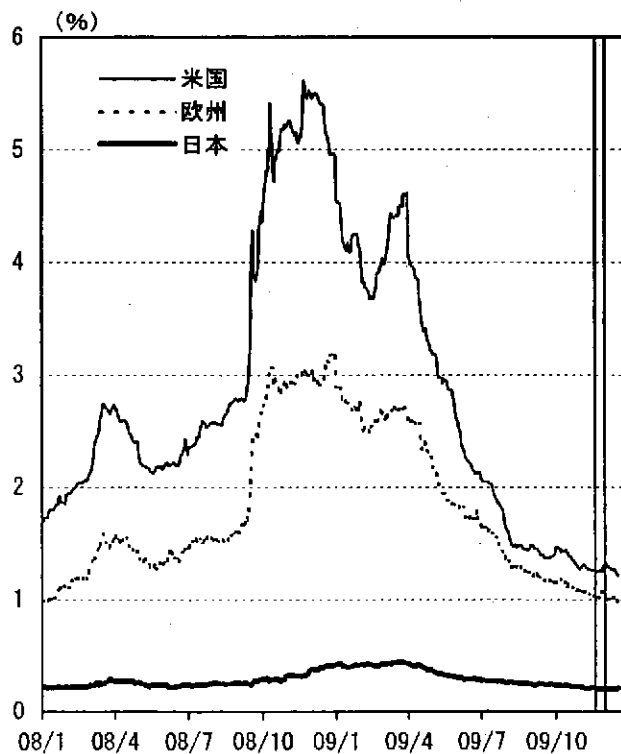
(注) 直近は12/16日。
(出所) QUICK

社債流通利回りの対国債スプレッドの推移

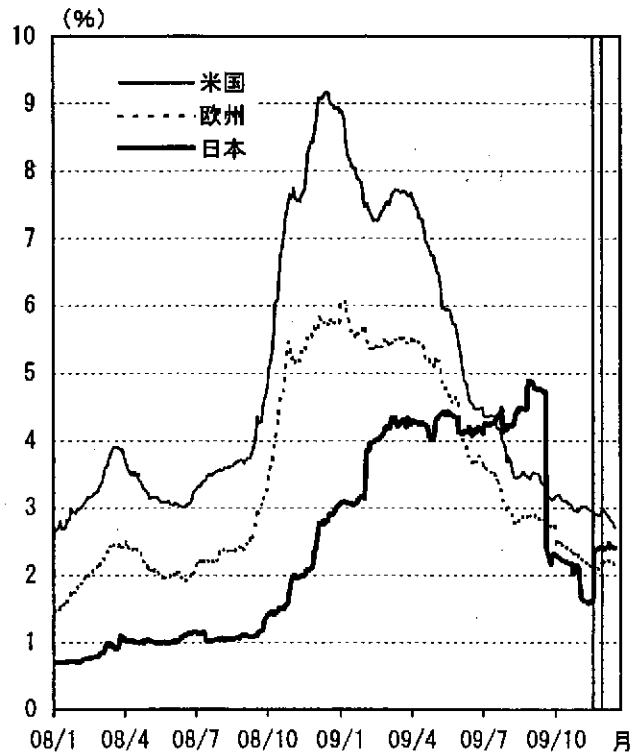
(1) 国内社債の動向



(2) 高格付社債 (AA格) の動向



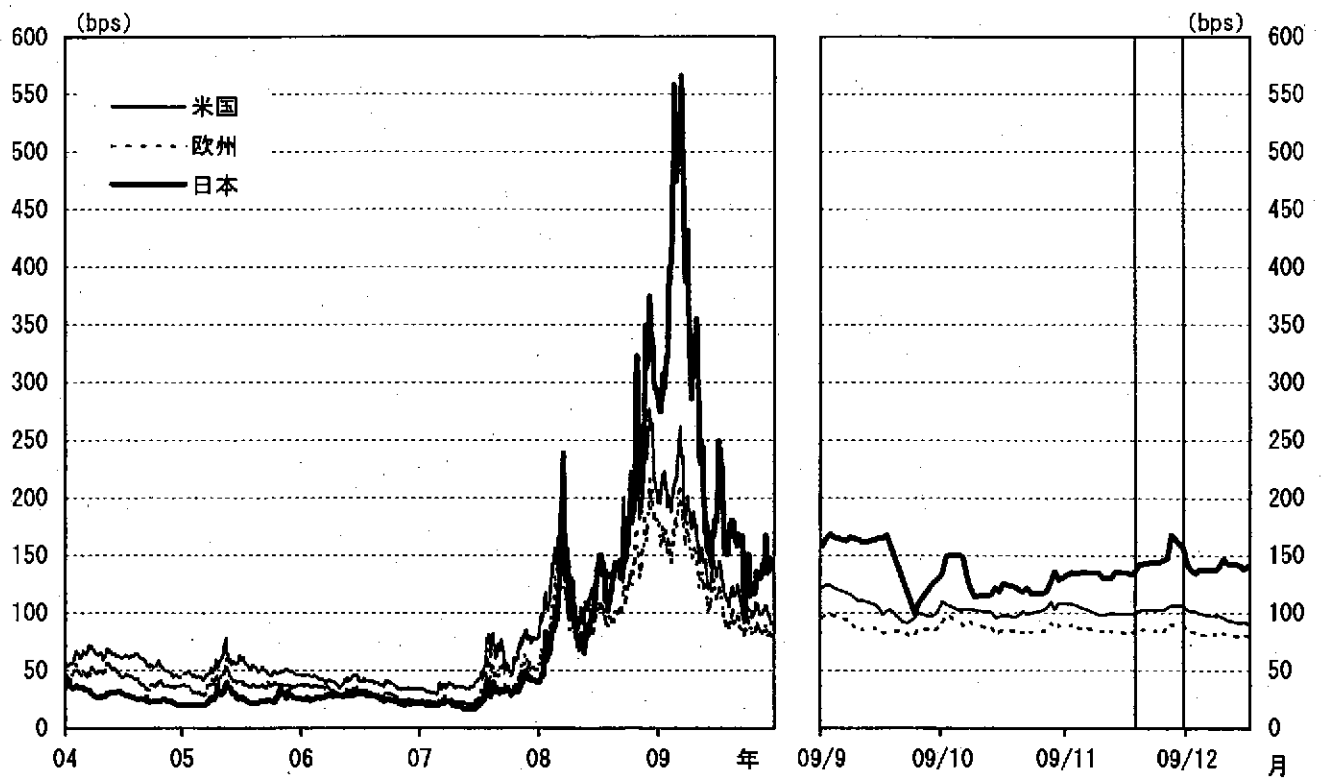
(3) 低格付社債 (BBB格) の動向



(注) 1. 日本の社債流通利回りは売買参考統計値、格付けはR&Iによる。集計対象は、残存3年以上7年未満の銘柄。
2. 米欧はメリルリンチ算出、格付けはMoody's、S&P、Fitchによる。集計対象は、残存3年以上5年未満の銘柄。
3. 直近は12/16日。

(出所) Bloomberg、日本証券業協会、日本銀行

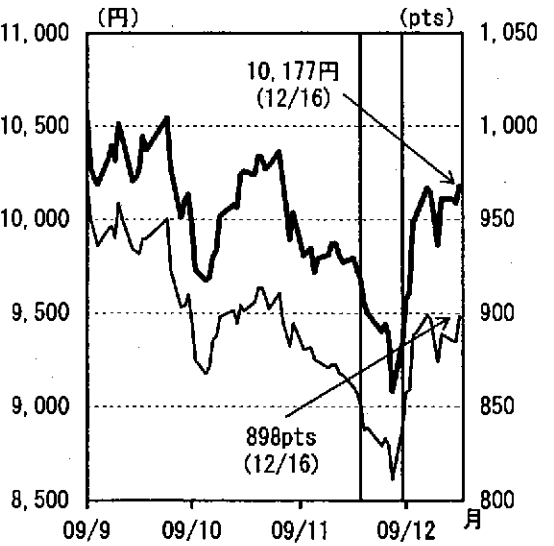
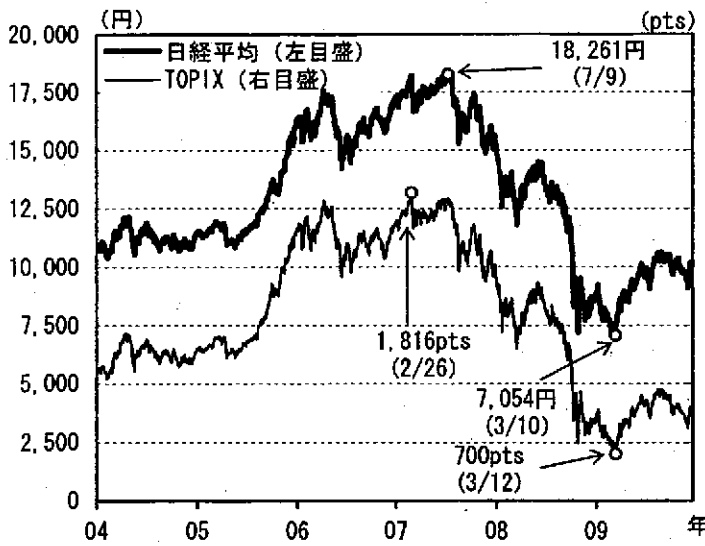
CDSプレミアムの推移



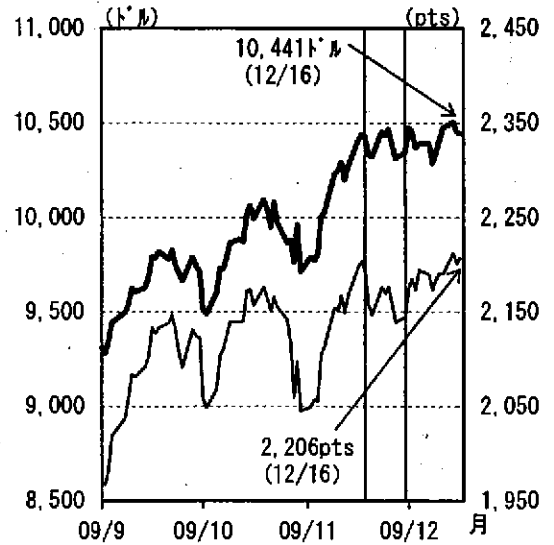
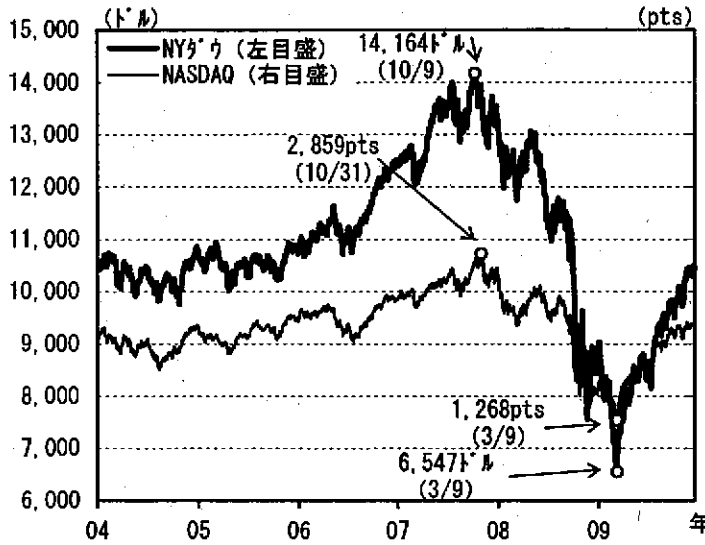
(注) 1. 以下の各インデックス。年限は5年。
日本：iTraxx Japan、米国：CDX.NA.IG、欧州：iTraxx Europe。
2. 対外非公表。直近は12/16日。
(出所) Markit、JPモルガン

株式相場の推移

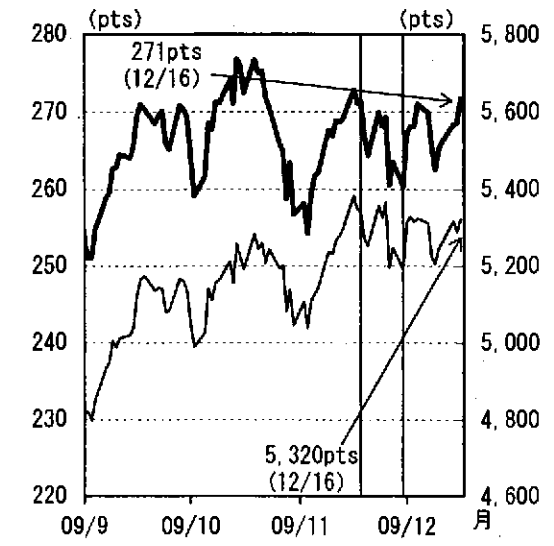
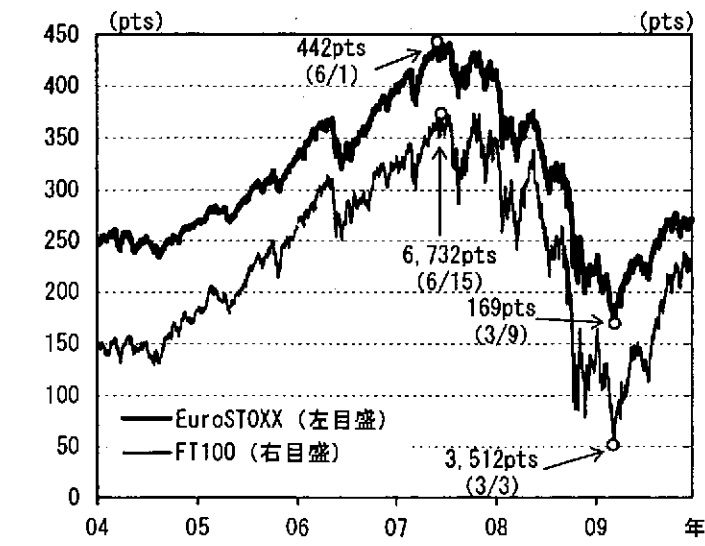
(1) 国内株価の推移



(2) 米国株価の推移



(3) 欧州株価の推移



(注) 直近は12/16日。
(出所) Bloomberg、QUICK

主体別売買動向

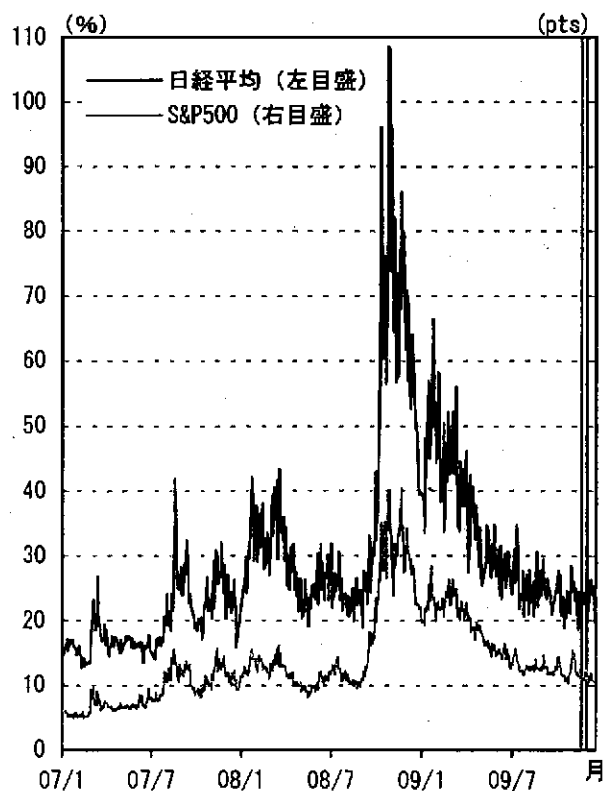
(▲は売り越し、億円)

	個人		事業法人	投信	金融機関			外国人
		うち 信用				うち 信託	うち 生・損保	
06年	▲43,811	18,380	20,190	17,073	▲40,369	▲33,176	▲1,499	55,288
07年	▲32,288	14,152	15,555	▲5,448	▲17,953	▲16,834	678	54,234
08年	9,820	▲897	16,321	3,013	39,434	45,026	▲3,289	▲37,085
09/1 ~ 3月	3,514	117	1,163	1,616	25,800	25,473	▲65	▲25,378
4 ~ 6月	2,884	5,711	▲313	▲1,756	▲6,132	▲2,654	▲1,209	7,886
7 ~ 9月	▲2,730	2,569	▲717	▲1,113	▲10,734	▲7,138	▲2,343	14,671
09/9月	4,940	2,383	280	▲660	▲5,587	▲4,416	▲759	▲1,241
10月	▲977	610	▲286	480	▲3,365	▲2,853	▲170	7,302
11月	398	413	67	1,159	2,194	2,077	167	272
09/11/2 ~ 11/6	823	360	▲8	142	32	6	10	292
11/9 ~ 11/13	▲445	▲100	▲46	499	▲79	120	▲147	829
11/16 ~ 11/20	100	66	99	40	1,102	1,071	42	▲983
11/24 ~ 11/27	▲80	87	22	476	1,138	879	262	134
11/30 ~ 12/4	▲4,952	▲1,856	▲484	72	0	415	▲31	6,081

(注) 三市場(東京・大阪・名古屋)合計。金融機関は、都銀・地銀等、その他金融、信託、生・損保。

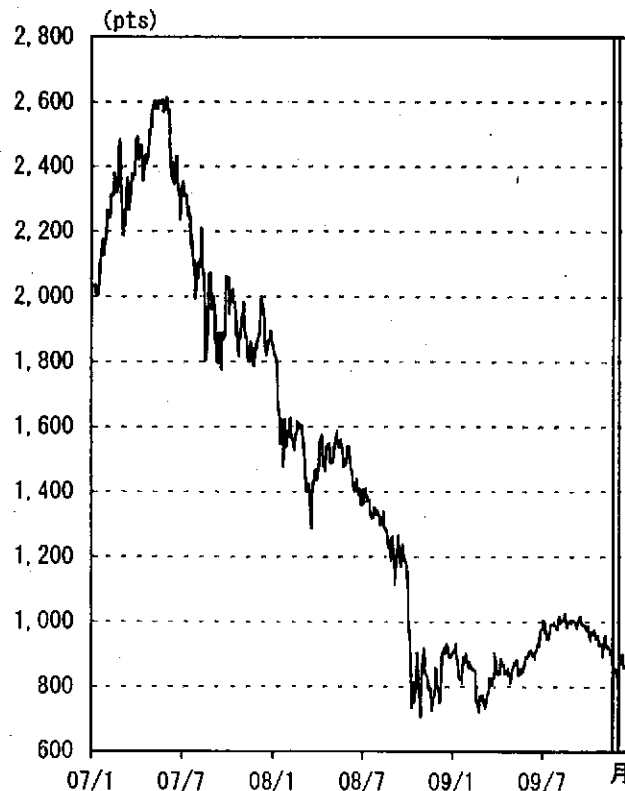
(出所) 東京証券取引所

ボラティリティの推移

(注) 日経平均はインプライド・ボラティリティ。
S&P500はVIX指数。直近は12/16日。

(出所) Bloomberg

東証REIT指数の推移

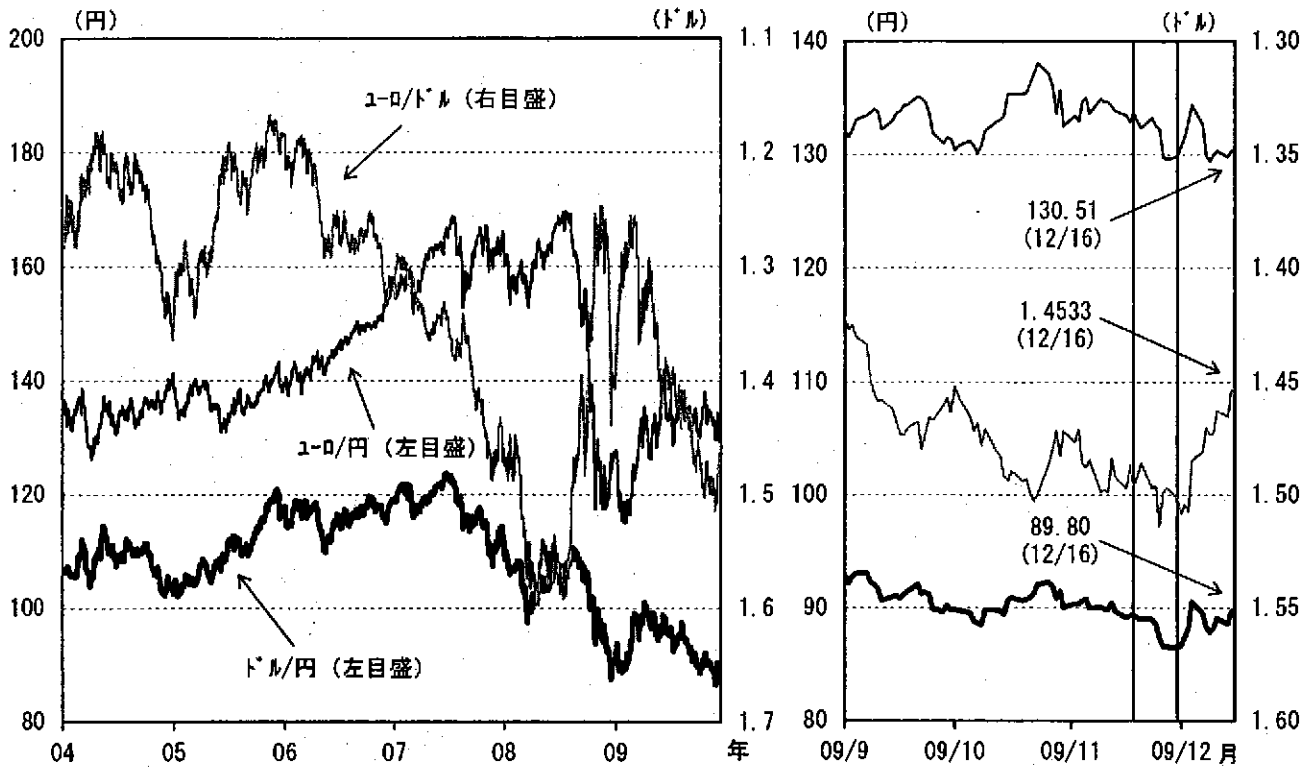


(注) 直近は12/16日。

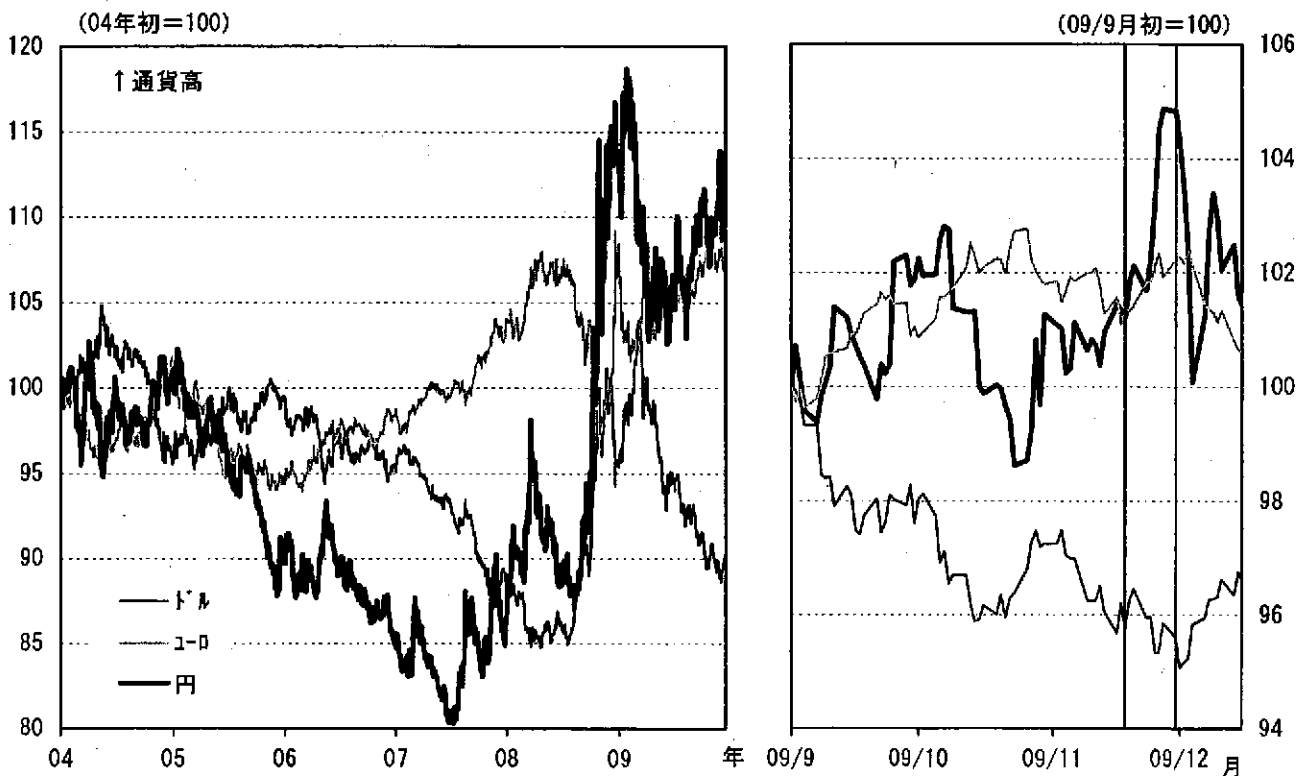
(出所) Bloomberg

主要為替相場の推移

(1) ドル/円、ユーロ/円、ユーロ/ドル相場の推移



(2) 名目実効為替レートの推移



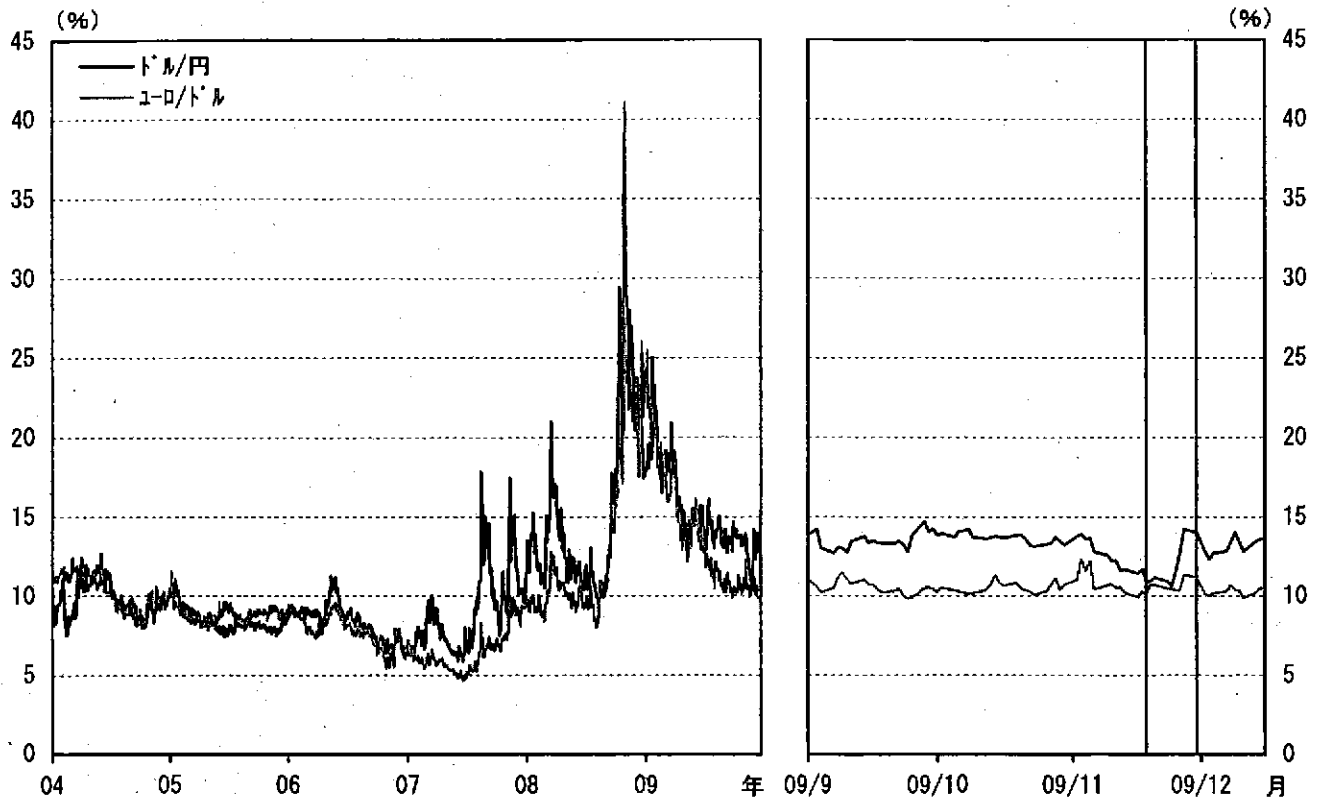
(注) 1. (1)は原則NY市場16時時点。

2. 直近は12/16日。

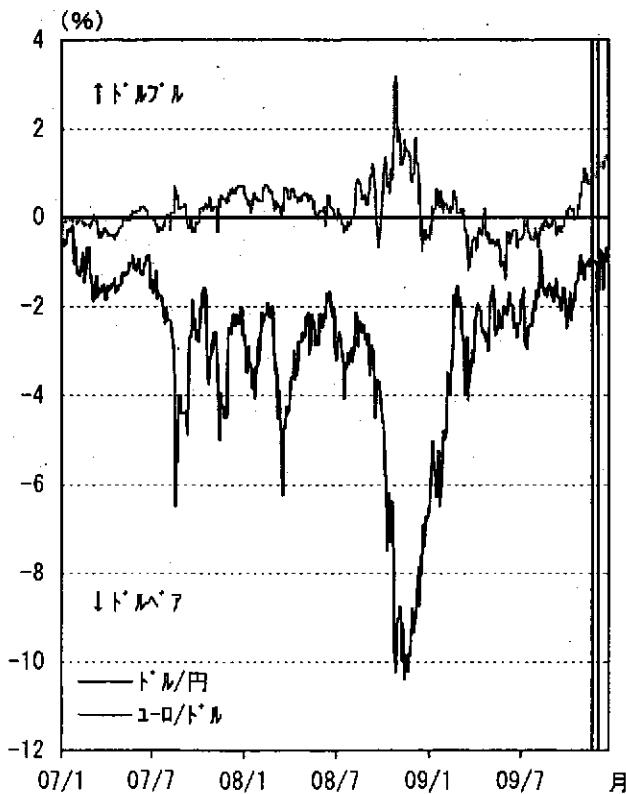
(出所) JPモルガン、トムソン・ロイター、ECB、日本銀行

通貨オプション、先物市場の動向

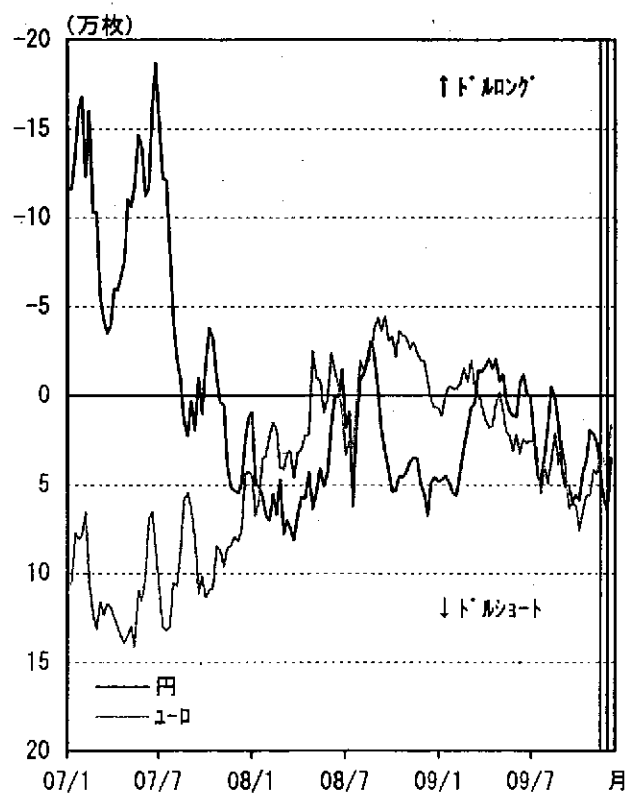
(1) インプライド・ボラティリティ (1か月) の推移



(2) リスクリバーサル (1か月) の推移



(3) IMMネットポジションの推移



(注) 1. (3)は通貨先物取引における非商業目的および目的別計数非報告分のネット建玉の合計。

2. 直近は、(1)(2)は12/16日、(3)は12/8日。

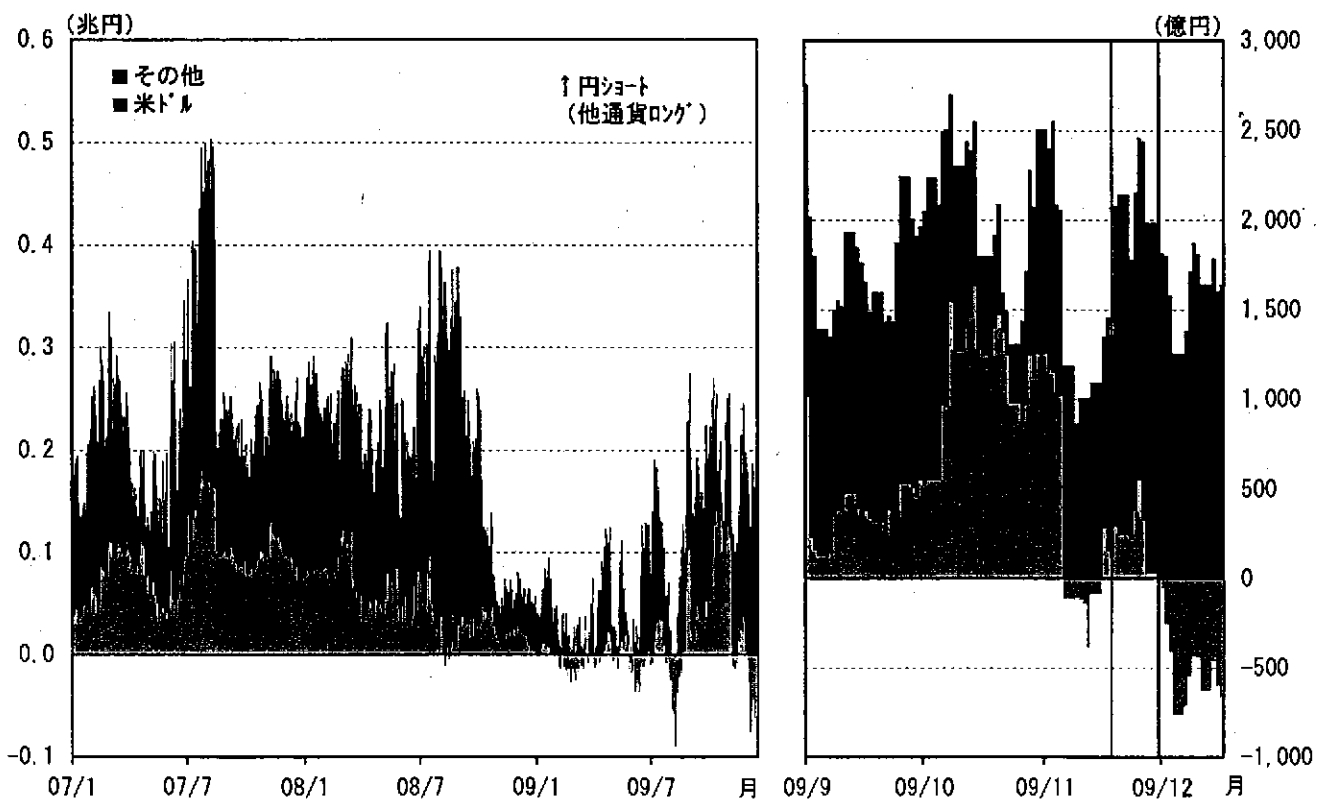
(出所) Bloomberg

クロス円取引の動向

(1) クロス円相場の推移



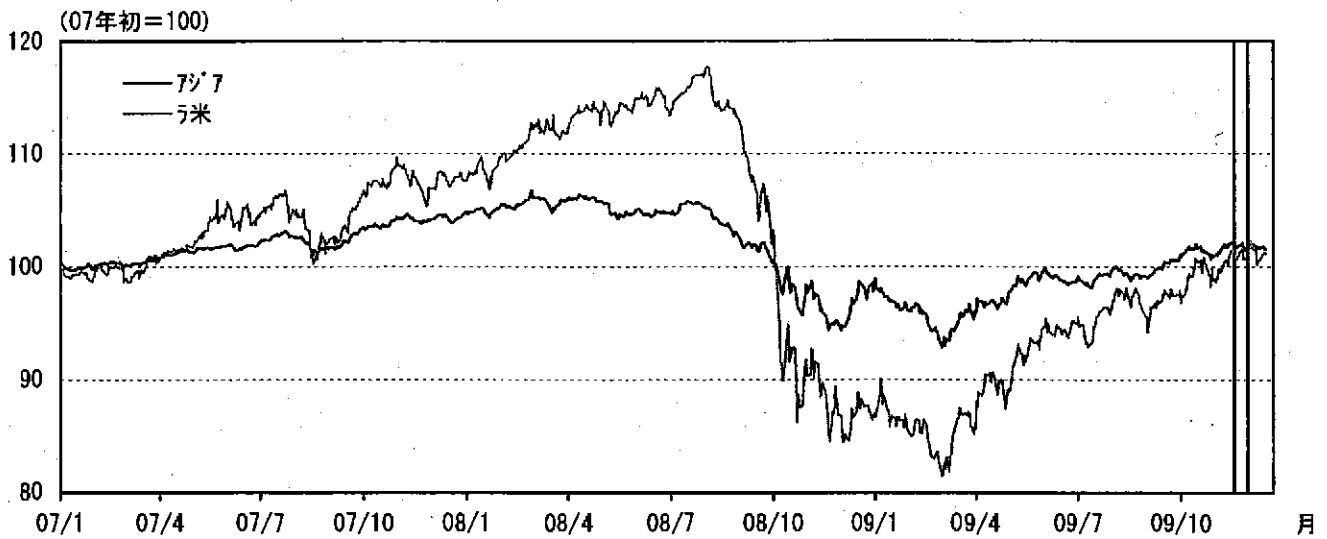
(2) 外為証拠金取引の動向



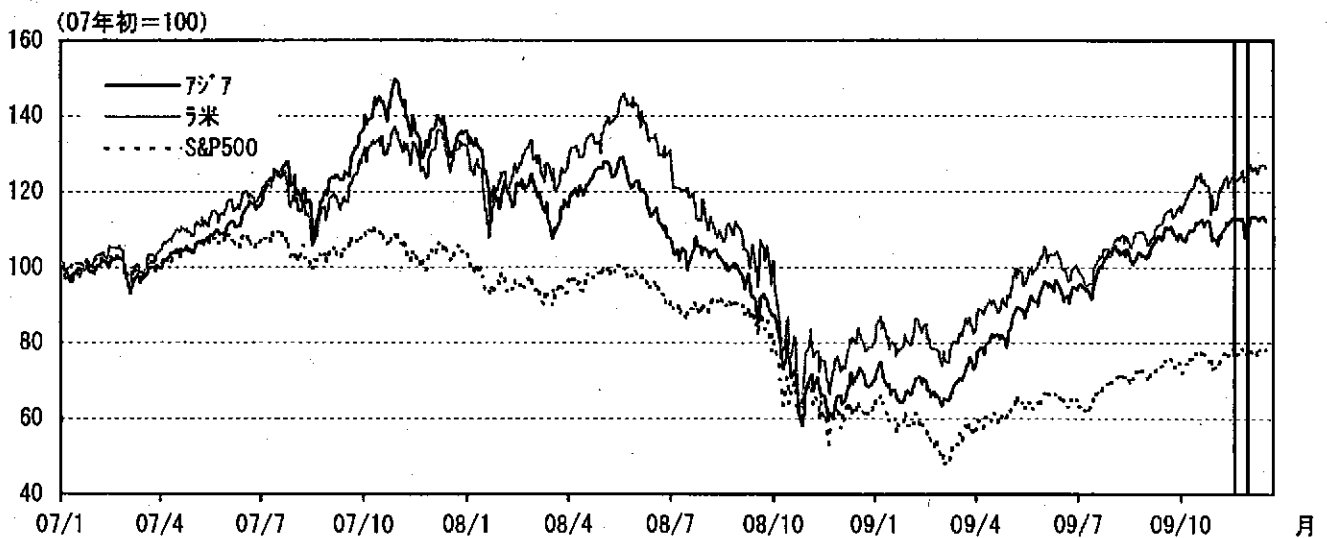
(注) 1. (2)は、円に対する他通貨のネットロングポジション (マーケット・メーカーを除く)。
2. 直近は12/16日。
(出所) Bloomberg、東京金融取引所

エマージング、コモディティ市場の動向

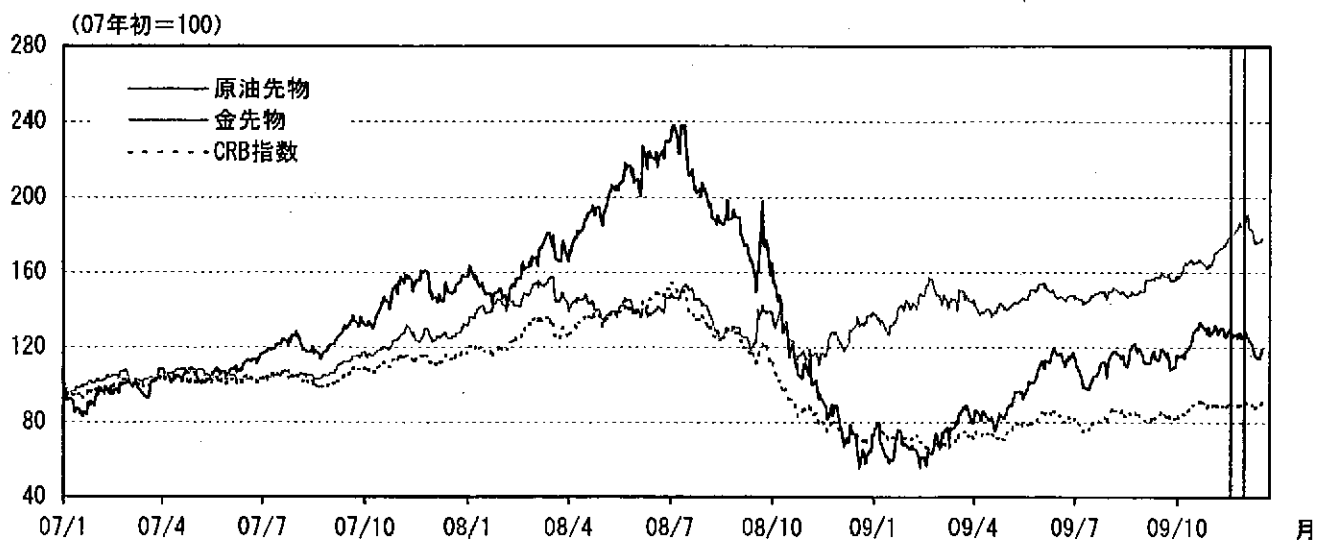
(1) エマージング通貨指数の推移



(2) MSCIエマージング株価指数の推移



(3) コモディティ価格の推移



(注) 1. (1)は対ドル指数。(2)は現地通貨建て。(3)のコモディティ先物はNYMEX期近物。

2. 直近は12/16日。

(出所) Bloomberg

2009.12.14

国際局

海外経済・国際金融の現状評価

1. 概況

〔海外経済の現状〕（図表1～3）

世界経済は、緩やかに回復している。

米国経済は、持ち直している。住宅支出が増加し、住宅価格の下落圧力が弱まるもとで、個人消費は全体としてごく緩やかながらも増加している。また、設備投資の減少は小幅になっている。こうしたもとで、生産は、在庫調整の進捗から持ち直している。この間、労働市場では、雇用者数の減少が続き、失業率は上昇基調にあるが、雇用者数の減少ペースは和らいできている。

ユーロエリア経済は、持ち直しつつある。個人消費は、全体として弱めの動きとなっているが、輸出が持ち直し、設備投資の減少が小幅になる中で、生産も持ち直しつつある。英国経済は、下げ止まっている。個人消費の減少幅は縮小し、生産活動も持ち直してきている。この間、住宅市場では調整が進捗する中、住宅価格は上昇している。

中国経済は、内需を中心に、高めの成長を続けている。政府による景気刺激策の効果から、個人消費が堅調に推移し、固定資産投資も高伸する中で、生産は増加を続けている。この間、上期まで大きく落ち込んでいた輸出も、増加に転じている。インド経済も、高めの成長を続けている。NIEs・ASEAN経済は、回復している。輸出や個人消費が増加し、設備投資も持ち直している。こうしたもとで、生産は増加している。

この間、物価についてみると、コアベースの消費者物価の前年比は、需給緩和や賃金の伸び鈍化などを背景に、世界的に低下傾向を辿っている。総合ベースの消費者物価の前年比は、昨年後半のエネルギー価格反落の影響が一巡してきており、伸びが高まっている。

[国際金融の現状]

欧米の金融市場をみると、短期金融市場は、ターム物金利のスプレッドが 2007 年夏の水準前後で推移する中、落ち着きを取り戻している。クレジット市場では、社債の対国債スプレッド（除く金融）が、低格付け物を中心に依然高水準ながら、全体として縮小傾向を辿っている。資金調達面をみると、銀行貸出の縮小傾向が続く一方、社債の発行額は堅調に推移している。この間、IPO は低水準ながら増加している。

米国の株価は、ドバイの政府系持ち株会社の債務不履行懸念の影響が一時的にはみられたが、雇用指標や小売売上高が予想を上回る改善をみせたことなどから、通してみれば、前回通常会合対比横這い圏内の動きとなった。長期金利は小幅上昇した。欧州でも、米国と同様に、株価は横這い圏内の動きとなった。長期金利は、英国では財政への懸念から小幅上昇した一方、ドイツでは、ギリシャの格下げを受けた質への逃避（ドイツ国債への資金流入）から、若干低下した。

エマージング諸国・地域の金融市場をみると、ドバイ問題により一時的に調整する場面もみられたが、アジアやラ米地域の良好なファンダメンタルズが再認識されるにつれ、影響は限定的との見方が広がったことなどから、全体としてみれば、株価、国債金利の対米スプレッドともに前回通常会合対比ほぼ横這いとなった。この間、通貨は区々の動きとなった。

国際商品市況をみると、原油価格（WTI スポット）は、米国における実需の弱さが意識され下落した。また、金も、ドル買戻しの動きから、下落した。もつとも、他の商品については、中東株からの資金シフトも一部にみられ、底堅い動きとなった。

[先行きの展望]

世界経済は、先行きも、緩やかな回復を続けていくとみられる。

米国についてみると、目先、公共事業による押し上げ効果が見込まれるほか、在庫調整の進捗から在庫投資の伸びはプラス寄与を続ける見通し。こうしたもつで、生産の増加が続き、景気全体として回復に向けた動きが続くとみられる。もつとも、回復のペースは緩やかなものに止まると考えられるほか、先行きの不確実性やダウンサイド・リスクも一頃に比べ低下したとはいえ、なお大きい。すなわち、クレジット環境は緩やかな改善傾向を辿るとみられるが、厳しい雇用・所得環境や債務返済負担が家計支出の下押し圧力となって作用し、不動産市場の調整も続くと考えられる。そうしたもつで、金融機関の収益に対しても、バランスシート問題が重石となって作用し続けるとみられる。仮に景気が下振れし、金融機関の収益が大幅に

悪化するような状況になれば、金融機関の自己資本水準に対する不安の再燃から、金融と実体経済の負の相乗作用が再び強まる可能性も考えられる。

ユーロエリア経済も、緩やかな回復に向けた動きが続くとみられるが、厳しい雇用・所得環境や依然タイトな金融機関の与信姿勢は、企業や家計の支出活動を抑制する方向に作用することから、景気の下振れリスクはなお大きい。また、主要輸出先の一つである欧州新興国の停滞は、当面、ユーロエリアの回復を遅らせる要因として作用し続けると考えられる。

中国経済は、政府による景気刺激策の効果もあって、内需を中心に、高い成長率を維持するとみられる。インド経済も、堅調な内需を映じ、高めの成長が続くとみられる。NIEs・ASEAN経済については、輸出が緩やかに増加し、個人消費や設備投資も増加を続ける中、景気は回復傾向を維持すると考えられる。この間、資源国の経済も、世界需要の持ち直しに伴う資源需要の増加などから、全体として回復傾向を辿ると考えられる。

新興国経済のリスクとしては、先進国経済の下振れや国際金融資本市場の動揺を通じた景気のダウンサイド・リスクがなお存在する。一方、アジア地域などでは、海外からの資本流入が続く中、拡張的な金融財政政策による景気刺激効果が予想以上に大きくなる可能性もある。

物価面では、先進国では、需給ギャップのマイナス幅が大きく拡大したもとの、コアベースのインフレ率の低下傾向が続くとみられる。一方、新興国では、需給ギャップがほぼ解消し、高めの成長が続くもとの、インフレ率の上昇圧力が徐々に高まっていくとみられる。

2. 米国の経済・金融動向

2-1. 米国の実体経済（図表4）

○ 米国経済は、持ち直している。

—— 7～9月の実質GDP成長率（第2回推計値）は、前期比年率+2.8%となり、第1回推計値（同+3.5%）から下方改訂された。内訳をみると、政府支出が上方改訂されたが、純輸出や国内民需は下方改訂された。

○ 住宅支出は増加し、住宅価格の下落圧力も弱まっている。

—— 住宅着工件数は、初回住宅購入者向け減税による駆け込み需要の一服から、10月は減少した（7～9月前期比+9.0%→10月の7～9月対比▲10.1%）。もともと、追加景気刺激策として、同減税措置の期限が、今年11月末から翌

年6月末に延長されたこともあり、再び増加傾向に復するとみられる。

- 住宅販売件数は増加している（新築：7～9月前期比+11.1%→10月の7～9月対比+4.1%、中古：同+11.2%→+15.3%）。このところの大幅増については、当初予定されていた11月末における初回住宅購入者向け減税終了前の駆け込み需要の寄与が大きいとみられる。
- 住宅販売件数の増加から、在庫率は、新築・中古ともに低下している¹。もっとも、中古住宅の在庫件数の水準は、差押さえ物件の流入から、引き続き高い状況にある。
- ケース・シラー住宅価格指数（10大都市）は、9月まで4か月連続で上昇した（前月比：8月+1.2%→9月+0.4%）²。

○ 個人消費は、全体としてごく緩やかながらも増加している。

- 10月の実質個人消費は、前月に5か月振りの減少となった後³、再び増加した（9月前月比▲0.7%→10月同+0.4%）。自動車を除いたベースでみると、増加が続いている（8月寄与度+0.4%→9月同+0.3%→10月同+0.2%）。この間、実質可処分所得は、均してみれば、ごく緩やかに増加している（9月前月比+0.1%→10月同+0.2%）⁴。貯蓄率は、このところ4%台で推移しており、2007～08年の水準に比べ高い状態が続いている（2007年1.7%、08年2.7%）。
- 小売売上高（名目、除く自動車・ガソリン・建築資材）は、増加している（7～9月前期比+0.4%→10～11月の7～9月対比+1.2%）。内訳をみると、量販店・百貨店をはじめとする多くの業態で増加している。
- 新車販売台数は、販売促進策の終了した9月に大幅に減少し、1,000万台を割ったが、10月には1,000万台を回復し、11月は約1,100万台となった（9年年率939万台→10月同1,064万台→11月同1,110万台）。
- 消費者コンフィデンス（コンファレンス・ボード指数）は、横這い圏内の動きとなっている（7～9月51.8→10～11月49.1）⁵。

¹ 在庫率は低下傾向を辿っている（新築：9月7.4か月分→10月6.7か月分、中古：9月8.0か月分→10月7.0か月分）。

² FHFA住宅価格指数は横這い圏内の動きとなっている（7月前月比+0.2%→8月同▲0.5%→9月同+0.0%）。

³ 自動車販売促進策（Cash for clunkers）は、財源が8月7日に10億ドルから30億ドルに拡大されたが、申込みの殺到から財源が払底し、同月24日に打ち切られた。これに伴う自動車販売の減少から、9月の個人消費は全体でも減少していた。

⁴ 今回、4～9月の伸び率が上方改訂され、それに伴い貯蓄率も上方改訂されている。

⁵ ミシガン大学指数は、小幅上昇している（7～9月68.4→10～12月70.5）。

- 設備投資の減少は、小幅になっている。
 - 非国防資本財受注（除く航空機）は、均してみると小幅ながら減少が続いている（7月前月比▲1.3%→8月同▲1.0%→9月同+2.9%→10月同▲3.4%）。水準としては、2003年～04年初の低水準圏内での動きとなっている。

- 対外収支を財・サービス貿易収支で見ると、2008年秋以降、赤字幅が大きく縮小していたが、足もとは、自動車や原材料の輸入増加などからやや拡大している。
 - 財・サービス貿易収支は、2008年の月平均が▲580億ドルだったものが、09年4～6月には▲271億ドルまで縮小した後、7～9月は▲325億ドル、10月は▲329億ドルとやや拡大した。

- 製造業の生産は、在庫調整の進捗から持ち直し、非製造業の生産活動も下げ止まっている。
 - 鉱工業生産は、10月まで4か月連続で増加した（9月前月比+0.6%→10月同+0.1%）。内訳を均してみると、原材料や自動車を含む消費財など幅広い品目で増加している。
 - ISM指数・製造業は、改善・悪化の分岐点である50を4か月連続で超えている（7～9月51.5→10～11月54.7）。内訳をみると、新規受注が60近傍で推移するもとの、生産、在庫が上昇傾向を辿っている（新規受注：7～9月60.3→10～11月59.4、生産：同58.5→61.6、在庫：同36.8→44.1）。また、同・非製造業は、50前後で推移している（7～9月48.6→10～11月49.7）。

- 労働市場では、雇用者数の減少が続き、失業率は上昇基調にあるが、雇用者数の減少ペースは和らいできている。
 - 非農業部門の雇用者数は、減少幅が縮小傾向にある（7～9月▲19.9万人→10～11月▲6.1万人、10月▲11.1万人→11月▲1.1万人）⁶。10～11月の内訳をみると、製造業は7～9月並みの減少幅となる一方、非製造業が減少幅を大きく縮小させた。後者については、人材派遣の増加や、建設や小売の減少幅の縮小が寄与した。新規失業保険申請件数（12月5日週まで）も、依然高水準ながら、均してみれば減少傾向を辿っている。もっとも、こうした改善を示す雇用指標の裏側で、恒久的レイオフ比率や平均失業期間は11月に既往ピークを更新している。

⁶ 9、10月の計数は大幅に上方改訂された（9月：▲21.9万人→▲13.9万人、10月：▲19.0万人→▲11.1万人）。

—— 失業率は、11月単月では低下したが、均してみれば上昇基調が続いている（7～9月9.6%→10～11月10.1%、10月10.2%→11月10.0%）。時間当たり賃金の前年比上昇率は、低下傾向にある（10月+2.5%→11月+2.2%）。

○ 物価についてみると、コアベースの消費者物価の前年比は、需給緩和や賃金の伸び鈍化を背景に、プラス幅を緩やかに縮小させている。この間、総合ベースの消費者物価の前年比は、エネルギー価格の前年比が大幅なマイナスとなっていることから、コアベースに比べ、低い水準での推移を続けている。

—— コアベースの前年比は、基調的にはプラス幅の縮小傾向が続いているとみられるが、足もとは、自動車価格が上昇していることや⁷、前年の自動車価格下落や公共交通料金下落の影響が一巡してきていることなどから、プラス幅がやや拡大している（4～6月前年比+1.8%→7～9月同+1.5%→10月同+1.7%）⁸。総合ベースの前年比は、前年のエネルギー価格下落の影響が一巡してきていることから、マイナス幅を縮小した（9月▲1.3%→10月▲0.2%）。この間、長期の期待インフレ率は横這い圏内で推移している⁹。

2-2. 米国の金融市場（図表5）

○ 株価は、ドバイの政府系持ち株会社の債務不履行懸念の影響が一時的にはみられたが、雇用指標や小売売上高が予想を上回る改善をみせたことなどから、通してみれば、前回通常会合対比横這い圏内の動きとなった。長期金利は小幅上昇した。

○ TED スプレッド（ユーロドル3か月物-TB3か月物）は、パリバ・ショック（2007年8月）以前の水準で推移しているほか、ターム物金利の対OIS スプレッドも、2007年夏の水準前後で推移している。社債の対国債スプレッド（除く金融）は、低格付け物を中心に依然高水準ながら、全体として縮小傾向を辿っている。

○ 資金調達動向をみると、銀行貸出残高（12月2日週まで）は、前年比マイナス

⁷ 自動車価格の上昇については、中古車価格の上昇に加え、自動車販売促進策による9月までの新車価格押し下げの反動が寄与しているとみられる。米国の消費者物価における新車価格は、過去30日の取引を平均したデータから算出される。このため、8月下旬まで実施されていた販売促進策による価格押し下げの影響は、統計上9月分にも現れることになる。

⁸ こうした不規則な変動を示す項目を除去した刈り込み平均をみると、減速傾向が続いている。

⁹ 期待インフレ率について、ミシガン大学による家計向けサーベイをみると、5～10年先の期待値は横這い圏内の動きとなっている（11月+3.0%→12月+2.6%）。

で推移している。内訳をみると、商工業向け、個人向け、不動産向けのいずれも前年比マイナスで推移している。一方、社債発行（政府保証債を除くベース）は、堅調に推移した。この間、IPOは低水準ながら増加している（9月12件→10月13件→11月15件）。

3. 欧州の経済・金融動向

3-1. 欧州の実体経済（図表6）

(1) ユーロエリア経済

○ ユーロエリア経済は、持ち直しつつある。

—— 7～9月のユーロエリアの実質GDP（1次推計値）は、速報値と同じ前期比年率+1.5%となった。今回公表された需要項目別内訳をみると、個人消費は弱めの動きが続き、総固定資本形成も減少幅を縮小させつつも6四半期連続で減少した。一方、輸出や在庫投資はプラス寄与に転じた。

○ 輸出は持ち直している。

—— 7～9月のユーロエリアの域外輸出は増加した（4～6月前期比▲0.7%→7～9月同+3.7%）。仕向け地別の内訳をみると、アジアや中南米などの新興国向けが増加しているほか、英国など非ユーロエリア欧州向けも増加している。

—— ドイツの海外受注（ユーロ域外向け）は、機械や自動車、化学などを中心に増加を続けている（7～9月前期比+8.2%→10月の7～9月対比+2.4%）¹⁰。

○ 個人消費は、全体として弱めの動きとなっている。一方、設備投資の減少は小幅になっている。

—— ユーロエリアの小売売上数量（自動車を除く）は、弱めの動きが続いている（7～9月前期比▲0.5%→10月の7～9月対比▲0.3%）。

—— ユーロエリアの新車登録台数は、減速しつつも増加を続けている（7～9月前期比+2.9%→10月の7～9月対比+2.3%）。均してみると、フランスやイタリア、スペインで増加が続く一方、ドイツで自動車販売促進策の反動減が現れている¹¹。

—— ユーロエリアの消費者コンフィデンスは、3月をボトムに、11月まで8か

¹⁰ 10月のドイツの輸出は前月比+2.5%と増加した。均してみても増加している（7～9月前期比+5.4%→10月の7～9月対比+4.0%）。

¹¹ ドイツでは9月初に自動車販売促進策の予算を使い切った。

月連続で改善しているが（10月▲18→11月▲17）、水準としては、なお低い。

— ドイツの国内投資財受注は、自動車販売促進策により増加した7～9月の反動から、減少している（7～9月前期比+9.0%→10月の7～9月対比▲7.8%）。基調としても、小幅ながら減少を続けているとみられる。

○ 製造業の生産は、在庫調整の進捗から、持ち直しつつある¹²。また、非製造業の生産活動も持ち直しつつある。

— ユーロエリアのPMIは、製造業、サービス業ともに、改善・悪化の分岐点である50を超えて推移している（製造業：10月50.7→11月51.2、サービス業：同52.6→53.0）¹³。製造業の内訳をみると、生産、新規受注、在庫がいずれも上昇を続けている（生産：同53.9→54.8、新規受注：同53.7→53.8、在庫：同41.5→42.9）。

○ 消費者物価の前年比（コアベース）は、需給緩和や賃金の伸び鈍化を背景に、プラス幅が緩やかに縮小している。

— ユーロエリアの失業率は上昇傾向を辿っている（7～9月9.6%→10月9.8%）。地域別にみると、スペインやフランスの上昇が目立つ一方、ドイツは、政府による時短手当措置の効果から、このところ横這い圏内の動きとなっている（10月8.2%→11月8.1%）。

— コアベースの消費者物価前年比は、加工食品や衣料品などを中心に、伸びが鈍化している（7～9月+1.2%→10月+1.0%）。総合ベースの前年比は、昨年後半におけるエネルギー価格下落の影響が一巡してきていることから、プラスに転じた（10月▲0.1%→11月+0.6%）。

（2）英国経済

○ 英国経済は、下げ止まっている。個人消費の減少幅は縮小し、生産活動も持ち直してきている。この間、住宅市場では調整が進捗する中、住宅価格は上昇している。

— 7～9月の実質GDP（1次推計値）は、前期比年率▲1.2%となり、速報値（同▲1.6%）から上方改訂された。今回公表された需要項目別内訳をみると、個

¹² ドイツの鉱工業生産（除く建設）は、中間財、自動車など投資財、耐久消費財といった幅広い品目で増加している（7～9月前期比+3.9%→10月の7～9月対比+1.0%）。

¹³ ここでのサービス業の調査対象には金融仲介業（金融機関）も含まれる。

人消費と設備投資の減少幅が縮小し、輸出は増加に転じている。

- 小売売上数量は、家具・家電などを中心に、2 か月連続で増加した（9 月前月比+0.4%→10 月同+0.4%）。新車登録台数は、自動車販売促進策の効果や VAT 引き上げ（1 月）前の駆け込み需要により、11 月まで増加を続けている。この間、消費者コンフィデンスは、改善傾向にある（7~9 月▲22→10~11 月▲14）。
- 住宅価格（ネーションワイド指数）は、11 月まで 7 か月連続で上昇している（10 月前月比+0.5%→11 月同+0.5%）¹⁴。住宅ローン承認件数は、一頃に比べ低水準ではあるが、増加傾向を辿っている。
- 鉱工業生産は、下げ止まっている（7~9 月前期比▲0.9%→10 月の 7~9 月対比 0.0%）。内訳をみると、自動車販売促進策を受けて自動車の生産が増加している。
- PMI は、製造業、サービス業ともに、改善・悪化の分岐点である 50 を超えて推移している（製造業：10 月 53.4→11 月 51.8、サービス業：同 56.9→56.6）。
- 消費者物価の前年比は、前年におけるガソリン価格下落の影響が一巡してきていることなどから、プラス幅が拡大した（9 月+1.1%→10 月+1.5%）。

3-2. 欧州の金融市場（図表 7）

- 金融政策面をみると、ECB は、12 月初の定例政策理事会で、政策金利を 1%で据え置くことを決定するとともに、全額供給方式のオペについて、12 か月物を今年 12 月に終了することなどを決定した¹⁵。BOE は、政策金利（0.5%）と資産買入ファシリティ（APF）の資金枠（2,000 億ポンド）の据え置きを決定した。
- 株価は、米国と同様に、横這い圏内の動きとなった。長期金利（国債 10 年物利回り）は、英国では財政への懸念から小幅上昇した一方、ドイツでは、ギリシャの格下げを受けた質への逃避（ドイツ国債への資金流入）から、若干低下した。
- 短期金融市場におけるターム物金利の対 OIS スプレッドは、2007 年夏の水準前後まで縮小している。一方、社債の対国債スプレッド（除く金融）は、依然高水準ながら、全体として縮小傾向を辿っている。

¹⁴ ハリファックス指数は、11 月まで 5 か月連続で上昇している。

¹⁵ 本年 12 月の 12 か月物オペの適用レートについては、同オペ期間中の政策金利の平均とされた。これまでは足もとの政策金利で固定されていた。

- 資金調達動向をみると、銀行貸出残高は、9月に1992年の統計開始以来初の前年比マイナスとなった後、10月もマイナス幅を拡大している。

4. エマージング諸国・地域の経済・金融動向

4-1. アジア諸国・地域の实体经济（図表8）

(1) 中国経済

- 中国経済は、内需を中心に、高めの成長を続けている。政府による景気刺激策の効果から、個人消費が堅調に推移し、固定資産投資も高伸する中で、生産は増加を続けている。この間、上期まで大きく落ち込んでいた輸出も、増加に転じている。

- 工業生産は、前年比のプラス幅を拡大している（7～9月+12.4%→10～11月+17.7%）。前期比ベースでも、伸びを鈍化させつつも、高めの成長を続けている（7～9月前期比+4.4%→10～11月の7～9月対比+3.8%）。

- 製造業 PMIは、改善・悪化の分岐点である50を超えて推移している（10月55.2→11月55.2）。11月の内訳をみると、多くの項目が概ね前月並みの水準で推移している。

- 小売売上について、前年比をみると、本年入り後、ほぼ等速で推移している（4～6月+15.0%→7～9月+15.4%→10～11月+16.0%）。また、自動車販売は、政府による販売促進策を受け、大幅に増加しており、本年の累計販売台数は1,300万台を超える見通しとなっている。

- 固定資産投資は、高い伸びではあるが、鈍化している（7～9月前年比+32.8%→10～11月同+27.9%）。

- 輸出は、アジア向けや欧米向けなどを中心に増加している（7～9月前期比+6.7%→10～11月の7～9月対比+10.2%）。輸入は、減速しつつも増加を続けている（7～9月前期比+14.5%→10～11月の7～9月対比+3.0%）。

- 消費者物価の前年比はプラスに転化した（10月▲0.5%→11月+0.6%）。前年のエネルギー価格値下げの影響が一巡してきていることなどによるものとみられる。

- M2は、前年比30%弱の高い伸びが続いているほか、貸出も前年比30%強の高い伸びが続いている（M2：10月+29.4%→11月+29.7%、貸出：同+34.2%→+33.8%）。但し、貸出の月間増加額は、上期（月間平均約1.2兆元）に比べ低い水準で推移している（11月2,948億元）。

(2) インド経済

○ インド経済も、高めの成長を続けている。

- 7~9月の実質 GDPは、前年比プラス幅を拡大し、前期比（国際局試算）でも高めの伸びを続けた（前年比：4~6月+6.1%→7~9月+7.9%、前期比年率：同+6.8%→+14.6%）。内訳を前期比で見ると、総固定資本形成、個人消費、政府消費といった内需が大幅に増加している。
- 鉱工業生産は、販売好調な自動車や¹⁶、化学、金属などの中間財を中心に、増加傾向を辿っている（7~9月前期比+5.4%→10月の7~9月対比▲0.8%）。
- 製造業 PMIは、改善・悪化の分岐点である50を超えた後、横這い圏内の動きが続いている（10月54.5→11月53.0）。
- M3は、高い伸びを続けている（10月前年比+18.3%→11月同+18.5%）。貸出は、資本市場調達へのシフトもあって減速しつつも、高めの伸びを続けている（9月前年比+12.7%→10月同+9.5%）。

(3) NIEs・ASEAN 経済

○ NIEs・ASEAN 経済は、回復している。

- 7~9月の実質 GDPが出揃い、多くの国において4~6月に続き、前期比年率5%~15%の高成長となった。内訳をみると、輸出、個人消費、総固定資本形成が増加を続けたほか、在庫投資も引き続きプラス寄与になった。総固定資本形成については、公共投資が横這いとなる中、民間投資を中心に増加した。

○ 輸出や個人消費が増加し、設備投資も持ち直している。

- NIEs・ASEAN の輸出合成指数は、増加を続けている（7~9月前期比+9.1%→10月の7~9月対比+8.2%）¹⁷。輸出の動きを仕向け地別にみると、中国などアジア向けやその他新興国向けが増加しているほか、米欧向けも持ち直している。
- 内需関連指標をみると、韓国では、小売数量指数、機械投資推計指数ともに上昇傾向を辿っており、消費者信頼感指数も高めの水準で推移している。台湾でも、消費者コンフィデンスが、株価に対する見方の改善などから上昇

¹⁶ 四輪車販売は、増加を続けている（7~9月前期比+11.8%→10~11月の7~9月対比+5.4%）。

¹⁷ 輸出合成指数は、NIEs・ASEAN8か国・地域（韓国、台湾、シンガポール、香港、タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン）の輸出金額を合算したもの（国際局試算、対外非公表）。

を続けるもとで、小売指数が伸びを高めている。タイでは、民間消費指数、民間投資指数がともに増加傾向を辿っている。

○ 生産は増加している。

—— NIEs・ASEANの生産合成指数は、減速しながらも増加基調を続けている（7～9月前期比+6.6%→10月の7～9月対比▲0.3%）¹⁸。台湾、タイの生産はいずれも、増加傾向を辿っている。韓国の生産は、10月単月では営業日数要因から減少したが、企業景気実査指数をみると、改善・悪化の分岐点である100を超えて推移している（10月107.8→11月105.1）。

○ 消費者物価の前年比（コアベース）は、韓国やインドネシアで低下傾向を辿る一方、台湾ではマイナス幅が若干縮小しているほか、タイではプラスに転化している。

—— 11月の消費者物価の前年比（コアベース）をみると、韓国とインドネシアでは引き続きプラス幅が縮小した（韓国：10月+2.6%→11月+2.5%、インドネシア：同+4.5%→+4.3%）。一方、台湾では、タバコの値上げもあって2か月連続でマイナス幅が縮小したほか、タイでは、前年における燃料価格・公共運賃下落の影響一巡から、前年比プラスに転じた。

4-2. エマージング諸国・地域の金融市場（図表9）

○ ドバイ問題により一時的に調整する場面もみられたが、アジアやラ米地域の良好なファンダメンタルズが再認識されるにつれ、影響は限定的との見方が広がったことなどから、全体としてみれば、株価、国債金利の対米スプレッドともに前回通常会合対比ほぼ横這いとなった。この間、通貨は区々の動きとなった。

○ 個別のエマージング金融市場の動きで目立ったものは以下の通り。

—— 中国では、政府が自己資本比率の引き上げを銀行に指示したとの報道（中小行：8%→10%、大手行：8%→11%）から、株価が下落した。マクロ経済政策面では、11月末の中央政治局会議や12月上旬の中央経済工作会議で、緩和的な金融財政政策の継続が確認されたほか、国務院常務会議では自動車販売促進策の期限延長が決定された。すなわち、農村向け補助制度の期限は延長され（12月末→2010年末）、1600cc以下の自動車販売促進策についても、車両取得税減税の期限が延長された（12月末まで5%〈従来10%〉→2010年

¹⁸ 生産合成指数は、NIEs・ASEAN6 各国・地域（香港、インドネシアについては利用可能な統計がない）の生産指数を各国GDPウェイトで加重平均したもの（国際局試算、対外非公表）。

一杯は 7.5%)。また、自動車の買い替えに対する補助金も引き上げられた (3,000 元~6,000 元→5,000 元~1.8 万元)。

—— ドバイ政府は、11 月 25 日、政府系持ち株会社の債務返済延期を債権者に依頼することを発表し、これを受けて、同社と銀行団との交渉が始まっている。足もとでは 12 月 14 日償還予定のイスラム債の扱いに注目が集まっていたが、14 日当日、アブダビ政府がドバイ政府運営のファンドに資金を提供し、当該ファンドの資金を用いて償還が行われることが発表された。

—— ドバイ問題のアジアへの影響については、大手銀行 HSBC の損失が懸念された香港や、イスラム金融への悪影響が懸念されたマレーシアで前回通常会合対比、株価が下落した一方、エクスポージャーが小さいことを政府が発表したシンガポールで株価が上昇した。

—— インドでは、7~9 月の実質 GDP が予想を上回る結果となったことから株価が上昇した。

—— 豪州準備銀行は、12 月初、3 か月連続の利上げを決定した (3.5%→3.75%)。もっとも、利上げペースの鈍化観測から、通貨は下落している。

—— ロシア、ハンガリー、トルコでは、引き続き利下げが行われた (ロシア : 9.5%→9%、ハンガリー : 7%→6.5%、トルコ : 6.75%→6.5%)。

以 上

<不開示情報：有（種類：審議・検討）>
<配付先：金融政策決定会合関係者限り>
<作成局における保管期間満了時期：2039年12月>

2009.12.14

国際局

「海外経済・国際金融の現状評価」参考計表

(図表1)	米国の主要経済指標	1
(図表2)	欧州の主要経済指標	2～3
(図表3)	アジア諸国・地域の主要経済指標	4～6
(図表4)	米国の実体経済	7～13
(図表5)	米国の金融市場	14～20
(図表6)	欧州の実体経済	21～26
(図表7)	欧州の金融市場	27～30
(図表8)	アジア諸国・地域の実体経済	31～38
(図表9)	エマージング諸国・地域の金融市場	39～45
(図表10)	国際機関及び民間の海外経済・物価見通し	46

(図表1)

米国の主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(11月19日)以降に判明したものの。

	2007年	2008年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/9月	10月	11月
1. 実質GDP ＜前期比年率、％＞	2.1	0.4	▲ 0.7	<11/24改訂> 2.8				
2. 実質可処分所得 ＜前期比、％＞	2.2	0.5	1.5	▲ 0.4	0.2	0.1	<11/25公表> 0.2	
3. 実質個人消費 ＜前期比、％＞	2.6	▲ 0.2	▲ 0.2	0.7	0.3	▲ 0.7	<11/25公表> 0.4	
4. 家計貯蓄率 ＜対可処分所得比、％＞	1.7	2.7	5.4	4.5	4.4	4.6	<11/25公表> 4.4	
5. 小売売上高 (除く自動車、ガソリン、建築資材) ＜前期比、％＞	4.5	2.3	▲ 0.7	0.4	1.2	0.6	0.3	<12/11公表> 0.6
6. 自動車販売 (年率、万台) ＜前期比、％＞	1,646	1,349	975	1,169	1,087	939	1,064	<12/2公表> 1,110
	▲ 3.5	▲ 18.0	0.8	19.8	▲ 7.0	▲ 34.2	13.3	4.3
7. 消費者コンフィデンス指数	103.3	57.9	48.3	51.8	49.1	53.4	48.7	<11/24公表> 49.5
8. 住宅着工 (年率、千戸) ＜前期比、％＞	1,355	906	540	589	529	592	529	
	▲ 24.8	▲ 33.2	2.3	9.0	▲ 10.1	1.9	▲ 10.6	
9. ケース・シー住宅価格指数(10大都市) ＜前期比、％＞ (前年比、％)			▲ 2.7	2.7		<11/24公表> 0.4		
	▲ 4.4	▲ 16.7	▲ 16.6	▲ 10.6		▲ 8.5		
10. 非国防資本財受注(除く航空機) ＜前期比、％＞ (前年比、％)			0.9	2.9	▲ 1.8	2.9	▲ 3.4	<12/4改訂>
	▲ 2.6	▲ 0.3	▲ 23.5	▲ 18.5	▲ 12.7	▲ 14.7	▲ 12.7	
11. 財・サービス貿易収支 (億ドル)	▲ 584.5	▲ 579.9	▲ 270.8	▲ 324.6	▲ 329.4	▲ 356.5	▲ 329.4	<12/10公表>
12. ISM 製造業指数	51.1	45.5	42.6	51.5	54.7	52.6	55.7	<12/1公表> 53.6
非製造業指数	53.5	47.4	44.9	48.6	49.7	50.9	50.6	<12/3公表> 48.7
13. 鉱工業生産 ＜前期比、％＞ (前年比、％)			▲ 2.7	1.4	0.9	0.6	0.1	
	1.5	▲ 2.2	▲ 13.5	▲ 9.3	▲ 7.0	▲ 6.3	▲ 7.0	
14. 失業率 (除く軍人、％)	4.6	5.8	9.2	9.6	10.1	9.8	10.2	<12/4公表> 10.0
15. 非農業部門雇用者数 (増減数、千人/月)	96	▲ 257	▲ 428	▲ 199	▲ 61	▲ 139	▲ 111	<12/4公表> ▲ 11
うち民間部門	72	▲ 270	▲ 425	▲ 171	▲ 88	▲ 100	▲ 157	▲ 18
16. CPI ＜前期比、％＞ (前年比、％)			0.3	0.9	0.5	0.2	0.3	
	2.9	3.8	▲ 1.2	▲ 1.6	▲ 0.2	▲ 1.3	▲ 0.2	
コア＜前期比、％＞ (前年比、％)			0.6	0.4	0.3	0.2	0.2	
	2.3	2.3	1.8	1.5	1.7	1.5	1.7	
17. 非農業部門労働生産性 ＜前期比年率、％＞ (前年比、％)			6.9	<12/3改訂> 8.1				
	1.8	1.8	1.9	4.0				
18. ユニット・レーバー・コスト ＜前期比年率、％＞ (前年比、％)			▲ 0.0	<12/3改訂> ▲ 2.5				
	2.3	1.0	0.3	▲ 1.4				

※ 直近四半期の計数については、公表済月までの平均を用いて算出。

(注) ・前期(月)比は季調済みベース。

・財・サービス貿易収支の年計数および四半期計数は月平均に換算。

・雇用者増減数(期末差)の年計数および四半期計数は月平均に換算。

・CPIコアは食料品、エネルギーを除いたベース。

ユーロエリアの主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(11月19日)以降に判明したもの。

※

		2007年	2008年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/8月	9月	10月	11月
1. 実質GDP	<前期比年率、%>	2.7	0.6	▲0.6	<12/3改訂> 1.5					
独 実質GDP	<前期比年率、%>	2.5	1.3	1.8	<11/24改訂> 2.9					
仏 実質GDP	<前期比年率、%>	2.3	0.3	1.1	1.1					
2. 輸出	<前期比、%>			▲0.7	3.7		▲4.1	5.5		
	(前年比、%)	11.0	3.6	▲23.4	▲19.1		▲21.1	▲18.4		
3. 独 海外受注(域外)	<前期比、%>			9.6	8.2	2.4	6.3	3.6	<12/7公表> ▲1.9	
	(前年比、%)	10.3	▲5.5	▲30.8	▲19.5	▲8.8	▲24.6	▲11.7	▲8.8	
4. 独 国内投資財受注	<前期比、%>			▲0.6	9.0	▲7.8	▲3.8	▲8.0	<12/7公表> ▲1.2	
	(前年比、%)	8.6	▲6.9	▲26.3	▲15.9	▲14.8	▲18.0	▲19.0	▲14.8	
5. 輸入	<前期比、%>			▲4.9	0.0		▲1.0	1.1		
	(前年比、%)	8.4	8.1	▲27.3	▲26.5		▲26.0	▲24.5		
6. 小売売上数量	<前期比、%>			▲0.3	▲0.5	▲0.3	▲0.0	▲0.5	<12/3公表> 0.0	
	(前年比、%)	1.8	▲0.6	▲2.3	▲2.2	▲1.9	▲2.0	▲2.8	▲1.9	
7. 新車登録台数	(年率、万台)	1,162	1,075	1,120	1,153	1,179	1,120	1,166	1,179	
	<前期比、%>	▲0.5	▲7.0	12.7	2.9	2.3	▲4.3	4.1	1.1	
8. 消費者コンフィデンス	(DI、%)	▲5	▲18	▲28	▲21	▲18	▲22	▲19	▲18	<11/27公表> ▲17
9. 鉱工業生産	<前期比、%>			▲1.0	2.2		1.2	0.3		
	(前年比、%)	3.7	▲1.8	▲18.6	▲14.6		▲15.1	▲12.9		
10. 製造業PMI(購買担当者指数)(DI、%)		54.3	46.5	40.0	47.9	51.0	48.2	49.3	50.7	<12/1改訂> 51.2
サービス業PMI事業活動指数(DI、%)		56.6	48.5	44.4	48.8	52.8	49.9	50.9	52.6	<12/3改訂> 53.0
11. 失業率	(%)	7.5	7.6	9.3	9.6	9.8	9.6	9.8	<12/1公表> 9.8	
12. 消費者物価	(前年比、%)	2.1	3.3	0.2	▲0.4	0.2	▲0.2	▲0.3	▲0.1	<11/30公表> 0.6
コア	(前年比、%)	2.0	2.4	1.5	1.2	1.0	1.2	1.1	1.0	

※ 直近四半期の計数については、公表済みまでの平均をベースに算出。

(出所) 欧州委員会 (Eurostat)、ECB、Deutsche Bundesbank、Statistisches Bundesamt、INSEE、Datastream、Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2009. All rights reserved.)

(注) ・ユーロエリアに関する計数・図表のうち、消費者物価・M3・貸出は各時期のユーロ構成国ベース。

・実質GDPの年率換算値は、当局計算による。なお、ユーロエリアとドイツの暦年の計数は、未季調ベース。

・前期(月)比は季調済みベース。

・消費者物価コアは、エネルギー、非加工食品を除いたベース。

・消費者物価の直近11月は、速報値。また全体以外は未公表。

(図表2-2)

英国の主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(11月19日)以降に判明したもの。

		※								
		2007年	2008年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/8月	9月	10月	11月
1. 実質GDP	<前期比年率、%>	2.6	0.6	▲2.3	▲1.2					
2. 小売売上数量	<前期比、%>			0.9	1.1	0.7	0.0	0.4	0.4	
	(前年比、%)	4.2	2.6	1.1	2.7	3.4	2.1	2.9	3.4	
3. 消費者コンフィデンス	(DI、%)	▲7	▲29	▲27	▲22	▲14	▲25	▲15	▲12	▲17
4. 鉱工業生産	<前期比、%>			▲0.6	▲0.9	0.0	▲2.6	1.3	0.0	
	(前年比、%)	0.3	▲3.1	▲11.9	▲10.8	▲8.4	▲11.9	▲10.8	▲8.4	
5. 製造業PMI(購買担当者指数)	(DI、%)	54.4	44.9	45.2	50.1	52.6	50.1	49.9	53.4	51.8
サービス業PMI事業活動指数	(DI、%)	56.3	47.6	50.7	54.2	56.8	54.1	55.3	56.9	56.6
6. 失業率(失業保険ベース)	(%)	2.7	2.8	4.7	4.9	5.1	4.9	5.0	5.1	
7. CPI	(前年比、%)	2.3	3.6	2.1	1.5	1.5	1.6	1.1	1.5	
8. 住宅価格(Nationwide指数)	(前年比、%)	9.2	▲6.7	▲11.9	▲3.0	2.4	▲2.7	0.0	2.0	2.7

※直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(出所) ONS, Datastream, Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2009. All rights reserved.)

(注) 実質GDPの年率換算値と、消費者コンフィデンスの季調値は、当局計算による。

アジア諸国・地域の主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(11月19日)以降に判明したもの。

1. 中国

(前年比、%)

	2007年	2008年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/9月	10月	11月
1. 実質GDP 〈内は季調済前期比年率〉	13.0	9.0	7.9 〈 18.6 〉	8.9 〈 11.0 〉				
2. 工業生産 〈〉内は前期比	18.5	12.9	9.1 〈 6.3 〉	12.4 〈 4.4 〉	17.7 〈 3.8 〉	13.9 〈 2.1 〉	16.1 〈 1.5 〉	19.2 〈 1.0 〉
3. 製造業PMI*	55.0	50.2	53.3	53.9	55.2	54.3	55.2	55.2
4. 消費財小売売上総額	16.8	21.6	15.0	15.4	16.0	15.5	16.2	15.8
5. 固定資産投資	25.8	26.1	35.9	32.8	27.9	35.0	31.6	24.3
6. 輸出 〈〉内は前期比	25.8	17.4	▲ 23.5 〈 ▲ 2.7 〉	▲ 20.5 〈 6.7 〉	▲ 7.8 〈 10.2 〉	▲ 15.2 〈 11.2 〉	▲ 13.8 〈 ▲ 0.0 〉	▲ 1.2 〈 6.4 〉
7. 輸入 〈〉内は前期比	20.8	18.5	▲ 20.3 〈 18.3 〉	▲ 11.8 〈 14.5 〉	8.3 〈 3.0 〉	▲ 3.5 〈 21.4 〉	▲ 6.4 〈 ▲ 5.1 〉	26.7 〈 ▲ 5.3 〉
8. CPI	4.8	5.9	▲ 1.5	▲ 1.3	0.0	▲ 0.8	▲ 0.5	0.6
9. M2	16.7	17.8	28.5	29.3	29.7	29.3	29.4	29.7
10. 人民元貸出	16.1	18.7	34.4	34.2	33.8	34.2	34.2	33.8

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。M2、人民元貸出の年、四半期計数は期末月の前年比。

(注2) 実質GDP、工業生産、輸出入の季調値は、X-12-ARIMAによる当局算出値。

(注3) *印は、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。中国物流購買連合会が公表するデータを使用。

(注4) 固定資産投資は、都市部、当期の値。中国国家统计局が公表する年初来累計値と同前年比伸び率を用いて当局で試算。

2. インド

(前年比、%)

	2007年	2008年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/9月	10月	11月
1. 実質GDP 〈内は季調済前期比年率〉	9.3	7.5	6.1 〈 6.8 〉	7.9 〈 14.6 〉				
個人消費	7.7	4.4	1.6 〈 ▲ 4.7 〉	5.6 〈 17.6 〉				
総固定資本形成	14.5	8.8	4.2 〈 1.5 〉	7.3 〈 39.6 〉				
2. 鉱工業生産 〈〉内は前期比	9.9	4.4	3.8 〈 3.6 〉	9.2 〈 5.4 〉	10.3 〈 ▲ 0.8 〉	9.6 〈 1.3 〉	10.3 〈 ▲ 2.1 〉	
3. 製造業PMI*	56.4	55.5	54.8	54.5	53.7	55.0	54.5	53.0
雇用*	51.0	50.9	50.1	49.8	50.5	49.9	50.8	50.3
4. 卸売物価	4.8	9.1	0.5	▲ 0.1	1.3	0.5	1.3	
5. M3	22.8	19.7	20.1	19.0	18.5	19.0	18.3	18.5
6. 貸出	21.4	23.2	15.1	12.7	9.5	12.7	9.5	

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。M3、貸出の年、四半期計数は期末月の前年比。

(注2) 実質GDPの季調値は、X-11による当局算出値。鉱工業生産の季調値は、X-12-ARIMAによる当局算出値。

(注3) *印は、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(注4) 貸出は指定商業銀行ベース。

(出所) CEIC、Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2009. All rights reserved.)

(図表3-2)

3. NIEs、ASEAN諸国・地域

(1) 実質GDP

(季調済前期比年率、()内は前年比、%)

	2006年	2007年	2008年	2008/3Q	4Q	2009/1Q	2Q	3Q
韓国	5.2	5.1	2.2	1.0 (3.1)	▲ 18.8 (▲ 3.4)	0.5 (▲ 4.2)	11.0 (▲ 2.2)	13.6 (0.9)
台湾	5.4	6.0	0.7	▲ 13.7 (▲ 0.8)	▲ 13.7 (▲ 7.1)	▲ 11.3 (▲ 9.1)	18.8 (▲ 6.9)	8.3 (▲ 1.3)
香港	7.0	6.4	2.4	▲ 3.2 (1.5)	▲ 7.4 (▲ 2.6)	▲ 16.1 (▲ 7.8)	14.8 (▲ 3.6)	1.6 (▲ 2.4)
シンガポール	8.4	7.8	1.1	▲ 2.1 (0.0)	▲ 16.4 (▲ 4.2)	▲ 12.2 (▲ 9.5)	21.7 (▲ 3.3)	14.2 (0.6)
タイ	5.1	4.9	2.5	▲ 2.6 (2.9)	▲ 18.0 (▲ 4.2)	▲ 6.0 (▲ 7.1)	9.0 (▲ 4.9)	5.5 (▲ 2.8)
インドネシア	5.5	6.3	6.1	5.4 (6.4)	1.4 (5.2)	4.1 (4.4)	5.3 (4.0)	5.8 (4.2)
マレーシア	5.8	6.2	4.6	▲ 1.2 (4.8)	▲ 7.3 (0.1)	▲ 17.2 (▲ 6.2)	12.2 (▲ 3.9)	10.0 (▲ 1.2)
フィリピン	5.3	7.1	3.8	3.0 (4.6)	1.1 (2.9)	▲ 8.3 (0.6)	7.0 (0.8)	4.1 (0.8)

(注1) 季節調整値は、韓国、台湾、香港、シンガポール、タイ、フィリピンが現地統計。その他はX-11による当局算出値。

(注2) 実質GDPの年率換算値は、当局計算による。

(2) 輸出

(名目米ドルベース、季調済前期比、()内は前年比、%)

	2007年	2008年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/9月	10月	11月
輸出合成指数	11.7	11.4	8.1	9.1	8.2			
うちIT関連寄与度			3.9	0.8	1.2			
韓国 <29.5>	14.1	13.6	13.1 (▲ 20.8)	8.4 (▲ 17.4)	3.3 (3.4)	13.0 (▲ 9.0)	▲ 3.6 (▲ 8.5)	0.7 (18.8)
台湾 <17.9>	10.1	3.6	8.9 (▲ 32.0)	13.2 (▲ 20.9)	8.1 (6.0)	7.0 (▲ 12.7)	4.7 (▲ 4.7)	▲ 2.3 (19.4)
タイ <12.5>	18.6	15.5	▲ 0.2 (▲ 26.2)	13.8 (▲ 17.7)	6.1 (▲ 3.0)	8.1 (▲ 8.5)	▲ 1.1 (▲ 3.0)	
インドネシア <9.6>	13.2	20.1	10.1 (▲ 26.2)	8.3 (▲ 19.3)	17.7 (10.1)	▲ 4.7 (▲ 19.8)	18.7 (10.1)	

(参考) 新規輸出受注PMI*

	2007年	2008年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/9月	10月	11月
韓国	53.7	48.3	50.9	53.9	51.8	52.7	51.2	52.4
台湾	60.1	43.1	53.3	59.4	61.4	60.6	62.6	60.1

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) 合成指数は、直近は10月の値。直近月まで公表されていないデータは、前月の前年比で横置きしている。

(注3) 輸出の季節調整値は、X-12-ARIMAによる当局算出値。

(注4) 輸出の< >内は、合成指数に占めるシェア(%)、2008年)。

(注5) 輸出、輸出合成指数はともに金額ベース。

(注6) 合成指数のIT関連は、標準国際貿易分類における、事務機器、データ処理機械、通信機器、音響機器、電気機械、家電製品、光学機器などの項目、また他分類ではこれらに該当する項目で定義。

(注7) *印は、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(出所) CEIC、Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2009. All rights reserved.)

(図表3-3)

(3) 生産関連

(季調済前期比、()内は前年比、%)

		2007年	2008年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/9月	10月	11月
生産合成指数		6.2	1.7	11.3	6.6	▲ 0.3			
うちIT関連寄与度				6.0	2.2	0.2			
韓国	鉱工業生産指数	6.9	3.0	11.4 (▲ 6.2)	7.1 (4.2)	▲ 0.7 (0.2)	5.6 (11.0)	▲ 3.8 (0.2)	
	企業景気実査指数 [†] (季調済)	99.8	82.0	92.0	104.2	106.5	107.2	107.8	105.1
台湾	鉱工業生産指数	7.8	▲ 1.8	17.3 (▲ 16.6)	7.0 (▲ 5.4)	4.0 (6.6)	7.0 (1.7)	▲ 0.5 (6.6)	
タイ	製造業生産指数	8.2	5.3	9.7 (▲ 9.2)	4.0 (▲ 5.0)	5.0 (0.4)	9.8 (1.9)	0.1 (0.4)	

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) 合成指数は、直近は10月の値。直近月まで公表されていないデータは、前月の値で横置きしている。

(注3) 生産指数の季節調整値は、現地統計またはX-12-ARIMAによる当局算出値。

(注4) 生産、生産合成指数はともに数量ベース。

(注5) 合成指数のIT関連は、標準国際貿易分類における、事務機器、データ処理機械、通信機器、音響機器、電気機械、家電製品、光学機器などの項目、また他分類ではこれらに該当する項目で定義。

(注6) †印は、100を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(4) 内需関連

(季調済前期比、()内は前年比、%)

		2007年	2008年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/9月	10月	11月
韓国	小売数量指数	5.0	1.0	5.0 (1.6)	1.5 (3.5)	3.9 (9.8)	1.7 (6.6)	2.9 (9.8)	
	消費者信頼感指数 [†]	104.0	90.8	103.0	112.3	115.0	114.0	117.0	113.0
	機械投資推計指数	8.2	▲ 4.3	6.6 (▲ 13.4)	4.2 (▲ 10.1)	6.2 (0.3)	17.9 (5.0)	▲ 5.8 (0.3)	
台湾	小売指数	1.8	▲ 4.3	(▲ 1.4)	(4.8)	(7.9)	(5.4)	(7.9)	
	消費者コンフィデンス [†]	66.2	58.7	51.1	55.2	61.5	56.5	60.6	62.5
タイ	民間消費指数(PCI)	1.5	3.6	1.1 (▲ 4.3)	4.2 (▲ 2.4)	0.7 (▲ 0.9)	4.5 (▲ 1.1)	▲ 1.1 (▲ 0.9)	
	民間投資指数(PII)	▲ 0.5	3.7	▲ 4.1 (▲ 16.0)	4.9 (▲ 12.8)	3.4 (▲ 10.4)	2.6 (▲ 11.1)	1.0 (▲ 10.4)	

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) †印は、100を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(5) 消費者物価指数(CPI)

(前年比、%)

		2007年	2008年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/9月	10月	11月
韓国	()内はコア	2.5 (2.3)	4.7 (4.3)	2.8 (3.9)	2.0 (3.0)	2.2 (2.6)	2.2 (2.7)	2.0 (2.6)	2.4 (2.5)
台湾	()内はコア	1.8 (1.4)	3.5 (3.1)	▲ 0.8 (▲ 0.0)	▲ 1.3 (▲ 0.9)	▲ 1.7 (▲ 0.9)	▲ 0.9 (▲ 1.0)	▲ 1.9 (▲ 0.9)	▲ 1.6 (▲ 0.8)
タイ	()内はコア	2.2 (1.1)	5.5 (2.3)	▲ 2.8 (▲ 0.1)	▲ 2.2 (▲ 0.5)	1.1 (0.0)	▲ 1.0 (▲ 0.1)	0.4 (▲ 0.1)	1.9 (0.1)
インドネシア	()内はコア	6.4 (5.9)	9.8 (N/A)	5.6 (6.4)	2.8 (4.9)	2.5 (4.4)	2.8 (4.9)	2.6 (4.5)	2.4 (4.3)

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) 韓国のCPIコアは、CPI総合から穀物以外の農産物、石油関連製品を控除。台湾のCPIコアは、CPI総合から生鮮食料品およびエネルギーを控除。タイのCPIコアは、CPI総合から非加工食品、エネルギーを控除。インドネシアのCPIコアは、CPI総合から、政府の規制価格の影響がある項目および生鮮食料品を控除。

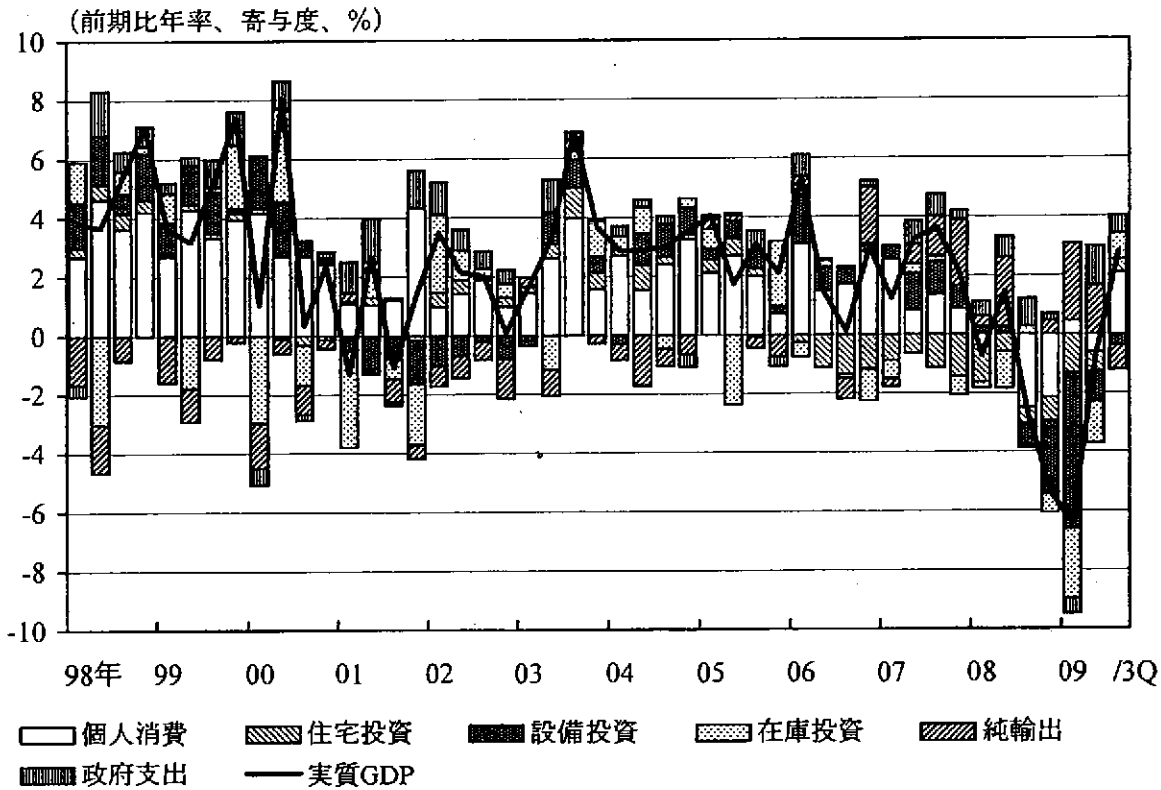
(注3) インドネシアは、2008年以降の計数は2007年基準、その他は2002年基準。2007年基準のCPIコアは、一部未公表。

(出所) CEIC

米国の実体経済

① 米国の実質GDP

(1) 実質GDPの需要項目別寄与度



(2) 需要項目別計数

実質・年率、% ()内は前期比増減、10億ドル

	2008年 ウエイト	寄与度分解					前期比年率				
		2008年 通年	2009年				2008年 通年	2009年			
			1Q	2Q	3Q	(改訂前)		1Q	2Q	3Q	(改訂前)
実質GDP	100	0.4	▲ 6.4	▲ 0.7	2.8	3.5	0.4	▲ 6.4	▲ 0.7	2.8	3.5
個人消費	70	▲ 0.2	0.4	▲ 0.6	2.1	2.4	▲ 0.2	0.6	▲ 0.9	2.9	3.4
住宅投資	3	▲ 1.0	▲ 1.3	▲ 0.7	0.5	0.5	▲ 22.9	▲ 38.2	▲ 23.3	19.5	23.4
設備投資	12	0.2	▲ 5.3	▲ 1.0	▲ 0.4	▲ 0.2	1.6	▲ 39.2	▲ 9.6	▲ 4.1	▲ 2.5
在庫投資	▲ 0	▲ 0.4	▲ 2.4	▲ 1.4	0.9	0.9	(▲ 45.4)	(▲ 76.5)	(▲ 46.3)	(26.8)	(29.4)
純輸出	▲ 4	1.2	2.6	1.7	▲ 0.8	▲ 0.5	(153.4)	(84.4)	(56.1)	(▲ 27.6)	(▲ 17.9)
輸出	12	0.6	▲ 4.0	▲ 0.5	1.7	1.5	5.4	▲ 29.9	▲ 4.1	17.0	14.7
輸入	16	0.6	6.6	2.1	▲ 2.5	▲ 2.0	▲ 3.2	▲ 36.4	▲ 14.7	20.8	16.4
政府支出	19	0.6	▲ 0.5	1.3	0.6	0.5	3.1	▲ 2.6	6.7	3.1	2.3
最終需要	100	0.8	▲ 4.1	0.7	1.9	2.6	0.8	▲ 4.1	0.7	1.9	2.5

%

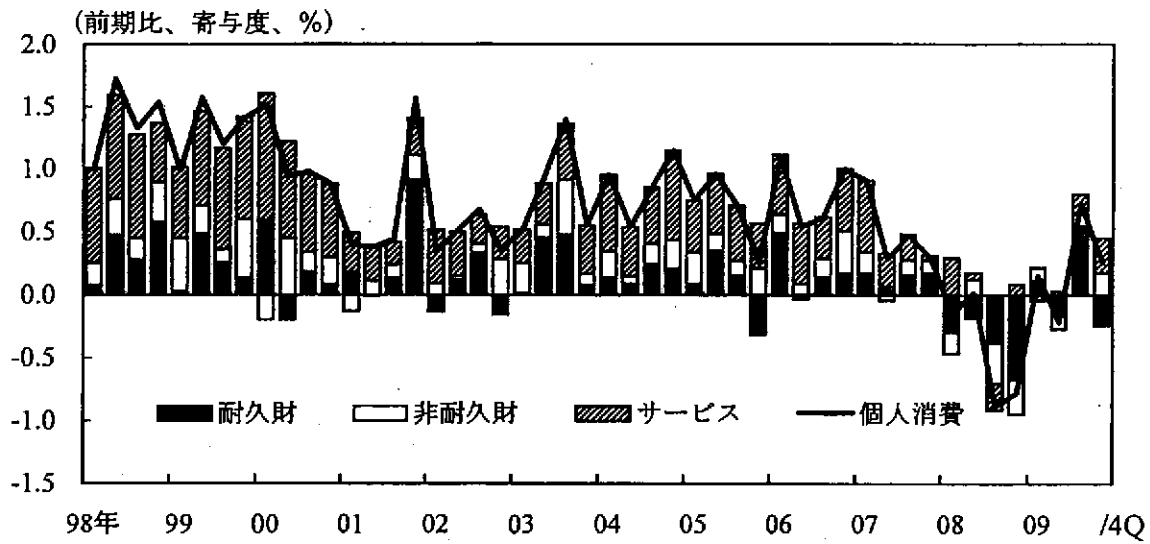
個人消費デフレーター	前年比					前期比年率				
	2008年 通年	2009年				2008年 通年	2009年			
		1Q	2Q	3Q	(改訂前)		1Q	2Q	3Q	(改訂前)
総合	3.3	0.4	▲ 0.2	▲ 0.7	▲ 0.6	3.3	▲ 1.5	1.4	2.7	2.8
コア	2.4	1.7	1.6	1.3	1.3	2.4	1.1	2.0	1.3	1.4

(注) 最終需要は、実質GDPから在庫投資を除いたもの。

② 米国の個人消費関連

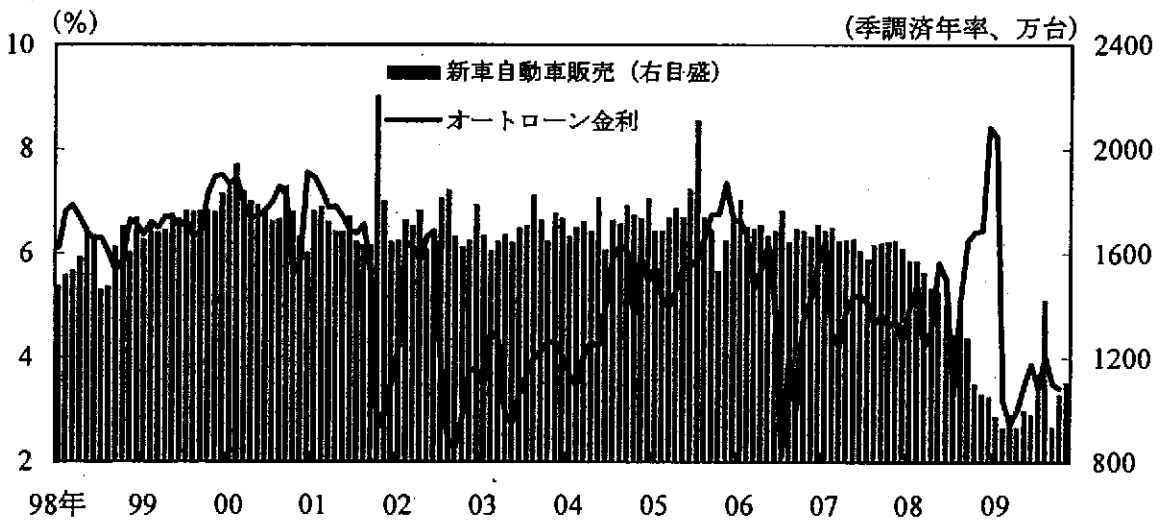
(図表4-2)

(1) 個人消費



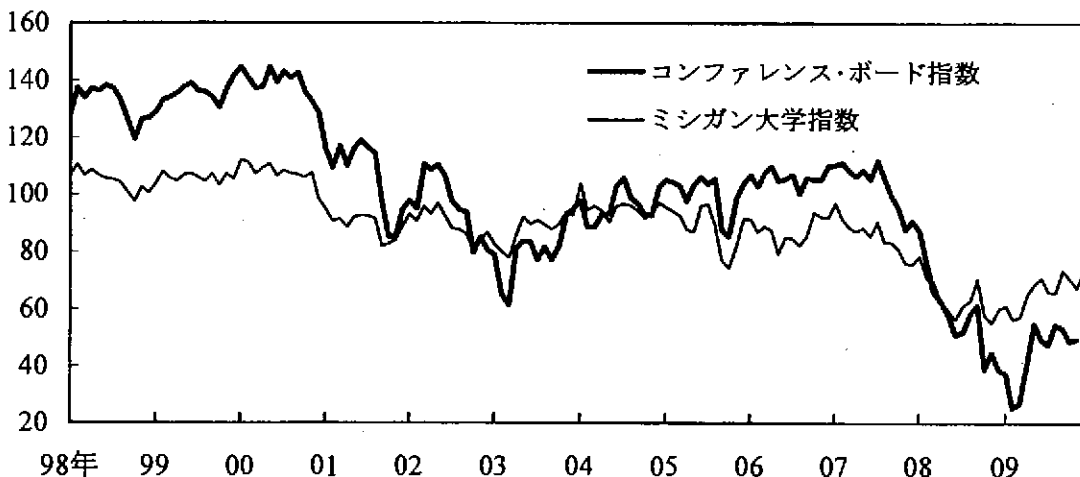
(注) 2009/4Qは10月の値。

(2) 自動車販売



(注) 直近は、新車販売台数が11月、オートローン金利が10月。

(3) 消費者コンフィデンス



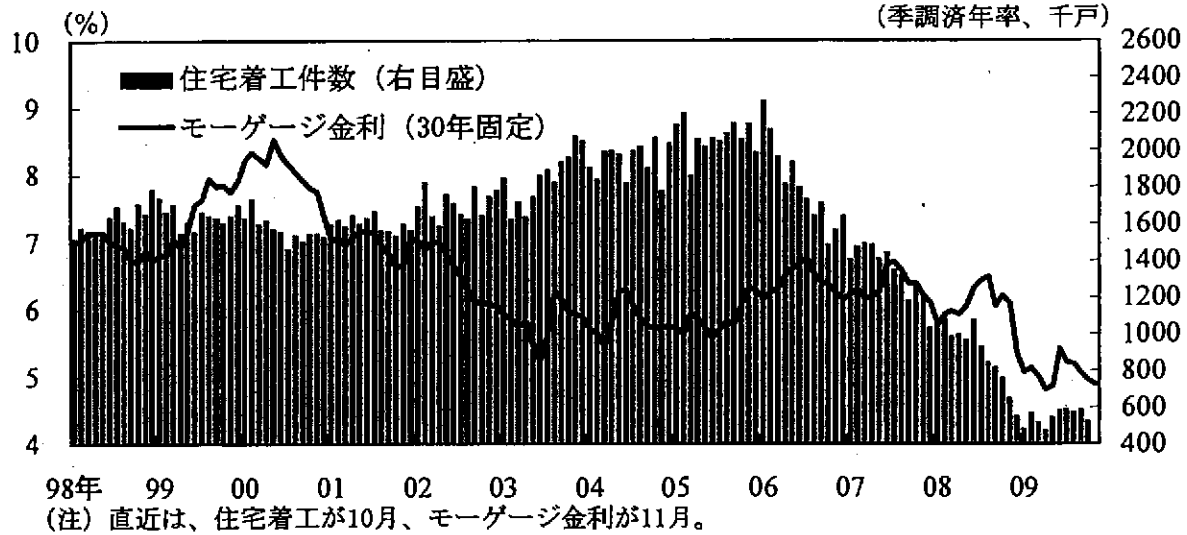
(注1) コンファレンス・ボード指数は1985年=100、ミシガン大学指数は1966/1Q=100。

(注2) 直近は、コンファレンス・ボード指数が11月、ミシガン大学指数が12月(速報値)。

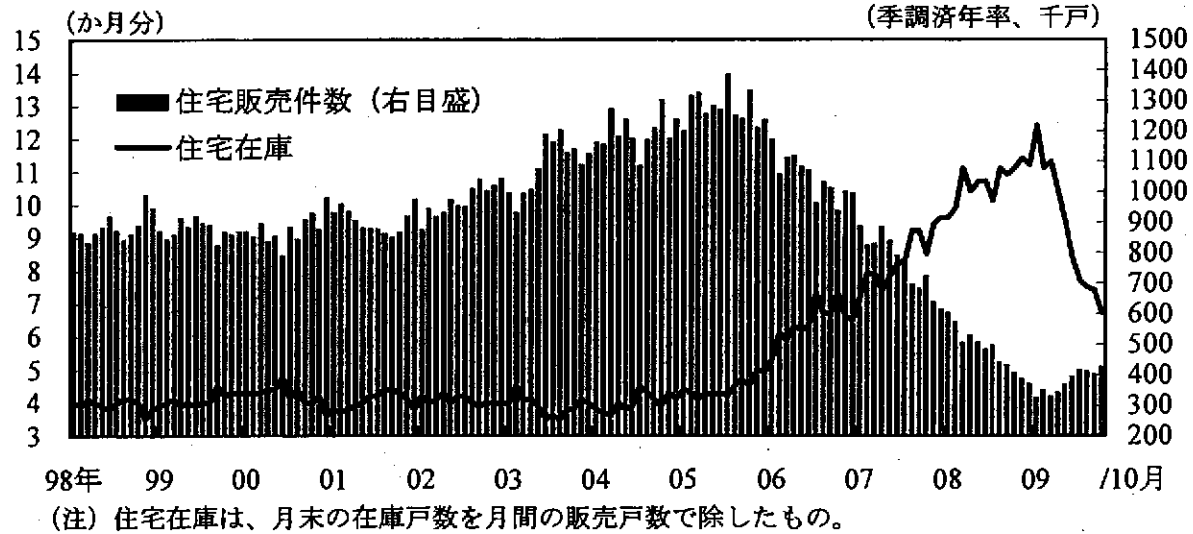
③ 米国の住宅投資

(図表4-3)

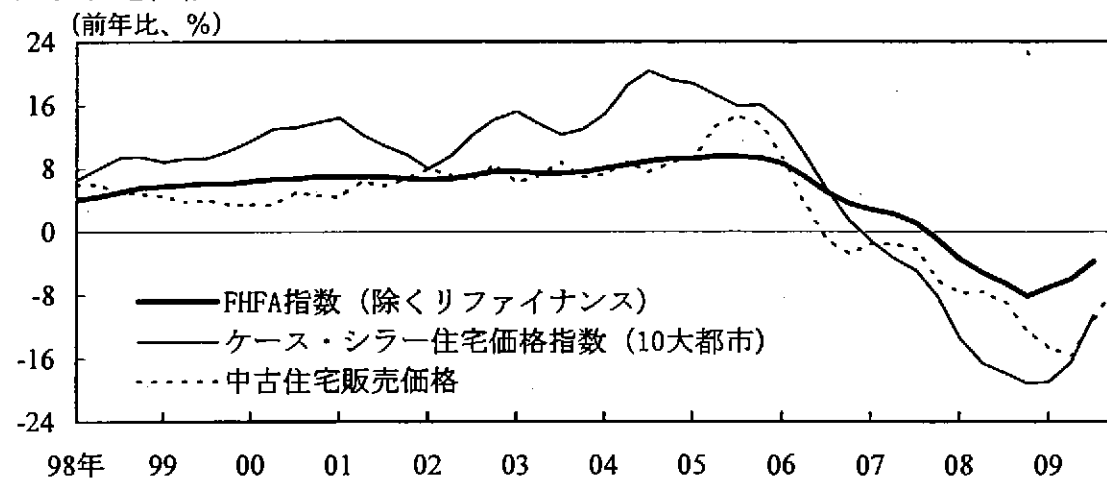
(1) モーゲージ金利と住宅着工



(2) 新築一戸建て住宅販売と住宅在庫



(3) 住宅価格

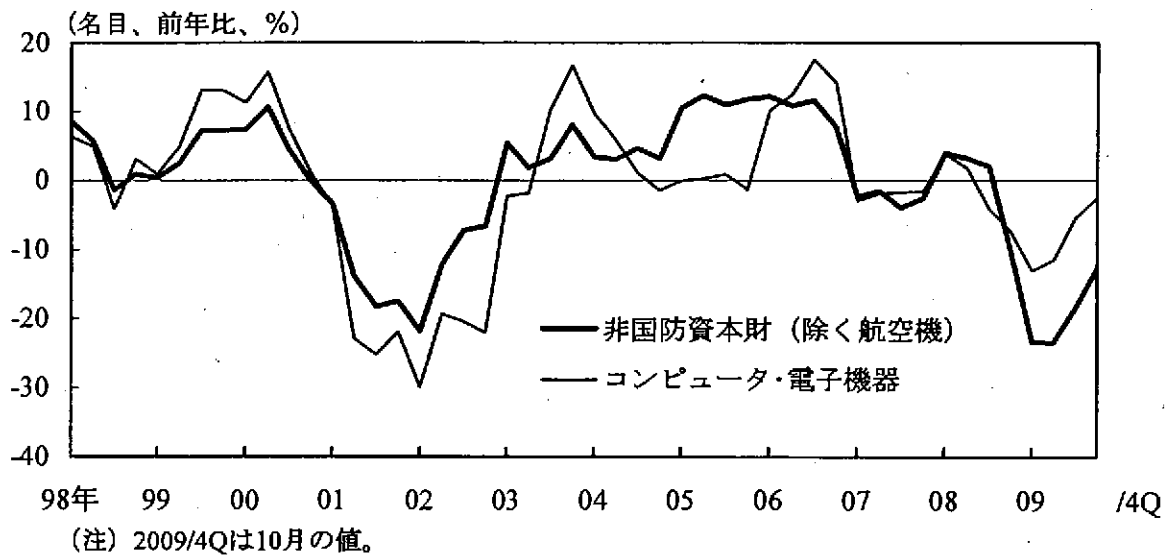


- (注1) 除くリファイナンスは、FHFA指数の対象物件のうち、リファイナンスに伴い再評価された物件を除き、実際に購入された物件のみを対象とした価格指数。
- (注2) 中古住宅販売価格は、不動産業者から報告された中古一戸建て住宅の販売物件の平均単価を集計したもの(中央値)。
- (注3) 直近は、FHFA指数(除くリファイナンス)、ケース・シラー住宅価格指数(10大都市)が3Q、中古住宅販売価格が10月の値。

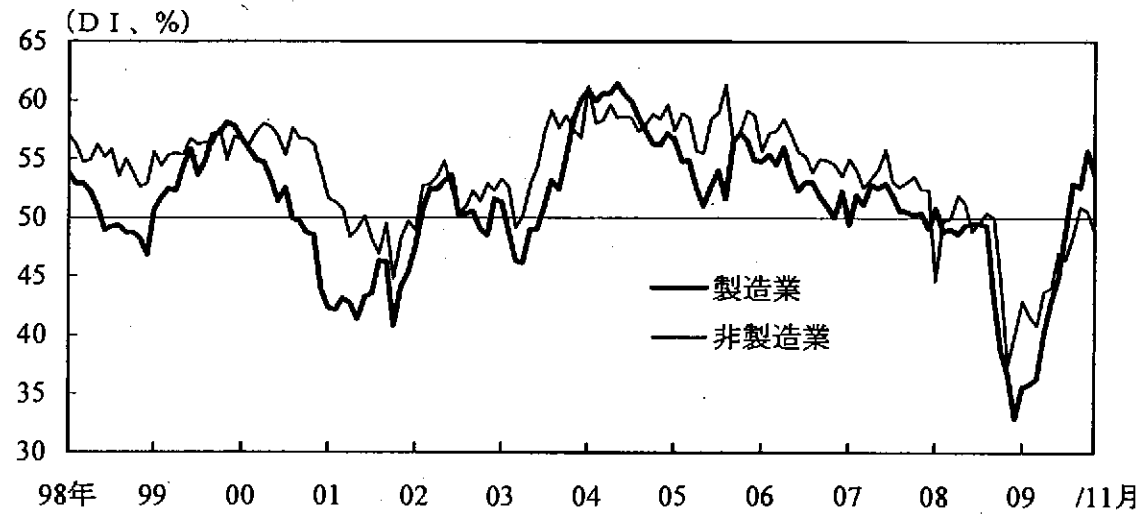
④ 米国の設備投資と生産

(図表4-4)

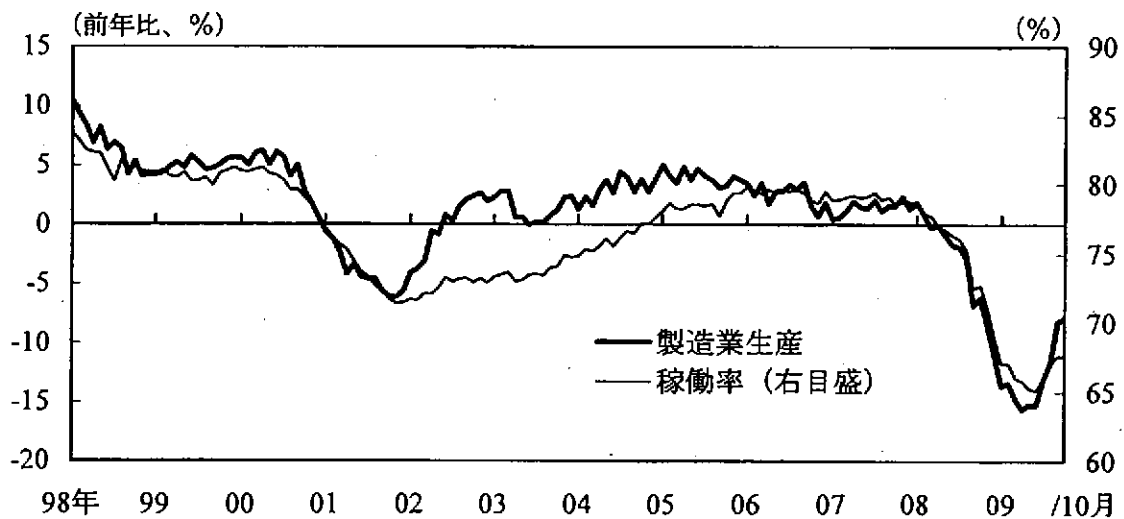
(1) 非国防資本財（除く航空機）とコンピュータ・電子機器受注



(2) 企業コンフィデンス (ISM指数)



(3) 製造業生産・稼働率

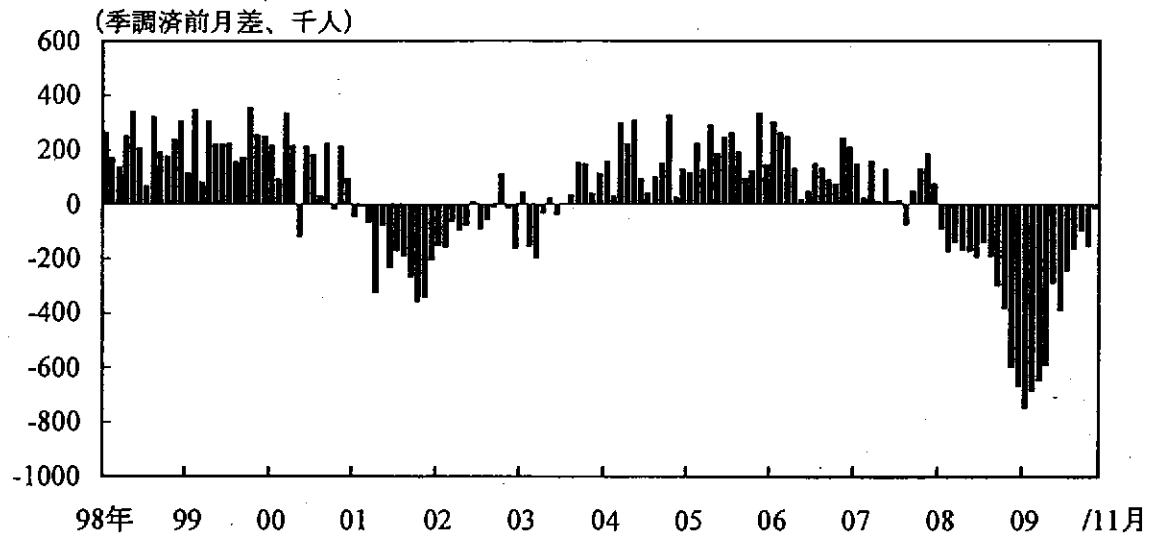


⑤ 米国の雇用

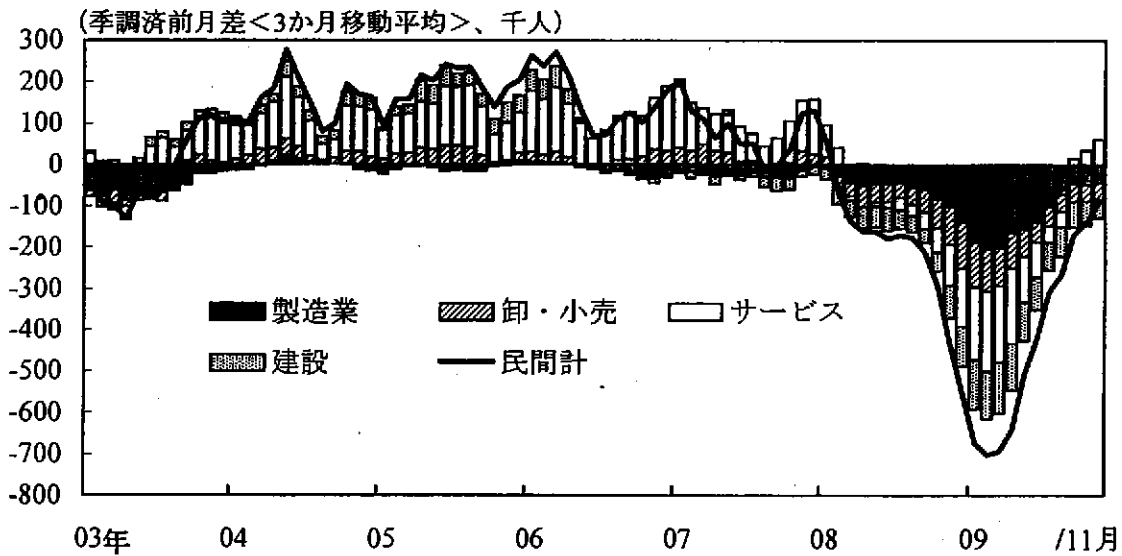
(図表4-5)

(1) 民間部門雇用者数

① 全体

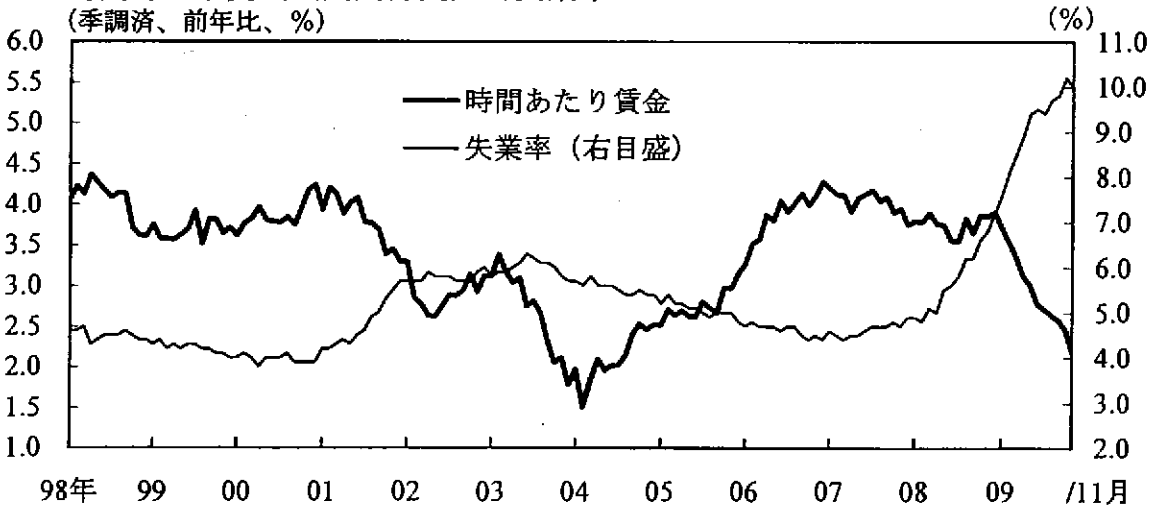


② 業種別



(注) 棒線の合計と折れ線の差はその他の項目(金融等)。

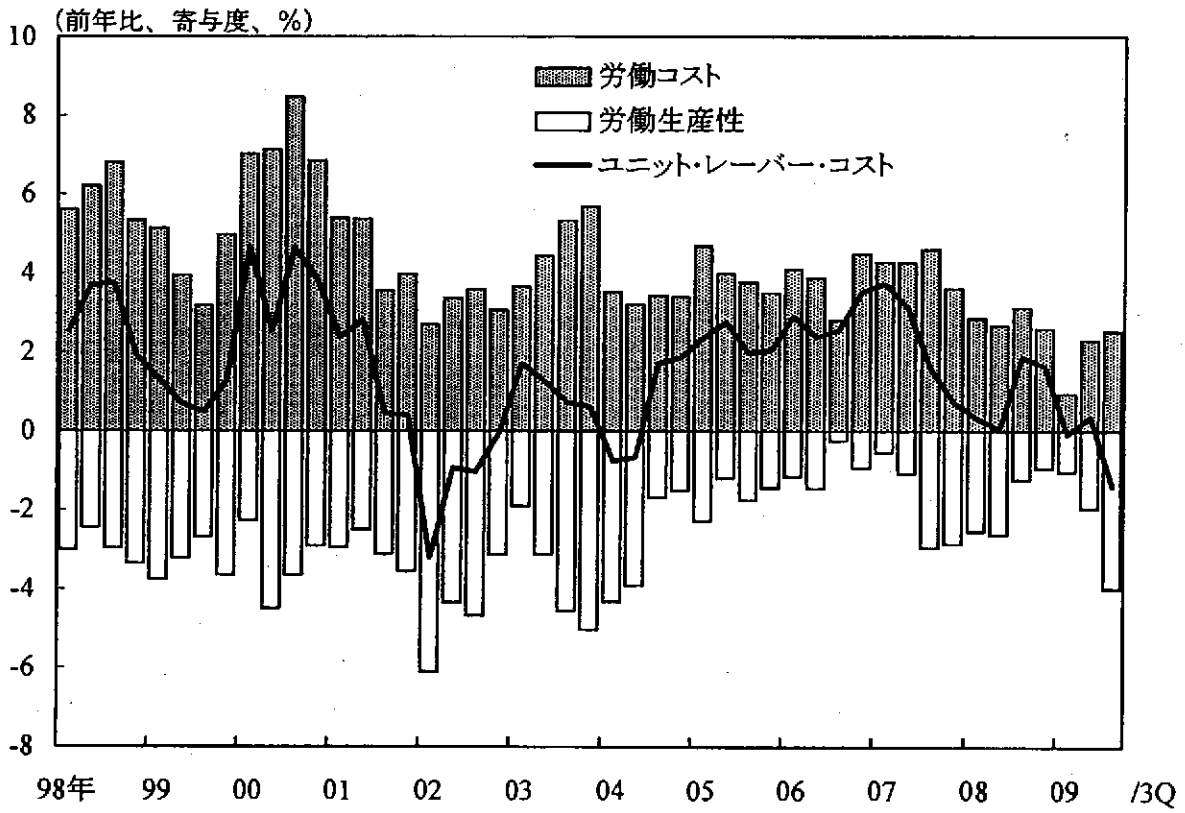
(2) 時間あたり賃金(民間部門)と失業率



⑥ 米国の労働コスト、物価

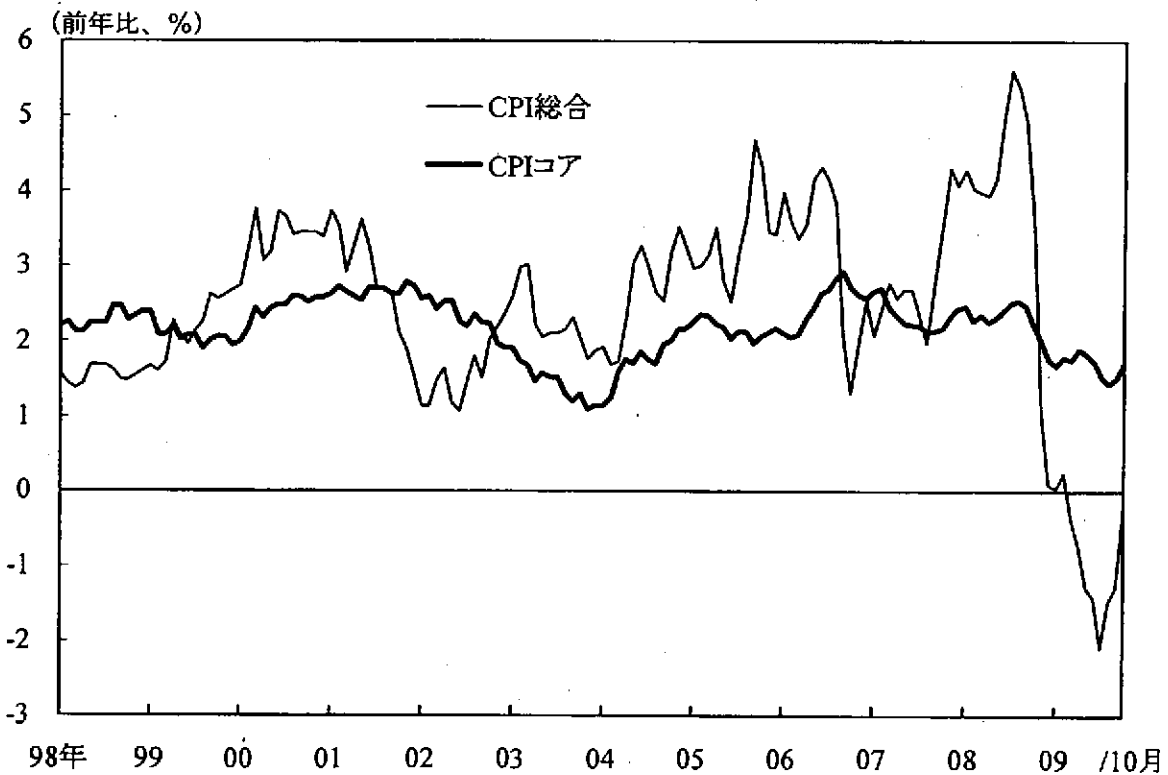
(図表4-6)

(1) ユニット・レーバー・コスト



(注)労働コストは、賃金と福利厚生費の合計。

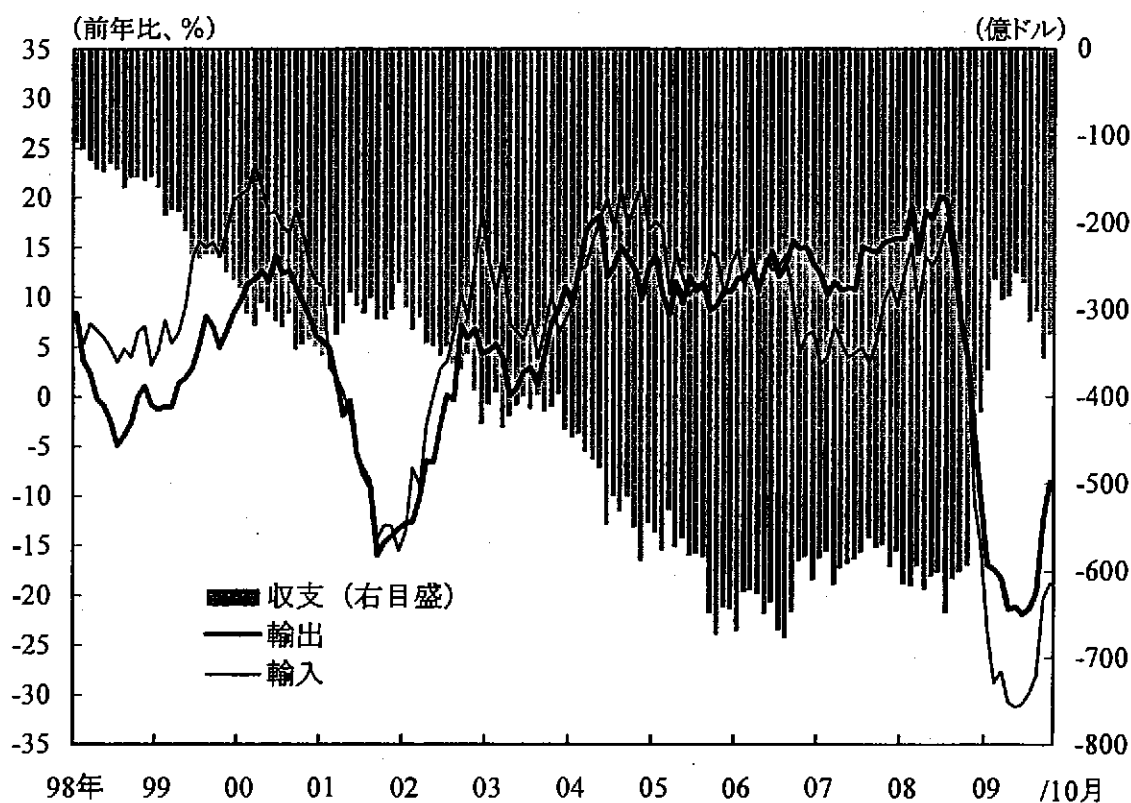
(2) CPI



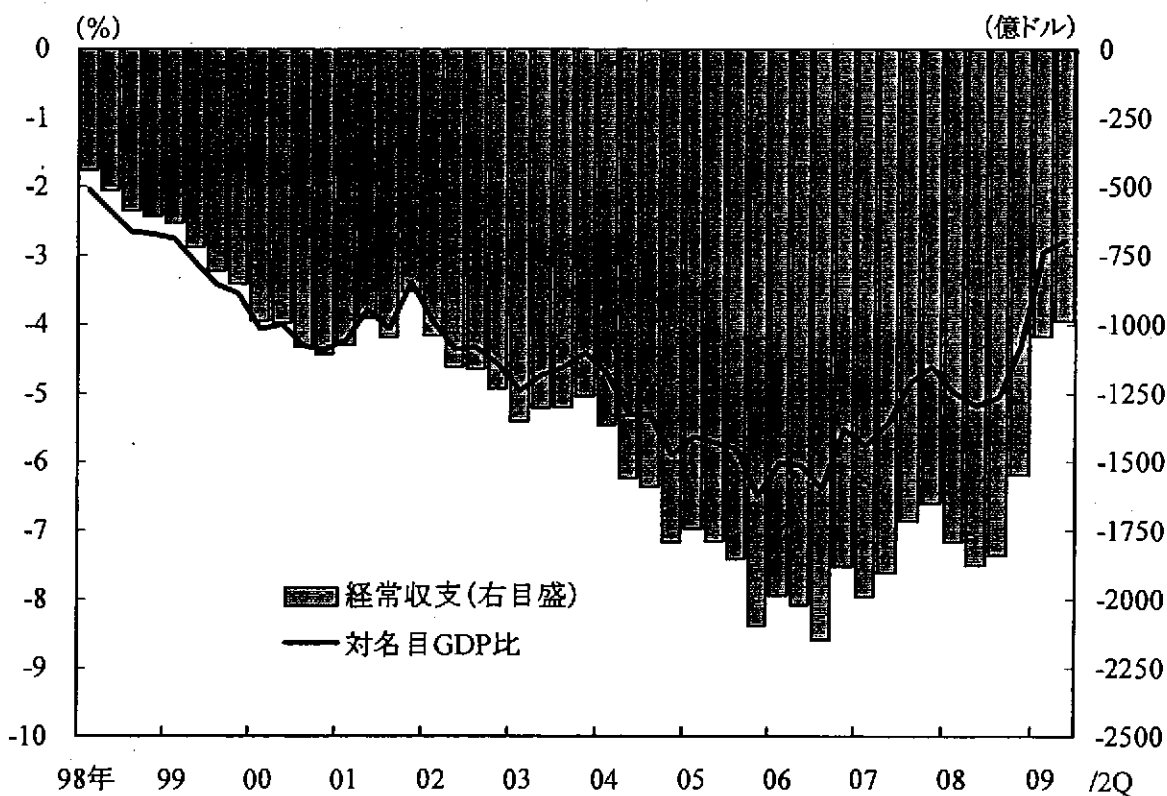
⑦ 米国の対外バランス

(図表4-7)

(1) 財・サービス収支



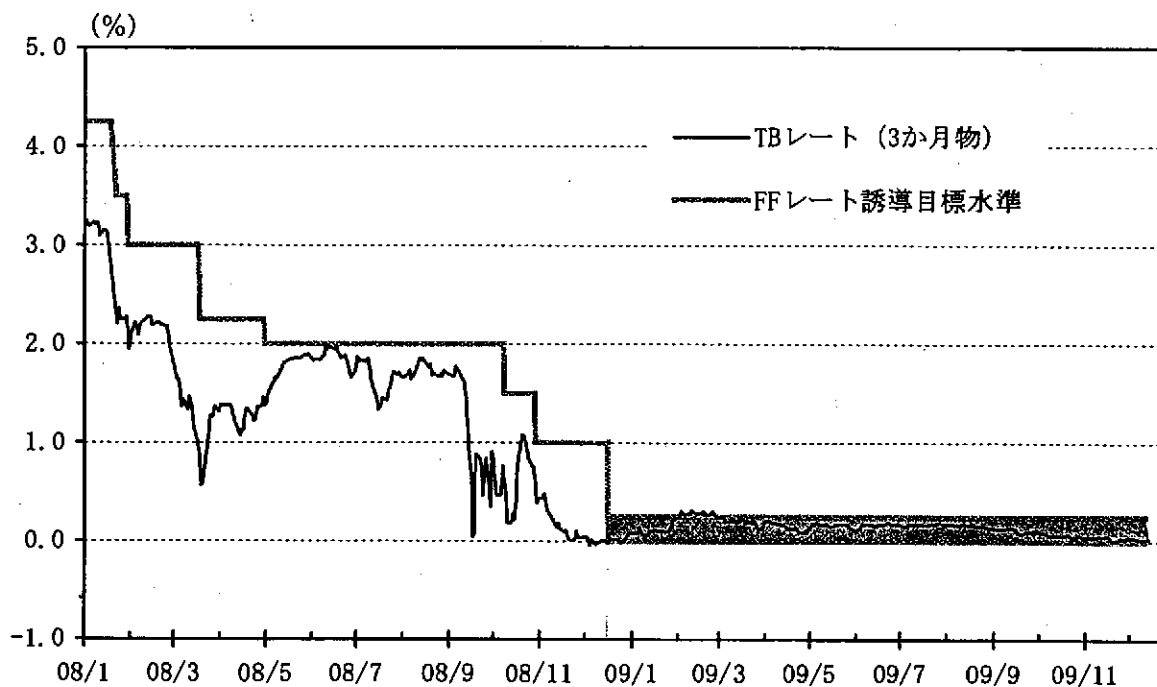
(2) 経常収支



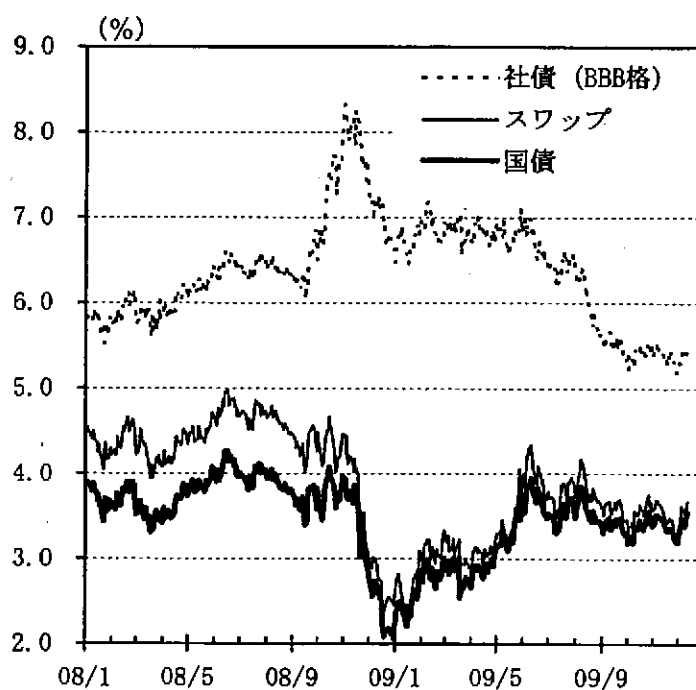
米国の金融市場

金利 (米国)

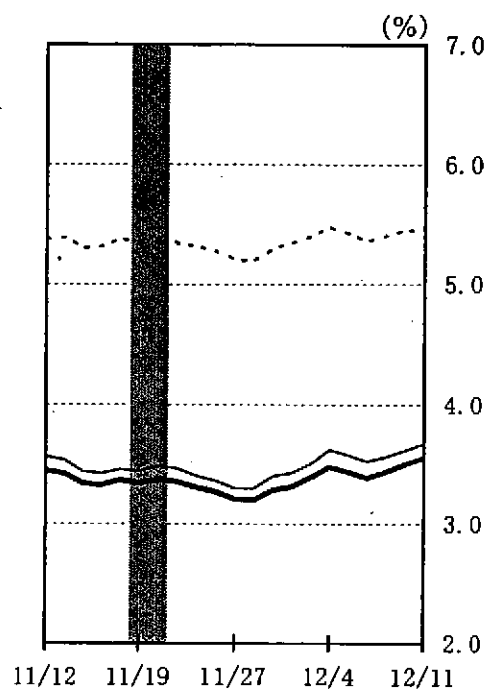
(1) 政策金利・短期金利



(2) 長期金利 (10年物)



<最近の動き>



(注1) シャドーは前回会合。

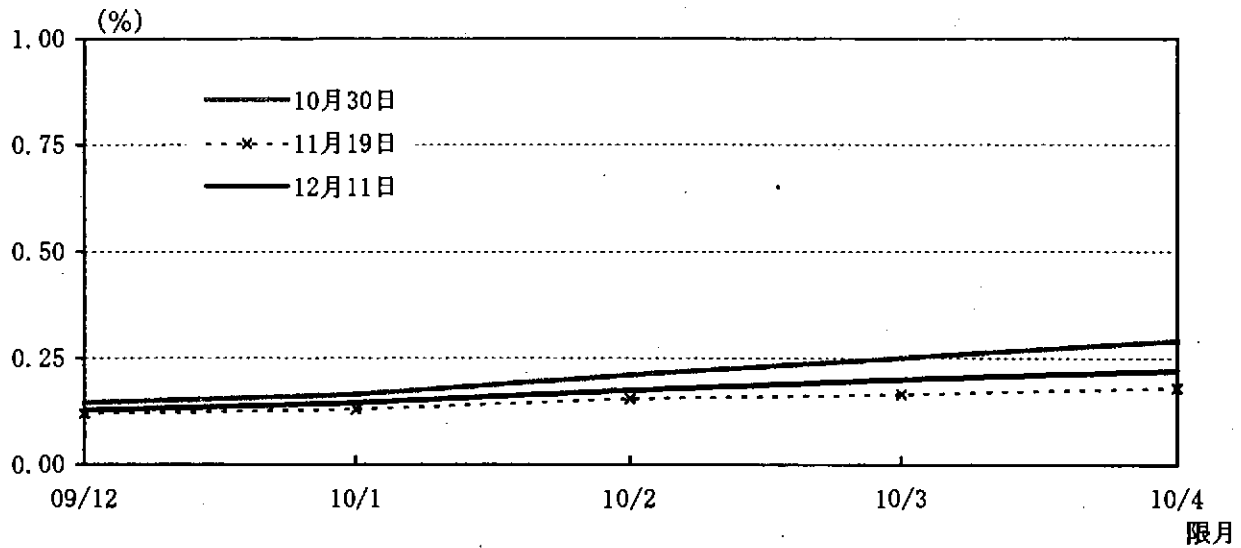
(注2) 社債金利は、BloombergがMoody's、S&Pの格付けを基に合成したBBBを使用。
因みに、BloombergのBBBは、Moody'sのBaa2、S&PのBBBに対応。

(出所) Bloomberg

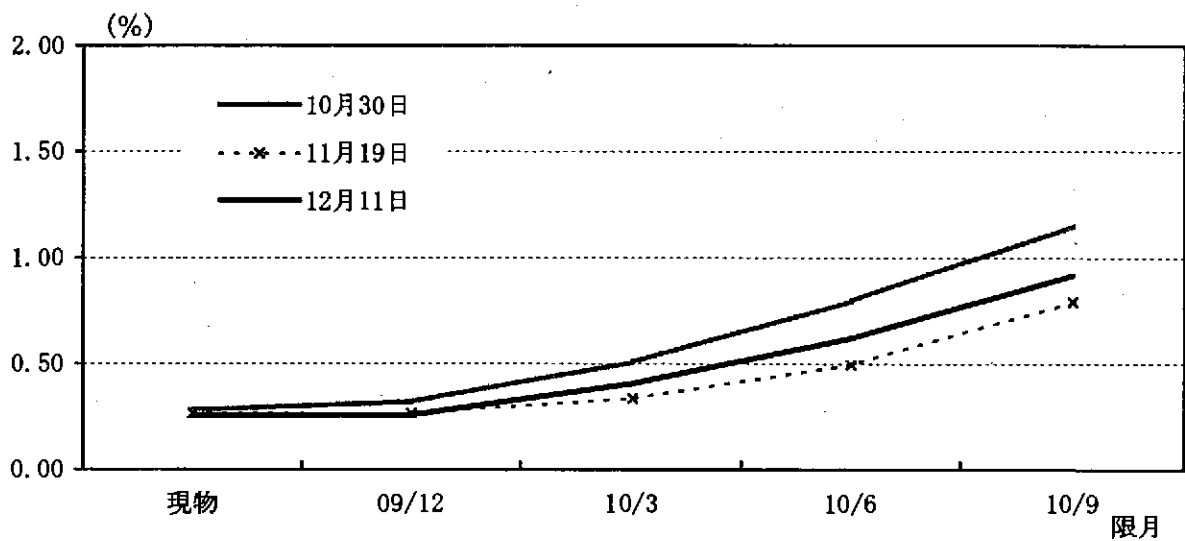
いずれも直近は12月11日

先行きの金利観 (米国)

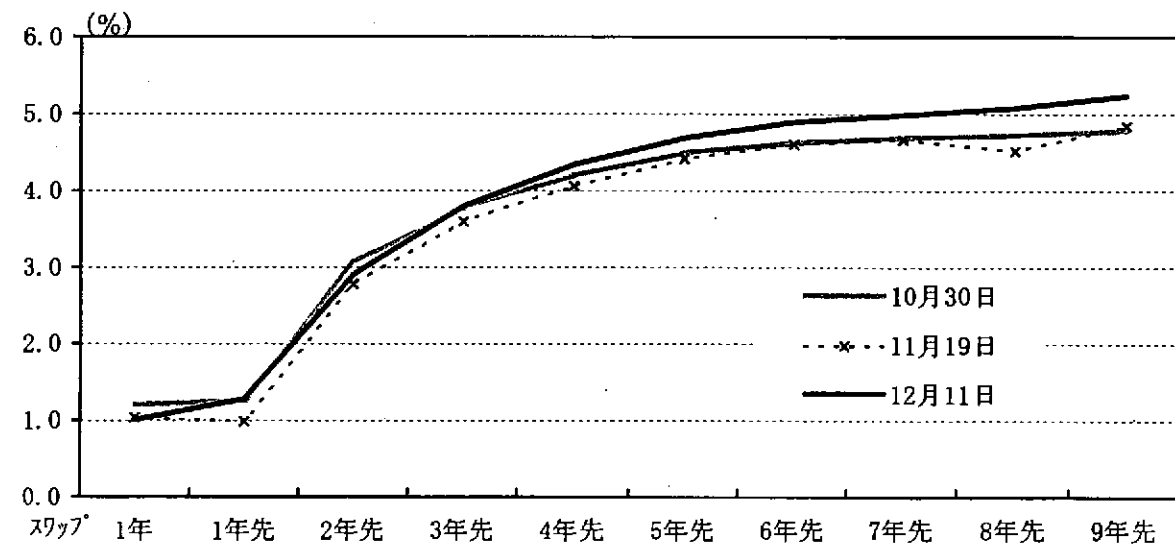
(1) FF先物金利



(2) ユーロドル先物金利 (3か月物)



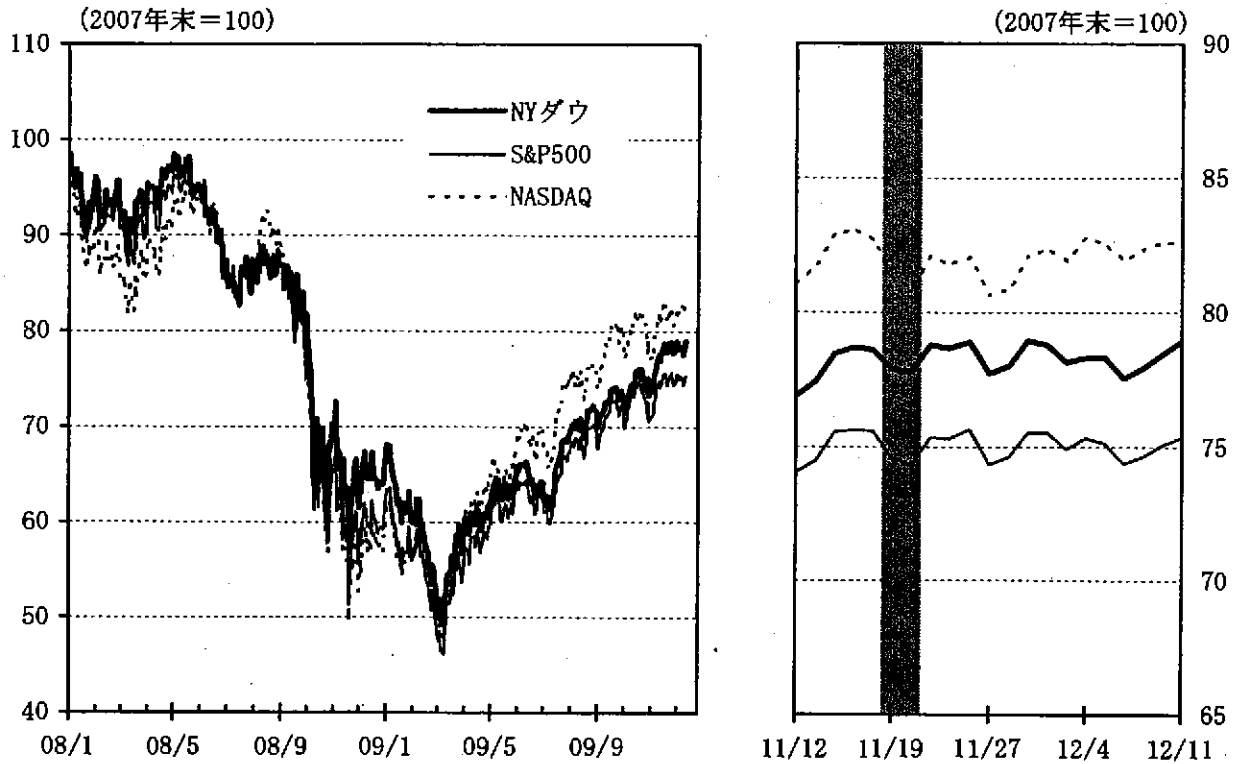
(3) インプライド・フォワード・レート (米ドル・スワップ、1年物)



(出所) Bloomberg

株価 (米国)

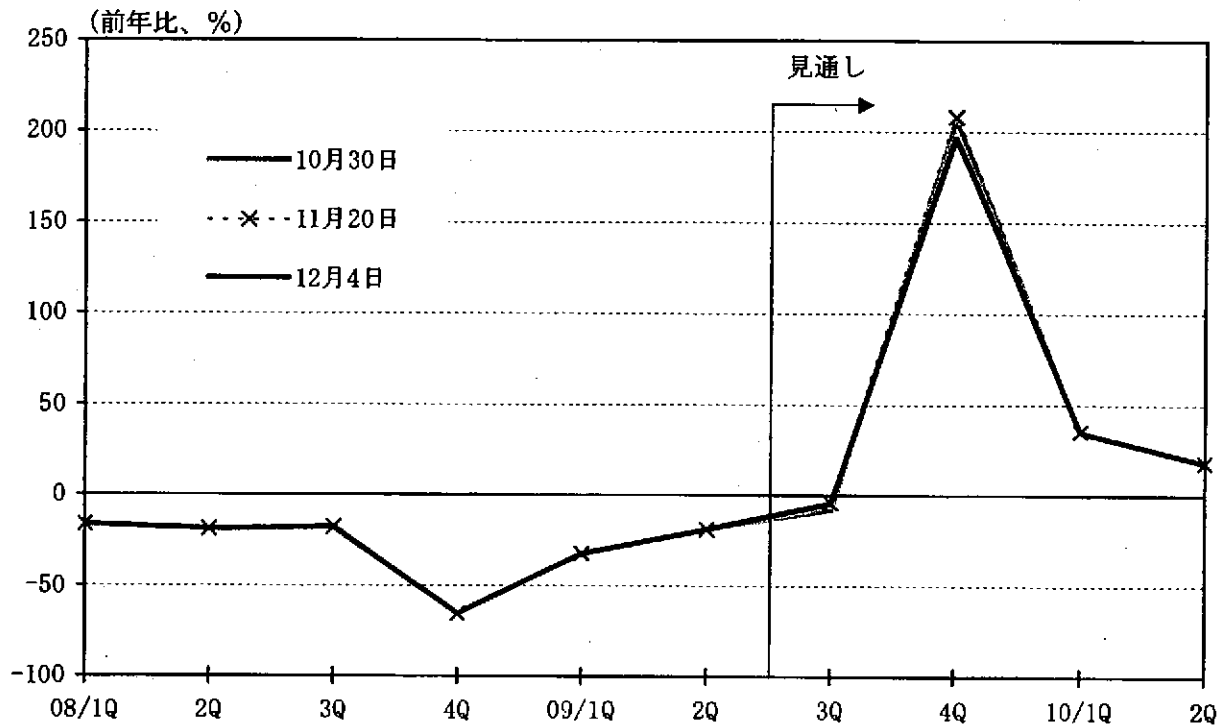
(1) 株価 (NYダウ・S&P500・NASDAQ)



(注) シャドーは前回会合。
(出所) Bloomberg

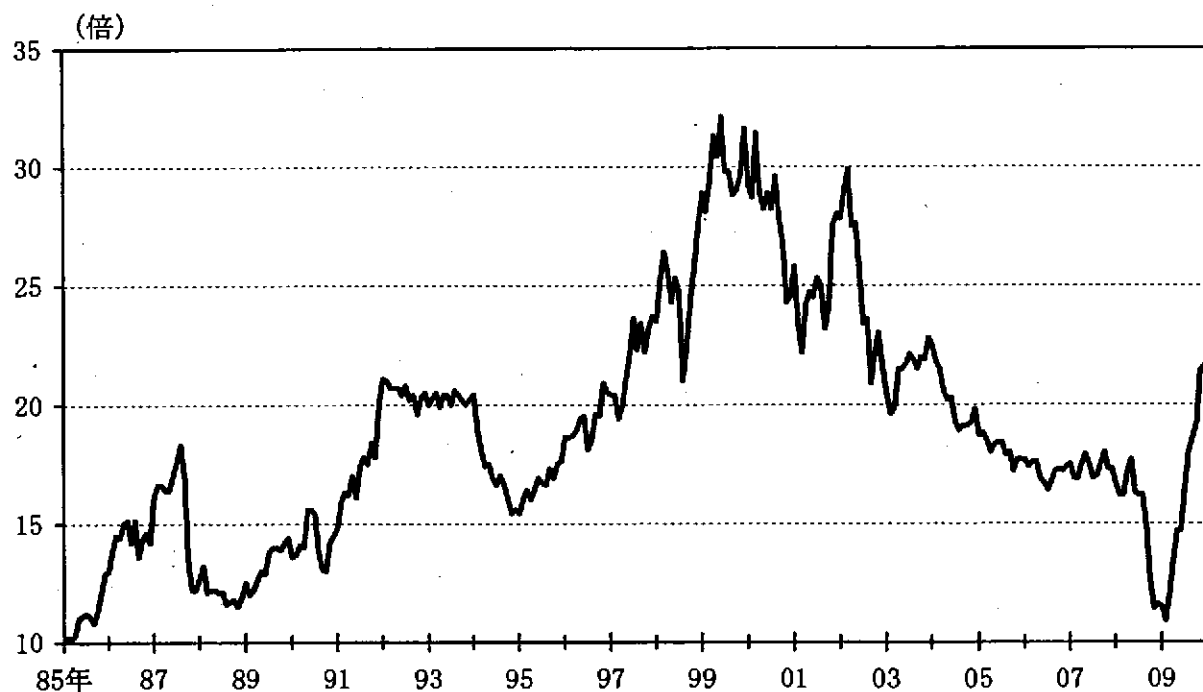
直近は12月11日

(2) アナリストのEPS (一株当たり利益) 成長率見通し (S&P500社ベース)



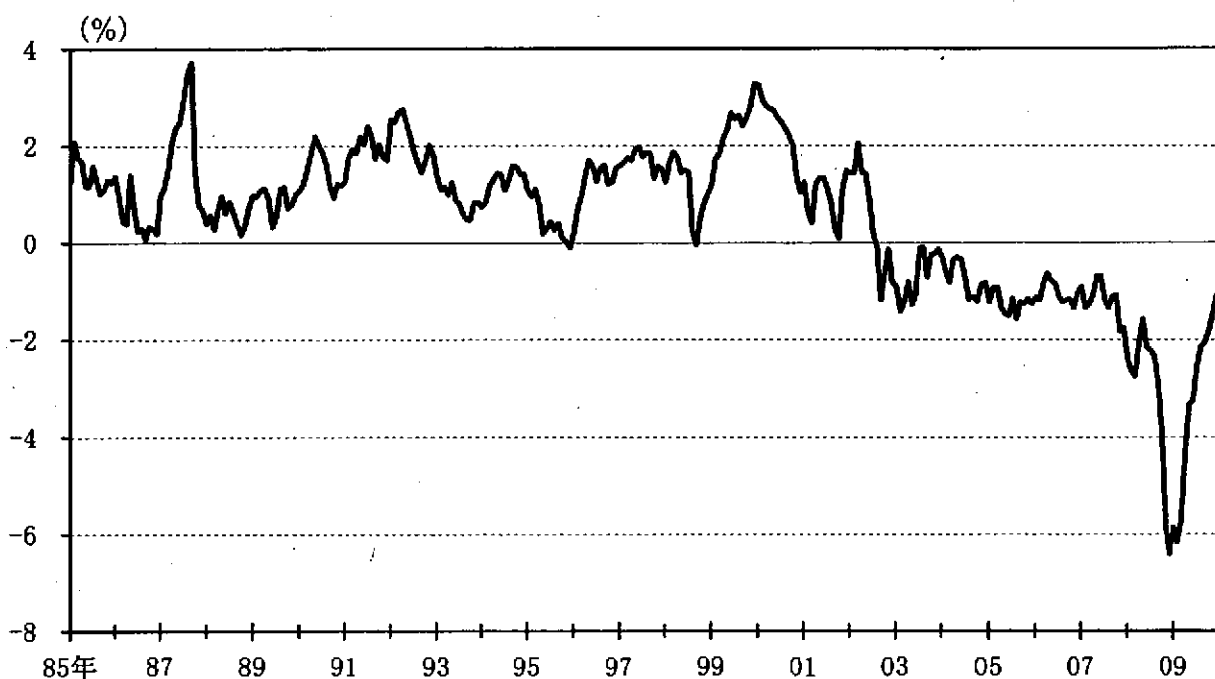
(出所) Thomson ONE Analytics

(3) 株価収益率 (PER、S&P500)



(注) 株価収益率 (PER) = 株価 / 一株当たり利益 (EPS)。
S&P500実績利益ベース。

(4) イールド・スプレッド (S&P500ベース)



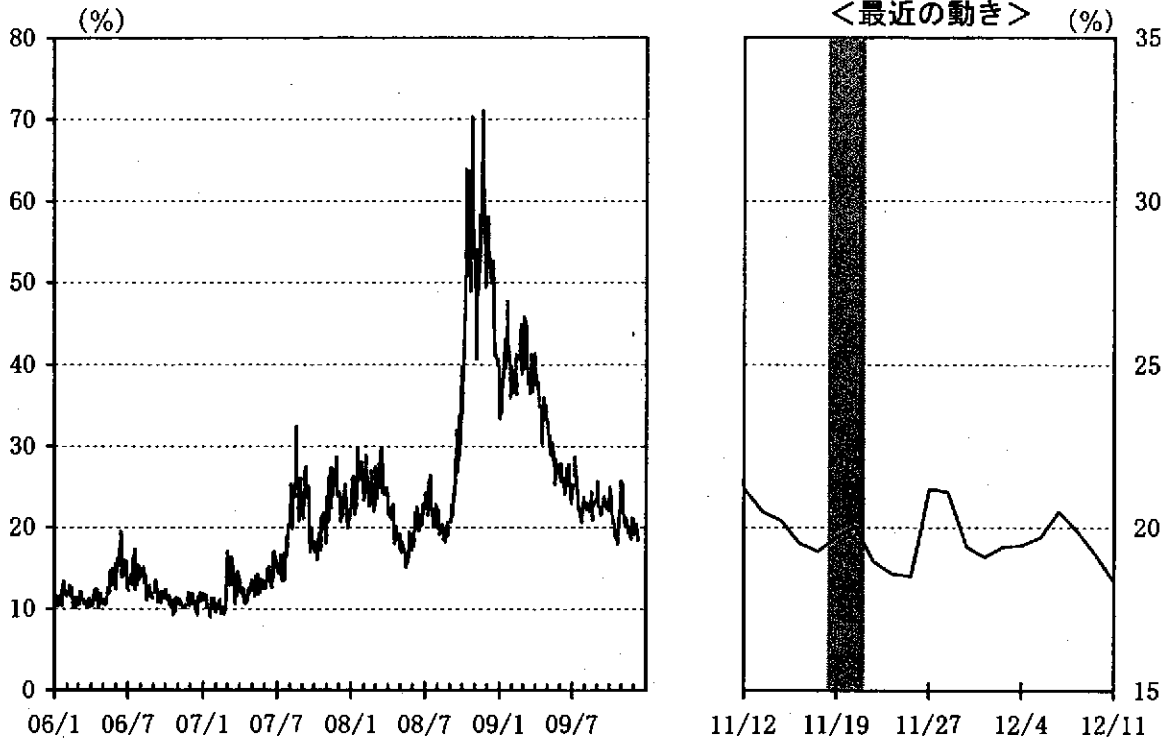
(注) イールド・スプレッド = 国債10年物利回り - 株式益回り (=1/PER)。

(出所) Thomson Reuters Datastream

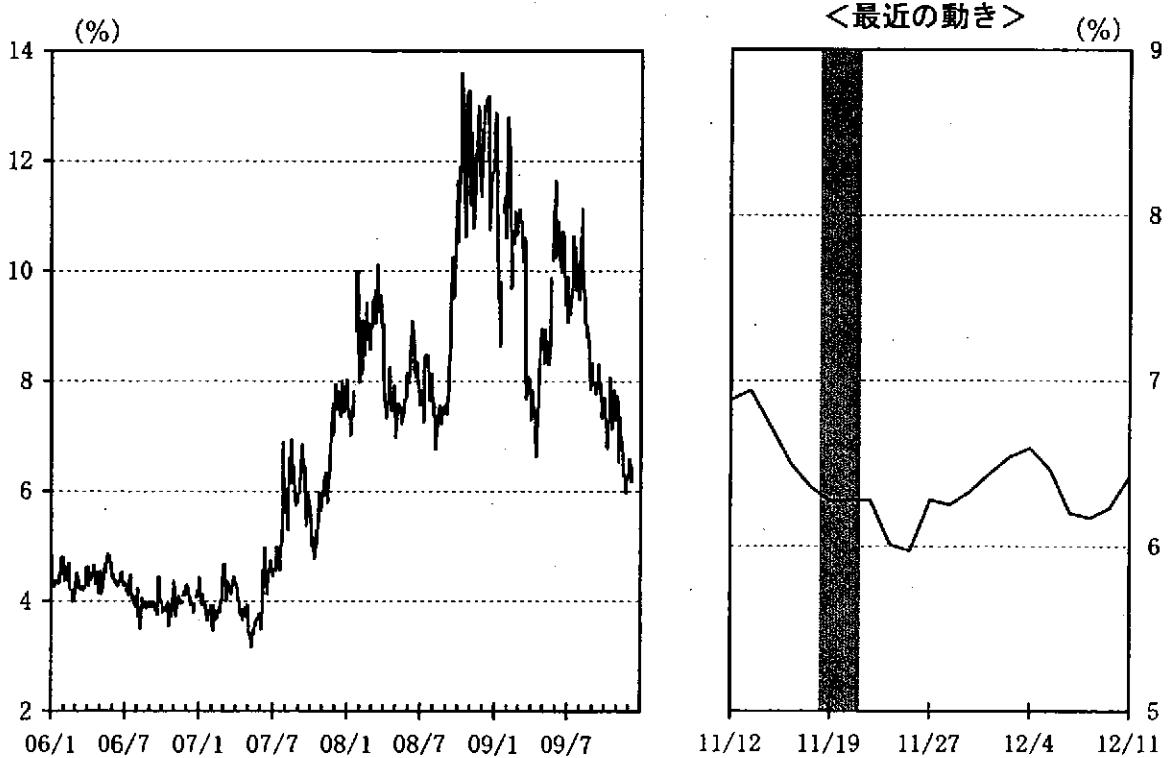
いずれも直近は12月11日

金融市場のリスク関連指標 (米国)

(1) 株価オプションのインプライド・ボラティリティ (S&P500)



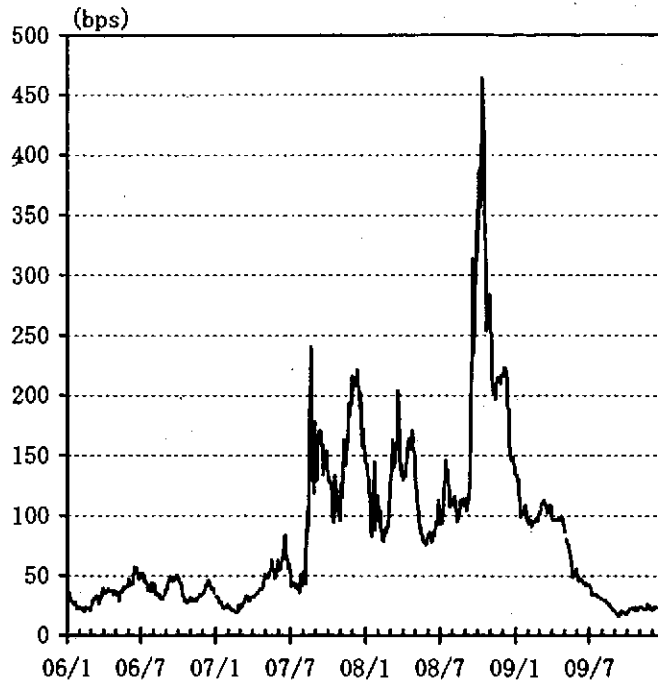
(2) 米国債先物オプションのインプライド・ボラティリティ



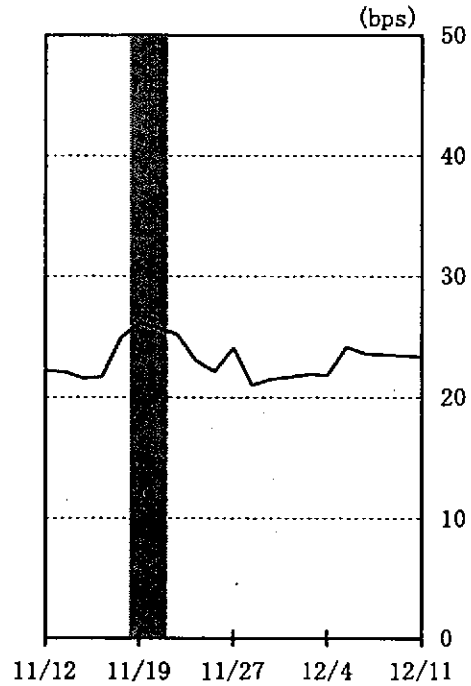
(注) シャドーは前回会合。
(出所) Bloomberg

いずれも直近は12月11日

(3) TEDスプレッド

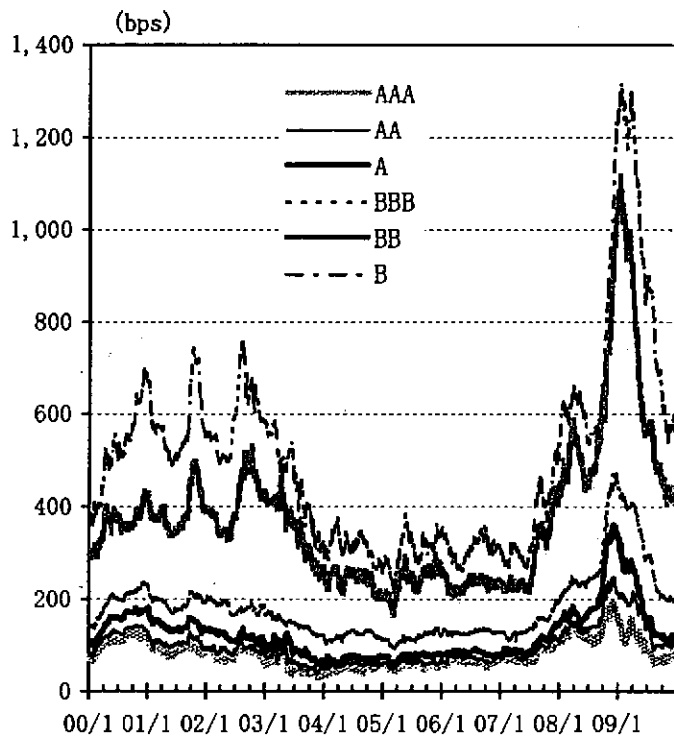


<最近の動き>

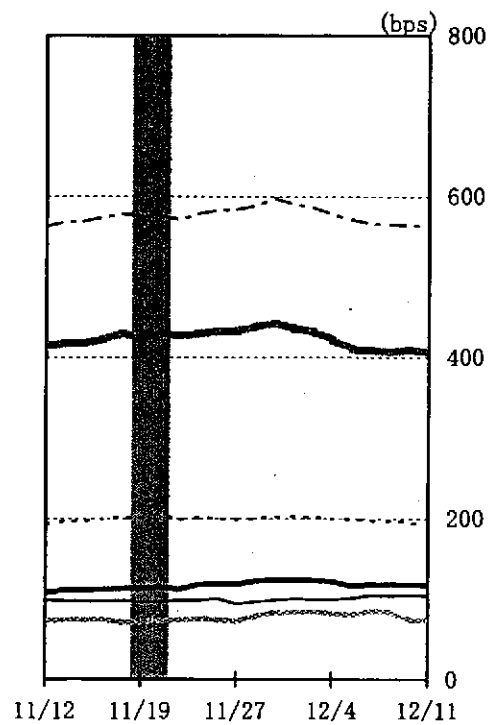


(注) ユーロドル3か月物-TB3か月物。

(4) 米国社債の対国債スプレッド (10年物)



<最近の動き>



(注1) 社債金利は、BloombergがMoody's、S&Pの格付けを基に合成。例えば、AAはMoody'sのAa2、S&PのAAに対応。

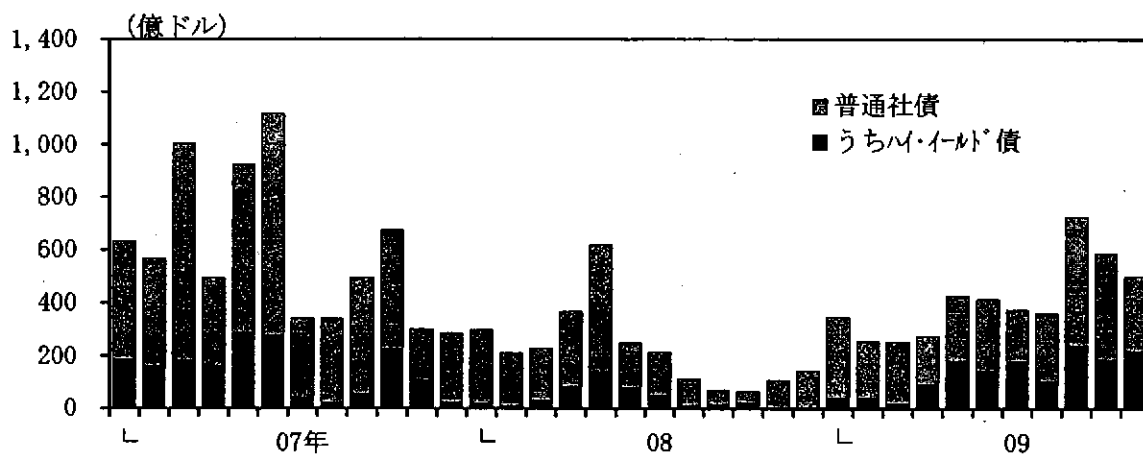
(注2) シャドーは前回会合。

(出所) Bloomberg

いずれも直近は12月11日

企業の資金調達 (米国)

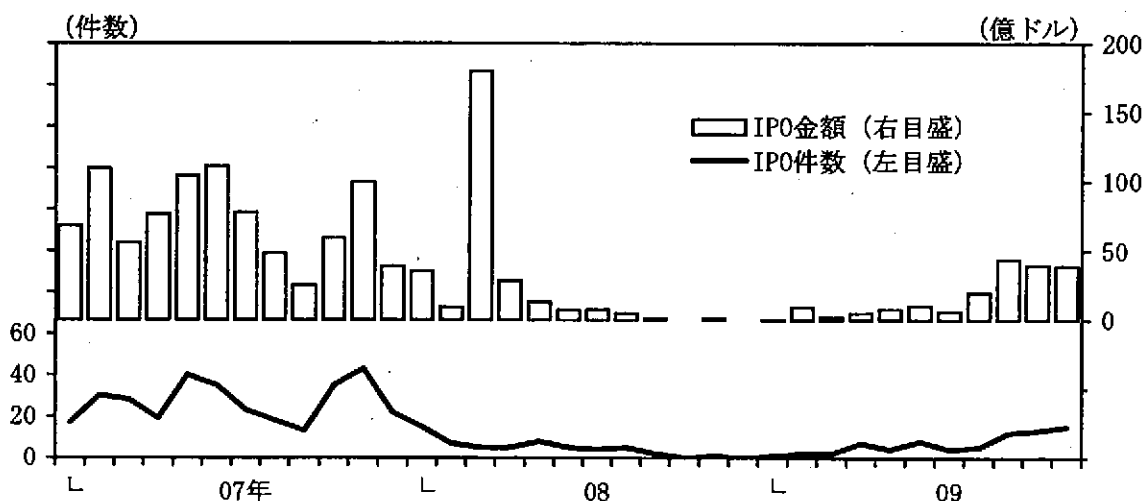
(1) 社債発行額 (普通社債)



(出所) Thomson ONE Banker

直近は11月

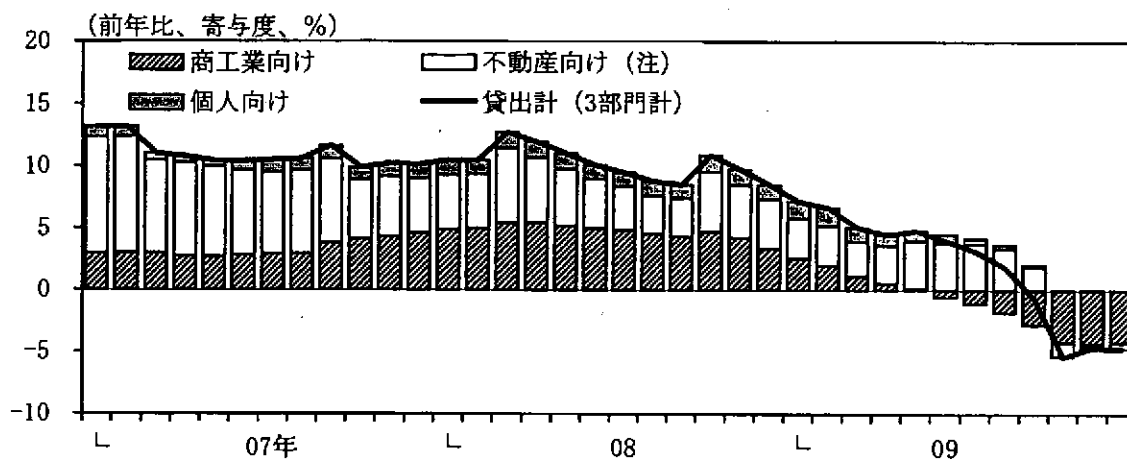
(2) IPO金額・件数



(出所) Bloomberg

直近は11月

(3) 銀行貸出



(注) 商銀+外銀ベース。不動産向けはホームエクイティ・ローンを含む。

貸出計は、商工業、不動産、個人の3部門向け貸出の合計。「その他」(レポ取引等)は含まない。

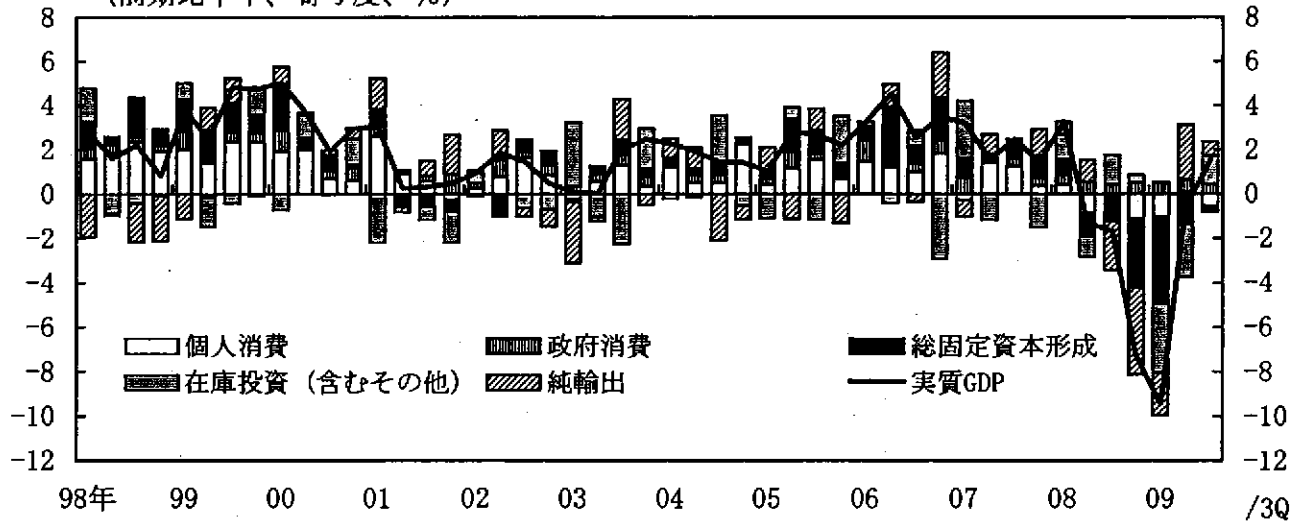
(出所) FRB

直近は12月2日週

欧州の実体経済

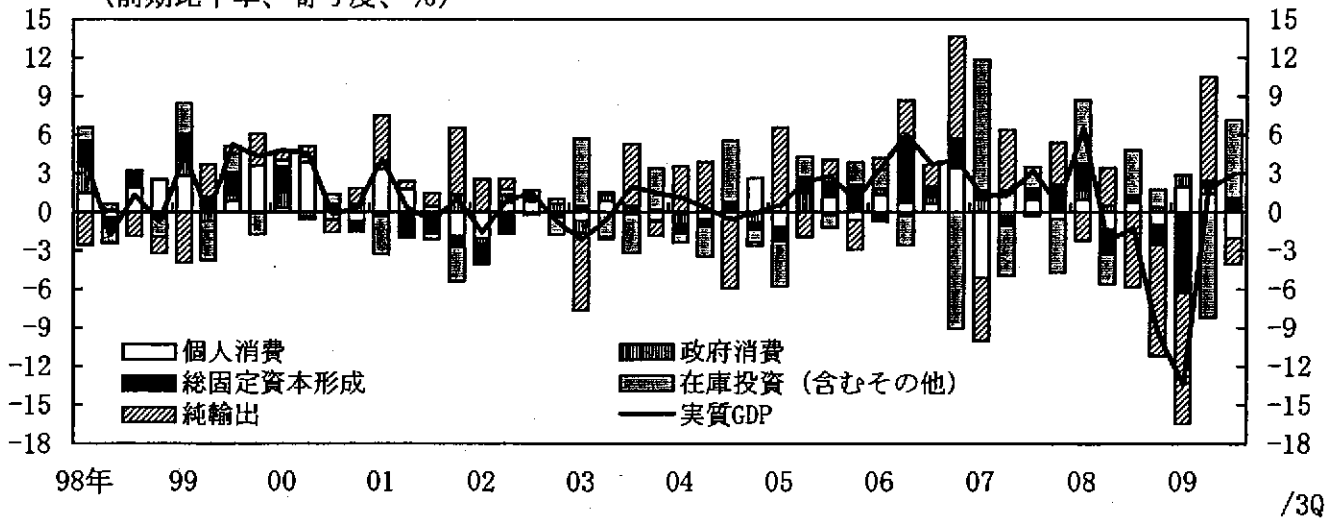
(1) ユーロエリアの実質GDP成長率

(前期比年率、寄与度、%)



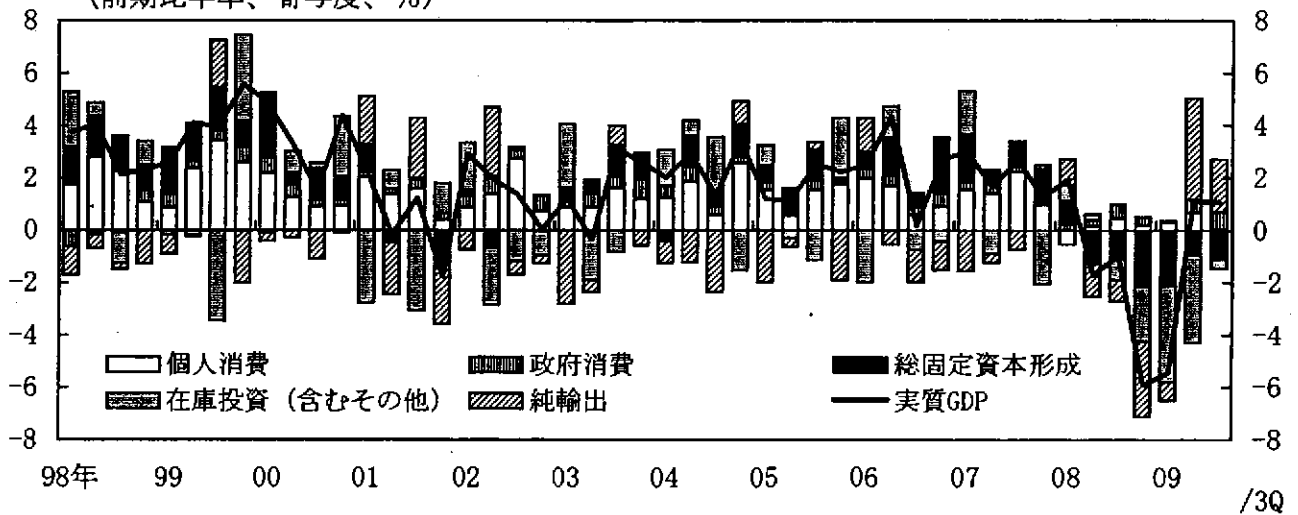
(2) ドイツの実質GDP成長率

(前期比年率、寄与度、%)



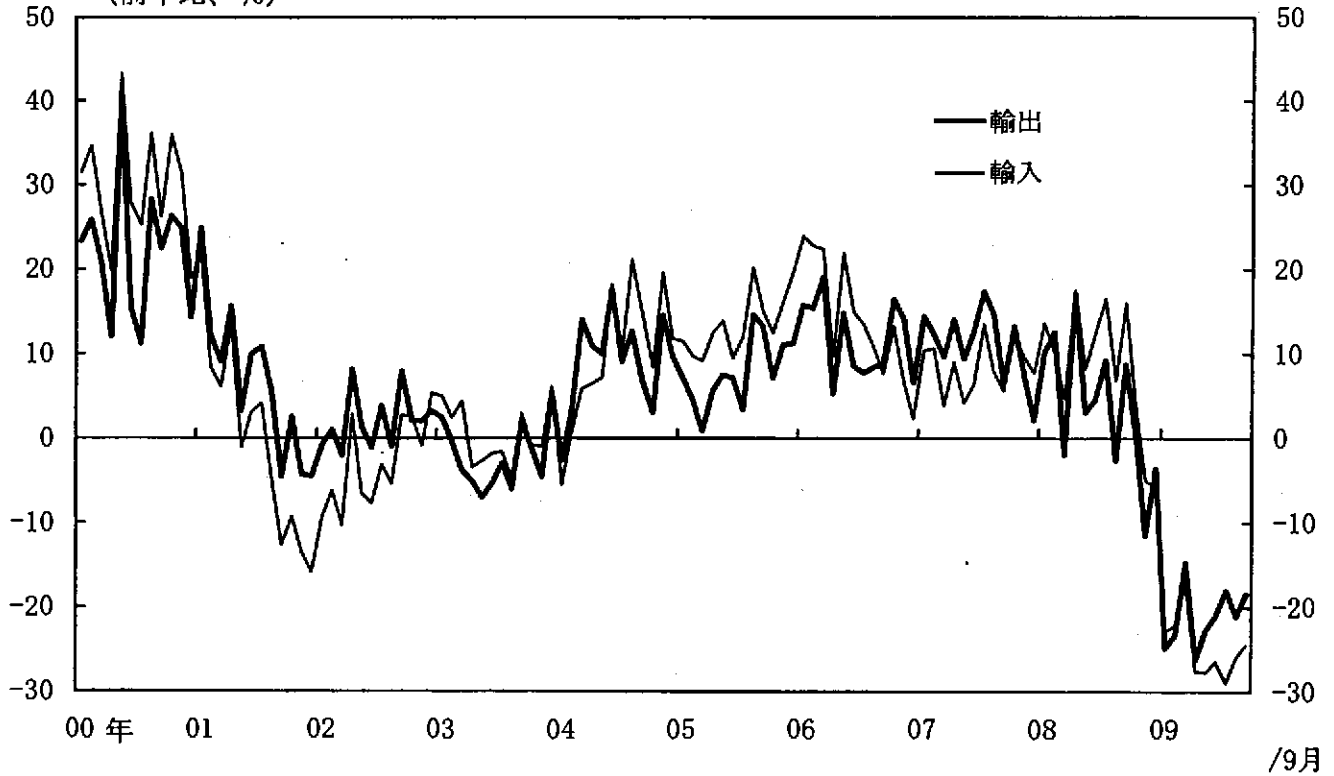
(3) フランスの実質GDP成長率

(前期比年率、寄与度、%)



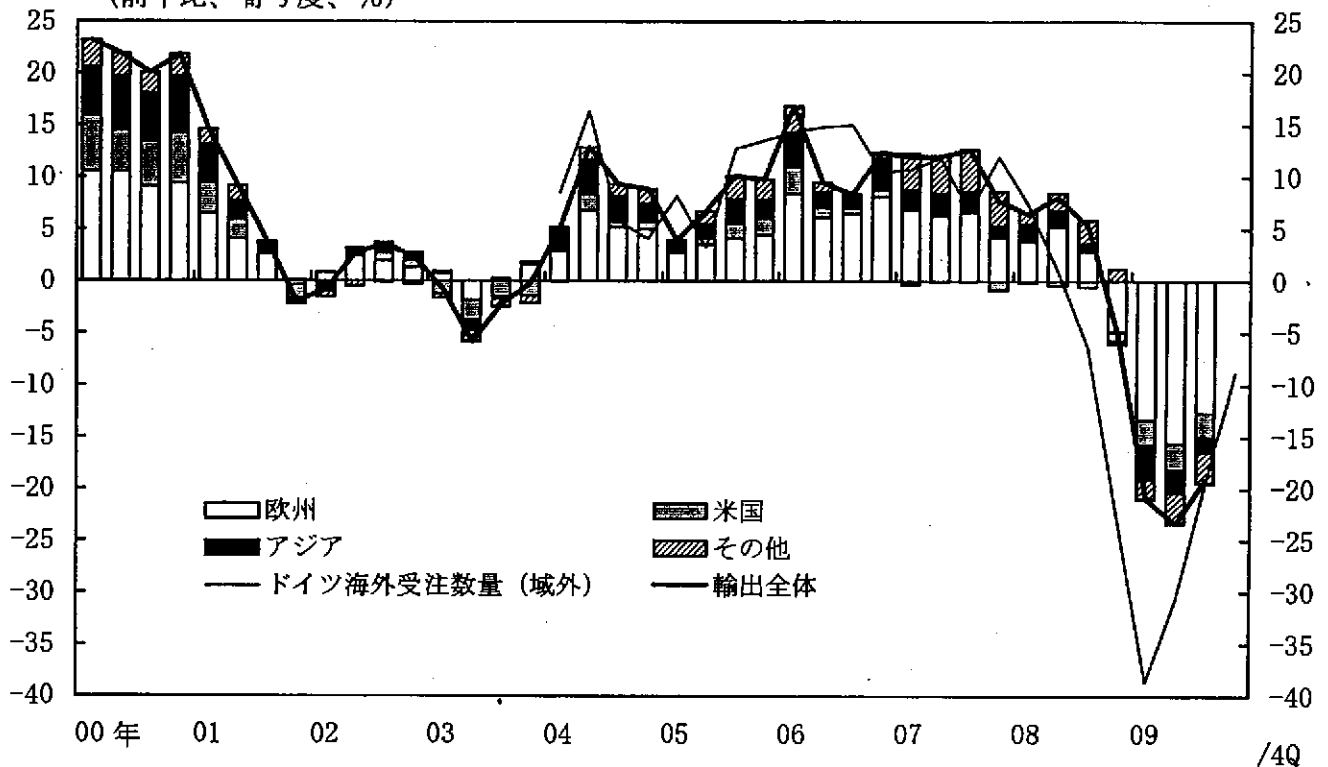
(4) ユーロエリアの域外貿易

(前年比、%)



(5) ユーロエリア域外輸出 (地域別寄与度) とドイツ海外受注数量 (域外)

(前年比、寄与度、%)

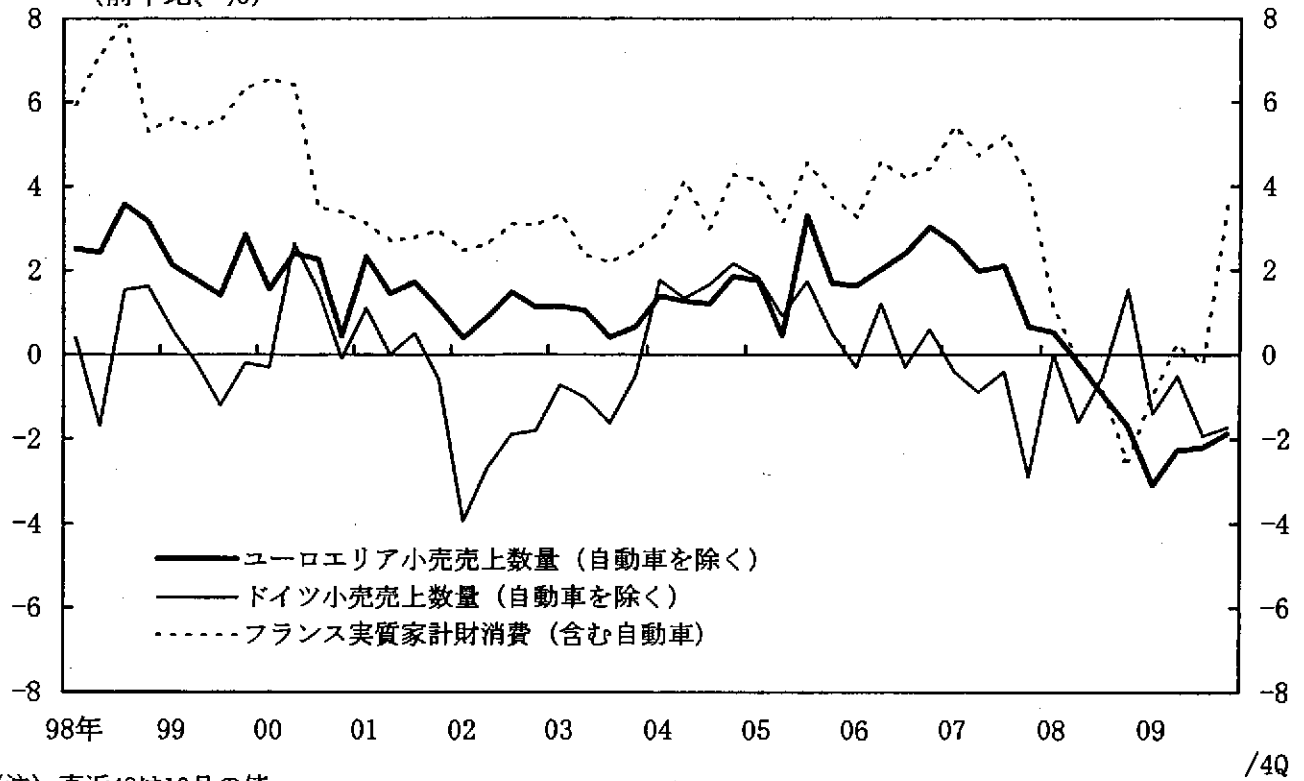


(注1) 欧州はトルコ、ロシアなど、アジアは中東などを含む。

(注2) 輸出全体の直近は3Q、輸出の地域別寄与度の直近3Qは7-8月の値であり、積み上げと全体が一致しない。ドイツ海外受注数量の直近4Qは10月の値。

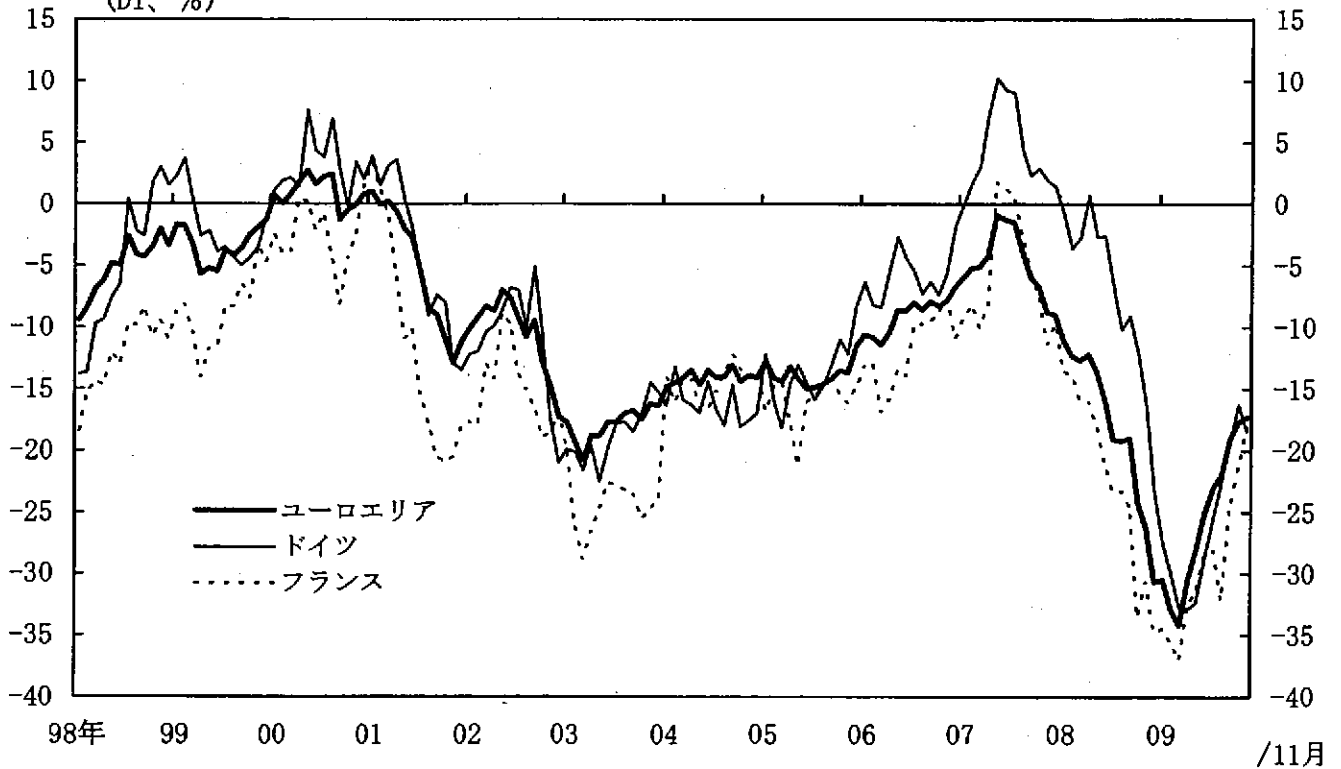
(6) 小売関連指標

(前年比、%)



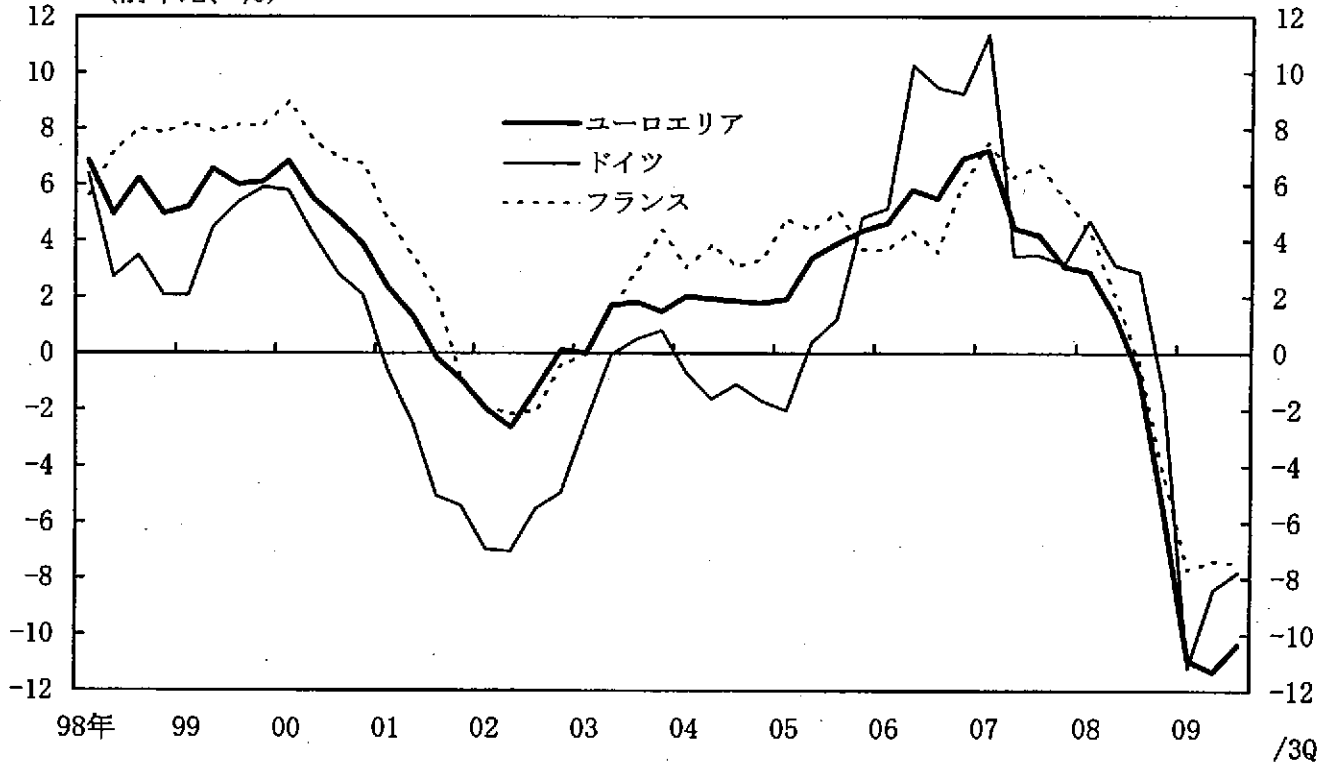
(7) 消費者コンフィデンス

(DI、%)



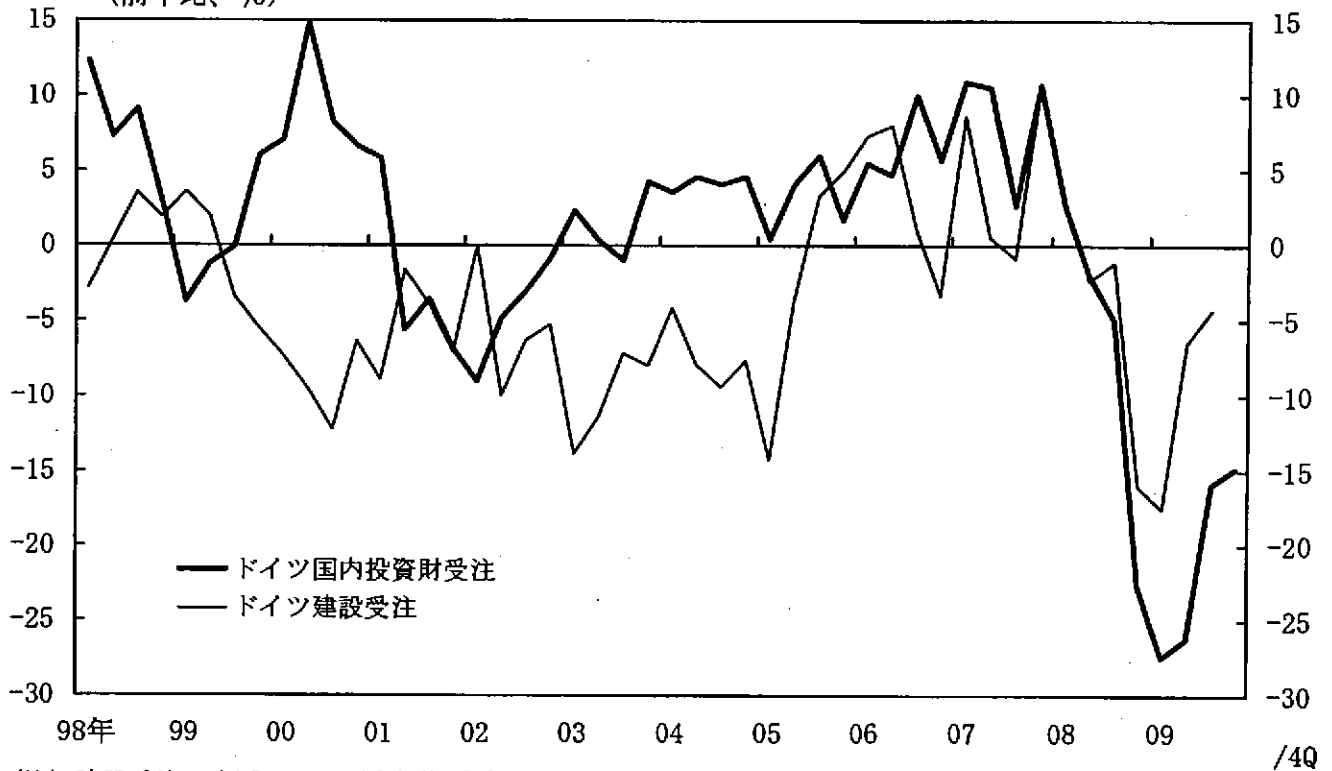
(8) 総固定資本形成

(前年比、%)



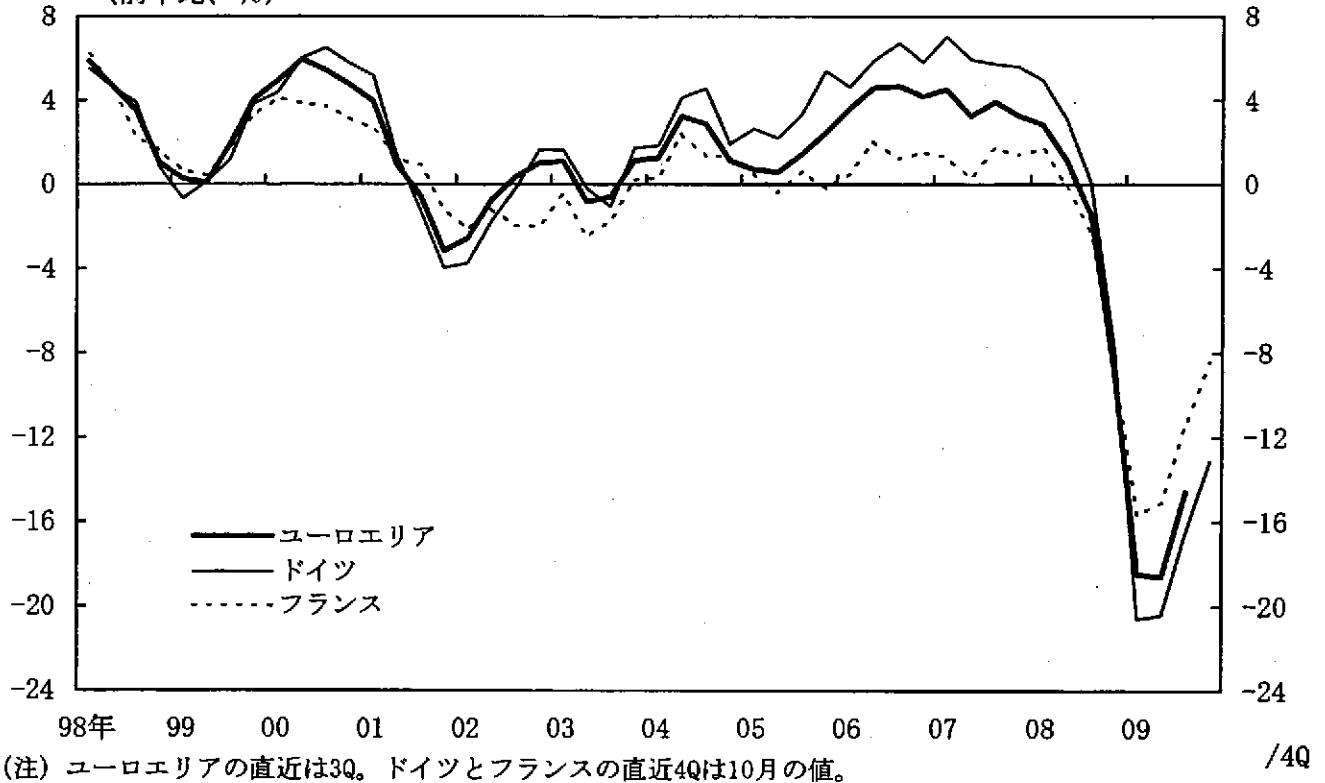
(9) ドイツの国内投資財受注、建設受注

(前年比、%)

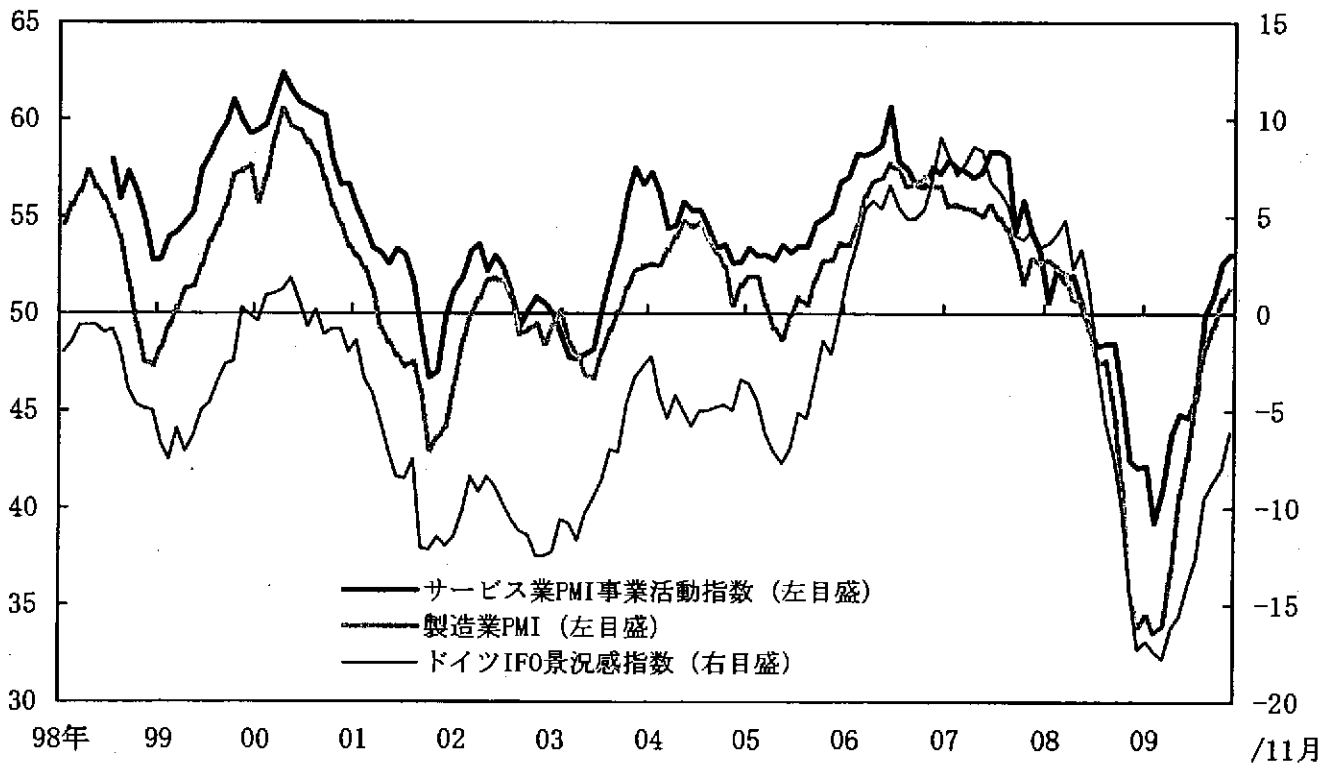


(注) 建設受注の直近は3Q、国内投資財受注の直近4Qは10月の値。

(10) 鉱工業生産
(前年比、%)

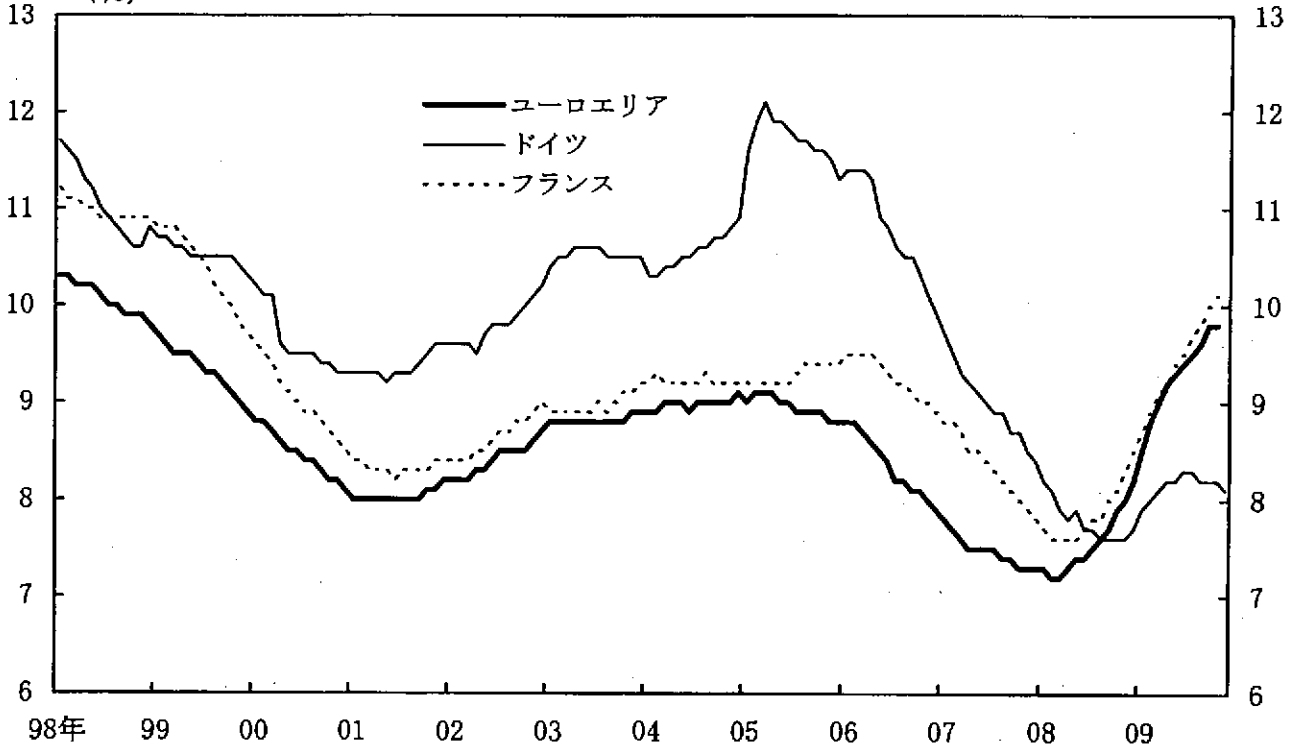


(11) PMI (購買担当者指数) と企業コンフィデンス



(12) 失業率

(%)

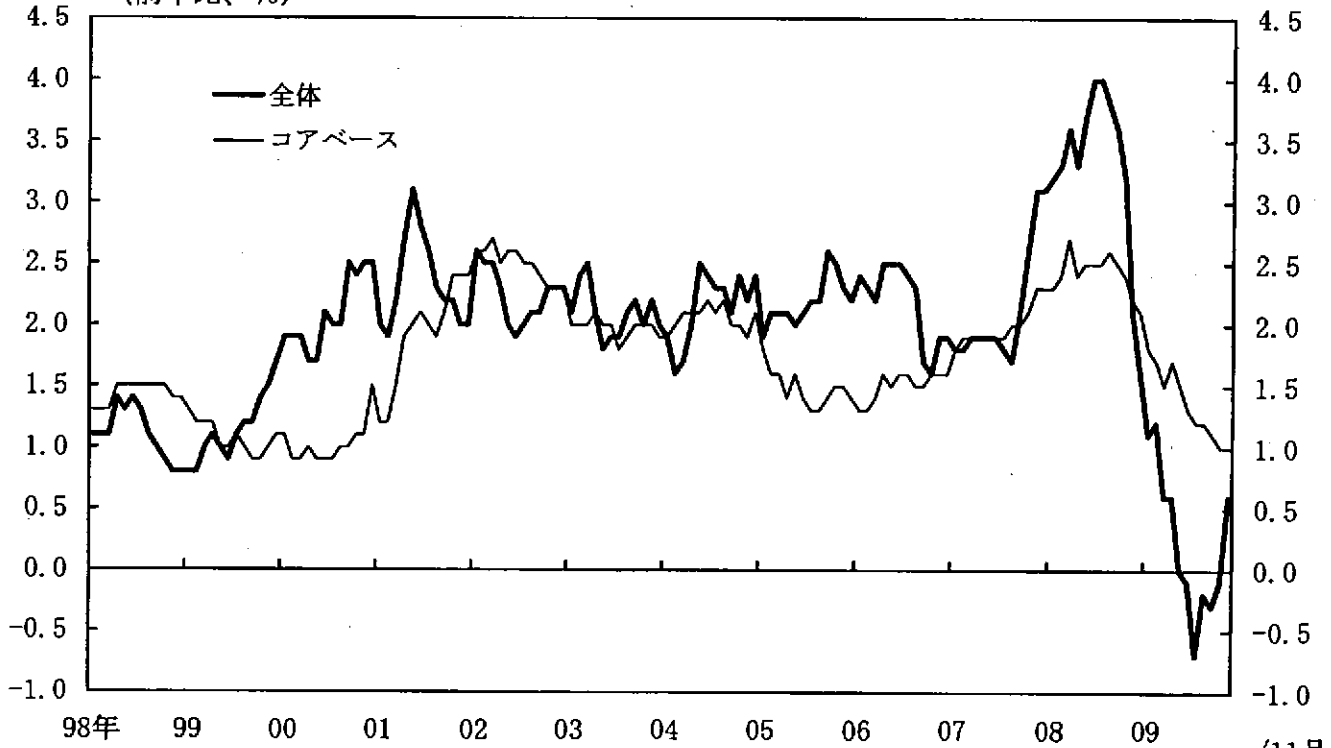


(注) ユーロエリアとフランスの直近は10月。

/11月

(13) 消費者物価 (HICP)

(前年比、%)



(注1) コアベースは、除くエネルギー、非加工食料品。

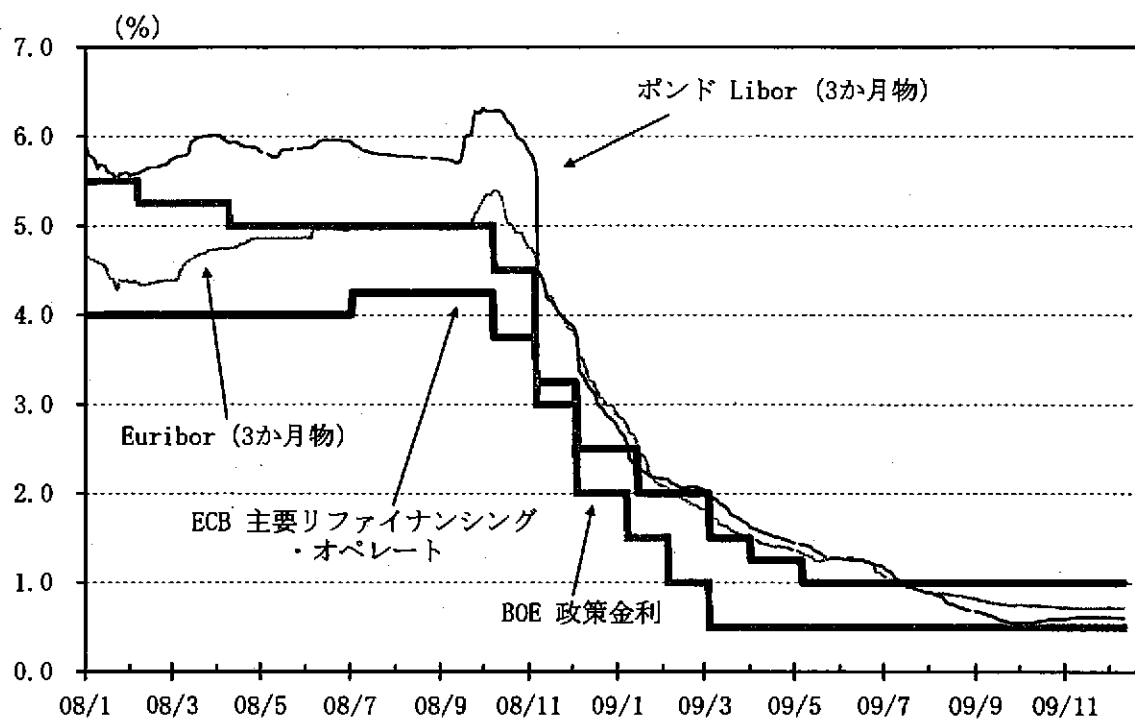
(注2) コアベースの直近は10月。なお、11月の全体は速報値。

/11月

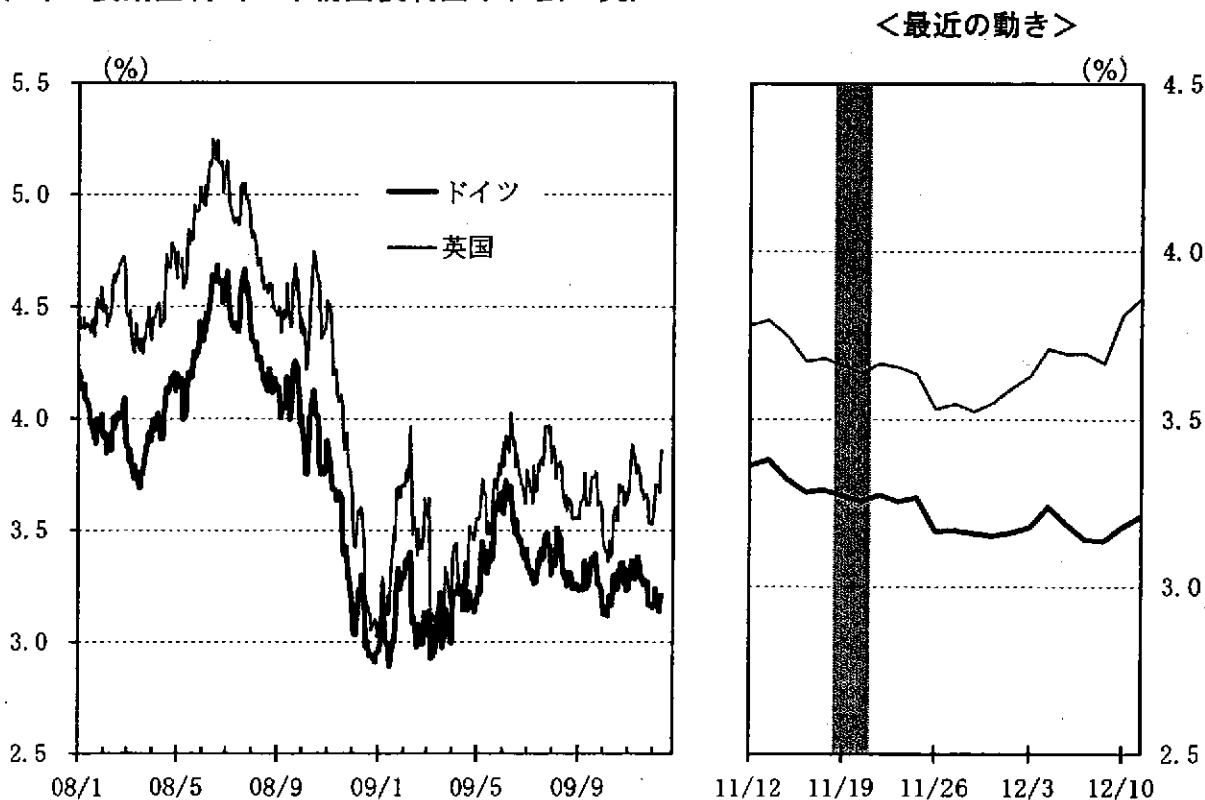
欧州の金融市場

金利 (欧州)

(1) 政策金利・短期金利 (ユーロエリア・英)



(2) 長期金利 (10年物国債利回り、独・英)



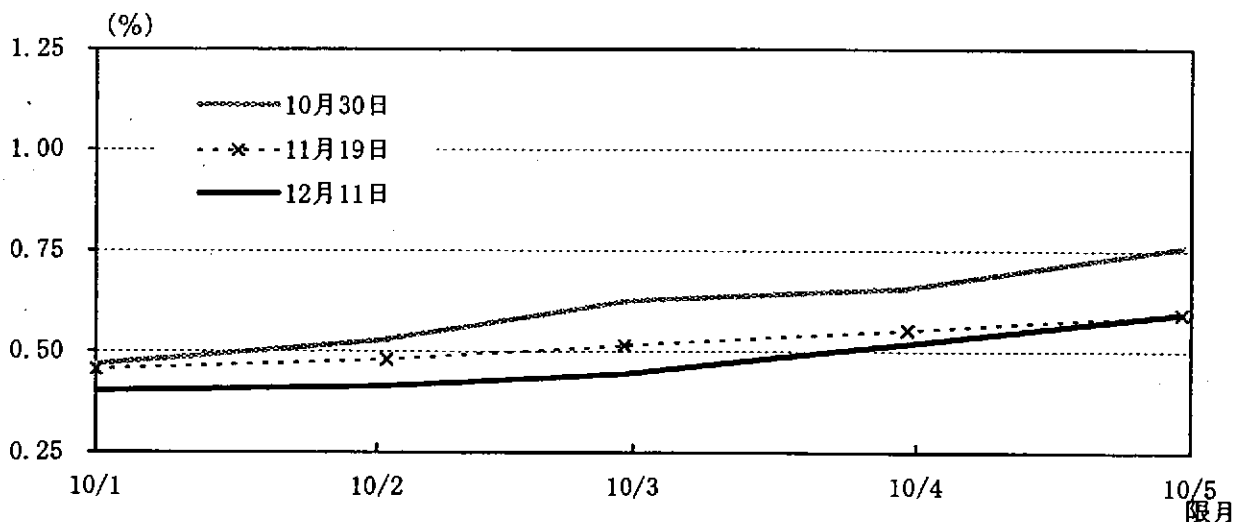
(注) シャドーは前回会合。

(出所) Bloomberg

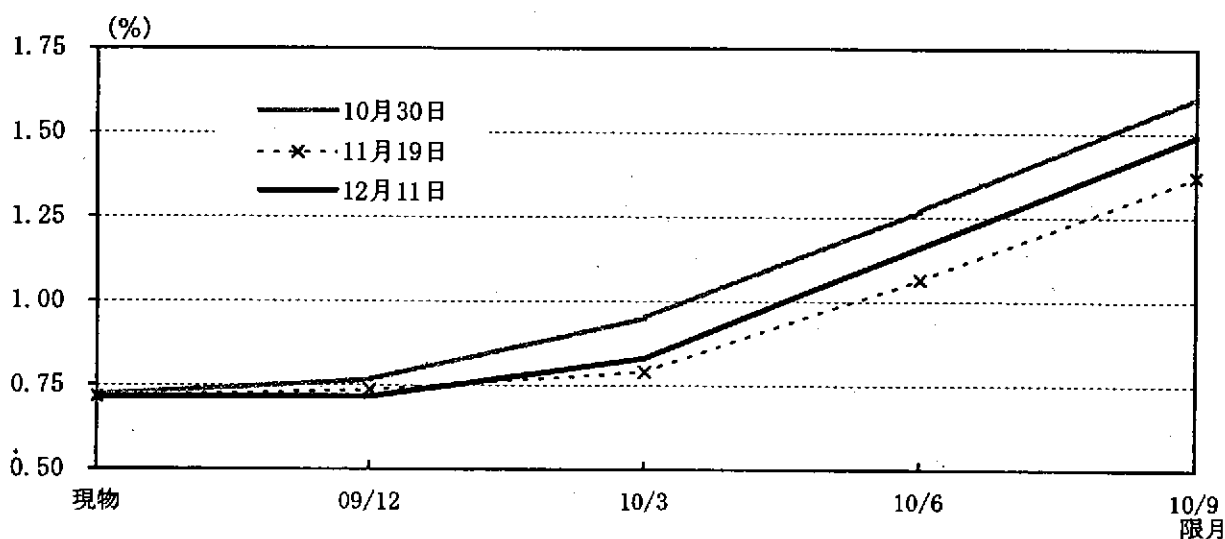
いずれも直近は12月11日

先行きの金利観 (ユーロエリア)

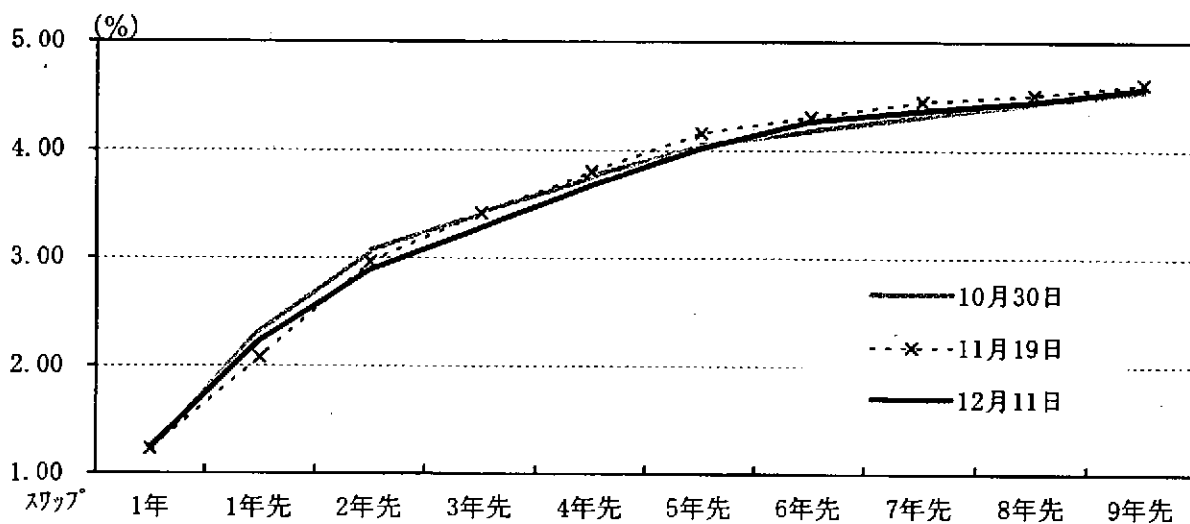
(1) EONIAスワップのインプライド・フォワード・レート (1か月物)



(2) Euribor先物金利 (3か月物)



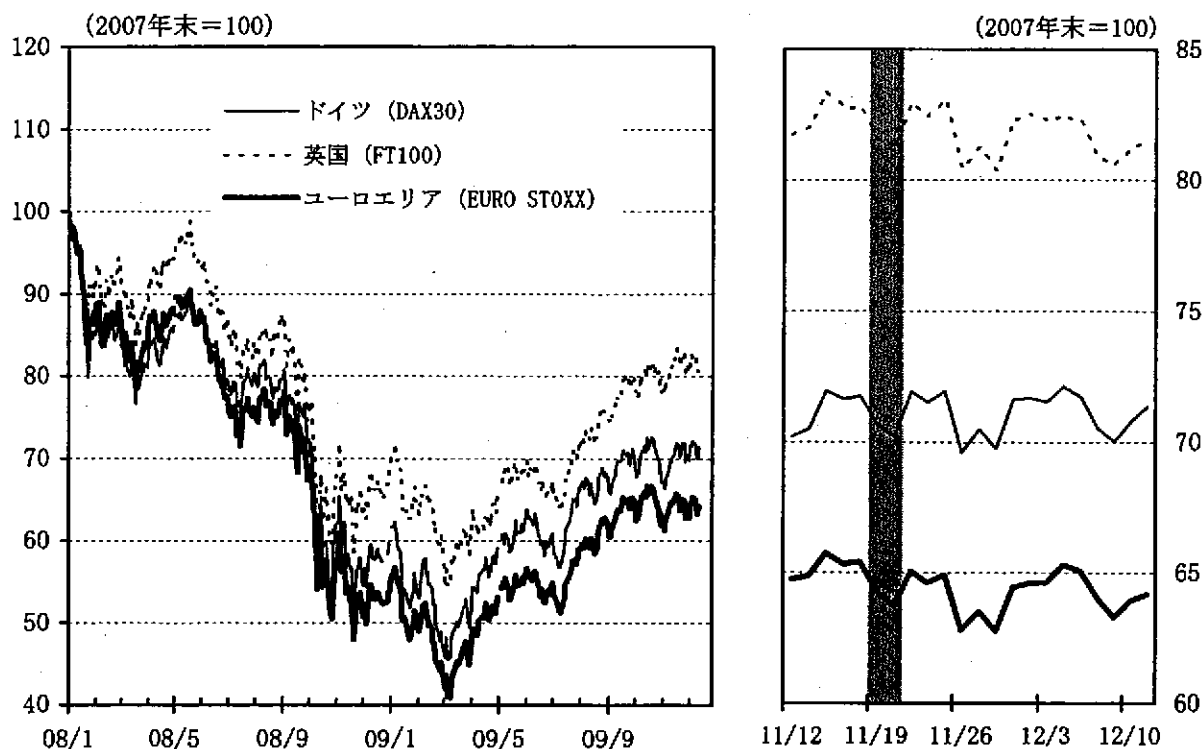
(3) インプライド・フォワード・レート (ユーロ・スワップ、1年物)



(出所) Bloomberg

株価 (欧州)

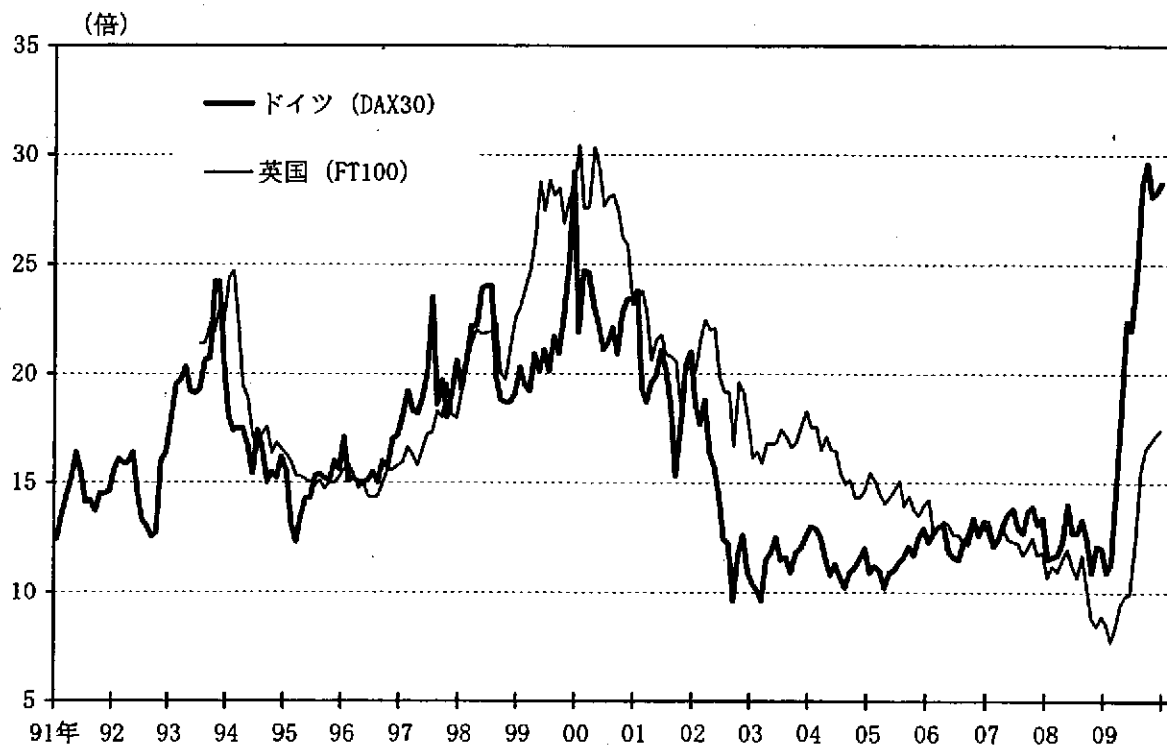
(1) 株価 (ユーロエリア・独・英)



(注) シャドーは前回会合。

(出所) Bloomberg

(2) 株価収益率 (PER、DAX30・FT100)



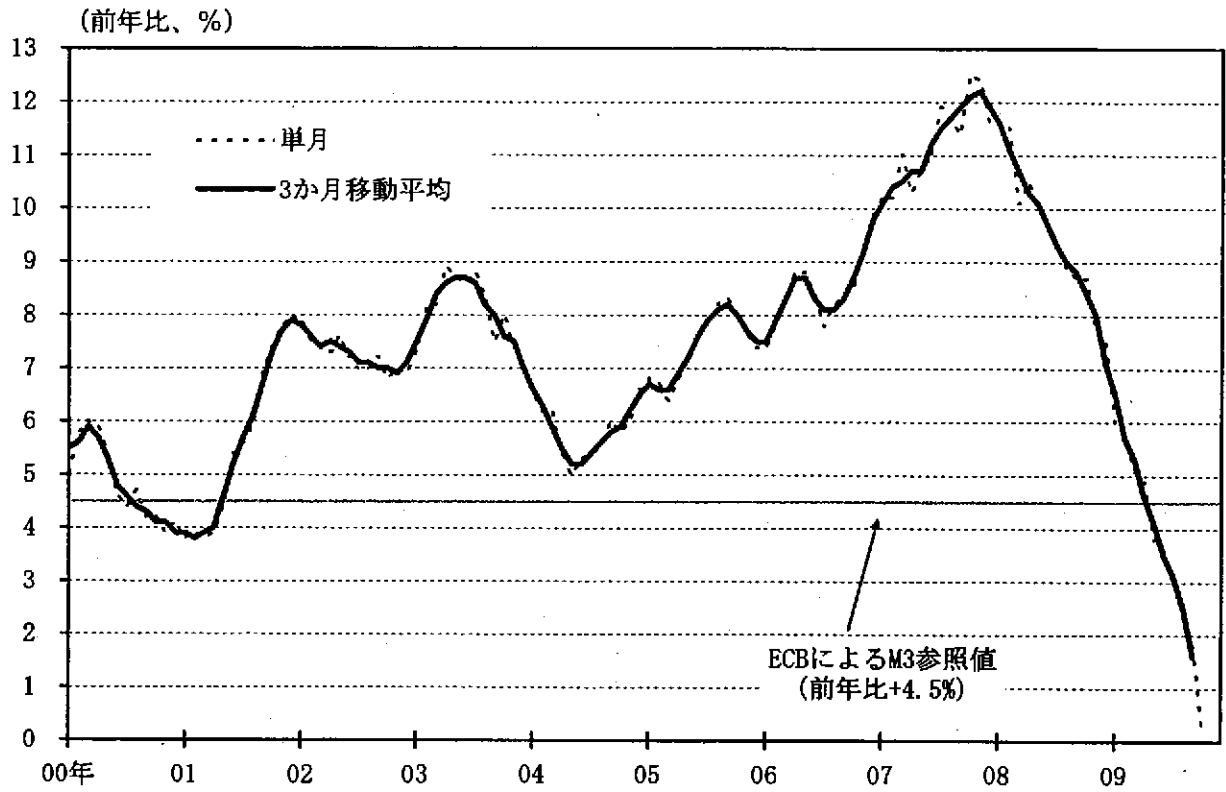
(注) DAX30のPERは予想収益ベース、FT100のPERは実績収益ベース。

(出所) Thomson Reuters Datastream

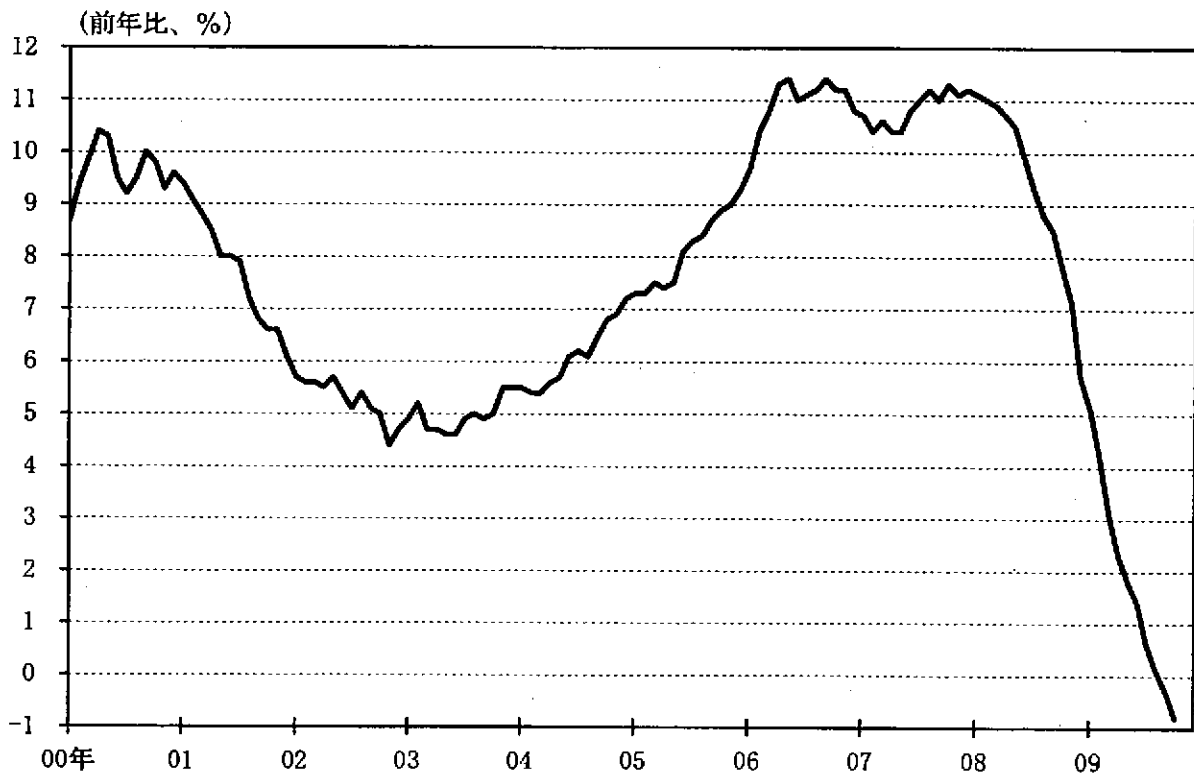
いずれも直近は12月11日

M3・貸出 (ユーロエリア)

(1) M3伸び率



(2) 対民間貸出伸び率

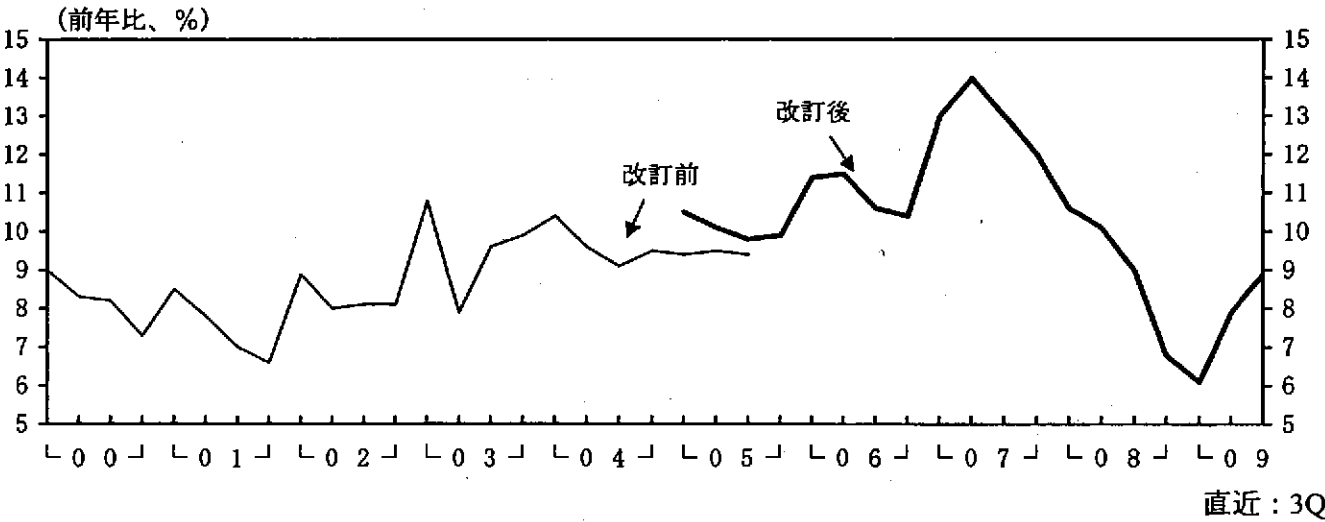


(出所) ECB

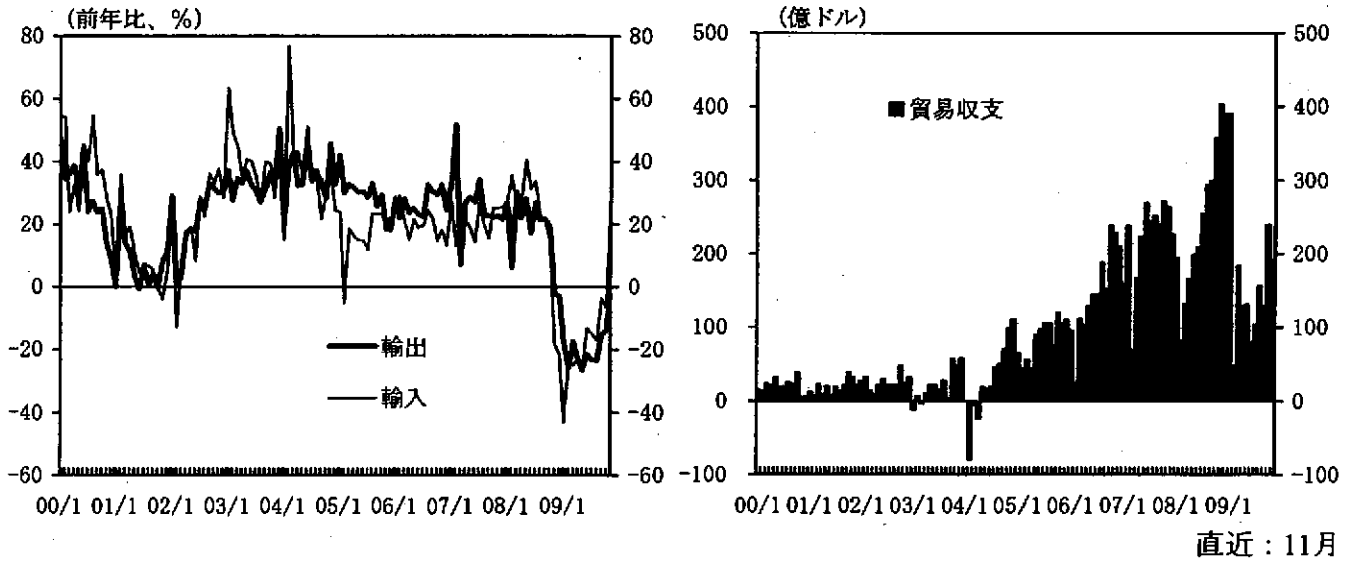
いずれも直近は10月

アジア諸国・地域の实体经济 中国(1)

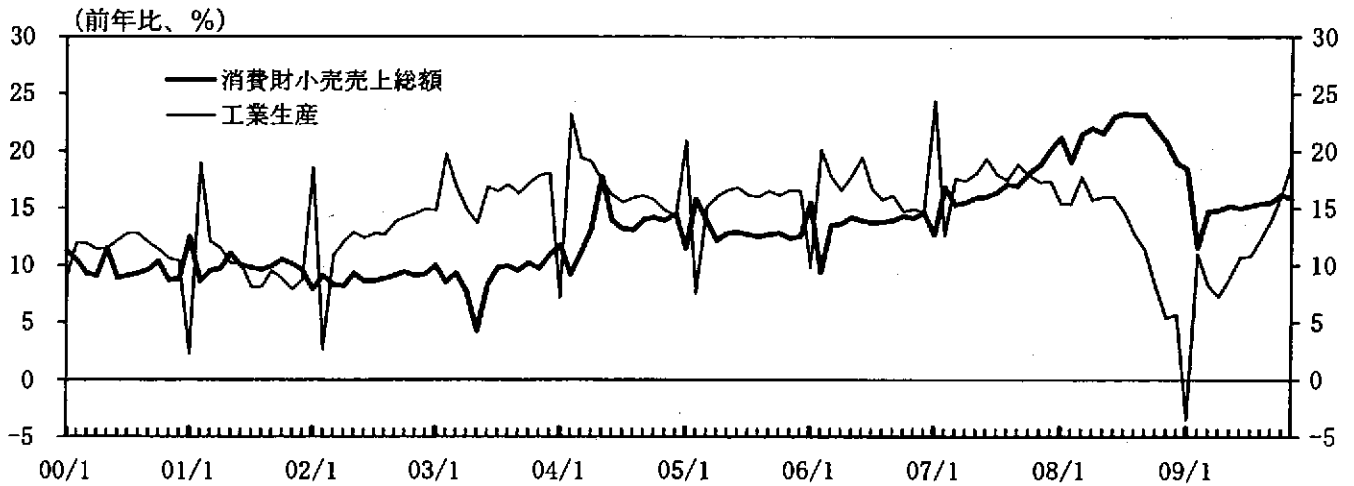
(1) 実質GDP



(2) 貿易



(3) 生産、個人消費



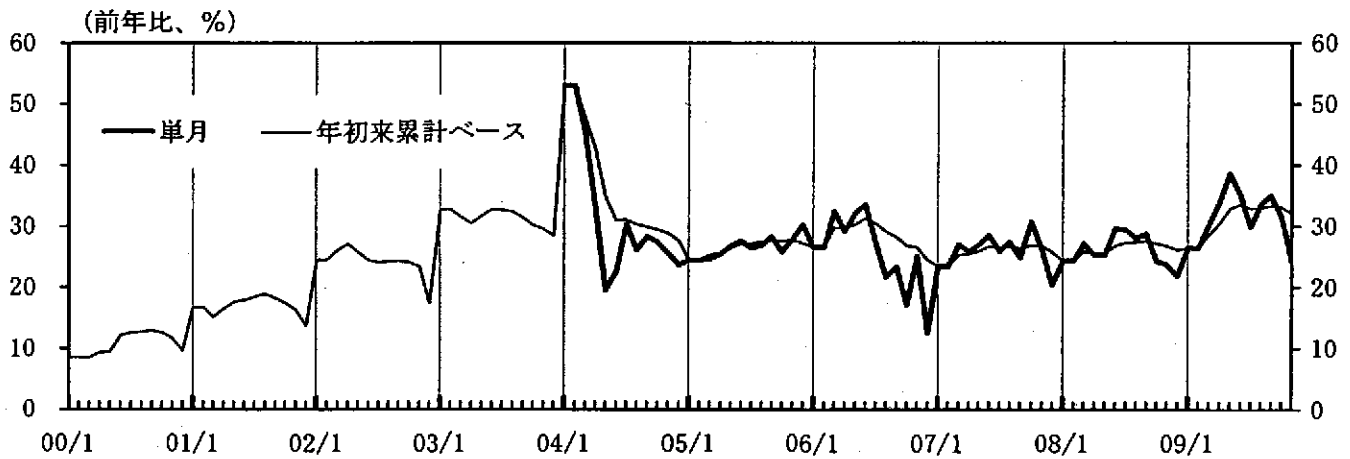
(注1) 1、2月の工業生産が大きく変動しているのは、旧正月要因。

直近: 11月

(注2) 工業生産の2007年以降の1月は、中国国家统计局が公表する1-2月累計値の前年比伸び率と2月の前年比伸び率を用いて当局で試算。

中国(2)

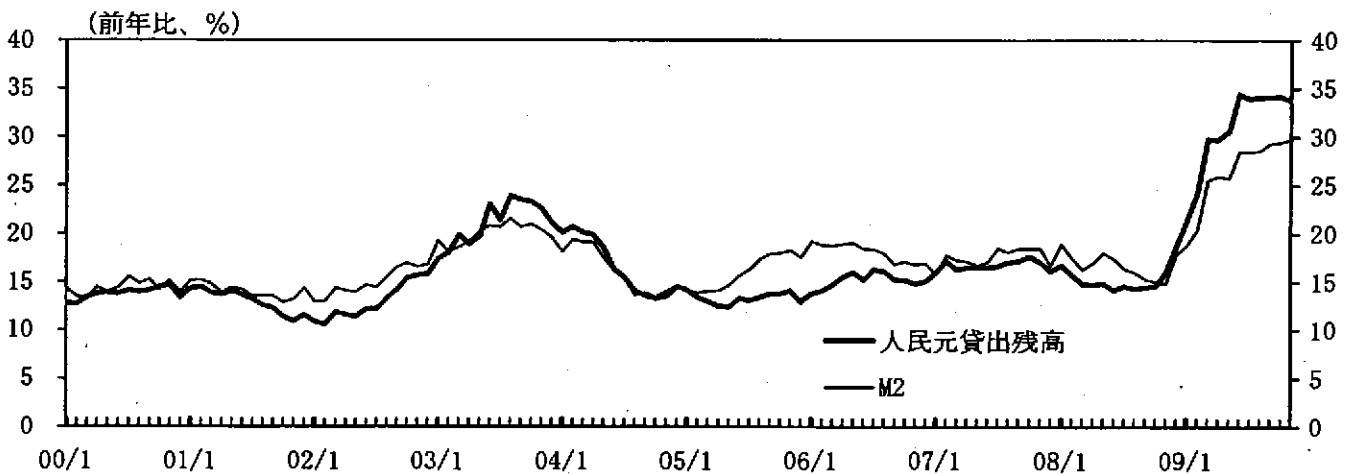
(1) 固定資産投資



直近：11月

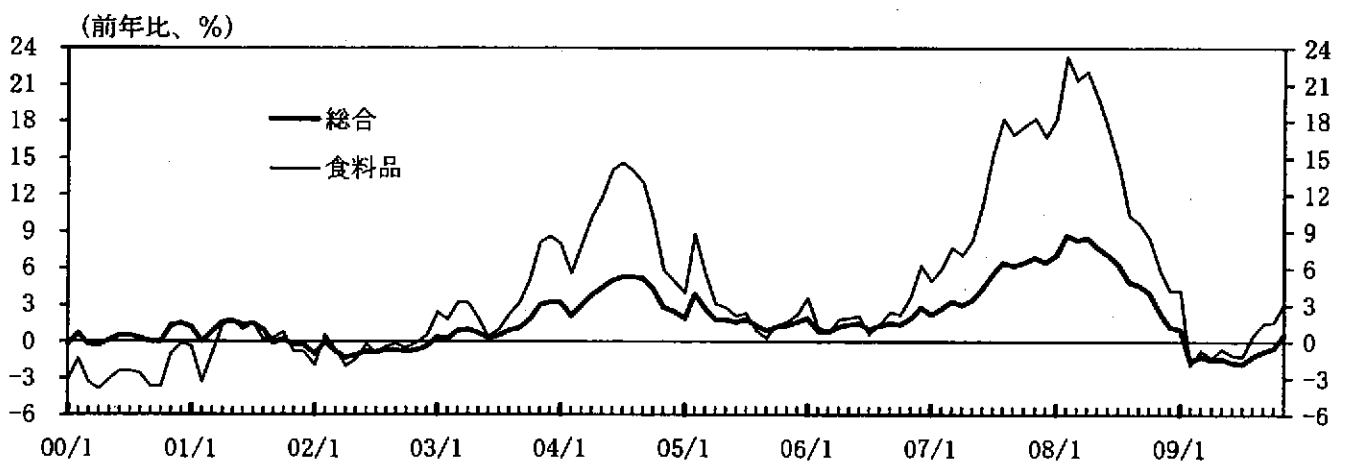
(注) 固定資産投資は、都市部。2003年までは、不動産開発を除き、都市部及び農村部の集団所有制企業と個人による投資を除外している。2004年以降は、都市部における50万元以上の全ての投資、不動産開発投資、都市の鉱工業区における民間住宅建設を含む。なお、1月単月の数値は公表されていないため、1~2月は等速と仮定している。

(2) M2と貸出



直近：11月

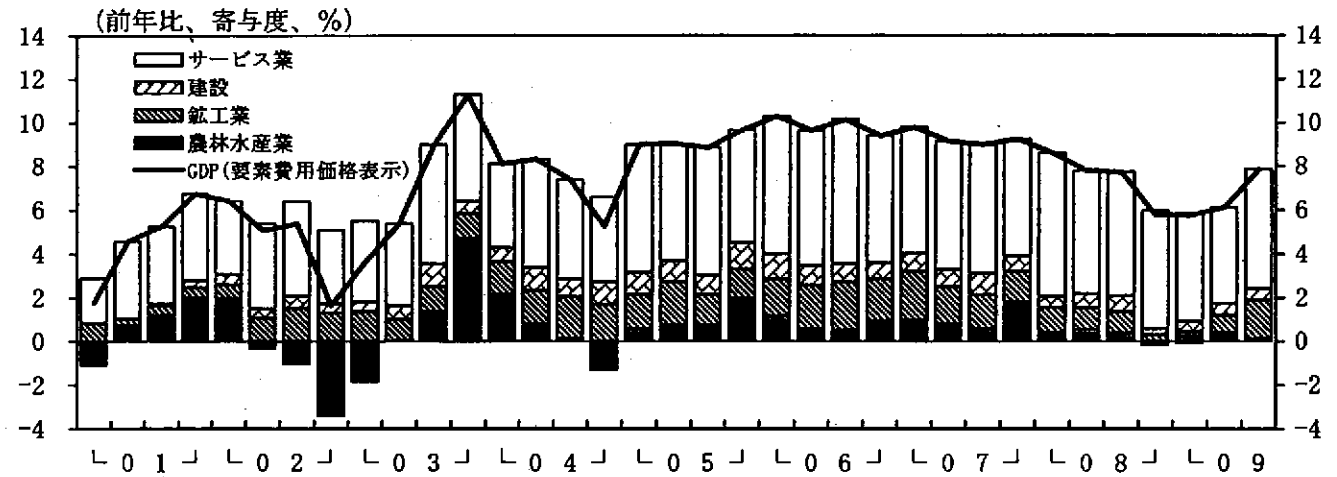
(3) 消費者物価



直近：11月

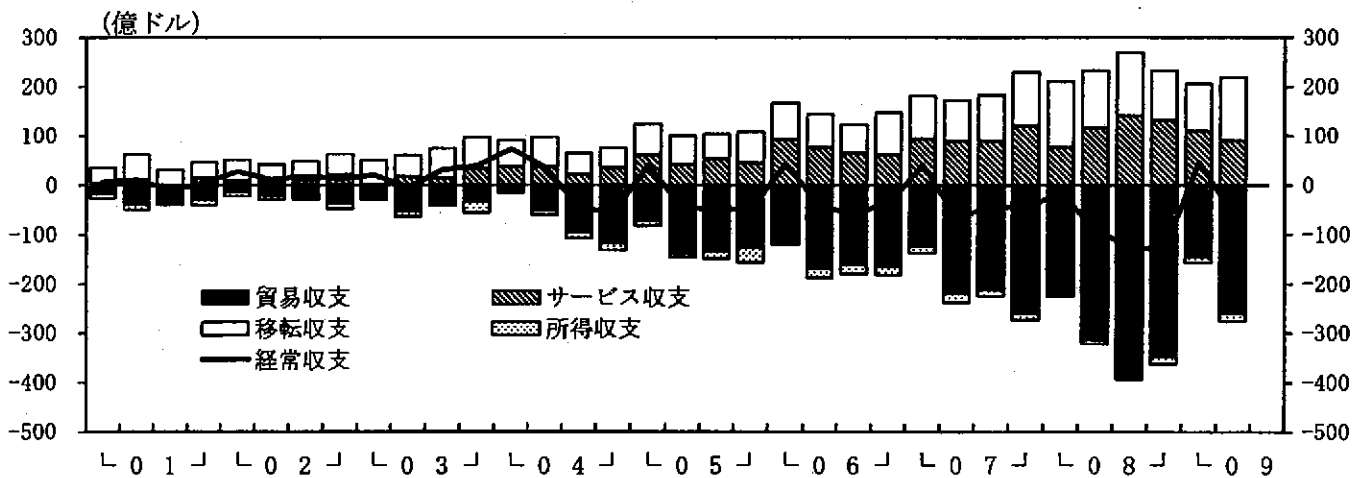
インド

(1) 実質GDP (産業別寄与度)



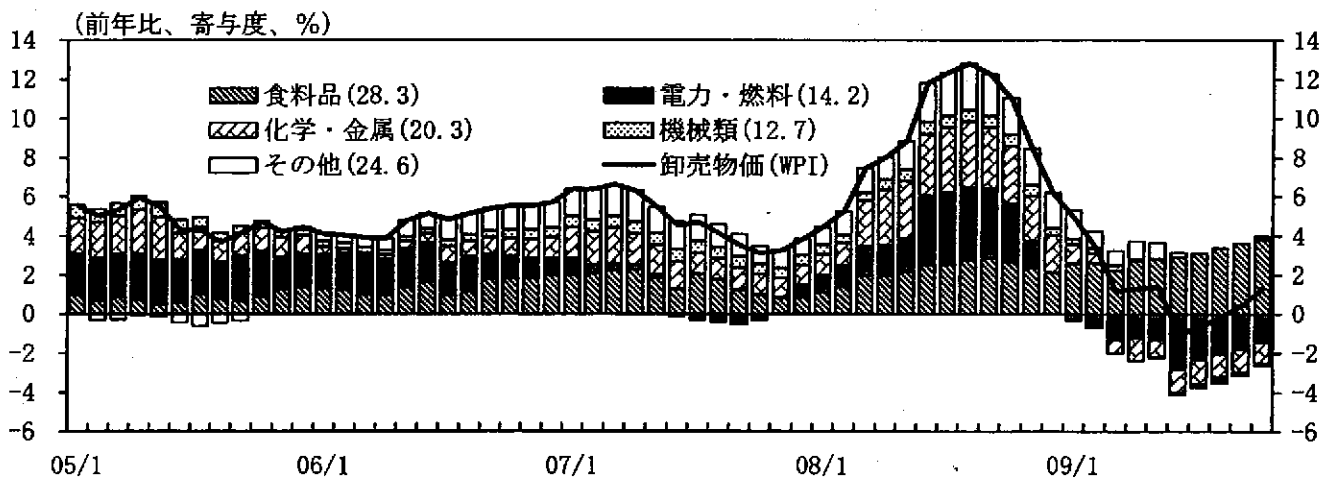
直近: 3Q

(2) 経常収支



直近: 2Q

(3) 卸売物価 (WPI)

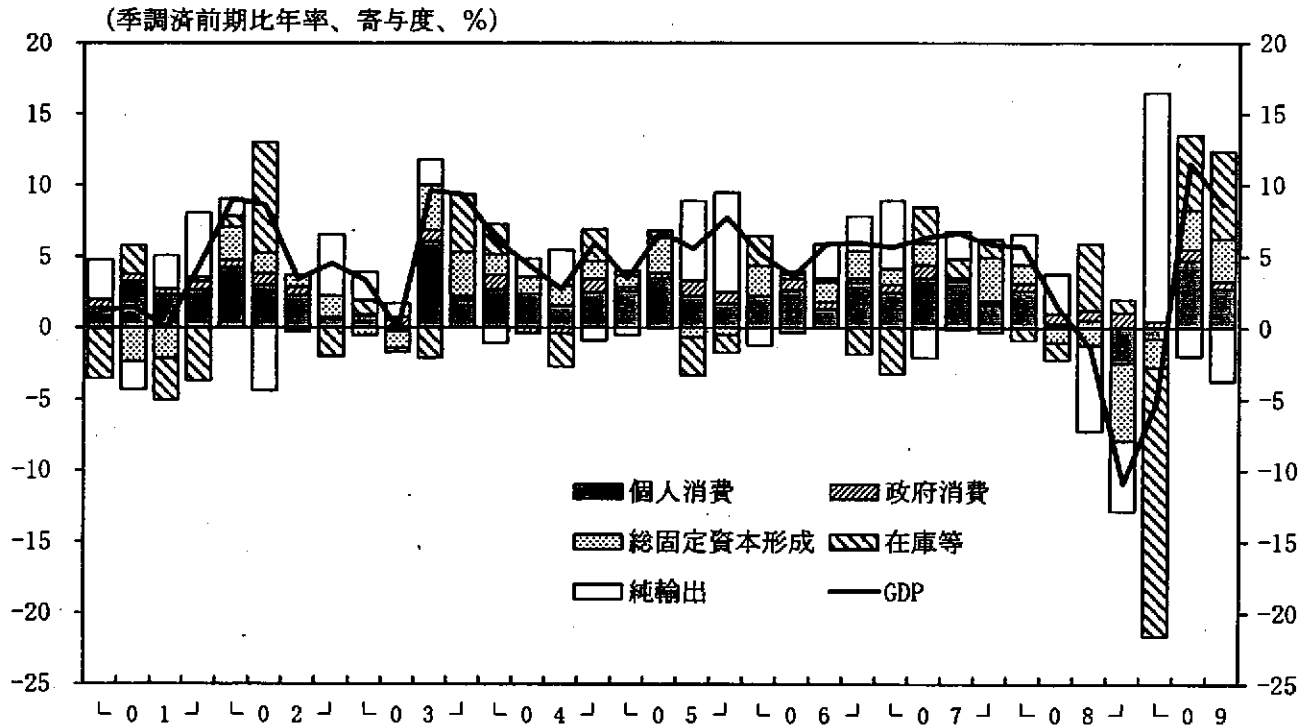


(注) 食料品には加工食品、飲料・タバコを含む。カッコ内はウエイト。

直近: 10月

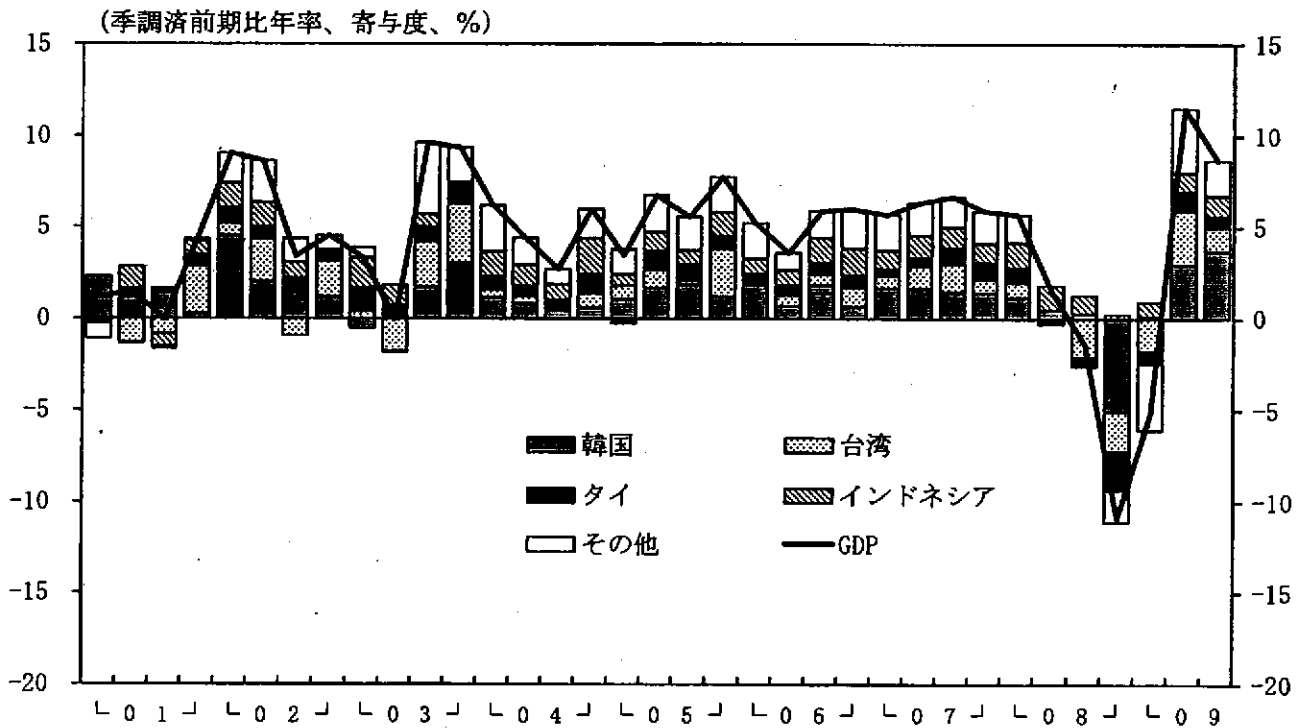
NIEs、ASEAN諸国・地域の実質GDP成長率

(1) NIEs、ASEAN (需要項目別寄与度)



直近: 3Q

(2) NIEs、ASEAN (国・地域別寄与度)



直近: 3Q

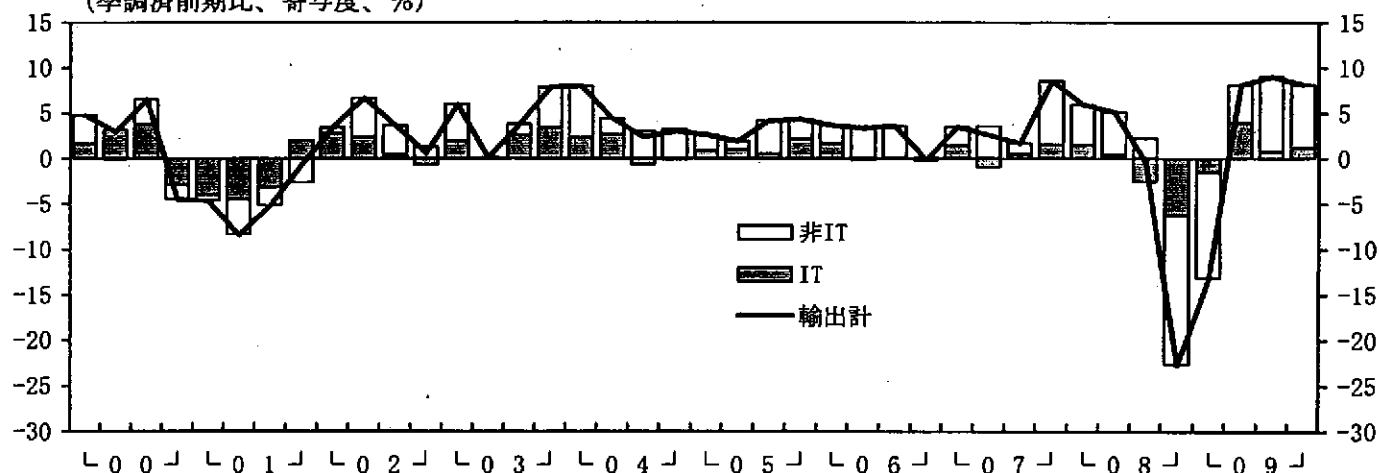
(注1) 全体の前期比年率は、各国・地域の季調済前期比年率を購買力平価換算 (IMF算出) による GDPウェイトで加重平均した値。

(注2) 図表(1)の在庫等には、統計誤差を含む。

NIEs、ASEAN諸国・地域の輸出合成指数 (NIEs4・ASEAN4)

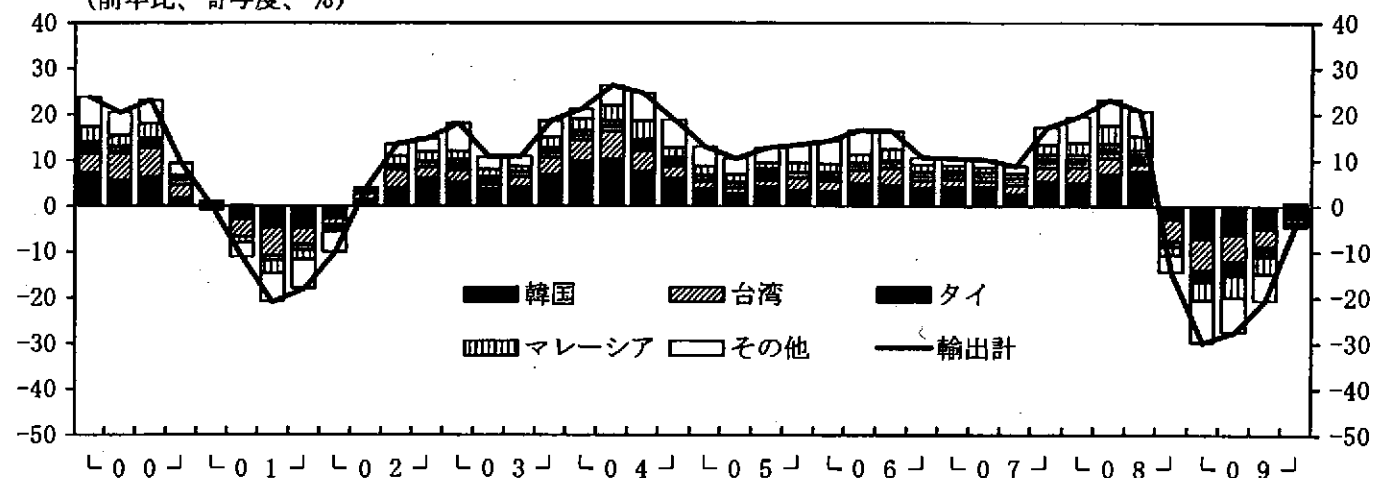
(1) 輸出全体 (前期比)

(季調済前期比、寄与度、%)



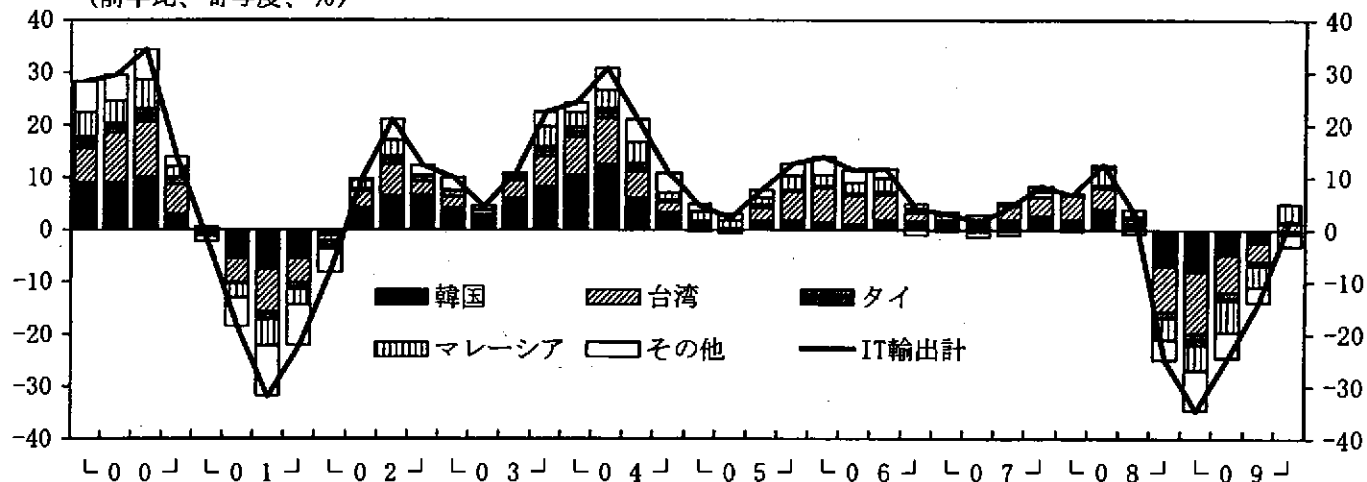
(2) 輸出全体 (前年比)

(前年比、寄与度、%)



(3) IT関連輸出 (前年比)

(前年比、寄与度、%)



(注1) 直近4Qは、10月の値。なお、直近月まで公表されていないデータに関しては、前月の前年比で横置きしている。

(注2) NIEs4は、韓国、台湾、シンガポール、香港、ASEAN4は、タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン。

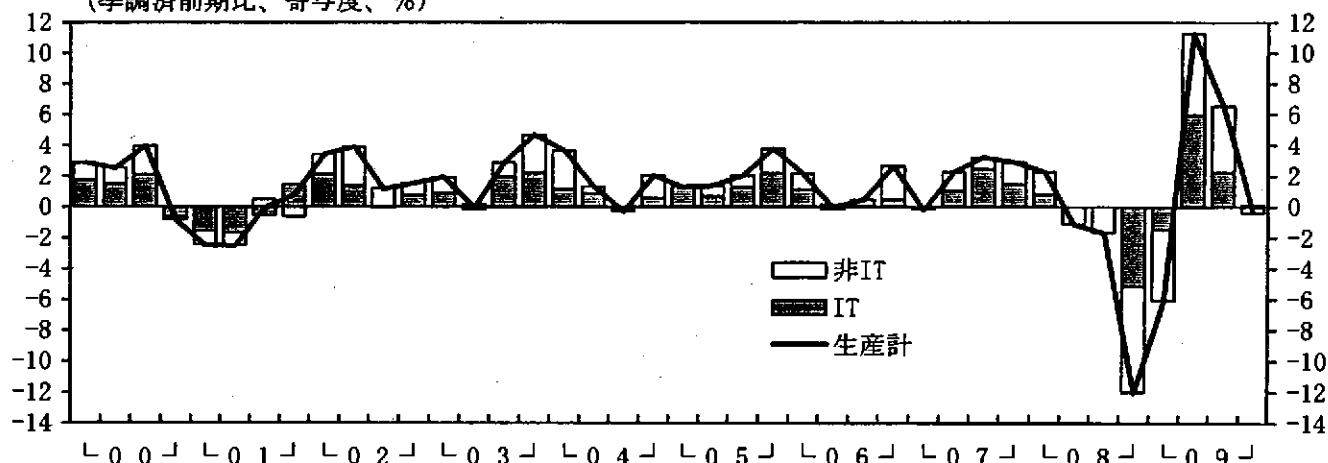
(注3) 季調済前期比は、X-12-ARIMAによる。IT輸出の寄与度は、X-12-ARIMAによる季調済のIT輸出金額を用いて算出し、非ITは輸出全体からIT輸出の寄与度を差し引いて算出した。

(注4) 全て金額ベース。

NIEs、ASEAN諸国・地域の生産合成指数 (NIEs3・ASEAN3)

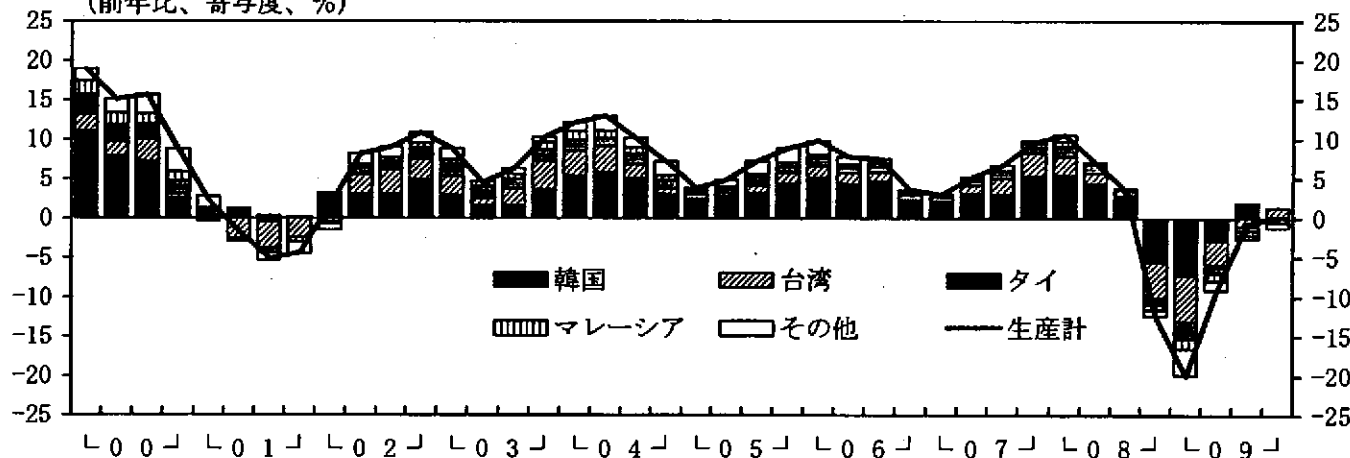
(1) 生産全体 (前期比)

(季調済前期比、寄与度、%)



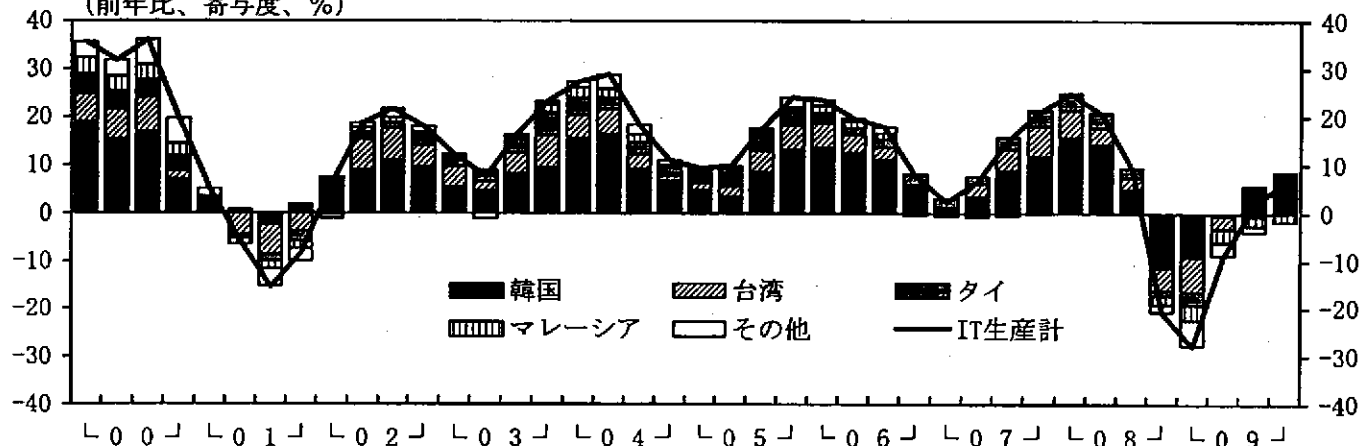
(2) 生産全体 (前年比)

(前年比、寄与度、%)



(3) IT関連生産 (前年比)

(前年比、寄与度、%)



(注1) 直近4Qは、10月の値。なお、直近月まで公表されていないデータに関しては、未季調値は前月の前年比、季調値は前月の値で横置きしている。

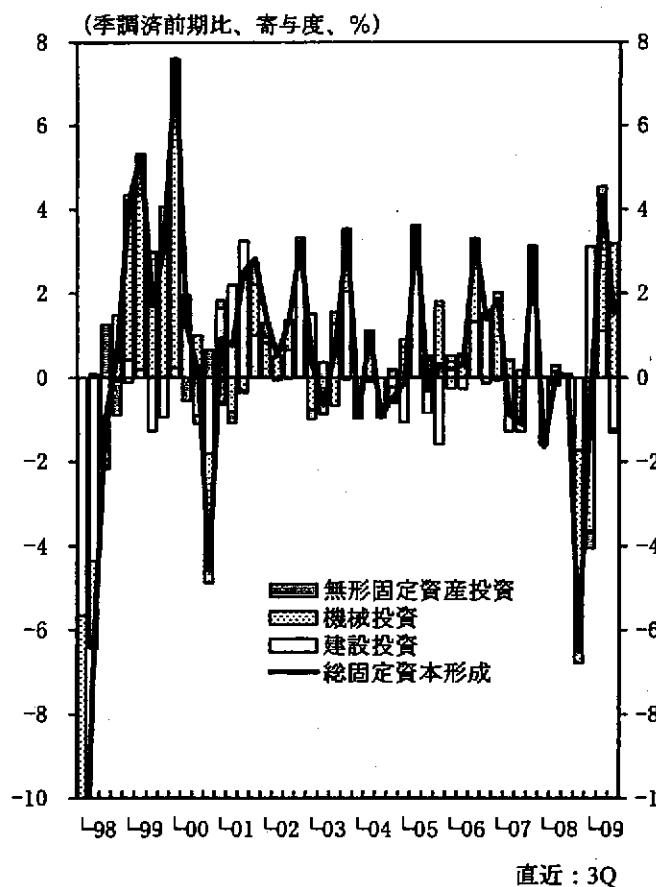
(注2) NIEs3は、韓国、台湾、シンガポール、ASEAN3は、タイ、マレーシア、フィリピン。

(注3) 全体の前期比は、各国・地域の季調済前期比を名目GDPウェイト(ドル建名目GDPの世界計に対する各国シェアの後方3年移動平均を用いて算出)で加重平均した値。現地統計で季調値が公表されていないデータは、X-12-ARIMAによる当局算出値。生産全体に対するITの内訳寄与度は、各国・地域の生産指数のIT関連品目の伸び率およびウェイトを用いて寄与度を計算し、それを名目GDPウェイトで加重平均して算出した。

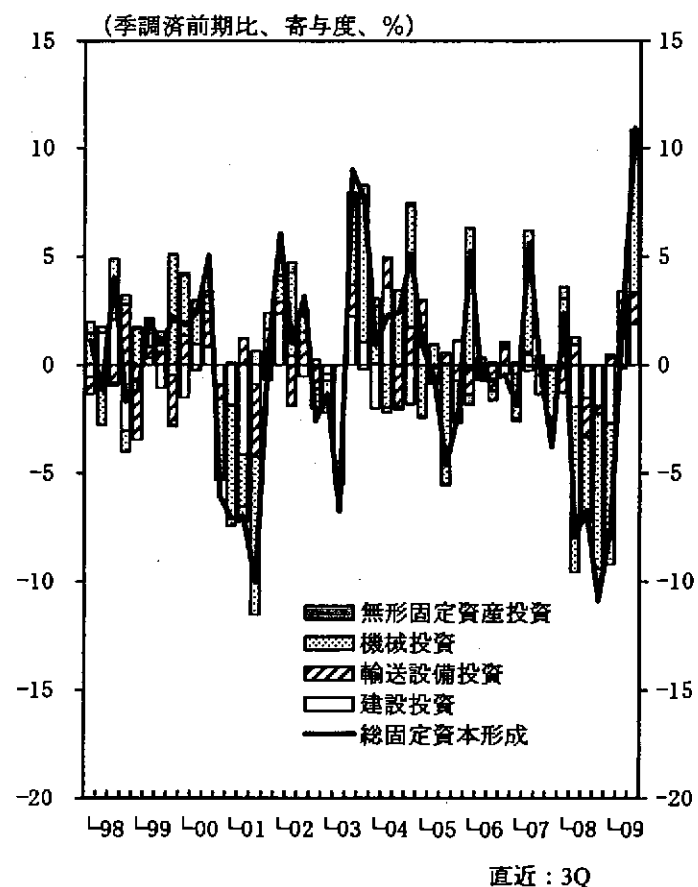
(注4) 全て数量ベース。

NIEs、ASEAN諸国・地域の総固定資本形成、家計支出関連指標

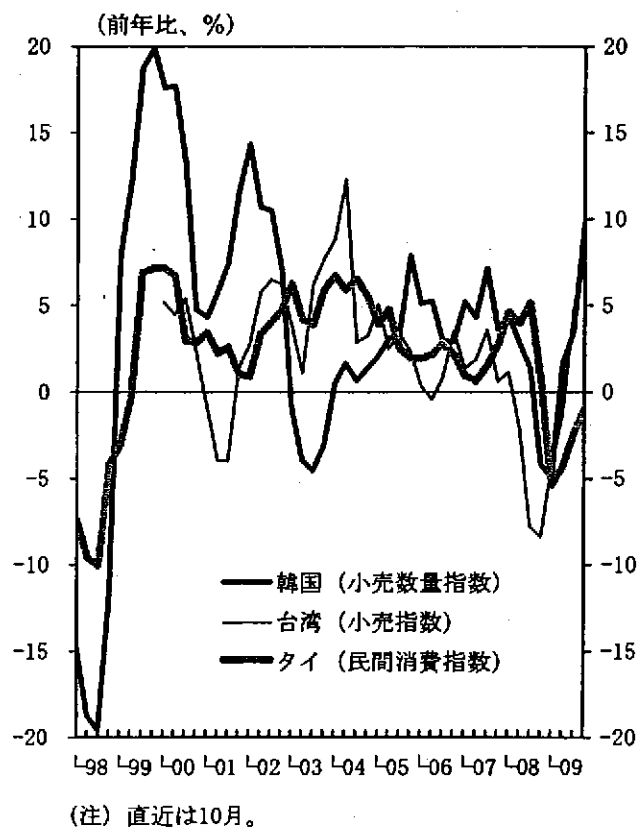
(1) 韓国の総固定資本形成



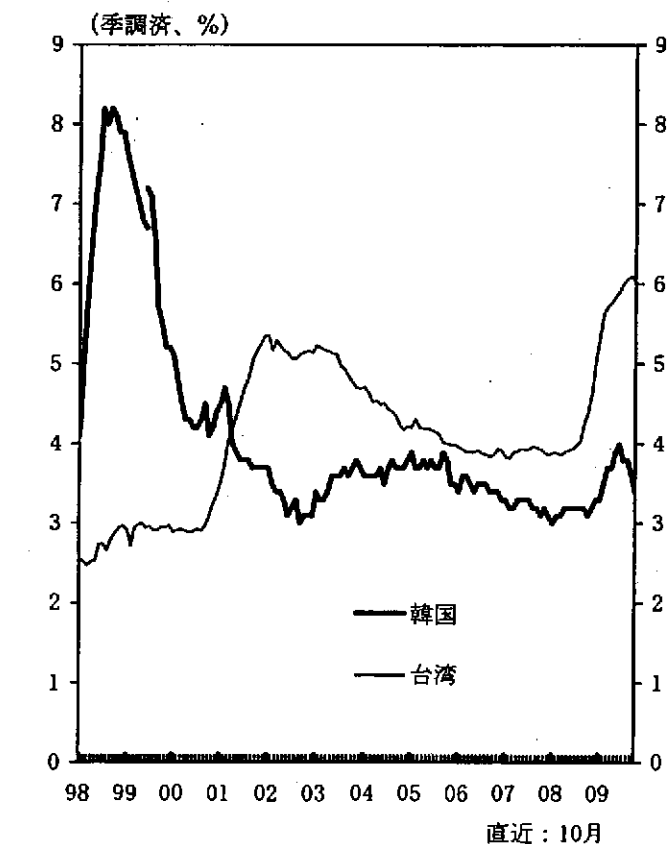
(2) 台湾の総固定資本形成



(3) 個人消費関連指標



(4) 失業率



(注1) 季節調整値は、台湾の総固定資本形成はX-11を用いて当局で算出、その他は現地統計。

(注2) 韓国の総固定資本形成は、2000年1Qまでは2000年基準値、それ以降は2005年基準値。

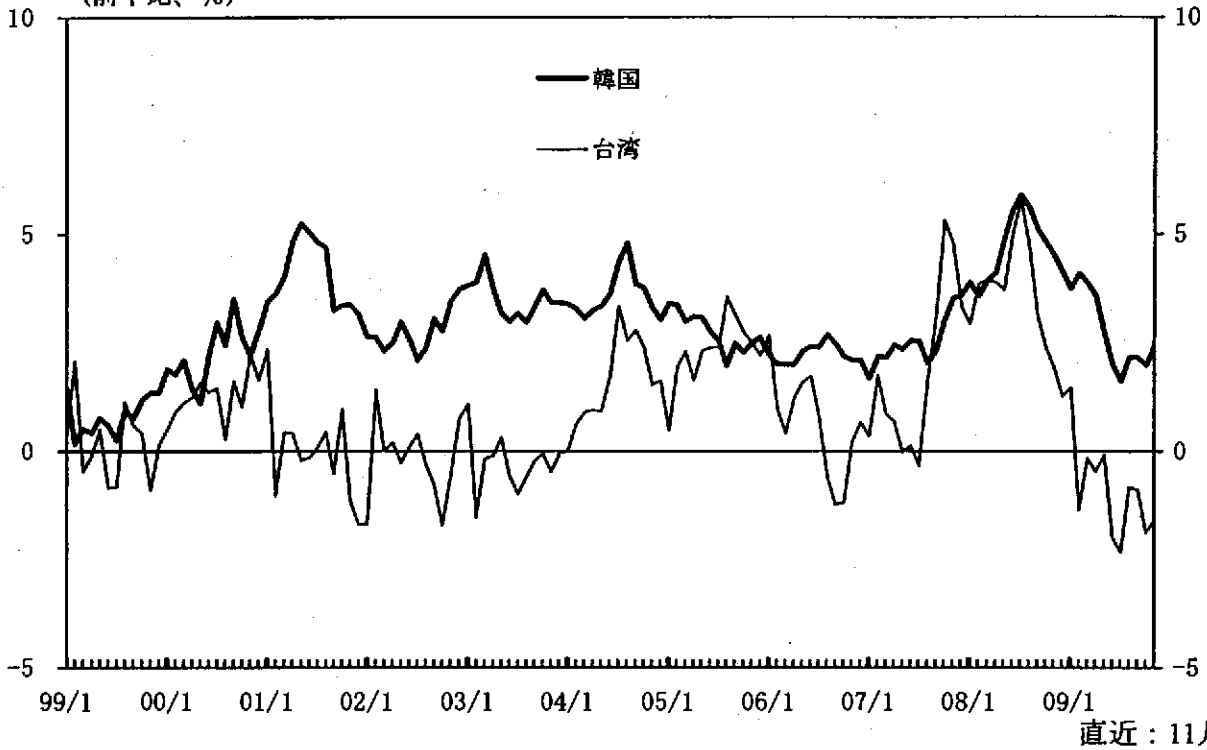
(注3) 韓国の失業率は、調査内容の変更により、1999/5月時点で不連続となっている。1999/5月までは調査日から過去1週間の、それ以降は過去4週間の求職活動の有無について調査している。

(注4) タイの個人消費は、1999年までは1995年基準値、2000年以降は2000年基準値。

NIEs、ASEAN諸国・地域の消費者物価

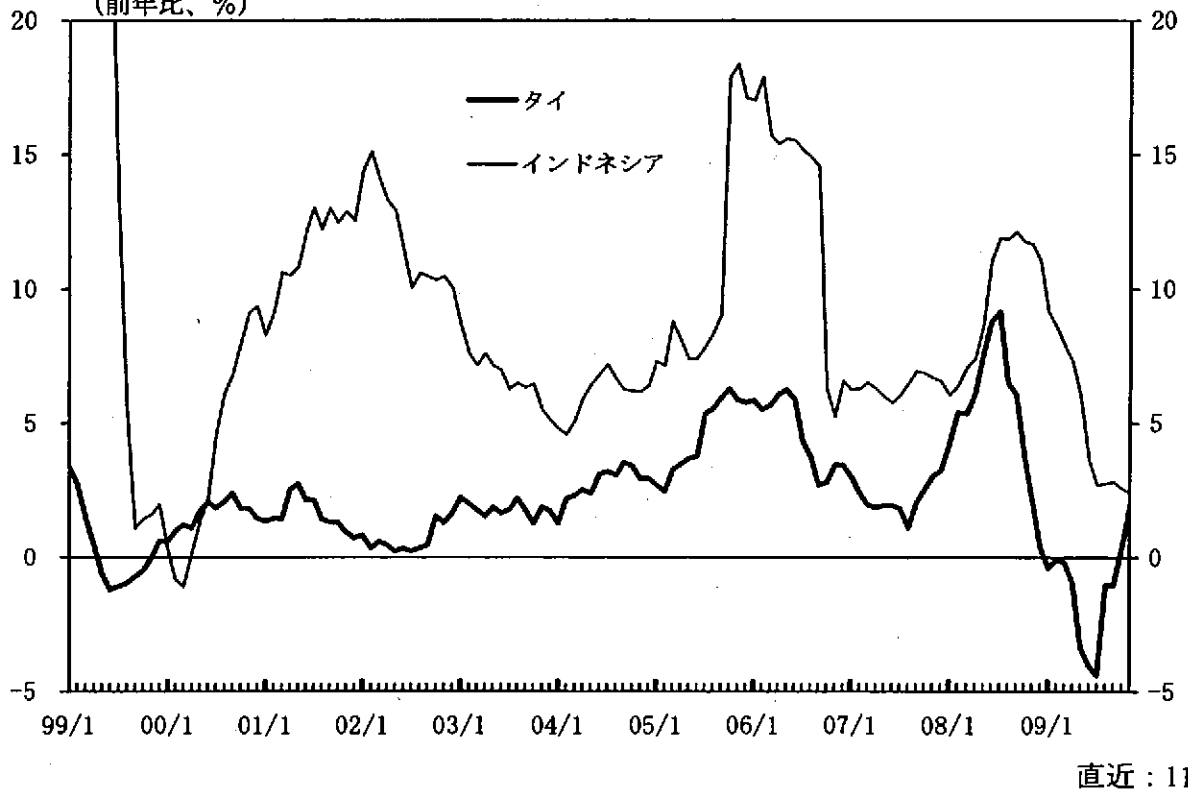
(1) NIEs (韓国・台湾)

(前年比、%)



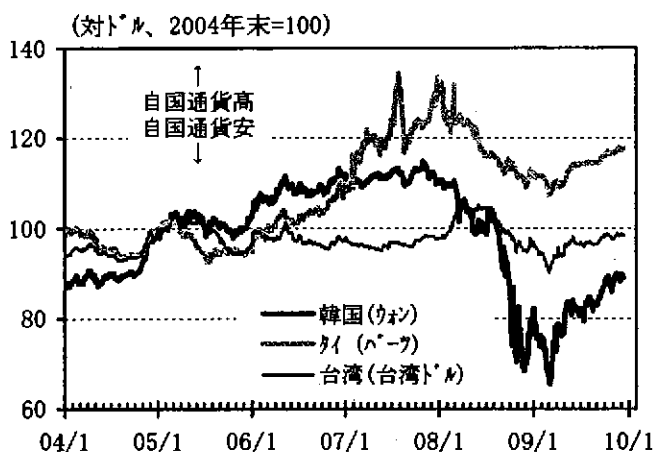
(2) ASEAN (タイ・インドネシア)

(前年比、%)

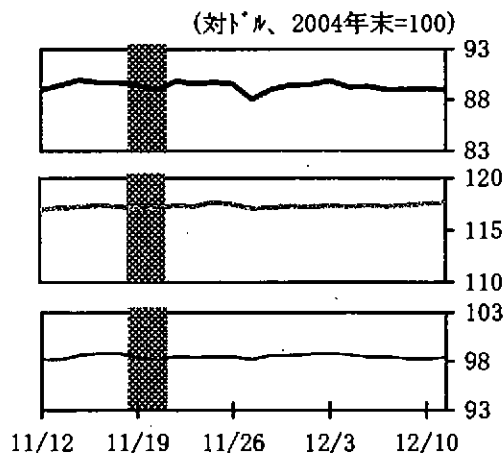


エマージング諸国・地域の金融市場 通貨(1)

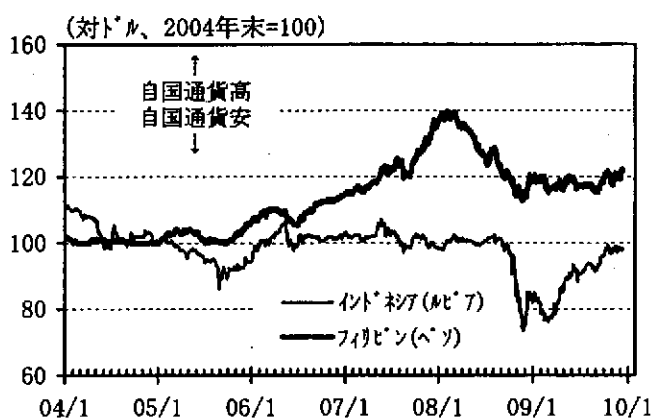
(1) 韓国、台湾、タイ



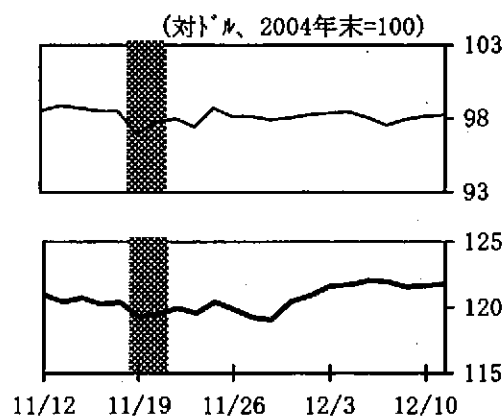
<最近の動き>



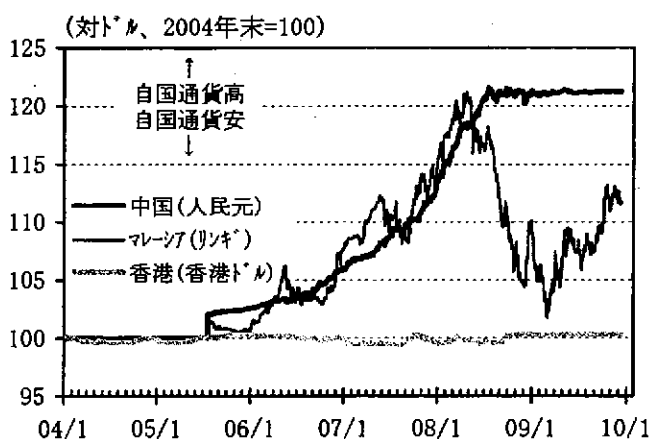
(2) インドネシア、フィリピン



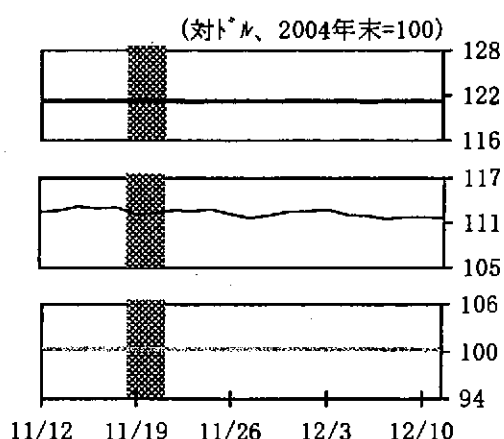
<最近の動き>



(3) 中国、香港、マレーシア



<最近の動き>



(注1) シャドーは前回会合。

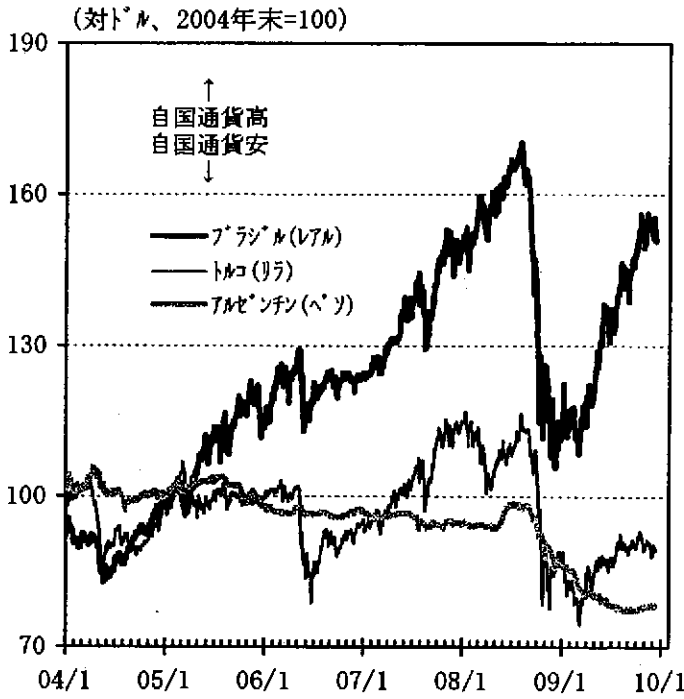
いずれも直近は12月11日

(注2) タイ・バーツは07年1月31日よりオフショア市場でのレートを用いている。

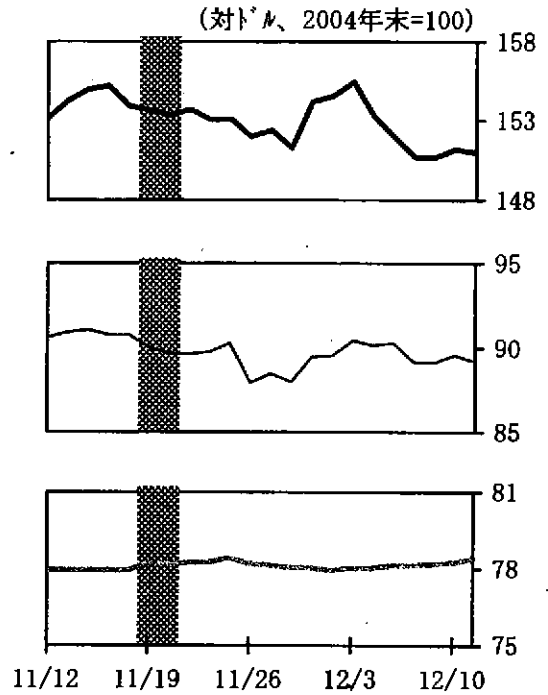
(出所) Bloomberg

通貨(2)

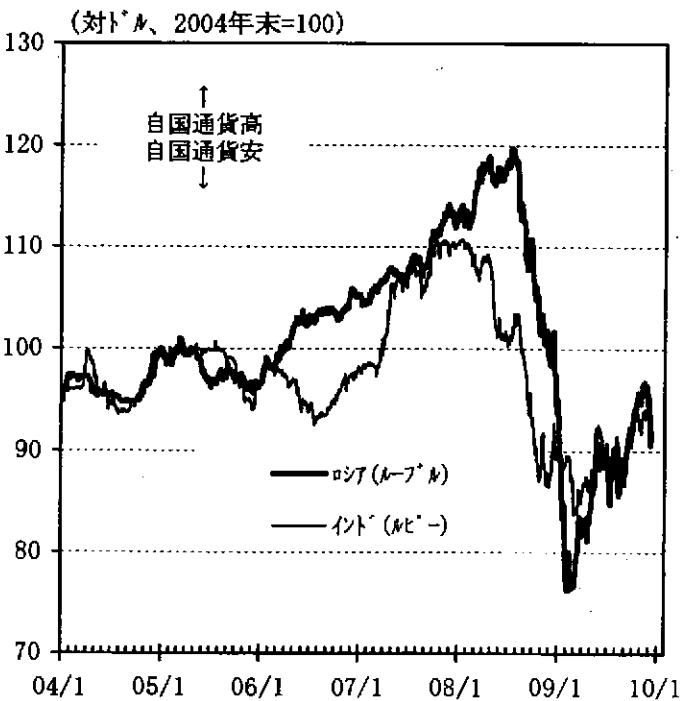
(4) ブラジル、アルゼンチン、トルコ



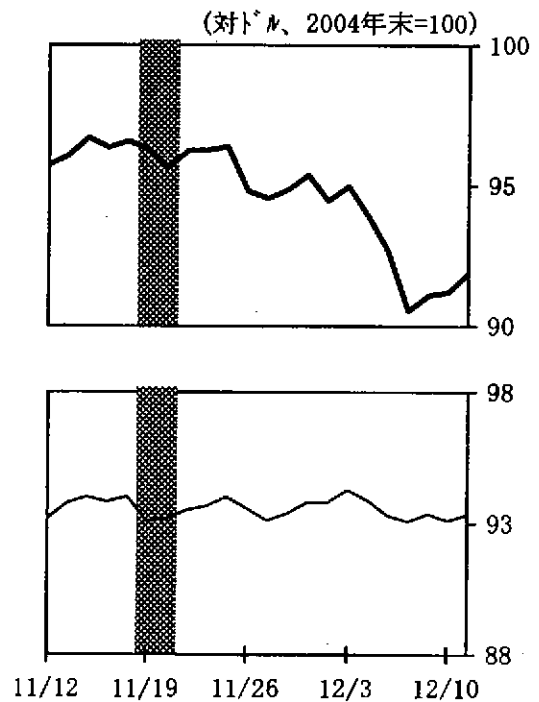
<最近の動き>



(5) ロシア、インド



<最近の動き>

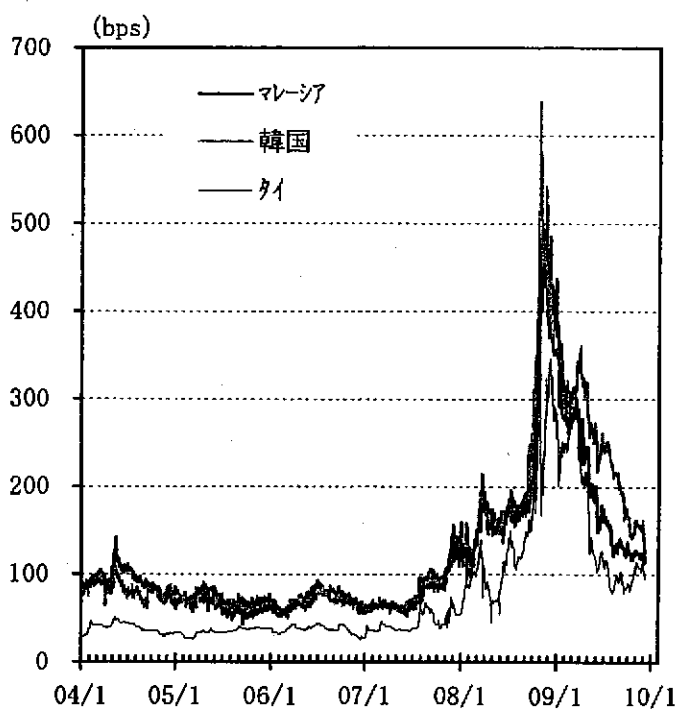


(注) シャドーは前回会合。
(出所) Bloomberg

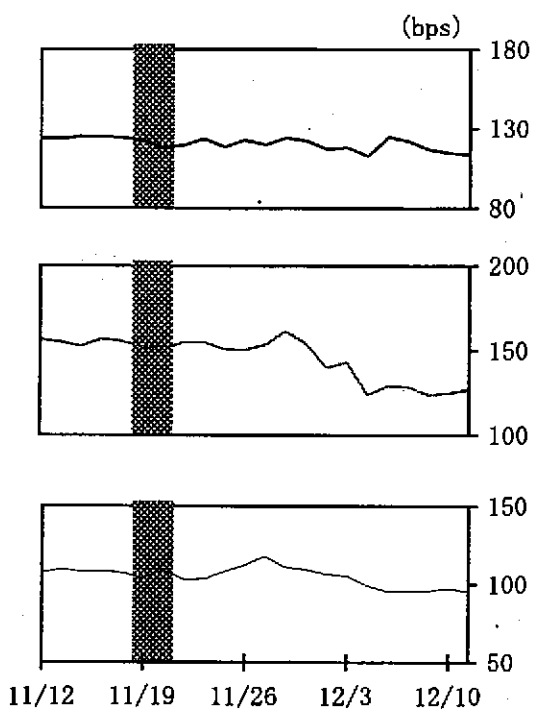
いずれも直近は12月11日

対米国債スプレッド (1)

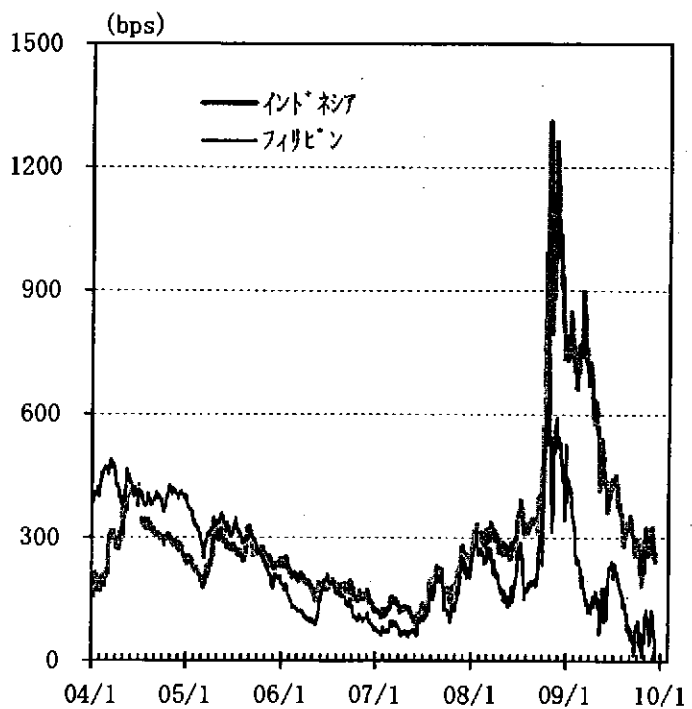
(1) 韓国、タイ、マレーシア



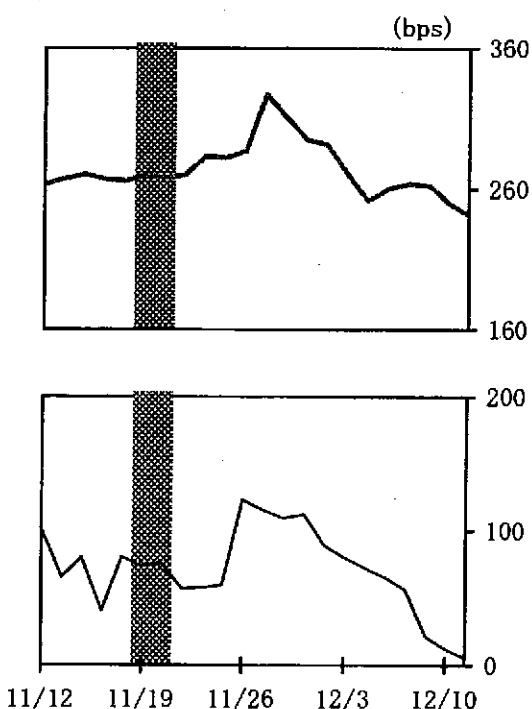
<最近の動き>



(2) インドネシア、フィリピン



<最近の動き>



(注1) シャドーは前回会合。

いずれも直近は12月11日

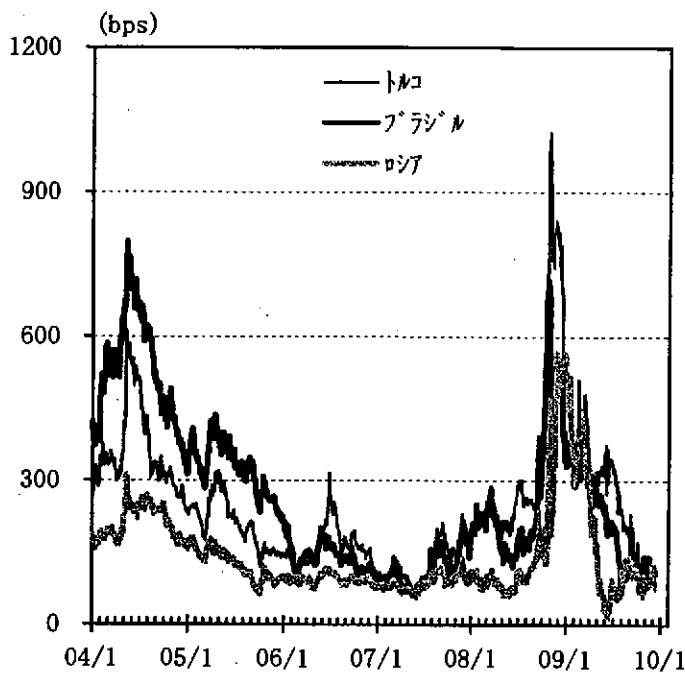
(注2) 04年1月1日～04年3月2日までのインドネシア国債利回りはメリルリンチ社のデータによる。

(注3) タイは5年物CDSで代用。

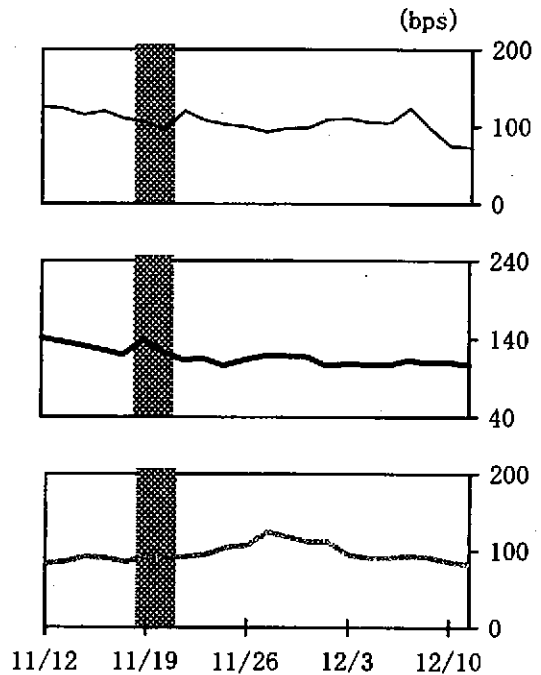
(出所) Bloomberg

対米国債スプレッド (2)

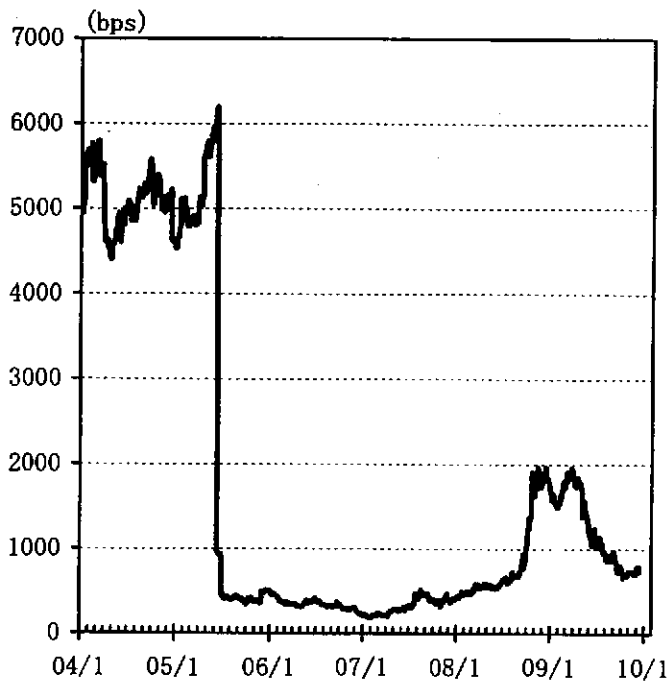
(3) ブラジル、ロシア、トルコ



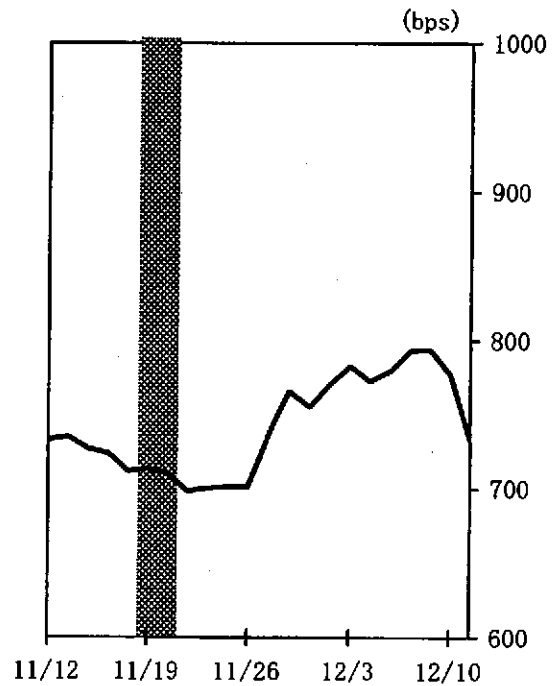
<最近の動き>



(4) アルゼンチン



<最近の動き>

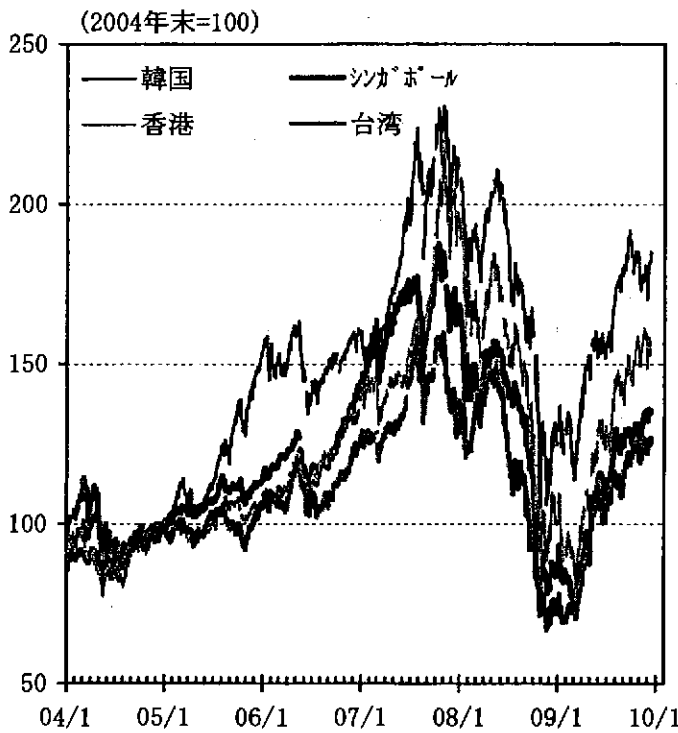


(注1) シャドーは前回会合。
(注2) アルゼンチンはEMBI Global。
(出所) Bloomberg、J.P. Morgan

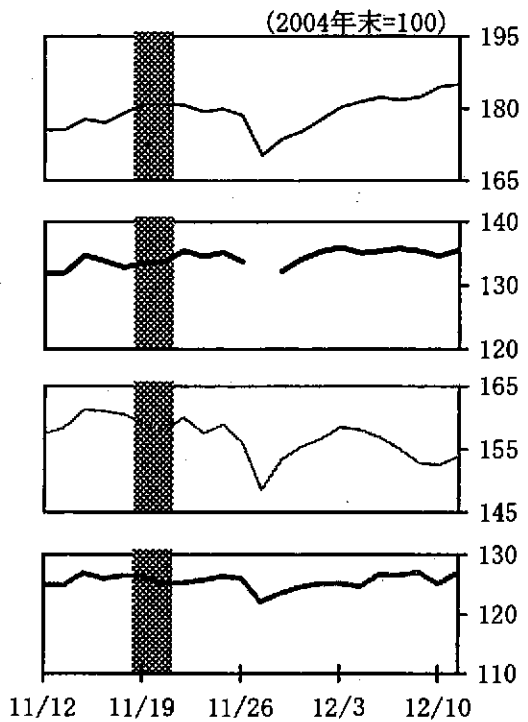
いずれも直近は12月11日

株価(1)

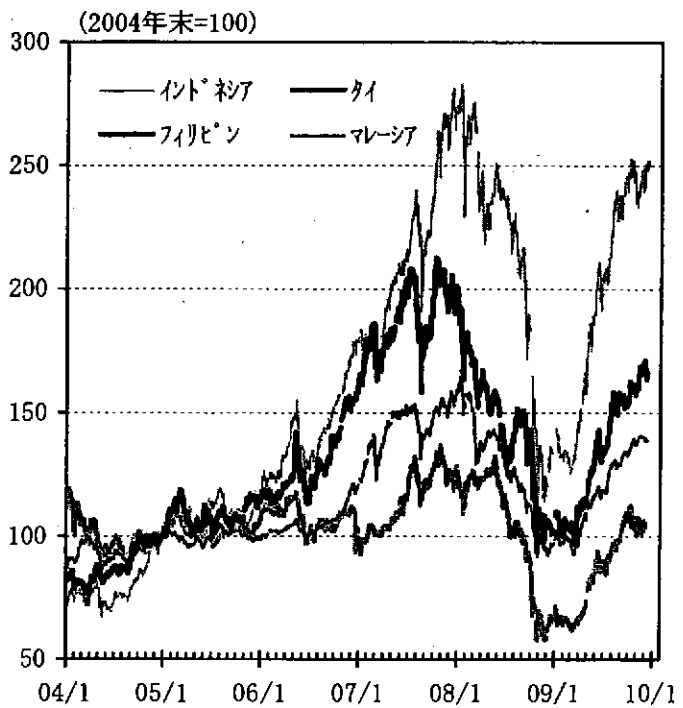
(1) NIEs



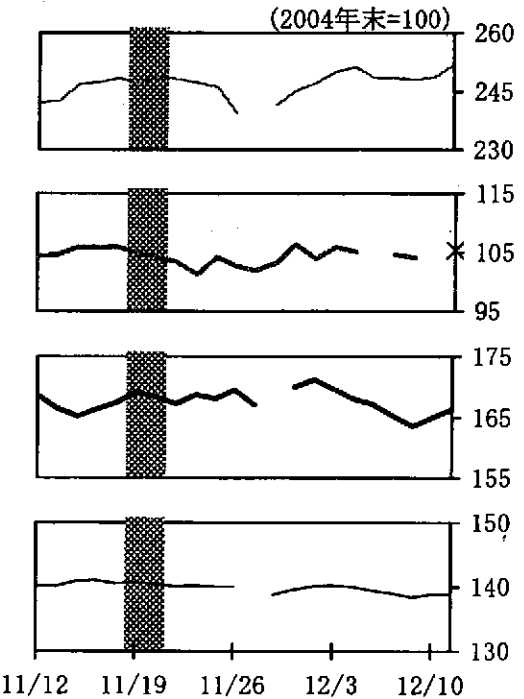
<最近の動き>



(2) ASEAN



<最近の動き>



(休場: シンガポール, インドネシア, マレーシア11/27、フィリピン11/30、タイ12/7、10)

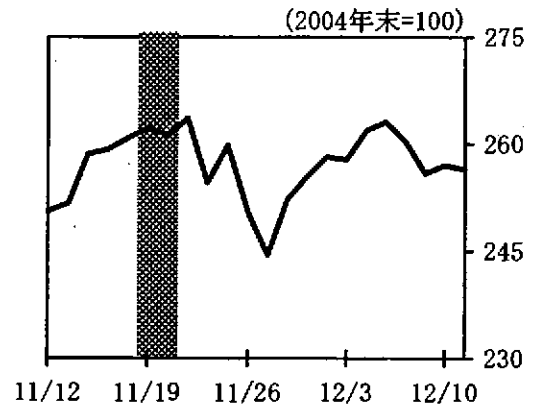
(注) シャドーは前回会合。 (出所) Thomson Reuters Datastream いずれも直近は12月11日

株価(2)

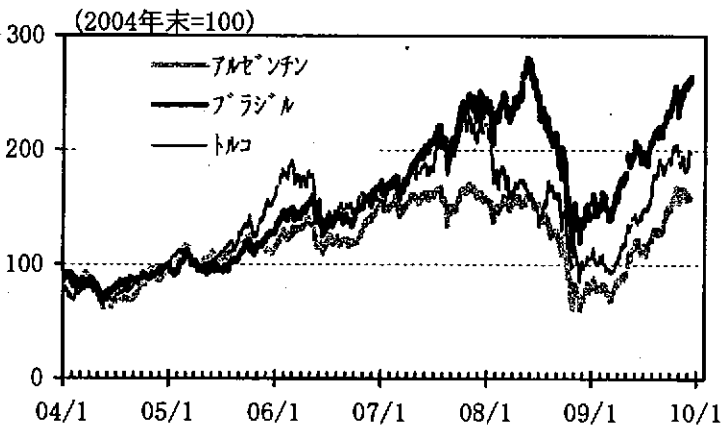
(3) 中国(上海総合)



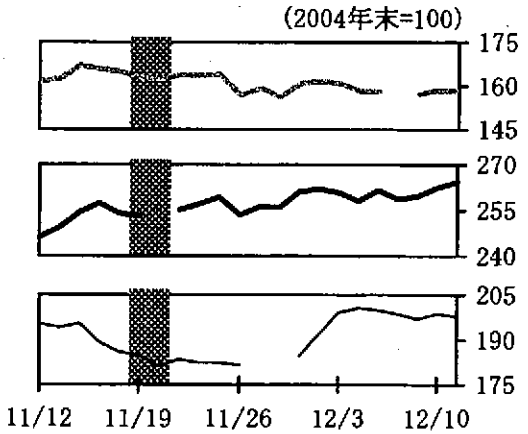
<最近の動き>



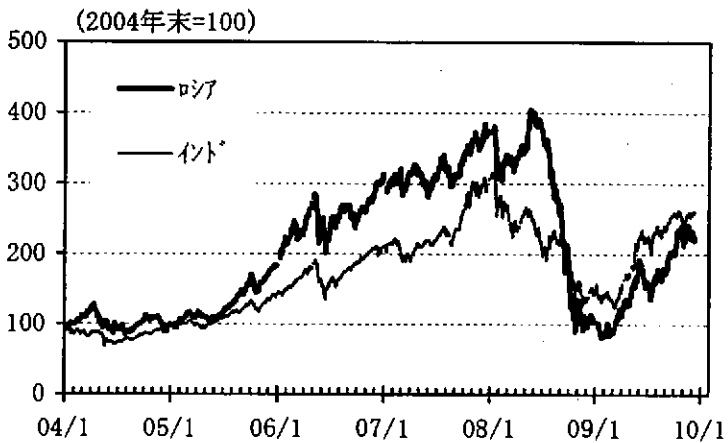
(4) ブラジル、アルゼンチン、トルコ



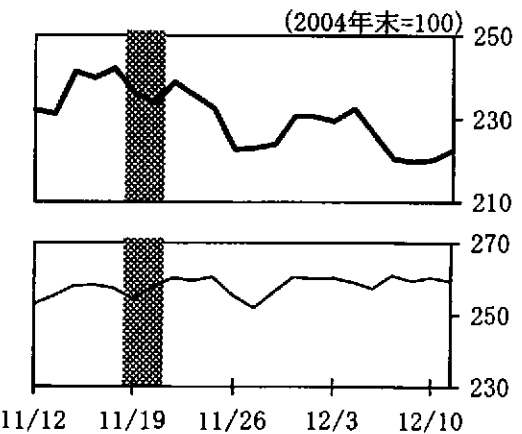
<最近の動き>



(5) ロシア、インド



<最近の動き>



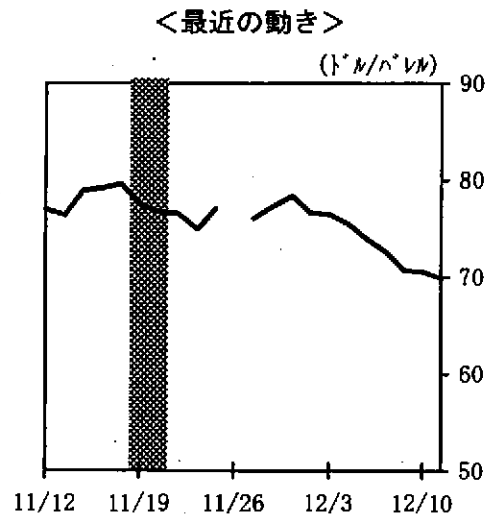
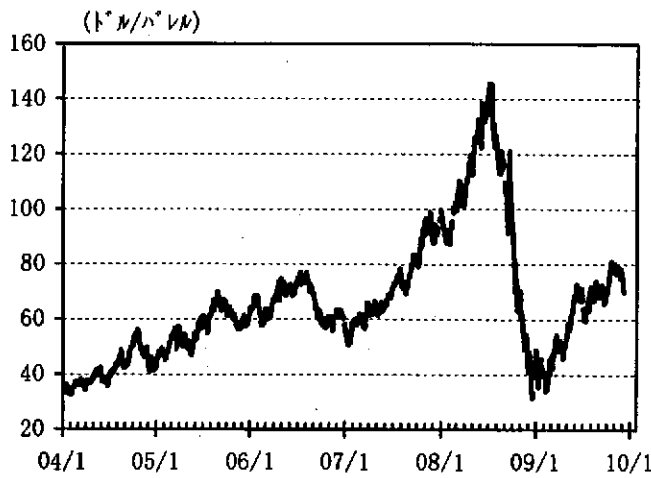
(休場：ブラジル11/20、トルコ11/27、30、アルゼンチン12/8)

(注)シャドーは前回会合。(出所) Thomson Reuters Datastream

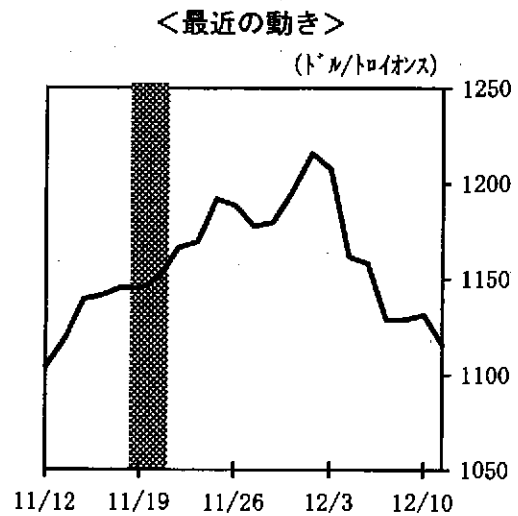
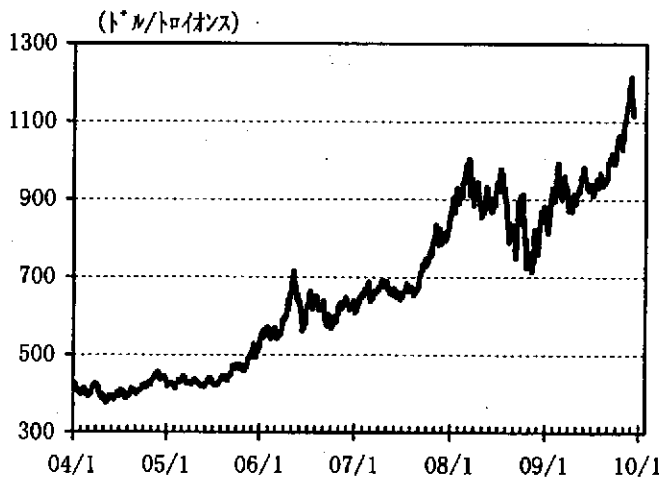
いずれも直近は12月11日

商品

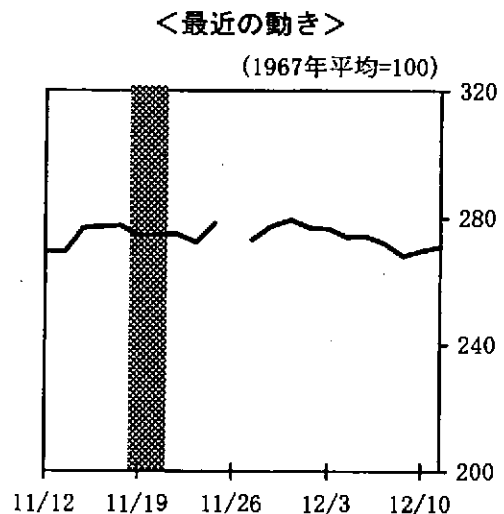
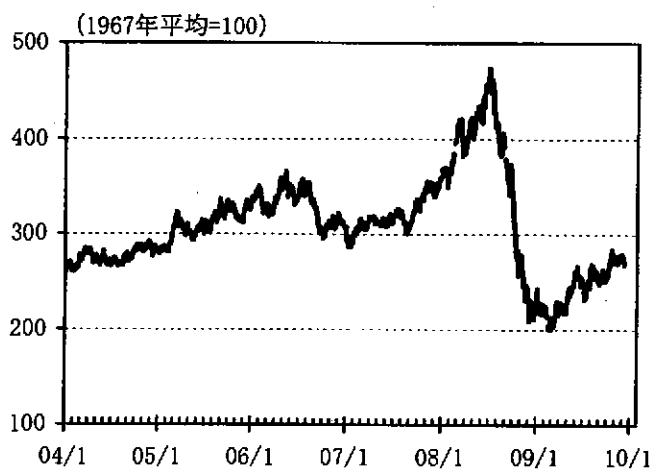
(1) 原油 (WTI)



(2) 金



(3) CRB商品先物指数



(注) シャドーは前回会合。
(出所) Bloomberg

いずれも直近は12月11日
(休場：原油, CRB商品先物指数11/26)

ブルームバーグ、コンセンサス・フォーキャストの計数は転載不可

国際機関及び民間の海外経済・物価見通し

(1) 実質GDP

(前年比、%)

	2008年 実績	2009年			2010年		
		IMF 見通し (2009/10月)	民間 見通し		IMF 見通し (2009/10月)	民間 見通し	
			9月時点	12月時点		9月時点	12月時点
米 国	0.4	▲2.7	▲2.6	▲2.5	1.5	2.4	2.7
E U	0.8	▲4.2	▲4.0	▲4.0	0.5	0.7	1.1
ユーロエリア	0.6	▲4.2	▲3.9	▲3.9	0.3	1.0	1.3
ドイツ	1.3	▲5.3	▲5.0	▲4.8	0.3	1.3	1.7
フランス	0.3	▲2.4	▲2.2	▲2.2	0.9	1.1	1.5
英国	0.6	▲4.4	▲4.3	▲4.5	0.9	1.1	1.4
NIEs	1.7	▲2.4	▲2.4	▲1.5	3.6	4.1	4.7
ASEAN	4.6	0.7	0.5	0.9	4.0	4.4	4.8
中 国	9.0	8.5	8.3	8.5	9.0	9.4	9.6
日 本	▲1.2	▲5.4	▲5.7	▲5.3	1.7	1.5	1.5

(2) 消費者物価指数

(前年比、%)

	2008年 実績	2009年			2010年		
		IMF 見通し (2009/10月)	民間 見通し		IMF 見通し (2009/10月)	民間 見通し	
			9月時点	12月時点		9月時点	12月時点
米 国	3.8	▲0.4	▲0.5	▲0.4	1.7	1.8	2.1
E U	3.7	0.9	0.7	0.7	1.1	1.3	1.4
ユーロエリア	3.3	0.3	0.3	0.3	0.8	1.2	1.2
ドイツ	2.8	0.1	0.3	0.3	0.2	0.9	0.9
フランス	3.2	0.3	0.1	0.1	1.1	1.1	1.2
英国	3.6	1.9	1.9	2.1	1.5	1.8	2.3
NIEs	4.5	1.0	1.2	1.3	1.9	2.0	2.3
ASEAN	7.8	2.6	2.4	2.4	4.6	3.9	4.3
中 国	5.9	▲0.1	▲0.6	▲0.7	0.6	2.3	2.5
日 本	1.4	▲1.1	▲1.3	▲1.3	▲0.8	▲0.8	▲1.0

(注1) IMF見通しは、WEO (World Economic Outlook) による。

(注2) 民間見通しは、米国はブルームバーグ、その他はコンセンサス・フォーキャストによる。

(注3) ASEANのIMF見通しはタイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、ベトナムの5か国ベース。その他はベトナムを除く4か国ベース。

(注4) NIEsは韓国、台湾、香港、シンガポール。

(注5) NIEs、ASEANの計数は、購買力平価換算 (IMF算出) によるGDPウェイトを使用。

議事録公表時まで対外非公表

<不開示情報：有（種類：審議・検討）>
<配付先：金融政策決定会合関係者限り>
<作成局における保管期間満了時期：2039年12月>

2009.12.17

国際局

「海外経済・国際金融の現状評価」参考計表【追加】

(図表1)	米国の主要経済指標	1
(図表2)	欧州の主要経済指標	2
(図表3)	アジア諸国・地域の主要経済指標	4
(図表4)	米国金融市場	7
(図表5)	欧州金融市場	8
(図表6)	ドバイ問題顕在化後の国際金融市場	9

米国の主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(11月19日)以降に判明したものの。

	2007年	2008年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/9月	10月	11月
1. 実質GDP ＜前期比年率、％＞	2.1	0.4	▲ 0.7	<11/24改訂> 2.8				
2. 実質可処分所得 ＜前期比、％＞	2.2	0.5	1.5	▲ 0.4	0.2	0.1	<11/25公表> 0.2	
3. 実質個人消費 ＜前期比、％＞	2.6	▲ 0.2	▲ 0.2	0.7	0.3	▲ 0.7	<11/25公表> 0.4	
4. 家計貯蓄率 ＜対可処分所得比、％＞	1.7	2.7	5.4	4.5	4.4	4.6	<11/25公表> 4.4	
5. 小売売上高 (除く自動車、ガソリン、建築資材) ＜前期比、％＞	4.5	2.3	▲ 0.7	0.4	1.2	0.6	0.3	<12/11公表> 0.6
6. 自動車販売 (年率、万台) ＜前期比、％＞	1,646	1,349	975	1,169	1,087	939	1,064	<12/2公表> 1,110 4.3
7. 消費者コンフィデンス指数	103.3	57.9	48.3	51.8	49.1	53.4	48.7	<11/24公表> 49.5
8. 住宅着工 (年率、千戸) ＜前期比、％＞	1,355	906	540	587	551	586	527	<12/16公表> 574 8.9
9. ケース・シー住宅価格指数(10大都市) ＜前期比、％＞ (前年比、％)	▲ 4.4	▲ 16.7	▲ 2.7	2.7		<11/24公表> 0.4		
10. 非国防資本財受注(除く航空機) ＜前期比、％＞ (前年比、％)	▲ 2.6	▲ 0.3	0.9	2.9	▲ 1.8	2.9	<12/4改訂> ▲ 3.4	
11. 財・サービス貿易収支 (億ドル)	▲ 584.5	▲ 579.9	▲ 270.8	▲ 324.6	▲ 329.4	▲ 356.5	<12/10公表> ▲ 329.4	
12. I S M 製造業指数	51.1	45.5	42.6	51.5	54.7	52.6	55.7	<12/1公表> 53.6
非製造業指数	53.5	47.4	44.9	48.6	49.7	50.9	50.6	<12/3公表> 48.7
13. 鉱工業生産 ＜前期比、％＞ (前年比、％)	1.5	▲ 2.2	▲ 2.7	1.5	1.2	0.6	▲ 0.0	<12/15公表> 0.8 4.9
14. 失業率 (除く軍人、％)	4.6	5.8	9.2	9.6	10.1	9.8	10.2	<12/4公表> 10.0
15. 非農業部門雇用者数 (増減数、千人/月) うち民間部門	96	▲ 257	▲ 428	▲ 199	▲ 61	▲ 139	▲ 111	<12/4公表> ▲ 11 ▲ 18
16. C P I ＜前期比、％＞ (前年比、％)	2.9	3.8	0.3	0.9	0.7	0.2	0.3	<12/16公表> 0.4 1.8
コア＜前期比、％＞ (前年比、％)	2.3	2.3	0.6	0.4	0.3	0.2	0.2	0.0 1.7
17. 非農業部門労働生産性 ＜前期比年率、％＞ (前年比、％)	1.8	1.8	6.9	<12/3改訂> 8.1				
18. ユニット・レーバー・コスト ＜前期比年率、％＞ (前年比、％)	2.3	1.0	▲ 0.0	<12/3改訂> ▲ 2.5				
			0.3	▲ 1.4				

※ 直近四半期の計数については、公表済月までの平均を用いて算出。

(注) ・前期(月)比は季調済みベース。

・財・サービス貿易収支の年計数および四半期計数は月平均に換算。

・雇用者増減数(期末差)の年計数および四半期計数は月平均に換算。

・CPIコアは食料品、エネルギーを除いたベース。

ユーロエリアの主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(11月19日)以降に判明したもの。

※

	2007年	2008年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/9月	10月	11月	12月
1. 実質GDP <前期比年率、%>	2.7	0.6	▲0.6	<12/3改訂> 1.5					
独 実質GDP <前期比年率、%>	2.5	1.3	1.8	<11/24改訂> 2.9					
仏 実質GDP <前期比年率、%>	2.3	0.3	1.1	1.1					
2. 輸出 <前期比、%>			▲0.7	3.7		5.5			
(前年比、%)	11.0	3.6	▲23.4	▲19.1		▲18.4			
3. 独 海外受注(域外) <前期比、%>			9.6	8.2	2.4	3.6	<12/7公表> ▲1.9		
(前年比、%)	10.3	▲5.5	▲30.8	▲19.5	▲8.8	▲11.7	▲8.8		
4. 独 国内投資財受注 <前期比、%>			▲0.6	9.0	▲7.8	▲8.0	<12/7公表> ▲1.2		
(前年比、%)	8.6	▲6.9	▲26.3	▲15.9	▲14.8	▲19.0	▲14.8		
5. 輸入 <前期比、%>			▲4.9	0.0		1.1			
(前年比、%)	8.4	8.1	▲27.3	▲26.5		▲24.5			
6. 小売売上数量 <前期比、%>			▲0.3	▲0.5	▲0.3	▲0.5	<12/3公表> 0.0		
(前年比、%)	1.8	▲0.6	▲2.3	▲2.2	▲1.9	▲2.8	▲1.9		
7. 新車登録台数 (年率、万台)	1,162	1,075	1,120	1,154	1,178	1,167	1,181	<12/15公表> 1,175	
<前期比、%>	▲0.5	▲7.0	12.7	3.0	2.1	4.1	1.2	▲0.5	
8. 消費者コンフィデンス (DI、%)	▲5	▲18	▲28	▲21	▲18	▲19	▲18	<11/27公表> ▲17	
9. 鉱工業生産 <前期比、%>			▲1.3	2.0	▲0.1	0.2	<12/14公表> ▲0.6		
(前年比、%)	3.7	▲1.7	▲18.6	▲14.5	▲11.1	▲12.8	▲11.1		
10. 製造業PMI(購買担当者指数)(DI、%)	54.3	46.5	40.0	47.9	51.2	49.3	50.7	<12/1改訂> <12/16公表> 51.2 51.6	
サービス業PMI 事業活動指数 (DI、%)	56.6	48.5	44.4	48.8	53.1	50.9	52.6	<12/3改訂> <12/16公表> 53.0 53.7	
11. 失業率 (%)	7.5	7.6	9.3	9.6	9.8	9.8	<12/1公表> 9.8		
12. 消費者物価 (前年比、%)	2.1	3.3	0.2	▲0.4	0.2	▲0.3	▲0.1	<12/16改訂> 0.5	
コア (前年比、%)	2.0	2.4	1.5	1.2	1.0	1.1	1.0	<12/16公表> 1.0	

※ 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(出所) 欧州委員会 (Eurostat)、ECB、Deutsche Bundesbank、Statistisches Bundesamt、INSEE、Datastream、Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2009. All rights reserved.)

- (注) ・ユーロエリアに関する計数・図表のうち、消費者物価・M3・貸出は各時期のユーロ構成国ベース。
 ・実質GDPの年率換算値は、当局計算による。なお、ユーロエリアとドイツの暦年の計数は、末季調べベース。
 ・前期(月)比は季調済みベース。
 ・消費者物価コアは、エネルギー、非加工食料品を除いたベース。
 ・製造業PMIとサービス業PMI事業活動指数の直近12月は、速報値。

英国の主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(11月19日)以降に判明したものの。

※

	2007年	2008年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/8月	9月	10月	11月
1. 実質GDP <前期比年率、%>	2.6	0.6	▲2.3	▲1.2					
2. 小売売上数量 <前期比、%>			0.9	1.1	0.7	0.0	0.4	0.4	
(前年比、%)	4.2	2.6	1.1	2.7	3.4	2.1	2.9	3.4	
3. 消費者コンフィデンス (DI、%)	▲7	▲29	▲27	▲22	▲14	▲25	▲15	▲12	▲17
4. 鉱工業生産 <前期比、%>			▲0.6	▲0.9	0.0	▲2.6	1.3	0.0	
(前年比、%)	0.3	▲3.1	▲11.9	▲10.8	▲8.4	▲11.9	▲10.8	▲8.4	
5. 製造業PMI(購買担当者指数) (DI、%)	54.4	44.9	45.2	50.1	52.6	50.1	49.9	53.4	51.8
サービス業PMI(事業活動指数) (DI、%)	56.3	47.6	50.7	54.2	56.8	54.1	55.3	56.9	56.6
6. 失業率(失業保険ベース) (%)	2.7	2.8	4.7	4.9	5.0	4.9	5.0	5.0	5.0
7. CPI (前年比、%)	2.3	3.6	2.1	1.5	1.7	1.6	1.1	1.5	1.9
8. 住宅価格(Nationwide指数) (前年比、%)	9.2	▲6.7	▲11.9	▲3.0	2.4	▲2.7	0.0	2.0	2.7

※直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(出所) ONS、Datastream、Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2009. All rights reserved.)

(注) 実質GDPの年率換算値と、消費者コンフィデンスの季調値は、当局計算による。

(図表3-1)

アジア諸国・地域の主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(11月19日)以降に判明したものの。

1. 中国

(前年比、%)

	2007年	2008年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/9月	10月	11月
1. 実質GDP 〈内は季調済前期比年率〉	13.0	9.0	7.9 〈 18.6 〉	8.9 〈 11.0 〉				
2. 工業生産 〈内は前期比〉	18.5	12.9	9.1 〈 6.3 〉	12.4 〈 4.4 〉	17.7 〈 3.8 〉	13.9 〈 2.1 〉	16.1 〈 1.5 〉	19.2 〈 1.0 〉
3. 製造業PMI*	55.0	50.2	53.3	53.9	55.2	54.3	55.2	55.2
4. 消費財小売上総額	16.8	21.6	15.0	15.4	16.0	15.5	16.2	15.8
5. 固定資産投資	25.8	26.1	35.9	32.8	27.9	35.0	31.6	24.3
6. 輸出 〈内は前期比〉	25.8	17.4	▲ 23.5 〈 ▲ 2.7 〉	▲ 20.5 〈 6.7 〉	▲ 7.8 〈 10.2 〉	▲ 15.2 〈 11.2 〉	▲ 13.8 〈 ▲ 0.0 〉	▲ 1.2 〈 6.4 〉
7. 輸入 〈内は前期比〉	20.8	18.5	▲ 20.3 〈 18.3 〉	▲ 11.8 〈 14.5 〉	8.3 〈 3.0 〉	▲ 3.5 〈 21.4 〉	▲ 6.4 〈 ▲ 5.1 〉	26.7 〈 ▲ 5.3 〉
8. CPI	4.8	5.9	▲ 1.5	▲ 1.3	0.0	▲ 0.8	▲ 0.5	0.6
9. M2	16.7	17.8	28.5	29.3	29.7	29.3	29.4	29.7
10. 人民元貸出	16.1	18.7	34.4	34.2	33.8	34.2	34.2	33.8

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。M2、人民元貸出の年、四半期計数は期末月の前年比。

(注2) 実質GDP、工業生産、輸出入の季調値は、X-12-ARIMAによる当局算出値。

(注3) *印は、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。中国物流購買連合会が公表するデータを使用。

(注4) 固定資産投資は、都市部、当期の値。中国国家统计局が公表する年初来累計値と同前年比伸び率を用いて当局で試算。

2. インド

(前年比、%)

	2007年	2008年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/9月	10月	11月
1. 実質GDP 〈内は季調済前期比年率〉	9.3	7.5	6.1 〈 6.8 〉	7.9 〈 14.6 〉				
個人消費	7.7	4.4	1.6 〈 ▲ 4.7 〉	5.6 〈 17.6 〉				
総固定資本形成	14.5	8.8	4.2 〈 1.5 〉	7.3 〈 39.6 〉				
2. 鉱工業生産 〈内は前期比〉	9.9	4.4	3.8 〈 3.6 〉	9.2 〈 5.4 〉	10.3 〈 ▲ 0.8 〉	9.6 〈 1.3 〉	10.3 〈 ▲ 2.1 〉	
3. 製造業PMI*	56.4	55.5	54.8	54.5	53.7	55.0	54.5	53.0
雇用*	51.0	50.9	50.1	49.8	50.5	49.9	50.8	50.3
4. 卸売物価	4.8	9.1	0.5	▲ 0.1	3.0	0.5	1.3	4.8
5. M3	22.8	19.7	20.1	19.0	18.5	19.0	18.3	18.5
6. 貸出	21.4	23.2	15.1	12.7	9.5	12.7	9.5	

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。M3、貸出の年、四半期計数は期末月の前年比。

(注2) 実質GDPの季調値は、X-11による当局算出値。鉱工業生産の季調値は、X-12-ARIMAによる当局算出値。

(注3) *印は、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(注4) 貸出は指定商業銀行ベース。

(出所) CEIC, Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2009. All rights reserved.)

3. NIEs、ASEAN諸国・地域

(1) 実質GDP

(季調済前期比年率、()内は前年比、%)

	2006年	2007年	2008年	2008/3Q	4Q	2009/1Q	2Q	3Q
韓国	5.2	5.1	2.2	1.0 (3.1)	▲ 18.8 (▲ 3.4)	0.5 (▲ 4.2)	11.0 (▲ 2.2)	13.6 (0.9)
台湾	5.4	6.0	0.7	▲ 13.7 (▲ 0.8)	▲ 13.7 (▲ 7.1)	▲ 11.3 (▲ 9.1)	18.8 (▲ 6.9)	8.3 (▲ 1.3)
香港	7.0	6.4	2.4	▲ 3.2 (1.5)	▲ 7.4 (▲ 2.6)	▲ 16.1 (▲ 7.8)	14.8 (▲ 3.6)	1.6 (▲ 2.4)
シンガポール	8.4	7.8	1.1	▲ 2.1 (0.0)	▲ 16.4 (▲ 4.2)	▲ 12.2 (▲ 9.5)	21.7 (▲ 3.3)	14.2 (0.6)
タイ	5.1	4.9	2.5	▲ 2.6 (2.9)	▲ 18.0 (▲ 4.2)	▲ 6.0 (▲ 7.1)	9.0 (▲ 4.9)	5.5 (▲ 2.8)
インドネシア	5.5	6.3	6.1	5.4 (6.4)	1.4 (5.2)	4.1 (4.4)	5.3 (4.0)	5.8 (4.2)
マレーシア	5.8	6.2	4.6	▲ 1.2 (4.8)	▲ 7.3 (0.1)	▲ 17.2 (▲ 6.2)	12.2 (▲ 3.9)	10.0 (▲ 1.2)
フィリピン	5.3	7.1	3.8	3.0 (4.6)	1.1 (2.9)	▲ 8.3 (0.6)	7.0 (0.8)	4.1 (0.8)

(注1) 季節調整値は、韓国、台湾、香港、シンガポール、タイ、フィリピンが現地統計。その他はX-11による当局算出値。

(注2) 実質GDPの年率換算値は、当局計算による。

(2) 輸出

(名目米ドルベース、季調済前期比、()内は前年比、%)

	2007年	2008年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/9月	10月	11月
輸出合成指数	11.7	11.4	8.1	9.1	8.2			
うちIT関連寄与度			3.9	0.8	1.2			
韓国 <29.5>	14.1	13.6	12.6 (▲ 21.1)	8.6 (▲ 17.6)	3.3 (3.2)	12.5 (▲ 9.4)	▲ 3.2 (▲ 8.5)	0.1 (18.1)
台湾 <17.9>	10.1	3.6	8.9 (▲ 32.0)	13.2 (▲ 20.9)	8.1 (6.0)	7.0 (▲ 12.7)	4.7 (▲ 4.7)	▲ 2.3 (19.4)
タイ <12.5>	18.6	15.5	▲ 0.2 (▲ 26.2)	13.8 (▲ 17.7)	6.1 (▲ 3.0)	8.1 (▲ 8.5)	▲ 1.1 (▲ 3.0)	
インドネシア <9.6>	13.2	20.1	10.1 (▲ 26.2)	8.3 (▲ 19.3)	17.7 (10.1)	▲ 4.7 (▲ 19.8)	18.7 (10.1)	

(参考) 新規輸出受注PMI*

	2007年	2008年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/9月	10月	11月
韓国	53.7	48.3	50.9	53.9	51.8	52.7	51.2	52.4
台湾	60.1	43.1	53.3	59.4	61.4	60.6	62.6	60.1

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) 合成指数は、直近は10月の値。直近月まで公表されていないデータは、前月の前年比で横置きしている。

(注3) 輸出の季節調整値は、X-12-ARIMAによる当局算出値。

(注4) 輸出の< >内は、合成指数に占めるシェア(%)、2008年)。

(注5) 輸出、輸出合成指数はともに金額ベース。

(注6) 合成指数のIT関連は、標準国際貿易分類における、事務機器、データ処理機械、通信機器、音響機器、電気機械、家電製品、光学機器などの項目、また他分類ではこれらに該当する項目で定義。

(注7) *印は、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(出所) CEIC、Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2009. All rights reserved.)

(図表3-3)

(3) 生産関連

(季調済前期比、()内は前年比、%)

		2007年	2008年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/9月	10月	11月
生産合成指数		6.2	1.7	11.3	6.6	▲ 0.3			
うちIT関連寄与度				6.0	2.2	0.2			
韓国	鉱工業生産指数	6.9	3.0	11.4 (▲ 6.2)	7.1 (▲ 4.2)	▲ 0.7 (▲ 0.2)	5.6 (11.0)	▲ 3.8 (0.2)	
	企業景気実査指数 [†] (季調済)	99.8	82.0	92.0	104.2	106.5	107.2	107.8	105.1
台湾	鉱工業生産指数	7.8	▲ 1.8	17.3 (▲ 16.6)	7.0 (▲ 5.4)	4.0 (▲ 6.6)	7.0 (1.7)	▲ 0.5 (6.6)	
タイ	製造業生産指数	8.2	5.3	9.7 (▲ 9.2)	4.0 (▲ 5.0)	5.0 (0.4)	9.8 (1.9)	0.1 (0.4)	

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) 合成指数は、直近は10月の値。直近月まで公表されていないデータは、前月の値で横置きしている。

(注3) 生産指数の季節調整値は、現地統計またはX-12-ARIMAによる当局算出値。

(注4) 生産、生産合成指数はともに数量ベース。

(注5) 合成指数のIT関連は、標準国際貿易分類における、事務機器、データ処理機械、通信機器、音響機器、電気機械、家電製品、光学機器などの項目、また他分類ではこれらに該当する項目で定義。

(注6) †印は、100を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(4) 内需関連

(季調済前期比、()内は前年比、%)

		2007年	2008年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/9月	10月	11月
韓国	小売数量指数	5.0	1.0	5.0 (1.6)	1.5 (3.5)	3.9 (9.8)	1.7 (6.6)	2.9 (9.8)	
	消費者信頼感指数 [†]	104.0	90.8	103.0	112.3	115.0	114.0	117.0	113.0
	機械投資推計指数	8.2	▲ 4.3	6.6 (▲ 13.4)	4.2 (▲ 10.1)	6.2 (0.3)	17.9 (5.0)	▲ 5.8 (0.3)	
台湾	小売指数	1.8	▲ 4.3	(▲ 1.4)	(4.8)	(7.9)	(5.4)	(7.9)	
	消費者コンフィデンス [†]	66.2	58.7	51.1	55.2	61.5	56.5	60.6	62.5
タイ	民間消費指数(PCI)	1.5	3.6	1.1 (▲ 4.3)	4.2 (▲ 2.4)	0.7 (▲ 0.9)	4.5 (▲ 1.1)	▲ 1.1 (▲ 0.9)	
	民間投資指数(PII)	▲ 0.5	3.7	▲ 4.1 (▲ 16.0)	4.9 (▲ 12.8)	3.4 (▲ 10.4)	2.6 (▲ 11.1)	1.0 (▲ 10.4)	

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) †印は、100を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(5) 消費者物価指数(CPI)

(前年比、%)

		2007年	2008年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/9月	10月	11月
韓国	()内はコア	2.5 (2.3)	4.7 (4.3)	2.8 (3.9)	2.0 (3.0)	2.2 (2.6)	2.2 (2.7)	2.0 (2.6)	2.4 (2.5)
台湾	()内はコア	1.8 (1.4)	3.5 (3.1)	▲ 0.8 (▲ 0.0)	▲ 1.3 (▲ 0.9)	▲ 1.7 (▲ 0.9)	▲ 0.9 (▲ 1.0)	▲ 1.9 (▲ 0.9)	▲ 1.6 (▲ 0.8)
タイ	()内はコア	2.2 (1.1)	5.5 (2.3)	▲ 2.8 (▲ 0.1)	▲ 2.2 (▲ 0.5)	1.1 (0.0)	▲ 1.0 (▲ 0.1)	0.4 (▲ 0.1)	1.9 (0.1)
インドネシア	()内はコア	6.4 (5.9)	9.8 (N/A)	5.6 (6.4)	2.8 (4.9)	2.5 (4.4)	2.8 (4.9)	2.6 (4.5)	2.4 (4.3)

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

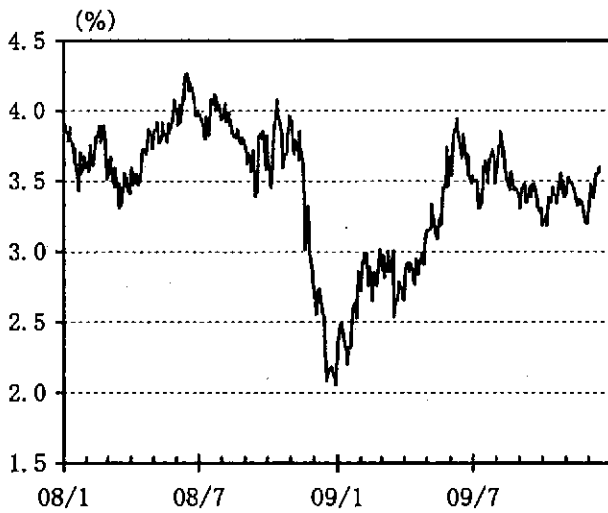
(注2) 韓国のCPIコアは、CPI総合から穀物以外の農産物、石油関連製品を控除。台湾のCPIコアは、CPI総合から生鮮食品およびエネルギーを控除。タイのCPIコアは、CPI総合から非加工食品、エネルギーを控除。インドネシアのCPIコアは、CPI総合から、政府の規制価格の影響がある項目および生鮮食品を控除。

(注3) インドネシアは、2008年以降の計数は2007年基準、その他は2002年基準。2007年基準のCPIコアは、一部未公表。

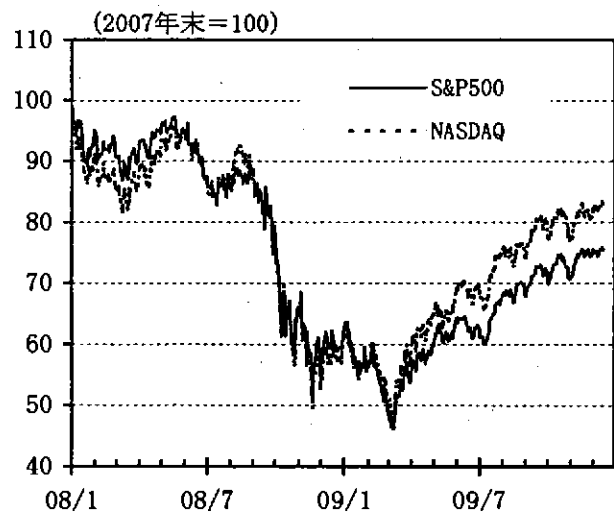
(出所) CEIC

米国金融市場

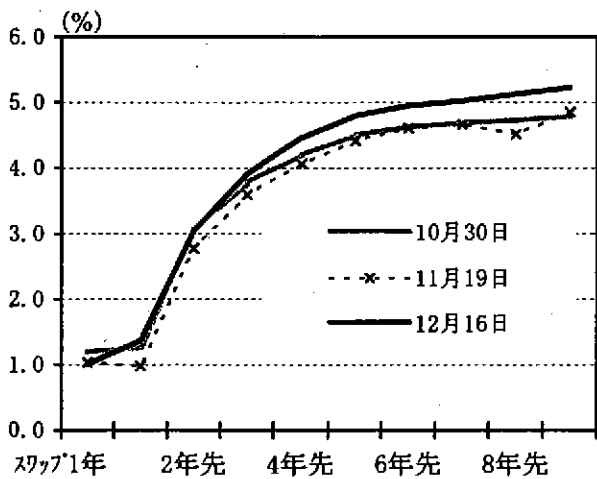
(1) 長期金利 (国債10年物利回り)



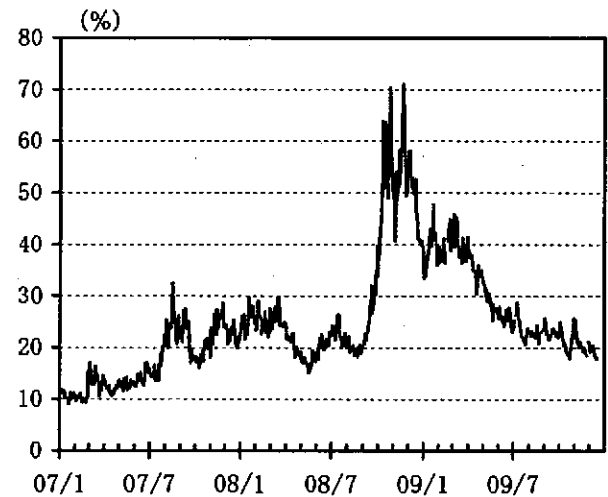
(2) 株価 (S&P500 - NASDAQ)



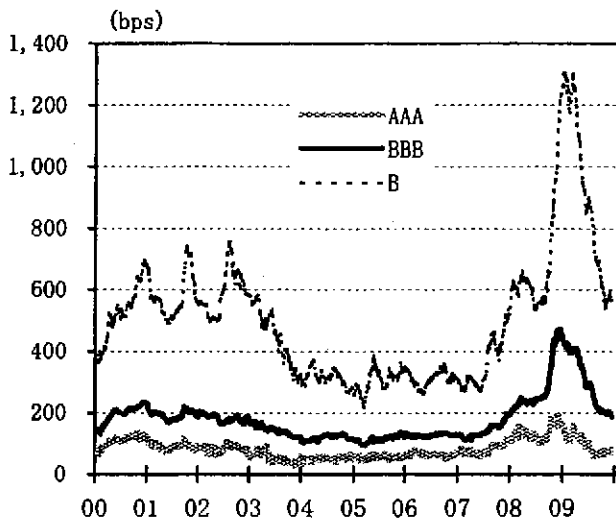
(3) インプライド・フォワード・レート



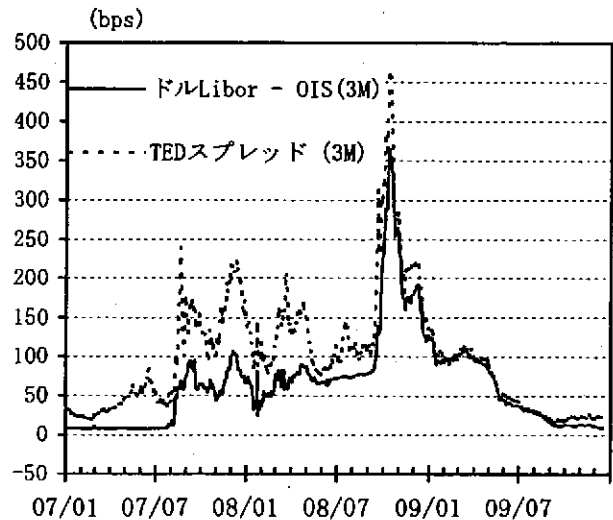
(4) 株価のインプライド・ボラティリティ (S&P500)



(5) 社債の対国債スプレッド



(6) 短期金利スプレッド

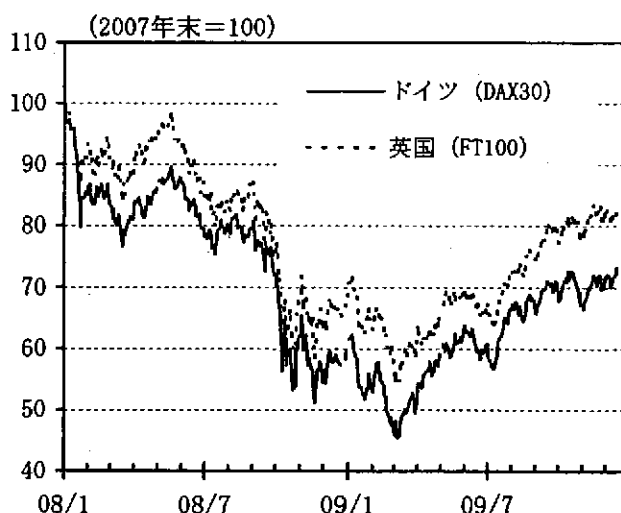
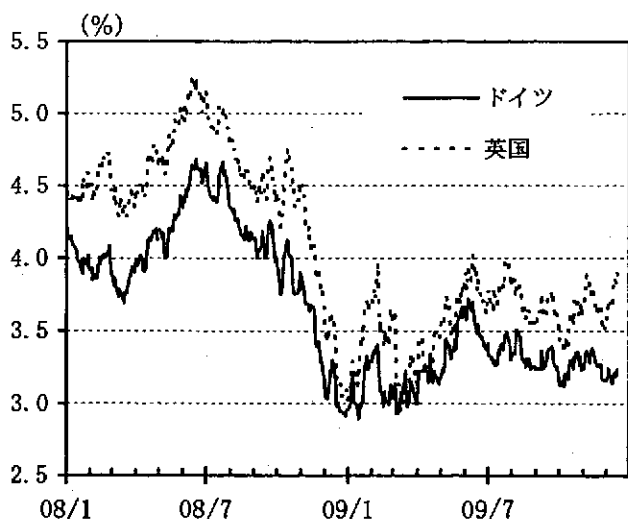


(出所) Bloomberg

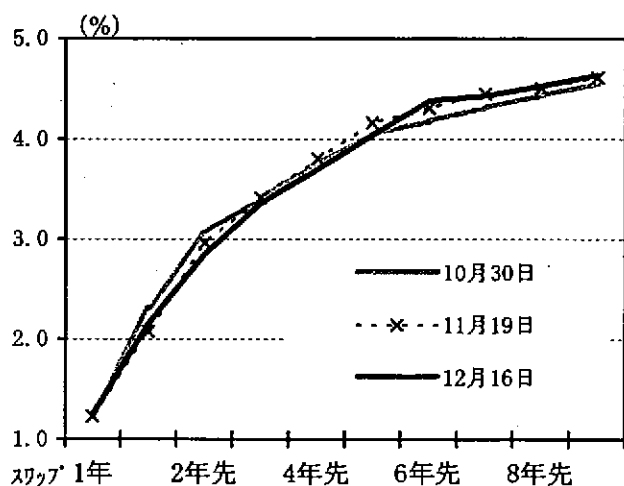
いずれも直近は12月16日

欧州金融市場

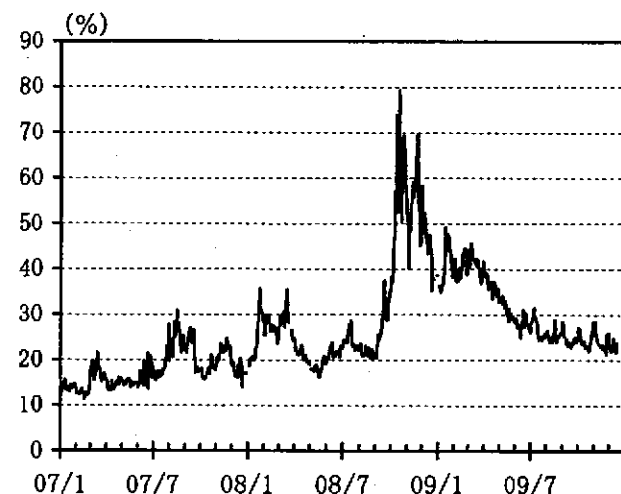
(1) 長期金利 (国債10年物利回り、独・英) (2) 株価 (独DAX30・英FT100)



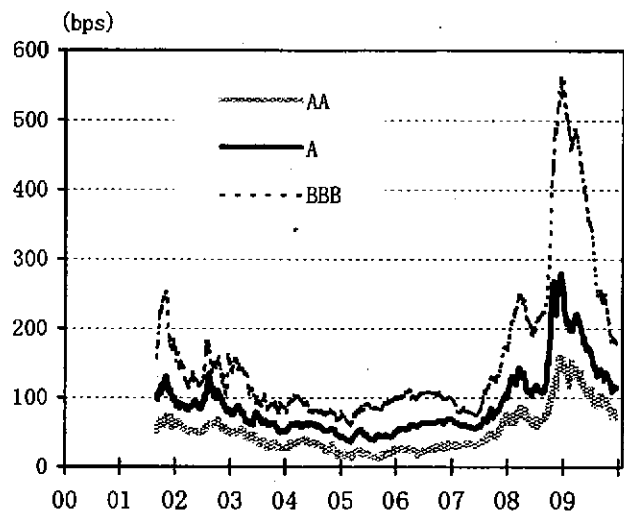
(3) インプライド・フォワード・レート



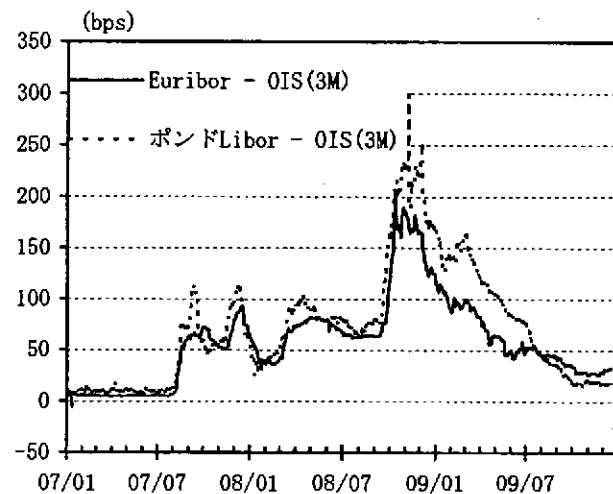
(4) 株価のインプライド・ボラティリティ (Euro Stoxx50)



(5) 社債の対独国債スプレッド (10年物)



(6) 短期金利スプレッド

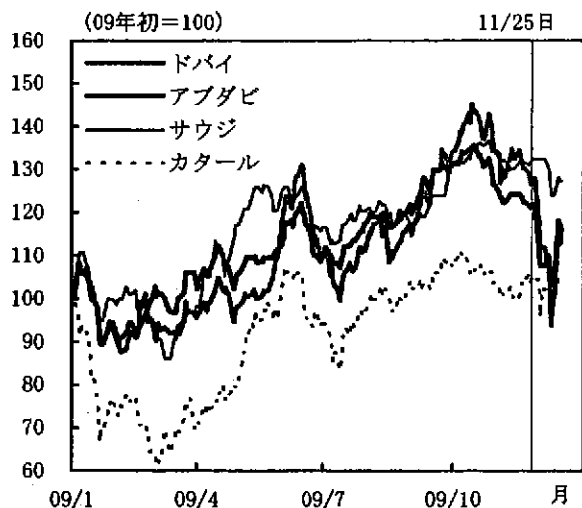


(出所) Bloomberg

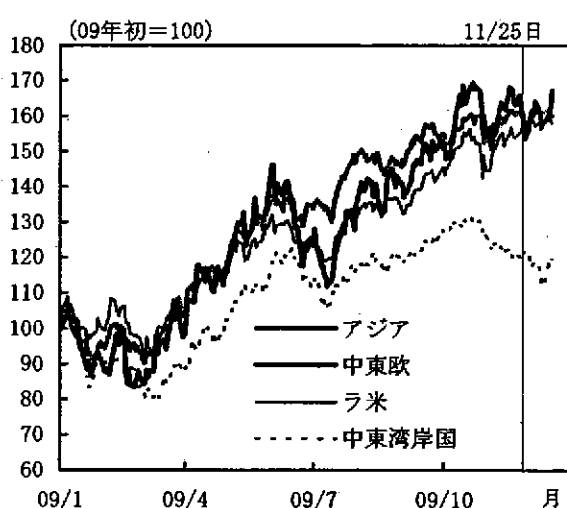
いずれも直近は12月16日

ドバイ問題顕在化後の国際金融市場

(1) 株価インデックス (中東湾岸国)



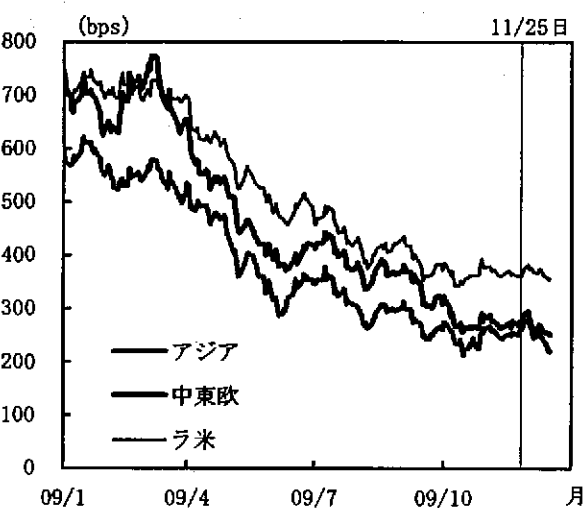
(2) 株価インデックス (新興国地域別)



(3) 通貨インデックス

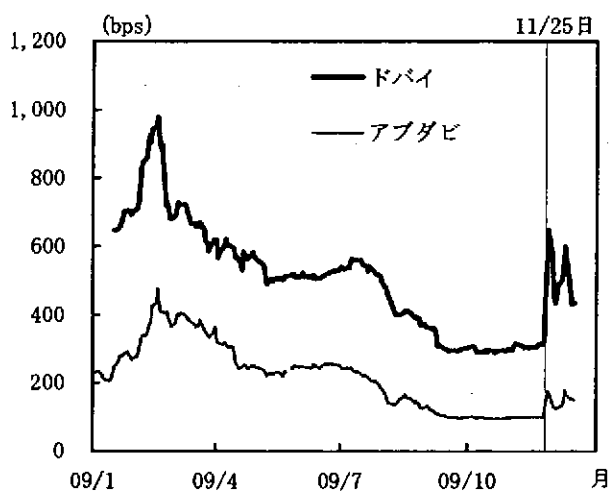


(4) 対米国債スプレッド・インデックス

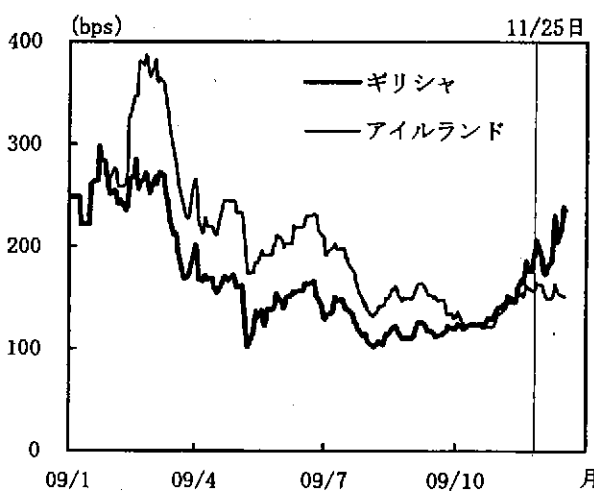


(5) CDSスプレッド

① ドバイ、アブダビ



② ギリシャ、アイルランド



(出所) Bloomberg

いずれも直近は12月16日

<不開示情報：有（種類：審議・検討）>
<配付先：金融政策決定会合関係者限り>
<作成局における保管期間満了時期：2039年12月>

2009.12.14

調査統計局

経済活動の現状評価

1. 概況

（現状認識）

わが国の経済をみると、公共投資が振れを伴いつつも増加を続けているほか、輸出や生産も増加を続けている。企業の業況感は、製造業大企業を中心に、緩やかに改善している。設備投資は下げ止まりつつある。個人消費は、厳しい雇用・所得環境が続いているものの、各種対策の効果などから耐久消費財を中心に持ち直している。この間、住宅投資は減少している。

以上を踏まえると、「わが国の景気は、国内民間需要の自律的回復力はなお弱いものの、内外における各種対策の効果などから持ち直している」と判断される。

—— 7～9月の実質GDP（2次速報）の前期比は、個人消費が上振れたものの、設備投資や在庫投資、政府消費が下振れたことから、1次速報の+1.2%（年率換算+4.8%）から+0.3%（同+1.3%）に大幅下方修正された（図表2）¹。もともと、潜在成長率はなお上回っているため、需給ギャップはマイナス幅の縮小を続けている（当局試算、1～3月-8.5%→4～6月-7.7%→7～9月-6.5%）。

実質GDPの前年比は-5.1%と、1次速報（-4.5%）対比で下振れたものの、前期に比べて減少幅が縮小したことには変わりがない。ただ、所得形成を示す実質GNIの前年比は、交易利得の押し上げ寄与が幾分縮小したうえ、海外所得の純受取の押し下げ寄与が拡大したことから、前期と同じ減少幅となった（図表3）。

¹ 2次速報公表に先立って、2007年度の計数が確々報に、2008年度の計数が確報に、それぞれ改定された。2007年度は、個人消費が上振れた一方、政府消費、設備投資が下振れたことから、実質GDP成長率は不変となった（改定前+1.8%、改定後+1.8%）。2008年度は、設備投資、純輸出が上振れ（輸入が下振れ）たものの、個人消費、公共投資、政府消費が下振れたことから、実質GDP成長率は下方修正となった（改定前-3.2%、改定後-3.7%）。

物価の現状について、国内企業物価の3か月前比をみると、製品需給緩和の影響などから、幾分弱含んでいる。消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、経済全体の需給が緩和した状態が続く中、前年における石油製品価格高騰の反動などから、下落している。

—— 10月の消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、石油製品の下押し寄与縮小を主因に、下落幅が前月より0.1%ポイント縮小して-2.2%となった。一方、除く食料・エネルギーの前年比は、下落幅が前月より0.1%ポイント拡大して-1.1%となった。

—— なお、前述GDP統計2次速報において、GDPデフレーターが遡及改定され、直近4～6月、7～9月とも前年比マイナスとなった。これには、C S P Iの2005年基準への移行等が反映されたことも影響している。

（先行き）

景気の先行きについて項目別にみると、輸出や生産は、増加ペースが次第に緩やかになっていくとみられるが、海外経済の改善が続くもとの増加基調が続けるとみられる。個人消費は、厳しい雇用・所得環境が続く中であっても、当面、各種対策の効果などから、耐久消費財を中心に持ち直しの動きが続く可能性が高い。一方、設備投資は、収益がなお低水準で、設備過剰感も強いもとの、当面はなお横ばい圏内にとどまる可能性が高い。この間、公共投資は、徐々に頭打ちになっていくとみられる。

以上を総合すると、「先行きについては、景気は持ち直しを続けるが、当面そのペースは緩やかなものにとどまる」と考えられる。

—— 日本経済は、海外経済の改善が続くもとの、「持ち直しを続ける」とみられる。ただし、海外経済については、在庫復元による増産効果や財政面での景気刺激効果が減衰していくことから、今後、一時的に成長率が鈍化する可能性が高い。そうしたもとの、わが国の輸出、生産も、増加ペースが次第に緩やかになっていくとみられる。

—— 海外経済の先行きについては、上下両方向に不確実性が大きい状況が続いている。過去数年間に蓄積された過剰の調整にはかなりの時間を要するとみられ、金融面の脆弱性や雇用の回復の遅れなどから、先進国を中心に下振れる可能性がある。一方、中国をはじめとする新興国の内需の強さから、上振れる可能性もある。

物価の先行きについてみると、国内企業物価は、国際商品市況の強含みが押し上げに働くものの、製品需給緩和の影響が続くことから、当面、弱含みで推移す

るとみられる。消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、前年における石油製品価格高騰の反動の影響が薄れていくにしたがい、下落幅が縮小すると予想される。

—— 消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、石油製品の上昇転化などから、年末頃にかけて下落幅がマイナス1%近くまで縮小するとみられる。その後は、原油価格が現状程度で推移することを前提にすると、下落幅の縮小はかなり緩やかなものとなる見通し。

2. 最終需要

(1) 外生需要

(公共投資)

公共投資は振れを伴いつつも増加を続けている。先行きについては、徐々に頭打ちになっていくとみられる。

—— GDPベースの公共投資（2次速報）をみると、4～6月に大きく増加したあと、7～9月は小幅の減少となった（図表2(2)、5(1)）。

—— 月次の指標をみると（図表4、5）、工事進捗を反映する公共工事出来高は、1～3月、4～6月と増加したあと、その反動もあって、7～9月の前期比は減少した。発注の動きを示す公共工事請負金額は、7～9月にかけて3四半期連続で増加したあと、10月の7～9月対比は小幅の減少となった。こうした請負の動きも勘案すると、足もとの公共投資は振れを伴いつつも増加を続けているとみられるが、先行きは、2009年度第1次補正予算減額の影響もあり、徐々に頭打ちになっていくとみられる。

—— 政府は、12月8日、国の財政支出を7.2兆円、事業規模を24.4兆円とする追加経済対策（「明日の安心と成長のための緊急経済対策」）を閣議決定した。このうち公共投資・政府消費の上振れにつながる部分は0.5兆円程度とみられ、第1次補正予算の減額による公共投資・政府消費の下振れ0.9兆円程度の約半分を埋めることになる計算。このほか、雇用調整助成金の支給要件の緩和、家電エコポイント制度やエコカー補助の延長（家電エコポイント制度は2010年末まで、エコカー補助は2010年9月末まで）、住宅版エコポイント制度の創設、セーフティネット貸付等の延長・拡充、3兆円の地方交付税の減額補てん等が盛り込まれている。

(輸出入)

実質輸出は、海外経済の改善を背景に、増加を続けている（図表6、7(1)）。

—— 実質輸出は、2四半期連続で2ケタの増加を示したあと、10月の7～9月対比も+7.5%と増加した。月次の動きをみても、4月以降7か月連続で増加している。

地域別にみると（図表8(1)、9、10）、米国向けや東アジア向けは、4～6月以降、増加を続けている²。また、EU向け、その他地域向けとも、振れの大きい船舶輸出の増加もあって、10月の7～9月対比は大幅増となった。

財別にみると（図表8(2)）、資本財・部品を除く財は、4～6月以降、増加を続けている。資本財・部品も、7～9月以降は、増加している。

先行きの輸出については、増加ペースは次第に緩やかになっていくとみられるが、海外経済の改善が続くもとで、増加基調を続けるとみられる。

—— 2009年4～6月以降、新興国を中心にかなりのペースで拡大してきた海外経済の成長率は、2010年に入ると、各国で在庫復元による増産効果や財政面での景気刺激効果が減衰していくことから、一時的に減速する可能性が高い。しかし、こうした減速を経ても、海外経済の拡大基調は維持されるものとみられる。

—— 12月短観をみると、製造業大企業の海外需給判断DIは、「供給超過」超幅が引き続き縮小している（2009年3月-54、6月-43、9月-33、12月-27、先行き-24）。製造業大企業の2009年度輸出計画は、前年比-19.6%と、9月調査（-20.4%）から小幅上振れている。

実質輸入は、生産が増加を続けているもとで、振れを伴いつつも増加している（図表6、7(1)）。

—— 実質輸入は、7～9月に前期比でかなり増加したあと、10月の7～9月対比は減少した。月次の動きをみると、3月に増加に転じたあと、8か月振りの前月比減少となった。

—— 財別にみると（図表13(2)）、情報関連（パソコン等）、資本財・部品、中間財は、増加を続けている。消費財（薄型テレビ等）、素原料（原油等）は、振れを伴いつつ増加傾向にあり、10月の7～9月対比は減少した。この間、食料品は、弱めに推移している。

先行きの輸入については、国内景気の持ち直しを背景に、緩やかな増加を続けると予想される。

純輸出の動きを表す実質貿易収支をみると、上記輸出入の動きを反映して、2四半期連続で増加したあと、10月の7～9月対比も増加した（図表6、7(2)）。実質貿易収支の先行きについては、緩やかな増加を続けると予想される。

—— 名目貿易・サービス収支をみると、4～6月に黒字に復したあと、黒字幅

² 10月の中国向け輸出は前月比減少となったが、これには、中国の建国記念日に当たる国慶節（10月1日）が、豊作を祈る中国の伝統行事である中秋節（本年は10月3日）と重なり、例年より1日長い8連休（10月1日～8日）となったことも影響しているとみられる。

は横ばい圏内で推移している。当面は、実質貿易収支が緩やかな増加を続けるものの、交易条件の悪化が下押しに働くことから、名目貿易・サービス収支の黒字幅は、横ばい圏内の動きを続けるとみられる。経常収支も、当面、黒字幅が横ばい圏内で推移する見通し。

(2) 内生需要

(企業収益・設備投資)

企業収益は、きわめて低水準ながら、生産の増加などを背景に、四半期ベースでは持ち直しに転じている(図表14)。

—— 法人企業統計の売上高経常利益率(季節調整値)をみると(図表14、15)、1～3月をボトムに持ち直しを続けており、7～9月は2.28%となった。業種別・規模別にみると、製造業では、生産増加と経費節減により、大企業、中堅中小企業とも、はっきりと持ち直した。非製造業では、中堅中小企業は、緩やかな改善を続けたものの、大企業は、原油価格など投入コストの上昇もあって、幾分悪化した。

—— 年度ベースの経常利益(全産業・全規模)を12月短観の事業計画でみると(図表16)、2009年度は-16.1%と、3年連続で減益となる見通しである。半期ベースの売上高経常利益率を業種別・規模別にみると、製造業大企業は、2009年度下期にかけて改善を続ける一方、非製造業大企業は2009年度下期に幾分悪化する見通しである。中小企業は、製造業、非製造業とも、2009年度下期にかけて改善する見通しである。なお、2009年度下期の製造業大企業の想定為替レートは91.16円/ドルとなっている。

—— 企業の業況感は、製造業大企業を中心に、緩やかに改善している。

12月短観の業況判断DIをみると、全産業・全規模では、3期連続で改善したあと、先行きは小幅悪化する予想となっている(9月-38、12月-32、先行き-34)。内訳をみると(図表1)、製造業大企業では、輸出の増加などから、3期連続で「悪い」超幅がはっきりと縮小した。先行きも「悪い」超幅が縮小する予想となっている。非製造業大企業も、3期連続で「悪い」超幅が縮小したあと、先行き「悪い」超幅の縮小が続く予想となっている。

中小企業の業況判断についてみると、製造業、非製造業とも、「悪い」超幅が縮小しているが、先行きは再び悪化する予想となっており、改善の動きは大企業に比べて弱い。

設備投資は下げ止まりつつある(図表17)。先行きについては、徐々に持ち直しに向かうとみられるが、収益がなお低水準で、設備過剰感も強いもとの、当面はなお横ばい圏内にとどまる可能性が高い。

—— GDPベースの実質設備投資(2次速報)は、建設投資の落ち込みを主因に6四半期連続の減少となったものの、機械投資が持ち直しつつある中で、減少幅は次第に縮小してきている(図表2(2))。

上記GDPの推計に用いられている法人季報の設備投資（名目ベース）をみると、2008年4～6月以降5四半期連続で減少したあと、7～9月は前期比-8.8%と、減少幅が拡大した（図表17、18）。業種別・規模別にみると、製造業は、中堅中小企業が減少幅を縮小したものの、大企業は輸送機械や一般機械を中心に減少幅が拡大する動きとなった。いずれも、減価償却費を大きく下回る水準となっている。非製造業は、中堅中小企業が小幅ながら2期連続の増加となったものの、大企業は2期連続で増加したあと、やや大きく減少した³。

—— 機械投資の一致指標である資本財総供給（全体および除く輸送機械）や資本財出荷（同）は、4～6月をボトムに持ち直しつつある（図表17、19(1)）⁴。

—— 機械投資の先行指標である機械受注（船舶・電力を除く民需）は、大幅に落ち込んだあと、概ね下げ止まっている（図表17、20(1)）⁵。業種別にみると、製造業は、7～9月は前期における大口案件の反動もあって減少したが、10月の7～9月対比は再び大口案件が寄与するかたちで大幅な増加となった。一方、非製造業（除く船舶・電力）は、7～9月は増加したが、10月の7～9月対比は減少した⁶。

建設投資の先行指標である建築着工床面積（民間非居住用）は（図表17、20(2)）、4～6月に大幅に落ち込んだあと、7～9月に続き、10月の7～9月対比も横ばい圏内の動きとなった。

—— 年度ベースでは、2009年度の設備投資前年比は大幅な減少になると予想される。12月短観で2009年度設備投資計画（ソフトウェア除く、土地投資額

³ なお、2008年度の非製造業の設備投資については、会計制度に変更があったリース業を除いたベースでみる方が適当と考えられる。すなわち、ファイナンス・リースにおけるリース物件については、従来は貸し手側（リース業）で固定資産（設備投資）として計上され、借り手側（一般企業）ではオフバランス処理されることが多かった。これが、2008年4月1日以降開始する事業年度から適用される新しいリース会計基準により、貸し手側では流動資産として計上され、借り手側で固定資産に計上されることになった。設備投資をどちらでカウントするかの違いであるため、原則として、設備投資の集計値に影響は出ないはずであるが、例外規定の影響がある。すなわち、中小企業が借り手になっている場合やリース物件が少額の場合などには、借り手側では会計処理を変更しなくてもよいとの例外規定があるため、全体ではリース業側のマイナス効果が残る。

⁴ 資本財総供給や資本財出荷を算出する際、一部品目の出荷については、固定比率を用いて資本財と他の財に割り振っている。資本財出荷（全体）の足もとの増加については、自動車の出荷のうち耐久消費財として割り振るべきものが資本財に割り振られていることも影響しており、実勢より強めに出ている可能性が高い。資本財出荷と同じく生産動態統計を用いて推計を行っているGDPベースの設備投資についても同様の問題は生じうると考えられる。

⁵ 10月は外需が大きく増加したため、受注総額でみると、10月の7～9月対比は+6.6%となっている。

⁶ 機械受注の10～12月の見通し（季調済前期比）は、民需（除く船舶・電力）+1.0%、製造業+0.4%、非製造業（除く船舶・電力）+1.3%となっている。

含む)をみると(図表17、21)、大企業は前年比-13.8%となっている。前回調査との対比で-3.4%の下方修正となっており、12月短観の平均的な修正パターンに比べて弱めである。中小企業は前年比-30.7%の大幅減少となっており、前回調査対比では+4.0%の上方修正であるが、これも平均的な修正パターンに比べれば幾分弱い。この間、2009年度のソフトウェア投資(全産業・全規模)は、前年比-11.2%のマイナスとなっている。

GDPの概念に近いベース(ソフトウェア含む、土地投資除く)で、2009年度の全産業・全規模の投資計画をみると、前年比-14.9%となっている⁷。

この間、生産・営業用設備判断DIをみると、「過剰」超幅は引き続き縮小しているものの、依然として製造業を中心に大幅な「過剰」超となっている(図表19(2))。

(個人消費)

個人消費は、厳しい雇用・所得環境が続いているものの、各種対策の効果などから耐久消費財を中心に持ち直している(図表22)。先行きは、厳しい雇用・所得環境が続く中であっても、当面、各種対策の効果などから、耐久消費財を中心に持ち直しの動きが続く可能性が高い。

—— 全国百貨店売上高、全国スーパー売上高、コンビニエンスストア売上高は(図表24(1))、数量および単価の弱さを反映して、減少傾向を続けている⁸。

—— 耐久消費財についてみると(図表23(2))、家電販売額(実質)は、エコポイント制度などを背景に、薄型テレビを中心に大幅な増加を続けている。乗用車の新車登録台数(除く軽自動車)は、3月まで大幅に落ち込んでいたが、4月以降は減税や補助金の効果などから急速に回復している。前月比をみると、自動車メーカーの増産体制が整い、受注残の消化が加速していることを反映して、11月は+10.8%と、プラス幅がさらに拡大している。

—— サービス消費をみると(図表24(2))、旅行取扱額は、雇用・所得環境の悪化を背景に、落ち込んだあと、7~9月は、新型インフルエンザ流行の影響がいったん薄れたことや、シルバーウィークの効果から、はっきり持ち直す動きとなった。外食産業売上高は、このところかなり減少していたが、10月は、販売促進策の奏効などから、幾分持ち直した⁹。

⁷ これに金融機関の設備投資も含めると前年比-14.3%となる。

⁸ 全国百貨店売上高や全国スーパー売上高は、9月は、シルバーウィーク効果が下支えに作用したが、10月は再び減少した。

⁹ ファーストフードやファミリーレストランでは、消費者の節約志向が一段と進む中で、値下げを含む販売促進策が消費を喚起している模様である。マクドナルドでは、10月2日から22日にかけて全国一斉で、昼夜を含む時間帯に、来店客にコーヒーを無料で提供するキャンペーンを実施したところ、来客数が大幅に増加した(7~9月にも同様のキャンペーンを行っていたが、この時は地域限定で期間も短かったため、効果は限定的であった)。

- 財について生産者段階で包括的に捉えた消費財総供給（各種財の国内向け出荷と輸入を合計したもの）をみると、耐久消費財（自動車）の動きを反映して、10月は7～9月対比でみて増加を続けた（図表25(1)）¹⁰。
- 需要側の統計について、家計調査の消費水準指数を、GDPの推計に利用される品目にほぼ限定した「除く住居等」のベースでみると（図表22、23(1)）、7～9月に増加したあと、10月は7～9月対比でみて減少した¹¹。家計消費状況調査の支出総額（二人以上の世帯、実質ベース）は、耐久消費財の増加を主因に、10月は7～9月対比増加した。
- GDPベースの実質個人消費（2次速報）についてみると、4～6月に続き、7～9月もはっきりと増加した（図表2(2)）。形態別にみると、7～9月は、耐久財が増加したものの、その他の財・サービスは横ばいとなった。需要・供給両面の月次統計をGDPに近い方法で合成した消費包括指数（CCI）をみると、10月の7～9月対比は+0.1%となっている（図表25(2)）¹²。
- この間、消費者コンフィデンス関連指標は、このところ改善の動きが鈍化傾向にあり、一部の指標には悪化の動きもみられる（図表26）。

（住宅投資）

住宅投資は減少している。先行きの住宅投資については、着工戸数の動きなどからみて、徐々に下げ止まっていくと予想される。

- GDPベース（2次速報）の住宅投資は、3四半期連続で大幅に減少した（図表2(2)）。
- 先行指標である新設住宅着工戸数をみると（図表27、28(1)）、7～9月に年率70.7万戸まで減少したあと¹³、10月は76.2万戸に持ち直した。月次ベースでは、2か月連続の増加となった。昨秋以降、雇用・所得環境が厳しさを増したことや、不動産関連セクターを取り巻く金融環境が一段と悪化したことなどから、水準を大きく切り下げてきていたが、足もとでは下げ止まりの兆しがみられる。

¹⁰ ただし、消費財総供給には、流通在庫の変動分も含まれる。

¹¹ 消費水準指数（除く住居等）は、消費支出合計から、住居や自動車等購入、贈与金、仕送り金を除いている。それでもなお、GDP推計に用いられない項目が残存している（例えば教育費）。

¹² なお、消費包括指数とは、「生産動態統計」、「特定サービス産業動態統計調査」、「家計調査」、「家計消費状況調査」などを用い、GDP個人消費にできるだけ近い方法で調査統計局が試算している指標（対外非公表）。ただし、CCIの供給面の試算では、在庫の変動が考慮されていない点には注意が必要である。

¹³ 70.7万戸は、四半期計数では、1965年の現行統計開始以来最低の水準。

—— 首都圏新築マンション販売をみると（図表 27、28(2)）、全売却戸数は、低水準で概ね横ばいの動きとなっている。在庫は減少傾向を続けているが、なお過剰感が強い。先行きの雇用・所得環境にも不安が大きい。そうしたもとの、経営体力が強い一部デベロッパーを除けば、新規供給へ向けた用地取得等の動きは当面鈍い状態が続くとみられ、着工の回復にはなお時間がかかる可能性が高い。

3. 生産・出荷・在庫

鉱工業生産は、内外の在庫調整の進捗や政策効果を背景に、増加を続けている（図表 29、30）。

—— 10月の生産は前月比+0.5%と、8か月連続の増加となった。四半期ベースでみると、4～6月前期比+8.3%、7～9月同+7.4%と、2四半期連続ではっきりと増加したあと、10月の7～9月対比も+2.4%と増加した（図表 30）。なお、直近のピーク（2008年2月）との比較では、依然として2割強低い水準にとどまっている。

—— 出荷も、4～6月前期比+6.4%、7～9月同+8.4%と増加したあと、10月の7～9月対比は+4.2%の増加となった。最近の出荷の動きを財別にみると（図表 31）、耐久消費財や生産財は、昨秋以降大きく落ち込んだあと、はっきりと増加している。資本財も持ち直しつつある。ただし、建設財については、引き続き弱めの動きとなっている。この間、非耐久消費財は、横ばい圏内で推移している。

在庫は、緩やかに減少している（図表 29、32）。

—— 10月の在庫水準は、直近ピークである2008年12月末との対比では-14.9%となっている。財別に出荷・在庫バランスをみると（図表 32）、耐久消費財、電子部品・デバイス、その他生産財（化学、鉄鋼など）は、出荷の持ち直しもあって在庫調整圧力が解消している。また、資本財（除く輸送機械）も、緩やかに改善している。一方、建設財は、出荷の落ち込みを背景に、在庫調整圧力が依然大きい状態にある。

先行きの生産については、増加ペースは次第に緩やかになっていくとみられるが、輸出同様、増加基調を続けると予想される。

—— 企業からの聞き取り調査によると、10～12月は前期比+4%台半ばの増加、1～3月は前期比横ばい圏内となる計画であり、前月時点からほとんど変化はない。ただし、1～3月の生産計画については、米欧クリスマス商戦後の在庫状況¹⁴、家電エコポイント制度およびエコカー補助の延長の影響（1～

¹⁴ 日本のセットメーカーに関しては、米欧クリスマス商戦をもともと慎重に想定していたため、商戦がよほど低迷しない限り在庫積み上がりのリスクは小さい。しかし、海外セットメー

3月の駆け込み需要に対する下押し効果)など、不確実性は大きい。そうしたもとの、人員余剰感が消えつつある一部の企業についても、雇用の増加にはなお慎重である。

非製造業の動向を示す第3次産業活動指数をみると、鉱工業生産の増加などを背景に、持ち直しつつある(図表29)。

—— 前期比は、1～3月に-3.1%、4～6月に-0.7%と減少したあと、7～9月は+0.5%と、9四半期ぶりに増加となった。内訳をみると、卸売業・小売業、サービス業(学術研究、専門・技術サービス業)、運輸業・郵便業などの増加が寄与している。

4. 雇用・所得

雇用・所得環境は、失業率が高水準で推移し、雇用者所得は大幅に減少するなど、引き続き厳しい状況にある。

—— 労働需給に関連する指標をみると(図表33、34)、有効求人倍率は、2か月連続で僅かに上昇し、10月は0.44倍となった。また、完全失業率は、3か月連続で低下し、10月は5.1%となった¹⁵。足もとの失業率の低下は、鉱工業生産の増加に加えて、職探しを諦めることによる非労働力化の動きも影響しているとみられる¹⁶。経済の活動水準がなお低いことや、振れの大きい統計であることを踏まえると、失業率の低下が一時的である可能性には注意が必要である。

12月短観の雇用人員判断DIをみると(図表36)、製造業は、大企業、中小企業とも、先行きにかけて「過剰」超幅の縮小を続ける見通しながら、「過剰」超幅は依然として大幅である。非製造業は、大企業、中小企業とも、「過剰」超幅が縮小したが、先行きは中小企業が「過剰」超幅を小幅拡大する見通しとなっている¹⁷。

—— 雇用面についてみると(図表33、35(1))、労働力調査の雇用者数の前年

カーが強気の見通しを前提に積極的な部品調達を行っていた可能性は小さくないため、部品関連で在庫調整圧力が生じるリスクはある。

¹⁵ 厚生労働省の調査(11月18日時点、11月27日公表)によると、昨年10月から本年12月までの間に失職したか、失職が決まっている派遣社員などの非正規労働者の数は24.7万人と、前回調査(10月21日時点、24.4万人)から若干の増加にとどまっている。本年10月から12月までの間に失職が決まっている非正規労働者の数は0.6万人であり、増加のペースはかなり緩やかになってきている。

¹⁶ 労働力率は、若年齢層と高年齢層を中心に、足もと低下している。

¹⁷ 短観で新卒採用計画(前年比)をみると、全産業・全規模ベースでみて、2008年度実績+0.9%のあと、2009年度計画-10.0%、2010年度計画-23.3%と、企業の採用意欲が急速に減退している姿がうかがわれる。規模別にみると、中小企業の2009年度計画の下方修正がかなり大幅なものとなっている(前年比-15.1%、修正率-2.6%)。

比は、このところ減少幅が縮小していたが、10月は再び減少幅が拡大した。この間、雇用調整助成金等にかかる休業等実施計画届の受理状況をみると、10月の申請は、依然として高水準ながら、3か月連続で減少している¹⁸。

—— この間、厚生労働省・文部科学省によると、10月1日時点の2010年3月大学卒業予定者の就職内定率は62.5%となっている。2009年3月大学卒業予定者に関する1年前の数値(69.9%)を7.4%ポイント下回っており、この低下幅は、調査を開始した1996年以降で最も大きい。水準も2004年3月大学卒業予定者(60.2%)、2005年3月大学卒業予定者(61.3%)に次ぐ、3番目の低さである。

—— 毎月勤労統計の常用労働者数は、伸び率が急速に低下したあと、このところ前年比若干のマイナスが続いている。なお、パート比率は緩やかな上昇傾向にある(図表35(2))。この間、所定外労働時間は、大幅に減少したあと、次第に持ち直してきている(図表35(3))¹⁹。

—— 一人当たり名目賃金は(図表33、37(1))、大幅な下落が続いている。内訳について最近の傾向的な動きをみると、特別給与が企業収益の落ち込みを受けて大幅に下落しているほか、所定内給与や所定外給与も、製造業を中心とした労働時間の減少などを背景に下落を続けている。

なお、大企業を対象とするアンケート調査をみると、冬季賞与は、夏季賞与並みの前年比減少が予想されている。

▽賞与に関するアンケート調査(前年比、%)

	2008年冬	2009年夏	2009年冬	
労務行政研究所	0.6	-14.4	-13.1	9月2日時点
日本経団連	-0.4	-17.2	-16.4	11月20日時点
日経新聞	-0.8	-16.6	-14.8	12月1日時点

—— 雇用者所得は、以上のような雇用・賃金動向を反映し、大幅に減少している(図表37(3))。毎月勤労統計ベースの雇用者所得は12か月連続で、SNA雇用者報酬と同様に労働力調査を用いた雇用者所得は17か月連続で、前年を下回っている。

先行きの雇用者所得については、企業収益や生産の動きからのタイムラグを踏まえると、当面、なお大幅な減少を続ける可能性が高い。

¹⁸ 7月243万人、8月211万人、9月199万人、10月197万人。なお、雇用調整助成金は、12月からの1年間に限って、要件が緩和されている。具体的には、現行の生産量要件である「売上高または生産量の最近3か月間の月平均値がその直前3か月または前年同期に比べて5%以上減少していること(ただし直近の決算等の経常損益が赤字であれば5%未満の減少でも可)を満たす事業所の事業主」に加え、「売上高または生産量の最近3か月間の月平均値が前々年同期に比べて10%以上減少し、直近の決算等の経常損益が赤字である事業所の事業主」についても受給が可能になった。

¹⁹ 製造業の所定外労働時間の前年比は、引き続き大幅な前年比マイナスとなっているが、マイナス幅は7か月連続で縮小している(8月-27.9%、9月-24.4%、10月-20.8%)。

—— 企業収益は持ち直しに転じているが、水準は依然として低く、引き続き賃金には下方圧力が強くかかっていると考えられる。事業の縮小や整理などの動きが雇用・賃金面へ及ぼす影響も、引き続き注意深くみていく必要がある。

5. 物価

(物価を取り巻く環境)

国際商品市況は、一進一退ながら、均してみると強含み傾向にある(図表 39)。

—— 原油価格は、11月にかけて強含んだあと、最近は幾分軟化している。非鉄金属や穀物は、振れを伴いつつ、強含み傾向を続けている。金は引き続き最高値圏にある。DRAMやフラッシュメモリは、クリスマス商戦向けの調達の一巡から、足もと軟化している。液晶パネルも、足もと幾分軟化しているが、テレビ向けについては、中国向け出荷の増加などから、総じてみれば堅調に推移している。

輸入物価(円ベース)を3か月前比で見ると、為替円高の影響などから、足もとは幾分弱含んでいる(図表 38、40)。

国内の需給環境について12月短観をみると(図表 41)、製商品・サービス需給判断DIは、引き続き大幅な「供給超過」超となっているが、製造業の「供給超過」超幅は縮小を続けている。また、設備判断と雇用判断の加重平均DIは、過去の景気悪化局面のボトム近傍まで急速に「過剰」超幅が拡大したあと、幾分改善している²⁰。一方、販売価格判断DIは、「下落」超幅をやや拡大した。

国内商品市況は、国際商品市況の強含みと為替円高が打ち消しあい、足もとは概ね横ばいの動きとなっている(図表 42)。

—— 石油製品は、横ばいで推移している。非鉄金属も、年初から上昇を続けてきたが、足もとは横ばい圏内の動きとなっている。鋼材や紙・板紙は、緩やかな下落を続けてきたが、足もとは下げ止まっている。この間、化学は一進一退となっている。

(物価指数)

国内企業物価(夏季電力料金調整後)を3か月前比で見ると、製品需給緩和の影響などから、幾分弱含んでいる(図表 38、43)。先行きについては、国際商品

²⁰ 当局試算の需給ギャップと、短観加重平均DIは、足もと大きく乖離している。DIについては、①「過剰」か「不足」かのみを尋ねており「過剰」の大きさが反映されないこと、②企業外の失業等は反映されないこと、などから過剰の度合いを過小評価している可能性が高い。一方、需給ギャップについては、とりわけ経済の変動が大きいときには計測誤差が大きくなり、足もとではマイナス幅を過大評価している可能性が高い。

市況の強含みが押し上げに働くものの、製品需給緩和の影響が続くことから、当面、弱含みで推移するとみられる。

—— 11月の国内企業物価は、3か月前比で-0.5%と、2か月連続で下落した。内訳をみると(図表43)、多くの品目で下落が続いており、足もとは、「電力・都市ガス・水道」の下落幅が縮小した一方、「為替・海外市況連動型」の上昇幅が縮小している。

—— 輸入品を含む国内需要財全体でみると(図表44)、中間財は、石油・石炭製品の上昇幅が縮小していることから、足もと弱含んでいる。この間、素原材料は概ね横ばいの動きとなっており、最終財は、機械類を中心に、小幅の下落が続いている。

企業向けサービス価格(除く国際運輸)の前年比は、企業の経費削減の動きなどを受けて、下落が続いている(図表38、45)。

—— 10月の企業向けサービス価格(除く国際運輸)は、前年比-1.3%と、12か月連続の下落となった。主な内訳をみると、広告やリース・レンタルが、企業の経費節減の動きなどを受けて、前年を大きく下回っているほか、運輸(除く国際運輸)や情報通信なども、需要の弱さを主たる背景に、前年を下回っている。

—— 国際運輸を含む総平均ベースは、大幅な前年比下落が続いているものの、前年における海運市況の上昇の反動の影響が薄れているため、下落幅は幾分縮小している。

消費者物価(除く生鮮食品)の前年比は、経済全体の需給が緩和した状態が続く中、前年における石油製品価格高騰の反動などから、下落している(図表38、46)。

—— 全国の消費者物価(除く生鮮食品)の前年比は、8月に-2.4%と過去最大の下落を記録したあと、9月は-2.3%、10月は-2.2%となった。内訳をみると、財価格は、幅広い品目が下落幅を拡大しているものの、石油製品の下落幅が縮小しているため、全体でも下落幅が縮小している。サービス価格は、外食の上昇幅縮小、外国パック旅行、家事関連サービスの下落幅拡大などを反映して、下落幅が拡大している。公共料金は、電力料金や都市ガス代の引き下げなどから、下落幅が拡大している。以上の動きを、除く食料・エネルギーでみると、10月の前年比は、下落幅が前月から0.1%ポイント拡大して-1.1%となった。

—— 品目別価格変動分布の両端の一定割合を機械的に控除した刈込平均指数(いわば大きな相対価格変動を除去したコア指数)の前年比は、引き続き下落幅が拡大している(図表47)。

先行きの消費者物価(除く生鮮食品)の前年比は、前年における石油製品価格

高騰の反動の影響が薄れていくにしたがい、下落幅が縮小すると予想される。

—— 11月の東京の消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、石油製品、外国パック旅行の下落幅縮小などから、下落幅が前月から0.3%ポイント縮小して-1.9%となった（図表48）。除く食料・エネルギーの前年比は、下落幅が前月から0.1%ポイント縮小し-1.3%となった。

—— 消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、石油製品の上昇転化などから、12月にかけて下落幅がマイナス1%近くまで急速に縮小するとみられる。その後は、原油価格が現状程度で推移することを前提にすると、下落幅の縮小はかなり緩やかなものとなる見通し。

以 上

議事録公表時まで対外非公表

<不開示情報：有（種類：審議・検討）>
 <配付先：金融政策決定会合関係者限り>
 <作成局における保管期間満了時期：2039年12月>

2009.12.14

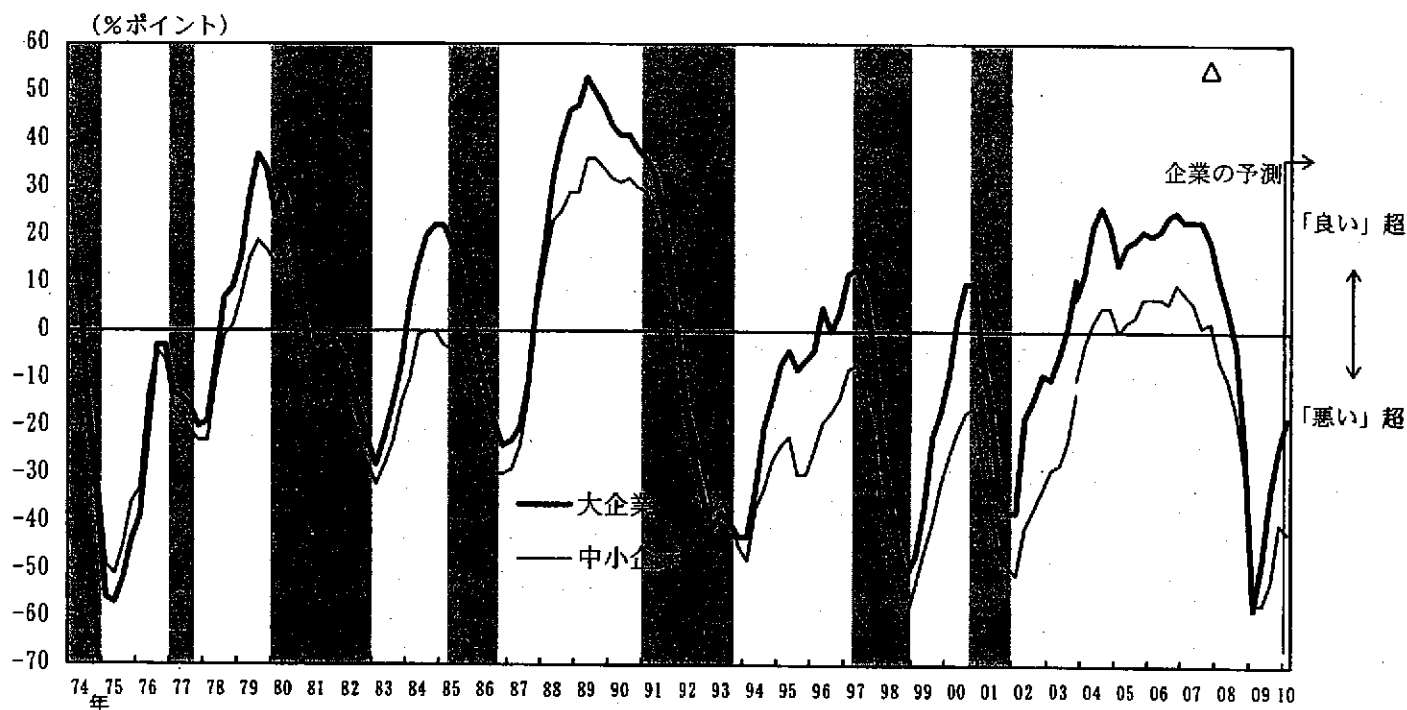
調査統計局

「経済活動の現状評価」参考計表

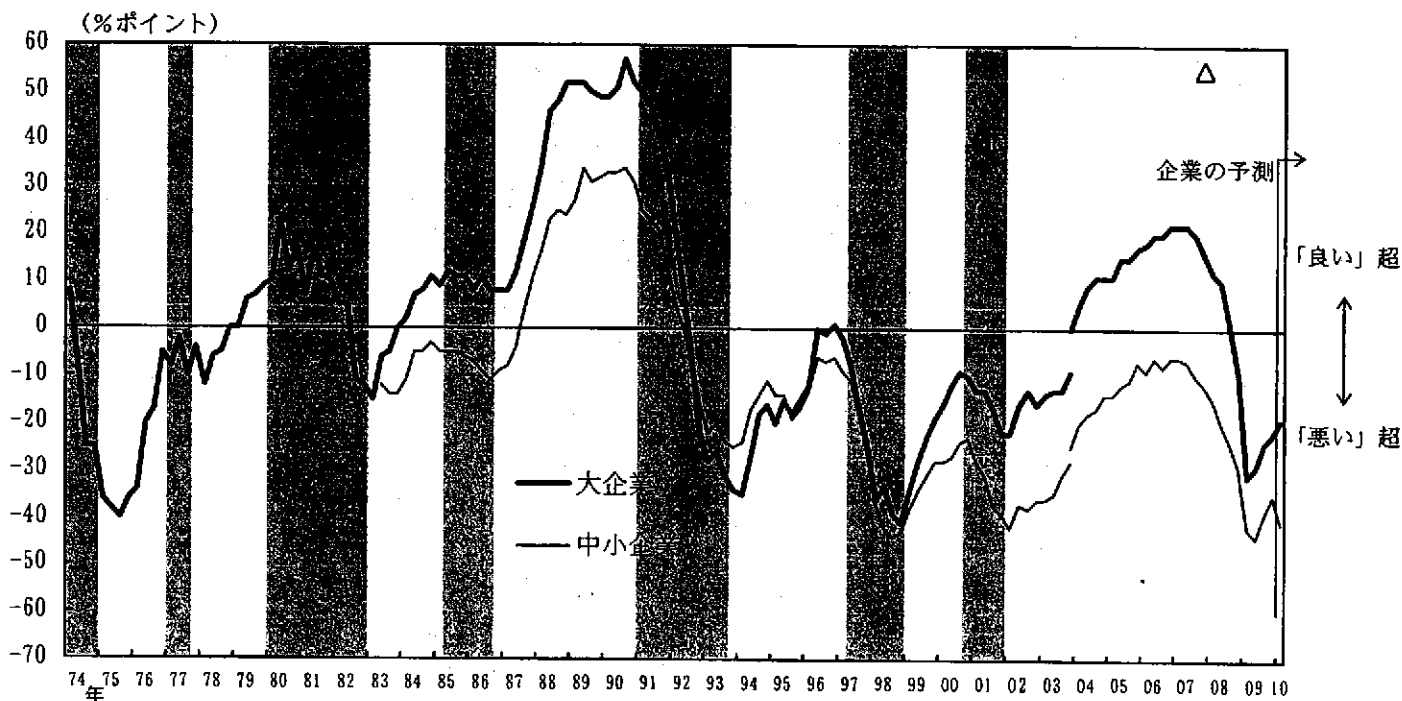
(図表 1) 業況判断（12月短観）	(図表 27) 住宅関連指標
	(図表 28) 住宅投資関連指標
(図表 2) 実質GDPと景気動向指数	
(図表 3) GDPデフレーターと所得形成	(図表 29) 生産・出荷・在庫関連指標
	(図表 30) 生産
(図表 4) 公共投資関連指標	(図表 31) 財別出荷
(図表 5) 公共投資	(図表 32) 在庫循環
(図表 6) 輸出入関連指標	(図表 33) 雇用関連指標
(図表 7) 輸出入	(図表 34) 労働需給（1）
(図表 8) 実質輸出の内訳	(図表 35) 労働需給（2）
(図表 9) 米国向け輸出	(図表 36) 雇用の過不足感（12月短観）
(図表 10) その他地域向け輸出	(図表 37) 雇用者所得
(図表 11) 情報関連輸出	
(図表 12) 実質実効為替レート	(図表 38) 物価関連指標
(図表 13) 実質輸入の内訳	(図表 39) 国際商品市況と輸入物価
	(図表 40) 輸入物価
(図表 14) 企業収益関連指標	(図表 41) 国内需給環境（12月短観）
(図表 15) 業種別・規模別の企業収益	(図表 42) 国内商品市況
(図表 16) 経常利益（12月短観）	(図表 43) 国内企業物価
	(図表 44) 企業物価指数の需要段階別推移
(図表 17) 設備投資関連指標	(図表 45) 企業向けサービス価格
(図表 18) 業種別・規模別の設備投資	(図表 46) 消費者物価（全国）
(図表 19) 設備投資一致指標	(図表 47) 消費者物価における食料・エネルギーの影響
(図表 20) 設備投資先行指標	(図表 48) 消費者物価（東京）
(図表 21) 設備投資計画（12月短観）	
(図表 22) 個人消費関連指標	(図表 49) 地価関連指標
(図表 23) 個人消費（1）	
(図表 24) 個人消費（2）	
(図表 25) 個人消費（3）	
(図表 26) 消費者コンフィデンス	

業況判断 (12月短観)

(1) 製造業



(2) 非製造業



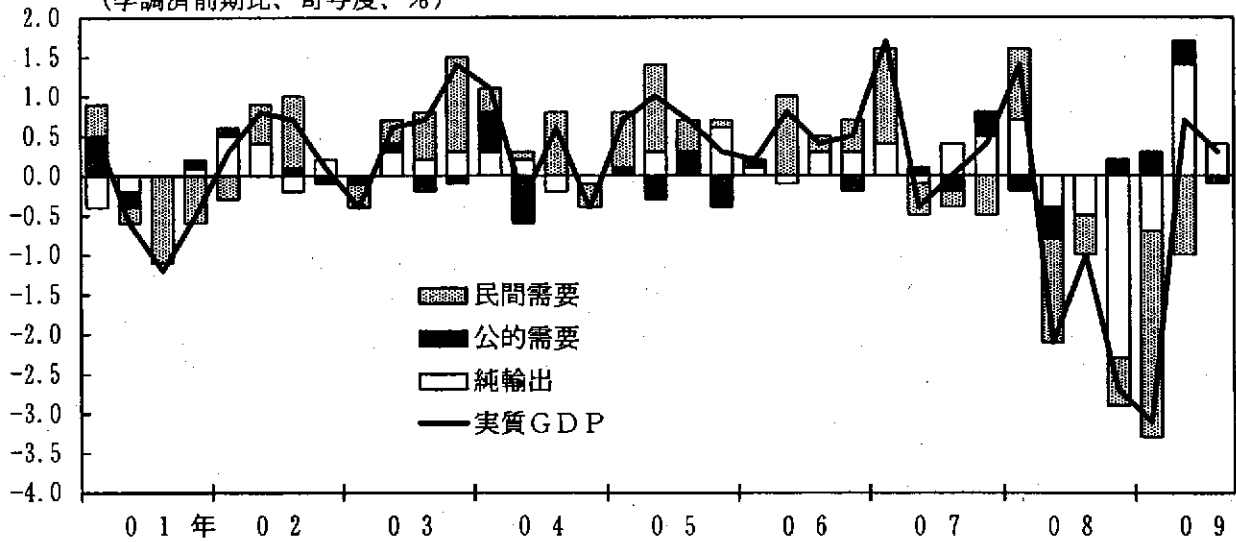
- (注) 1. 2004/3月調査より見直しを実施。
旧ベースは2003/12月調査まで、新ベースは2003/12月調査から。
2. 非製造業大企業の1983/2月以前のデータは主要企業。
3. シャドー部分は景気後退局面。△は直近の景気の山。

(資料) 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」

実質GDPと景気動向指数

(1) 実質GDP

(季調済前期比、寄与度、%)



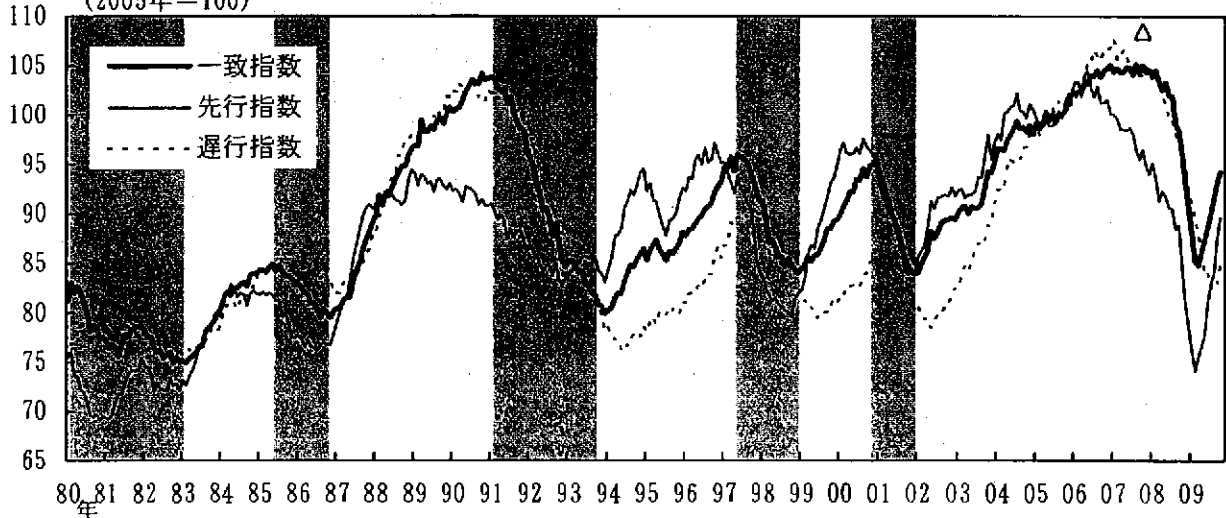
(2) 需要項目別の動向

(季調済前期比、内訳は寄与度、%)

	2008年		2009年			1次QE 09/7~9
	7~9月	10~12	1~3	4~6	7~9	
実質GDP	-1.0	-2.7	-3.1	0.7	0.3	1.2
国内需要	-0.5	-0.4	-2.4	-0.7	-0.1	0.8
民間需要	-0.5	-0.6	-2.6	-1.0	0.0	0.8
民間最終消費支出	-0.1	-0.5	-0.7	0.7	0.6	0.4
民間企業設備	-0.7	-1.0	-1.3	-0.7	-0.4	0.2
民間住宅	0.1	0.1	-0.2	-0.3	-0.2	-0.2
民間在庫品増加	0.2	0.9	-0.4	-0.7	0.1	0.4
公的需要	-0.0	0.2	0.3	0.3	-0.1	0.0
公的固定資本形成	0.0	0.0	0.1	0.3	-0.1	-0.1
純輸出	-0.5	-2.3	-0.7	1.4	0.4	0.4
輸出	-0.4	-2.6	-3.4	0.8	0.9	0.9
輸入	-0.1	0.3	2.6	0.5	-0.5	-0.5
名目GDP	-2.2	-0.8	-3.0	-0.7	-0.9	-0.1

(3) 景気動向指数 (CI)

(2005年=100)



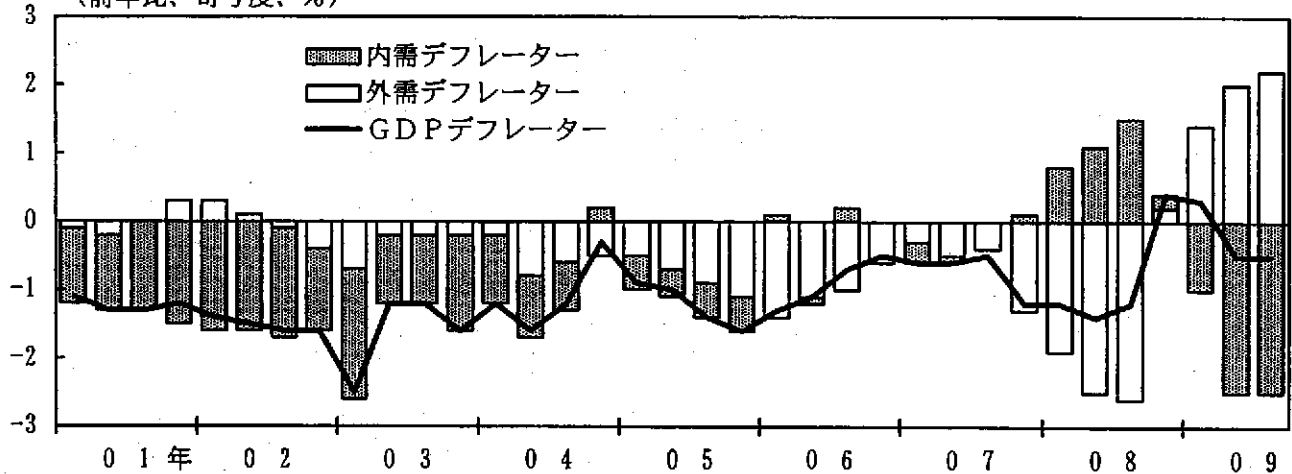
(注) シャド一部分は景気後退局面。△は直近の景気の山。

(資料) 内閣府「国民経済計算」「景気動向指数」

GDPデフレーターと所得形成

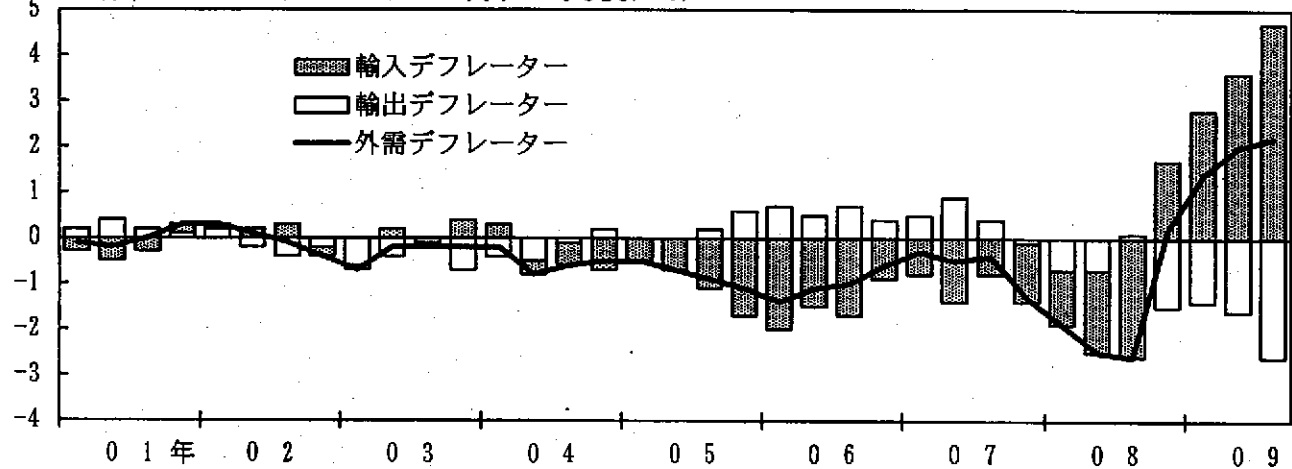
(1) GDPデフレーター

(前年比、寄与度、%)



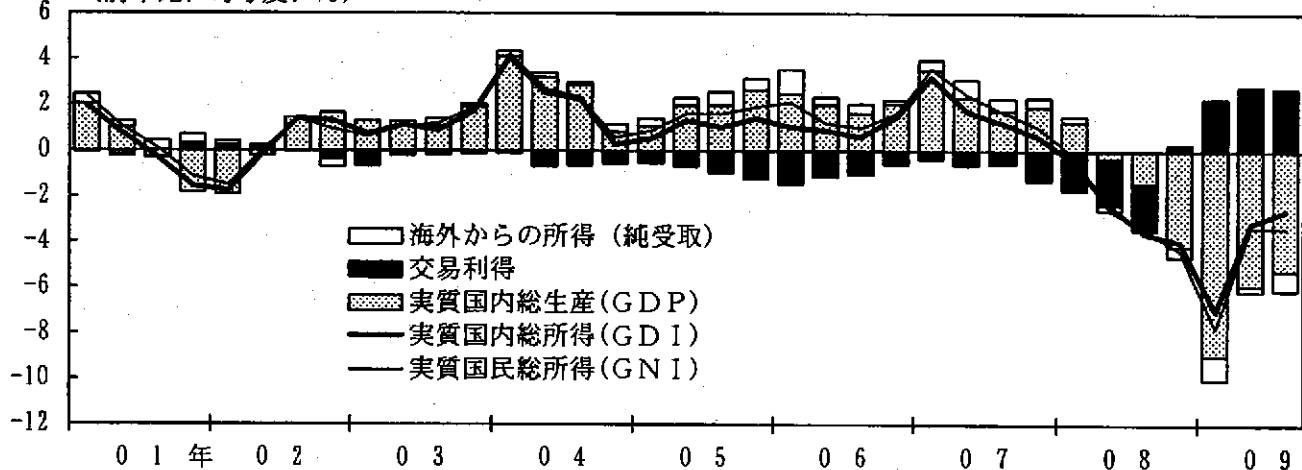
(2) 外需デフレーター

(前年比、GDPデフレーターに対する寄与度、%)



(3) マクロの所得形成

(前年比、寄与度、%)



(注) 内訳は実質国民総所得 (GNI) に対する寄与度。

交易利得は以下のとおり定義される。

交易利得 = 名目純輸出 / 輸出・輸入デフレーター加重平均 - 実質純輸出

(資料) 内閣府「国民経済計算」

公共投資関連指標

＜公共工事出来高金額＞

— 季調済年率換算：兆円、〈 〉内は前期(月)比、()内は前年比：％

	08年度	09/1～3月	4～6	7～9	09/7月	8	9
公共工事出来高金額	16.9	17.2	18.6	17.9	18.2	17.6	17.9
	(-0.4)	(2.1)	(11.8)	(6.1)	(8.5)	(4.1)	(6.1)
		〈 1.7〉	〈 8.0〉	〈 -3.7〉	〈 -1.0〉	〈 -3.2〉	〈 1.8〉

- (注) 1. X-12-ARIMAによる季節調整値。
2. 国土交通省「建設総合統計」の総合表ベース。

＜公共工事請負金額＞

— 季調済年率換算：兆円、〈 〉内は前期(月)比、()内は前年比：％

	08年度	09/4～6月	7～9	10～12	09/8月	9	10
公共工事請負金額	11.8	12.8	13.2	12.9	13.0	14.3	12.9
	(0.1)	(13.0)	(11.2)	(8.3)	(8.7)	(22.1)	(8.3)
		〈 5.4〉	〈 3.6〉	〈 -2.2〉	〈 4.6〉	〈 9.9〉	〈 -9.4〉
うち国等の発注 〈ウエイト36.4%〉	4.3	4.5	5.0	4.5	4.8	5.4	4.5
	(1.8)	(11.8)	(15.6)	(8.4)	(11.3)	(28.3)	(8.4)
		〈 0.1〉	〈 9.8〉	〈 -10.0〉	〈 1.5〉	〈 12.6〉	〈 -17.1〉
うち地方の発注 〈ウエイト63.6%〉	7.5	8.2	8.3	8.5	8.2	8.9	8.5
	(-0.8)	(13.7)	(9.3)	(8.2)	(7.6)	(19.5)	(8.2)
		〈 8.6〉	〈 0.3〉	〈 2.5〉	〈 6.5〉	〈 8.4〉	〈 -4.7〉

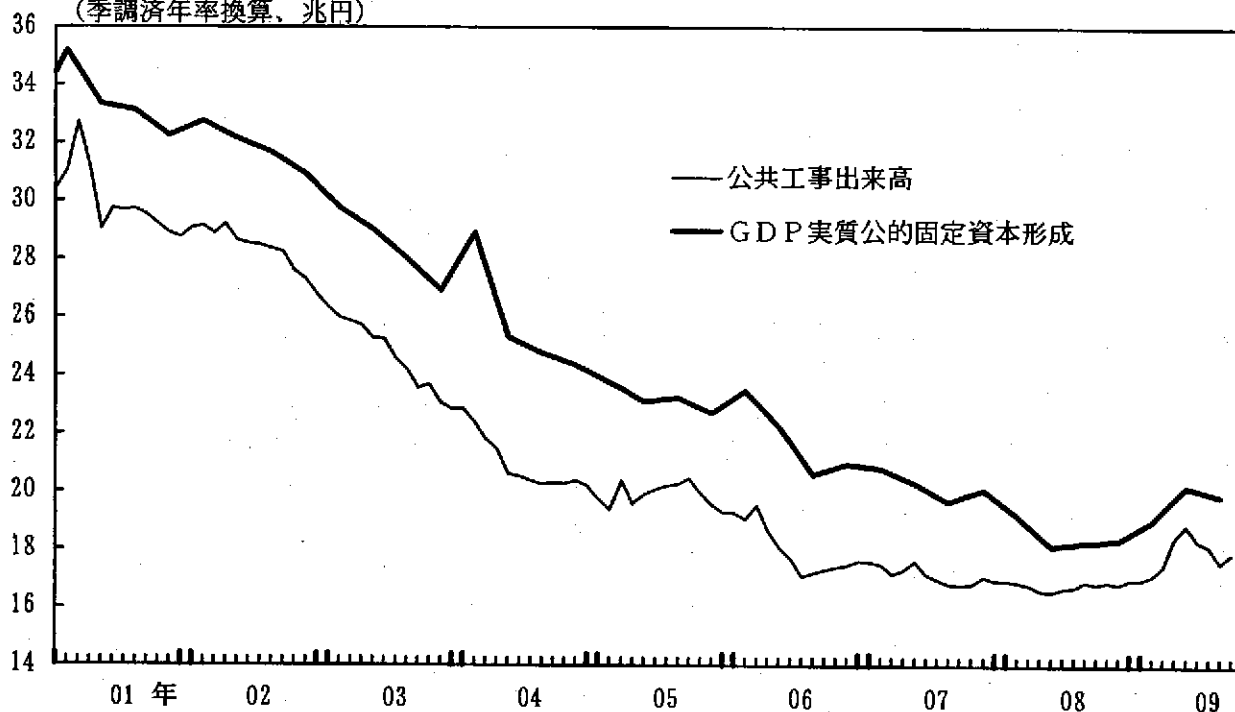
- (注) 1. 「ウエイト」は、合計に占める各発注主体別計数のウエイト(2008年度)。
2. X-12-ARIMAによる季節調整値。
3. 公共工事請負金額の「地方」は、「都道府県」・「市区町村」・「地方公社」の合計。
「国等」は「国」・「独立行政法人等」・「その他」の合計。
4. 2009/10～12月の季調済年率換算金額は10月の値、季調済前期比は10月の7～9月対比、前年比は10月の前年同月比。

(資料) 国土交通省「建設総合統計」、東日本建設業保証株式会社他「公共工事前払金保証統計」

公共投資

(1) 公共工事出来高とGDP実質公的固定資本形成

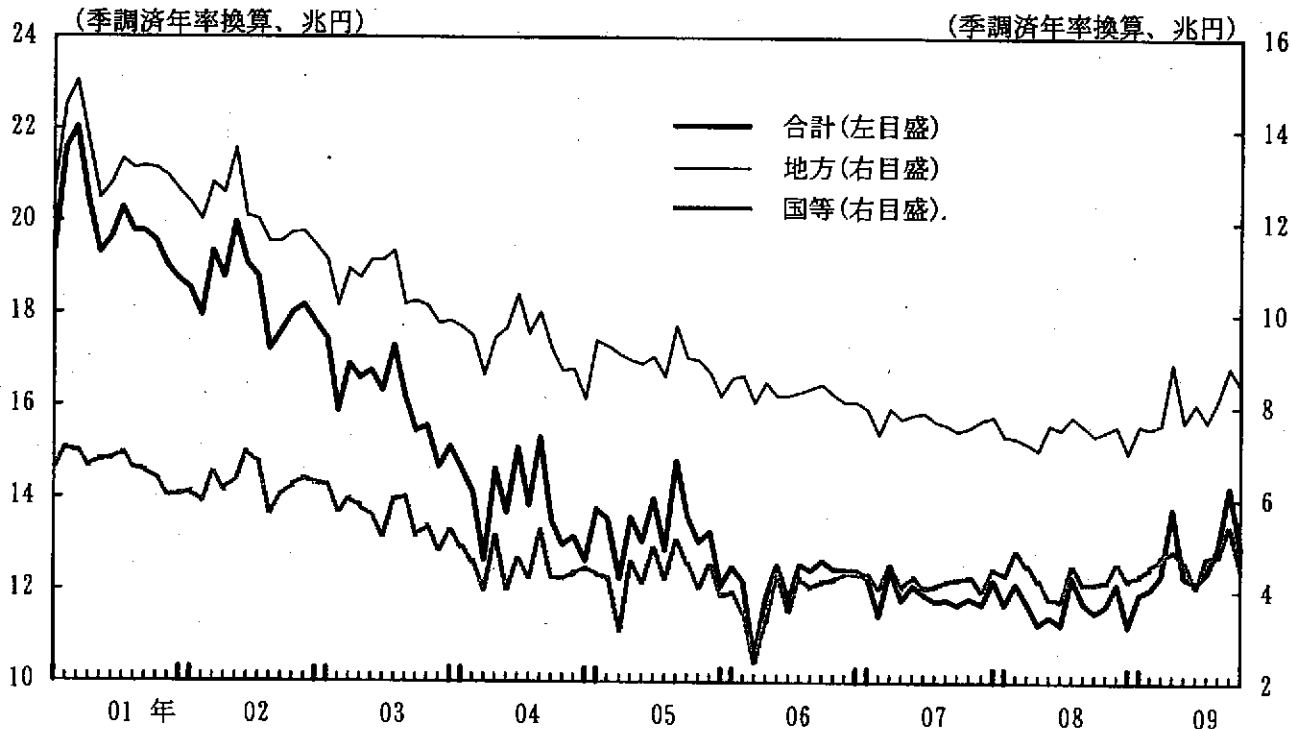
(季調済年率換算、兆円)



(2) 公共工事請負金額

(季調済年率換算、兆円)

(季調済年率換算、兆円)



- (注) 1. GDP実質公的固定資本形成は、四半期の値を中心月にプロット。
2. 公共工事出来高は、国土交通省「建設総合統計」の総合表ベース。
3. 公共工事請負金額の「地方」は、「都道府県」・「市区町村」・「地方公社」の合計。「国等」は「国」・「独立行政法人等」・「その他」の合計。
4. 公共工事請負金額及び公共工事出来高は、X-12-ARIMAによる季節調整値。

(資料) 内閣府「国民経済計算」、東日本建設業保証株式会社他「公共工事前払金保証統計」、国土交通省「建設総合統計」

輸出入関連指標

＜実質輸出入＞

- <>内は季調済前期(月)比、()内は前年比：％
 — 実質貿易収支は指数水準：季調済、2005年=100

	08年度	09/4～6月	7～9	10～12	09/8月	9	10
実質輸出	(-11.4)	< 12.2> (-31.5)	< 11.1> (-23.6)	< 7.5> (-17.1)	< 1.3> (-25.5)	< 5.5> (-20.2)	< 3.3> (-17.1)
実質輸入	(-5.1)	<-1.6> (-17.8)	< 8.5> (-11.6)	<-1.0> (-16.8)	< 1.0> (-11.5)	< 8.6> (-10.6)	<-6.5> (-16.8)
実質貿易収支	188.1 (-28.4)	107.1 < 346.8> (-63.8)	133.7 < 24.8> (-52.5)	196.2 < 46.8> (-17.7)	138.6 < 2.8> (-60.4)	127.5 <-8.0> (-43.4)	196.2 < 53.8> (-17.7)

(注) 1. X-12-ARIMAによる季節調整値。

2. 2009/10～12月の指数水準は10月の値、季調済前期比は10月の7～9月対比、前年比は10月の前年同月比。

＜国際収支＞

- 季調済金額：兆円、<>内は前期(月)比：％

	08年度	09/4～6月	7～9	10～12	09/8月	9	10
経常収支	12.34	3.95 < 120.5>	3.73 <-5.6>	4.13 < 10.7>	1.23 < 6.4>	1.34 < 8.5>	1.38 < 2.9>
貿易・サービス収支	-0.89	0.92 <-180.7>	1.09 < 17.9>	1.45 < 33.1>	0.40 < 45.5>	0.42 < 4.5>	0.48 < 16.0>

(注) 1. X-12-ARIMAによる季節調整値。

2. 2009/10～12月の季調済金額は10月の四半期換算値、季調済前期比は10月の7～9月対比。

＜数量指数＞

- <>内は季調済前期(月)比、()内は前年比：％

	08年度	09/4～6月	7～9	10～12	09/8月	9	10
輸出数量	(-14.0)	< 10.8> (-33.2)	< 10.5> (-24.9)	< 11.1> (-13.0)	< 6.1> (-25.4)	<-0.3> (-21.8)	< 9.2> (-13.0)
輸入数量	(-5.1)	<-1.5> (-20.8)	< 9.8> (-12.6)	<-1.3> (-11.7)	<-0.4> (-12.8)	< 7.3> (-10.2)	<-5.7> (-11.7)

(注) 2009/10～12月の季調済前期比は10月の7～9月対比、前年比は10月の前年同月比。

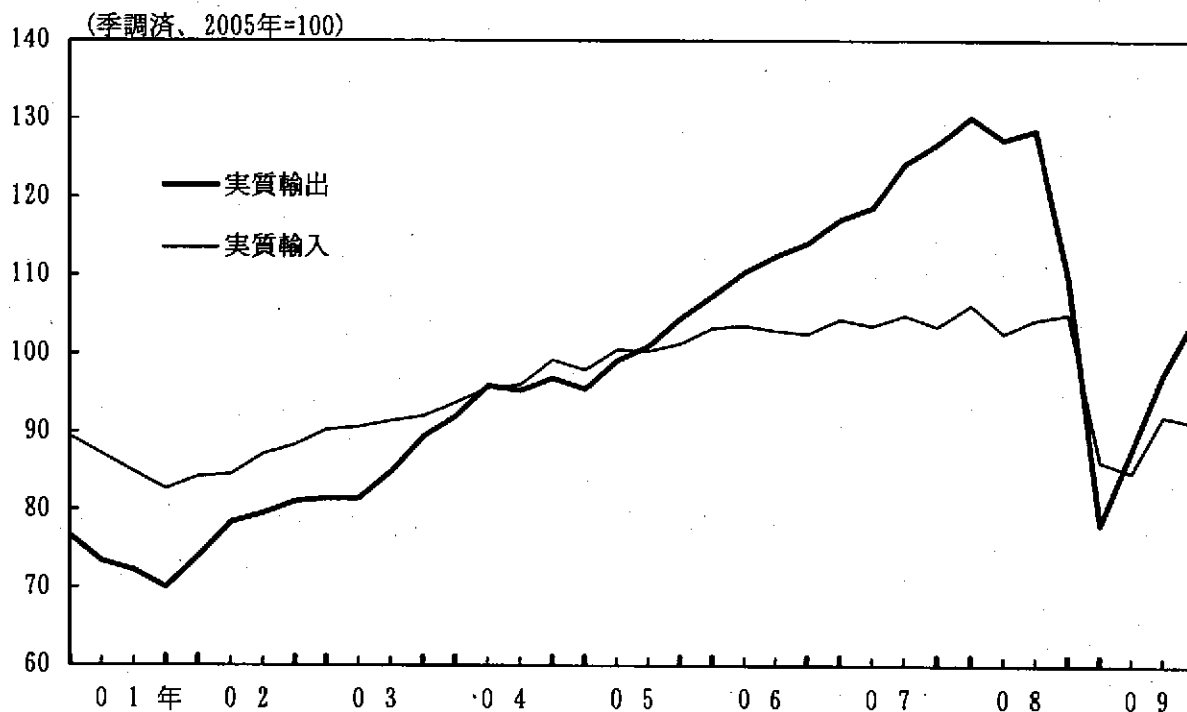
＜為替相場＞

	06年末	07	08	09/7月末	8	9	10	11
ドル＝円	118.92	113.12	90.28	95.61	92.78	89.76	91.11	86.15
ユーロ＝円	156.69	165.70	127.20	134.95	132.50	131.10	135.09	129.74

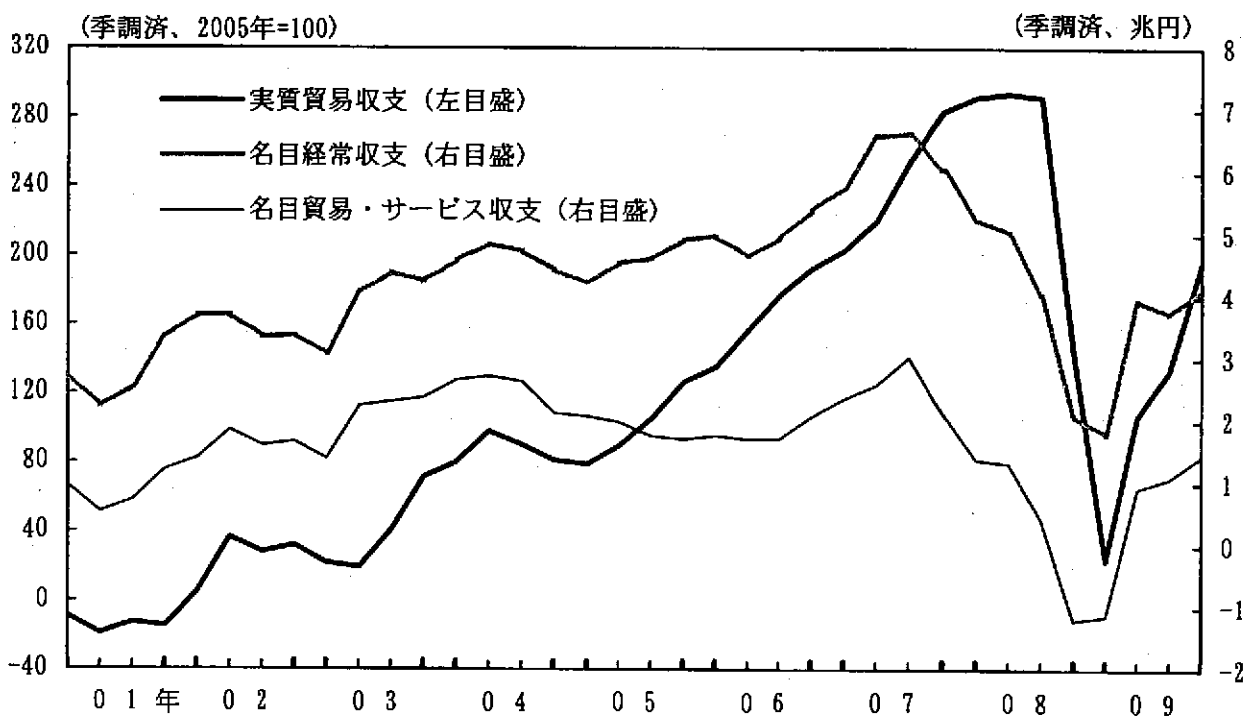
(資料) 財務省「貿易統計」、財務省・日本銀行「国際収支状況」、
 日本銀行「金融経済統計月報」「企業物価指数」

輸出入

(1) 実質輸出入



(2) 対外収支



(注) 1. 実質輸出入は、通関輸出入金額を輸出入物価指数で各々デフレートし、指数化したもの。実質貿易収支は、実質輸出入の差を指数化したもの。
2. 各計数は、X-12-ARIMAによる季節調整値。
3. 2009/4Qの実質輸出入、実質貿易収支は10月の値。
4. 2009/4Qの名目経常収支、名目貿易・サービス収支は10月の四半期換算値。
(資料) 財務省「貿易統計」、財務省・日本銀行「国際収支状況」、日本銀行「企業物価指数」

実質輸出の内訳

(1) 地域別

		(前年比、%)		(季調済前期比、%)				(季調済前月比、%)			
		暦年 2007年	2008	2008年 4Q	2009 1Q	2Q	3Q	4Q	2009年 8月	9	10
米国	<17.5>	-1.2	-8.8	-8.9	-35.7	11.7	10.2	5.1	8.0	1.8	1.4
EU	<14.1>	13.0	-0.1	-17.1	-27.0	4.7	1.2	10.9	1.3	2.5	8.7
東アジア	<46.8>	9.9	3.4	-15.5	-22.1	17.8	12.5	5.8	0.1	4.9	2.5
中国	<16.0>	16.8	6.7	-14.6	-17.1	19.3	9.0	3.4	-2.7	9.5	-1.7
NIEs	<22.1>	5.2	-0.0	-18.3	-22.4	18.9	12.9	6.2	2.1	2.8	3.6
韓国	<7.6>	5.3	-0.3	-21.4	-13.4	12.4	10.3	5.8	6.1	2.2	2.3
台湾	<5.9>	0.0	-4.3	-21.7	-19.7	21.6	12.1	10.6	2.5	3.7	7.1
香港	<5.2>	7.3	-2.4	-16.4	-23.8	21.5	9.1	12.9	-2.2	-0.6	14.2
シンガポール	<3.4>	12.5	13.3	-10.3	-31.0	12.9	24.1	-12.5	-1.0	6.4	-15.7
ASEAN4	<8.8>	11.4	6.4	-9.8	-30.7	12.0	19.5	9.8	0.5	1.3	8.6
タイ	<3.8>	9.8	5.0	-6.4	-36.0	11.7	27.6	10.4	6.7	0.8	7.5
その他	<21.5>	20.4	16.1	-7.8	-30.7	-6.1	9.2	9.2	-7.0	8.0	6.4
実質輸出計		9.1	1.8	-14.5	-28.9	12.2	11.1	7.5	1.3	5.5	3.3

- (注) 1. < >内は、2008年通関輸出額に占める各地域・国のウェイト。
 2. ASEAN4はタイ、マレーシア、フィリピン、インドネシア。
 3. 各計数は、X-12-ARIMAによる季節調整値。なお、2009/4Qは10月の7~9月対比。

(2) 財別

		(前年比、%)		(季調済前期比、%)				(季調済前月比、%)			
		暦年 2007年	2008	2008年 4Q	2009 1Q	2Q	3Q	4Q	2009年 8月	9	10
中間財	<18.9>	5.3	0.4	-7.8	-16.1	17.3	9.4	5.8	0.3	4.9	2.5
自動車関連	<23.8>	13.2	3.2	-14.5	-50.7	20.3	24.5	8.4	4.2	8.8	1.2
消費財	<4.1>	6.4	3.5	-12.1	-26.9	8.7	0.9	2.2	-6.8	-5.3	8.6
情報関連	<10.2>	12.2	0.8	-20.6	-26.0	35.0	6.2	3.9	1.8	2.4	1.7
資本財・部品	<28.3>	8.0	5.2	-9.8	-26.5	-0.9	7.3	9.8	1.5	2.0	7.9
実質輸出計		9.1	1.8	-14.5	-28.9	12.2	11.1	7.5	1.3	5.5	3.3

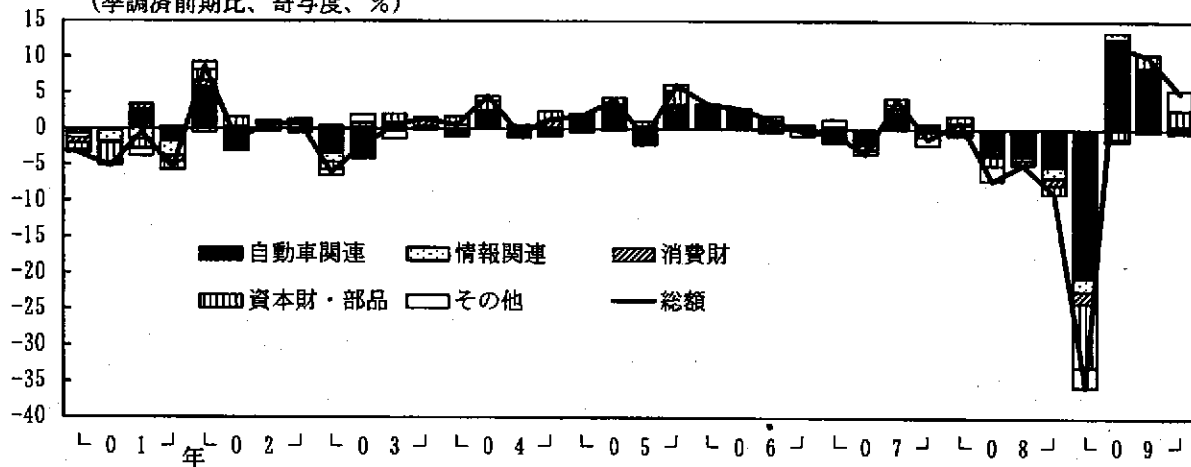
- (注) 1. < >内は、2008年通関輸出額に占める各財のウェイト。
 2. 「消費財」は、自動車を除く。
 3. 「情報関連」は、電算機類、通信機、IC等電子部品、科学光学機器。
 4. 「資本財・部品」は、情報関連、原動機、自動車部品を除く。
 5. 各計数は、X-12-ARIMAによる季節調整値。なお、2009/4Qは10月の7~9月対比。

(資料) 財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」

米国向け輸出

(1) 米国向け輸出の財別内訳

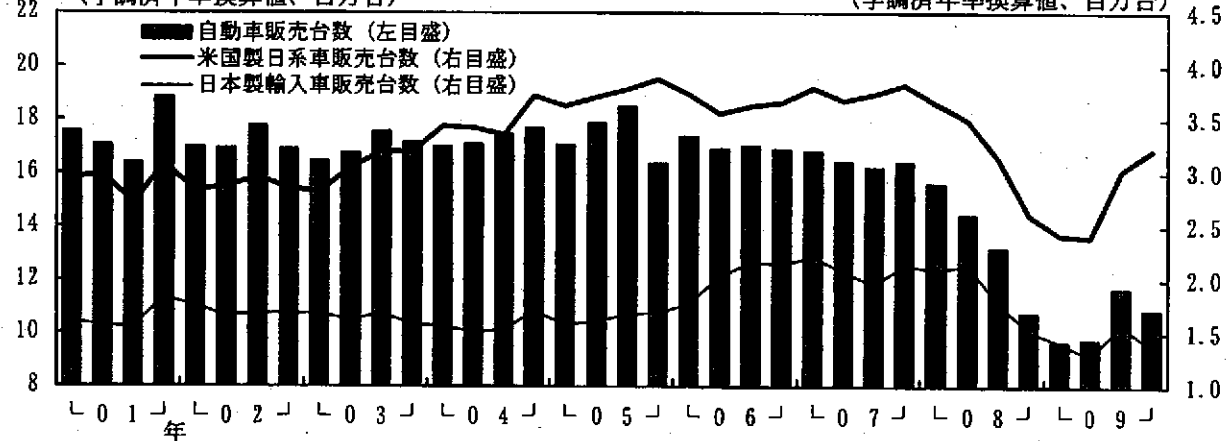
(季調済前期比、寄与度、%)



(2) 米国の自動車販売台数

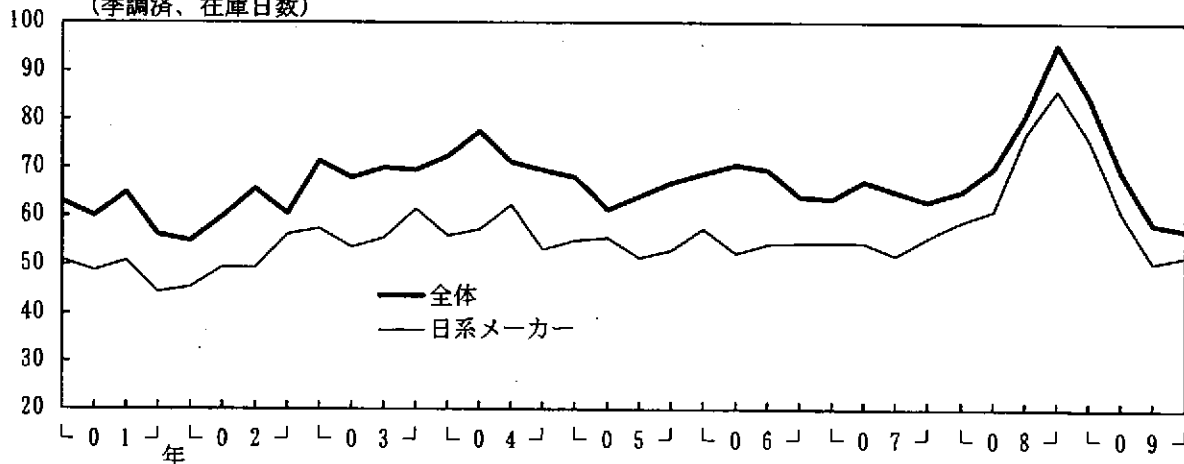
(季調済年率換算値、百万台)

(季調済年率換算値、百万台)



(3) 米国の自動車在庫

(季調済、在庫日数)

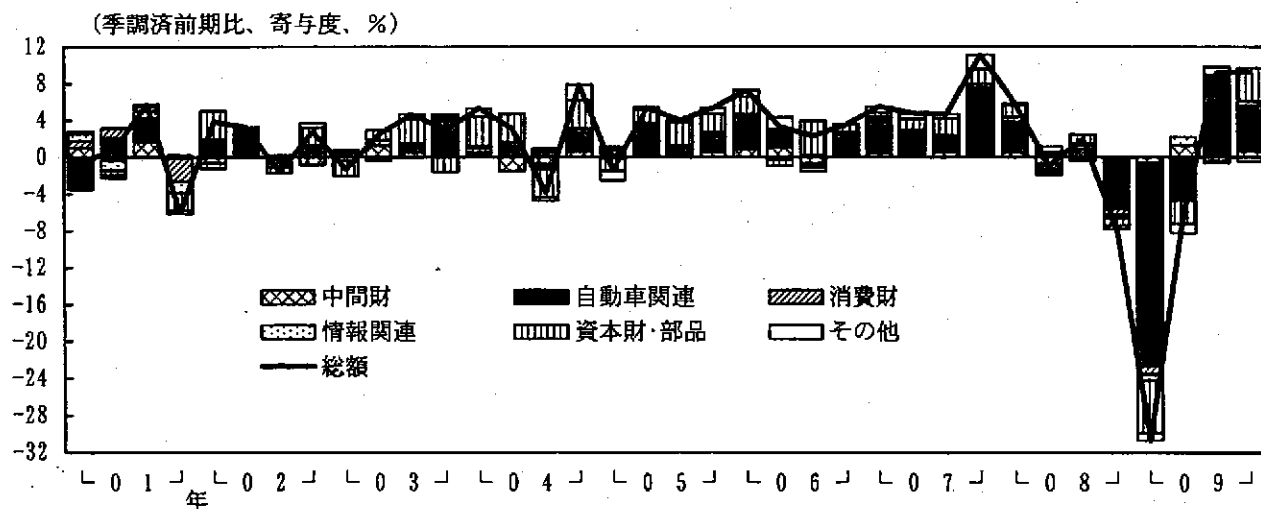


- (注) 1. (1) の各計数は、X-12-ARIMAによる季節調整値。実質値。なお、2009/4Qは10月の7~9月対比。
 2. (2) の米国製日系車販売台数、日本製輸入車販売台数は、X-12-ARIMAによる季節調整値。なお、2009/4Qは10月の値。自動車販売台数の2009/4Qは、10~11月の平均値。
 3. (3) の在庫日数は、X-12-ARIMAによる季節調整値。期末値。なお、2009/4Qは10月の値。在庫日数=当月末時点での在庫/当月の1日平均販売台数。

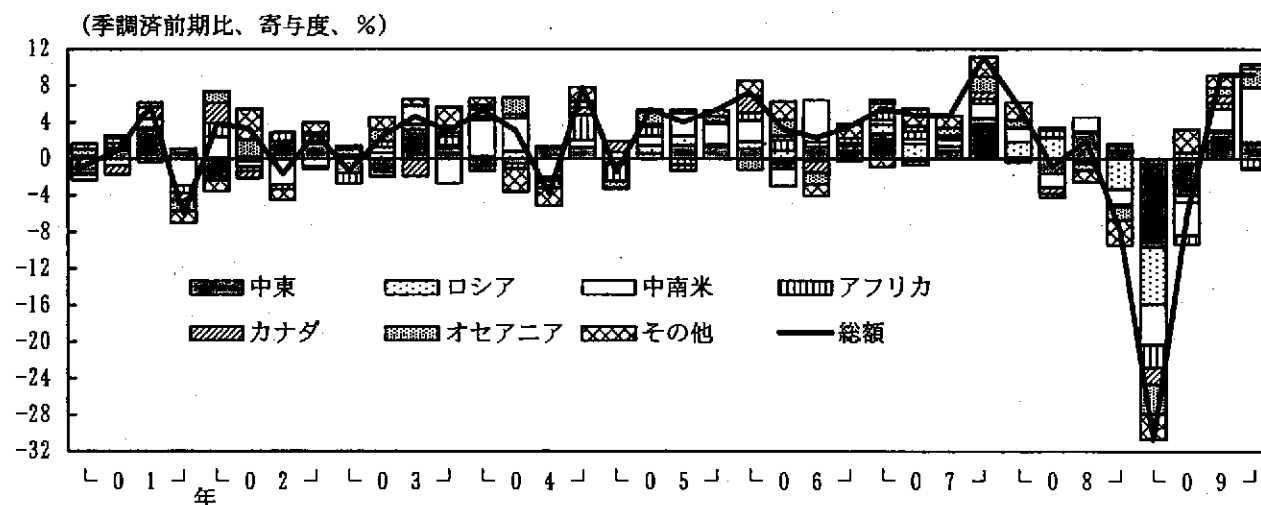
(資料) 財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」、U.S. Department of Commerce, "Sales, production, imports, exports, and inventories, in units", Reuters News Service, 日本自動車工業会「自動車統計月報」、Automotive News Inc., "Automotive News"

その他地域向け輸出

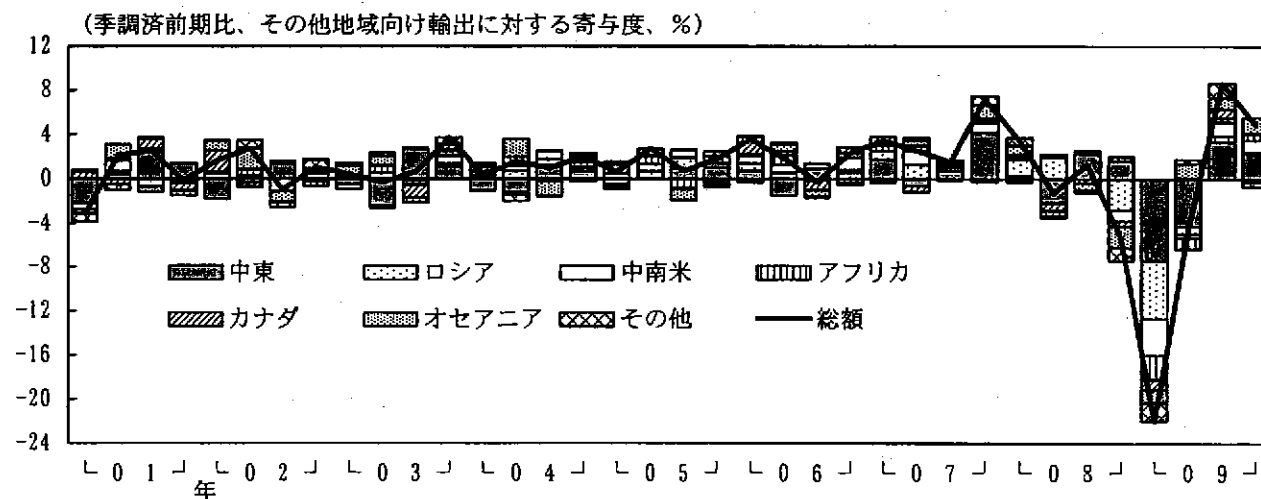
(1) その他地域向け輸出 (実質、財別)



(2) その他地域向け輸出 (実質、地域別)



(3) その他地域向け自動車関連輸出 (実質、地域別)



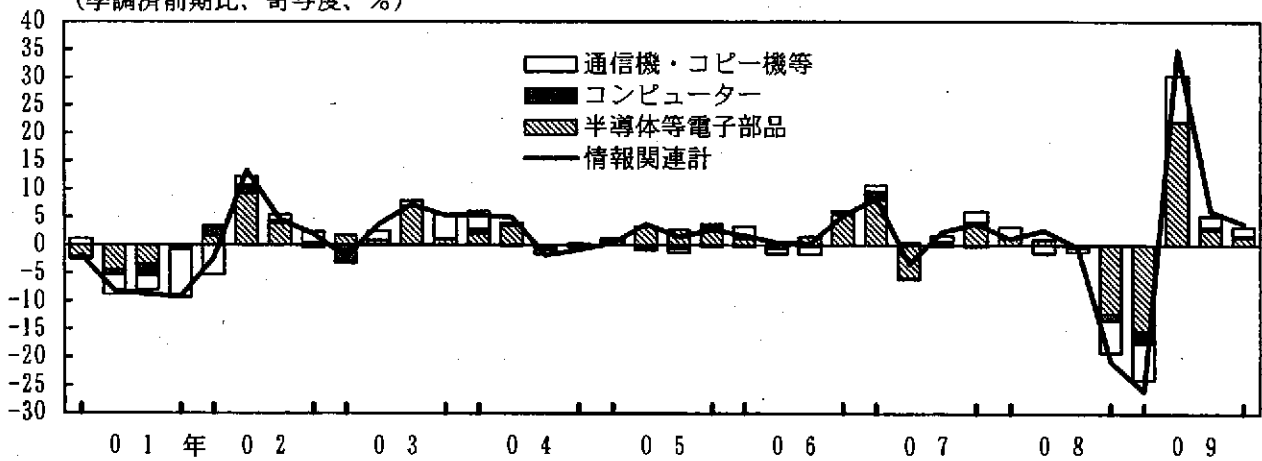
(注) 1. (1) の各計数は、X-12-ARIMAによる季節調整値。
 2. (2) および (3) の地域別季調済計数は、(1) その他地域全体の季節要素を用いて計算している。
 3. 2009/4Qは10月の7~9月対比。

(資料) 財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」

情報関連輸出

(1) 情報関連輸出 (実質、品目別)

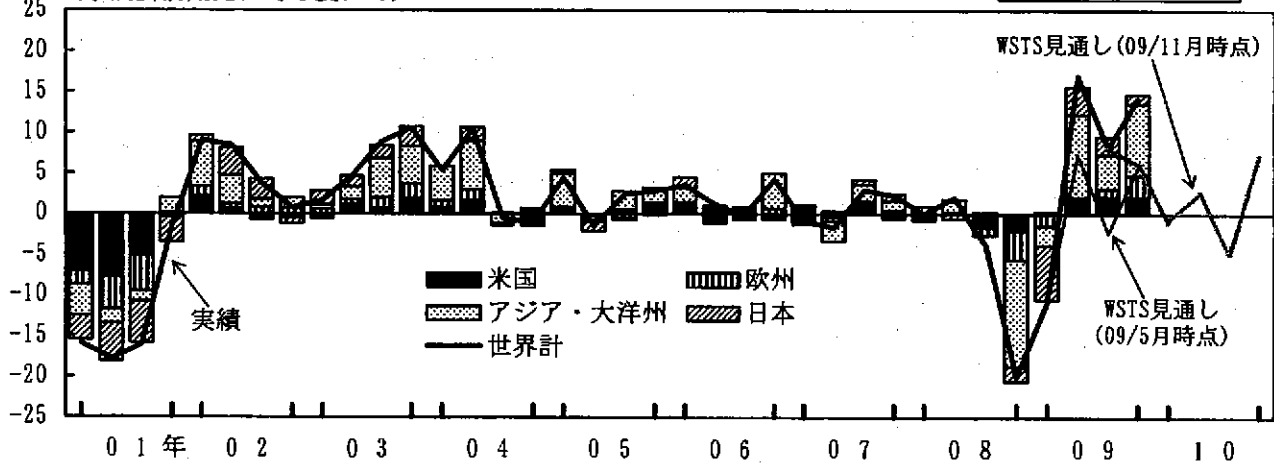
(季調済前期比、寄与度、%)



(2) 世界半導体出荷 (名目、地域別)

(季調済前期比、寄与度、%)

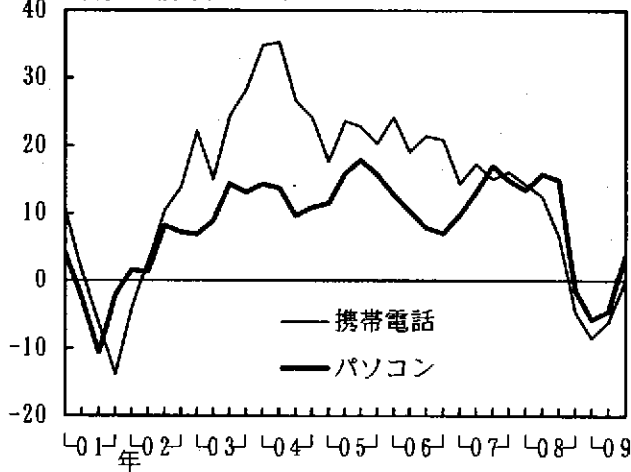
見通しは転載不可



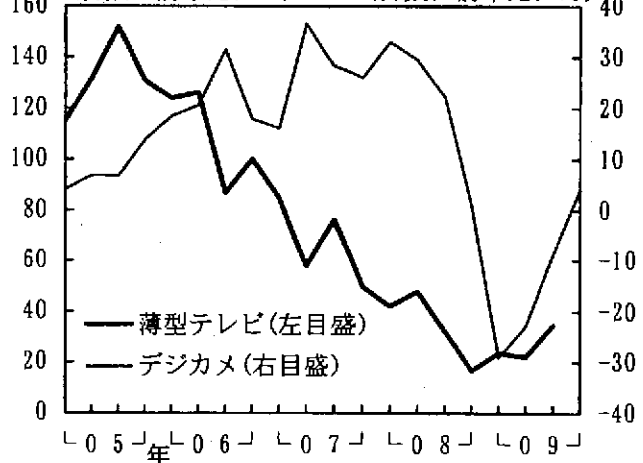
(3) 情報関連最終製品の世界需要

転載不可

(台数、前年比、%)



(台数、前年比、%) (台数、前年比、%)



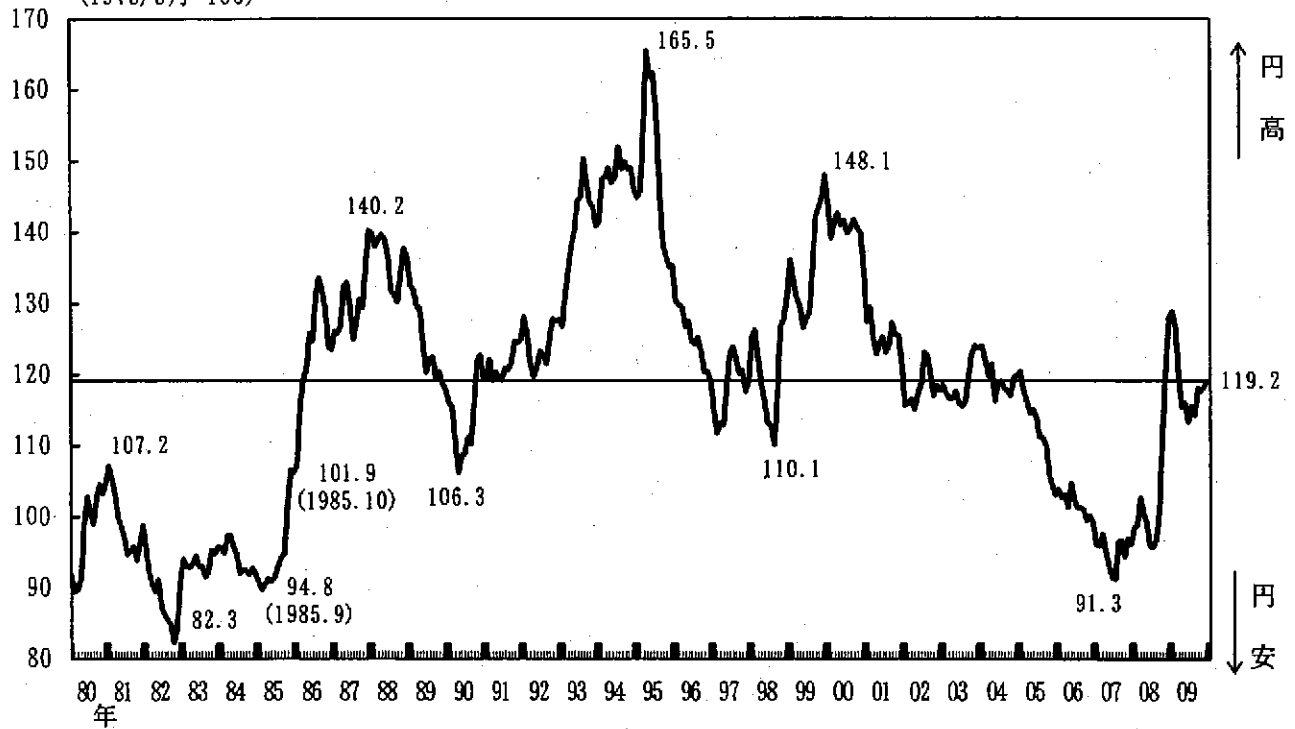
- (注) 1. (1) および (2) の計数はX-12-ARIMAによる季節調整値であり、内訳の積み上げと合計の差は同調整に伴う誤差。なお、2009/4Qは10月の7~9月対比。
 2. (3) のデジカメの2009/4Qは10月の前年同月比。

(資料) 財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」、WSTS「世界半導体市場予測」、
 ガ-ト-テ-カ-リスト、ガ-ト-ア-プ-リス-ス、ディスプレイ-チ、ディスプレイ-チ-ア-プ-リス-ス、
 カメラ映像機器工業会

実質実効為替レート

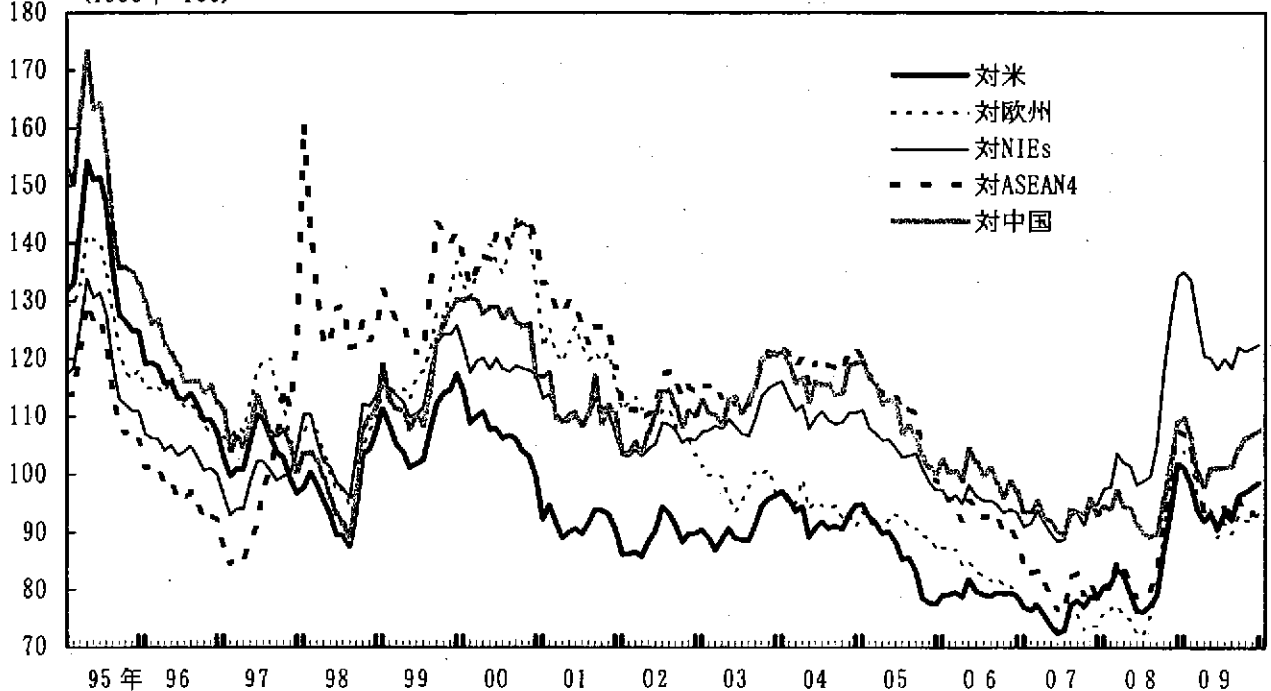
(1) 円の実質実効レート

(1973/3月=100)



(2) 相手地域別

(1990年=100)



(注) 1. 日本銀行調査統計局試算値。2009/12月は11日までの平均値。

2. 主要輸出相手国通貨(15通貨、30カ国・地域)に対する為替相場(月中平均)を、当該国・地域の物価指数で実質化したうえ、通関輸出金額ウェイトで加重平均したもの。また、算出の際に使用した各国の物価指数のうち実績値のない部分については、直近実績値横這いとした。

実質輸入の内訳

(1) 地域別

		(前年比、%)		(季調済前期比、%)					(季調済前月比、%)		
		暦年 2007年	2008	2008年 4Q	2009 1Q	2Q	3Q	4Q	2009年 8月	9	10
米国	<10.2>	-1.5	-2.5	-2.7	-14.4	-7.8	3.9	7.9	1.9	9.6	1.0
EU	<9.2>	4.0	-3.0	-2.3	-10.5	-2.7	5.1	-1.3	9.1	4.6	-6.8
東アジア	<37.9>	3.1	2.3	-0.2	-17.6	0.7	7.8	0.4	1.9	5.0	-3.4
中国	<18.8>	5.7	4.4	-1.2	-15.0	-0.7	6.9	-0.3	0.5	4.7	-3.5
NIEs	<8.0>	-3.8	-1.1	-6.3	-20.5	9.7	9.3	2.3	5.2	8.6	-4.7
韓国	<3.9>	-3.3	-5.3	-6.5	-20.5	5.8	12.0	2.6	7.9	4.8	-2.9
台湾	<2.9>	-3.0	3.5	-6.4	-22.0	14.0	9.5	3.0	2.3	13.1	-5.6
香港	<0.2>	-7.7	-1.7	-0.1	-25.6	15.1	-15.7	-23.1	-2.9	47.5	-39.1
シンガポール	<1.0>	-6.5	1.4	0.3	-18.6	13.2	-0.8	8.6	5.0	-0.8	7.4
ASEAN4	<11.1>	4.5	1.2	7.5	-20.6	-3.3	8.5	0.3	2.1	2.4	-1.9
タイ	<2.7>	4.4	2.4	-1.9	-21.8	-0.3	10.5	2.8	4.9	4.0	-1.4
その他	<42.7>	0.2	2.0	3.2	-18.8	-3.8	9.7	-2.7	1.1	7.8	-7.7
実質輸入計		0.7	0.3	0.7	-17.9	-1.6	8.5	-1.0	1.0	8.6	-6.5

- (注) 1. < >内は、2008年通関輸入額に占める各地域・国のウェイト。
 2. ASEAN4はタイ、マレーシア、フィリピン、インドネシア。
 3. 各計数は、X-12-ARIMAによる季節調整値。なお、2009/4Qは10月の7~9月対比。

(2) 財別

		(前年比、%)		(季調済前期比、%)					(季調済前月比、%)		
		暦年 2007年	2008	2008年 4Q	2009 1Q	2Q	3Q	4Q	2009年 8月	9	10
素原料	<42.0>	0.7	1.0	4.4	-20.3	-5.2	12.5	-5.2	2.5	7.7	-10.4
中間財	<14.1>	2.0	1.7	4.3	-19.3	-7.9	13.0	1.9	7.8	2.8	-2.3
食料品	<7.9>	-9.5	-3.7	11.2	-2.9	-5.0	0.5	-1.9	-3.8	2.3	-2.1
消費財	<6.9>	-0.1	-2.4	-2.5	-16.3	3.3	7.5	-2.0	0.6	10.6	-8.4
情報関連	<9.5>	4.2	4.3	-7.9	-16.9	12.2	4.0	2.9	1.5	-1.5	3.4
資本財・部品	<11.2>	8.5	2.9	-9.1	-18.7	-6.3	6.2	9.5	-0.6	28.0	-6.3
うち除く航空機	<10.5>	7.9	3.7	-4.4	-23.7	-1.3	5.6	1.7	3.9	10.1	-5.7
実質輸入計		0.7	0.3	0.7	-17.9	-1.6	8.5	-1.0	1.0	8.6	-6.5

- (注) 1. < >内は、2008年通関輸入額に占める各財のウェイト。
 2. 「素原料」は、原料品、鉱物性燃料。
 3. 「消費財」は、食料品を除く。
 4. 「情報関連」は、電算機類・部分品、通信機、IC等電子部品、科学光学機器。
 5. 「資本財・部品」は、情報関連を除く。
 6. 各計数は、X-12-ARIMAによる季節調整値。なお、2009/4Qは10月の7~9月対比。

(資料) 財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」

企業収益関連指標

〈全国短観（12月）・大企業〉

— 売上高経常利益率、()内は経常利益前年同期比、修正幅(経常利益は修正率)は9月調査比：％・％ポイント

	2008年度	2009年度	修正幅	2008/上期	2008/下期	2009/上期	2009/下期
	実績	計画		実績	実績	実績	計画
製造業	2.70 (-61.9)	2.06 (-34.7)	0.14 (6.9)	5.58 (-18.3)	-0.84 (欠損)	1.02 (-86.7)	2.98 (利益)
非製造業	3.03 (-27.6)	3.07 (-10.5)	0.14 (2.2)	3.68 (-14.6)	2.33 (-42.5)	3.47 (-24.4)	2.72 (13.2)

〈全国短観（12月）・中小企業〉

— 売上高経常利益率、()内は経常利益前年同期比、修正幅(経常利益は修正率)は9月調査比：％・％ポイント

	2008年度	2009年度	修正幅	2008/上期	2008/下期	2009/上期	2009/下期
	実績	計画		実績	実績	実績	計画
製造業	1.72 (-50.9)	1.31 (-35.1)	0.22 (20.6)	2.92 (- 9.7)	0.39 (-89.8)	0.67 (-82.2)	1.90 (4.6倍)
非製造業	1.83 (-26.9)	1.85 (- 7.2)	0.06 (3.5)	1.69 (-22.4)	1.97 (-30.5)	1.45 (-25.1)	2.23 (8.4)

(資料) 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」

〈法人季報・売上高経常利益率〉

— 季調済、％

		2008年		2009年		
		7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月
全産業	全規模	2.90	1.76	1.54	1.78	2.28
製造業	大企業	4.48	-0.91	-1.68	-0.29	1.75
	中堅中小企業	2.94	1.28	-1.87	0.29	1.87
非製造業	大企業	3.49	2.97	4.02	4.00	3.64
	中堅中小企業	2.24	1.99	1.67	2.04	2.48

(注) 1. 大企業は資本金10億円以上、中堅中小企業は資本金1000万円以上10億円未満。金融業、保険業は除く。
2. 製造業、非製造業の計数は、X-11による季節調整値。

(資料) 財務省「法人企業統計季報」

〈民間調査機関の経常利益（連結ベース）見通し（2009年12月時点）〉

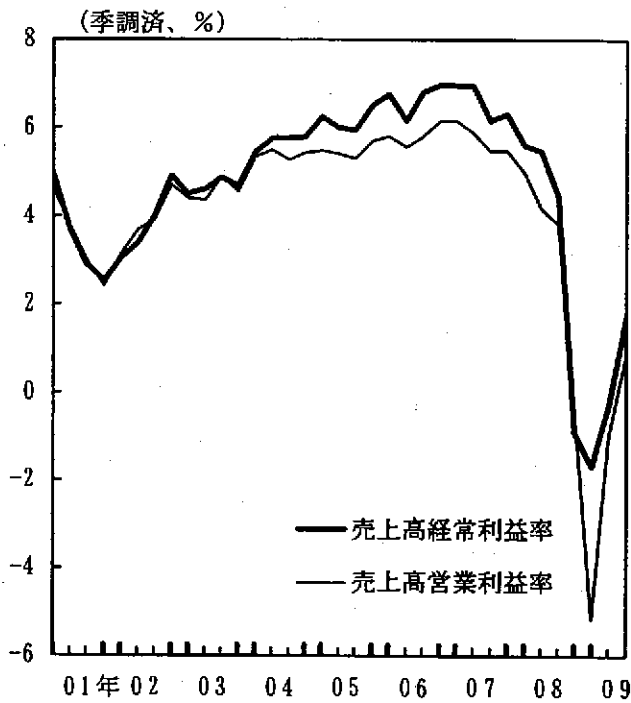
— 前年比、％、()内は前回<2009年9月時点>

	2007年度実績	2008年度実績	2009年度予想	2010年度予想
全産業	4.6	-61.8	- 1.6 (- 9.5)	62.4 (73.2)
	6.2	-64.2	4.4 (- 3.0)	53.8 (61.0)
製造業	7.0	-79.9	17.5 (-14.5)	117.8 (180.6)
	7.6	-80.9	28.0 (- 0.8)	99.2 (137.6)
非製造業	- 0.1	-22.9	-12.7 (- 6.6)	19.1 (16.1)
	3.1	-27.8	- 9.2 (- 4.2)	17.0 (15.5)

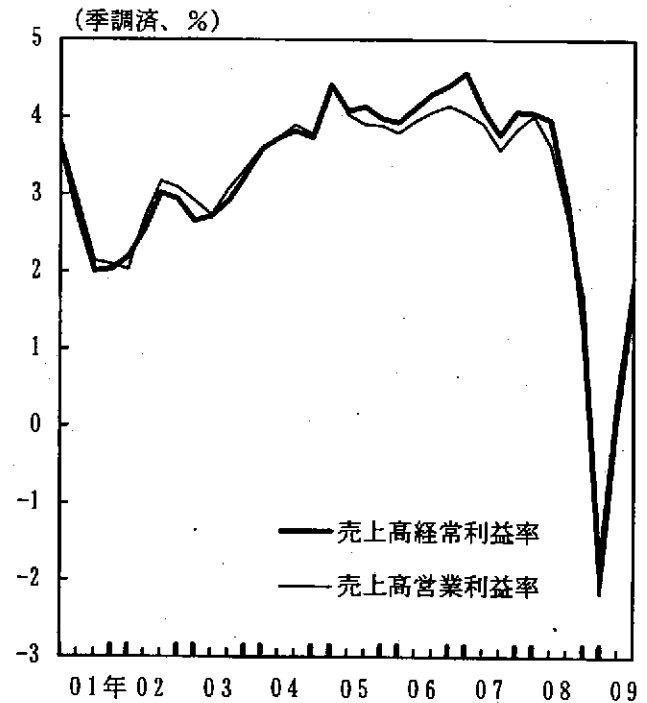
(注) 上段は野村証券、下段は大和証券 SMBC の各調べ。野村証券は全上場・公開企業(除く金融)の352社、大和証券 SMBC は東証1部上場企業(除く金融)の300社を対象。

業種別・規模別の企業収益

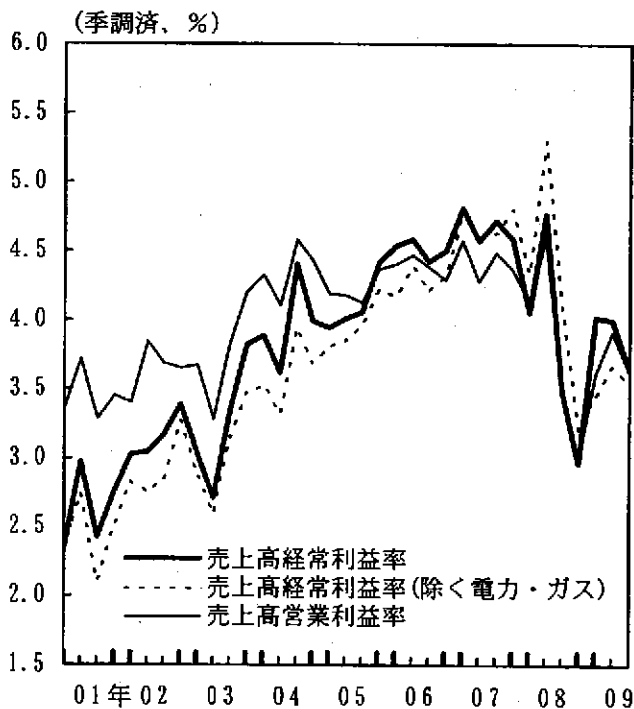
(1) 製造業大企業



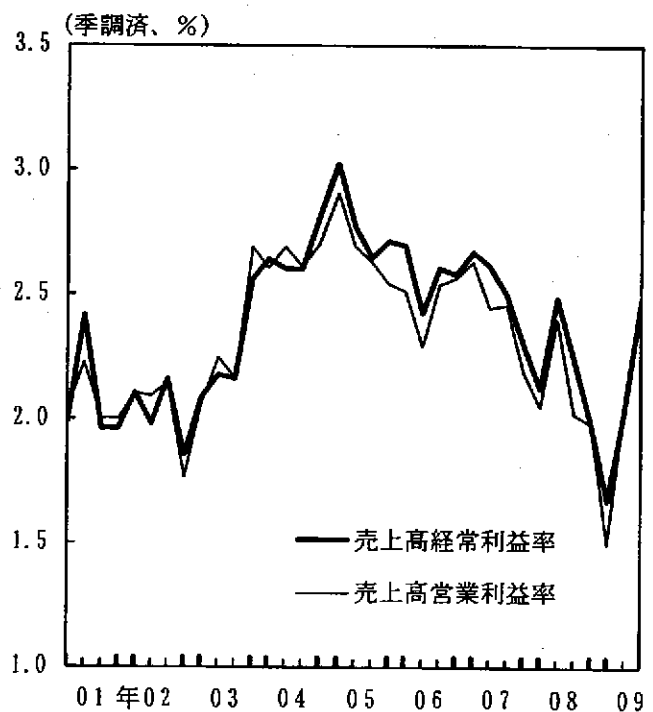
(2) 製造業中堅中小企業



(3) 非製造業大企業



(4) 非製造業中堅中小企業

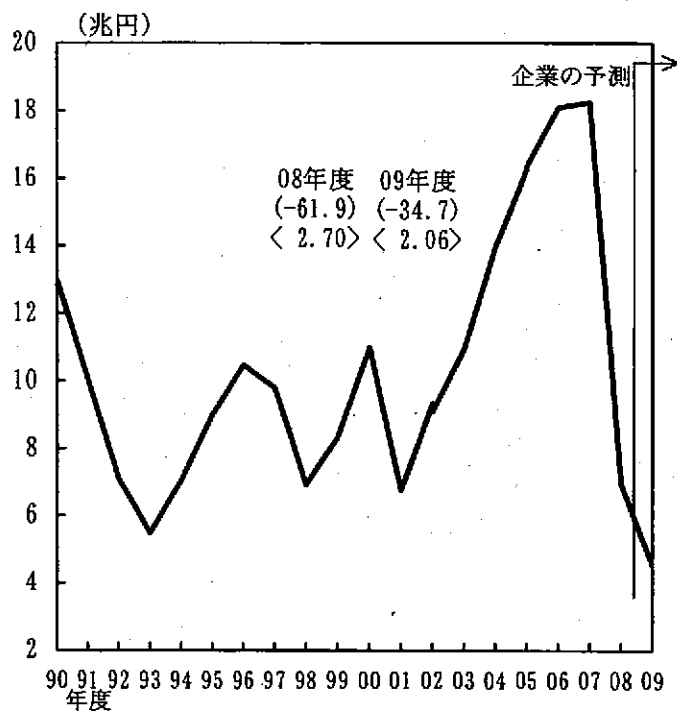


(注) 1. 大企業は資本金10億円以上、中堅中小企業は資本金1,000万円以上10億円未満。
2. 金融業、保険業を除く。
3. 計数は、X-11による季節調整値。

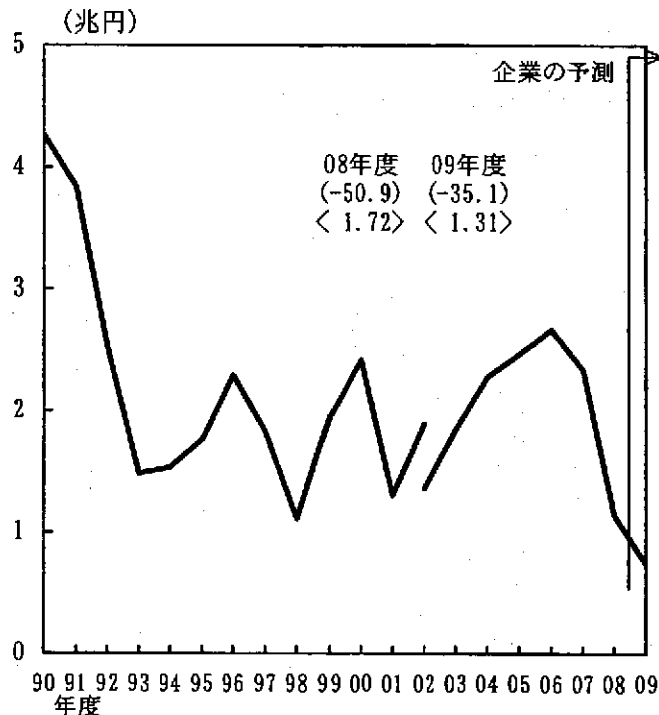
(資料) 財務省「法人企業統計季報」

経常利益 (12月短観)

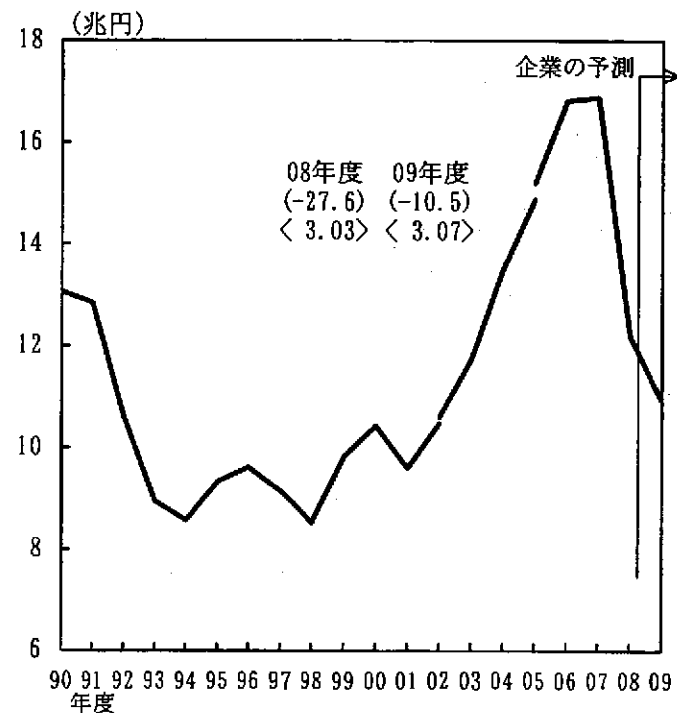
(1) 製造業大企業



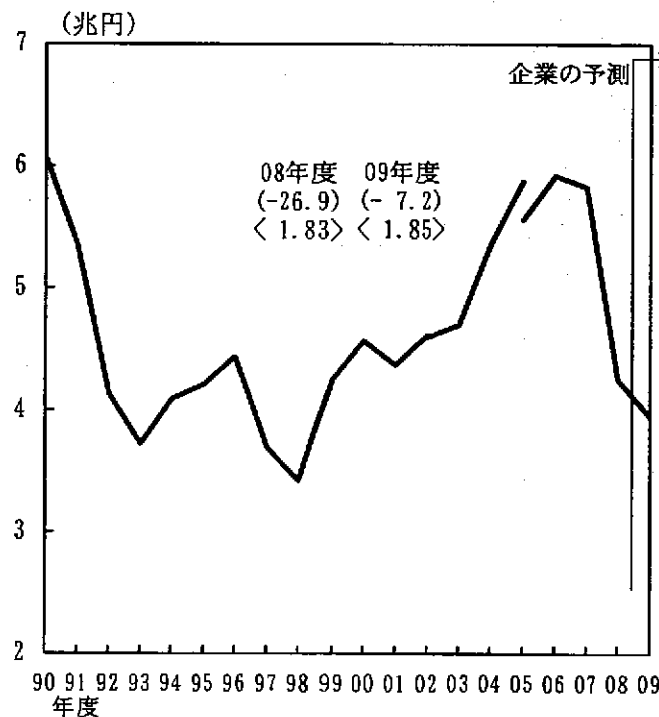
(2) 製造業中小企業



(3) 非製造業大企業



(4) 非製造業中小企業



(注) 1. ()内は経常利益前年度比(%)、< >内は売上高経常利益率(%)。
 2. 2004/3月調査より、調査対象企業の拡充を含む幅広い見直しを実施した。また、2007/3月調査では、定例の調査対象企業の見直しを行った。このため、これらのタイミングで計数には不連続(段差)が生じている。

(資料) 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」

設備投資関連指標

〈先行指標等〉

— 〈 〉内は季調済前期(月)比、()内は前年比：%

	08年度	09/4~6月	7~9	10~12	09/8月	9	10
機械受注	(-14.1)	<- 4.9>	<- 0.9>	< 2.1>	< 0.5>	< 10.5>	<- 4.5>
[民需、除く船舶・電力]		(-33.4)	(-27.3)	(-21.0)	(-26.5)	(-22.0)	(-21.0)
製造業	(-22.4)	< 10.8>	<- 8.7>	< 27.3>	< 4.9>	<- 0.1>	< 25.4>
非製造業(除く船舶・電力)	(- 6.8)	<-12.1>	< 4.9>	<- 8.2>	<- 0.6>	< 18.0>	<-17.3>
建築着工床面積	(- 7.6)	<-34.9>	<- 1.1>	<- 2.0>	<-17.8>	< 0.8>	< 4.5>
[民間非居住用]		(-41.2)	(-42.8)	(-36.9)	(-46.4)	(-41.3)	(-36.9)
うち鉱工業	(4.0)	<-41.0>	<-12.2>	<- 3.1>	<-46.2>	< 12.1>	< 14.7>
うち非製造業	(-11.6)	<-34.5>	< 1.2>	< 4.7>	<- 6.1>	<- 3.7>	< 9.8>
資本財総供給	<-15.1>	<-13.2>	< 7.5>	< 7.4>	<- 3.8>	< 11.8>	< 1.1>
資本財総供給(除く輸送機械)	<-15.8>	<-18.5>	< 5.0>	< 3.5>	< 4.9>	< 8.3>	<- 3.3>

- (注) 1. 機械受注の2009/10~12月の見通し(季調済前期比)は、民需(除く船舶・電力)+1.0%、製造業+0.4%、非製造業(除く船舶・電力)+1.3%となっている。
 2. 建築着工床面積は、X-12-ARIMAによる季節調整値。
 3. 資本財総供給は、国内向けの国産品と輸入品を合わせたもの。また、年度の値は季調済前年比。
 4. 2009/10~12月の前期比は10月の2009/7~9月対比、前年比は10月の前年同月比。

〈法人企業統計・設備投資〉

— 〈 〉内は季調済前期比：%

	08/7~9月	10~12	09/1~3	4~6	7~9
全産業	<- 4.5>	<- 7.6>	<- 7.1>	<- 4.7>	<- 8.8>
うち製造業	<- 3.5>	<- 9.7>	<-10.1>	<-14.2>	<-15.9>
うち非製造業	<- 5.2>	<- 6.1>	<- 4.9>	< 1.6>	<- 4.8>

(注) 計数は全規模合計。金融業、保険業を除く。ソフトウェア投資額は含まない。

〈設備投資アンケート調査〉

— 前年比：%、()内は2009年9月調査時点

		2008年度実績	2009年度計画	修正率
全国短観(12月調査)	全産業	- 6.4	-18.8 (-17.3)	- 1.8 (- 0.3)
	製造業	- 7.4	-30.6 (-28.8)	- 2.4 (- 1.2)
	非製造業	- 5.8	-12.4 (-11.0)	- 1.6 (0.2)
うち大企業・全産業	全産業	- 6.6	-13.8 (-10.8)	- 3.4 (- 1.5)
	製造業	- 7.2	-28.2 (-25.6)	- 3.4 (- 1.7)
	非製造業	- 6.2	- 5.5 (- 2.2)	- 3.4 (- 1.4)
うち中小企業・全産業	全産業	- 9.8	-30.7 (-33.3)	4.0 (5.1)
	製造業	- 7.7	-39.1 (-39.7)	1.0 (3.0)
	非製造業	-10.8	-26.4 (-30.1)	5.3 (6.1)

(注) 土地投資額を含み、ソフトウェア投資額は含まない。

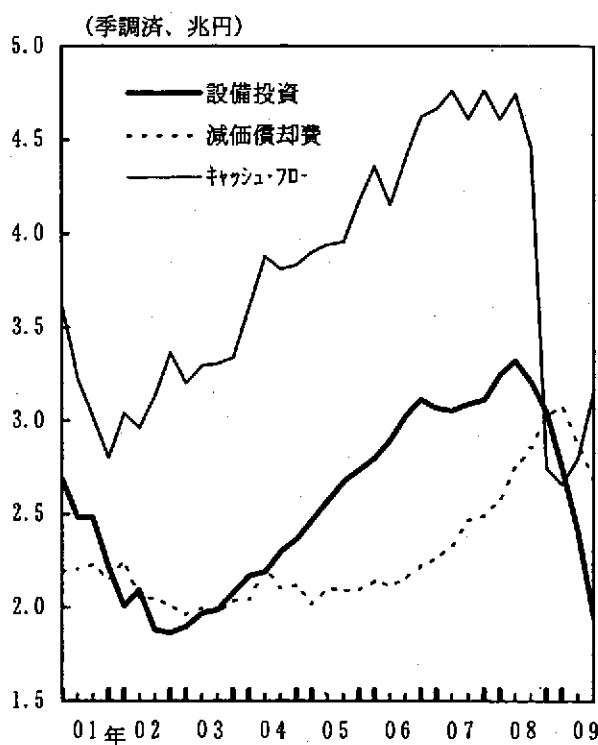
— 前年比：%、()内は2008年6月調査時点

	2007年度実績	2008年度実績	2009年度計画	2010年度計画
日本政策投資銀行(2009年6月調査)	7.7	- 7.1 (4.1)	- 9.2 (- 0.9)	- 3.7
うち製造業	6.6	- 9.7 (6.8)	-20.7 (- 8.6)	-12.2
うち非製造業	8.5	- 5.6 (2.4)	- 0.1 (1.4)	- 1.5

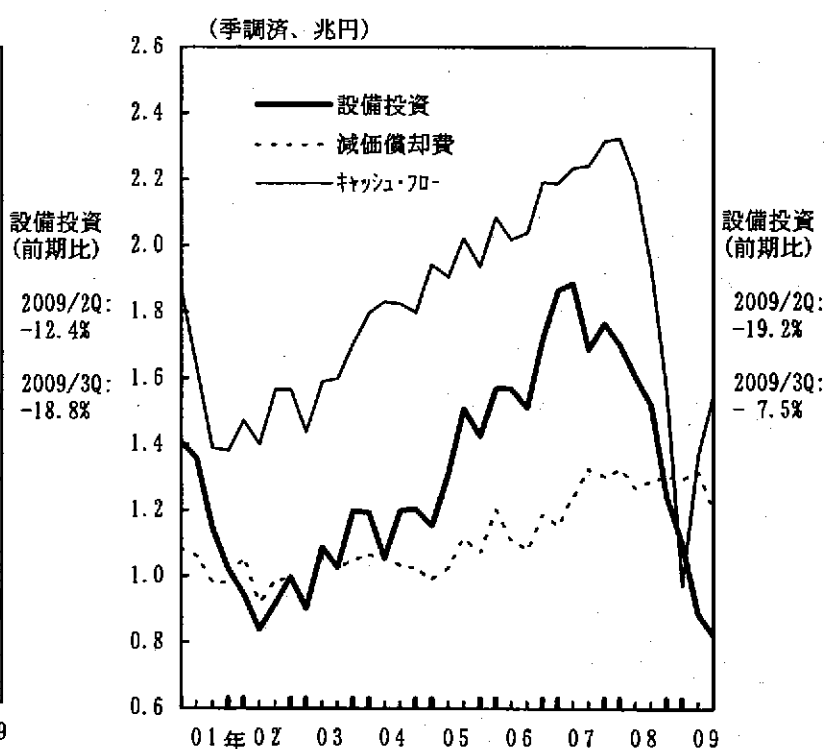
(資料) 経済産業省「鉱工業総供給表」、内閣府「機械受注統計」、国土交通省「建築着工統計」、財務省「法人企業統計季報」、日本政策投資銀行「設備投資計画調査」、日本銀行「全国企業短期経済観測調査」

業種別・規模別の設備投資

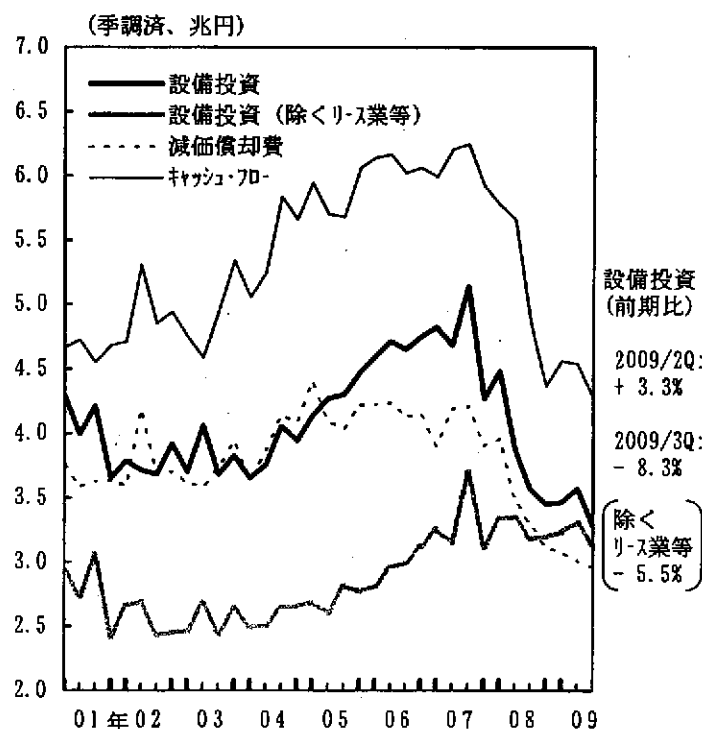
(1) 製造業大企業



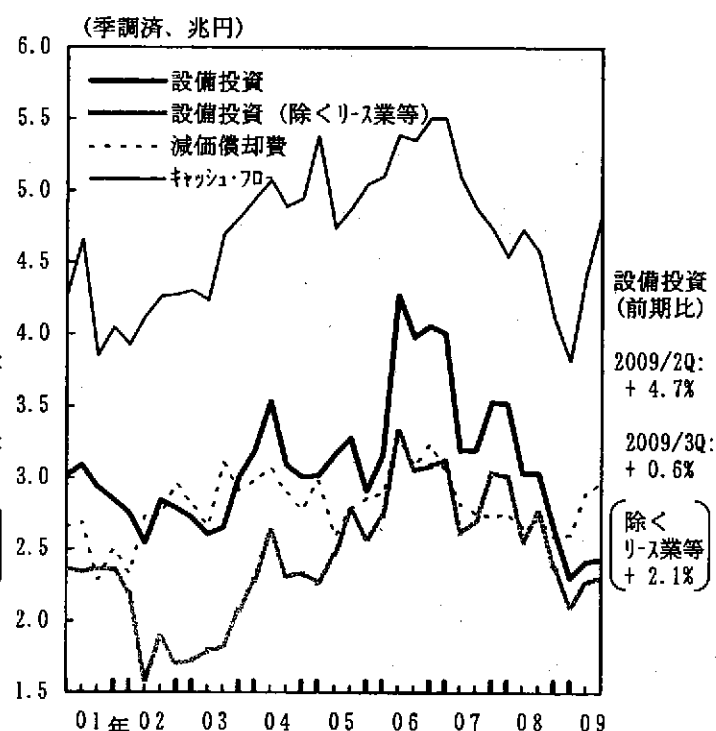
(2) 製造業中堅中小企業



(3) 非製造業大企業



(4) 非製造業中堅中小企業

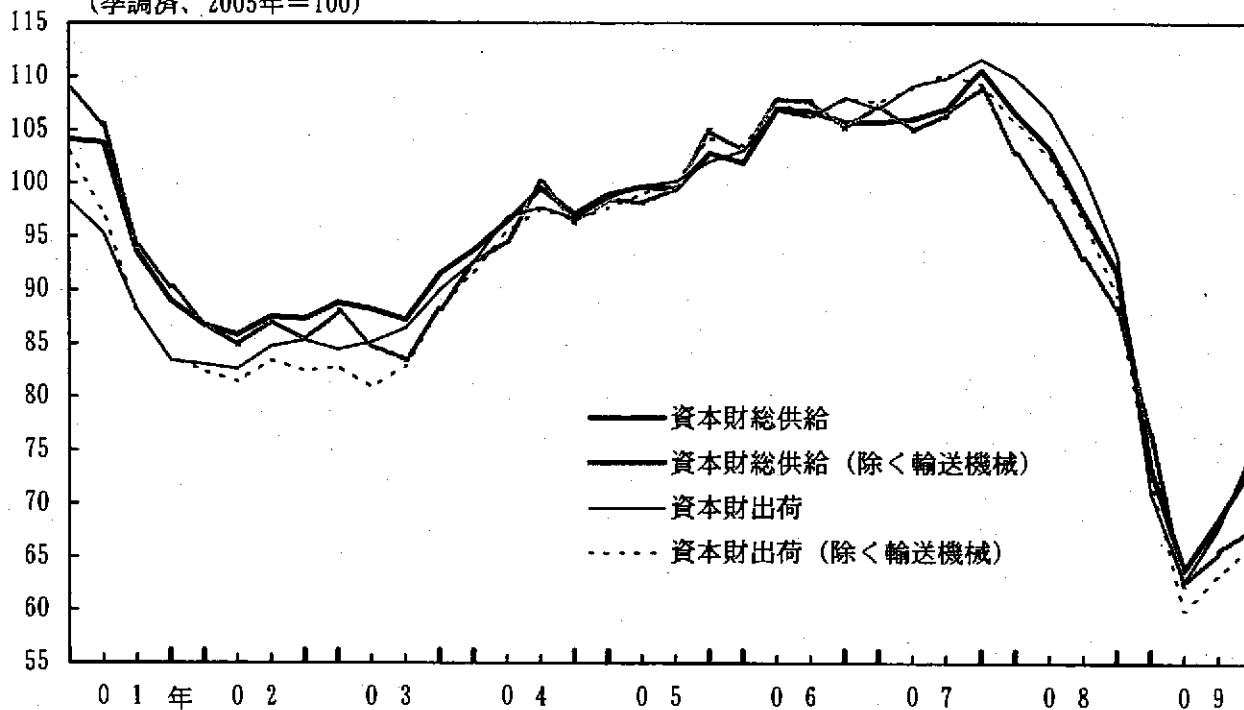


- (注) 1. 大企業は資本金10億円以上、中堅中小企業は資本金1,000万円以上10億円未満。
 2. キャッシュ・フローは、(減価償却費+経常利益×1/2)として算出。
 3. 計数は、X-11による季節調整値。
 4. 計数は全て金融業、保険業を除く。設備投資(除くリース業等)は、2004/2Q以降はリース業、その他の物品賃貸業を除く。2004/1Q以前は、事業所サービス業を除く。

設備投資一致指標

(1) 資本財の総供給・出荷

(季調済、2005年=100)

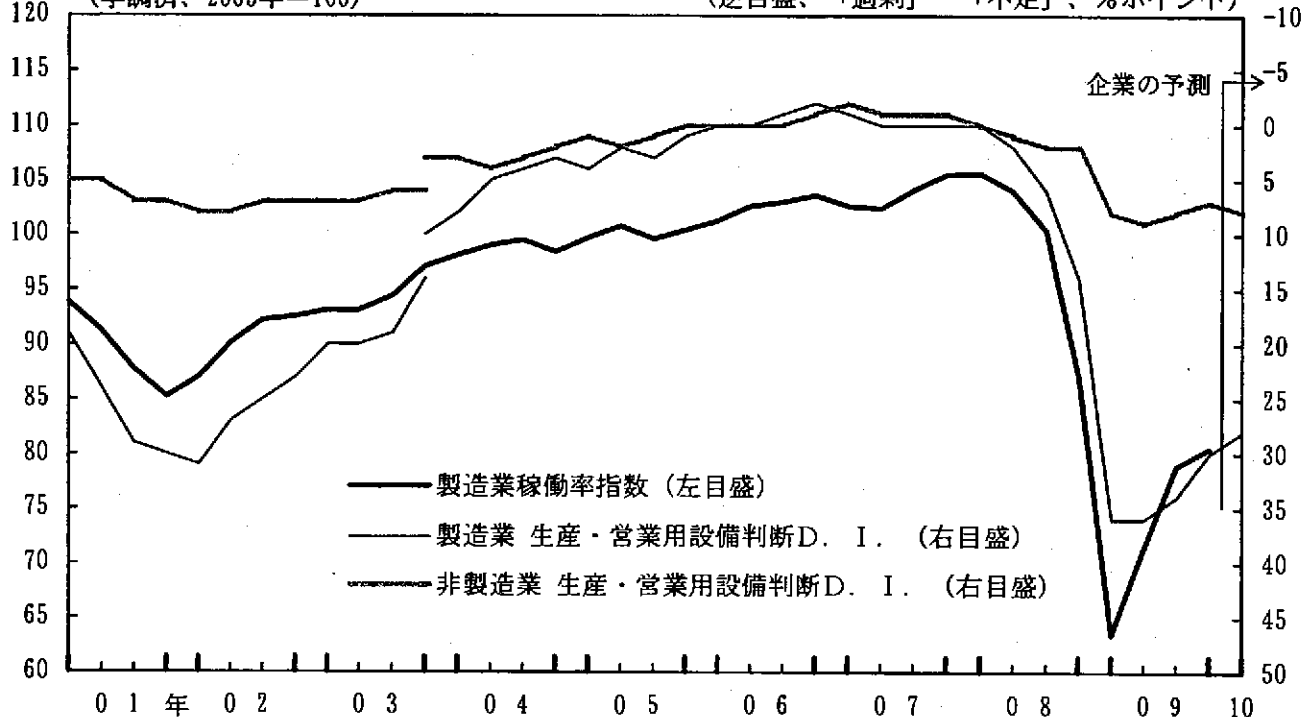


- (注) 1. 資本財総供給は、国内向けの国産品と輸入品を合わせたもの。
 2. 資本財出荷は、国内向けの国産品と輸出品を合わせたもの。
 3. 2009/4Qは、10月の計数。

(2) 稼働率と設備判断D. I.

(季調済、2005年=100)

(逆目盛、「過剰」-「不足」、%ポイント)

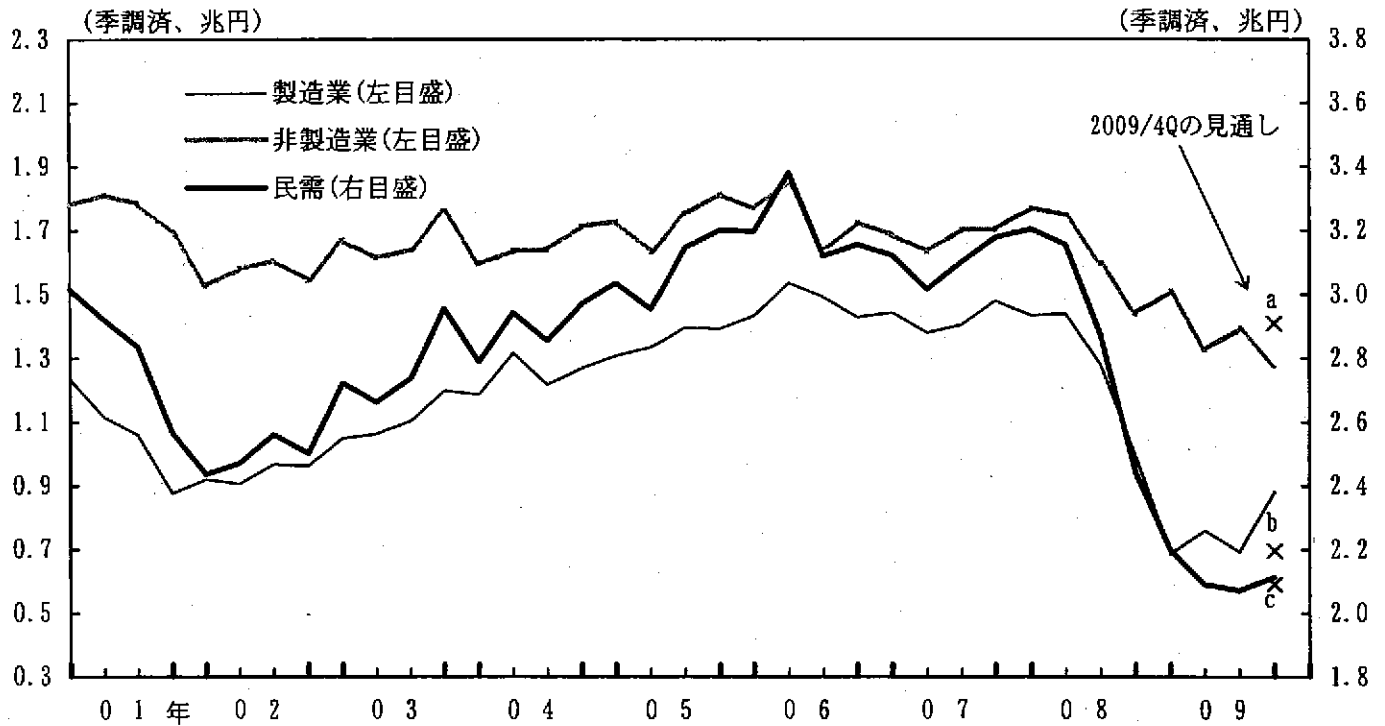


- (注) 1. 生産・営業用設備判断D. I. は全規模合計。
 2. 生産・営業用設備判断D. I. は、2004/3月調査より見直しを実施。
 旧ベースは2003/12月調査まで、新ベースは2003/12月調査から。
 3. 製造業稼働率指数の2009/4Qは10月の計数。

(資料) 経済産業省「鉱工業指数統計」「鉱工業総供給表」、
 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」

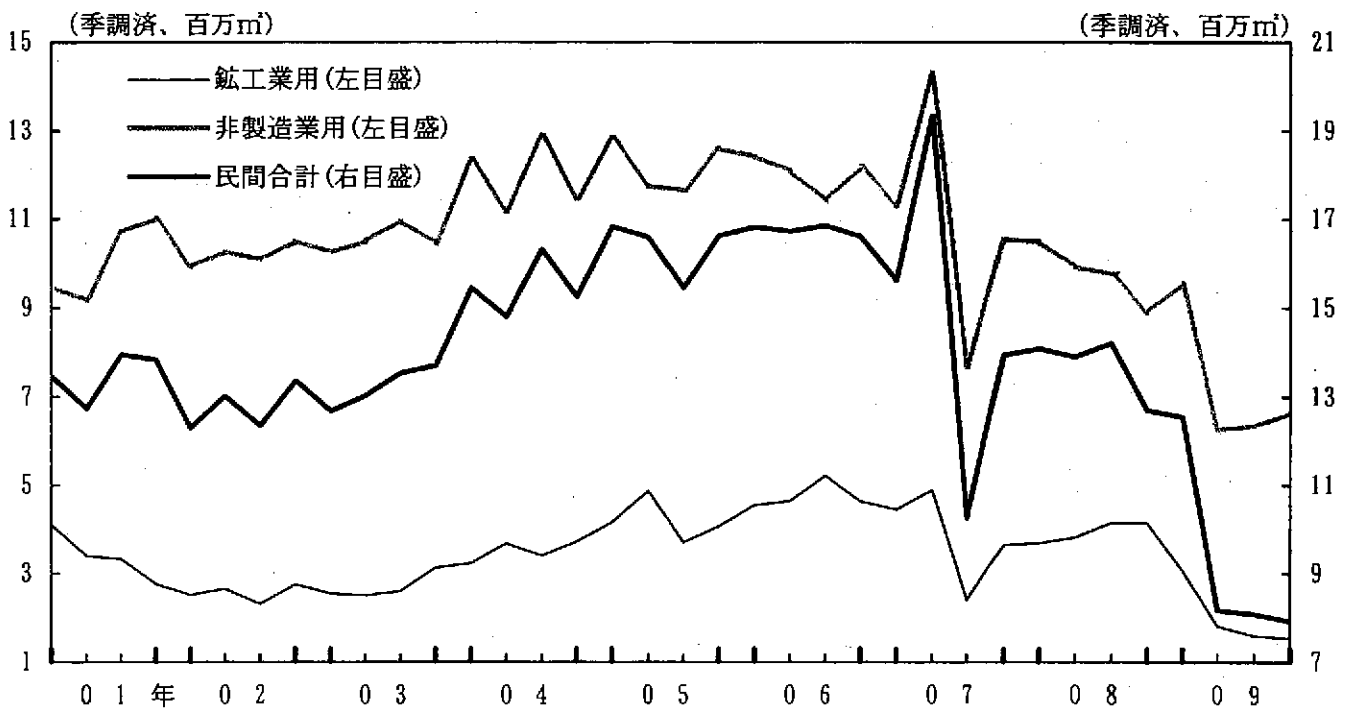
設備投資先行指標

(1) 機械受注



- (注) 1. 民需と非製造業は、それぞれ船舶・電力を除く。
2. 2009/4Qの見通しは、aは非製造業、bは製造業、cは民需の見通し。
3. 2009/4Qは、10月の計数を四半期換算。

(2) 建築着工床面積 (民間非居住用)

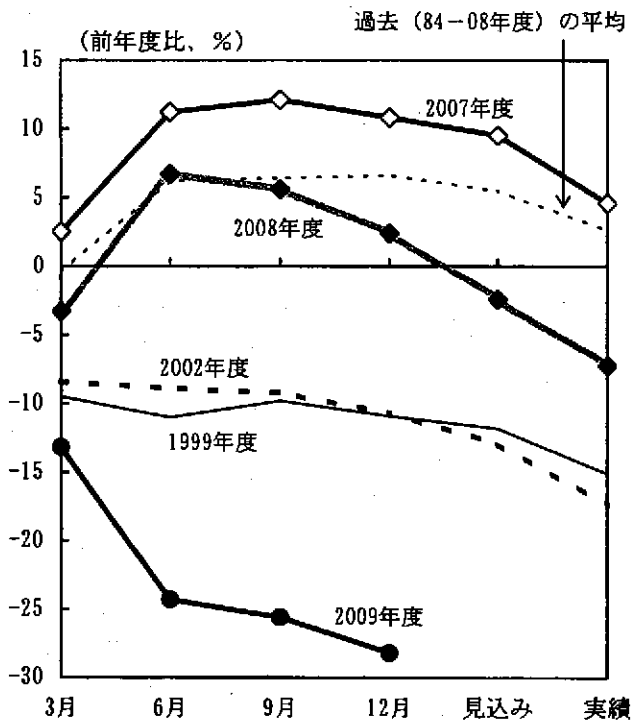


- (注) 1. X-12-ARIMAによる季節調整値。
2. 新産業分類に対応し、2003年度以降、新聞・出版業が鉱工業から非製造業に分類変更となった。そのため、リンク係数を算出のうえ、2002年度以前を水準調整している。
3. 2009/4Qは、10月の計数を四半期換算。

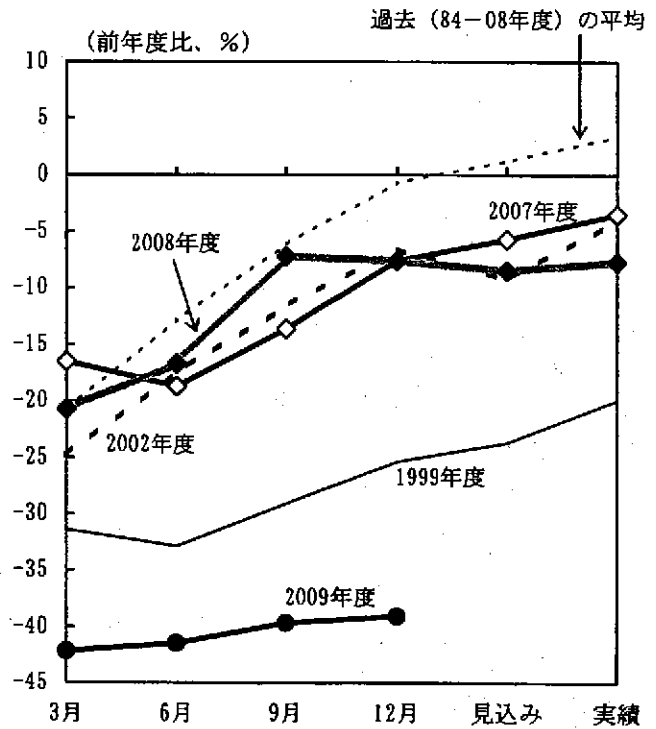
(資料) 内閣府「機械受注統計」、国土交通省「建築着工統計」

設備投資計画 (12月短観)

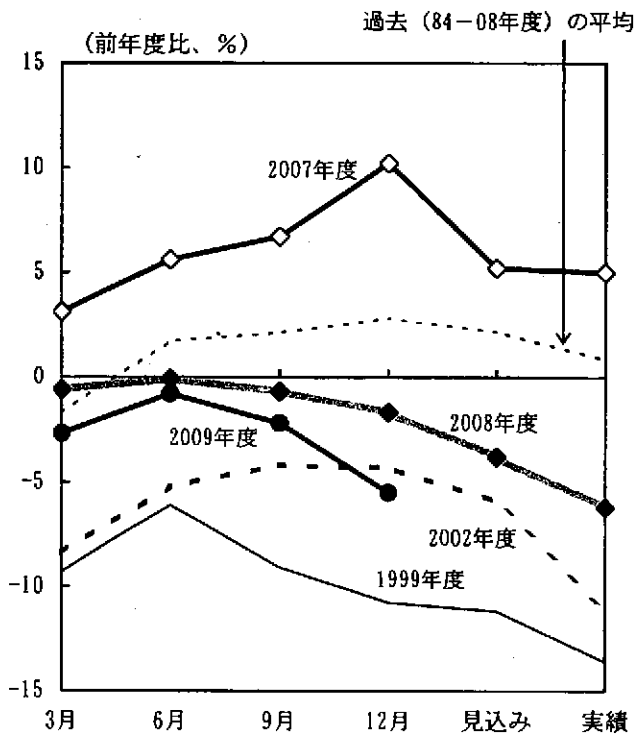
(1) 製造業大企業



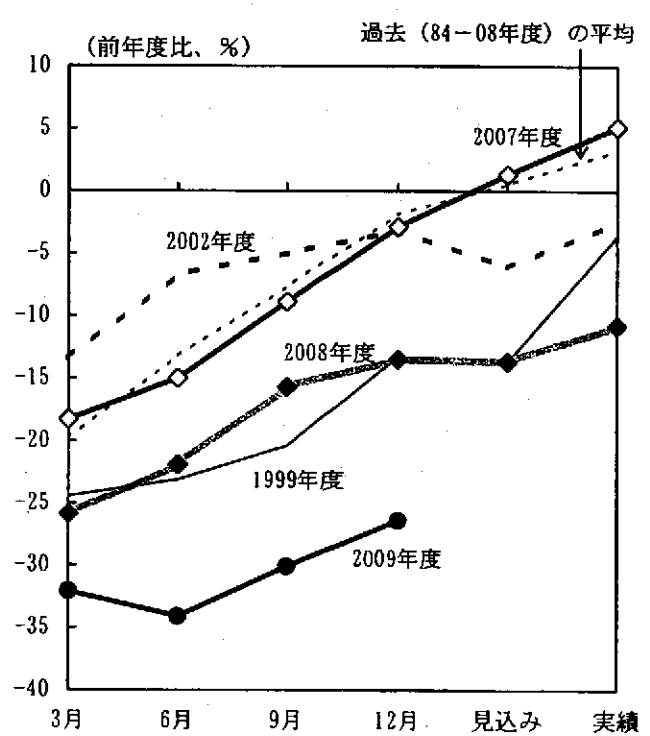
(2) 製造業中小企業



(3) 非製造業大企業



(4) 非製造業中小企業



(注) 土地投資額を含み、ソフトウェア投資額は含まない。

(資料) 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」

個人消費関連指標

— ()内は前年比、< >内は季調済前期(月)比：％
— []内の計数は2008年度売上高(名目、兆円、除く消費税)

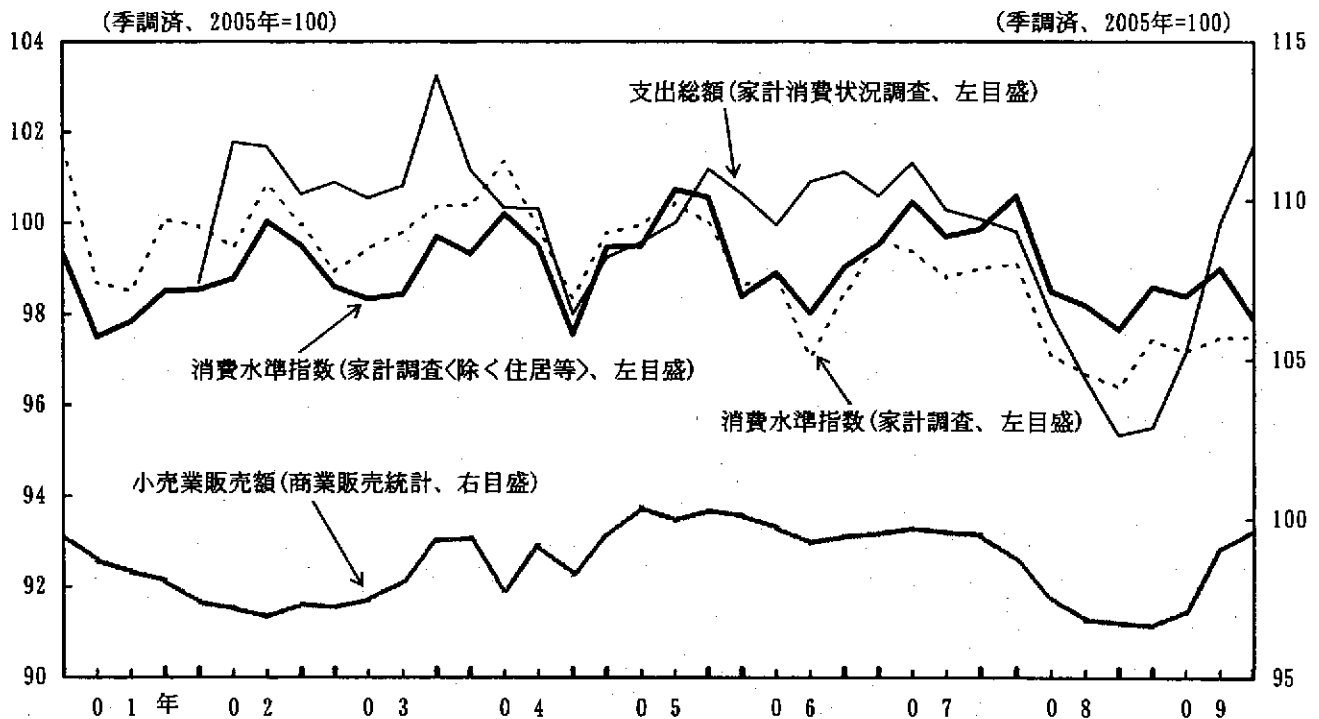
	08年度	09/4~6月	7~9	10~12	09/8月	9	10	11
家計調査報告								
消費水準指数(実質)	(-2.2)	(0.0)	(0.7)	(1.8)	(2.8)	(1.3)	(1.8)	
		< -0.2>	< 0.3>	< 0.0>	< 2.0>	< -0.5>	< -0.3>	
消費水準指数(実質・除く住居等)	(-1.9)	< -0.2>	< 0.6>	< -1.1>	< 2.2>	< 0.0>	< -1.8>	
消費支出(実質)	(-2.8)	< 0.3>	< 0.8>	< 1.4>	< 1.9>	< 0.1>	< 0.7>	
平均消費性向(%)	73.3	75.2	75.0	72.4	73.5	74.0	72.4	
家計消費状況調査								
支出総額(実質)	(-4.0)	(-0.8)	(3.5)	(3.8)	(2.8)	(5.0)	(3.8)	
		< 1.7>	< 2.9>	< 1.7>	< -0.8>	< 2.4>	< 0.4>	
乗用車新車登録台数(含む軽)	(-11.0)	(-17.2)	(1.4)	(16.0)	(3.2)	(4.2)	(7.8)	(24.7)
[391万台]		< 4.0>	< 18.1>	< 8.6>	< 5.0>	< 0.8>	< 2.7>	< 7.2>
乗用車新車登録台数(除く軽)	(-15.0)	(-17.1)	(5.2)	(30.9)	(8.2)	(9.2)	(19.0)	(43.9)
[252万台]		< 13.2>	< 20.9>	< 14.3>	< 5.7>	< 0.6>	< 6.0>	< 10.8>
商業販売統計								
小売業販売額(実質)	(-2.7)	(-0.5)	(2.4)	(3.4)	(2.4)	(2.7)	(3.4)	
[127.8]		< 0.5>	< 2.0>	< 0.7>	< 1.1>	< -0.3>	< 0.5>	
家電販売額(実質)	(15.0)	(18.7)	(22.5)	(32.2)	(21.5)	(26.2)	(32.2)	
[7.3]		< 4.8>	< 9.1>	< 6.6>	< 4.3>	< 1.4>	< 4.1>	
全国百貨店売上高	(-6.7)	(-10.8)	(-9.8)	(-10.6)	(-8.9)	(-7.8)	(-10.6)	
[7.5]		< -2.3>	< -0.7>	< -3.9>	< 3.0>	< 0.0>	< -4.9>	
全国スーパー売上高	(-2.5)	(-4.1)	(-5.4)	(-5.2)	(-5.7)	(-4.3)	(-5.2)	
[12.2]		< -1.3>	< -1.9>	< -0.8>	< -0.4>	< 0.1>	< -0.8>	
コンビニエンスストア売上高	(7.2)	(3.4)	(-3.5)	(-2.9)	(-3.0)	(-2.4)	(-2.9)	
[7.7]		< -0.5>	< -2.2>	< 0.5>	< -3.6>	< 1.8>	< 0.6>	
旅行取扱額	(-5.6)	(-22.4)	(-14.1)		(-17.5)	(-5.3)		
[6.1]		< -14.2>	< 7.8>		< 0.2>	< 12.0>		
外食産業売上高	(0.3)	(0.1)	(-2.3)	(0.4)	(-3.6)	(-1.5)	(0.4)	
		< -0.4>	< -2.2>	< 2.3>	< -2.0>	< 1.1>	< 2.3>	

- (注) 1. 消費水準指数は、二人以上の世帯・世帯人員及び世帯主の年齢分布調整ベース。消費水準指数(除く住居等)は、消費支出合計から「住居」、「自動車等購入」、「贈与金」、「仕送り金」を除いている。
2. 消費支出、支出総額は、二人以上の世帯ベース。平均消費性向は二人以上の世帯のうち勤労者世帯ベース。
3. 全国百貨店・全国スーパー売上高の前年比及び前期比は、店舗調整後。コンビニエンスストア・外食産業売上高の前年比及び前期比は店舗調整前。
4. 支出総額、小売業販売額、家電販売額は、調査統計局において実質化。
5. 旅行取扱額は外国人旅行を除いている。
6. 2009/10~12月の家計調査報告、家計消費状況調査、商業販売統計、外食産業売上高は10月の値、新車登録台数は10~11月の値を使用。

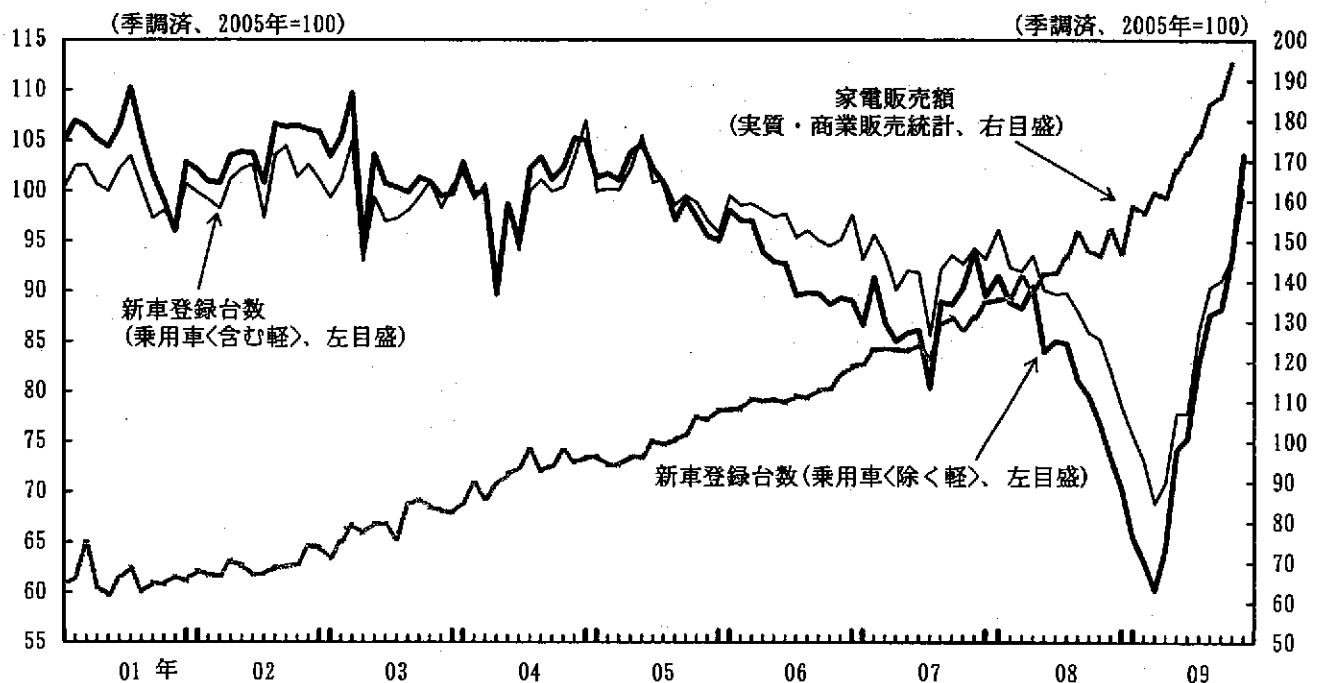
(資料) 総務省「家計調査報告」「家計消費状況調査」「消費者物価指数」、経済産業省「商業販売統計」、日本自動車販売協会連合会「自動車国内販売」、全国軽自動車協会連合会「軽自動車新車販売速報」、観光庁「旅行業者取扱額」、日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」

個人消費(1)

(1) 家計調査・家計消費状況調査・商業販売統計(実質)



(2) 耐久消費財

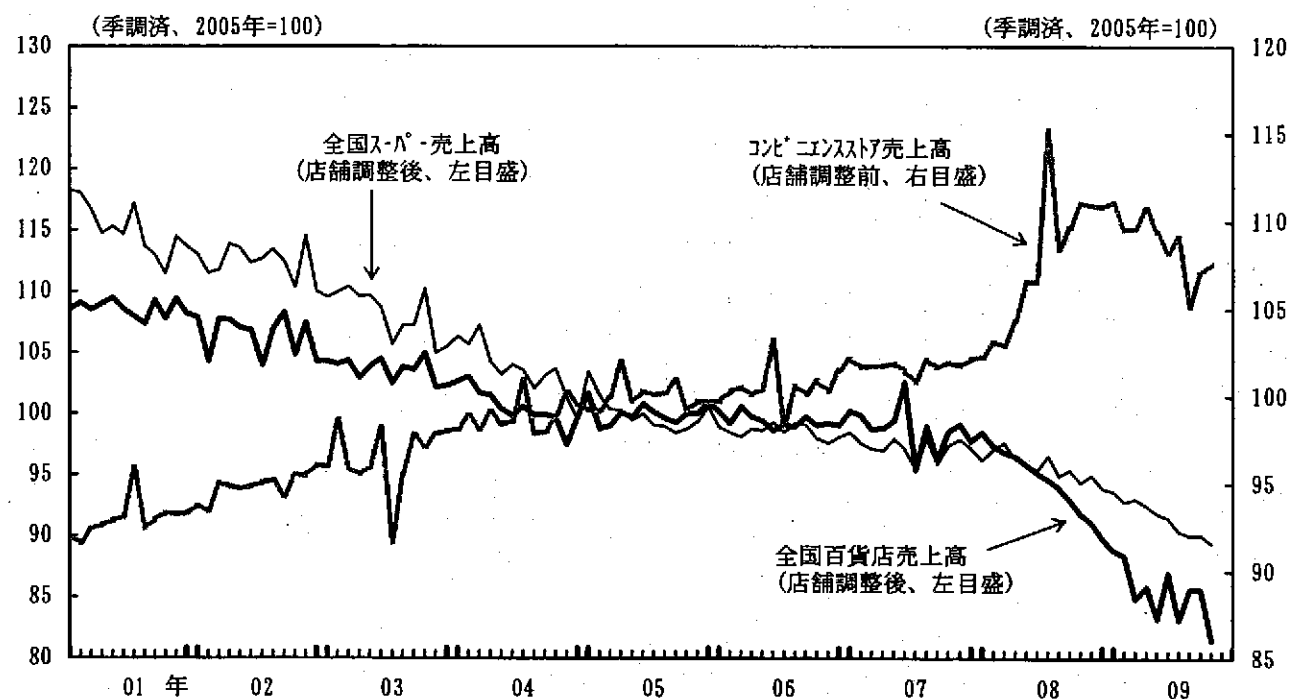


- (注) 1. 支出総額、小売業販売額、家電販売額及び新車登録台数はX-12-ARIMAによる季節調整値。
 2. 消費水準指数は、二人以上の世帯(世帯人員及び世帯主の年齢分布調整済)ベース。
 3. 支出総額は二人以上の世帯ベース。CPI「持家の帰属家賃を除く総合」で実質化。
 4. 小売業販売額は、CPI(「財」から「電気・都市ガス・水道」を除いたもの)で実質化。家電販売額は、商業販売統計の機械器具小売業販売額指数を、各種家電関連商品のCPI(但し、2002年以前のパソコン用プリンタはCGPIで代用)を幾何平均して算出したデフレーターで実質化。
 5. 2009/4Qは10月の値。

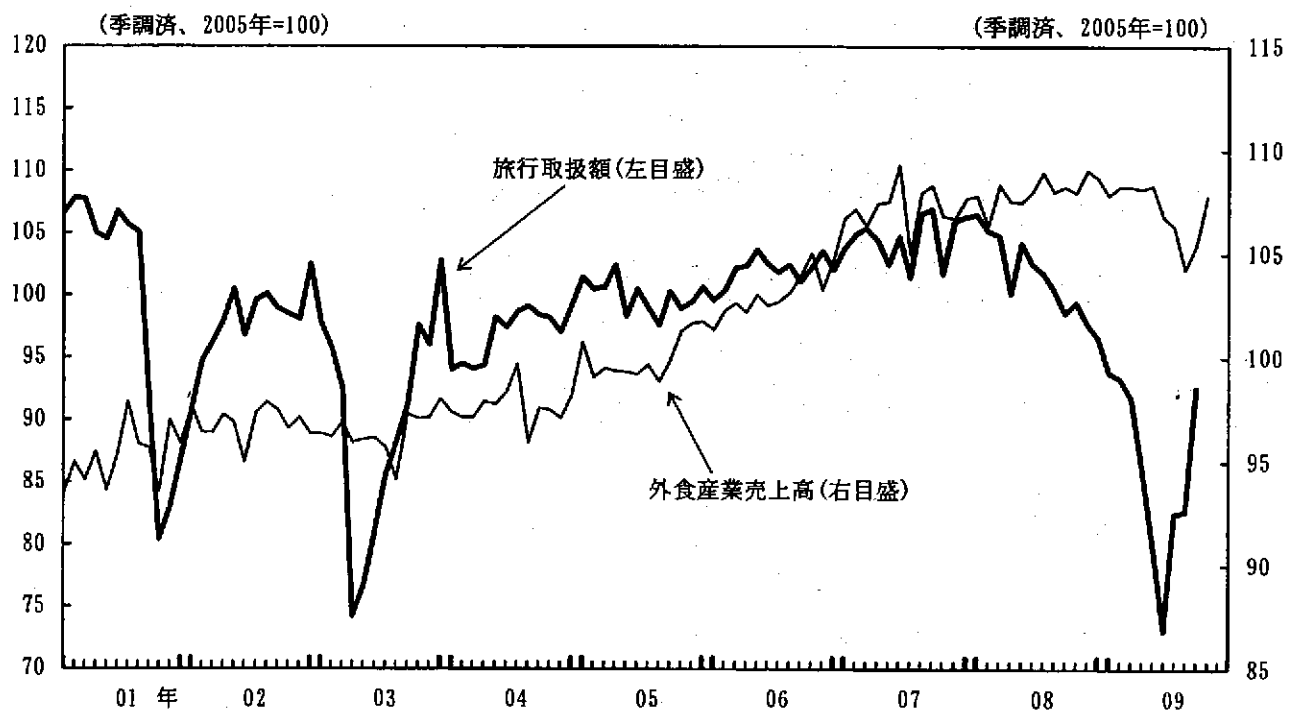
(資料) 総務省「家計調査報告」「家計消費状況調査」「消費者物価指数」、経済産業省「商業販売統計」、日本銀行「企業物価指数」、日本自動車販売協会連合会「自動車国内販売」、全国軽自動車協会連合会「軽自動車新車販売速報」

個人消費 (2)

(1) 小売店販売 (名目)



(2) サービス消費 (名目)



(注) 1. X-12-ARIMAによる季節調整値。

2. 旅行取扱額は、外国人旅行を除いている。また、2007/4月に調査対象が変更された結果、原データに断層が生じているため、2007/4月以降の系列は、新ベースの前年比を用いて接続している。

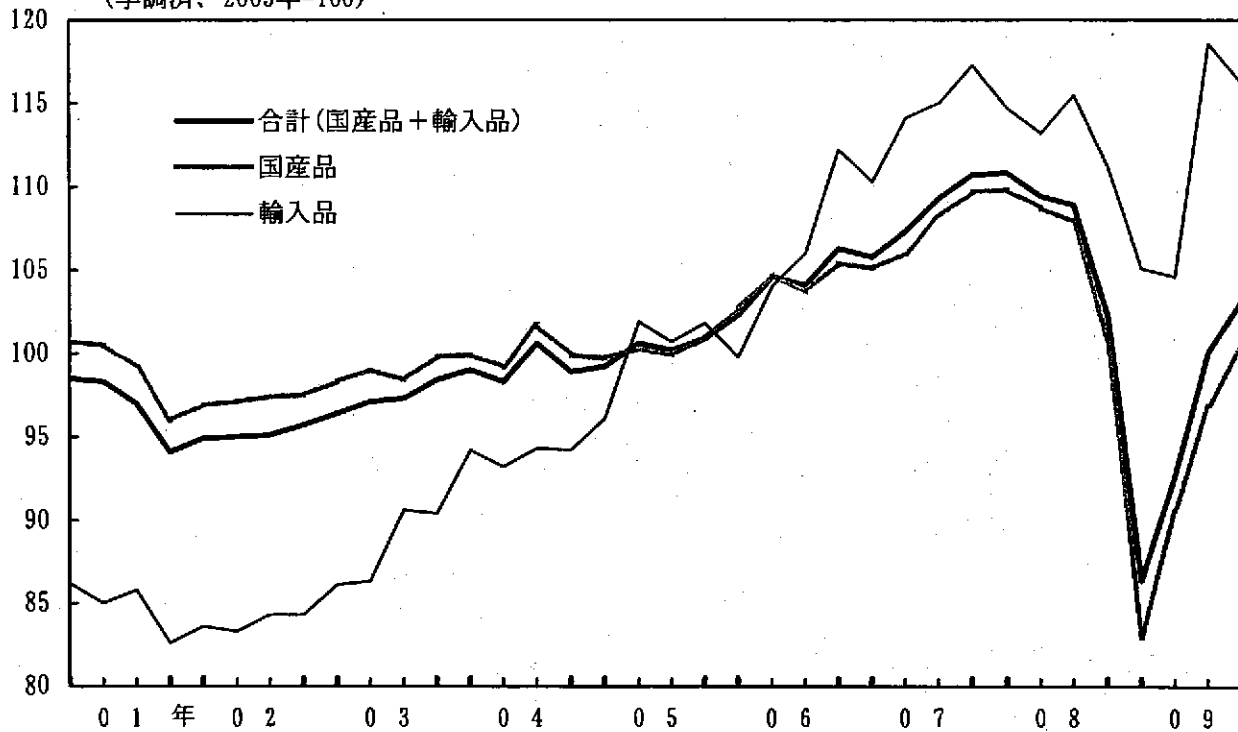
3. 外食産業売上高は、1993年の外食総研のデータを基準とし、日本フードサービス協会の前年比で延長。

(資料) 経済産業省「商業販売統計」、観光庁「旅行業者取扱額」、外食総研「月次売上動向調査」、日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」

個人消費 (3)

(1) 消費財総供給

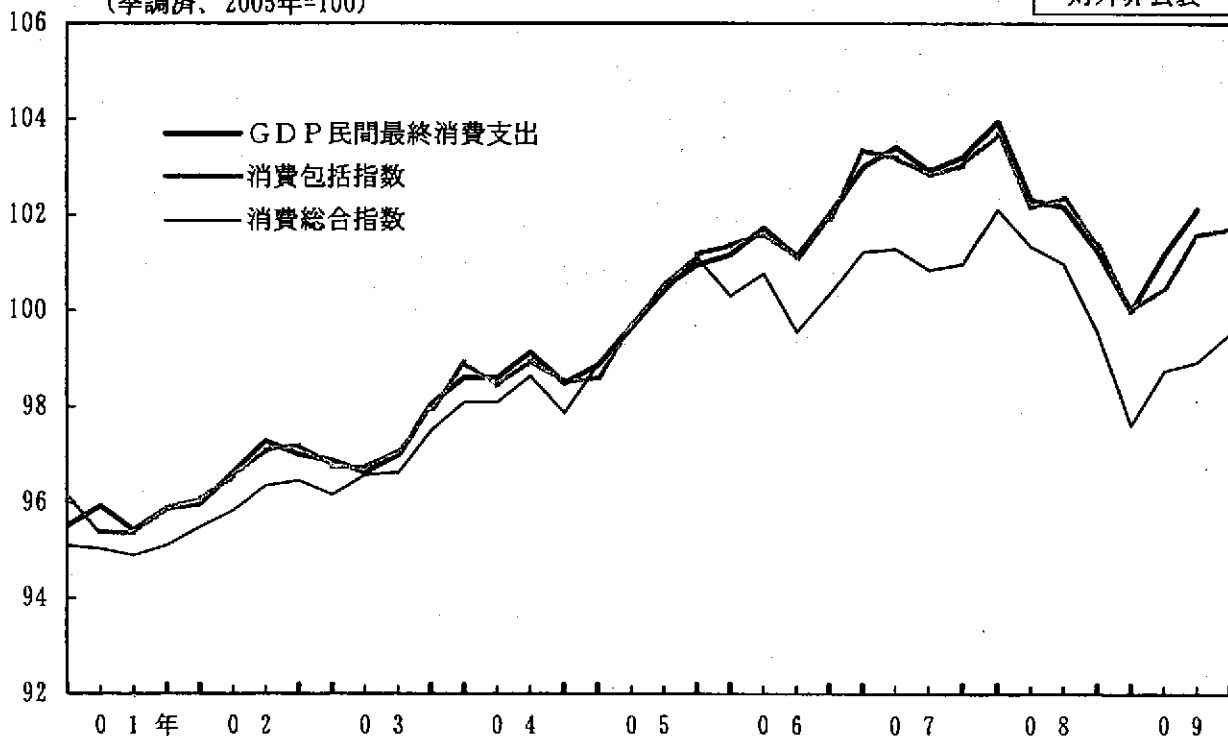
(季調済、2005年=100)



(2) GDP民間最終消費支出・消費包括指数・消費総合指数 (実質)

(季調済、2005年=100)

消費包括指数は
対外非公表



(注) 1. 消費包括指数は、GDPの推計方法にならい、各種の消費関連統計を幅広く加重平均して算出したもの。また、毎月季節調整替えを行うため、過去に遡って改訂される。

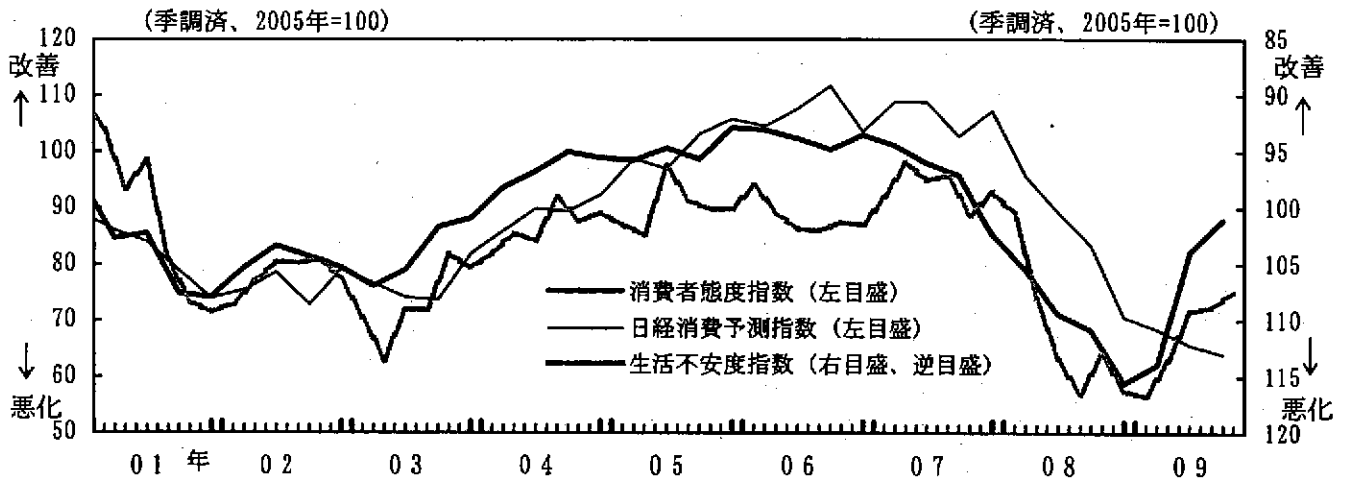
2. 消費包括指数は12/7日までに公表された統計をもとに算出。

3. 消費財総供給及び消費総合指数の2009/4Qは、10月の値。

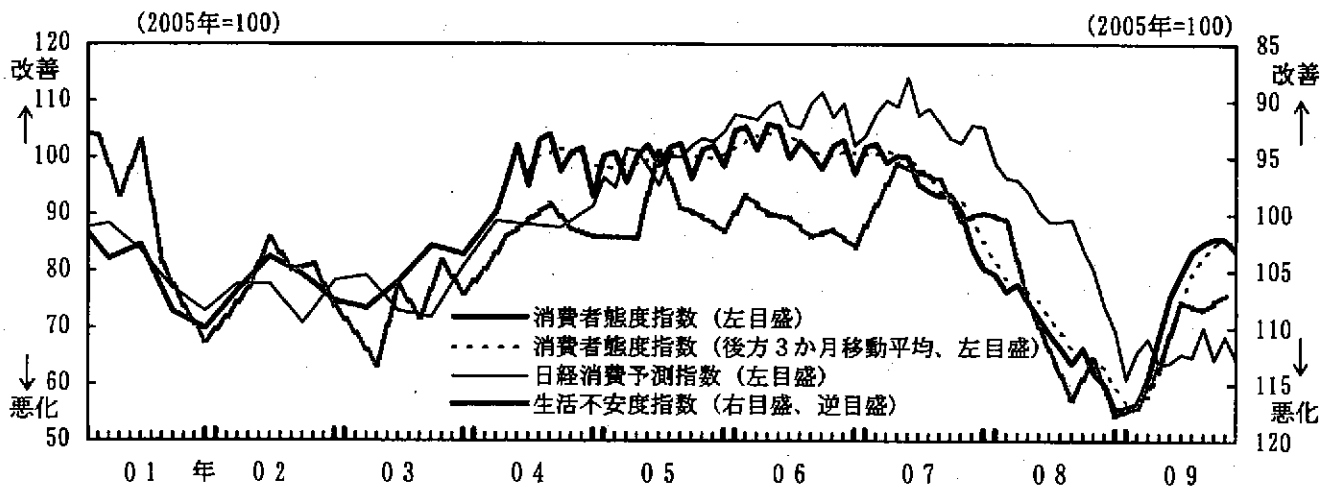
(資料) 経済産業省「鉱工業総供給表」、内閣府「国民経済計算」「消費総合指数」等

消費者コンフィデンス

(1) 季調済系列

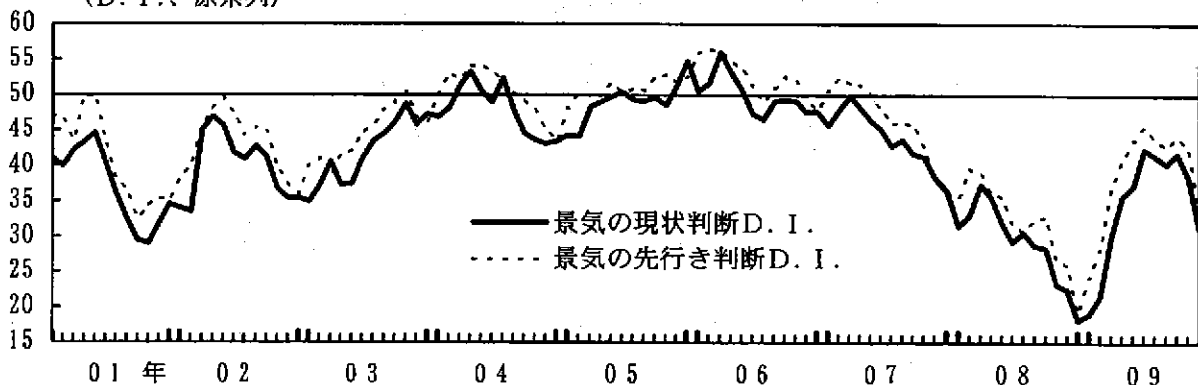


(2) 原系列



<参考> 景気ウォッチャー調査 (家計動向関連)

(D. I.、原系列)



- (注) 1. 消費者態度指数 (調査客体：全国・一般世帯 約4,700世帯)、日経消費予測指数 (同：首都圏600人)、生活不安度指数 (同：全国1,200人) はいずれも消費者意識を尋ねたアンケート調査。
 2. 調査が実施されていない月については、線形補間を実施。
 3. 日経消費予測指数及び生活不安度指数はX-12-ARIMAによる季節調整値。なお、日経消費予測指数は、2004年まで四半期調査であったため、四半期の値で季節調整を実施。

(資料) 内閣府「消費動向調査」「景気ウォッチャー調査」、日本経済新聞社「日経消費予測指数」、日本リサーチ総合研究所「消費者心理調査」

住宅関連指標

＜新設住宅着工戸数＞

— 季調済年率換算戸数：万戸、〈 〉内は季調済前期（月）比、（ ）内は前年比：％

	08年度	09/4～6月	7～9	10～12	09/8月	9	10
総戸数	103.9	76.2	70.7	76.2	67.6	69.9	76.2
		〈-15.7〉	〈-7.2〉	〈7.8〉	〈-9.3〉	〈3.3〉	〈9.0〉
	(0.3)	(-31.9)	(-35.8)	(-27.1)	(-38.3)	(-37.0)	(-27.1)
持家	31.1	26.8	28.1	30.3	27.7	27.8	30.3
		〈-6.3〉	〈5.2〉	〈7.8〉	〈-4.5〉	〈0.5〉	〈9.1〉
	(-0.4)	(-13.6)	(-17.4)	(-4.9)	(-20.0)	(-19.7)	(-4.9)
分譲	27.3	15.5	14.8	15.9	14.1	15.1	15.9
		〈-25.7〉	〈-4.2〉	〈7.1〉	〈-8.2〉	〈7.0〉	〈5.4〉
	(-3.5)	(-51.0)	(-52.1)	(-40.6)	(-53.5)	(-52.5)	(-40.6)
貸家系	45.6	33.8	29.4	30.8	27.0	29.1	30.8
		〈-12.9〉	〈-13.2〉	〈4.9〉	〈-15.9〉	〈7.8〉	〈6.0〉
	(3.3)	(-31.7)	(-39.4)	(-33.9)	(-42.8)	(-40.0)	(-33.9)

(注) 2009/10～12月の季調済年率換算戸数は10月の値、季調済前期比は10月の7～9月対比、前年比は10月の前年同月比。

＜首都圏新築マンション関連指標 — 不動産経済研究所調べ —＞

— 〈 〉内は季調済前期（月）比、（ ）内は前年比：％

	08年度	09/4～6月	7～9	10～12	09/9月	10	11
全売却戸数（年率、万戸）	4.2	4.0	4.2	3.9	4.6	3.5	4.3
		〈-15.0〉	〈2.8〉	〈-5.5〉	〈23.4〉	〈-22.8〉	〈22.7〉
	(-22.4)	(-10.5)	(11.2)	(2.8)	(29.4)	(-12.5)	(21.9)
期末在庫（戸）	8,829	8,164	7,283	6,860	7,283	6,956	6,860
新規契約率（％）	64.1	68.8	73.4	68.9	73.9	69.0	68.8

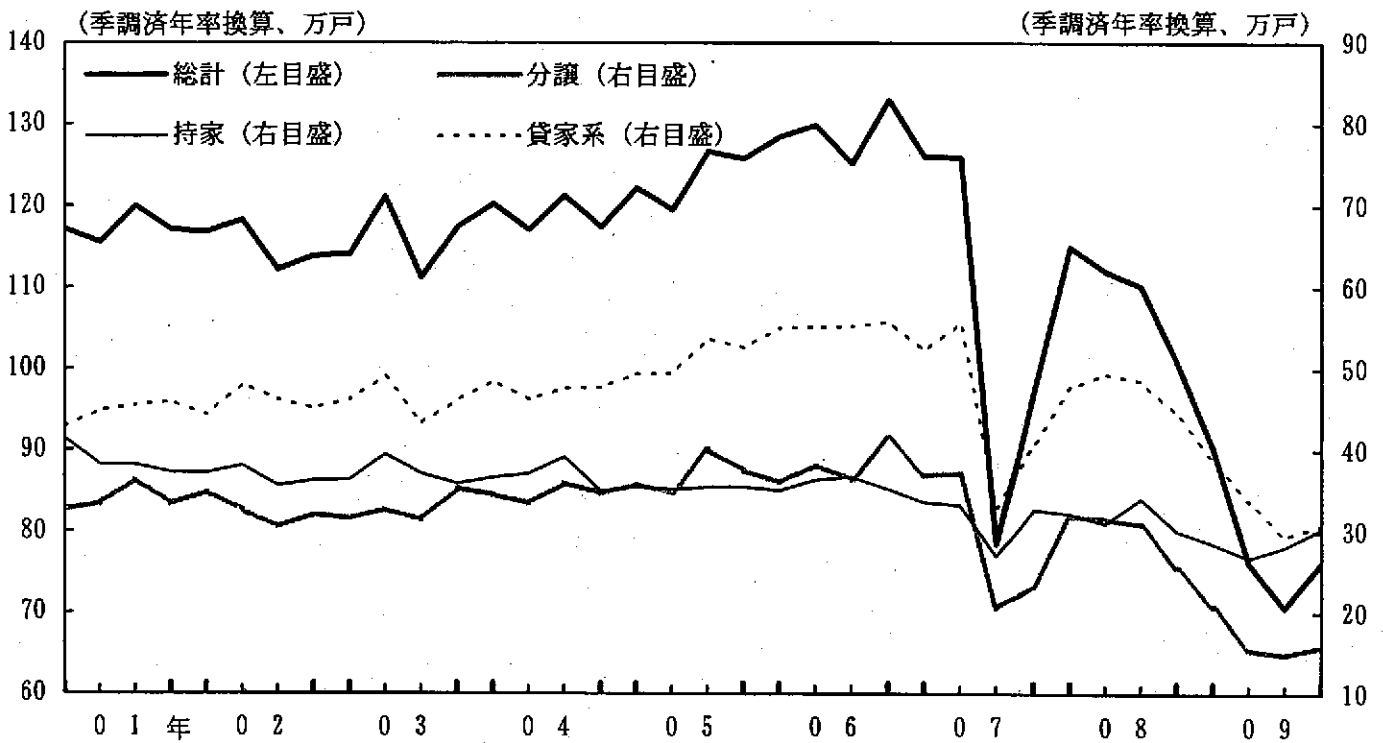
(注) 1. 全売却戸数（契約成立戸数）の月次・四半期計数および期末在庫（年度計数を含む）は、X-12-ARIMAによる季節調整値。新規契約率はすべて原計数。

2. 2009/10～12月の全売却戸数・新規契約率は10～11月の平均値、期末在庫は11月の値、前期比は10～11月の7～9月対比、前年比は10～11月の前年同期比。

(資料) 国土交通省「建築着工統計」、不動産経済研究所「首都圏のマンション市場動向」

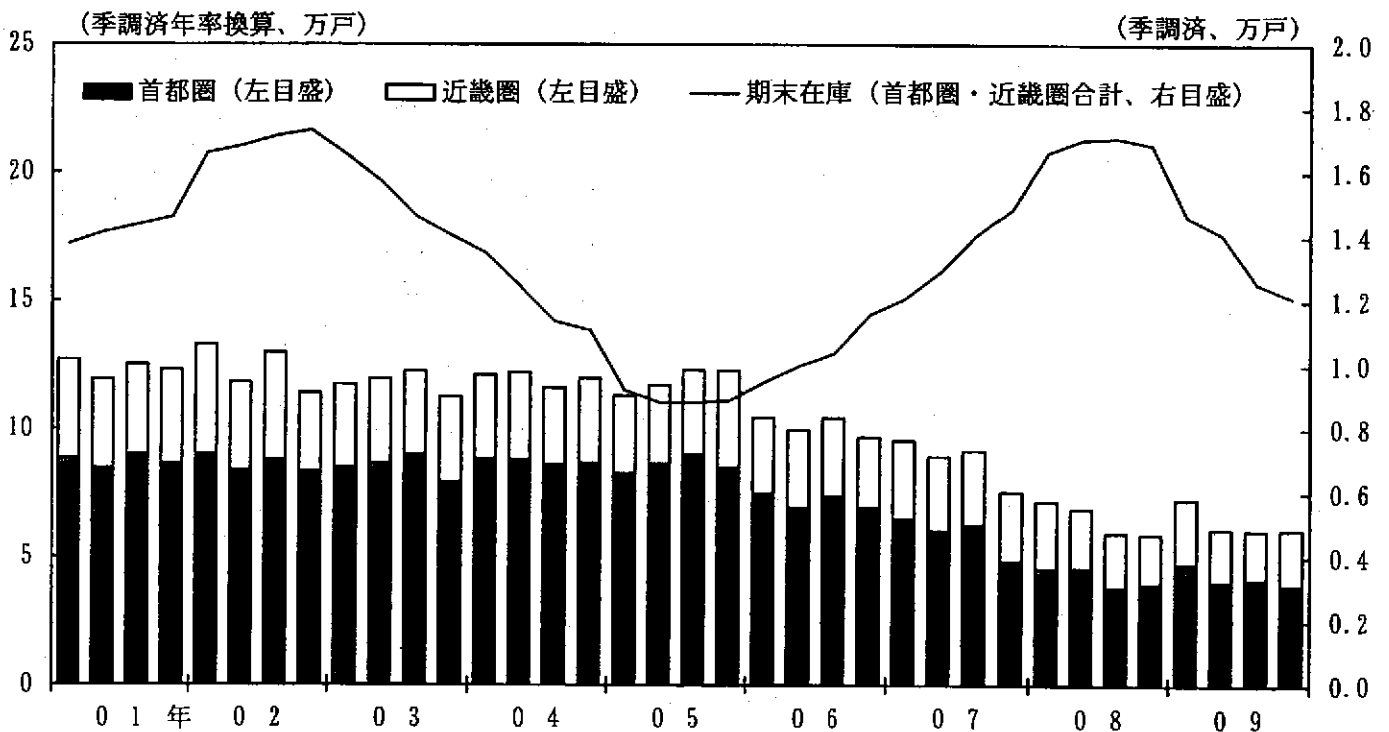
住宅投資関連指標

(1) 新設住宅着工戸数



(注) 2009/4Qは10月の値。

(2) マンション販売動向 (全売却戸数)



(注) 1. X-12-ARIMAによる季節調整値。

2. 2009/4Qの全売却戸数(契約成立戸数)は10~11月の平均値、期末在庫戸数は11月の値。

(資料) 国土交通省「建築着工統計」、
不動産経済研究所「首都圏のマンション市場動向」「近畿圏のマンション市場動向」

生産・出荷・在庫関連指標

〈鉱工業指数統計〉

- 〈〉内は季調済前期(月)比、()内は前年比：％
 — 在庫、在庫率は期末値。
 — 在庫率、稼働率は指数水準：季調済、2005年=100

	08年度	09/4~6月	7~9	10~12	09/8月	9	10	11	12
生産	(-12.7)	< 8.3> (-27.8)	< 7.4> (-20.1)	< 2.4> (-15.1)	< 1.6> (-19.0)	< 2.1> (-18.4)	< 0.5> (-15.1)	< 3.3> (- 3.3)	< 1.0> (5.2)
出荷	(-12.6)	< 6.4> (-27.6)	< 8.4> (-19.3)	< 4.2> (-13.0)	< 0.6> (-19.0)	< 4.2> (-16.8)	< 1.3> (-13.0)		
在庫	(- 5.2)	<- 4.5> (-10.3)	<- 0.6> (-12.1)	<- 1.5> (-14.4)	< 0.1> (-10.3)	<- 0.4> (-12.1)	<- 1.5> (-14.4)		
在庫率	150.1	128.8	116.9	117.2	123.0	116.9	117.2		
稼働率	88.6	71.4	78.8	80.5	79.0	80.3	80.5		

- (注) 1. 生産の2009/11、12月は予測指数。前月比は、経済産業省公表値。前年比は、経済産業省公表の予測指数の前月比から試算した指数(季調済)を本系列の季節要素で割り戻した値から計算しているため、経済産業省公表の予測指数の前年比と一致しない。
 2. 予測指数を用いて算出した生産の2009/10~12月は、前期比 +5.0%、前年比 -5.1%。
 3. 2009/10~12月は、10月の値を用いて算出。

〈第3次産業・全産業活動指数〉

- 〈〉内は季調済前期(月)比、()内は前年比：％

	08年度	09/1~3月	4~6	7~9	09/6月	7	8	9
第3次産業 活動指数	(-2.8)	<-3.1> (-6.5)	<-0.7> (-6.3)	< 0.5> (-5.0)	< 0.2> (-5.3)	< 0.5> (-5.5)	< 0.3> (-4.4)	<-0.5> (-5.0)
全産業 活動指数	(-4.7)	<-6.2> (-11.1)	< 0.4> (-9.6)	< 1.1> (-7.4)	< 0.1> (-8.3)	< 0.5> (-8.3)	< 0.9> (-6.7)	<-0.6> (-7.1)

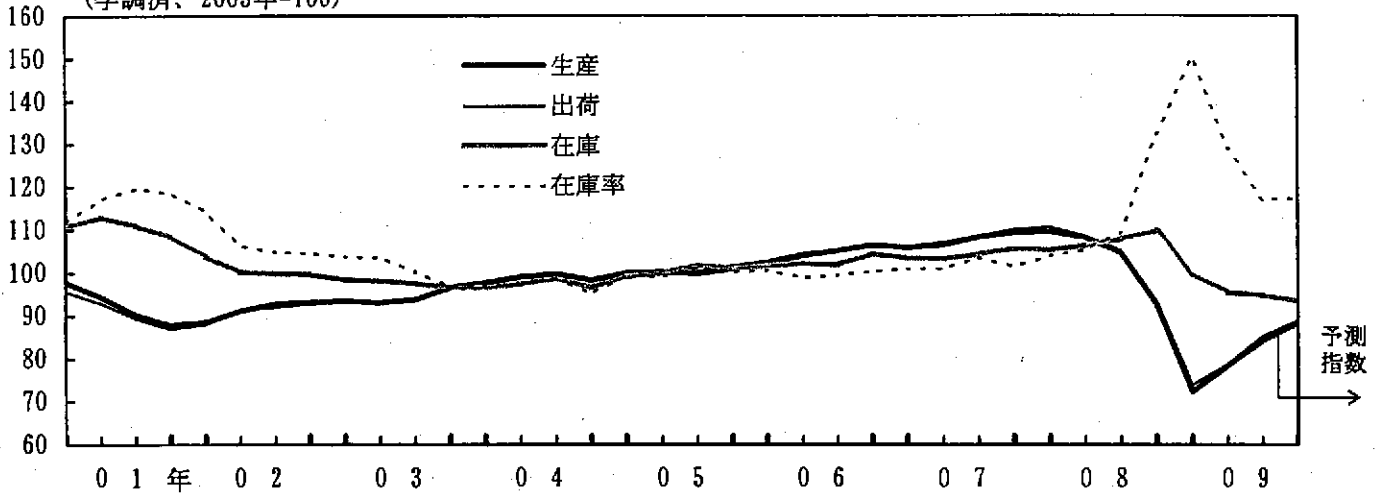
- (注) 全産業活動指数は農林水産業生産指数を除いたベース。

(資料) 経済産業省「鉱工業指数統計」「第3次産業活動指数」「全産業活動指数」

生産

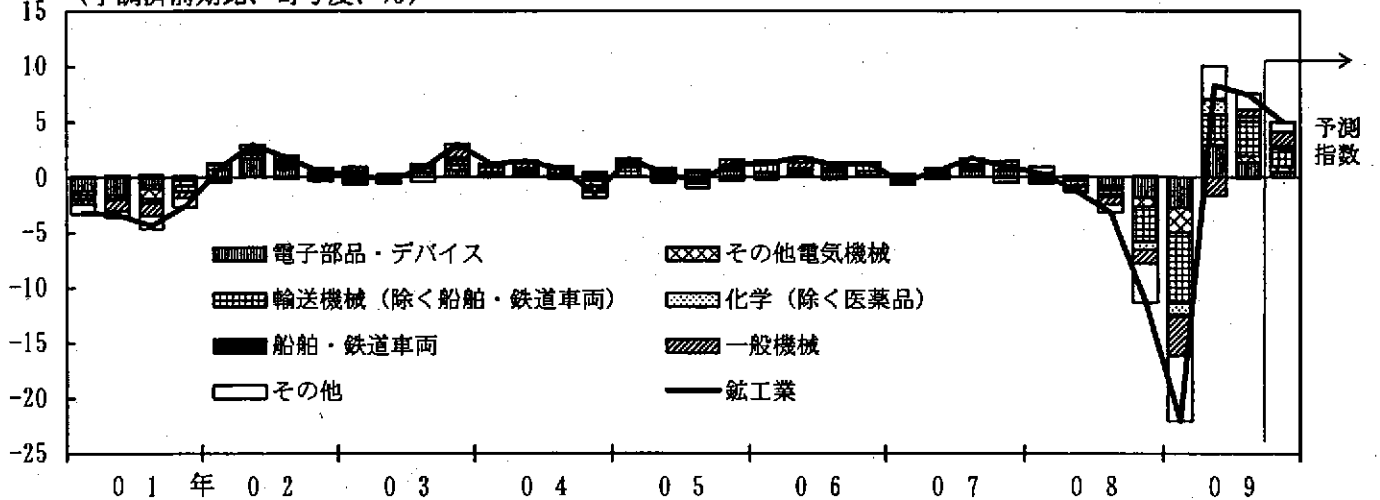
(1) 鉱工業生産・出荷・在庫

(季調済、2005年=100)



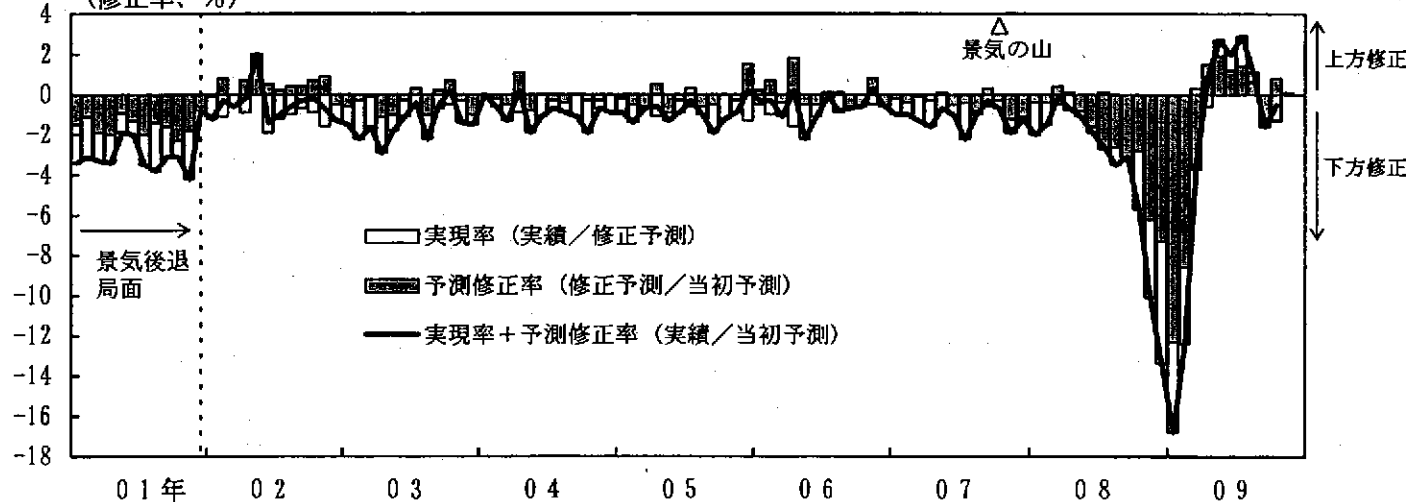
(2) 生産の業種別寄与度

(季調済前期比、寄与度、%)



(3) 生産予測指数の修正状況

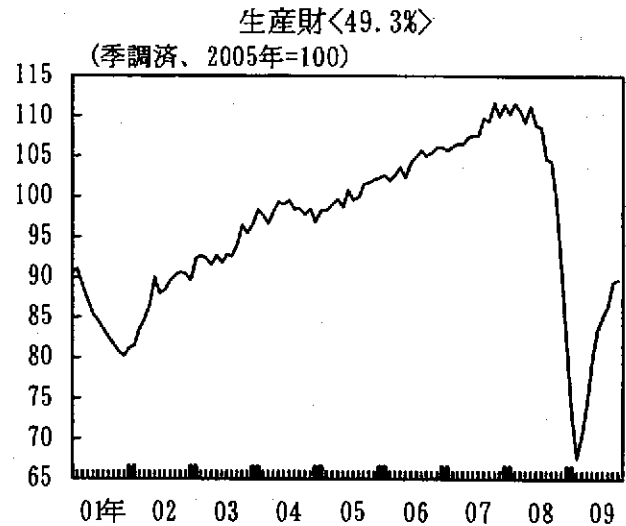
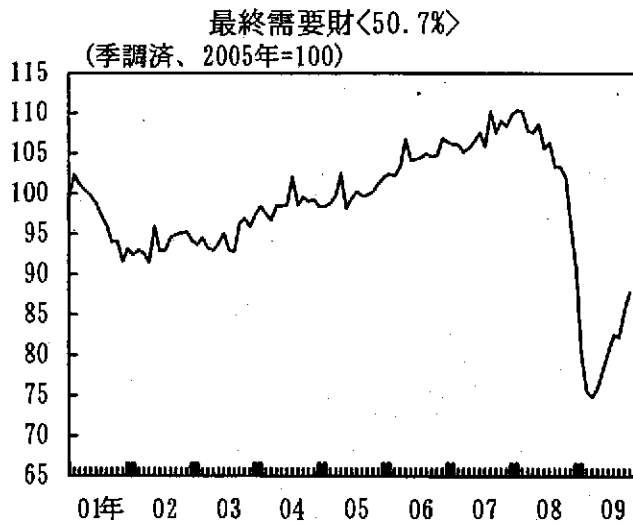
(修正率、%)



- (注) 1. その他電気機械は電気機械、情報通信機械を合成したものの。
- 2. 2009/4Qの生産は、予測指数を用いて算出。出荷、在庫、在庫率は、10月の値。
- 3. (2) の2003/1Q以前は、2000年基準の指数を用いて算出。
(3) の2003年1月以前は2000年基準の値を使用。

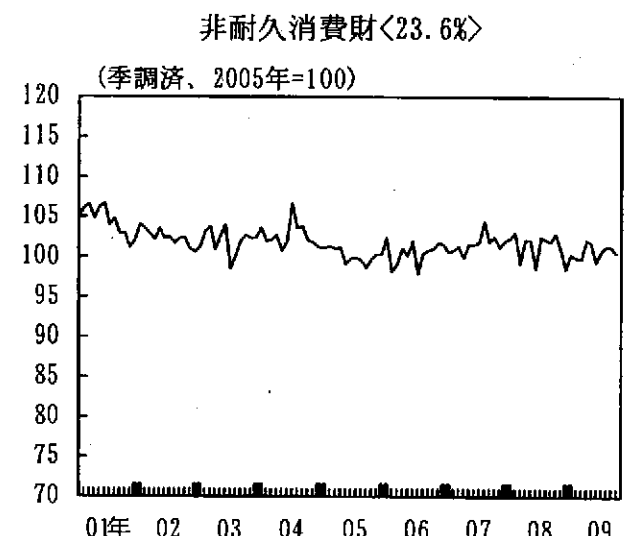
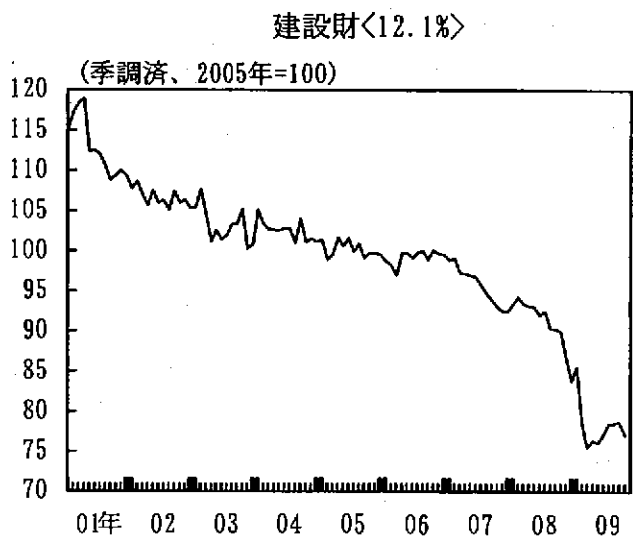
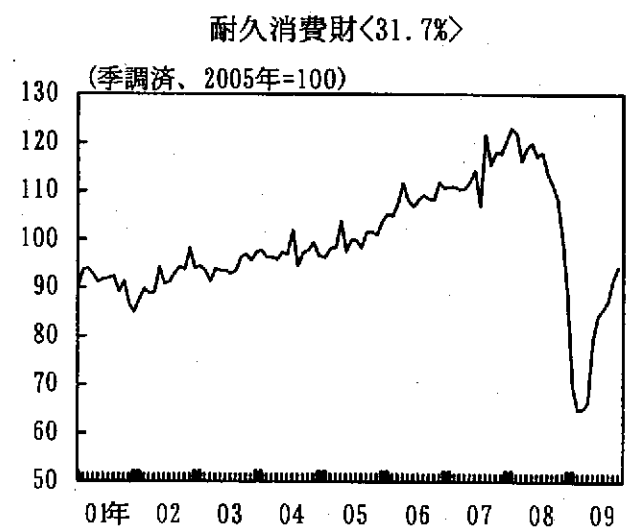
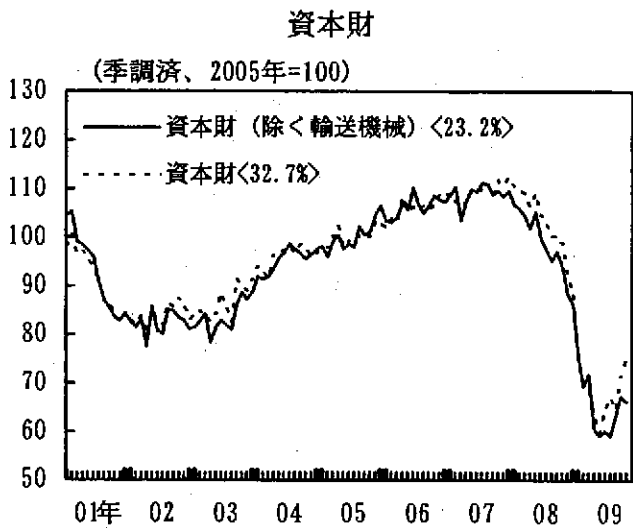
財別出荷

(1) 最終需要財と生産財



(注) <>内は鉱工業出荷に占めるウェイト。

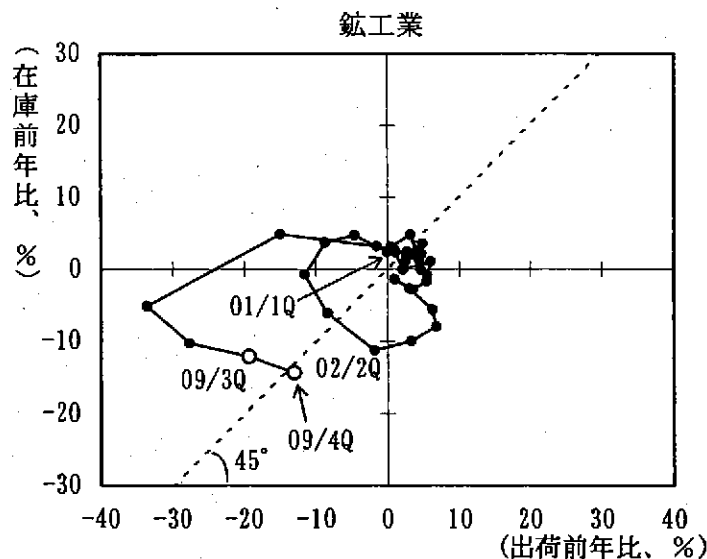
(2) 最終需要財の内訳



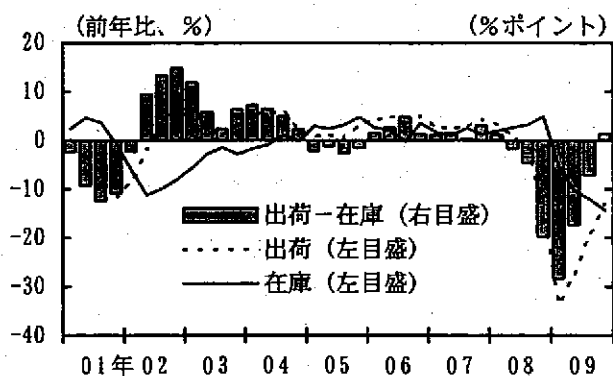
(注) <>内は最終需要財に占めるウェイト。

(資料) 経済産業省「鉱工業指数統計」

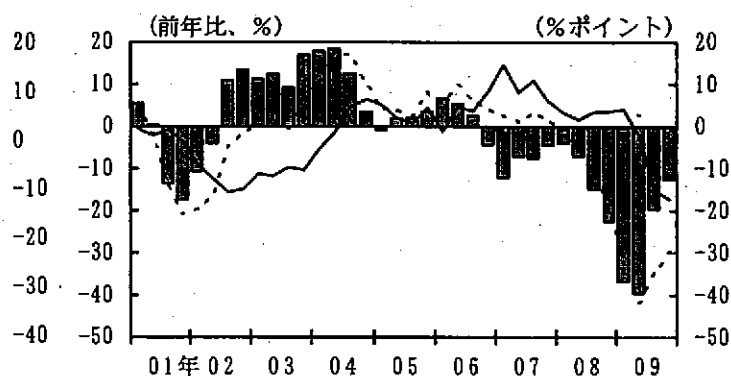
在庫循環



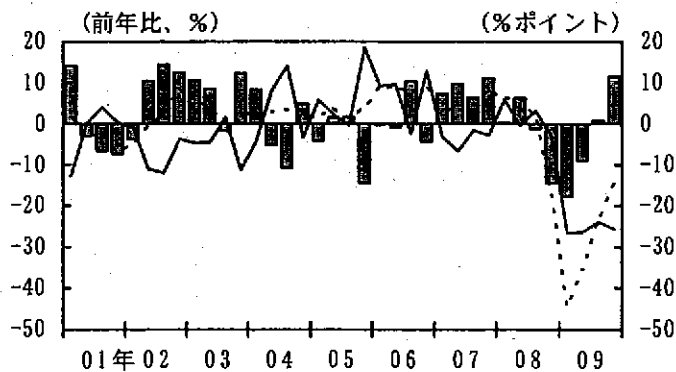
(1) 鉱工業



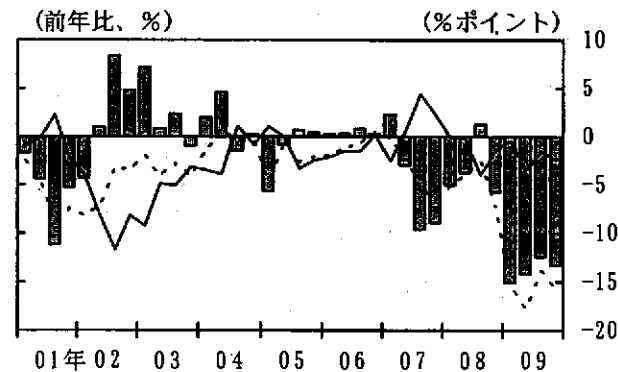
(2) 資本財 (除く輸送機械)



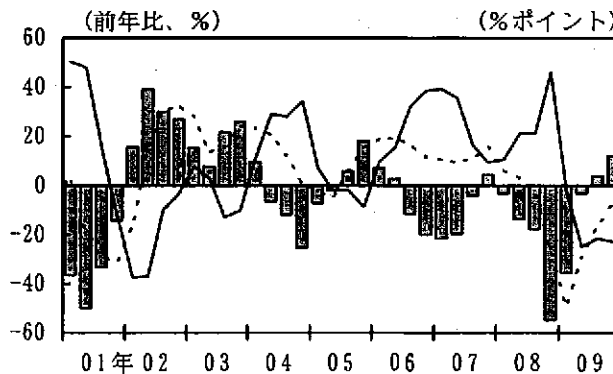
(3) 耐久消費財



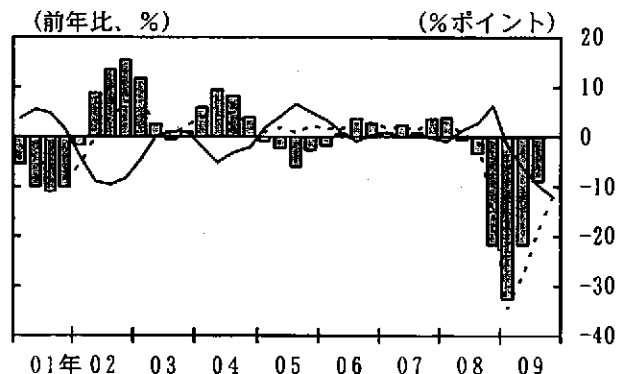
(4) 建設財



(5) 電子部品・デバイス



(6) その他生産財



(注) 2009/4Qは、10月の値を用いて算出。

(資料) 経済産業省「鉱工業指数統計」

雇用関連指標

<職業安定業務統計>

— () 内は前年比、< >内は季調済前期(月)比：%

	08年度	09/4~6月	7~9	10~12	09/8月	9	10
有効求人倍率(季調済、倍)	0.77	0.45	0.42	0.44	0.42	0.43	0.44
有効求職	(6.9)	< 11.4>	< 4.2>	< -2.3>	< 1.3>	< -1.6>	< -1.6>
有効求人	(-19.1)	< -15.9>	< -0.9>	< 2.0>	< 0.2>	< 1.5>	< 0.9>
新規求人倍率(季調済、倍)	1.08	0.76	0.77	0.78	0.76	0.79	0.78
新規求職	(11.5)	< -2.5>	< 0.5>	< 1.4>	< 0.6>	< -0.2>	< 1.3>
新規求人	(-18.3)	< -8.6>	< 1.6>	< 3.1>	< -1.1>	< 3.6>	< 1.1>
		(-27.8)	(-22.8)	(-18.8)	(-24.2)	(-20.8)	(-18.8)
うち製造業	(-33.4)	(-53.3)	(-40.9)	(-31.4)	(-41.3)	(-35.2)	(-31.4)
うち非製造業	(-15.9)	(-24.0)	(-20.1)	(-17.1)	(-21.7)	(-18.6)	(-17.1)
パートの有効求人倍率 (季調済、倍)	1.13	0.75	0.70	0.72	0.69	0.71	0.72

<労働力調査>

	08年度	09/4~6月	7~9	10~12	09/8月	9	10
労働力人口	(-0.3)	(-0.8)	(-0.3)	(-0.4)	(-0.3)	(-0.1)	(-0.4)
		< -0.7>	< 0.0>	< -0.5>	< 0.3>	< -0.0>	< -0.6>
就業者数	(-0.6)	(-2.0)	(-1.8)	(-1.8)	(-1.7)	(-1.5)	(-1.8)
		< -1.5>	< -0.2>	< -0.1>	< 0.5>	< 0.1>	< -0.3>
雇用者数	(-0.1)	(-1.7)	(-1.3)	(-1.4)	(-1.3)	(-1.1)	(-1.4)
		< -1.3>	< 0.5>	< 0.0>	< 0.4>	< 0.1>	< -0.2>
完全失業者数(季調済、万人)	275	344	363	336	362	352	336
非自発的離職者数(季調済、万人)	97	151	164	148	166	152	148
完全失業率(季調済、%)	4.1	5.2	5.5	5.1	5.5	5.3	5.1
労働力率(季調済、%)	60.2	59.8	59.8	59.6	59.9	59.9	59.6

<毎月勤労統計>

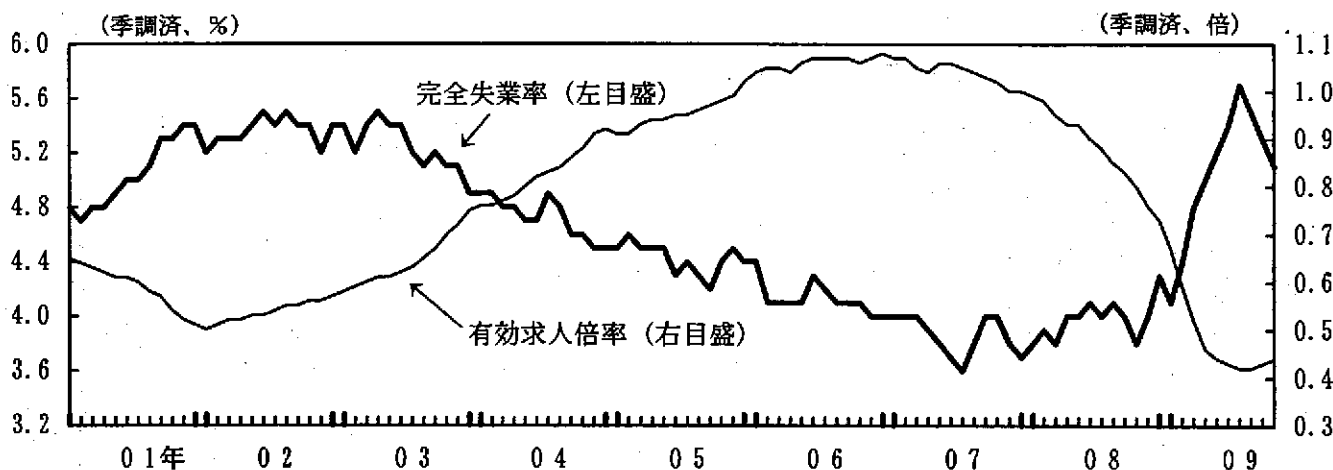
	08年度	09/4~6月	7~9	10~12	09/8月	9	10
常用労働者数(a)	(1.2)	(0.1)	(-0.1)	(-0.2)	(-0.1)	(-0.1)	(-0.2)
		< -0.3>	< 0.0>	< 0.1>	< 0.0>	< 0.1>	< 0.0>
製造業	(0.3)	(-2.3)	(-2.9)	(-2.8)	(-2.9)	(-2.9)	(-2.8)
非製造業	(1.4)	(0.7)	(0.6)	(0.4)	(0.6)	(0.6)	(0.4)
名目賃金(b)	(-1.1)	(-4.7)	(-3.6)	(-1.7)	(-2.7)	(-1.8)	(-1.7)
所定内給与	(-0.4)	(-1.3)	(-1.3)	(-1.0)	(-1.2)	(-1.3)	(-1.0)
所定外給与	(-6.7)	(-17.6)	(-13.9)	(-9.7)	(-13.2)	(-12.3)	(-9.7)
特別給与	(-1.9)	(-13.1)	(-12.2)	(3.0)	(-13.8)	(14.2)	(3.0)
雇用者所得(a×b)	(0.1)	(-4.6)	(-3.7)	(-1.9)	(-2.8)	(-1.9)	(-1.9)

- (注) 1. 毎月勤労統計の値は事業所規模5人以上。
 2. 2009/10~12月の季節調整値は10月の値、季調済前期比は10月の2009/7~9月対比、前年比は10月の前年同月比。

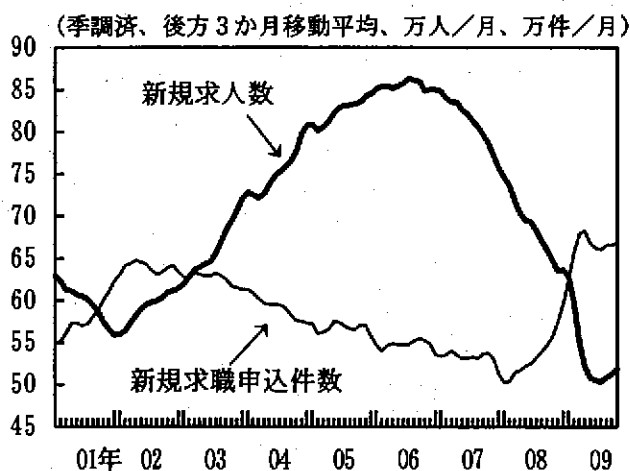
(資料) 厚生労働省「毎月勤労統計」「職業安定業務統計」、総務省「労働力調査」

労働需給 (1)

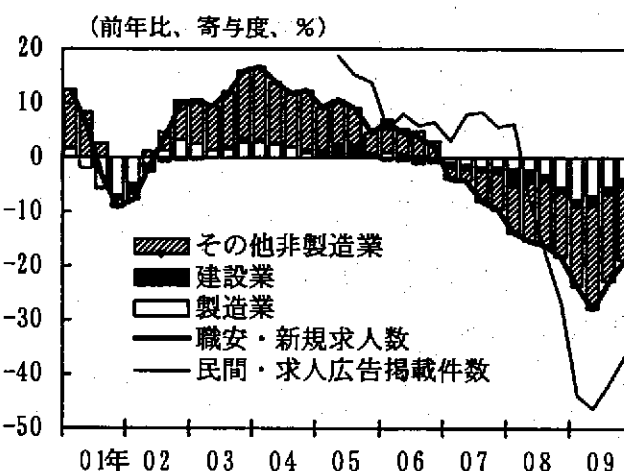
(1) 失業率と有効求人倍率



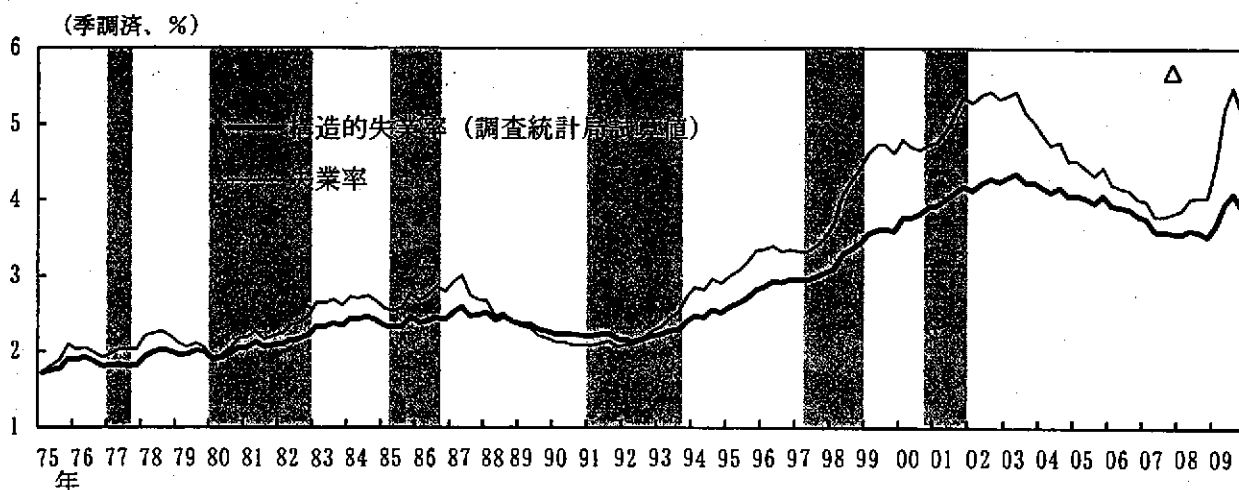
(2) 新規求人と新規求職



(3) 求人の動向



(4) 構造的失業率



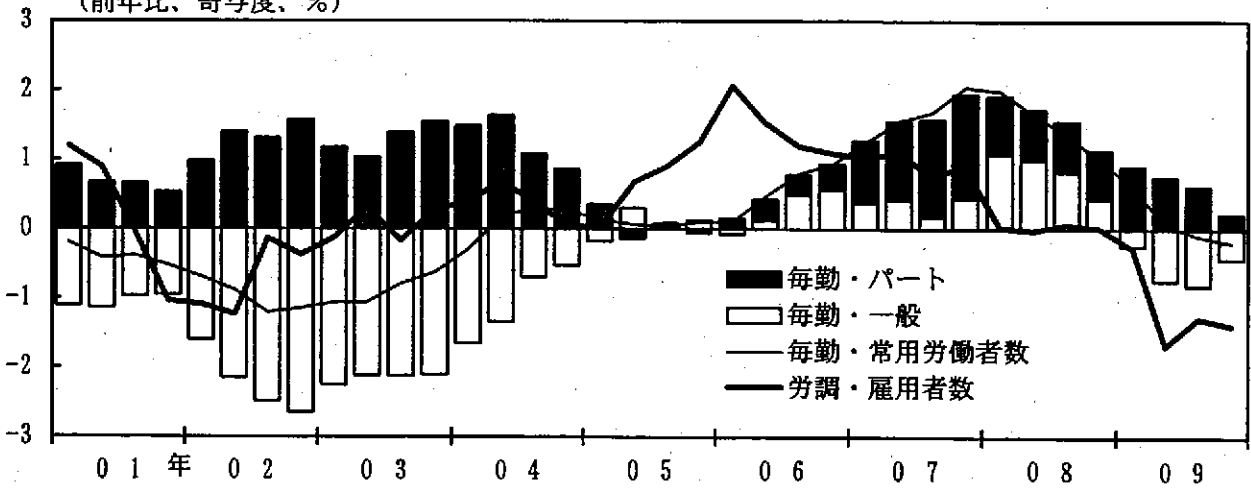
- (注) 1. 新規求人数、新規求職申込件数は、新規学卒者を除きパートタイムを含む。
- 2. 求人広告掲載件数は、全国求人情報協会に加盟している企業が発行している求人メディア（有料求人情報誌、フリーペーパー、折込求人紙、求人サイト）に掲載された求人広告件数の集計値。
- 3. シャドー部分は景気後退局面。△は直近の景気の山。
- 4. 2009/4Qの前年比は10月の前年同月比、季節調整値は10月の値。

(資料) 総務省「労働力調査」、厚生労働省「職業安定業務統計」、
 社団法人全国求人情報協会「求人広告掲載件数」

労働需給 (2)

(1) 労調・雇用者数と毎勤・常用労働者数

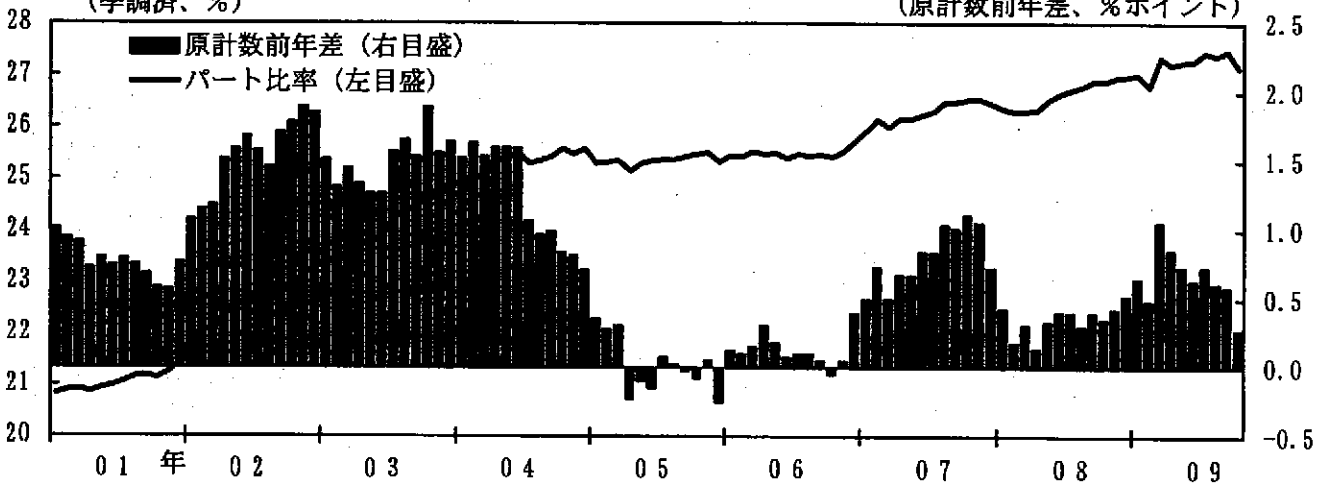
(前年比、寄与度、%)



(2) パート比率

(季調済、%)

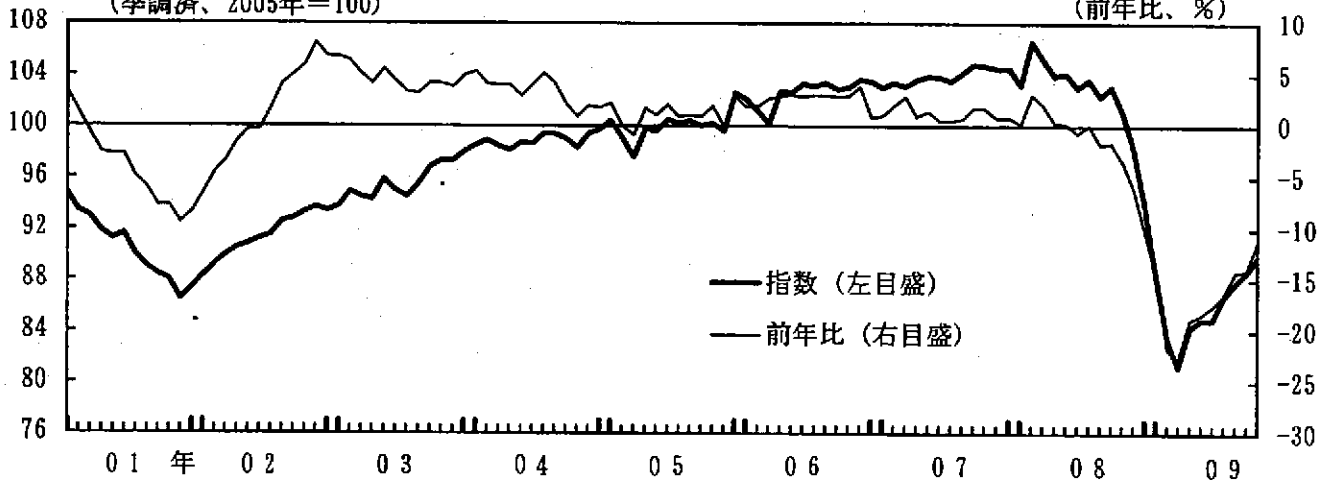
(原計数前年差、%ポイント)



(3) 所定外労働時間

(季調済、2005年=100)

(前年比、%)

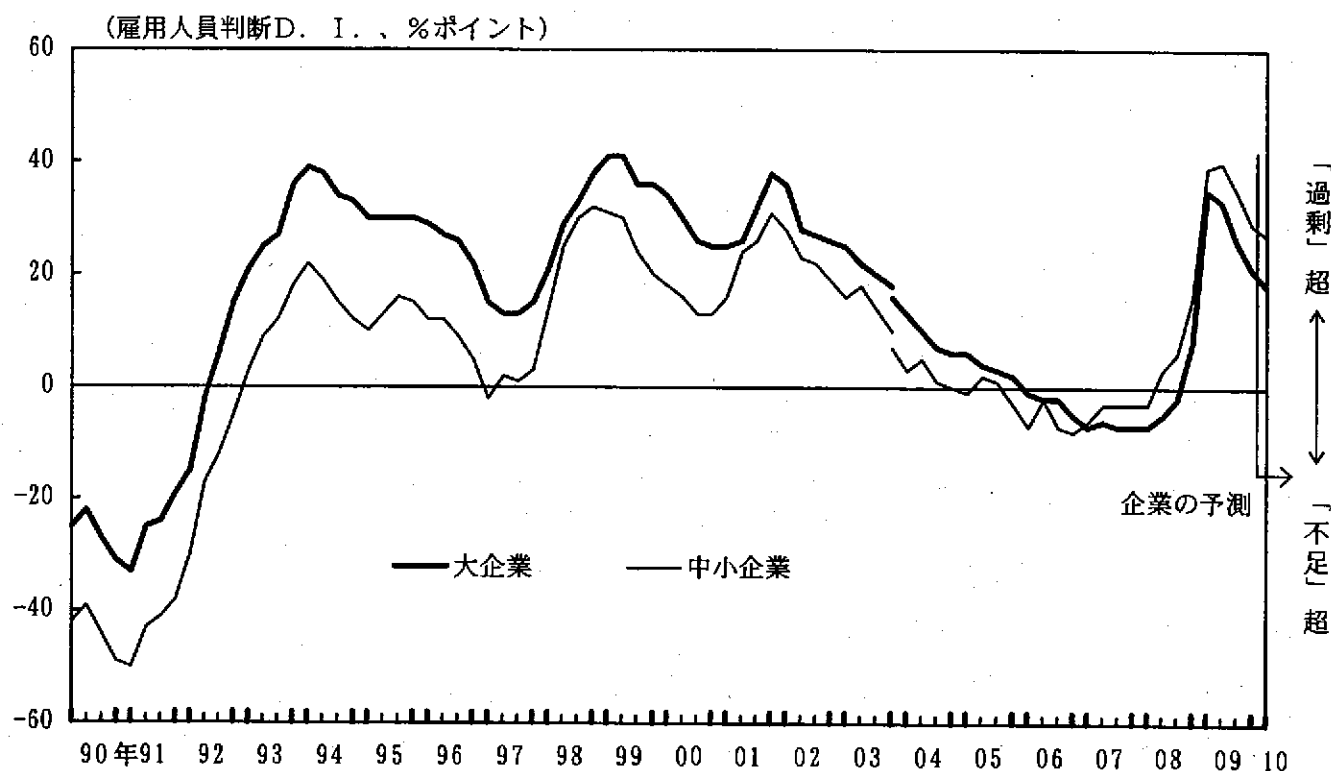


- (注) 1. 毎月勤労統計の計数は、事業所規模5人以上。
 2. パート比率は、パート労働者数/常用労働者数×100として算出。
 3. 2009/4Qは10月の前年同月比。

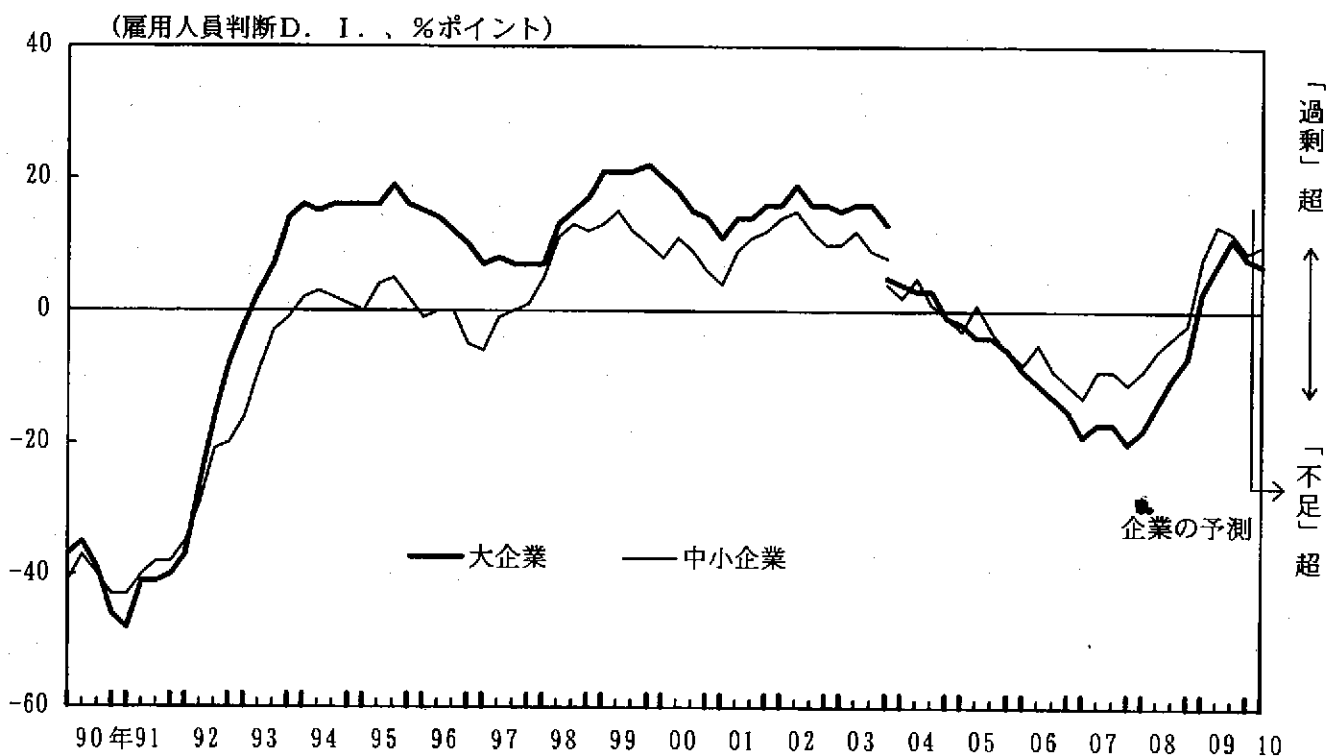
(資料) 厚生労働省「毎月勤労統計」、総務省「労働力調査」

雇用の過不足感 (1 2 月短観)

(1) 製造業



(2) 非製造業



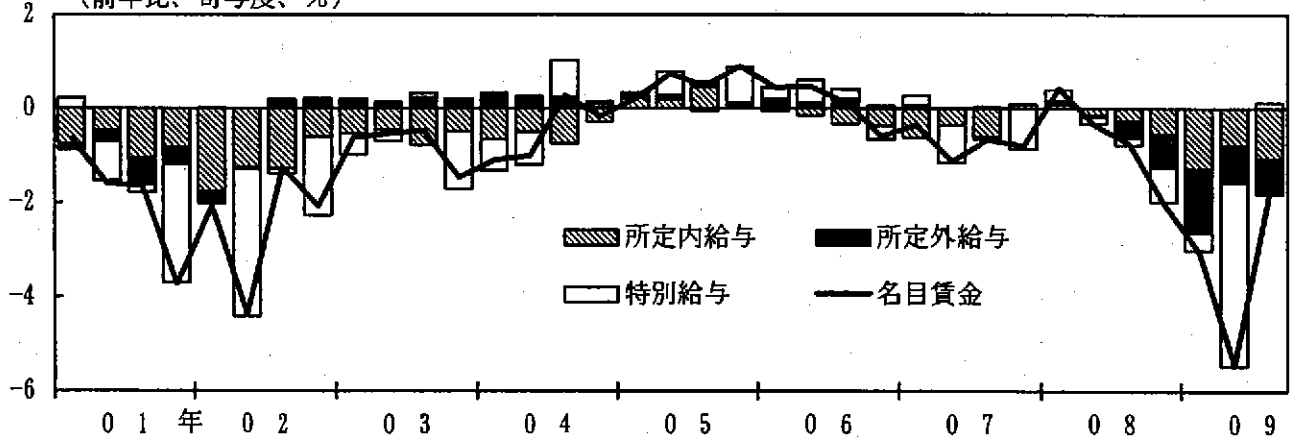
(注) 2004/3月調査より見直しを実施。旧ベースは2003/12月調査まで。
新ベースは2003/12月調査から。

(資料) 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」

雇用者所得

(1) 名目賃金

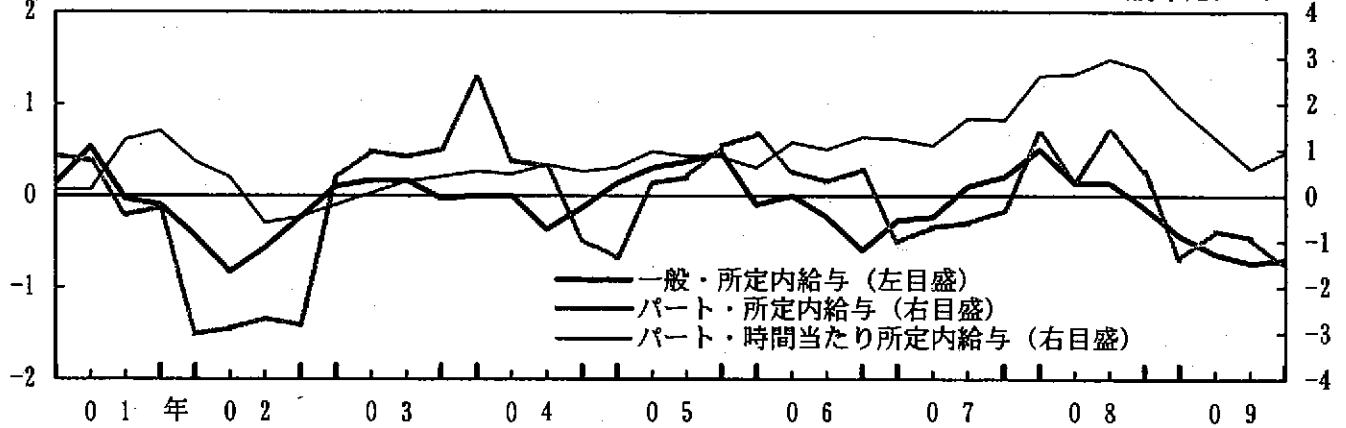
(前年比、寄与度、%)



(2) 就業形態別・所定内給与

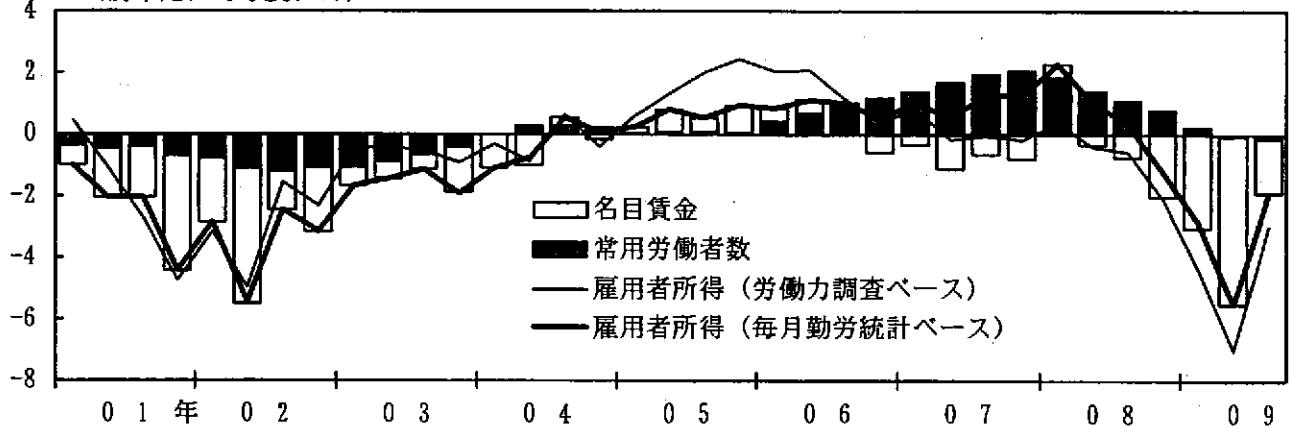
(前年比、%)

(前年比、%)



(3) 雇用者所得

(前年比、寄与度、%)



(注) 1. 毎月勤労統計の計数は、事業所規模5人以上。

2. (1) および (3) の四半期は以下のように組替えている。

第1四半期：3～5月、第2：6～8月、第3：9～11月、第4：12～2月。

2009/3Qは、9～10月の前年同期比。

3. (3) の雇用者所得は以下のように算出。

雇用者所得 (毎月勤労統計ベース) = 常用労働者数 (毎月勤労統計) × 名目賃金 (毎月勤労統計)

雇用者所得 (労働力調査ベース) = 雇用者数 (労働力調査) × 名目賃金 (毎月勤労統計)

4. (2) の2009/4Qは、10月の前年同月比。

(資料) 厚生労働省「毎月勤労統計」、総務省「労働力調査」

物価関連指標

— ()内は前年比、< >内は前期(月)比、[]内は3か月前比：%

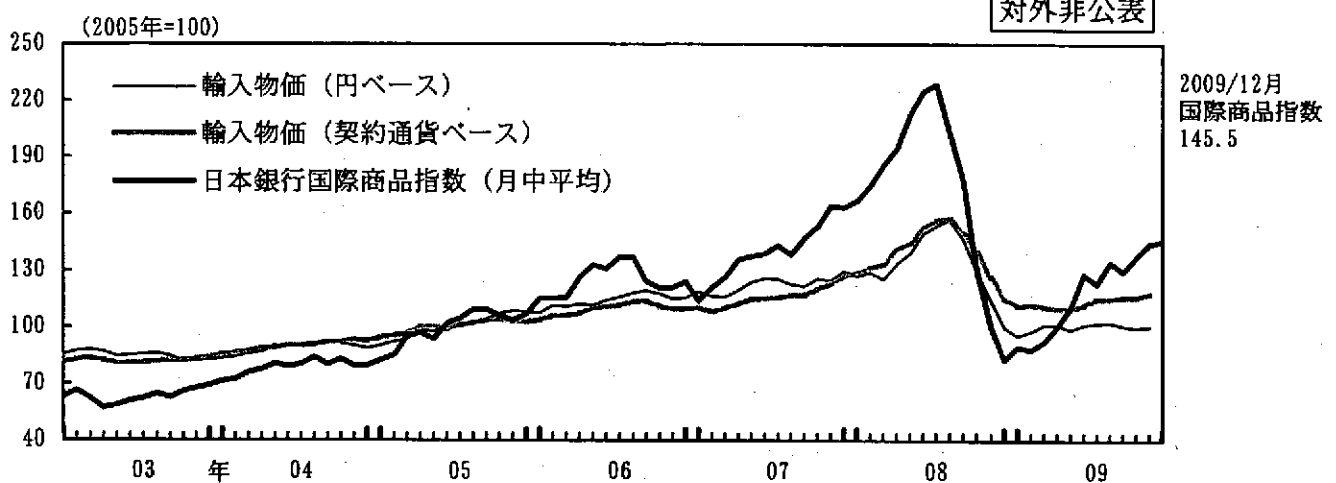
	08年度	09/4~6月	7~9	10~12	09/8月	9	10	11
輸出物価(円 ^レ -)	(-7.4)	(-11.0)	(-14.6)	(-5.6)	(-14.4)	(-13.7)	(-7.7)	(-3.5)
		< 3.4 >	< -1.5 >	< -2.1 >	< 1.2 >	< -2.3 >	< -0.9 >	< -0.3 >
同(契約通貨 ^レ -)	(1.3)	(-4.6)	(-5.4)	(-1.2)	(-5.1)	(-4.2)	(-2.2)	(-0.2)
		< 0.2 >	< 0.3 >	< 0.1 >	< 0.8 >	< 0.0 >	< -0.4 >	< 0.4 >
輸入物価(円 ^レ -)	(1.1)	(-28.7)	(-33.1)	(-18.0)	(-34.7)	(-31.3)	(-23.5)	(-11.9)
		< 2.5 >	< 1.4 >	< -1.8 >	< 0.4 >	< -1.8 >	< -1.1 >	< 0.8 >
					[3.9]	[-0.5]	[-2.5]	[-2.1]
同(契約通貨 ^レ -)	(11.1)	(-24.5)	(-25.4)	(-12.4)	(-27.0)	(-22.6)	(-17.4)	(-6.7)
		< -0.8 >	< 4.4 >	< 1.4 >	< -0.1 >	< 1.0 >	< -0.2 >	< 1.9 >
日本銀行国際商品指数	(-4.9)	< 29.3 >	< 10.9 >	< 11.1 >	< 2.4 >	< -6.0 >	< 14.0 >	< 1.7 >
日経商品指数(42種)	(-0.6)	< 1.8 >	< 3.5 >	< 2.1 >	< 2.6 >	< -0.8 >	< 1.9 >	< -0.2 >
国内企業物価	(3.2)	(-5.4)	(-8.3)	(-5.8)	(-8.5)	(-8.0)	(-6.8)	(-4.9)
		< -1.3 >	< -0.2 >	< -0.5 >	< 0.1 >	< 0.0 >	< -0.6 >	< 0.1 >
					[-0.1]	[0.2]	[-0.5]	[-0.5]
CSP I 総平均	(-0.1)	(-2.8)	(-3.4)	(-2.2)	(-3.5)	(-3.2)	(-2.2)	
総平均 除く国際運輸	(-0.1)	(-0.9)	(-1.3)	(-1.3)	(-1.4)	(-1.3)	(-1.3)	
全国CPI 総合	(1.1)	(-1.0)	(-2.2)	(-2.5)	(-2.2)	(-2.2)	(-2.5)	
総合 除く生鮮食品 [9588]	(1.2)	(-1.0)	(-2.3)	(-2.2)	(-2.4)	(-2.3)	(-2.2)	
うち								
財 除く農水畜産物 [3731]	(1.8)	(-2.5)	(-4.6)	(-4.0)	(-4.9)	(-4.5)	(-4.0)	
一般サービス [3775]	(0.7)	(-0.1)	(-0.4)	(-0.6)	(-0.4)	(-0.5)	(-0.6)	
公共料金 [1778]	(1.0)	(0.4)	(-1.5)	(-1.9)	(-1.5)	(-1.7)	(-1.9)	
総合 除く食料・エネルギー [6809]	(0.0)	(-0.6)	(-0.9)	(-1.1)	(-0.9)	(-1.0)	(-1.1)	
東京CPI 総合	(1.0)	(-0.8)	(-1.9)	(-2.3)	(-1.7)	(-2.1)	(-2.4)	(-2.2)
総合 除く生鮮食品 [9600]	(1.1)	(-0.6)	(-1.9)	(-2.0)	(-1.9)	(-2.1)	(-2.2)	(-1.9)
うち								
財 除く農水畜産物 [3023]	(1.2)	(-1.6)	(-3.2)	(-3.0)	(-3.1)	(-3.4)	(-3.4)	(-2.6)
一般サービス [4507]	(0.7)	(-0.4)	(-0.8)	(-0.9)	(-0.8)	(-0.9)	(-0.9)	(-0.8)
公共料金 [1806]	(1.7)	(0.4)	(-2.3)	(-2.9)	(-2.2)	(-2.6)	(-2.9)	(-2.8)
総合 除く食料・エネルギー [7150]	(0.1)	(-0.9)	(-1.2)	(-1.3)	(-1.1)	(-1.4)	(-1.4)	(-1.3)

- (注) 1. 国内企業物価の前期(月)比、3か月前比は夏季電力料金を調整。
 2. CPIの内訳[]内は、構成比(万分比)。
 3. 東京CPIの2009年11月のデータは中旬速報値。
 4. 2009/10~12月のCSP I、全国CPIは10月のデータを、それ以外は10~11月平均のデータを使用。

(資料) 総務省「消費者物価指数」、日本銀行「企業物価指数」「企業向けサービス価格指数」
 「日本銀行国際商品指数」、日本経済新聞社「日経主要商品価格指数」

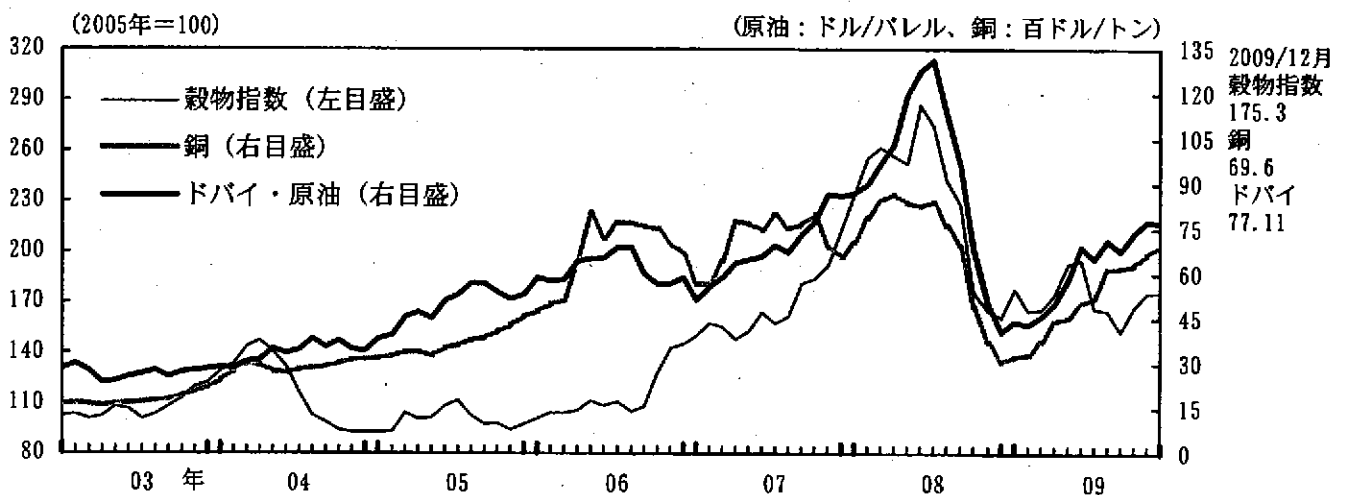
国際商品市況と輸入物価

(1) 輸入物価 (契約通貨ベース、円ベース)



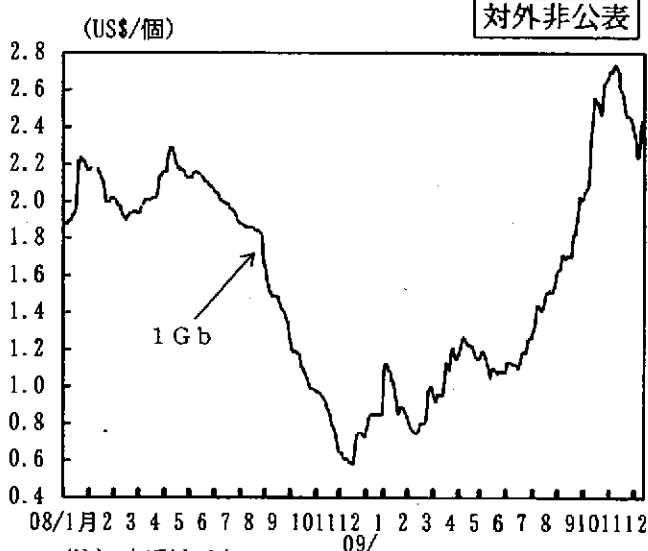
(注) 日本銀行国際商品指数の2009/12月は11日までの平均値。

(2) 原油・非鉄金属・穀物

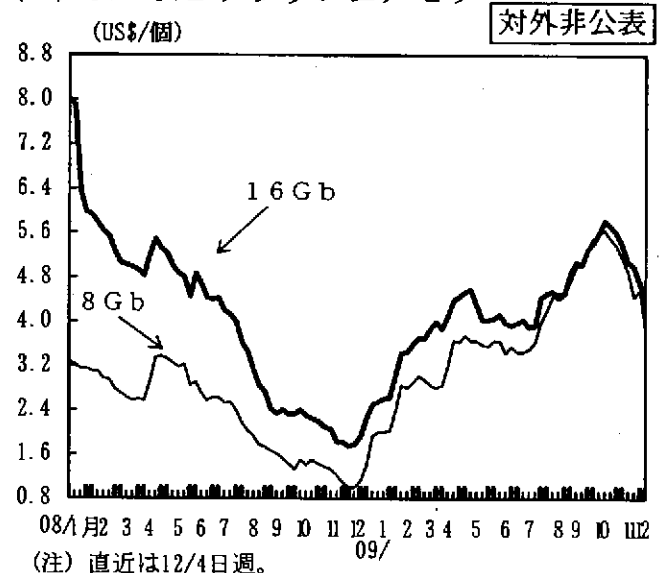


(注) 1. 穀物指数は、穀物 (小麦・大豆・トウモロコシ) の国際商品市況を加重平均したもの。
加重平均に用いるウエイトは貿易統計の輸入金額から算出。
2. 計数は月中平均。なお、2008/12月は11日までの平均値。

(3) DRAM



(4) NANDフラッシュメモリ



(資料) 日本銀行「企業物価指数」「日本銀行国際商品指数」、日本経済新聞社、Bloomberg、Gartner 等

輸入物価

(円ベース)

(1) 前年比

<四半期>

<月次>

	[]はウェイト (%)	(前年比, %)				(前年比, %)			
		09/1Q	2Q	3Q	4Q	09/8月	9	10	11
輸入物価	[100.0]	-22.9	-28.7	-33.1	-18.0	-34.7	-31.3	-23.5	-11.9
機械器具	[31.8]	-11.3	-8.8	-11.6	-7.7	-11.8	-11.9	-8.6	-6.8
金属・同製品	[9.5]	-29.5	-41.7	-38.0	-15.9	-36.7	-33.8	-21.4	-9.7
石油・石炭・天然ガス	[27.6]	-35.2	-45.0	-50.3	-31.3	-53.1	-47.9	-39.9	-20.3
化学製品	[6.9]	-17.6	-18.1	-23.6	-14.3	-24.0	-23.2	-18.2	-10.0
食料品・飼料	[8.2]	-23.4	-23.4	-25.7	-11.2	-25.8	-24.3	-14.4	-8.0
その他	[16.1]	-8.4	-8.5	-13.1	-6.7	-13.0	-13.4	-8.5	-4.9

— []はウェイト (%)

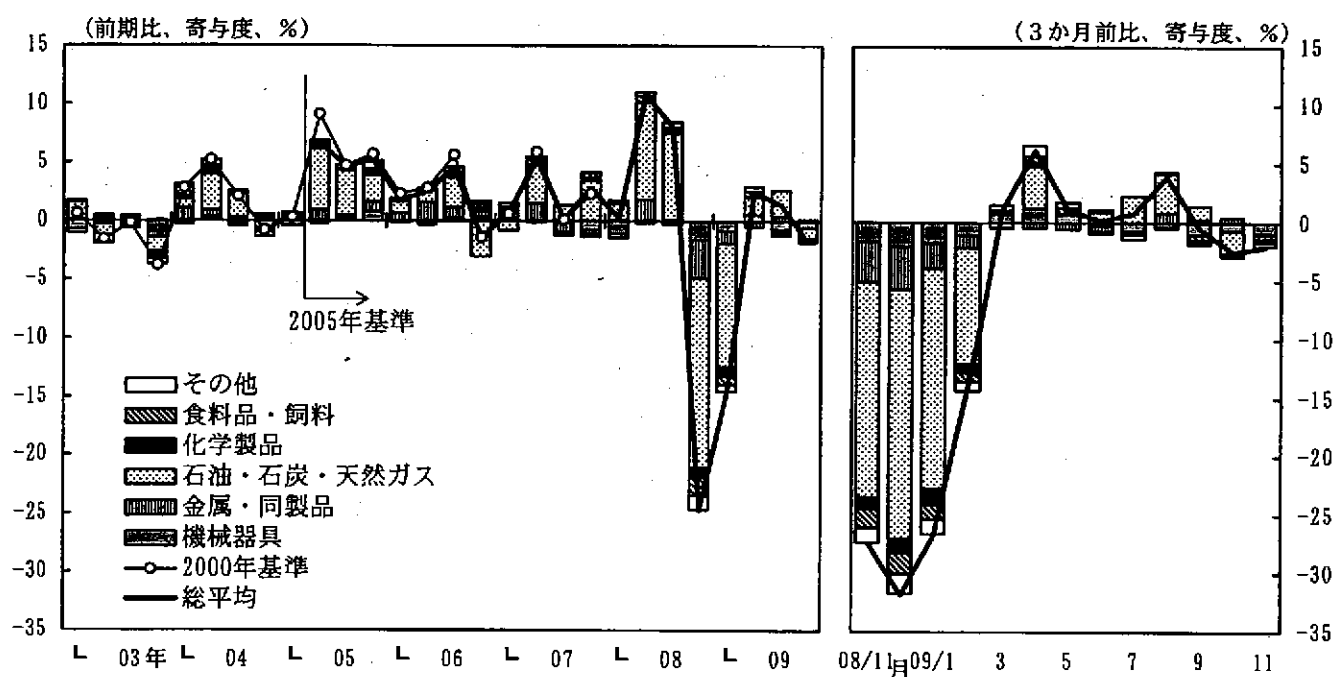
(2) 前期比、3か月前比

<四半期>

<月次>

	[]はウェイト (%)	(前期比, %)				(3か月前比, %)			
		09/1Q	2Q	3Q	4Q	09/8月	9	10	11
輸入物価	[100.0]	-14.6	2.5	1.4	-1.8	3.9	-0.5	-2.5	-2.1
機械器具	[31.8]	-3.3	1.9	-2.5	-2.3	-1.4	-3.7	-2.5	-3.4
金属・同製品	[9.5]	-11.0	-4.8	3.6	1.0	8.4	2.5	4.3	-1.5
石油・石炭・天然ガス	[27.6]	-29.5	5.2	7.5	-2.9	11.3	3.8	-5.9	-1.1
化学製品	[6.9]	-11.8	0.8	0.0	0.4	2.0	-0.6	0.5	-0.7
食料品・飼料	[8.2]	-8.5	5.0	-2.9	-1.6	-1.2	-5.4	-2.4	-2.9
その他	[16.1]	-4.3	2.5	-1.6	-1.1	0.2	-2.2	-0.9	-2.3

— []はウェイト (%)



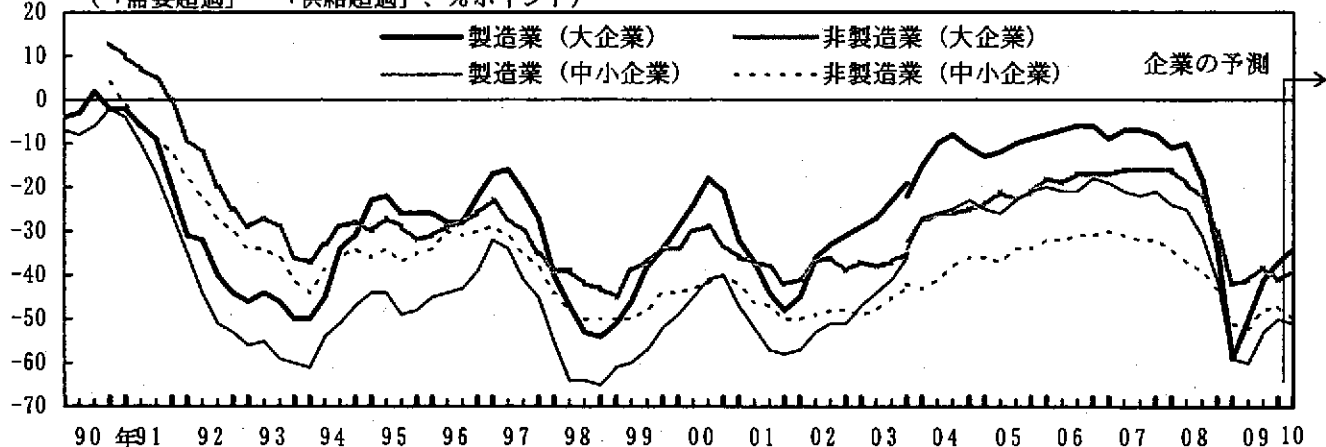
(注) 1. 機械器具：一般機器、電気・電子機器、輸送用機器、精密機器
 2. 2009/4Qは、10～11月の平均値を用いて算出。なお、2000年基準の2007/4Qは10月の値。

(資料) 日本銀行「企業物価指数」

国内需給環境 (12月短観)

(1) 国内での製商品・サービス需給判断D. I.

(「需要超過」 - 「供給超過」、%ポイント)



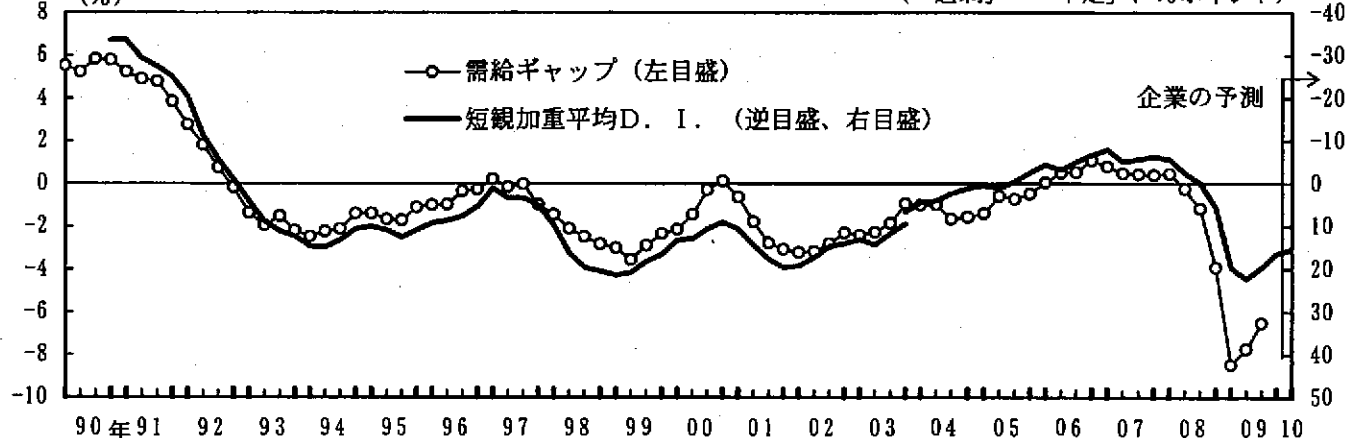
(注) 2004年3月調査より見直しを実施。

旧ベースは2003年12月調査まで、新ベースは2003年12月調査から(下の図表も同じ)。

(2) 短観加重平均D. I. (全産業全規模合計) と需給ギャップ

(%)

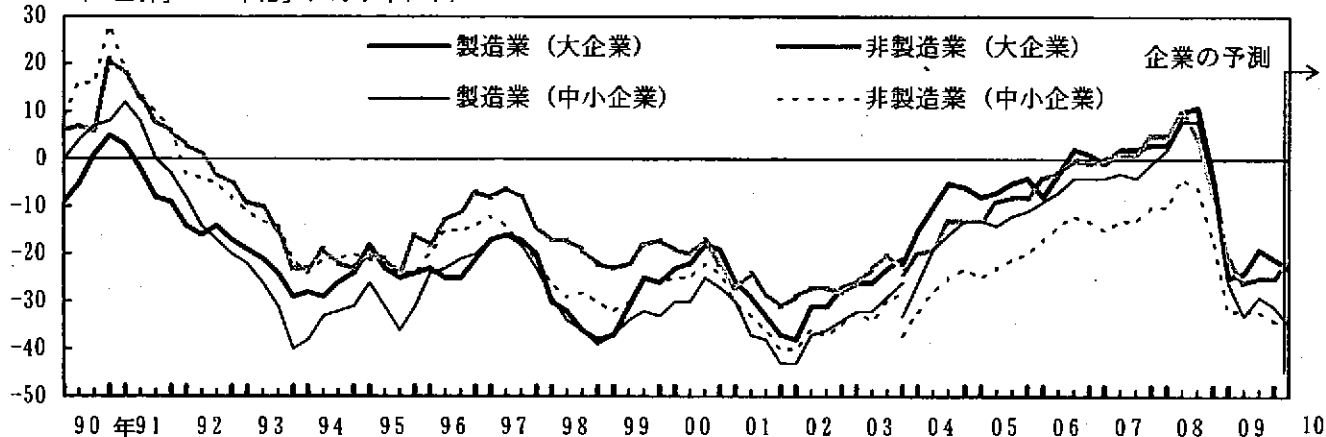
(「過剰」 - 「不足」、%ポイント)



- (注) 1. 短観加重平均D. I. は、生産・営業用設備判断D. I.と雇用人員判断D. I.を資本・労働分配率(1990~2007年度平均)で加重平均したもの。生産・営業用設備判断D. I.の調査対象は、1990/3Q以前は製造業に限られていた。このため、非製造業にまで調査対象が拡大された1990/4Q以降について、上記計数を算出。
2. 需給ギャップは、日本銀行調査統計局による試算。需給ギャップの推計には様々な推計誤差が含まれるため、十分な幅を持って評価する必要がある。

(3) 販売価格判断D. I.

(「上昇」 - 「下落」、%ポイント)

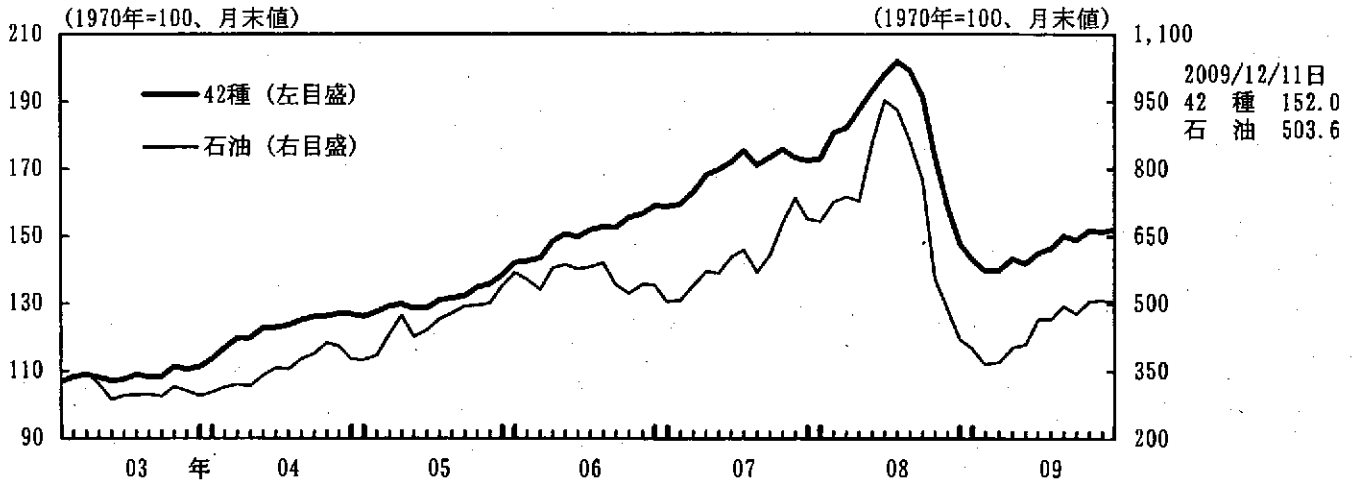


(資料) 日本銀行「全国企業短期経済観測調査」、内閣府「国民経済計算」、
内閣府・財務省「法人企業景気予測調査」、総務省「労働力調査」、
厚生労働省「毎月勤労統計」「職業安定業務統計」、経済産業省「鉱工業指数統計」等

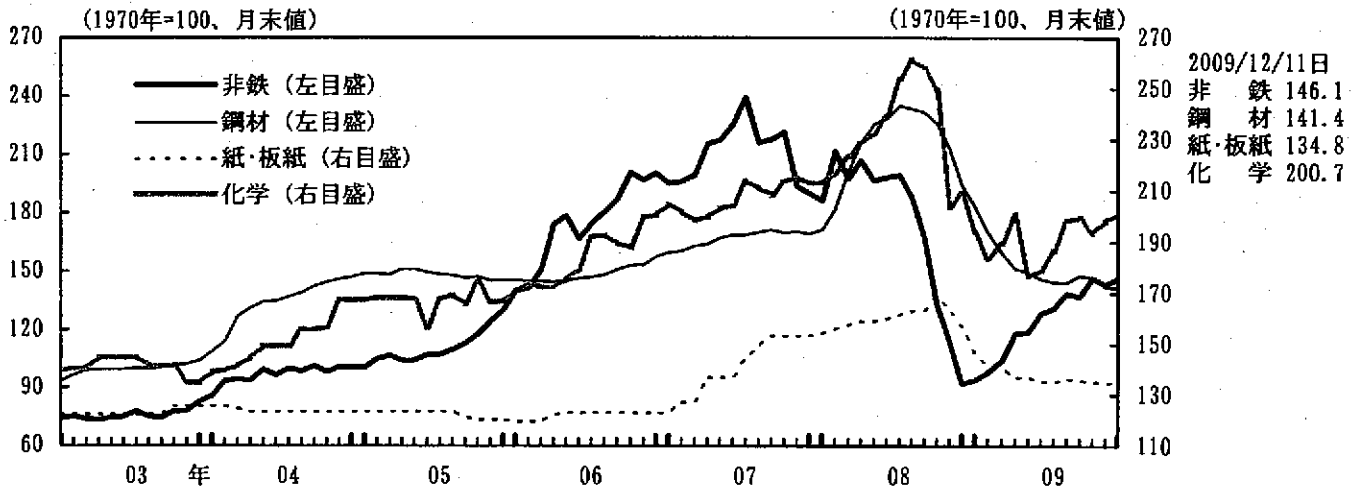
国内商品市況

(1) 日経商品指数

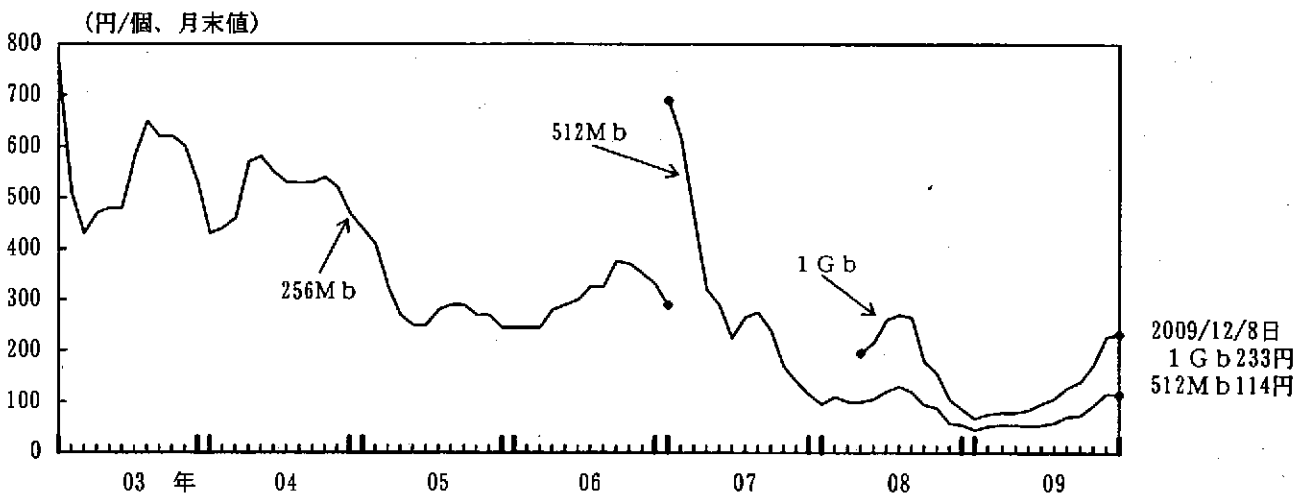
① 全体(42種)、石油



② 非鉄、鋼材、紙・板紙、化学



(2) 半導体市況



(注) 1. 半導体市況は、大口需要家渡し。月次計数は、各月最終週の火曜日の価格。
 2. 半導体市況は、世代交代を反映し、2007年1月に256Mb(DDR型)→512Mb(DDR2型)へと、系列の切り替えを行っている。
 なお、2006年2月14日より、データがドル建てに変更されたため、直前1週間の平均レートで円換算している。

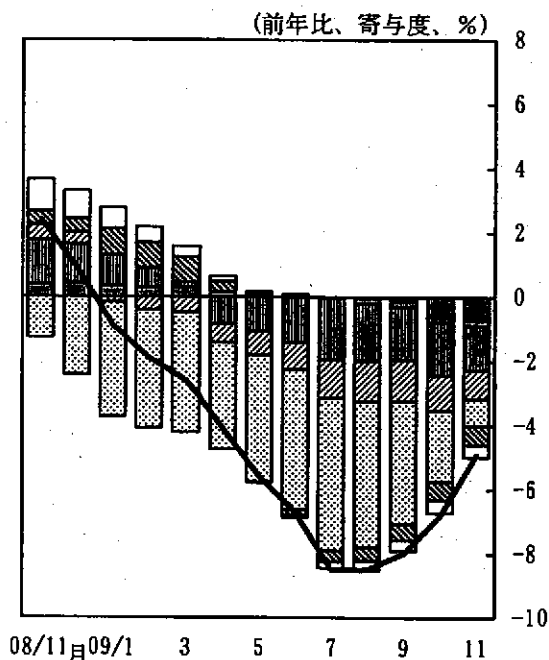
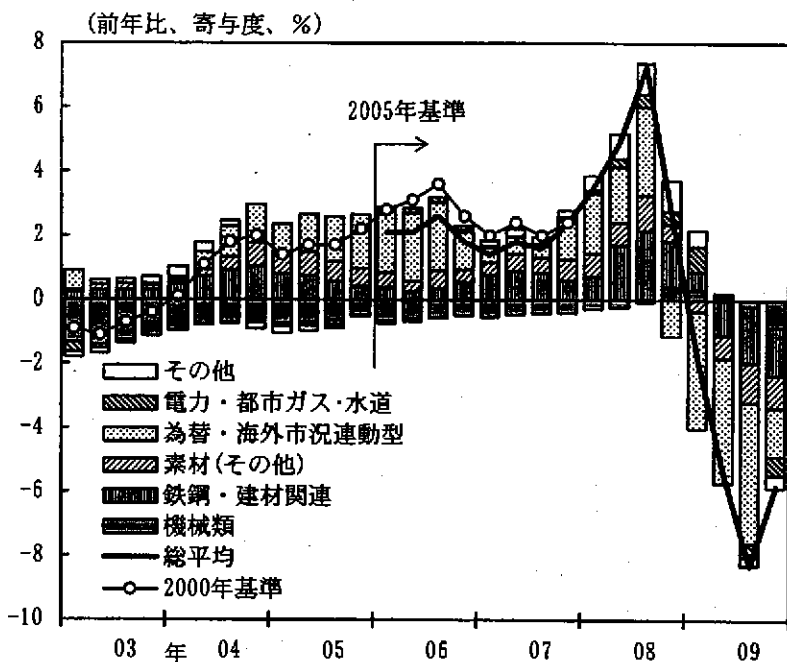
(資料) 日本経済新聞社「日経主要商品価格指数」等

国内企業物価

(1) 前年比

<四半期>

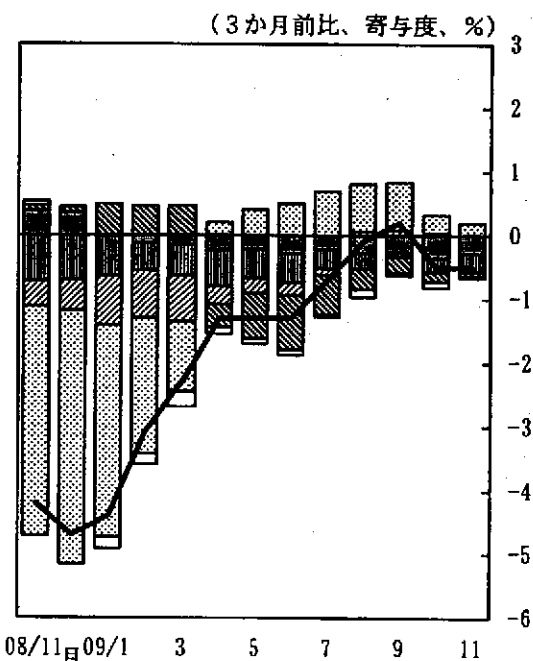
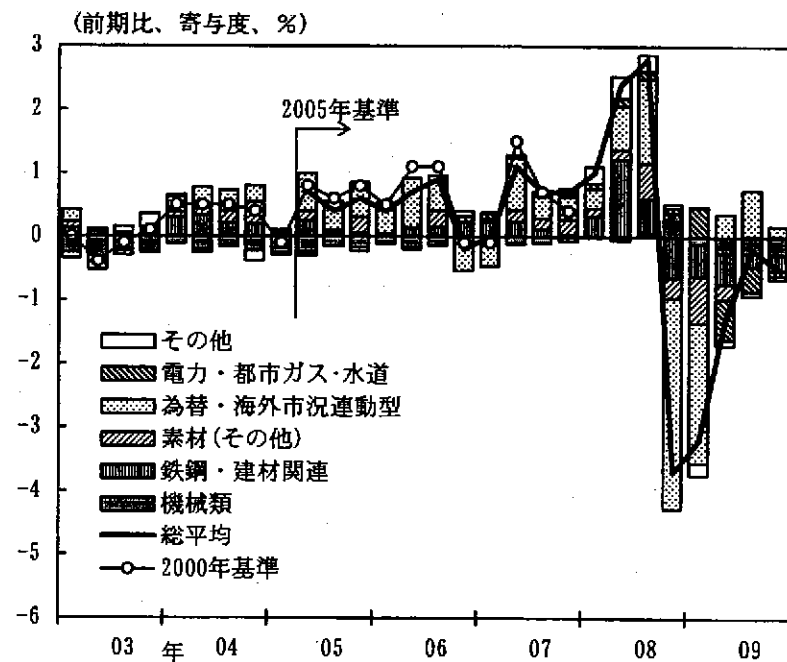
<月次>



(2) 前期比、3か月前比 (夏季電力料金調整後)

<四半期>

<月次>

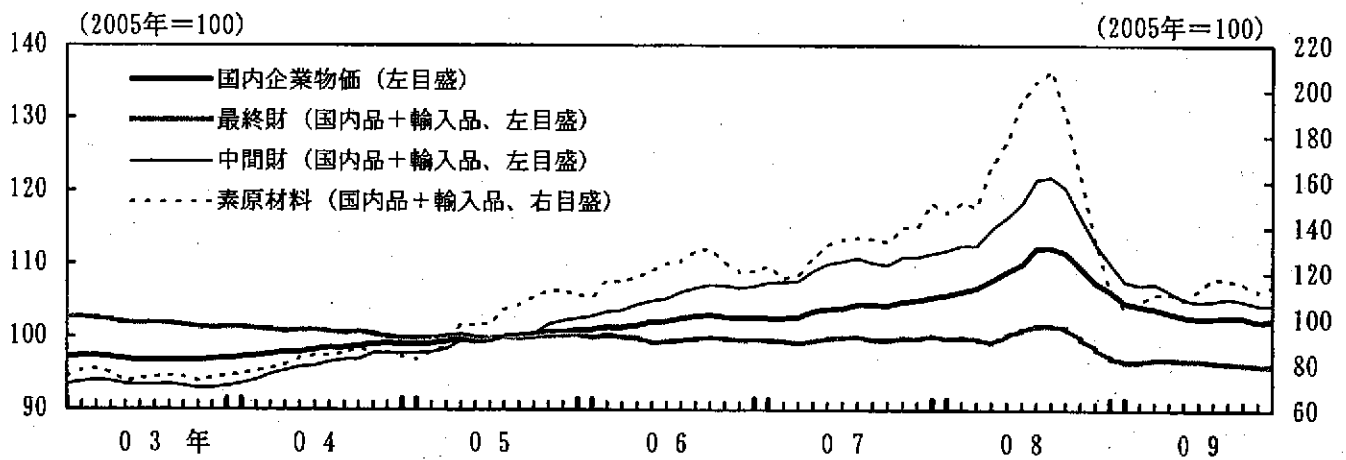


- (注) 1. 機械類：電気機器、情報通信機器、電子部品・デバイス、一般機器、輸送用機器、精密機器
 2. 鉄鋼・建材関連：鉄鋼、金属製品、窯業・土石製品、製材・木製品、スクラップ類
 3. 素材(その他)：化学製品、プラスチック製品、繊維製品、パルプ・紙・同製品
 4. 為替・海外市況連動型：石油・石炭製品、非鉄金属
 5. その他：加工食品、その他工業製品、農林水産物、鉱産物
 6. (2)は、毎年7~9月にかけて適用される夏季割り増し電力料金の影響(国内企業物価に対する寄与度は0.2%程度)を除いて算出。
 7. 2009/4Qは、10~11月の平均値を用いて算出。なお、2000年基準の2007/4Qは、10月の値。

(資料) 日本銀行「企業物価指数」

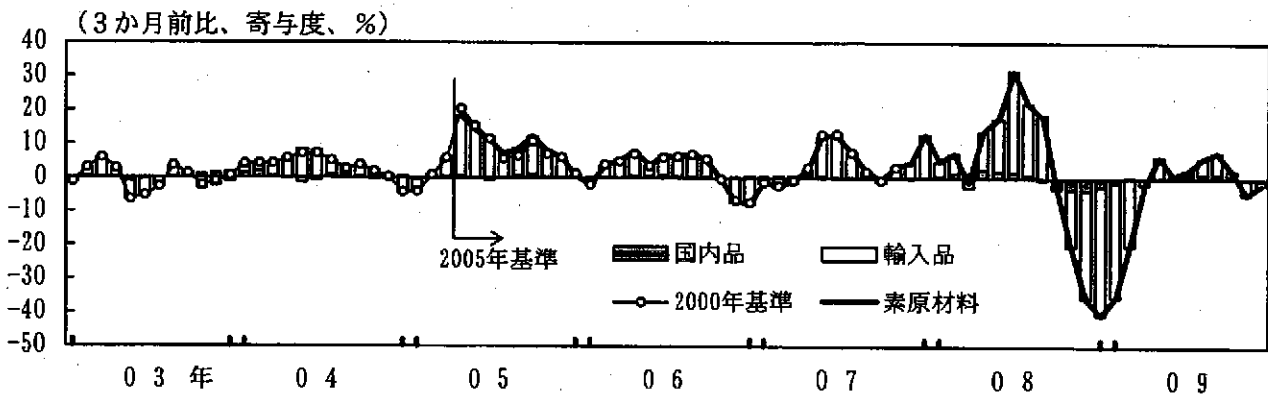
企業物価指数の需要段階別推移

(1) 需要段階別に見た企業物価

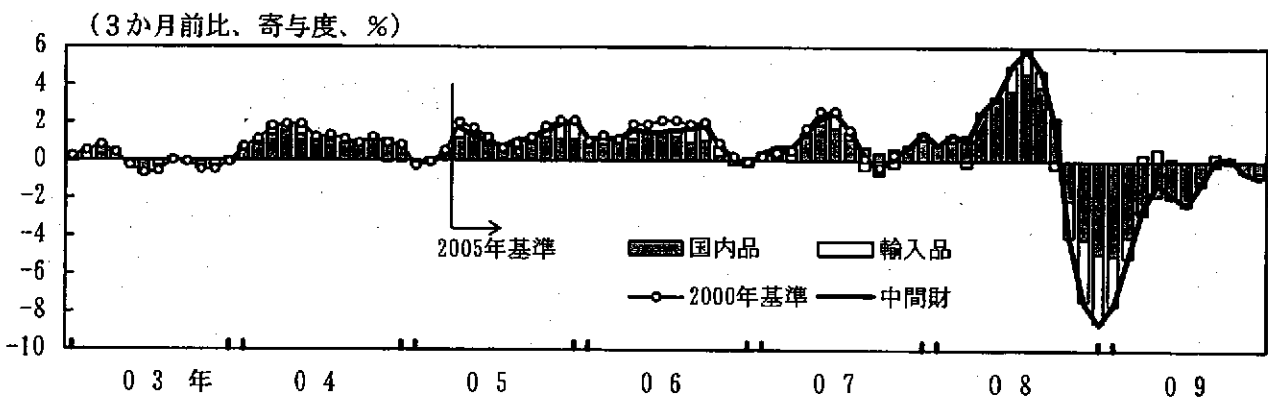


(2) 各需要段階別指数の推移 (国内品+輸入品)

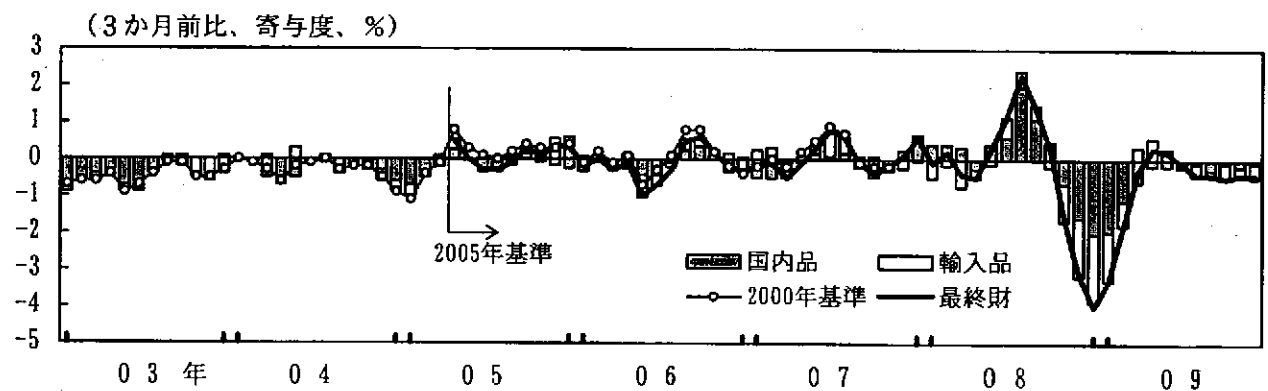
① 素原材料



② 中間財



③ 最終財



(注) 国内企業物価および中間財については、夏季電力料金を調整。

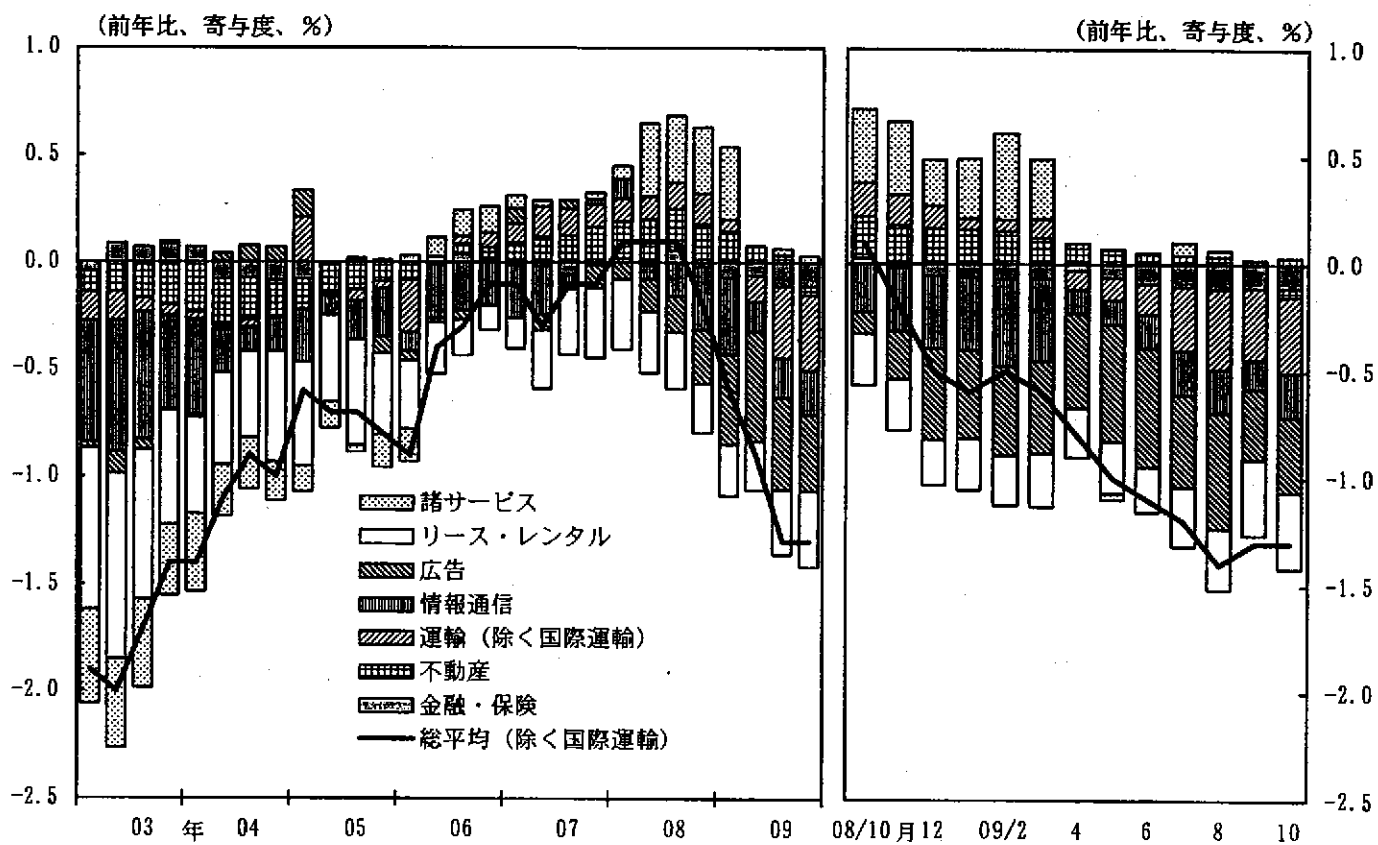
(資料) 日本銀行「企業物価指数」

(図表45)

企業向けサービス価格

		<四半期>				<月次>			
		09/1Q	2Q	3Q	4Q	09/7月	8	9	10
総平均 (除く国際運輸)	[95.8]	-0.6	-0.9	-1.3	-1.3	-1.2	-1.4	-1.3	-1.3
金融・保険	[5.9]	-1.1	-1.0	-1.8	-1.8	-1.7	-1.9	-1.8	-1.8
不動産	[6.6]	2.0	1.1	0.5	-0.6	0.6	0.5	0.3	-0.6
運輸 (除く国際運輸)	[16.8]	0.3	-0.7	-1.9	-2.0	-1.7	-2.1	-1.9	-2.0
情報通信	[21.7]	-1.6	-0.6	-0.8	-0.9	-0.9	-0.9	-0.6	-0.9
広告	[6.9]	-5.9	-7.2	-6.3	-5.1	-6.2	-8.0	-4.7	-5.1
リース・レンタル	[8.5]	-2.9	-2.8	-3.7	-4.4	-3.4	-3.5	-4.4	-4.4
諸サービス	[29.5]	1.1	0.0	0.1	0.1	0.2	0.1	0.0	0.1
総平均	[100.0]	-2.0	-2.8	-3.4	-2.2	-3.4	-3.5	-3.2	-2.2

— []はウェイト (%)

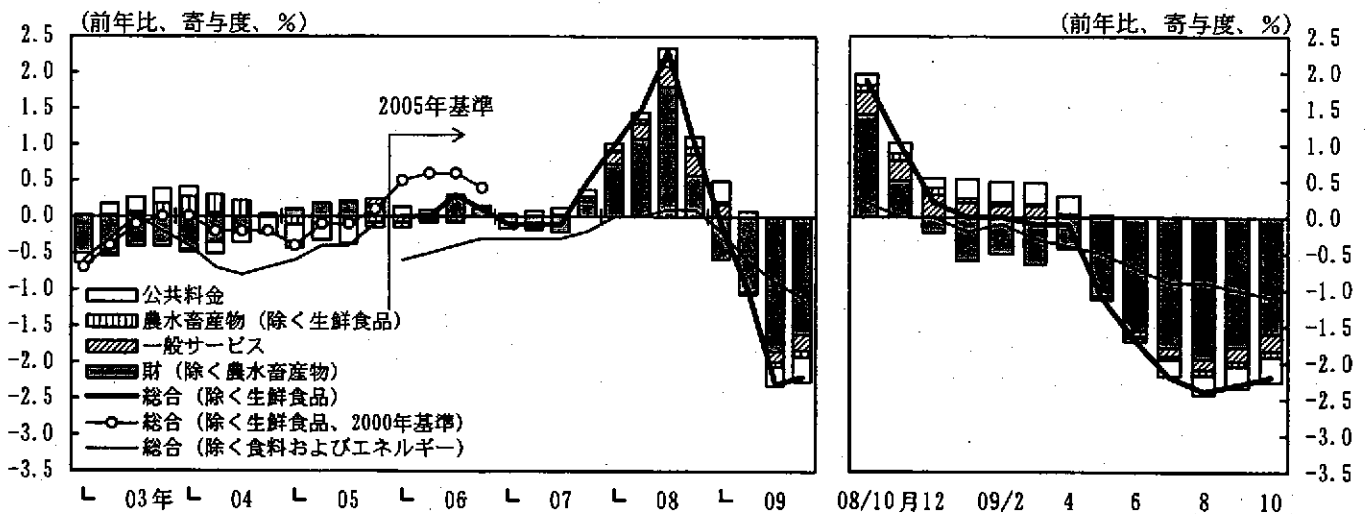


(注) 2009/4Qは、10月の値を用いて算出。

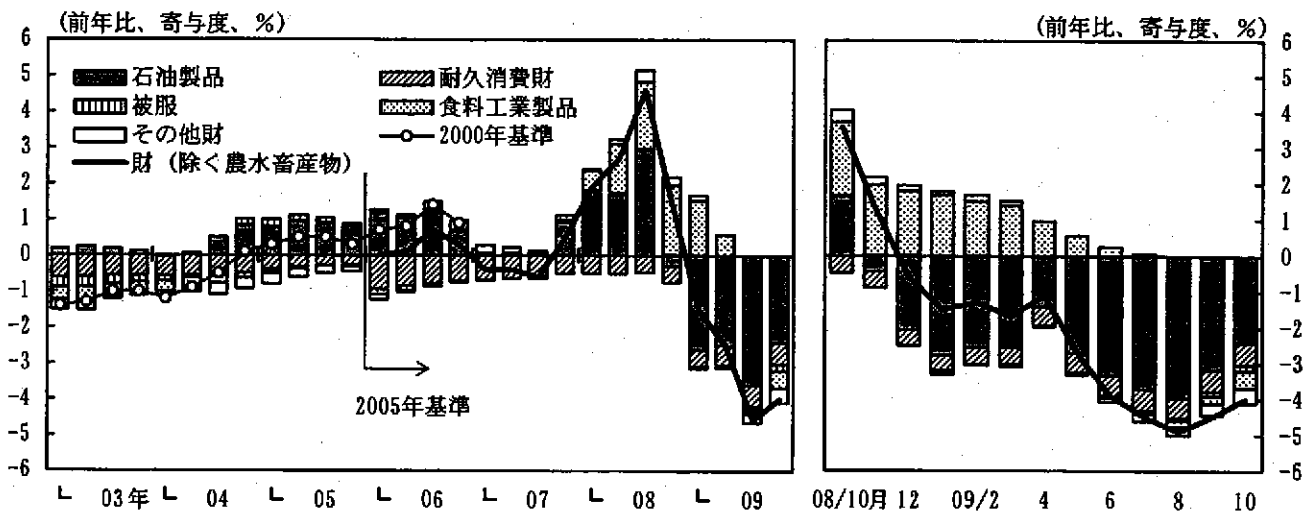
(資料) 日本銀行「企業向けサービス価格指数」

消費者物価 (全国)

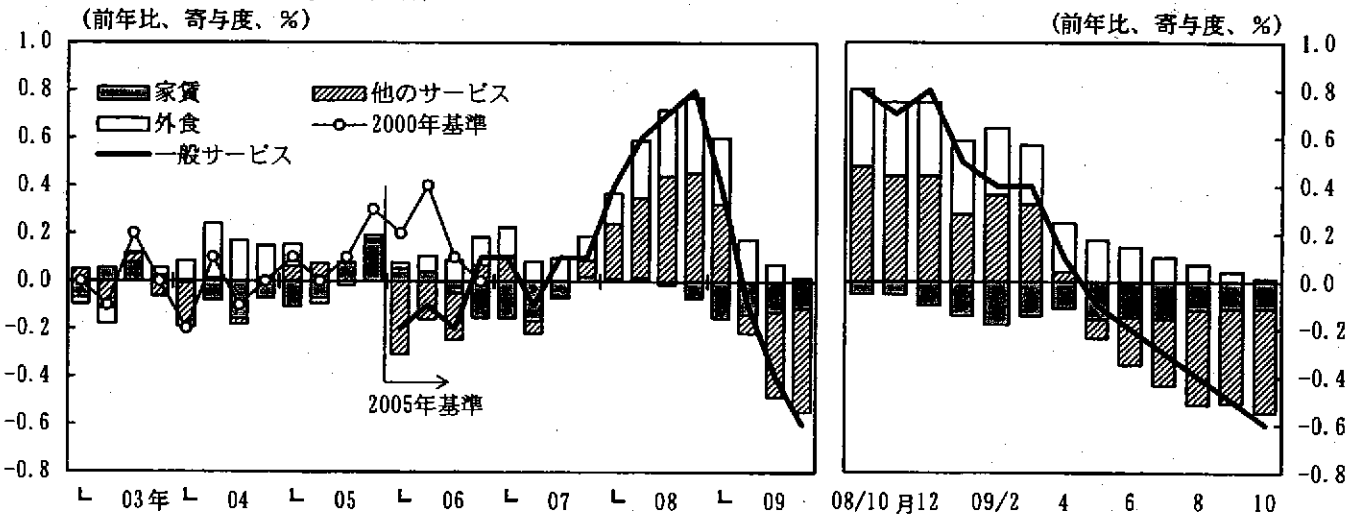
(1) 総合 (除く生鮮食品)



(2) 財 (除く農水畜産物) の要因分解



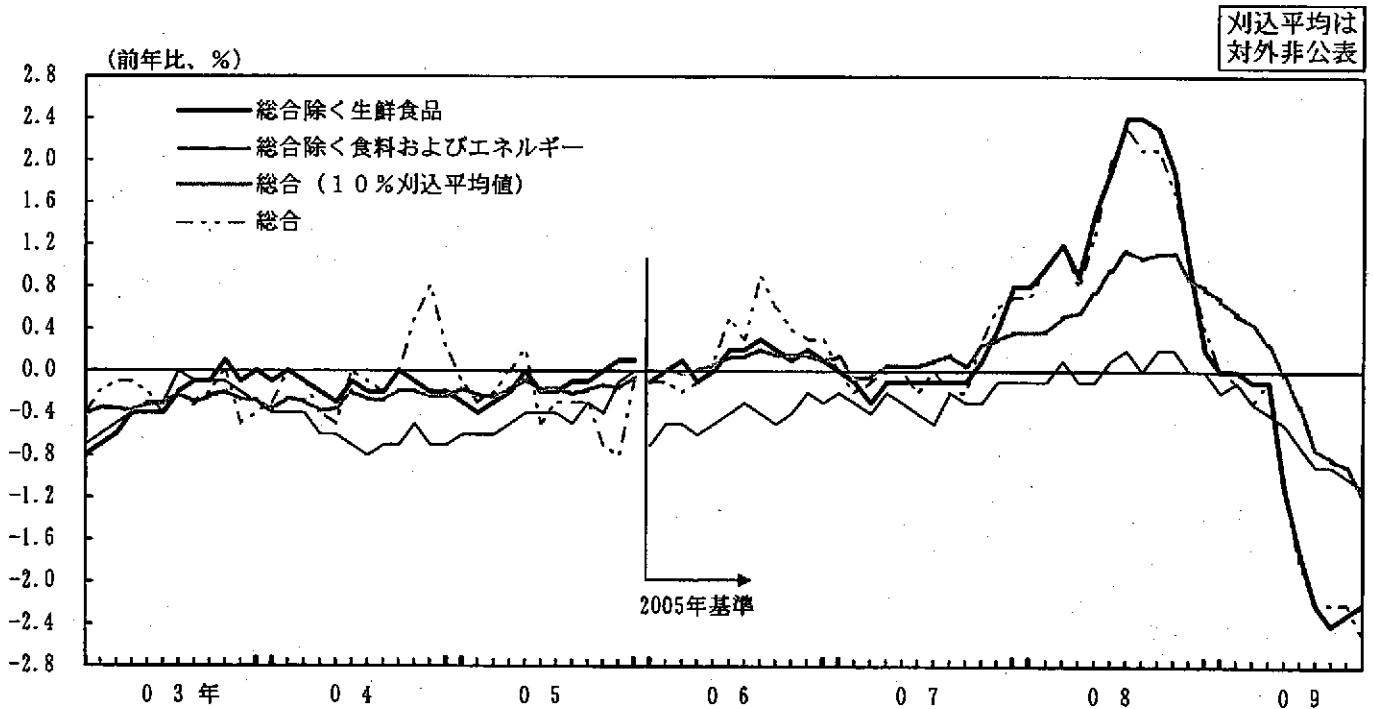
(3) 一般サービスの要因分解



- (注) 1. 分類は、原則、総務省に則している。
 ただし、以下の分類については、組み替えて定義している (「」内は総務省公表ベース)。
 財 = 「財」 - 「電気・都市ガス・水道」
 公共料金 = 「公共サービス」 + 「電気・都市ガス・水道」
 被服 = 「衣料」 + 「シャツ・セーター・下着類」
 家賃 = 「民営家賃」 + 「持家の帰属家賃」
 2. 「食料」は「酒類」を除く。また、「エネルギー」は「電気代」、「都市ガス代」、「プロパンガス」、「灯油」、「ガソリン」からなる。
 3. 2009/4Qは、10月の値を用いて算出。

(資料) 総務省「消費者物価指数」

消費者物価における食料・エネルギーの影響 (全国)



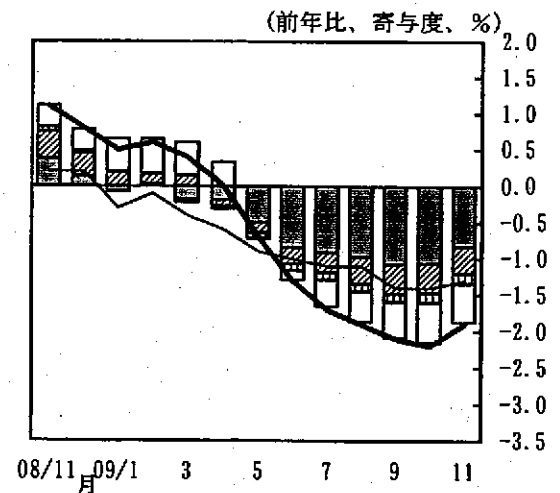
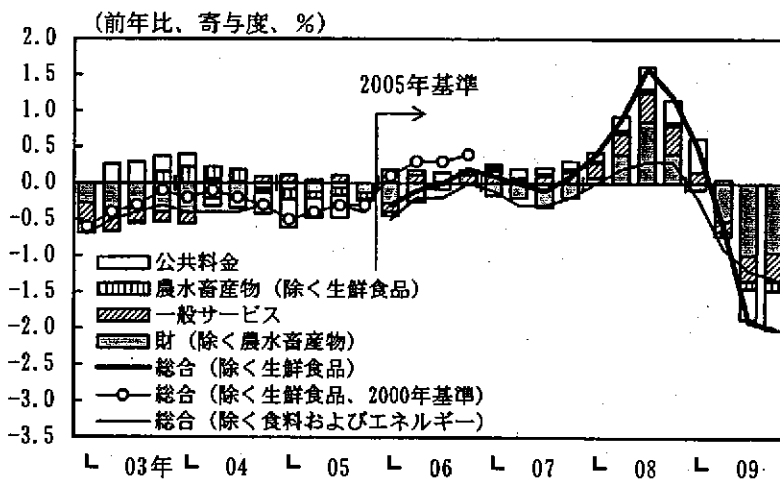
	前年比		総合除く生鮮食品に対する寄与度							前年比、%	
	総合除く 生鮮食品	総合除く 食料および エネルギー	① 食料 工業製品	② 外食	③ 農水畜産物	④ 石油製品	⑤ 電気代	⑥ 都市 ガス代	食料・ エネルギー (①~⑥) 計	総合	生鮮食品
対(総合 =10000)	9588	6809	1214	555	269	355	292	93	2778	10000	412
09/1Q	▲0.1	▲0.2	0.58	0.11	0.05	▲1.03	0.25	0.10	0.07	▲0.1	▲0.5
2Q	▲1.0	▲0.6	0.23	0.07	▲0.01	▲0.98	0.04	0.05	▲0.60	▲1.0	▲1.6
3Q	▲2.3	▲0.9	▲0.02	0.03	▲0.06	▲1.43	▲0.16	▲0.06	▲1.71	▲2.2	▲1.0
4Q	▲2.2	▲1.1	▲0.17	0.01	▲0.08	▲0.96	▲0.21	▲0.12	▲1.52	▲2.5	▲6.8
09/5月	▲1.1	▲0.5	0.23	0.07	▲0.01	▲1.07	▲0.00	0.04	▲0.73	▲1.1	▲0.5
6月	▲1.7	▲0.7	0.11	0.06	▲0.03	▲1.33	▲0.05	0.02	▲1.22	▲1.8	▲3.6
7月	▲2.2	▲0.9	0.04	0.04	▲0.05	▲1.48	▲0.14	▲0.04	▲1.63	▲2.2	▲4.3
8月	▲2.4	▲0.9	▲0.05	0.03	▲0.07	▲1.56	▲0.16	▲0.06	▲1.87	▲2.2	1.7
9月	▲2.3	▲1.0	▲0.06	0.02	▲0.06	▲1.27	▲0.18	▲0.08	▲1.63	▲2.2	▲0.1
10月	▲2.2	▲1.1	▲0.17	0.01	▲0.08	▲0.96	▲0.21	▲0.12	▲1.52	▲2.5	▲6.8

- (注) 1. 食料は酒類を除く。
 2. ①の食料工業製品は、酒類を除く。
 3. ③の農水畜産物は、生鮮食品および切り花(カーネーション、きく、バラ)を除く。
 4. ④の石油製品はプロパンガス、灯油、ガソリンからなる。
 5. 食料は食料工業製品(除く酒類)、外食、農水畜産物(除く生鮮食品および切り花)から、エネルギーは石油製品、電気代、都市ガス代からなる。
 6. 2009/4Qは、10月の値を用いて算出。

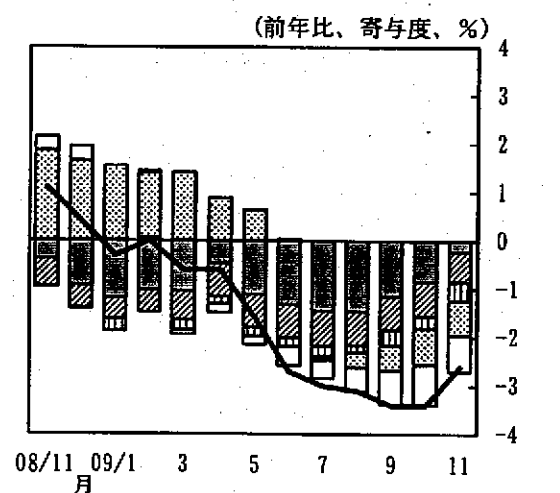
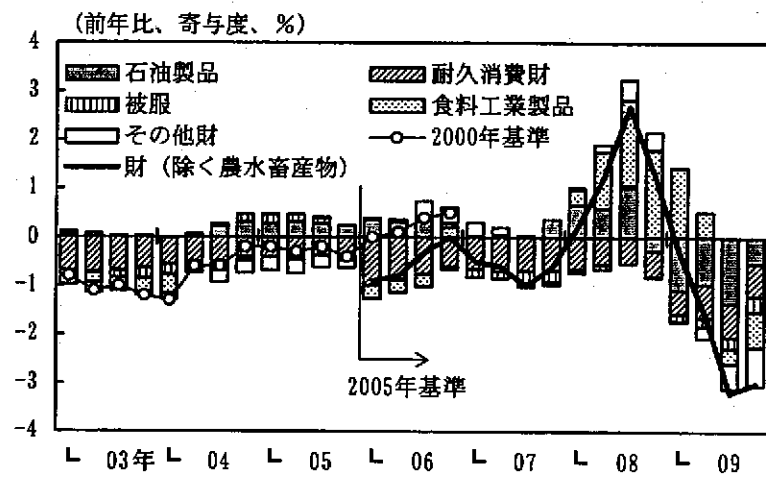
(資料) 総務省「消費者物価指数」

消費者物価 (東京)

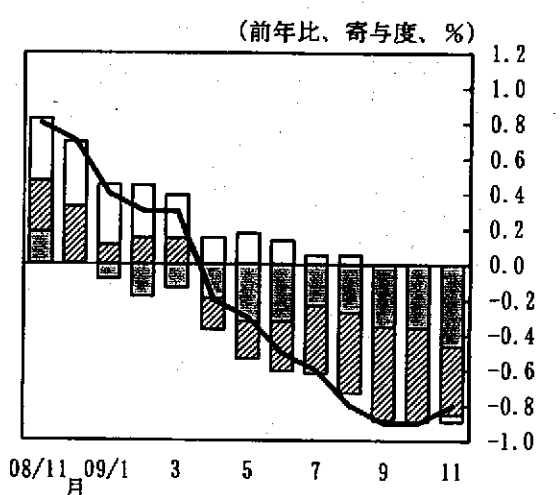
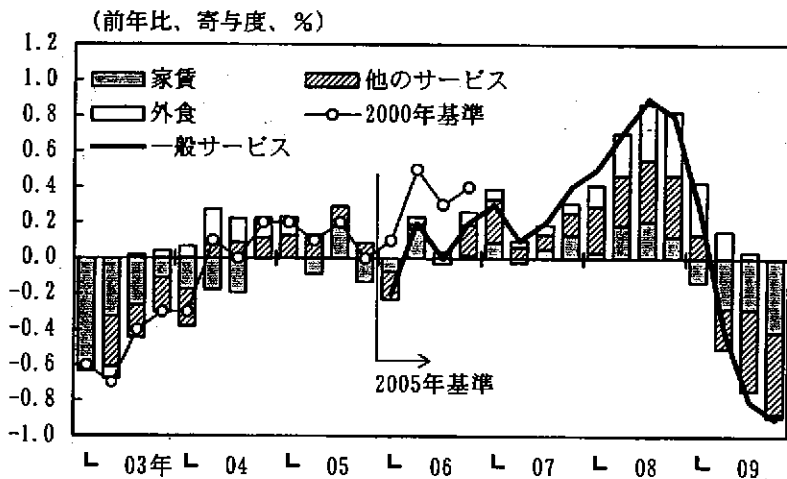
(1) 総合 (除く生鮮食品)



(2) 財 (除く農水畜産物) の要因分解



(3) 一般サービスの要因分解



- (注) 1. 分類は、原則、総務省に則している。
 ただし、以下の分類については、組み替えて定義している(「」内は総務省公表ベース)。
 財 = 「財」 - 「電気・都市ガス・水道」
 公共料金 = 「公共サービス」 + 「電気・都市ガス・水道」
 被服 = 「衣料」 + 「シャツ・セーター・下着類」
 家賃 = 「民営家賃」 + 「持家の帰属家賃」
 2. 「食料」は「酒類」を除く。また、「エネルギー」は「電気代」、「都市ガス代」、「プロパンガス」、「灯油」、「ガソリン」からなる。
 3. 2009/11月のデータは中旬速報値。
 4. 2009/4Qは、10~11月の平均値を用いて算出。

(資料) 総務省「消費者物価指数」

地 価 関 連 指 標

＜市街地価格指数＞

		— 半年前比：%				
		07/9月末	08/3月末	9月末	09/3月末	9月末
六大都市	商業地	8.5	3.2	-4.2	-10.8	-6.9
	住宅地	3.4	0.7	-2.5	-5.4	-2.6
六大都市以外	商業地	-0.5	-0.6	-1.7	-2.8	-2.7
	住宅地	-0.3	-0.5	-1.3	-2.0	-1.9

＜地価公示(1月1日時点)・都道府県地価調査(7月1日時点)＞

		— 前年比：%						
		06/7月時点	07/1	7	08/1	7	09/1	7
全用途平均	全国平均	-2.4	—	-0.5	—	-1.2	—	-4.4
	東京圏	1.3	4.6	6.3	6.7	2.1	-4.7	-6.9
	大阪圏	0.4	2.7	3.5	3.4	1.2	-2.3	-5.0
	名古屋圏	0.1	2.8	3.1	3.8	1.4	-3.5	-4.9
	三大都市圏	0.9	3.8	5.1	5.3	1.7	-3.8	-6.1
	地方平均	-3.5	—	-2.4	—	-2.3	—	-3.8
	住宅地	全国平均	-2.3	—	-0.7	—	-1.2	—
	東京圏	0.7	3.6	4.8	5.5	1.6	-4.4	-6.5
	大阪圏	0.0	1.8	2.9	2.7	1.0	-2.0	-4.5
	名古屋圏	-0.1	1.7	2.4	2.8	1.5	-2.8	-4.2
	三大都市圏	0.4	2.8	4.0	4.3	1.4	-3.5	-5.6
	地方平均	-3.1	—	-2.3	—	-2.1	—	-3.4
商業地	全国平均	-2.1	—	1.0	—	-0.8	—	-5.9
	東京圏	3.9	9.4	12.1	12.2	4.0	-6.1	-8.9
	大阪圏	3.6	8.3	8.0	7.2	2.8	-3.3	-7.1
	名古屋圏	2.4	7.8	7.2	8.4	1.9	-5.9	-7.3
	三大都市圏	3.6	8.9	10.4	10.4	3.3	-5.4	-8.2
	地方平均	-4.3	—	-2.6	—	-2.5	—	-4.9

＜オフィスビル空室率等

>

＜土地取引件数（法務統計「売買による土地所有権の移転登記件数」）＞

		— 千件、()内は前年比：%						
07年	08年	09/1Q	2Q	3Q	09/7月	8	9	
1,440	1,294	297	296	281	104	90	87	
(-6.9)	(-10.1)	(-10.7)	(-11.6)	(-8.2)	(-8.4)	(-3.7)	(-12.1)	

(資料) 日本不動産研究所「市街地価格指数」、国土交通省「地価公示」「都道府県地価調査」、
法務省「登記統計調査」